

# Oracle® Hyperion Profitability and Cost Management

## User's Guide

リリース 11.1.2.4

## 著作権情報

Oracle® Hyperion Profitability and Cost Management User's Guide, 11.1.2.4

Copyright © 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

### U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

# 目次

ドキュメントのアクセシビリティについて .....	11
ドキュメントのフィードバック .....	12
<b>第I項. Profitability and Cost Managementの概要 .....</b>	<b>13</b>
<b>第1章. Profitability and Cost Managementについて .....</b>	<b>15</b>
概要 .....	15
アーキテクチャ .....	16
基本的な概念 .....	17
モデリング・プロセス .....	17
Profitability and Cost Managementアプリケーションのタイプ .....	18
標準Profitability and Cost Managementアプリケーション .....	19
詳細Profitability and Cost Managementアプリケーション .....	20
管理元帳Profitability and Cost Managementアプリケーション .....	20
共通Profitability and Cost Managementディメンション .....	21
Profitability and Cost Managementのディメンションについて .....	22
共通のディメンション・タイプ .....	24
<b>第2章. はじめに .....</b>	<b>29</b>
Profitability and Cost Managementの起動 .....	29
サンプル・モデルへのアクセス .....	30
出力ログ・ファイルへのアクセス .....	30
標準および詳細Profitabilityモデルの共通タスク .....	31
ディメンションおよびメンバーのフィルタ処理および表示 .....	31
<b>第II項. 標準Profitabilityアプリケーションの操作 .....</b>	<b>39</b>
<b>第3章. 標準Profitabilityモデルおよびシナリオについて .....</b>	<b>41</b>
標準Profitabilityモデルの概要 .....	41
標準Profitabilityモデル作成の手順 .....	42
標準Profitabilityのワークスペース .....	44
<b>第4章. 標準Profitabilityアプリケーションのディメンション .....</b>	<b>47</b>
標準Profitabilityのメジャー・ディメンション .....	47
標準Profitabilityのドライバ・メジャー .....	49
標準Profitabilityのレポート・メジャー .....	51
標準Profitabilityの費用レイヤー配賦メジャー .....	52
標準Profitabilityの収益レイヤー配賦メジャー .....	55
標準ProfitabilityのAllocationTypeディメンション .....	57
標準Profitabilityのクローン・ディメンション .....	58
<b>第5章. 標準Profitabilityモデルの管理 .....</b>	<b>61</b>
標準Profitabilityモデルの管理について .....	61
標準Profitabilityモデルの要約の操作 .....	61
「システム情報」タブ .....	62

モデル・レベルのプリファレンスの設定 .....	64
標準Profitabilityモデル・ステージの設定 .....	66
モデル・ステージの追加 .....	68
モデル・ステージの変更 .....	71
モデル・ステージの削除 .....	72
標準Profitabilityの視点(POV)の操作 .....	72
標準Profitability POVステータス .....	73
標準Profitability POVの管理 .....	74
標準Profitability POVの追加 .....	74
標準Profitability POVステータスの変更 .....	76
標準Profitability POVのコピー .....	76
標準Profitability POVからの選択したオブジェクトの削除 .....	78
標準Profitability POVおよびすべてのアーティファクトの削除 .....	79
標準Profitabilityのモデル統計の問合せ .....	80
標準Profitabilityデータおよびアーティファクトのインポート .....	82

## 第6章. 標準Profitability配賦の管理 ..... 85

標準Profitability配賦について .....	85
標準Profitabilityの費用および収益レイヤー .....	85
標準Profitabilityモデルのドライバと式の定義 .....	86
ドライバ式 .....	88
ドライバの定義 .....	95
ドライバ定義の変更 .....	99
既存のドライバ定義からの新しいドライバ定義の作成 .....	100
ドライバ定義の削除 .....	101
標準Profitabilityドライバの選択 .....	101
ドライバの選択の作成 .....	102
単一の交差に対するドライバ選択の作成 .....	104
ドライバの選択の変更 .....	105
単一交差のドライバの選択変更 .....	106
ドライバの選択の削除 .....	106
単一交差のドライバの選択の削除 .....	107
標準Profitability割当ての操作 .....	107
割当てのタイプ .....	108
割当ての作成 .....	109
割当ての変更 .....	114
割当ての削除 .....	115
標準Profitability割当てルールの操作 .....	115
割当てルール・ウィザードの使用 .....	116
「割当てルールの定義」画面の使用 .....	130
割当てルール定義の削除 .....	140
データの入力ウィンドウの使用方法 .....	140
標準データ入力ビュー .....	141
カスタム編集ビューの作成 .....	143
データの手動編集 .....	146
ステージ・データの編集 .....	146
ドライバ・データの編集 .....	147
編集ビューの削除 .....	147

配賦のトレース .....	148
配賦の詳細のトレース .....	149
配賦フローのトレース .....	153
相互配賦 .....	157
トレース配賦イメージのエクスポート .....	158
<b>第7章. 標準Profitabilityモデルの検証 .....</b>	<b>161</b>
検証について .....	161
モデル構造検証ルール .....	162
未割当ての値 .....	162
例1 - フロー停止 .....	163
例2 - 残余価額 .....	164
アイドル能力 .....	164
オーバードライブ費用および収益 .....	165
モデル構造の検証 .....	166
ステージの貸借一致レポートの生成 .....	169
ドライバ・データ・レポートの生成 .....	171
<b>第8章. 標準Profitabilityモデルの計算 .....</b>	<b>175</b>
データベースの管理 .....	175
計算データベースのデプロイ .....	176
レポート・データベースのデプロイ .....	179
計算の管理 .....	181
計算(Calc)スクリプト .....	182
直接配賦データの計算 .....	182
データの転送 .....	184
システムデータ .....	185
システムにおける複数のステージのコントリビューション・パスの計算 .....	186
<b>第9章. 標準Profitabilityのジョブ・ステータスのモニタリング .....</b>	<b>189</b>
ジョブ・ライブラリ .....	189
ジョブ・ライブラリ・ジョブ・タイプ .....	190
ジョブ・ライブラリの表示 .....	191
タスクフローの管理 .....	192
タスクフロー情報の表示 .....	194
タスクフローのステータスの表示 .....	195
タスクの詳細の表示 .....	197
タスクフローのスケジュール .....	198
<b>第10章. 標準Profitabilityレポートの実行 .....</b>	<b>201</b>
標準Profitabilityモデルのレポートの実行について .....	201
Essbaseアウトラインおよびレポート作成 .....	202
ステージ・データのレポート作成 .....	203
直接配賦のレポート作成 .....	204
配賦システムのレポート作成 .....	205
Smart Viewを使用したレポート作成 .....	206

<b>第11章. 標準ProfitabilityでのSmart View問合せの管理 .....</b>	<b>207</b>
カスタム問合せの作成 .....	208
カスタム問合せの編集 .....	213
Smart View問合せの複製 .....	216
Smart View問合せの削除 .....	216
「ステージの貸借一致」画面からの問合せの実行 .....	217
<b>第III項. 詳細Profitabilityアプリケーションの操作 .....</b>	<b>221</b>
<b>第12章. 詳細Profitability and Cost Managementのモデルとシナリオについて .....</b>	<b>223</b>
詳細Profitabilityモデル作成の手順 .....	224
詳細Profitability and Cost Managementワークスペース .....	225
<b>第13章. 詳細Profitability and Cost Managementアプリケーションのディメンション .....</b>	<b>227</b>
詳細Profitabilityのディメンションについて .....	227
詳細Profitabilityのディメンション・タイプ .....	228
詳細Profitabilityのビジネス・ディメンション .....	229
MeasuresDetailedディメンション .....	230
詳細Profitabilityの非EPMAディメンション .....	231
<b>第14章. 詳細Profitabilityモデルの管理 .....</b>	<b>233</b>
モデルの管理について .....	233
計算ルール of 操作 .....	233
計算ルールの追加 .....	234
計算ルールの変更 .....	236
計算ルールの削除 .....	236
計算ルールのコピー .....	237
詳細Profitabilityモデルの要約の操作 .....	237
詳細モデル・システム情報タブ .....	238
詳細モデル・データ・スキーマの選択 .....	239
詳細Profitabilityモデル・データの登録 .....	241
モデル・データの登録 .....	243
列のマッピング .....	252
参照表の結合 .....	255
モデル・データの登録の要約の確認 .....	259
詳細Profitabilityステージの管理 .....	260
詳細Profitabilityモデル・ステージの追加 .....	261
詳細Profitabilityモデル・ステージの変更 .....	264
詳細Profitabilityモデル・ステージの削除 .....	267
詳細Profitabilityの視点(POV)の操作 .....	268
詳細ProfitabilityのPOVディメンション .....	269
詳細ProfitabilityのPOVステータス .....	269
詳細Profitabilityのバージョン・ディメンション .....	270
詳細ProfitabilityのPOVの管理 .....	270
詳細Profitabilityのステージング表のインポート .....	278
<b>第15章. 詳細Profitability配賦の管理 .....</b>	<b>279</b>

詳細Profitability配賦について .....	279
詳細Profitabilityのドライバと式の定義 .....	279
ドライバ式 .....	280
ドライバ優先度シーケンス .....	281
詳細Profitabilityドライバの定義 .....	281
比率ベースのドライバの操作 .....	281
レートベースのドライバの操作 .....	285
計算済メジャー・ドライバの操作 .....	290
詳細Profitabilityドライバの操作 .....	293
複製ドライバの作成 .....	294
詳細Profitabilityドライバの選択 .....	295
単一の交差に対する詳細Profitabilityドライバの選択の作成 .....	297
詳細Profitabilityドライバの選択の削除 .....	298
単一の交差に対する詳細Profitabilityドライバの選択の削除 .....	299
バルク・エディタの操作 .....	299
単一ドライバを複数のソース・ステージ・ルールに追加 .....	300
複数ソース・ステージ・ルールのドライバの削除 .....	305
複数ソース・ステージ・ルールへの割当てルールの追加 .....	306
複数ソース・ステージ・ルールの割当てルールの削除 .....	308
詳細Profitability割当てルールの操作 .....	308
割当てルールの作成 .....	309
詳細Profitability割当てルールの複製 .....	310
割当てルールの変更 .....	311
割当てルールの削除 .....	311
詳細Profitabilityでの割当ての操作 .....	312
割当ての作成 .....	313
割当ての削除 .....	318
<b>第16章. 詳細Profitabilityモデルの計算 .....</b>	<b>321</b>
詳細Profitabilityデータベースの管理 .....	321
詳細Profitabilityレポート・ビューのデプロイ .....	322
詳細Profitabilityソース・ステージ・データベースのデプロイ .....	324
詳細Profitabilityコントリビューション・データベースのデプロイ .....	326
詳細Profitability宛先ステージ・データベースのデプロイ .....	327
詳細Profitabilityの計算の管理 .....	329
詳細Profitabilityモデルの計算 .....	330
ドライバ操作タイプ .....	332
その他のプロセス・タイプ .....	332
<b>第17章. 詳細Profitabilityモデルの検証 .....</b>	<b>335</b>
詳細Profitabilityの検証について .....	335
詳細Profitabilityモデルの検証ルール .....	336
詳細Profitabilityモデル構造の検証 .....	336
詳細Profitabilityステージの貸借一致レポート .....	337
アイドル能力 .....	338
OverDriven値 .....	339
未割当ての値 .....	339

ステージの貸借一致レポートの生成 .....	339
詳細Profitabilityのレベル0のコントリビューション・レポート .....	340
レベル0のコントリビューション・レポートの生成 .....	341
<b>第18章. 詳細Profitabilityのジョブ・ステータスの監視 .....</b>	<b>343</b>
ジョブ・ライブラリ .....	343
ジョブ・ライブラリ・ジョブ・タイプ .....	344
ジョブ・ライブラリの表示 .....	345
詳細Profitabilityタスクフローの管理 .....	346
詳細Profitabilityタスクフロー情報の表示 .....	347
詳細Profitabilityタスクフロー・ステータスの表示 .....	348
詳細Profitabilityタスクの詳細の表示 .....	350
詳細Profitabilityタスクフローのスケジュール設定 .....	351
<b>第IV項. 管理元帳アプリケーションの操作 .....</b>	<b>355</b>
<b>第19章. 管理元帳モデルおよびシナリオについて .....</b>	<b>357</b>
管理元帳モデルの要素 .....	357
管理元帳モデルを設計および作成する手順 .....	357
管理元帳ワークスペース .....	358
<b>第20章. 管理元帳Profitabilityアプリケーションのディメンション .....</b>	<b>361</b>
管理元帳のディメンションについて .....	361
管理元帳のシステム・ディメンション .....	362
管理元帳のルール・ディメンション .....	363
管理元帳の残高ディメンション .....	364
<b>第21章. 管理元帳モデルの管理 .....</b>	<b>367</b>
管理元帳モデルの管理について .....	367
管理元帳の「モデルの要約」の操作 .....	367
管理元帳モデルの「システム情報」の確認 .....	368
管理元帳の「モデル・レベルのプリファレンス」の確認および設定 .....	370
管理元帳の視点の操作 .....	371
管理元帳のPOVについて .....	372
管理元帳のPOVディメンション .....	372
管理元帳ProfitabilityのPOVの管理 .....	373
管理元帳の「POVマネージャ」画面の表示 .....	374
管理元帳POVの追加 .....	375
管理元帳のPOV状態の変更 .....	376
管理元帳POVのコピー .....	376
管理元帳POVからの選択したアーティファクトのクリア .....	377
管理元帳POVおよびすべてのアーティファクトの削除 .....	378
管理元帳アーティファクトのインポート .....	379
<b>第22章. 管理元帳の配賦の操作 .....</b>	<b>381</b>
管理元帳の配賦について .....	381
管理元帳配賦の作成および管理 .....	381

管理元帳の「ルール管理」領域について .....	382
管理元帳ルールのグローバル・コンテキストの定義 .....	383
管理元帳のPOVのルール・セットの操作 .....	385
管理元帳モデルの計算ルールの定義および管理 .....	391
管理元帳Profitabilityアプリケーションのトレース .....	412
管理元帳の配賦のトレースについて .....	413
管理元帳の配賦トレースの実行 .....	415
管理元帳の配賦トレース結果の表示 .....	415
<b>第23章. 管理元帳モデルの検証 .....</b>	<b>421</b>
管理元帳のモデル検証について .....	421
管理元帳モデル・ビューの作成および管理 .....	421
モデル・ビューについて .....	422
モデル・ビューの作成 .....	422
モデル・ビューの管理 .....	423
管理元帳Profitabilityアプリケーション検証のルール貸借一致 .....	424
「ルール貸借一致」タスク領域の表示 .....	426
ルール貸借一致タスクの実行 .....	427
管理元帳モデルのモデル検証分析の実行 .....	427
<b>第24章. 管理元帳モデルのデプロイおよび計算 .....</b>	<b>431</b>
管理元帳データベースのデプロイ .....	431
管理元帳データベースのデプロイについて .....	432
管理元帳データベースのデプロイメント・プロセス .....	432
管理元帳の計算の管理 .....	434
<b>第25章. 管理元帳のジョブ・ステータスのモニタリング .....</b>	<b>437</b>
管理元帳のジョブ・ライブラリについて .....	437
管理元帳のジョブ・ライブラリのジョブ・タイプ .....	438
管理元帳の「ジョブ・ライブラリ」の表示 .....	439
<b>第26章. 管理元帳の問合せおよびレポートの操作 .....</b>	<b>441</b>
管理元帳の問合せおよびレポートについて .....	441
管理元帳ProfitabilityアプリケーションでのSmart View問合せの管理 .....	441
管理元帳ProfitabilityアプリケーションでのカスタムSmart View問合せの作成 .....	442
管理元帳Profitabilityの問合せの実行 .....	446
管理元帳Profitabilityアプリケーションでのカスタム問合せの編集と削除 .....	448
管理元帳レポートの作成および使用 .....	449
管理元帳システム・レポートの生成 .....	450
管理元帳ProfitabilityアプリケーションでSmart Viewを作成したレポート作成 .....	453
<b>第V項. 付録 .....</b>	<b>455</b>
<b>付録A. Profitability and Cost Managementアプリケーションの作成 .....</b>	<b>457</b>
<b>付録B. 標準と詳細のProfitabilityアプリケーションの比較 .....</b>	<b>459</b>
<b>用語集 .....</b>	<b>461</b>



---

# ドキュメントのアクセシビリティについて

---

Oracleのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

## Access to Oracle Support

Oracleサポート・サービスでは、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

---

# ドキュメントのフィードバック

---

このドキュメントへのフィードバックをお送りください: [epmdoc\\_ww@oracle.com](mailto:epmdoc_ww@oracle.com)

次のソーシャル・メディア・サイトでEPM情報開発をフォローできます:

LinkedIn - [http://www.linkedin.com/groups?gid=3127051&goback=.gmp\\_3127051](http://www.linkedin.com/groups?gid=3127051&goback=.gmp_3127051)

Twitter - <http://twitter.com/hyperionepminfo>

Facebook - <http://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>

Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731/#106915048672979407731/posts>

YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>

---

パート I

# Profitability and Cost Managementの概要

---

## 目次

ドキュメントのアクセシビリティについて .....	11
ドキュメントのフィードバック .....	12
1. Profitability and Cost Managementについて .....	15
2. はじめに .....	29

---



---



# Profitability and Cost Managementについて

---

この項の内容:

概要 .....	15
Profitability and Cost Managementアプリケーションのタイプ .....	18
共通Profitability and Cost Managementディメンション .....	21

# 概要

## サブトピック

- [アーキテクチャ](#)
- [基本的な概念](#)
- [モデリング・プロセス](#)

収益性を最大化するには、費用と収入を正確に測定して配賦し、管理する必要があります。Oracle Hyperion Profitability and Cost Managementは、製品、顧客、地域、支店などのビジネス・セグメントの収益性を計算するために必要な、費用および収益の配賦を管理する分析ソフトウェア・ツールです。Profitability and Cost Managementでは、費用分解、消費ベースの費用計算およびシナリオ再生を使用して、有効な計画および意思決定支援の収益性を測定できます。

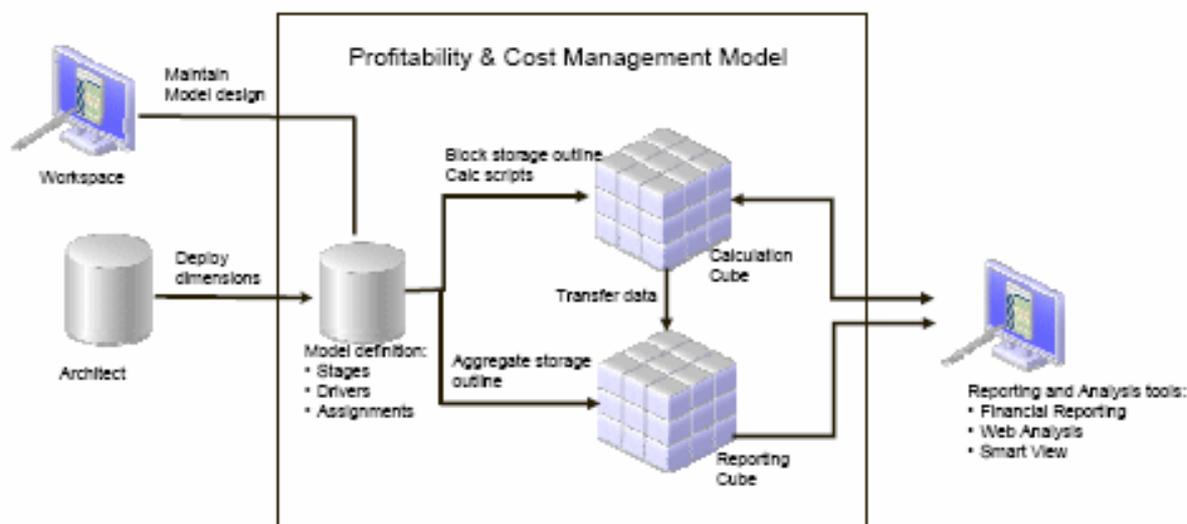
Profitability and Cost Managementには、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspaceを介してアクセスします。Profitability and Cost ManagementのWebクライアントであるEPM Workspaceは、次にあげるその他のインストール済ソフトウェアにアクセスして操作できます：

- Oracle Hyperion EPM Architect
- Oracle Hyperion Planning
- Oracle Hyperion Reporting and Analysis
- Oracle Hyperion Financial Management
- Oracle Smart View for Office
- Microsoft Excelなどのサードパーティ製アプリケーション

## アーキテクチャ

Profitability and Cost ManagementはOracle Essbaseの上で実行され、他の関連ソフトウェアを使用して様々なデータを処理および計算します。17ページの図 1では、標準Profitability and Cost Managementモデルのアーキテクチャを示します。詳細および標準Profitability and Cost Managementモデルには、Essbaseデータに加えてリレーショナル・データベースのデータが含まれます。管理元帳モデルは、計算およびレポート・データが単一のASOキューブに含まれている点を除き同様です。

図1 Profitability and Cost Managementの標準的な製品アーキテクチャ



EPM WorkspaceおよびEPM Architectのモデル・メタデータは、Profitability and Cost Managementモデルの作成に使用されます。計算された結果は様々なレポートおよび分析ツールで出力できます。詳細は、*Profitability and Cost Management* 管理者ガイドを参照してください。17ページの基本的な概念と 17ページのモデリング・プロセスも参照してください。

## 基本的な概念

Profitability and Cost Managementを使用するには、次の基本的な概念を理解する必要があります：

- **ディメンション** - データを整理して値の抽出や保持のために使用されるデータ・カテゴリです。通常、ディメンションには関連するメンバーをグループ化した階層が含まれます。たとえば、Yearディメンションは多くの場合四半期、月などの期間の各单位ごとのメンバーが含まれます。
- **アプリケーション** - 分析要件またはレポート要件の特定のセットを満たすために使用されるディメンションおよびディメンション・メンバーの関連セットです。
- **モデル** - ディメンションおよびメンバーに配賦ロジックを適用する、Profitability and Cost Managementで作成された分析構造を持つアプリケーションです。これには、既存または提案されたビジネス・ケースを反映するための原価配賦ステージおよびドライバが含まれます。

17ページのモデリング・プロセスでは、これらのコンポーネント間の関係を説明します。

## モデリング・プロセス

モデルを構築する前に、Performance Management Architectを使用してディメンションとメンバーを定義し、データベース・アウトライン、つまりモデルの各ステージ内のメイン・オブジェクトを構築する必要があります。このガイドには一部の情報が含まれています。『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management 管理者ガイド』および

びOracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイドに詳細な手順が記載されています。配賦に必要な財務データやその他のデータは、標準Profitabilityおよび管理元帳の場合はEssbaseのマルチディメンショナル・データベースにインポートされ、詳細Profitabilityの場合は既存のリレーショナル・データベースからインポートされます。

ディメンションを定義後、製品またはサービスに必要な配賦のネットワークを表すカスタマイズしたモデルをProfitability and Cost Managementで構築できます。

モデルにおいて、割り当てるドライバで、標準の式かカスタマイズした式を使用してデータの計算方法を指定します。計算フローは割当てによって制御されます。割当てを使用することで、費用と収入の配賦を正確に反映でき、収益性を計算できます。次に、モデルの構造と整合性を検証します。モデルを使用して、インポートした財務データを計算し、パフォーマンス・メトリックや収益性レポートを生成します。

有効なモデルの作成後、このモデルの別のバージョンまたはシナリオを作成して、提案する変更の最終結果への影響を評価できます。

要件の分析は、アプリケーションおよびモデルを設計する際の重要な部分です。モデリング・プロセスの詳細は、[42ページの標準Profitabilityモデル作成の手順](#)、[224ページの詳細Profitabilityモデル作成の手順](#)および[357ページの管理元帳モデルを設計および作成する手順](#)を参照してください。

セキュリティ役割は、Profitability and Cost Managementで実行できるタスクを決定します。たとえば、すべてのユーザーがアプリケーションを作成できるわけではありませんが、ほとんどのユーザーはモデルを作成できます。セキュリティに関する質問は、システム管理者に確認してください。

Profitability and Cost Managementの導入方法の詳細は、次の項を参照してください：

- [18ページのProfitability and Cost Managementアプリケーションのタイプ](#)
- [29ページのProfitability and Cost Managementの起動](#)
- [30ページの出カログ・ファイルへのアクセス](#)
- [31ページのディメンションおよびメンバーのフィルタ処理および表示](#)

Profitability and Cost Managementがインストールされている場合は、モデルを構築する前にアプリケーションを作成する必要があります。詳細は、[457ページの付録A「Profitability and Cost Managementアプリケーションの作成」](#)を参照してください。

# Profitability and Cost Managementアプリケーションのタイプ

## サブトピック

- [標準Profitability and Cost Managementアプリケーション](#)
- [詳細Profitability and Cost Managementアプリケーション](#)
- [管理元帳Profitability and Cost Managementアプリケーション](#)

Profitability and Cost Managementには、異なる方法で使用される3つのタイプのアプリケーションがあります:

- [19ページの標準Profitability and Cost Managementアプリケーション](#)では、プロセスのあらゆる段階における原価および収益の資金フローに従って、資金の拠出元と用途を決定する標準拠出金分析に重点が置かれます。
- [20ページの詳細Profitability and Cost Managementアプリケーション](#)では、収益性分析のために、収益オブジェクトのプールまたはレートをシングル・ステップで単一のソースおよび宛先に配賦します。詳細Profitabilityは、アーティファクト・ストレージのモデル、計算、レポート・ビューにリレーショナル・データベースを利用します。
- [20ページの管理元帳Profitability and Cost Managementアプリケーション](#)では、ユーザーのOracle General LedgerまたはOracle Hyperion Financial Management実装と同様に構造化されたデータでの管理レポートおよびモデリングが提供されます。配賦および管理レポートoutputsに必要なその他の計算は、標準Profitabilityモデルでサポートされている形式よりもフリー・フォームのアプローチを使用して実行されます。

各タイプのProfitabilityアプリケーションの構成要素の単純な比較については、[459ページの付録B「標準と詳細のProfitabilityアプリケーションの比較」](#)を参照してください。

## 標準Profitability and Cost Managementアプリケーション

標準Profitability and Cost Managementモデルを使用すると、モデル全体の直接のコントリビューション・データをモニターおよび制御できます。原価および収益の両方について入力金額、原価と収益のフロー、資金の最終的な宛先を追跡することによって、リソースを最大限に活用し収益性を簡単に示すことができるようになります。計算結果は個々のコスト・センターまたは勘定科目に転記されます。

標準Profitability and Cost Managementモデルのデータは、Essbaseマルチディメンショナル・データベースとリレーショナル・データベースの両方に格納されます。Performance Management Architectでモデルを作成し、ディメンションおよびディメンション・メンバーを使用して組織内の勘定科目、活動および操作の階層を定義します。AllocationTypeディメンションは、Performance Management Architectからインポートされます。このディメンションを使用して、費用および収益を正しく配賦したり、直接配賦および配賦システムを保管します。

標準Profitability and Cost Managementにアプリケーションをデプロイした後、モデルを構築し、特定の原価と収益の配賦への資金のフローを生成するドライバおよび割当てを作成します。モデルは、ステージごとに3つのディメンションを持つ最大9つのステージを使用して構築されます。ステージごとの配賦は、ドライバおよび割当てで指定する計算と式に基づいて次の段階に渡されます。組織の実際のフローを反映するように、配賦はステージ間で渡す(ステージ間配賦)ことも、ステージをスキップすることも、あるいは同じステージ内で反復する配賦を含める(ステージ内配賦)こともできます。

視点(POV)は、モデルの特定のインスタンスを表し、POVを使用して異なるバージョンのモデルを表示または計算することができます。たとえば、異なる月または四半期の値を表示する、予算と実績を比較する、または最終損益に対する様々な影響を測定するためにシナリオを再生することなどが可能です。

すべての配賦が計上されたことを確認するために、作成したモデルは検証され、計算がステージごとに貸借一致されます。

計算データベースおよびレポートをデプロイして、モデルを計算し結果を分析します。

標準Profitabilityアプリケーションの作成と操作の手順については、[39ページの第II項「標準Profitabilityアプリケーションの操作」](#)を参照してください。

## 詳細Profitability and Cost Managementアプリケーション

詳細Profitability and Cost Managementモデルは、ユーザー定義のスキーマを利用してリレーショナル表を既存のデータおよび関連する参照表に編成し、そのデータを拡張します。詳細Profitability and Cost Managementモデルのデータは、リレーショナル・データベースのみに格納されます。

Performance Management Architectでモデルを作成し、ビジネス・ディメンション、別名、メジャーなどを組織で定義します。Profitability and Cost Managementでは、詳細Profitabilityモデルを構築できるように、データがアプリケーションにマッピングされます。アプリケーションはきわめて大きなボリュームでも処理できます。

アプリケーションは階層構造を使用せず、ソースと宛先の単一の組合せの間におけるフローですべての配賦を処理します。配賦は、標準Profitabilityの場合のようにAllocationTypeを作成するのではなく、制限されたMeasuresDetailedディメンションを通じて処理されます。MeasuresDetailedディメンションには、すべての配賦を処理する限られたメンバーが含まれます。

詳細Profitability and Cost Managementにアプリケーションをデプロイした後、モデルを構築して、資金のフローを生成するドライバおよび割当てを作成します。モデルは、最大5つのソース・ディメンションと、最大25の宛先ディメンションで、選択したメジャーに対するソースおよび宛先表の単一の組合せを使用して構築されます。配賦は、ドライバと割当てで指定する計算と式に基づいて完了します。

視点(POV)は、モデルの特定のインスタンスを表し、POVを使用して異なるバージョンのモデルを表示または計算することができます。たとえば、異なる月または四半期の値を表示する、予算と実績を比較する、または最終損益に対する様々な影響を測定するためにシナリオを再生することなどが可能です。

すべての配賦が計上されたことを確認するために、作成したモデルは検証され、計算がステージごとに貸借一致されます。

モデルを計算し、結果を分析できるようになります。

詳細Profitabilityアプリケーションの作成と操作の手順については [221ページの第III項「詳細Profitabilityアプリケーションの操作」](#)を参照してください。

## 管理元帳Profitability and Cost Managementアプリケーション

管理元帳アプリケーションは、管理レポートの計算およびレポートの分野には豊富な経験を持つEssbaseとスクリプト構文またはプログラミング言語には多くの経験を持たないアナリストが使用するために設計されています。

標準Profitabilityアプリケーションと同様に、管理元帳アプリケーションのデータはEssbaseマルチディメンショナル・データベースとリレーショナル・データベースの両方に格納されます。Performance Management Architectでアプリケーションを作成し、ディメンションおよびディメンション・メンバーを使用して組織内の勘定科目、活動および操作の階層を定義します。

アプリケーションがデプロイされた後で、特定の原価と収益の配賦への資金のフローを示すモデルを構築します。配賦のソースと宛先の範囲はどちらもProfitability and Cost Managementユーザー・インタフェースを使用して計算ルールとして定義されます。標準および詳細Profitabilityアプリケーション・タイプと同様に、視点(POV)は、モデルの特定のインスタンスを表し、POVを使用して異なるバージョンのモデルを表示または計算することができます。たとえば、異なる月または四半期の値を表示する、予算と実績を比較する、または様々な変更が最終損益に与える影響を測定するためにシナリオを再生することなどが可能です。

管理元帳モデルには、ステージまたはレイヤーの概念はありません。すべての構造は、POVの下のルール・セットおよびルールの構成によって制御されます。POVごとに、計算ルールはデータベースの同一または類似のリージョンに対して実行される、また、同時または類似の時刻に実行されるグループに編成されます。これらのグループはルール・セットと呼ばれます。これらは計算ルールが実行される順序を決定します。計算ルールは、POVまたはルール・セット・レベルからデフォルト・メンバーの選択を継承できるため、ユーザーはデータベースのリージョンを一度定義すれば、それを毎回指定しなくても何度も使用できます。これらのデフォルトは「コンテキスト」と呼ばれます。

すべての配賦が計上されたことを確認するために、作成したモデルは検証され、計算が貸借一致されます。検証後に、データベースをデプロイしてからモデルを計算し、結果を分析します。

詳細は、[355ページの第IV項「管理元帳アプリケーションの操作」](#)を参照してください。

# 共通Profitability and Cost Managementディメンション

## サブトピック

- [Profitability and Cost Managementのディメンションについて](#)
- [共通のディメンション・タイプ](#)

リストされているトピックは、特に注記がないかぎり、3つのタイプのProfitability and Cost Managementアプリケーションすべてに適用されるディメンションについて説明しています。

## Profitability and Cost Managementのディメンションについて

Profitability and Cost Managementでは、Performance Management Architectで作成されたディメンションとメンバーを使用して、Essbaseアプリケーション・アウトラインのビジネス・モデルの構造要素の多くを表します。すべてのタイプのProfitability and Cost Managementアプリケーションによって使用されるディメンションを次に示します:

- ビジネス・ディメンション - 部署、勘定科目、アクティビティ、顧客、製品などの、ビジネス固有のモデル要素を表します。これらは1つ以上のステージまたはモデルに適用できます。
- POVディメンション - 年、シナリオ、期間、バージョンなどの、モデルの特定の視点またはバージョンを識別します。バージョン・ディメンションを使用して、モデルの複数のバージョンを保持でき、モデルの代替(つまり仮定(What-if))シナリオ、または別の観点を作成できます
- 属性ディメンション - ディメンション・メンバーの属性または品質に基づく分析を可能にします。属性は、製品のサイズや色など、データの特性を示します
- 別名ディメンション(オプション) - ディメンションの定義に役立つ代替の名前、説明、言語またはその他のアイテムを割り当てるために使用されます



---

注:

これらの詳細は、[24ページの共通のディメンション・タイプ](#)を参照してください。

---

Performance Management ArchitectからProfitability and Cost Managementへ移入される、標準Profitabilityモデルのメジャー・ディメンションやAllocationTypeディメンションなどのシステム・ディメンションもあります。これらについては次の各項で説明します:

一部のPerformance Management Architectのディメンション・タイプは、Profitability and Cost Managementのモデルで使用できます:

- 勘定科目
- エンティティ
- バージョン
- 時間
- 国
- 通貨



注:

これらのディメンション・タイプの使用については、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*を参照してください。

データベース・アウトラインは、モデルのデータ構造を提供し、計算指示や式を含んでいます。Essbaseアウトラインのディメンションは階層型です。データはディメンションの交差に格納されます。標準または詳細Profitabilityモデル内の各ステージには最大3つのディメンションを含めることができます。

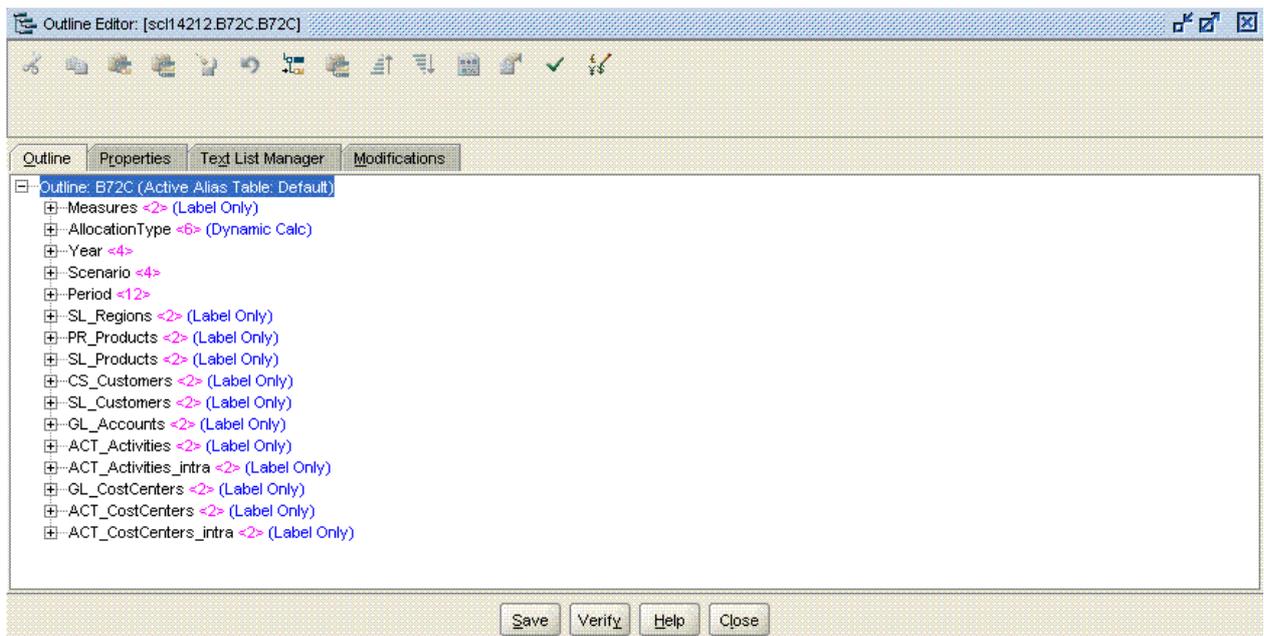


注意

メンバーは、同じディメンション内で繰り返すことはできません。ただし、複数のディメンション間では繰り返すことができます。

23ページの図 2に、Essbaseコンソールに表示される、標準Profitability計算データベースのサンプルEssbaseアウトラインを示します。

図2 Essbaseの標準Profitabilityディメンションのアウトライン



ディメンションには、共有ディメンションとローカル・ディメンションがあります:

- 共有ディメンションは、Performance Management Architectの「共有ライブラリ」に存在し、複数のアプリケーションで使用できます。
- ローカルディメンションは、Profitability and Cost Managementなどの1つのアプリケーション内にも存在する、分離された独立ディメンションです。これらのディメンションは、これらが作成されているアプリケーションに対してのみ使用されます。

作成できるディメンションおよびメンバーの数に物理的な制限はありませんが、ディメンション構造が大きくなると、パフォーマンス上の問題が発生することがあります。

ディメンションは、Performance Management Architectで作成および管理しますが、モデル内で使用するには事前に作成しておく必要があります。Performance Management Architectにより、Profitability and Cost Management管理者は、別の製品から既存のディメンションおよびメンバーを選択することや、モデル専用ディメンションおよびメンバーを新しく作成することができます。複数の製品およびアプリケーション間で、汎用のデータを共有および更新できます。ディメンションとそのメンバーは、アプリケーションのデプロイ後にProfitability and Cost Managementアプリケーションで使用できます。



---

#### 注意

モデリング・プロセスを開始した後では、ディメンションおよびディメンション階層を追加または削除しないことをお勧めします。

---

各ディメンションには、ディメンション・タイプおよびディメンション名を指定する必要があります：

- 「ディメンション・タイプ」は、ディメンションのプロパティで、定義済の機能をアプリケーションで使用可能にします。Profitability and Cost Managementのディメンション・タイプは、[24ページの共通のディメンション・タイプ](#)を参照してください。
- 「ディメンション名」は、ディメンションが持つ、組織またはビジネス上の内容を識別するためのものです。たとえば、「勘定科目タイプ」のディメンションには、「一般会計」や「勘定科目表」などのディメンション名を付ける場合があります。ディメンション名にディメンション・タイプを反映する必要はありませんが、反映することもできます。

Essbaseデータベースにデータ値を入力またはロードするには、データベースのすべてのディメンションのメンバーにデータ値を割り当てます。これをデータ値のディメンション交差と呼びます。ディメンション交差は、データベースの一意の場所またはセルを識別します。

ディメンションの作成、管理、操作の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*を参照してください。ディメンションとメンバーの命名規則については、『*Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイド*』を参照してください。

## 共通のディメンション・タイプ

### サブトピック

- Profitability and Cost Managementのビジネス・ディメンション
- Profitability and Cost ManagementのPOVディメンション
- Profitability and Cost Managementの属性ディメンション
- Profitability and Cost Managementの別名ディメンション

ディメンション・タイプは、事前定義された機能を使用可能にするディメンション・プロパティです。すべてのProfitability and Cost Managementアプリケーション・タイプに共通で、Essbaseアウトラインで使用できるいくつかのディメンション・タイプのサマリーは、[22ページのProfitability and Cost Managementのディメンションについて](#)を参照してください。詳細は、前述の各項を参照してください。

ディメンション・タイプの特定の特性により、ディメンションの動作と機能を管理します。Profitability and Cost Management、Performance Management Architectおよび他のEPM Workspace製品で特定のディメンション・タイプを共有できるため、様々な製品のディメンションの機能を活用できます。



---

#### 注:

ディメンショナル・アウトラインを定義する場合、命名用として使用できない制限文字があります。『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』のEssbase命名規則に関する項を参照して最新の規則を確認することをお勧めします。

---

ディメンションおよびメンバーの作成と管理の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*および『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。

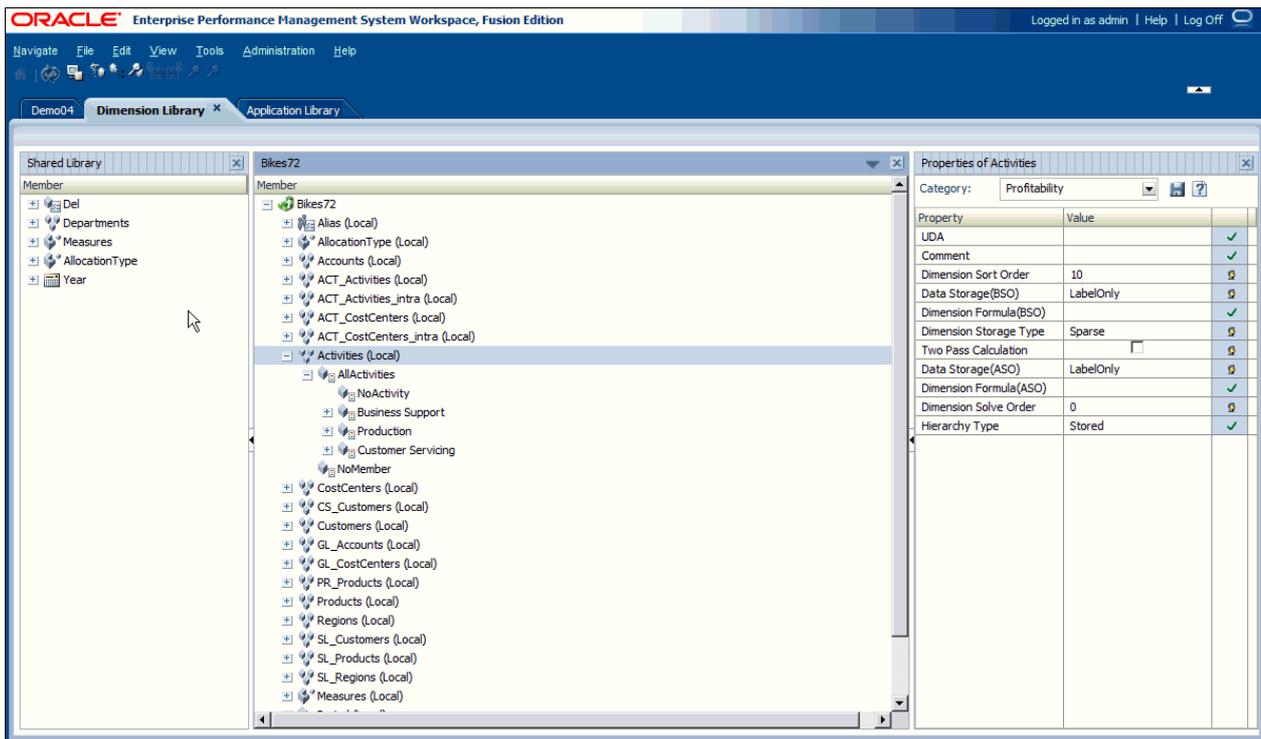
## Profitability and Cost Managementのビジネス・ディメンション

モデルのビジネス・ディメンションには、製品タイプ、販売地域、製造プロセス、総勘定元帳、給与計算、部署など、ビジネスまたは組織の要件に特に関連する情報が保管されるメンバーが含まれています。

少なくとも1つのビジネス・ディメンションをアプリケーションのユーザーが定義する必要があります。ビジネス・ディメンションは、ビジネス固有の部署、総勘定元帳の勘定科目、アクティビティ、場所、顧客および製品などのモデル内のビジネス要素を説明するために作成されます。

Essbaseアウトラインがデプロイされると、Profitability and Cost Managementアプリケーションでビジネス・ディメンションがタイプのない基本ディメンションまたは汎用ディメンションとして作成されます。この機能を使用すると、Profitability and Cost Managementで、Planningなどの他のアプリケーションで定義されているディメンション・メンバーおよび階層を再使用できます。

図3 標準Profitabilityビジネス・ディメンションの例



注:

その他の情報が必要な場合は、*Oracle Hyperion Profitability and Cost Management* 管理者ガイドにビジネス・ディメンション・メタデータに関する説明があります。

## Profitability and Cost ManagementのPOVディメンション

視点(POV)のディメンションは、モデルの特定のバージョン、あるいはモデルに対する特定の視点を表すために使用します。各モデルには、少なくとも1つのディメンションをPOVディメンションに指定する必要があります。POVディメンションには、モデルに必要な任意の項目を選択できます。POVディメンションとして使用される代表的な例を次に示します:

- 期間 - 時間に伴って変化する戦略や変更点を分析できます。モデルのベースを任意の時間単位(四半期、月、年次、年など)にできるため、時系列で戦略を分析したり、在庫や償却をモニターできます。時間ディメンションを作成する手順の詳細は、『*Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド*』を参照してください。
- 年 - 暦上の年を指定してデータを収集します。
- シナリオ - 特定の期間と一連の条件に対する、モデルの新しいバージョンを表示します

## バージョン・ディメンション

特定のPOVを使用し、同じPOVの別バージョンを作成できます。これにより、モデルへの変更の影響を監視したり、同じモデルの異なるバージョンを追跡できます。

バージョン・ディメンションは次のタスクで使用します:

- 少数のバージョンで、1つのモデルの繰返しを複数作成
- 仮定に基づいた予測結果や、ベスト・ケース・シナリオかワースト・ケース・シナリオかを決定する仮定シナリオをモデル化
- 簡単に目標を設定する

バージョン・ディメンション内の様々な要素を変更することで、元のモデルを変更せずに変更結果を調べることができます。

## Profitability and Cost Managementの属性ディメンション

属性ディメンションは、ビジネス・ディメンションに関連付けられたディメンションの特殊なタイプです。属性は、製品のサイズ、色など、データの特徴を示します。

属性機能を使用して、ディメンションの観点からのみでなく、それらのディメンションの特性、つまり属性の観点からもデータを取得して分析できます。たとえば、製品の収益性をサイズやパッケージに基づいて分析でき、さらに各市場地域の人口サイズなどの分析市場属性に組み込むことで、より効果的な結論を下すことができます。

ユーザー定義属性(UDA)は、アウトラインのメンバーに関連付けることができます。メンバーの特性を説明します。UDAを使用すると、指定されたUDAが関連付けられているメンバーのリストが戻されます。UDAの詳細は、*Oracle Hyperion Profitability and Cost Management* 管理者ガイドを参照してください。

## Profitability and Cost Managementの別名ディメンション

別名は、ディメンションの定義に役立つ代替の名前、説明、言語またはその他のアイテムです。たとえば、システム内で顧客番号を参照できますが、画面上に顧客名を表示する別名を割り当てることにより、この顧客を簡単に識別できるようになります。1つ以上の別名を勘定科目、通貨、エンティティ、シナリオ、期間、バージョン、年およびユーザー定義のディメンション・メンバーに割り当てることができます。



注:

重複メンバー名または別名は使用できません。

Profitability and Cost Managementでは、別名をPerformance Management Architectに設定する必要があります。別名ディメンションの作成の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect* 管理ガイドを参照してください。



注意

アプリケーションがProfitability and Cost Managementに再デプロイされるまでは、別名の関連付けをPerformance Management Architectで削除しても、モデルからは削除されません。

インストール後、Default別名表が使用可能になります。再デプロイメント後は、ドライバの選択、割当て、データ入力、ドライバの例外およびトレース配賦を含む共通メンバー・セレクトアを使用するすべての画面で別名を表示できます。「別名の表示」オプションが選択されていると、検索およびフィルタ処理の使用が可能になります。

「メンバー・セレクトア」から「別名の表示」を選択したときに、別名が割り当てられていない場合、メンバー・リストの表示名が大かっこで囲まれて表示されます。たとえば、メンバーProductは、メンバー・リストで[product]と表示されま



---

注:

ドライバの追加または変更時にアクセスするドライバの選択セレクトアでは、別名ビューは使用できません。

---

標準Profitabilityモデルでは、特定のディメンションがEssbaseで複製されている場合、別名が複製される場合があります。

# 2

## はじめに

### この項の内容:

Profitability and Cost Managementの起動 .....	29
サンプル・モデルへのアクセス .....	30
出力ログ・ファイルへのアクセス .....	30
標準および詳細Profitabilityモデルの共通タスク .....	31

## Profitability and Cost Managementの起動

Profitability and Cost ManagementはEPM Workspaceを通じてのみアクセス可能です。

▶ Profitability and Cost Managementにアクセスするには:

1. 次のソフトウェア・コンポーネントが構成、起動および実行されていることを確認します:

- EPM Workspace
- Oracle Hyperion Shared Services
- Performance Management Architect
- Profitability and Cost Management
- Essbase (標準Profitabilityアプリケーションのみ)

必要なソフトウェアがない場合は、管理者へ問い合わせてください。

2. Webブラウザで、EPM WorkspaceのWebページにアクセスします。

デフォルトでは、このURLは[http://SERVER\\_NAME:19000/workspace/](http://SERVER_NAME:19000/workspace/)です。



注:

インストールをカスタマイズすると、ポート番号が変わることがあります。

3. EPM Workspaceのユーザー名とパスワードを入力します。



注:

ユーザー名とパスワードは両方とも大/小文字が区別されます。

4. 「ログオン」をクリックします。

EPM Workspaceのメイン・ページが表示されます。

5. EPM Workspaceのメイン・メニューで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「収益性」の順に選択し、表示するモデルを選択します。

## サンプル・モデルへのアクセス

サンプル・アプリケーションは製品のインストールに含まれており、テストを行うときや機能について自分で調べるときに使用されます。サンプル・アプリケーションには、小さなデータ・セットと、ドライバ、割当ておよび割当てルールのような使用方法を示す完成したモデルが含まれます。

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemライフサイクル管理のエクストラクトとデータ・ファイルは、モデル・メタデータ、配賦アーティファクト、費用およびドライバ・データのインポートをサポートするために提供されます。Essbase .otlファイルも、ライフサイクル管理エクストラクトのかわりに含まれます。これらのファイルを使用してEssbaseディメンション・マスター・キューブを作成し、新しいアプリケーション・マネージャ機能と一緒に使用してサンプル・アプリケーションを作成します。これらのファイルの使用の詳細は、Oracle Fusion Performance ManagementのSample Models Readmeファイルを参照してください。

Performance ManagementのSample Models Readme.docxファイルは次の場所にあります：

`%EPM_ORACLE_HOME%\products\Profitability\samples`

適切なサンプル・アプリケーション・ファイルは次の場所にあります：

- 標準Profitabilityのモデルの場合：

`%EPM_ORACLE_HOME%\products\Profitability\samples\BksSP82`

- 詳細Profitabilityのモデルの場合：

`%EPM_ORACLE_HOME%\products\Profitability\samples\BksDP30`



注：

詳細Profitabilityサンプル・モデルは、標準Profitabilityサンプル・モデルよりもかなり大きいいため、計算に1時間近くかかることがあります。

- 管理元帳Profitabilityモデルの場合：

`%EPM_ORACLE_HOME%\products\Profitability\samples\BksML10`

## 出力ログ・ファイルへのアクセス

Profitability and Cost Managementに関する情報は、次のログ・ファイルで調べることができます：

表1 Profitability and Cost Managementのログ・ファイル

ログ・ファイル	説明
hpcm.log	現在のログ・ファイルの名前。システムによって以前のログ・ファイルのコピー(履歴ログ・ファイル)が保存されます。

ログ・ファイル	説明
	<p>Profitability and Cost Managementは、アプリケーションまたはサーバーから送信されるアプリケーション固有のメッセージを収集するアプリケーション、サーバー側のログ・ファイルを生成します。</p> <p>このログ・ファイルは、デフォルトではC:\oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSysstem\servers\Profitability0\logsにあります。</p>
SharedServices_Security_Client.log	<p>現在のログ・ファイルの名前。システムによって以前のログ・ファイルのコピー(履歴ログ・ファイル)が保存されます。</p> <p>Shared Servicesのクライアント側のログ・ファイルで、Profitability and Cost ManagementとCommon Security Servicesとのハンドシェイクに関する詳細を提供します。</p> <p>このログ・ファイルは、デフォルトではC:\oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSysstem\servers\Profitability0\logsにあります。</p>

これらのログ・ファイルにアクセスする場合は、システム管理者にお問い合わせください。

他の関連する製品とアプリケーションのログ・ファイルについては、『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

## 標準および詳細Profitabilityモデルの共通タスク

この項では、標準および詳細Profitabilityモデルに共通するタスクについて説明します。管理元帳モデルに関する同様の情報は、そのモデル・タイプのタスク説明に含まれます。

# ディメンションおよびメンバーのフィルタ処理および表示

## サブトピック

- [共通メンバー・セレクトタの使用](#)
- [列のソート](#)
- [ツリーおよびグリッド・ビュー・モードの使用](#)
- [フィルタの使用](#)
- [検索機能の使用](#)

## 共通メンバー・セレクトタの使用

共通メンバー・セレクトタを使用すると、ディメンション・メンバーの選択やフィルタ処理を簡単に実行できます。このセレクトタのダイアログ・ボックスは、「ドライバの選択」など、アプリケーション内の様々な場所から開くことができます。

選択されているディメンションの名前がセレクトタ・ダイアログ・ボックスの最上部に表示され、選択されているディメンションの使用可能なすべてのメンバーがツリーまたはグリッド・フォーマットでリストされます。

▶ 共通メンバー・セレクトタからメンバーを選択するには:

1. アプリケーションから、セレクトタ



または「追加」



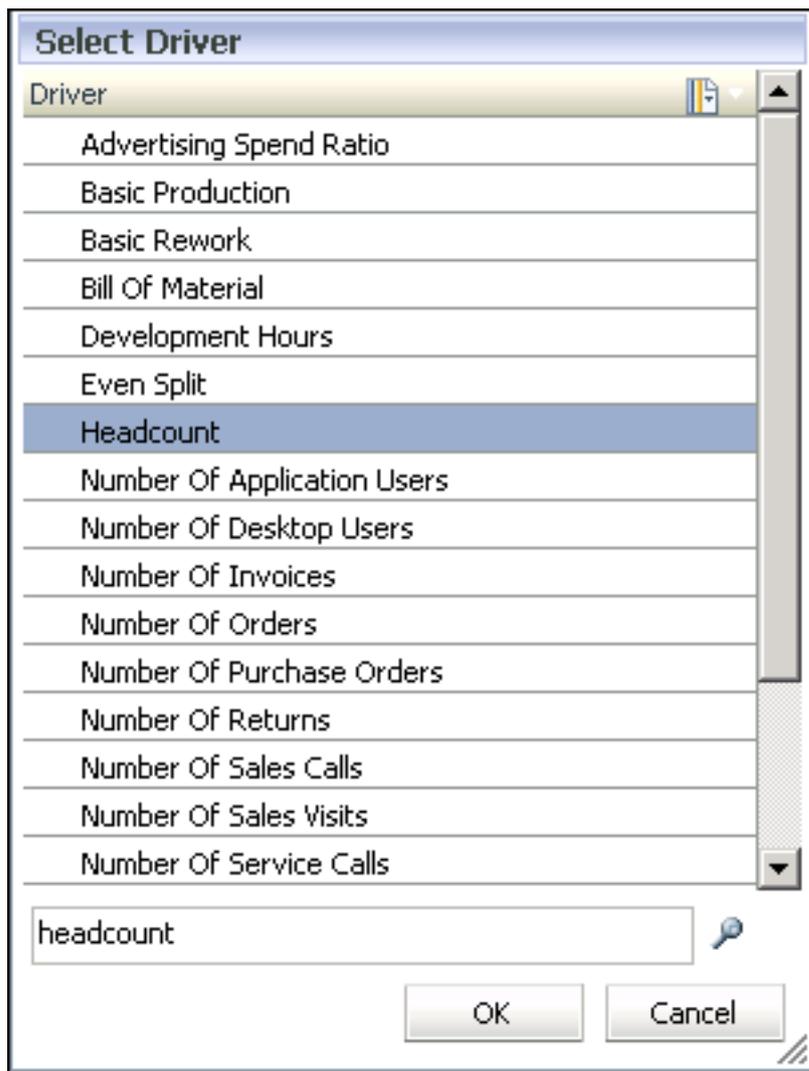
をクリックします。

「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスが開き、使用可能なすべてのメンバーが表示されます。

2. メンバー・リストを展開し、メンバーを選択します。

メンバーを検索するには、ダイアログ・ボックスの下部にあるテキスト・ボックスにメンバー名を入力し、「検索」ボタンをクリックします。





3. オプション: メンバーの表示をフィルタ処理または変更するには、「コンテキスト・メニュー」



をクリックし、1つまたは複数のオプションを選択します。

- 「ツリーの表示」は、選択されているディメンションのメンバーを展開可能な階層で表示します。
- 「グリッドの表示」は、選択されているディメンションのすべてのメンバーをフラットな連続するリストで表示します。メンバーをフィルタ処理する場合は、この表示モードを選択しておく必要があります。
- 「別名の表示」は、メンバーの別名、つまりメンバーおよび共有メンバーの代替名を表示します。
- 「名前の表示」は、メンバーの名前を表示します。
- 「フィルタ」は、メンバーをフィルタ処理するときに使用します。
- 「ソート」は、フィルタを選択して、メンバーを昇順、降順またはデフォルトの順序で表示するときに使用します。

[35ページのフィルタの使用](#)を参照してください。

4. 「OK」をクリックします。

選択したメンバーが、要求したフィールドに表示されます。

## 列のソート

表示している画面によって、列のソートには2つの方法を使用できます:

- メンバー・セレクトを使用(「ドライバ定義」、「ドライバの選択」、「割当て」、および「データの入力」の各画面上)
- 列ヘッダーをクリック(割当ての宛先、ドライバ例外タブ、およびタスク・フローの管理)

▶ メンバー・セレクトを使用してソートするには:

1. 画面上、ソートする列の上部にあるメンバー・セレクト



をクリックします。

2. ドロップダウン・リストから「グリッドの表示」を選択します。

この手順は、階層フォーマットを除去してソートを可能にします。

3. 画面上のメンバー・セレクト



を再度クリックし、必要なソート・オプションを選択します。

- 昇順(最小から最大へ)
- 降順(最大から最小へ)
- デフォルト(Essbaseデータベースの表示のとおり)

選択したソート・オプションを使用してリストが再表示されます。

▶ 列ヘッダーを使用してソートするには:

1. 画面で、ソート・アイコンを表示する列ヘッダーをダブルクリックします:

- 昇順



- 降順



2. ソート・オプションを切り替える列ヘッダーをダブルクリックします。

## ツリーおよびグリッド・ビュー・モードの使用

データの編集時には、2つのビュー・モードを切り替えて、ディメンションとそのメンバーを表示できます:

- ツリー・ビューでは、ディメンションとメンバーが展開可能な階層で表示されます。

A
A1
A11
A12
A13
A14

- グリッド・ビューでは、選択されているディメンションのレベル0のメンバーが連続するリストで表示されます。ディメンション・メンバー、ドライバまたはメジャーをフィルタ処理する場合は、グリッド・モードであることが必要です。

A
A11
A12
A13
A14

▶ ビュー・モードを変更するには:

- データ入力画面のディメンション列の上部で、ビュー・モードを変更するディメンションに対して「コンテキスト・メニュー」



をクリックします。

- 必要なビュー・モードを選択します:

- 「ツリーの表示」を選択し、ディメンションとそのメンバーを展開可能な階層で表示します。
- 「グリッドの表示」を選択し、選択されているディメンションのレベル0のメンバーを連続するリストで表示します。ディメンション・メンバー、ドライバまたはメジャーをフィルタ処理する場合は、グリッド・ビュー・モードであることが必要です。

## フィルタの使用

フィルタは、メンバーの長いリストを絞り込むときに使用し、フィルタ条件を満たすメンバーのみを表示できます。フィルタは、「ドライバの選択」、「割当て」および「データの入力」画面など、複数のオプションから選択する必要がある画面で使用できます。

- フィルタに検索値を入力する場合、フィルタが属性ベースまたはUDAベースである場合は文字列全体を入力します。
- フィルタの先頭にワイルドカードが必要な場合、使用できるのは疑問符のみです(たとえば, "?ac")。
- 割当てルール名および別名フィルタでは、アスタリスク(\*)や疑問符(?)などの末尾のワイルドカード記号がサポートされています。たとえば, "B\*"と入力すると、文字"B"で始まる名前または別名を持つメンバーがフィルタされます。"



注:

割当てルールについては、"\*B"または"B\*a"のように、フィルタの先頭またはフィルタ内でアスタリスクを使用することはできません。

「フィルタ」ダイアログ・ボックスを使用し、次の形式でフィルタを作成します:

<メンバー名> <操作> <値> <条件>

フィルタに複数の文が含まれる場合、「条件」でANDまたはOR条件を使用して、追加の文を付加できます。各文には大かっこが自動的に挿入され、フィルタは左から右に解決されます。

▶ デイメンションおよびメンバーをフィルタ処理するには:

1. 「メンバー・セレクト」



をクリックします。

2. 「フィルタ」ドロップダウン・リストで、「グリッドの表示」を選択します。

リストがグリッド・フォーマットに変更され、「フィルタ」オプションがアクティブになります。

3. 「フィルタ」ドロップダウン・リストで、「フィルタ」



を選択します。

「フィルタ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

Filter				
Parameter	Operation	Value	Condition	
Name	Is Equal	product		

Buttons: Help, OK, Cancel

4. 「パラメータ」の下で、使用可能なパラメータのドロップダウン・リストを表示するセルをクリックし、フィルタ処理するパラメータを選択します:

・ 名前:

- 「名前の表示」モードが選択されていると、メンバー名が表示されます。
- 「別名の表示」モードが選択されていると、別名が表示されます。



注:

「割当てルール」では、標準Profitabilityの「名前」フィルタは名前と別名の両方で同時に基準と一致します。

詳細Profitability割当てルールは、作成フィルタのタイプに応じて名前または別名の一方に対してのみ一致します。フィルタを「名前」で作成した場合はメンバーを名前でのみ照合し、フィルタを「別名」で作成した場合はメンバーを別名でのみ照合します。

詳細アプリケーションと標準アプリケーション間のこの違いは、Essbaseとリレーショナル・データベース間の相違によるものです。Essbaseは、名前と別名を同じものとして扱います。リレーショナル・データベースでは同じものとして扱われません。

- ・ 属性(選択可能な場合、「属性」)
  - ・ UDA(選択可能な場合、「ユーザー定義属性」)
5. 「操作」で、適切なフィルタを選択します:
- ・ 等しい
  - ・ 等しくない



注:

現在、名前、別名および属性をフィルタするためのEQUALとNOT EQUALの両演算子がサポートされています。

現在UDAでサポートされている演算子は「等しい」のみです。

パラメータとして"Name"が選択されている場合、名前と別名の両方に対して突合せが実行されます。

6. 「値」で、セルをクリックして、フィルタの値を選択します:
- ・ 「名前」に、値またはテキストを入力します。名前と別名の両方で一致するものが検索されます。
  - ・ 「属性」または「UDA」ディメンションに、選択した属性またはUDAディメンションの値のドロップダウン・リストからメンバーを選択します。
7. オプション: 複数のフィルタ文を追加する場合、「条件」で、フィルタを制御する条件を選択します:
- ・ AND
  - ・ OR
8. オプション: 追加する各フィルタに対して、[36ページのステップ 4](#)から [37ページのステップ 7](#)を繰り返します。
9. 「OK」をクリックします。

フィルタが適用され、フィルタ条件を満たすメンバーのみが表示されます。

## 検索機能の使用

検索機能を使用すると、メンバー・リスト内の1つのメンバーを検索できます。

検索機能は、複数のオプション(ドライバ定義、ドライバの選択、割当て、データの入力など)からの選択を必要とする画面で使用できます。各「検索」フィールドは、そのフィールドが属する列に添付され、一度に1つの列でしか使用できません。

▶ メンバーを検索するには:

1. 列の一番下にある「検索」テキスト・ボックスにメンバー名を入力します。

名前の一部を入力できます。



2. 「検索」ボタンをクリックします。



選択した名前に最初に一致する名前がメンバー・リストでハイライトされます。

---

## パート II

# 標準Profitabilityアプリケーションの操作

---

### 目次

ドキュメントのアクセシビリティについて .....	11
ドキュメントのフィードバック .....	12
3. 標準Profitabilityモデルおよびシナリオについて .....	41
4. 標準Profitabilityアプリケーションのディメンション .....	47
5. 標準Profitabilityモデルの管理 .....	61
6. 標準Profitability配賦の管理 .....	85
7. 標準Profitabilityモデルの検証 .....	161
8. 標準Profitabilityモデルの計算 .....	175
9. 標準Profitabilityのジョブ・ステータスのモニタリング .....	189
10. 標準Profitabilityレポートの実行 .....	201
11. 標準ProfitabilityでのSmart View問合せの管理 .....	207

---



# 3

## 標準Profitabilityモデル およびシナリオについて

この項の内容:

標準Profitabilityモデルの概要 .....	41
標準Profitabilityモデル作成の手順 .....	42
標準Profitabilityのワークスペース .....	44

### 標準Profitabilityモデルの概要

モデルは企業の一部または全体を表し、企業の勘定科目に相当する費用および収益カテゴリを含んでいます。Profitability and Cost Managementモデルを使用することで、企業内の費用および収益に影響を与えるプロセスや活動を正確にトレースできます。

モデルは次の要素で構成されます:

- ステージ - 企業の配賦プロセスの手順を整理します
- デイメンションは、値を取得および保存するためのビジネス・データの編成に使用されるデータ・カテゴリです。Profitability and Cost Management内では、次のタイプのデイメンションが使用されます:
  - メジャー・デイメンションやAllocationTypeデイメンションなどのシステム・デイメンション:



注:

AllocationTypeデイメンションは、費用と収益の正しい割り当てや、直接配賦とシステムの保管に使用します。

メジャー・デイメンションには、モデルの構築、検証および計算に必要なデイメンションおよびメンバー(費用と収益のメジャー、ドライバの選択など)が含まれています。

- ビジネス・デイメンション - モデルの各ステージ内のオブジェクト(製品、顧客、地域など)を記述します。デイメンションおよびメンバーは、Performance Management Architectで作成され、モデルの基盤となります。
- POVデイメンションは、年、シナリオ、期間またはバージョンなど、モデルに固有の視点またはバージョンを示します。バージョン・デイメンションを使用すると、モデルの複数のバージョンを保持できます。これらのバージョンは、モデルの代替シナリオや仮定シナリオ、または異なるパースペクティブの作成に使用できます。
- 別名デイメンションは、デイメンションの定義に役立つ代替の名前、説明、言語またはその他のアイテムを割り当てるために使用されます。

○属性ディメンションを使用すると、ディメンション・メンバーの属性または品質に基づく分析が可能になります。属性は、製品のサイズや色など、データの特徴を示します。

○UDA(ユーザー定義属性)ディメンション

- ドライバ - 費用または収益のソース値の計算および配賦方法を定義します。選択されているドライバは、ディメンション全体に適用することも、階層の一部、単一のメンバー、さらには単一の交差に適用することもできます。
- 割当て - ソース・データを直接にかまたは定義された割当てルールによって宛先にマップします
- 費用および収入に関する財務データ - データ・ファイルを介してEssbaseに直接インポートするか、Profitability and Cost Managementを使用して手動で入力します。
- 一部のPerformance Management Architectのディメンション・タイプは、Profitability and Cost Managementのモデルで使用できます：
  - 勘定科目
  - エンティティ
  - バージョン
  - 時間
  - 国
  - 通貨

これらのディメンション・タイプの使用については、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*を参照してください。

これらの要素を組み合わせ、モデル内の配賦ポイントを整理して論理的なフローに編成します。注意深くモデルを作成することで、実際のプロセスおよび活動を網羅し、現実的に費用と収入を配賦することができます。

ビジネス、メジャーおよびPOVディメンションは、Performance Management Architectで作成され、Profitability and Cost Managementリレーショナル・データベースにデプロイされます。ステージ、ドライバおよび割当ては、Profitability and Cost Managementで作成されます。

企業の現在の状況を反映したモデルを作成後、「POVのコピー」機能を使用して、ベース・モデルの別バージョンを作成できます。シナリオまたは仮定シナリオは、新しい機会および戦略の潜在的な収益性の予測や、代替案またはモデルの変更の評価を実行できる、リスクのない方法です。

[74ページの標準Profitability POVの管理](#)を参照してください。

## 標準Profitabilityモデル作成の手順

Profitability and Cost Managementの標準モデルの作成は、次の手順で行う必要があります：

1. Profitability and Cost Managementでモデルを作成する前に、要件、配賦方法および必要となるステージの数とタイプを定義します。

モデルのビジネス要件と、レポートに対する要求を明確にする必要があります。紙と鉛筆、関係者とのディスカッション、フローチャート、ダイアグラム用ソフトウェアなどのツールを使用して、目標を達成するためにモデルに必要なとされる概念を固めていきます。場合によっては、最初に実現する必要がある目標を決定してから、目標を満たす最適の戦略を構築するというように、逆算して作業していく方法も有効です。

Essbaseアウトラインをデザインする場合は、レポートの目的と要件を綿密に定義します。アウトラインのデザインに労力を投資すると、よいレポートが生成されるという形で報われます。データベース・アウトラインの作成の詳細は、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。

2. データベース・アウトライン、つまり、モデルの各ステージ内のメイン・オブジェクトを構築するために、Performance Management Architectを使用してディメンション(ビジネス、メジャー、AllocationType、POVディメンションなど)を定義します。24ページの共通のディメンション・タイプを参照してください。ディメンションの選択手順については、『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management 管理者ガイド』を参照してください。
3. モデル・ステージを作成して、プロセスの開始から最終的な製品またはサービスの納品までの計算順序を定義します。ステージ内では、ステージの主要アクティビティに適用するディメンションを割り当てます。ディメンションはステージ内でシーケンスが付けられ、ステージは計算される順にシーケンスが付けられます。各ステージには最大3つのディメンションを指定できます。66ページの標準Profitabilityモデル・ステージの設定を参照してください。
4. 費用と収益のデータの計算方法を指定するドライバを作成します。各ステージに対して、1つのディメンションがドライバ・ディメンションとして選択されている必要があります。86ページの標準Profitabilityモデルのドライバと式の定義を参照してください。
5. 選択したドライバ・ディメンションのメンバー、またはすべてのステージ・ディメンションの交差のメンバーにドライバを割り当てます。ドライバは次元全体、階層の一部、単一のメンバーあるいは単一の交差に割り当てることができます。詳細は、102ページのドライバの選択の作成を参照してください。
6. 割り当てルールを使用してステージ交差の割り当てを作成するか、選択ディメンションへの明示的割り当てを作成します。宛先の交差は、下流のステージまたは同じステージのどちらにあってもかまいません。107ページの標準Profitability割り当ての操作を参照してください。
7. 各ステージについてモデル構造を検証し、割り当てが完全に行われているかどうか、あるいは未使用のドライバがないかどうか、などの検証ルールに適合していることを確認します。詳細は、166ページのモデル構造の検証を参照してください。
8. Essbaseデータベースを作成し、Profitability and Cost Managementにより、または直接Essbaseデータベースに、費用、収入、ドライバ・データを移入して、計算スクリプトを生成します。82ページの標準Profitabilityデータおよびアーティファクトのインポートを参照してください。
9. Profitability and Cost Managementを使用してモデルに、または直接Essbaseデータベースに、データをロードします。『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management 管理者ガイド』を参照してください。
10. 計算用データベースをデプロイします。176ページの計算データベースのデプロイを参照してください。
11. レポート用データベースをデプロイします。179ページのレポート・データベースのデプロイを参照してください。
12. 各ステージの計算に必要な計算スクリプトを実行します。計算スクリプトの生成や計算など、長時間実行されるジョブの進行状況を監視します。189ページの第9章「標準Profitabilityのジョブ・ステータスのモニタリング」を参照してください。
13. ソースおよび宛先交差の直接割り当ての結果を取得するよう、計算用データベースを計算します。175ページの第8章「標準Profitabilityモデルの計算」を参照してください。
14. 「ブロック・ストレージ・オプション」(BSO)を使用する計算用データベースから、「集約ストレージ・オプション」(ASO)を使用するレポート用データベースにデータを転送します。184ページのデータの転送を参照してください。
15. 系統データを計算します。186ページの系統における複数のステージのコントリビューション・パスの計算を参照してください。

16. 「ステージの貸借一致」、「ドライバ・データ」および「配賦のトレース」の各レポートを実行します。必要に応じて、モデルやデータの編集と修正を行い、計算を再実行します。次の項を参照してください:

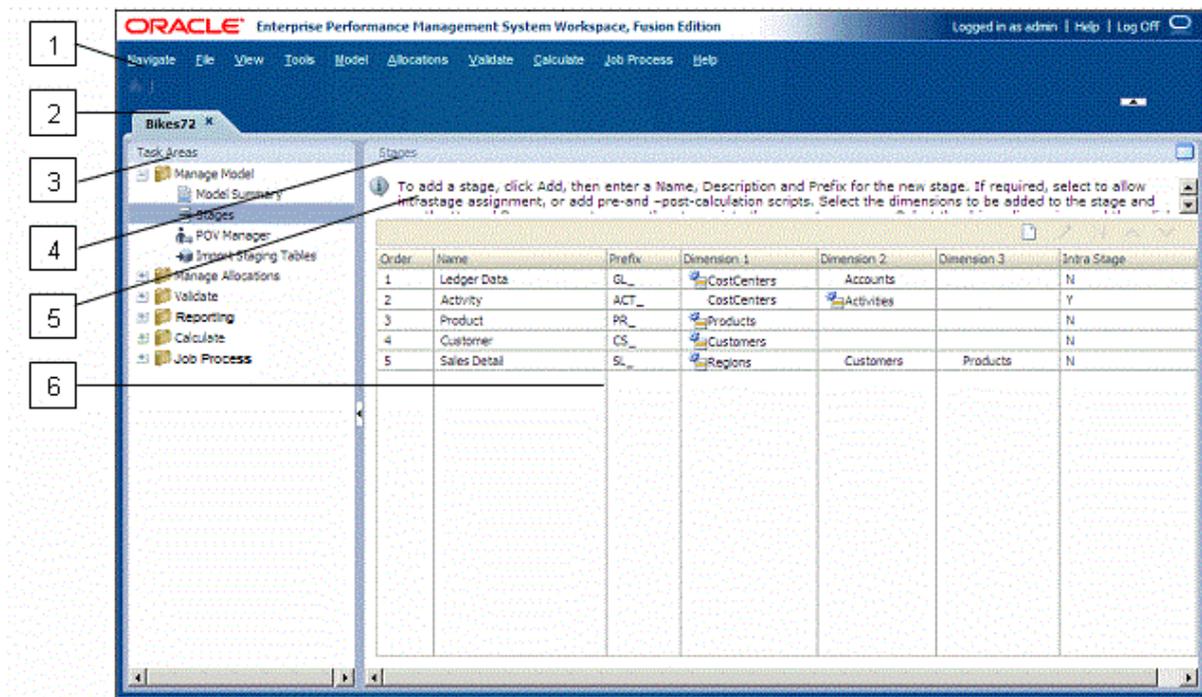
- [169ページのステージの貸借一致レポートの生成](#)
- [171ページのドライバ・データレポートの生成](#)
- [148ページの配賦のトレース](#)

17. Oracle Hyperion Financial Reporting, Smart View, Oracle Hyperion Web Analysisなどのレポート・ツールを利用して、計算結果のレポートを作成します。配賦のトレース機能を使用して、モデル全体における、特定のステージ交差からの資金フローを、順方向と逆方向のどちらでも、視覚的に追跡できます。

## 標準Profitabilityのワークスペース

EPM Workspaceからアクセス可能なProfitability and Cost Managementワークスペースには、2つのメイン領域があります:

- 「タスク領域」ペインでは、モデルの構築、検証および計算、または結果のレポートに必要なプロセスに移動できます。
- コンテンツ・ペインでは、タスク情報を表示したり、データを入力または変更できます。また、モデルおよびそのデータの作成やメンテナンスに関連したタスクも実行できます。



Profitability and Cost Managementワークスペースには、次のアイテムがあります:

1. ウィンドウの上部にあるPerformance Management Architectのメイン・メニューには、共通のEPM Workspaceメニュー・オプション(「ナビゲート」、「ファイル」、「表示」、「ツール」)に加えて、Profitability and

Cost Managementメイン・メニュー・オプション(「モデル」、「配賦」、「検証」、「レポート」、「計算」、「ジョブ・プロセス」、「ヘルプ」)が表示されます。

2. 「アプリケーション名」タブに、現在アクティブなアプリケーションの名前が表示されます。
3. 「タスク領域」は、モデル構造の構築、変更、検証、およびモデルの計算に必要なタスクの選択に使用します。また、レポートの生成や、モデル全体における配賦チェーンの調査が可能です。



---

注:

タスク領域を変更する際、現在のタスクに存在するPOV(視点)選択は保持されます。この機能を使用すると、POVを選択する必要がなく、画面間を移動できます。ユーザーがPOVの選択を変更して、POVの「リフレッシュ」アイコンをクリックしないかぎり、POVの選択状態は変化しません。

---

4. タイトル・バーに、現在コンテンツ・ペインに表示されているウィンドウの名前が表示されます。
5. 情報バーには、現在選択されているタスクに関する簡単な説明が表示されます。
6. コンテンツ・ペインには、「ドライバ定義」または「モデルの要約」など、現在選択されているタスクの画面が表示されます。



# 4

## 標準Profitabilityアプリケーションのディメンション

### この項の内容:

<a href="#">標準Profitabilityのメジャー・ディメンション</a>	47
<a href="#">標準ProfitabilityのAllocationTypeディメンション</a>	57
<a href="#">標準Profitabilityのクローン・ディメンション</a>	58

Profitability and Cost Managementでは、Performance Management Architectで作成されたディメンションとメンバーを使用して、Essbaseアプリケーション・アウトラインのビジネス・モデルの構造要素の多くを表します。

ディメンション・タイプは、事前定義された機能を使用可能にするディメンション・プロパティです。ディメンション・タイプの特定の特性により、ディメンションの動作と機能を管理します。Profitability and Cost Management、Performance Management Architectおよび他のEPM Workspace製品で特定のディメンション・タイプを共有できるため、様々な製品のディメンションの機能を活用できます。

すべてのアプリケーション・タイプに共通するProfitability and Cost Managementのディメンションについては、次の各項を参照してください:

- [22ページのProfitability and Cost Managementのディメンションについて](#)
- [24ページの共通のディメンション・タイプ](#)
  - [25ページのProfitability and Cost Managementのビジネス・ディメンション](#)
  - [26ページのProfitability and Cost ManagementのPOVディメンション](#)
  - [27ページのProfitability and Cost Managementの属性ディメンション](#)
  - [27ページのProfitability and Cost Managementの別名ディメンション](#)

次の各項には、標準Profitabilityアプリケーションおよびモデルに固有のシステム・ディメンションに関する情報が含まれます:

- [47ページの標準Profitabilityのメジャー・ディメンション](#)
- [57ページの標準ProfitabilityのAllocationTypeディメンション](#)
- [58ページの標準Profitabilityのクローン・ディメンション](#)

# 標準Profitabilityのメジャー・ディメンション

## サブトピック

- 標準Profitabilityのドライバ・メジャー
- 標準Profitabilityのレポート・メジャー
- 標準Profitabilityの費用レイヤー配賦メジャー
- 標準Profitabilityの収益レイヤー配賦メジャー

メジャー・ディメンションは、Performance Management Architectからインポートされます。これには、モデルの構築、検証および計算に必要なメンバーが含まれています。メンバーは、配賦プロセスに使用されるデータを保存します。費用データと収入データには、互いに異なるメジャーが存在します。

標準のメジャー・ディメンションは定義済ですが、ユーザーは「UserDefinedDriverMeasures」メンバーの下の階層にユーザー定義のドライバ・メジャーを追加することもできます。



### 注意

このディメンションのシステム・メンバーは編集しないでください。データが消失したりモデルが破損する可能性があります。

メジャー・ディメンションのメンバーには、配賦プロセスに必要なビジネス・ディメンション・メンバーの、様々なタイプのデータが保存されます:

- **ドライバ・メジャー** - QuantityやRateなど、ドライバ式でパラメータとして使用される値を保存します。定義済のドライバ・メジャーが10個あります。ユーザー定義のドライバ・メジャーをいくつでも追加できますが、ドライバ・メジャーはEssbaseアウトライン内で一意であることが必要です。

ドライバ・メジャー・ディメンションに含まれるメンバーを表示するには、[49ページの標準Profitabilityのドライバ・メジャー](#)を参照してください。

- **レポート・メジャー** - レポート作成時に簡単に使用できます。レポート・メジャーは、メジャー・ディメンション内に別の階層を形成しています。任意のメジャーに関するレポート作成が可能になります。

レポート・メジャー・ディメンションに含まれるメンバーを表示するには、[51ページの標準Profitabilityのレポート・メジャー](#)を参照してください

Essbase内に存在する別の階層の詳細は、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。

- **配賦メジャー** - システム定義のメジャーで、上位モデル・ステージまたはデータ・ロードから渡される費用および収益の入力を保管します。配賦メジャーを使用すると、費用および収益の両方に対する、計算および入力された費用の配賦を制御できます。



### 注:

メジャー・ディメンションの配賦メジャーは、[57ページの標準ProfitabilityのAllocationTypeディメンション](#)で説明されているAllocationTypeディメンションのDirectAllocationおよびGenealogyAllocationメジャーとは異なりますので、注意してください。

費用レイヤー配賦と収益レイヤー配賦には、互いに異なる配賦メジャーが存在します。費用レイヤーおよび収益レイヤーの配賦メジャー・ディメンションに含まれるメンバーを表示するには、[52ページの標準Profitabilityの費用レイヤー配賦メジャー](#)および [55ページの標準Profitabilityの収益レイヤー配賦メジャー](#)を参照してください。

## 標準Profitabilityのドライバ・メジャー

ドライバ・メジャーは、ドライバ・タイプの作成で使用されます。

表2 ドライバ・メジャー

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
FixedDriverValue	FixedDV	固定ドライバ値パラメータを必要とするドライバ・タイプで使用するデフォルトのメジャー	入力
Rate	Rate	レート・パラメータを必要とするドライバ・タイプで使用するデフォルトのメジャー	入力
Quantity	Qty	数量パラメータを必要とするドライバ・タイプで使用するデフォルトのメジャー	入力
Weight	Weight	加重パラメータを必要とするドライバ・タイプで使用するデフォルトのメジャー	入力
Percentage	Percent	パーセンテージ・ドライバ・タイプで使用するデフォルトのメジャー	入力
CalculatedDriverValue	CDV	割当てで使用されるドライバ式の結果であるメジャー	計算済
TotalDriverValue	TDV	配賦式Driver Value/ TotalDriverValue(DV/ TDV)で分母として使用されるメジャー	計算済
EffectiveTotalDriverValue	EffTDV	ドライバの定義時に「アイドルを許可」ボックスが選択されているドライバの有効なドライバ合計を保管するために使用されるメジャー。	計算済
OverrideTotalDriverValue	OvrtdTDV	配賦式の分母としてTotalDriverValueメジャーを上書きするユーザー入力値です。このメンバーが、アイドル計算が実行される原因となります。	入力

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
TotalDriverValueAfterReciprocity	TDVafRcp	相互割当てにソースが含まれている場合の、非相互ステージ内配賦、およびステージ後配賦に関する配賦式の分母として使用されるメジャーです	計算済
IdleDriverValue	IdleDV	IdleCostの計算用のドライバ値(DV)として使用されるメジャー	計算済
UserDefinedDriverMeasure	N/A	<p>メンバー UserDefinedDriverMeasures は、アプリケーション固有のユーザー定義のドライバ・メジャーが保管される場所です。ASOMemberDataStorageおよびBSOMemberDataStorageプロパティは、次のように設定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- このメンバーに子がない場合、<b>StoreData</b>に設定します。</li> <li>- このメンバーにメンバーが子として追加されるときに、これらの子に集計記号IGNOREがある場合、<b>LabelOnly</b>に設定します。</li> </ul> <p>注:</p> <p>すべてのドライバ・メジャーはアウトライン内で一意である必要があります。アウトライン内のディメンションでは既存のドライバ・メジャーの名前を他のメンバーの名前として使用しないでください(システム・ディメンション、POVディメンションおよびビジネス・ディメンションを含む)。これらを使用すると、「データの入力」画面に値が正しく表示されません。</p>	N/A

## 標準Profitabilityのレポート・メジャー

レポート・メジャーは、計算済の値および入力済の値を使用して、モデルの総費用および総収益のレポートを生成するために使用します。レベル0でないレポート・メジャーはすべて計算されます。

表3 レポート・メジャー

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
GrossCost	GrossCost	<p>使用可能なすべての入力を含む、交差の費用合計:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 入力値</li> <li>• ステージ前割当て</li> <li>• 相互割当てを含むステージ内割当て</li> </ul> <p>この計算は、交差の真の費用合計を表します。</p>	計算済
StandardCost		標準基準ドライバの場合、 $\text{StandardCostRate} * \text{TotalDriverValue}$ で計算された費用	計算済
StandardRevenue		標準基準ドライバの場合、 $\text{StandardRevenueRate} * \text{TotalDriverValue}$ で計算された収益	計算済
InitialCost	InitialCost	入力費用およびステージ前からの割当て時に受け取られた費用を含む、ステージ内費用または相互費用が計算される前の交差の費用。	計算済
NetCostAfterIntraStage	NetCostAftInt	すべてのステージ内費用割当てを含む、交差の費用	計算済
GrossRevenue	GrossRev	<p>使用可能なすべての入力を含む、交差の収益合計:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 入力値</li> <li>• ステージ前割当て</li> <li>• 相互割当てを含むステージ内割当て。</li> </ul> <p>この計算は、交差の真の収益合計を表します。</p>	計算済
InitialRevenue	InitialRev	入力収益およびステージ前からの割当て時に受け取られた収益を含む、ステージ内	計算済

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
		収益または相互収益が計算される前の交差の収益。	
NetRevenueAfterIntraStage	NetRevAftInt	すべてのタイプのステージ内収益割当てを計上した後の交差の収益	計算済
Profit	Profit	選択した交差について計算された収益の値。この値は、次の計算の結果です: NetRevenueForAssignment - NetCostForAssignment	計算済

## 標準Profitabilityの費用レイヤー配賦メジャー

費用レイヤー配賦メジャーは、計算済費用および入力済費用の直接配賦を制御するために使用します。

表4 費用レイヤー配賦メジャー

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
UnassignedCost	UnAsgCost	すべての割当ておよびアイドル計算が完了した後のソース交差の費用の残り。	計算済
CostAssigned	CostAsg	ソースからステージ後宛先および非相互ステージ内宛先へ割り当てられる費用合計	計算済
CostAssignedIntraStage	CostAsgInt	相互宛先を除く、ステージ内宛先へ割り当てられる費用合計	計算済
CostAssignedPostStage	CostAsgPost	ステージ後宛先へ割り当てられる費用合計	計算済
OverDrivenCost	OverDrivenCost	標準基準ドライバの場合、割り当てられる費用合計がNetCostForAssignmentより大きい場合、期限を過ぎた金額はOverDrivenCostに転記されます。	計算済
IdleCost	IdleCost	アイドル費用は、ドライバのタイプによって異なる方法で生成されます:  • 実績基準ドライバの場合、アイドル費用	計算済

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
		<p>は次の配賦式を使用して生成されます:  <math>\text{IdleDriverValue} / \text{OverrideTotalDriverValue}</math></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準基準ドライバの場合、割り当てられる費用合計が <math>\text{NetCostForAssignment}</math> より小さいとアイドル費用が生成されます。</li> </ul>	
NetCostForAssignment	NetCostAsg	<p>前ステージ割当て、ステージ内割当ておよび相互割当てをすべて計上した後で割当てに使用できる総費用。</p> <p>DataStorage (BSO)プロパティを<b>StoreData</b>に設定します。</p>	計算済
GrossReceivedCost	GrRecCost	<p>相互費用およびユーザー入力費用を除く、ステージ前割当ておよびステージ内割当てから割り当てられたすべての費用合計</p> <p>DataStorage (BSO)プロパティを<b>StoreData</b>に設定します。</p>	計算済
StandardCostRate	StandardCostRate	<p>標準基準ドライバの場合、ユーザーは標準の費用レートを割り当て、標準基準の費用ドライバの計算で使用する値を次のように入力します:  <math>\text{CostReceivedPriorStage} = \text{StandardCostRate} * \text{TotalDriverValue}</math></p>	入力
CostInput	CostInput	交差のユーザー入力の費用値	入力
CostReceived	CostRec	相互割当てから発生した費用を除く、ステージ前割当ておよびステージ内割当てによって交差に割り当てられたすべての費用合計	計算済

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
		DataStorage (BSO)プロパティを <b>StoreData</b> に設定します。	
CostReceivedPriorStage	CostRecPri	ステージ前からの割当て時に受け取られた費用合計	計算済
CostReceivedIntraStage	CostRecInt	相互割当てを除く、ステージ内割当て時に受け取られたすべての費用合計	計算済
NetReciprocalCost	NetRcpCost	ステージ後宛先および非相互ステージ内宛先へ割当て可能な金額に対する相互割当ての正味の影響  DataStorage (BSO)プロパティを <b>StoreData</b> に設定します。	計算済
ReciprocalCostAssigned	RcpCostAsg	相互割当てから受け取る費用を除く、相互宛先へ割り当てられる費用合計	計算済
ReciprocalCostReceived	RcpCostRec	相互宛先から受け取る費用合計	計算済
ReciprocalIntermediate Cost	RcpIntCost	同時等式が適用された後だが相互調整が行われる前に交差について計算される中間値	計算済
CostPerDrvUnit	Cost Per Driver Unit	このメジャーは、AllocationMeasuresの子です。  この式では、割当て費用(CostAssigned)を全ドライバ値の合計(TotalDriverValue)で除算して、ドライバ値の1単位当たりの費用を計算します。	計算済
UnitCost	Unit Cost。	このメジャーは、AllocationMeasuresの子です。  この式では、ソース交差の費用金額(NetCostForAssignment)をユーザーが入力した数量	計算済

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
		で除算して、1単位当たりの費用を計算します。	

## 標準Profitabilityの収益レイヤー配賦メジャー

収益レイヤー配賦メジャーは、計算済および入力済の収益の直接配賦を制御するために使用します。

表5 収益レイヤー配賦メジャー

メンバー名	別名	説明	計算済/入力
UnassignedRevenue	UnAsgRev	すべての割当ておよびアイドル計算が完了した後のソース交差の収益の残り	計算済
RevenueAssigned	RevAsg	ソースからステージ後宛先および非相互ステージ内宛先へ割り当てられる収益合計	計算済
OverDrivenRevenue		標準基準ドライバの場合で、収益合計がNetRevenueForAssignmentより大きい場合、期限を過ぎた金額はOverDrivenRevenueに転記されます。	計算済
RevenueAssignedIntraStage	RevAsgInt	相互宛先を除く、ステージ内宛先へ割り当てられる収益合計	計算済
RevenueAssignedPostStage	RevAsgPos	ステージ後宛先へ割り当てられる収益合計	計算済
IdleRevenue	IdleRev	アイドル収益は、ドライバのタイプによって異なる方法で生成されます:  <ul style="list-style-type: none"> <li>実績基準ドライバの場合、アイドル収益は次の配賦式を使用して生成されます:  <math display="block">\text{IdleDriverValue} / \text{OverrideTotalDriverValue}</math> </li> <li>標準基準ドライバの場合、割り当てられる収益合計がNetRevenueForAssignmentより小さいとアイドル収益が生成されます。</li> </ul>	計算済

メンバー名	別名	説明	計算済/入力
NetRevenueForAssignment	NetRevAsg	すべてのステージ前割当て、ステージ内割当ておよび相互割当てを計上した後に割当て可能な収益合計。  DataStorage (BSO)プロパティを <b>StoreData</b> に設定します。	計算済
GrossReceivedRevenue	GrRecRev	相互割当て収益およびユーザー入力収益を除く、ステージ前割当ておよびステージ内割当てから割り当てられたすべての収益合計  DataStorage (BSO)プロパティを <b>StoreData</b> に設定します。	計算済
StandardRevenueRate	StandardRevenueRate	標準基準ドライバの場合、ユーザーは標準の収益レートを割り当て、標準基準の収益ドライバの計算で使用する値を次のように入力します: <b>RevenueReceivedPriorStage = StandardRevenueRate * TotalDriverValue</b>	入力
RevenueInput	RevInput	交差のユーザー入力の収益値。  収益カテゴリをRevenueInput下の階層として定義し、保管します。  DataStorage (BSO)プロパティを <b>StoreData</b> に設定します。	入力
RevenueReceived	RevRec	相互費用から発生した収益を除く、ステージ前割当ておよびステージ内割当てによって交差に割り当てられたすべての収益合計  DataStorage (BSO)プロパティを <b>StoreData</b> に設定します。	計算済

メンバー名	別名	説明	計算済/入力
RevenueReceivedPriorStage	RevRecPri	ステージ前からの割当て時に受け取られた収益合計	計算済
RevenueReceivedIntraStage	RecRecInt	相互割当てを除く、ステージ内割当て時に受け取られたすべての収益合計	計算済
NetReciprocalRevenue	NetRcpRev	ステージ後宛先および非相互ステージ内宛先へ割当て可能な収益金額に対する相互割当ての正味の影響  DataStorage (BSO)プロパティを <b>StoreData</b> に設定します。	計算済
ReciprocalRevenue Assigned	RcpRevRec	相互割当てから受け取る収益を除く、相互宛先へ割り当てられる収益合計	計算済
ReciprocalRevenue Received	RcpRevAsg	相互宛先から受け取る収益合計	計算済
ReciprocalIntermediateRevenue	RecIntRev	同時等式が適用された後だが相互調整が行われる前に交差について計算される中間値	計算済

## 標準ProfitabilityのAllocationTypeディメンション

AllocationTypeディメンションは、Performance Management Architectからインポートされます。このディメンションを使用して、費用および収益を正しく配賦したり、直接配賦および配賦システムを保管します。



注:

必要に応じて、AllocationTypeディメンションの名前は変更できます。

Profitability and Cost Managementによって作成されるEssbaseアウトラインでは、AllocationTypeディメンションには次のメンバーが含まれます:

- **AllAllocations**には、次の子メンバーが含まれます:
  - **DirectAllocation**には、モデル内で指定したソース交差と宛先交差間で直接配賦された計算済データが保管されます。直接配賦は、ユーザーによって割当てとして定義される必要があります。
  - **GenealogyAllocation**には、モデル内の様々な関連交差間の間接リンクで計算された配賦システムが保管されます。たとえば、ステージ1-3-5を選択した場合:
    - ステージ1-3には直接的および間接的な配賦が含まれます

- ステージ3-5には間接的な配賦のみが含まれます

系統配賦は、ユーザーによって直接は定義されませんが、複数の直接配賦のために存在します。たとえば、A-B-C配賦系統データが存在するのは、AからB(A-B)およびBからC(B-C)への直接配賦が存在するためです。

- **SysAllocVar1**には、仮想リンクでのステージ内割当ての値が保管されます。この値は、同じステージの別のモードに配賦されており、DirectAllocationメンバーですすでに使用可能な値の一部です。
- **SysAllocVar2**は、DirectAllocation、Genealogy AllocationおよびSysAllocVar1のソース・リンクの合計を取得するために使用されます。
- **SysAllocVar3**には、システム内で使用される計算済系統データが保管されます。たとえば、ステージ1-3-5を選択した場合:
  - ステージ1-3には直接および間接的な配賦が含まれます
  - ステージ3-5には間接的な配賦のみが含まれます



#### 注意

このメンバーは内部使用のみです。このメンバーは、レポートには使用しないでください。

---

- **TotalAllocation**は、DirectAllocation、GenealogyAllocationおよびSysAllocVar3のソース・リンクの合計を動的に計算します。
- **IndirectAllocation**は、GenealogyAllocationおよびSysAllocVar3のソース・リンクの合計を動的に計算します。

これらのディメンション内のデータは変更できず、Performance Management ArchitectまたはProfitability and Cost Managementでは表示されません。



#### 注意

このディメンションのシステム・メンバーは編集しないでください。変更を行うと、データの損失やモデルの破損が生じる可能性があります。

---

ユーザーがウィザードを使用してアプリケーションを作成し、「ローカル・ディメンションの自動作成」を選択すると、AllocationTypeディメンションは自動的に生成されます。「ブランク・アプリケーションの作成」を選択する場合、ユーザー独自のディメンションを作成し、AllocationTypeディメンション・タイプを選択する必要があります。

レポートを作成する場合、AllocationTypeディメンションを使用して、取得する配賦データのタイプを指定できます。

## 標準Profitabilityのクローン・ディメンション

モデル内の1つ以上のステージにディメンションが含まれるインスタンスでは、モデルがEssbaseにデプロイされ、Performance Management Architectで開かれると、自動的に追加されたクローン・ディメンションが表示されます。クローン・ディメンションは、そのディメンションが使用されている各ステージのディメンションの異なるバージョンを作成します。クローン・ディメンションは、Performance Management Architectの「設定」ダイアログ・ボックスには表示されません。

たとえば、Departmentというディメンションを作成し、モデル内の一部のステージでこのディメンションを使用する場合、モデルがEssbaseにデプロイされると、モデル内にクローン・ディメンションが作成されます：

Department (元のディメンション)

- GLDepartment (接頭辞GLのステージに対するクローン・ディメンション)
- OPSDepartment (接頭辞OPSのステージに対するクローン・ディメンション)
- OPSDepartment\_intra (ステージ内割当てが可能な接頭辞OPSのステージに対するクローン・ディメンション)。



注意

Profitability and Cost Managementで管理されているため、Performance Management Architectでこれらのクローン・ディメンションを変更しないでください。

---

追加のメンバーが必要な場合は、元のディメンションにのみ新規メンバーを追加します。新規メンバーは、アプリケーションが再デプロイされるとクローン・ディメンションに追加されます。



注：

クローン・ディメンションに対する更新は、Profitability and Cost ManagementおよびEssbaseには渡されません。

---



# 5

## 標準Profitabilityモデルの管理

### この項の内容:

標準Profitabilityモデルの管理について .....	61
標準Profitabilityモデルの要約の操作 .....	61
標準Profitabilityモデル・ステージの設定 .....	66
標準Profitabilityの視点(POV)の操作 .....	72
標準Profitabilityのモデル統計の問合せ .....	80
標準Profitabilityデータおよびアーティファクトのインポート .....	82

### 標準Profitabilityモデルの管理について

モデルの管理オプションは、モデルの上位レベル構造を構築したり、モデルのプリファレンスおよび接続を制御するために使用します。

「モデルの要約」から、システム情報を表示したり、モデル・レベルのプリファレンスを設定できます。

「ステージ」セクション内で、モデルで定義されている各ステージに「Essbase」ディメンションを割当て、ステージのデータが保管される交差を作成します。

視点(POV)は、モデルの様々なバージョンを作成するために使用します;たとえば、予算の数値と実績の数値の比較を格納したり、様々な変更による最終損益への影響を測定するシナリオを実行します。

データ入力を容易にするため、Essbase、またはProfitability and Cost Managementの「データの入力」画面からデータを入力できます。Profitability and Cost Managementの管理者が作成したステージング表を使用して、ドライバ定義、ドライバの選択、割当てなどのモデル情報をProfitability and Cost Managementにロードできます。

モデルの管理については、次の項を参照してください:

- 61ページの標準Profitabilityモデルの要約の操作
- 66ページの標準Profitabilityモデル・ステージの設定
- 72ページの標準Profitabilityの視点(POV)の操作
- 82ページの標準Profitabilityデータおよびアーティファクトのインポート

# 標準Profitabilityモデルの要約の操作

## サブトピック

- ・ 「システム情報」タブ
- ・ モデル・レベルのプリファレンスの設定

「モデルの要約」では、選択されたアプリケーションのシステム詳細情報が表示され、モデル・レベルのプリファレンスを変更できます。

「モデルの要約」には次のタブがあります:

- ・ 62ページの「システム情報」タブ
- ・ 64ページのモデル・レベルのプリファレンスの設定

## 「システム情報」タブ

「システム情報」タブには、リレーショナル・データベース、Essbase接続、承認されたユーザーおよび関連付けられたシステム・コンポーネントなどの、選択されたモデルの詳細が表示されます。

ほとんどのシステム情報は読取り専用ですが、計算/レポート用アプリケーション/データベースの名前は入力、変更できます。

▶ 「システム情報」タブにアクセスするには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「**Profitability**」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデルの要約」の順に選択します。

「システム情報」タブが表示されます。

The screenshot shows the Oracle Enterprise Performance Management System Workspace, Fusion Edition interface. The main window displays the 'Model Summary' view for a model named 'Bikes72'. The 'System Information' tab is selected, showing the following details:

- Profitability RDB Information:** Server: adc6140686.us.oracle.com, Database: adc6140686, Schema Version: 0.96
- Essbase Information:** Cluster: EssbaseCluster-1, Calculation Application: Bikes72C, Calculation Database: Bikes72C, Reporting Application: Bikes72R, Reporting Database: Bikes72R
- User Information:** User ID: admin, Role: Application Creator, Planning Application Creator, Manage Taskflows, Project Manager, Dimension Editor, Profitability Application Creator, Provisioning Manager, Create Integrations, Run Integrations, Calculation Manager Administrator, Essbase Application Creator, EPMA Administrator, Financial Management Application Creator, Administrator, Financial Management Calculation Manager Administrator, Run Taskflows, Administrator, Directory Manager, Planning Calculation Manager Administrator, LCM Designer, LCM Administrator
- System Components Information:**

System	Cluster	HTTP Port	HTTPS Port	Version/Build
Enterprise Performance Management Architect	sc14103.hyperion.com	19000	19047	11.1.2.1.00.1539
Profitability and Cost Management	sc14103.hyperion.com	19000	6743	11.1.2.2.00.77
Analytical Provider Services	sc14103.hyperion.com	19000	13083	11.1.2.0

表6 「システム情報」タブ

タブ領域	説明
Profitability RDBの情報	<p>リレーショナル・データベース(RDB)サーバー、およびモデル・データが置かれたデータベースの名前。選択したアプリケーションで使用されているスキーマのバージョンも表示されます。</p>
Essbase情報	<p>モデル構造および関連するデータベースの名前が存在するEssbaseマルチディメンショナル・データベース・クラスタまたはサーバーの名前。</p> <p>計算とレポートのアプリケーション、およびデータベースの名前を入力または変更します。制限付きの語および制限文字の詳細は、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。</p>
ユーザー情報	<p>「ユーザー情報」の「データベース」フィールドには、Profitability and Cost Managementデータベースへのアクセス権があるユーザーのユーザーIDと、そのユーザーに関連するすべてのセキュリティ役割が表示されます。</p> <p>注:</p> <p>このユーザーにEssbaseデータベースとアプリケーションへのアクセス権が付与されていることを確認してください。『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイド』を参照してください。</p>
システム・コンポーネントの情報	<p>インストールに含まれる各コンポーネントの次のような詳細:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• システム - EPMコンポーネントの名前が表示されます。</li> <li>• クラスタ - そのコンポーネントをホストしているクラスタまたはサーバーの名前が表示されます。</li> <li>• HTTPポート - コンポーネントで使用しているポートが表示されます。</li> <li>• HTTPSポート - コンポーネントで使用しているセキュアなポートが表示されます(使用可能な場合)。</li> <li>• バージョン/ビルド - リストされたコンポーネントのバージョンとビルド番号が表示されます。</li> </ul> <p>列ヘッダーをクリックして、列をソートできます。「システム」列と「ホスト」列はアルファベット順にソートされ、「ポート」列と「バージョン/ビルド」列は数値順にソートされます。</p>

## モデル・レベルのプリファレンスの設定

表示プリファレンスを使用するようにアプリケーションをカスタマイズできます。「モデル・レベルのプリファレンス」タブの設定はモデル全体に適用されます。

また、選択したモデルに対してEssbase接続情報も指定します。

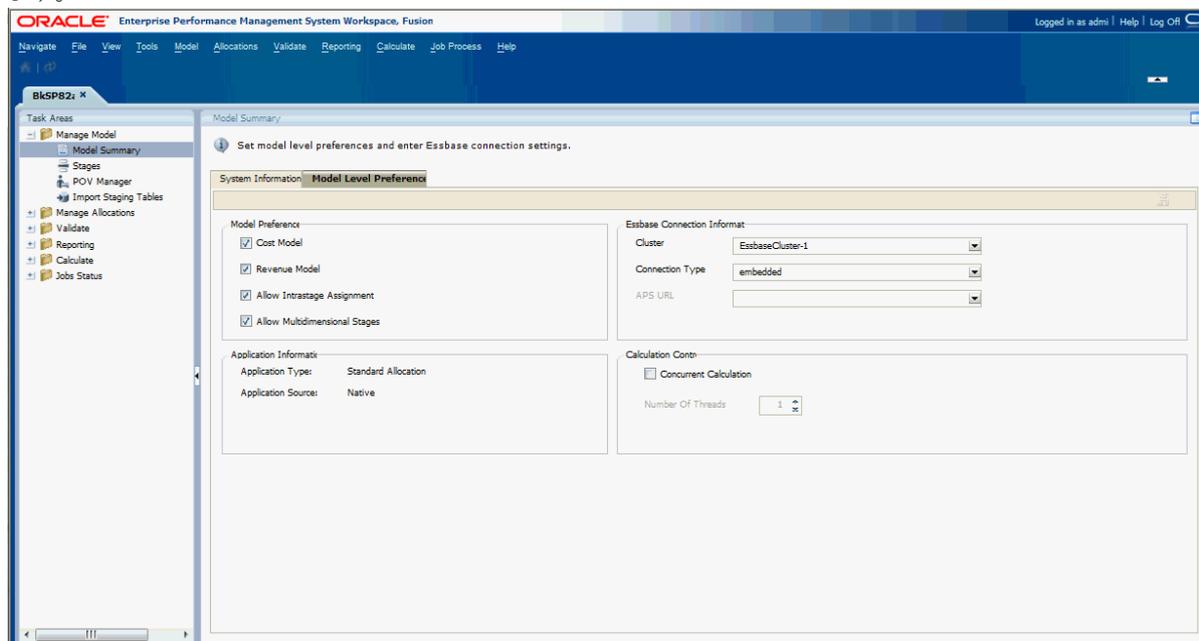


### 注意

プリファレンスはモデルのライフ・サイクルのどの時点でも変更可能ですが、サイクルの後の方で変更を加えるとデータが消失する可能性があります。

▶ モデル・レベルのプリファレンスを設定するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から、「モデルの管理」、「モデルの要約」、続いて「モデル・レベルのプリファレンス」タブを選択します。



3. 「モデル・レベルのプリファレンス」タブの「モデル・プリファレンス」で、モデルのコンテンツを制御する1つ以上のプリファレンスを選択します。選択可能なプリファレンスについては、[64ページの表 7](#)で説明します。

表7 モデル・レベルのプリファレンス

設定	説明
費用モデル	アプリケーションのモデリング・エディタにすべての関連する費用を表示します
収益モデル	アプリケーションのモデリング・エディタにすべての関連する収益を表示します
ステージ内割当てを許可	ユーザーが同一のステージ内で複数の費用または収益割当てを作成できるようにします。

設定	説明
マルチディメンショナル・ステージを許可	ユーザーが最大3つのディメンションで構成されるモデル・ステージを作成できるようにします

4. 「**Essbase接続情報**」で、モデルのEssbase接続情報を入力します。必須の入力情報については、[65ページの表 8](#)で説明します。

表8 Essbase接続情報

設定	アクション
クラスタ	Essbaseデータベースへの接続を提供するEssbaseサーバーの論理名を選択します。この名前は、クラスタ化された、またはクラスタ化されていないEssbaseサーバーをポイントできます。
認証タイプ	Essbaseの認証タイプとして「シングル・サインオン」を選択します。
接続タイプ	接続のタイプを選択します: <ul style="list-style-type: none"> <li>埋込み</li> <li>APS</li> </ul> <i>Oracle Hyperion Provider Services管理ガイド</i> を参照してください。
APS URL	「接続タイプ」として「APS」が選択されている場合にのみアクティブになります。  Oracle Hyperion Provider Servicesが実行されているサーバーの論理Webアプリケーション(LWA)を表すAPSのURLを選択します。  構成中に、使用可能なAPSサーバーがShared Servicesレジストリに登録されます。  デフォルトでは、APS URLはhttp://localhost:13080/aps/JAPI. に設定されています。

5. 「アプリケーション・タイプ」に、「標準配賦」が表示されます。

アプリケーション・タイプは、「Performance Management Architect」でアプリケーションを作成するときに選択され、変更できません。



注:

「配賦割当て」アプリケーションを作成するには、[233ページの第14章「詳細Profitabilityモデルの管理」](#)を参照してください。

6. オプション: 「計算コントロール」で「同時計算」を選択して、計算スクリプト内の特定のステップをEssbaseで同時に実行する複数のスクリプトに分割して、Exalyticsプラットフォームの平行・アーキテクチャを利用できるようにします。

「スレッド数」で、Essbaseで一度に実行する計算スクリプトの数を選択します。

7. 「保存」



をクリックします。

# 標準Profitabilityモデル・ステージの設定

## サブトピック

- [モデル・ステージの追加](#)
- [モデル・ステージの変更](#)
- [モデル・ステージの削除](#)

Profitability and Cost Managementでは、ビジネスの主要なプロセスやアクティビティを反映したモデル・ステージを作成します。各ステージには、そのステージのデータを保存する交差を定義するためのディメンションを割り当てます。ステージはProfitability and Cost Managementにのみ存在し、Performance Management ArchitectやEssbaseでは認識されません。

ステージは勘定科目、市場、リソース・グループ、材料、業務カテゴリ、設備、プロセス、製品、部品、提供サービス、顧客カテゴリ、個別顧客など、ほぼあらゆるタイプの要件に対して作成できます。1モデルにつき最大9つのステージを定義できます。ステージ名は、各モデルまたはアプリケーションで一意であることが必要です。

各ステージに対して少なくとも1つのディメンションを割り当てる必要があり、各ステージに最大3つのディメンションを含めることができます。同じディメンションは、複数のステージに割り当てることができます; ただし、ディメンションとステージの組合せを区別するために一意のステージ接頭辞を設定する必要があります。それぞれのステージ内のディメンションの数は異なってもかまいません。たとえば、あるステージは3つのディメンションを持ち、他のステージは1つまたは2つのディメンションを持つということも可能です。ステージごとに複数のディメンションが必要な場合は、[64ページのモデル・レベルのプリファレンスの設定](#)を参照してください。

費用と収益の計算はシーケンスをたどって行われるため、各ステージは最初のプロセスから最後のプロセスへ向けて論理的に並べる必要があります。1つのステージで計算、保存される結果は、次のステージでソース値として配賦されます。複数のステップを必要とする配賦を作成するには、複数のステージにわたる計算シーケンスを定義します。複数のステージに関連する費用内訳は容易に取得、評価できます。

モデルのステージ内では、費用と収益の計算は次の条件によって制御されます:

- モデル・ステージの順序は、モデル全体におけるアクティビティ、財務の費用および収益の全体的フローを反映した計算順序に沿って設定する必要があります。
- 各ステージ内では、1つのディメンションのみをドライバ・ディメンションとして指定する必要があります。

「ステージ」画面では、アプリケーションの「上へ」および「下へ」ボタンを使用して、ステージとディメンションの順序を指定します; ただし、ステージのデプロイ後にステージの順序、名前、接頭辞を変更した場合は、モデルの再デプロイが必要になります。

各ステージ・レコードには約1,000文字のノート、つまりテキスト・レコードが入力可能です。

モデル・ステージの操作の詳細は、次の項を参照してください:

- [68ページのモデル・ステージの追加](#)
- [71ページのモデル・ステージの変更](#)
- [72ページのモデル・ステージの削除](#)

## モデル・ステージの追加

ステージは組織内の配賦のネットワークを表します。計算は、最初の配賦から納品や問題解決へと向かう、順方向に行われます。逆方向のフローは許可されません。

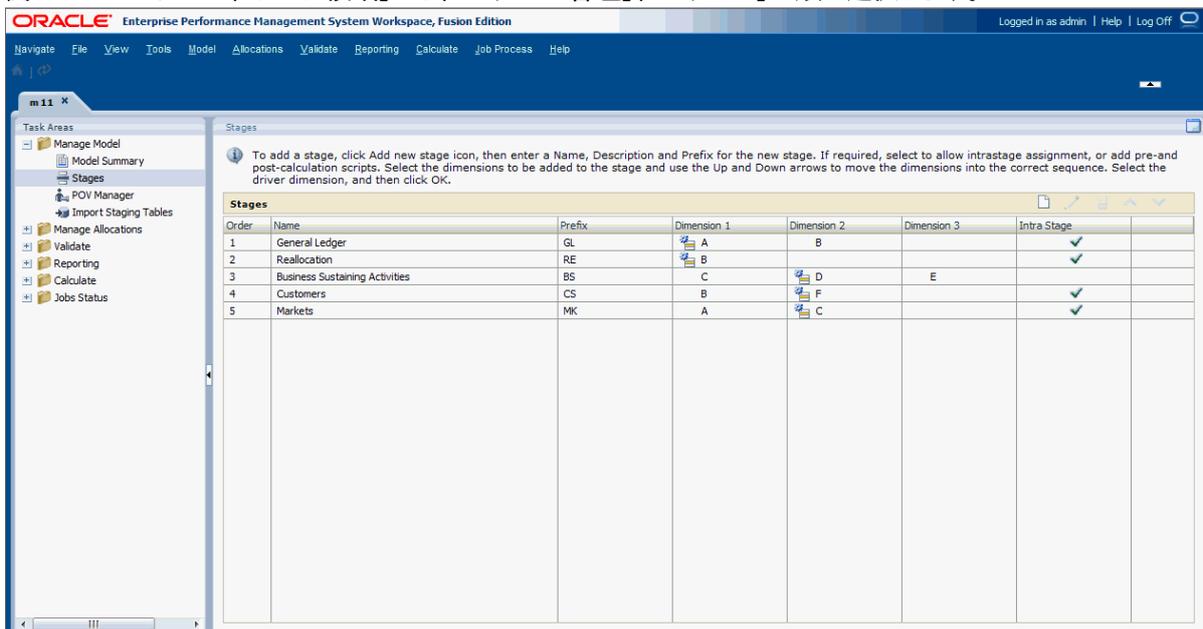
計算シーケンスは、正確な結果を取得するために非常に重要です。計算順序はステージ・ウィンドウに表示されるディメンションとステージの順序によって決定されます。次の例では、モデルの計算が指定された順序で行われ、各ステージの結果が次のステージに送信されます：

- ステージ1
  - ディメンション1
  - ディメンション2
  - ディメンション3
- ステージ2
  - ディメンション1
  - ディメンション2
  - ディメンション3
- ステージ3など。

各ステージには、名前とステージ接頭辞が必要です。

▶ モデル・ステージを追加するには：

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「モデルの管理」、「ステージ」の順に選択します。



ステージ・ウィンドウには、選択したステージに関する次の情報が表示されます：

- 「順序」には、モデル内のステージの順序位置番号が表示されます。
- 「名前」には、ステージの名前、通常は「総勘定元帳」や「営業活動」など、そのステージのビジネス機能やビジネス・プロセスを表す名前が表示されます。
- 接頭辞は、ステージに割り当てられた英数字の接頭辞です

- ・ ステージに含まれるディメンション。ステージのドライバ・ディメンションは、ドライバ・アイコン



で示されます。

- ・ 「ステージ内」フィールドには、ステージに対してステージ内割当てを許可するかどうかを示すチェックマークが表示されます。

## 2. 「新規ステージの追加」



をクリックします。

**Stage** ✖

Name:

Description:

Prefix:

Allow Intrastage Assignments:

▼ Scripts

Precalculation

Postcalculation

**Stage Dimensions** 📄 🗑️ ⬆️ ⬇️

Order	Dimension	Driver
1	Accounts <span style="float: right;">▼</span>	👁️
2	Regions <span style="float: right;">▼</span>	⚙️

Help
OK
Cancel

3. 「名前」に、ステージのわかりやすい一意の名前を最大80文字で入力します。

名前は「総勘定元帳」や「営業活動」など、そのステージのビジネス機能やビジネス・プロセスを表すものにします。

4. オプション: 「説明」に、そのステージに含まれる情報のタイプについての簡単な説明を、最大255文字までで入力します。

5. 「接頭辞」の下に、選択したステージの一意の接頭辞を英数字で入力(最大80文字)します。

ステージの接頭辞は、ディメンションとステージの組合せを区別するために使用します。たとえば、ディメンション Departmentが2つのステージで使用される場合、一方に接頭辞General Ledgerを、他方に接頭辞Processを付けることができます。生成されるレポートでは、これらのディメンションはGeneral Ledger-DepartmentおよびProcess-Departmentと表示されます。

6. オプション: 同一ステージ内での配賦が必要な場合は、「ステージ内割当てを許可」を選択して、そのステージにステージ内配賦があることをマークします。
7. オプション: 手動で作成した計算スクリプトが使用可能な場合は、「スクリプト」で、「計算前」または「計算後」のスクリプト名を入力します。

オプションである計算前および計算後のスクリプトは、EASコンソールのスクリプト・エディタで手動で作成し、Profitability and Cost Managementで実行できます。スクリプトはEssbaseに保存され、Essbaseセルをユーザーが正しい値に初期化するために使用できます。

ステージに対して選択したスクリプトのタイプに応じて、ステージでの配賦またはレポート作成の準備のために、スクリプトが次のように実行されます:

- 計算前スクリプトは、ステージの計算スクリプトよりも前に実行されます。
- 計算後スクリプトは、ステージの計算スクリプトよりも後に実行されます。

8. 「ステージのディメンション」ツールバーで、「追加」



ディメンションのリストに1行が追加され、「順序」にはその次のシーケンス番号が表示されます。「ディメンション」リストには、モデル内で使用可能なすべてのディメンションが移入されます。

9. 「ディメンション」の下で、新しいステージに適用されるディメンションを選択します。

Stage Dimensions		
Order	Dimension	Driver
1	Accounts	<input checked="" type="radio"/>
2	Customers	<input type="radio"/>

10. オプション: 70ページのステップ 8から 70ページのステップ 9までを繰り返し、各ステージで最大3つのディメンションを追加します。
11. オプション: 「順序」の下でディメンションを選択し、「上へ」



または「下へ」



ボタンを使用してディメンションを計算シーケンス内の適切な位置に移動します。

12. 「ドライバ」の下で、ステージのドライバ・ディメンションを選択します。
13. 「OK」をクリックします。
14. オプション: 「ステージ」表からステージを選択し、「上へ」



または「下へ」



ボタンを使用して各ステージを計算シーケンス内の適切な位置に移動します。

## モデル・ステージの変更

モデル・ステージは簡単に変更できますが、モデルのデプロイ後に次のいずれかの項目を変更すると、モデルの再デプロイが必要になります。

▶ モデル・ステージを変更するには:

1. **オプション:** ステージを変更する前に、ディメンション・メンバーなどのメタデータをPerformance Management Architectで変更し、メタデータの変更をProfitability and Cost Managementにデプロイします。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「モデルの管理」、「ステージ」の順に選択します。
3. 変更するステージを選択し、「ステージの編集」



をクリックします。

4. 次の任意のアイテムを変更します:

- 名前
- 説明
- 接頭辞
- ステージ内設定
- スクリプト

5. **オプション:** 「ディメンション」の下で、選択したディメンションを必要に応じて変更します。
6. **オプション:** 「順序」の下で、「上へ」



または「下へ」



ボタンを使用してディメンションを正しいシーケンスになるよう再配置します。

7. **オプション:** 「ドライバ」の下で、ステージに対して別のドライバ・ディメンションを選択します。
8. 「OK」をクリックします。
9. **オプション:** ステージを選択し、「上へ」



または「下へ」



ボタンを使用してステージの順序を変更します。



注:

この操作により計算の順序が変更され、このステージに関連するすべての割当てと割当てルール  
の選択が無効になります。

10. アイテム(ステージ名、説明、ステージ内のディメンションの順序以外)が変更された場合は、モデルを再デプロイします。



---

注:

ステージ名、説明およびディメンションの順序は、Essbaseキューブのデプロイ状態に影響しません。

---

## モデル・ステージの削除

モデル・ステージを削除すると、モデルの計算は自動的に変更されます。ステージ・ディメンションに設定されているドライバの関連付けや割当ても削除されます。ステージの削除後、新しい計算フローを正しく反映するよう、ステージを並べ替える必要があります。

▶ モデル・ステージを削除するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「モデルの管理」、「ステージ」の順に選択します。
2. 「ステージ」ダイアログ・ボックスで、削除するステージを選択します。
3. 「ステージの削除」



をクリックします。

メッセージにより、削除を確認するよう求められます。



---

注意

このステージに関するドライバの選択や割当ても削除されます。

---

4. 「はい」をクリックして、ステージとそのドライバ選択および割当てを削除します。
5. オプション: 「順序」の下で、「上へ」



または「下へ」



を使用して他のステージを正しい計算シーケンスになるよう再配置します。

# 標準Profitabilityの視点(POV)の操作

## サブトピック

- [標準Profitability POVステータス](#)
- [標準Profitability POVの管理](#)
- [標準Profitability POVの追加](#)
- [標準Profitability POVステータスの変更](#)
- [標準Profitability POVのコピー](#)
- [標準Profitability POVからの選択したオブジェクトの削除](#)
- [標準Profitability POVおよびすべてのアーティファクトの削除](#)

モデルの視点(POV)は、選択された期間(年など)、ステータスおよびシナリオ用に、モデル情報の特殊なビューを提供します。POVディメンションのメンバーはユーザー定義であり、モデリングや仮定分析において多様なPOVの組合せを提供します。

少なくとも1つのPOVディメンションが必要であり、最大4つ作成できます。まずPOVディメンションを定義し、次にこれらのディメンションの名前を定義します。計算は、各月または状況に固有のデータ、ドライバおよび割当てを使用して行われます。

組織のPOVディメンションの名前と構造は完全にカスタマイズできます。代表的なPOVには「年」、「期間」および「シナリオ」が含まれます。Profitability and Cost Managementのほぼすべてのアクティビティにおいて、最初の手順はPOVを選択することです。

POVが「ドラフト」ステータスに設定されている場合のみ、モデルは編集可能になります。新しいドライバ、条件またはメンバーを反映するようにPOVを変更して、別のシナリオを作成できます。これらのシナリオを比較することにより、変更点がプロセスや最終結果にどのように影響するのかを評価できます。

また、複数のPOVバージョンを作成できるため、同一のPOVの異なるバージョンを保持することで、モデルの変更点をもたらず影響を監視したり、同一モデルの異なるバージョンを追跡することが可能です。

POVの詳細は、次の項を参照してください:

- [26ページのProfitability and Cost ManagementのPOVディメンション](#)
- [73ページの標準Profitability POVステータス](#)
- [74ページの標準Profitability POVの管理](#)

## 標準Profitability POVステータス

現在モデルが編集あるいは表示可能であるかどうかを示すために、POVに対してステータスを設定する必要があります。ステータスはEssbaseのディメンションではありません。

POVのステータスは次のいずれかの状態に設定します:

- **ドラフト** - モデルを構築または編集し、動的レポートを生成します。
- **公開済** - モデルを表示し、動的レポートを生成します。モデルは編集できません。
- **アーカイブ済** - モデルを表示し、動的レポートを生成します。モデルは編集できません。

## 標準Profitability POVの管理

POVは年、期間、ステータスなどの指定されたスナップショット用の、モデルの特別なバージョンを表示します。

新しいPOVが追加されると、ステータスは自動的に「ドラフト」に設定され、POVが編集できるようになります。

モデルには、1つ以上のPOVディメンションが必要です; ただし、1つのモデルに対して複数のPOV組合せを作成できます。選択したPOVはステージおよびレイヤー情報とともにEPM Workspaceユーザー・プリファレンスとして保存できます。また、POVをコピーして、新しいレポート期間や異なるシナリオ用にモデルを作成することも可能です。[76ページの標準Profitability POVのコピー](#)を参照してください。

モデルで使用可能なPOVは、アプリケーションに対して定義されたPOVディメンションに応じて決まりますが、すべてのPOVが割当てやデータ入力用にそのまま使用できるわけではありません。POVをモデルに追加するまで、POVにドライバを割り当てたりデータをロードすることはできません。

各POV組合せについて、次のモデル要素を指定する必要があります:

- ソース・メンバーのドライバ
- 割当てまたは割当てルールを選択
- ドライバ・データ
- 費用および収益データ

POVを操作するには、次の手順を使用してください:

- [74ページの標準Profitability POVの追加](#)
- [76ページの標準Profitability POVステータスの変更](#)
- [76ページの標準Profitability POVのコピー](#)
- [78ページの標準Profitability POVからの選択したオブジェクトの削除](#)
- [79ページの標準Profitability POVおよびすべてのアーティファクトの削除](#)

## 標準Profitability POVの追加

年、期間、シナリオおよびステータスなど、選択したモデルのスナップショットに対するモデルの情報や計算を表示するには、POVを追加します。

モデルで使用可能なパラメータの値はEssbase Performance Management Architectアプリケーションに設定されています。

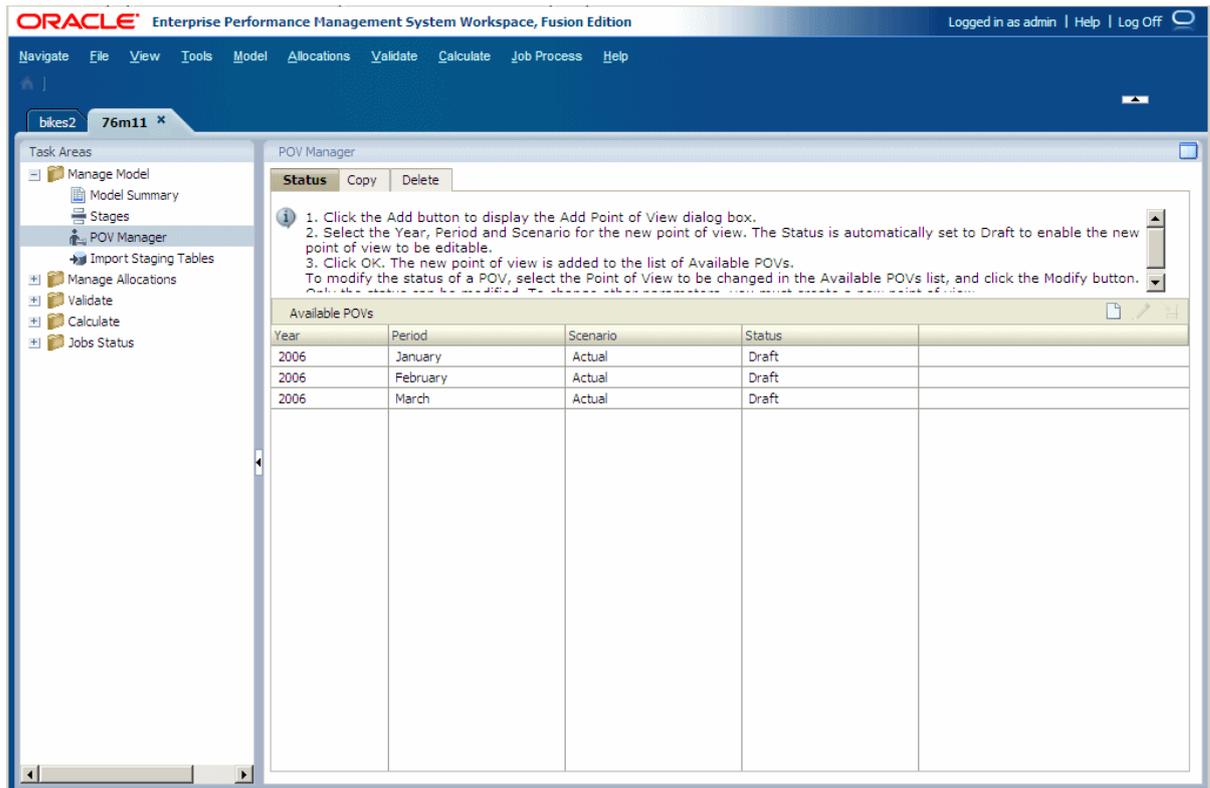


注:

POVは、POV管理に追加されないかぎり、他のタスク・ウィンドウからアクセスできません。

▶ POVを追加するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「モデルの管理」、「POVマネージャ」の順に選択します。  
「POVマネージャ」画面の「ステータス」タブが表示されます。既存のすべてのPOVが示されます。



## 2. 「新規POVの追加」



をクリックします。

「視点の追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。

### Add Point of View

Year 2005 ▼

Period January ▼

Scenario Actual ▼

Status : Draft ▼

## 3. 新しいPOVを識別するためのモデルのパラメータを選択します。

新しいPOVのため「ステータス」は読取り専用で、モデルを構築および編集できるよう、自動的に「ドラフト」に設定されます。

## 4. 「OK」をクリックします。

POVがリストに追加されます。

## 標準Profitability POVステータスの変更

POVのステータスはモデルが編集または表示可能かどうかを示します。モデルは、POVのステータスが「ドラフト」に設定されている場合のみ、編集可能です。モデルの完成後、POVのステータスを変更してモデルを変更できないようにします。

POVのステータスは次のいずれかの値に設定できます：

- ドラフト - モデルを構築または編集し、動的レポートを生成します。
- 公開済 - モデルを表示したり動的レポートを生成します。
- アーカイブ済 - モデルを表示したり動的レポートを生成します。

モデルを編集するためにステータスを「ドラフト」に戻すことは、いつでも可能です。



注：

POVに変更を加えると、ステータスのみを変更されます；ただし、ステータスが「公開済」または「アーカイブ済」に設定されている場合は、モデルは計算不能になっています。

▶ POVステータスを変更するには：

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「モデルの管理」、「POVマネージャ」の順に選択します。

「POVマネージャ」画面の「ステータス」タブが表示されます。既存のすべてのPOVが示されます。

2. 変更するPOVを選択し、「POVの編集」



をクリックします。

3. 「ステータス」の下で新しいステータスを選択します：

- ドラフト
- 発行済
- アーカイブ済

POVのステータスのみを変更できます。他のパラメータを変更する場合は、新しいPOVを作成する必要があります。

4. 「OK」をクリックします。

## 標準Profitability POVのコピー

POVをコピーすることで、新しいモデルやシナリオの開始ポイントにしたり、既存のモデルを使用して仮定シナリオを試行できます。

たとえば、前の期間からドライバの選択と割当てをコピーして期間を作成したり、実際のシナリオからデータをコピーして、予測シナリオ用のシード・データを作成できます。

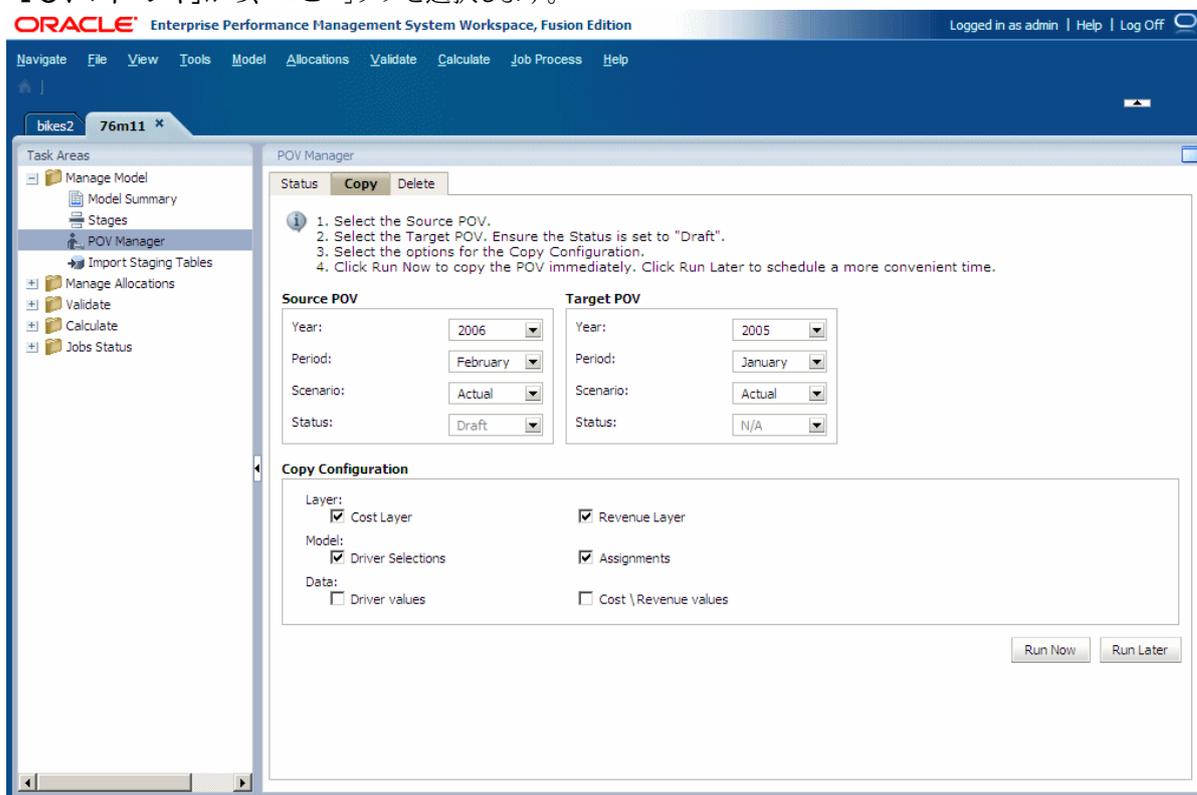
POVをコピーするには、コピーする情報を含んだソースPOVと、データのコピー先となる宛先のターゲットPOVが必要です。「POVの管理」画面の「ステータス」タブに表示されている、ステータスが「ドラフト」のPOVにのみ、情報をコピーできます。[74ページの標準Profitability POVの追加](#)を参照してください。

▶ POVをコピーするには:

1. オプション: 必要な場合は、POV管理画面の「ステータス」タブでPOVを作成して、このターゲットPOVをコピー操作で使用します。74ページの標準Profitability POVの追加を参照してください。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「モデルの管理」、「POVマネージャ」の順に選択します。

POVマネージャ・ウィンドウの「ステータス」タブが表示されます。既存のすべてのPOVが示されます。

3. 「POVマネージャ」から、「コピー」タブを選択します。



4. 「ソースPOV」の下で、コピーするPOVを選択します。



注:

ソースのステータスは、POVに割り当てられたステータスに自動的に設定され、この画面では変更できません。

5. 「ターゲットPOV」の下で、コピーするPOVの宛先になるPOVを選択します。



注意

ターゲットPOVは、ステータスが「ドラフト」の有効なPOVとして、「POVマネージャ」画面の「ステータス」タブに存在している必要があります。そうでない場合、コピー操作は開始されません。

6. 「構成のコピー」の下で、コピーするPOVの要素を選択します:

- 「レイヤー」の下で、「費用レイヤー」、「収益レイヤー」またはその両方を選択します。
- 「モデル」の下で、「ドライバの選択」、「割当て」またはその両方を選択します。
- 「データ」の下で、「ドライバ値」、費用/収益値またはその両方を選択します。

これらのオプションは、新しいPOVで必要となる情報を選択するために用意されています。たとえば、費用、ドライバの選択およびドライバ値のみをPOVのコピーに含めることが可能です。

7. 次のいずれかのタスクを実行します:

- ・「**後で実行**」をクリックし、POVをコピーする日時をスケジュールします。[198ページのタスクフローのスケジュール](#)を参照してください。



注:

タスクの作成時にこのオプションが選択されていない場合、そのタスクはスケジュールできなくなります。

- ・「**今すぐ実行**」をクリックして、POVをすぐにコピーします。

確認メッセージに、ジョブが開始されたことと割り当てられたタスクフローIDが示されます。ステータスを監視するには、「**ジョブ・ステータス**」、「**検索タスク**」の順に選択します。



注意

この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能性があります。

8. コピーが完了したら、ターゲットPOVの下のコピーされた情報を確認します。

## 標準Profitability POVからの選択したオブジェクトの削除

「POVマネージャ」画面の「削除」タブを使用して、選択したオブジェクトをPOVから削除できます。

関連付けられた割当てやドライバの選択も含むPOV全体を削除する場合は、[79ページの標準Profitability POVおよびすべてのアーティファクトの削除](#)を参照してください。



注意

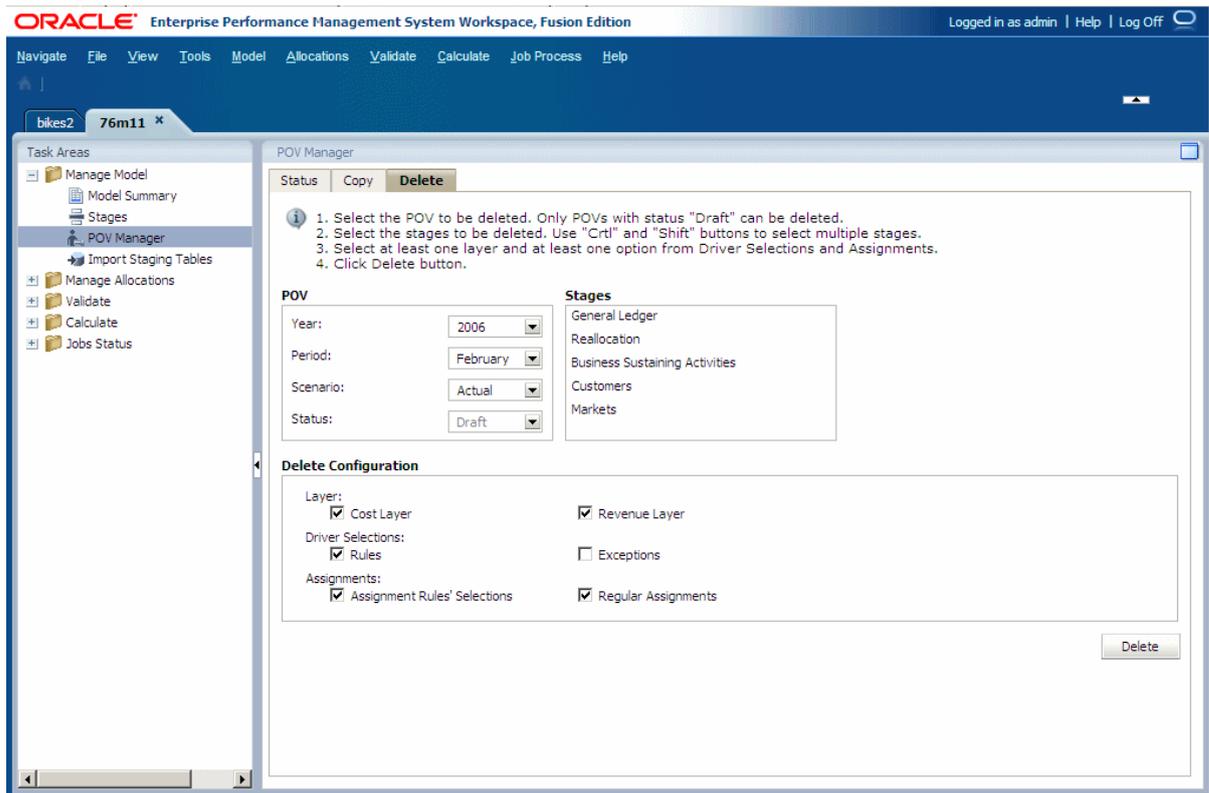
POVを削除する前にEPM WorkspaceおよびEssbaseにデータベースのバックアップ・ディレクトリを作成することをお勧めします。支援が必要な場合は、管理者にお問い合わせください。

▶ 選択したオブジェクトをPOVから削除するには:

1. 他のユーザーがそのPOVと内容を必要としていないことを確認します。
2. 開いているモデルで、「**タスク領域**」から、「**モデルの管理**」、「**POVマネージャ**」の順に選択します。

「POVマネージャ」画面が表示されます。

3. 「**削除**」タブを選択します。



4. 「POV」で、削除するアーティファクトを含むPOVを選択します。
5. 「ステージ」の下で、削除するアーティファクトを含むソース・ステージを1つ以上選択します。

複数の任意のステージを選択するには[Ctrl]キーを使用します。また、範囲内の最初と最後のステージを選択するには、[Shift]キーを使用して最初と最後のステージを選択します。

6. 「構成の削除」の下で、削除する構成の要素を選択します：
  - ドライバの選択(「ルール」または「例外」、あるいはその両方)
  - 割当て(「割当てルールの選択」または「通常の割当て」、あるいはその両方)。
7. 「削除」をクリックします。

確認メッセージが表示されます。

8. 削除を確認するには、「OK」をクリックします。

選択したレコードが削除されます。選択の内容や削除されたレコード数など、操作の記録を確認するにはhpcm.logを参照してください。

## 標準Profitability POVおよびすべてのアーティファクトの削除

POVを削除すると、関連する割当てとドライバ選択を含む、POV内のすべてのオブジェクトが削除されます。

Essbase内のデータを削除する場合は、POVを削除する前に、選択したPOVに対して「すべて消去」機能を実行します。182ページの直接配賦データの計算を参照してください。



---

#### 注意

POVを削除する前にEPM WorkspaceおよびEssbaseにデータベースのバックアップ・ディレクトリを作成することをお勧めします。支援が必要な場合は、管理者にお問い合わせください。

---

▶ POVおよび関連する割当てとドライバを削除するには:

1. 他のユーザーがそのPOVと内容を必要としていないことを確認します。
2. オプション: Essbase内のデータを削除するには、[182ページの直接配賦データの計算](#)で説明されているように、「すべてのデータを消去」を選択します。
3. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「モデルの管理」、「POVマネージャ」の順に選択します。

「POVマネージャ」画面が表示されます。

4. 「ステータス」タブを選択します。
5. 「使用可能なPOV」で、削除するPOVを選択します。
6. 「POVの削除」



をクリックします。

確認メッセージが表示されます。



---

#### 注意

POVを削除すると、POV内のすべてのオブジェクトが削除されます。

---

7. 「はい」をクリックして削除を確認します。

POVはリストから削除され、以後は選択できなくなります。

## 標準Profitabilityのモデル統計の問合せ

モデルの作成後、ステージやPOVなどの特定のコンポーネントとそのディメンション、割当て、およびドライバの数と使用法を特定すると役立つ場合があります。

SQLベースの問合せmodelstats.sqlでは、特定の統計をモデル用に生成できます。これらの読取り専用問合せは、モデル特性およびパフォーマンス統計を表示したり変更の影響を評価する際に使用できます。統計は、モデルおよびパフォーマンスに関する問題の診断にも使用できます。

新しい問合せを使用するには、既存のデータベース・ビューが必要です:

- ステージ(HPM\_EXP\_STAGE)
- POV (HPM\_EXP\_POV)
- ドライバ選択(HPM\_EXP\_DRIVER\_SEL)
- 割当て(HPM\_EXP\_ASSIGNMENT)
- 割当てルール選択(HPM\_EXP\_ASGN\_RULE\_SELECTION)



注:

ドライバ・ビュー(HPM\_EXP\_DRIVER)は、モデル統計では使用されません。

選択したデータベースおよびデータベース・ビューへの適切なアクセス権を持っている必要があります。データベース・ビューの作成の詳細は、『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイド』の付録Bを参照してください。

インストールの後、アプリケーション・フォルダにSQLスクリプトmodelstats.sqlがあります。問合せはデータベースを選ばず、MS SQLまたはOracleデータベースに対して実行できます。モデルにエラーが含まれている場合、それらのモデルは問合せ結果にレポートされず、既存の統計がそのまま生成されます。

どのアプリケーションについても問合せは大きな変更を行う前に実行し、後の結果と比較できるように、問合せを保存して出力を取得しておくことをお勧めします。このスナップショットはアプリケーションのベースライン統計となっており、その後に行う変更と比較したり、変更による影響の可能性を評価するための情報を表示できます。たとえば、割当てルールを何千回も使用した場合、そのルールに変更を加えると、元の予想よりはるかに大きい影響が出る場合があります。

▶ modelstats.sql問合せを実行するには:

1. データベースを検索し、次のアイテムの適切なアクセス権があることを確認します:

- データベース・ビュー
- Profitability and Cost ManagementのRDBスキーマ

2. modelstats.sql問合せに移動します:

- Windowsの場合: %hyperion\_home%\products\Profitability\database\Common\MSSQLServer\view
- UNIXの場合: \$hyperion\_home\$\products\Profitability\database\Common\MSSQLServer\view



注:

データベース・ビューと問合せは頻繁に更新されるため、最新バージョンであることを確認してください。

3. modelstats.sql問合せを開き、各問合せの"%変数を変更して、問合せの実行対象となるモデル・コンポーネント("application\_name like '%"または"layer\_name like '%"など)を指定します。

たとえば、コードapplication\_name like '%'では、パーセント記号をアプリケーション名で置き換えます:

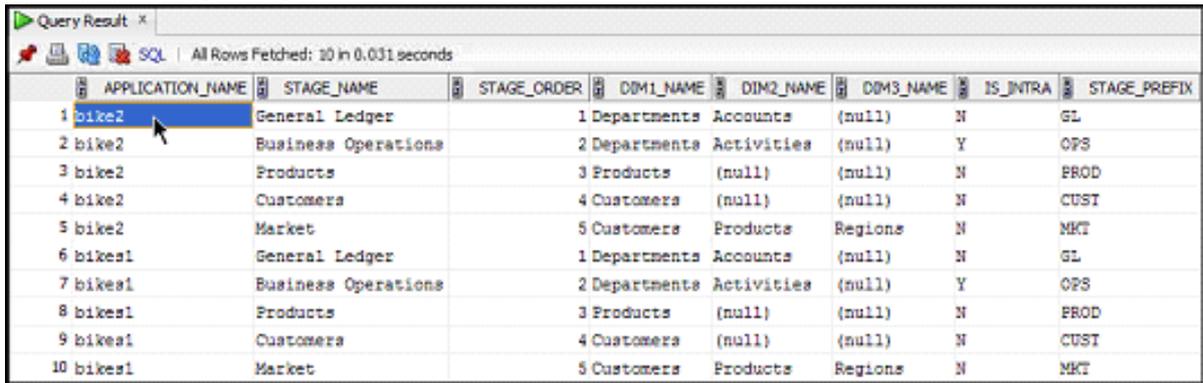
```
application_name like 'bikes2'
```



注:

パーセント記号を、問合せの範囲を広くする末尾のワイルドカードとして使用できます。たとえば、'b%'と入力すると、問合せは'b'で始まるすべてのアプリケーションに適用されます。問合せをすべてのアプリケーションに適用するには、%'を入力します。

#### 4. 問合せ結果を確認します。



	APPLICATION_NAME	STAGE_NAME	STAGE_ORDER	DIM1_NAME	DIM2_NAME	DIM3_NAME	IS_INTRA	STAGE_PREFIX
1	bike2	General Ledger		1 Departments	Accounts	(null)	N	GL
2	bike2	Business Operations		2 Departments	Activities	(null)	Y	OPS
3	bike2	Products		3 Products	(null)	(null)	N	PROD
4	bike2	Customers		4 Customers	(null)	(null)	N	CUST
5	bike2	Market		5 Customers	Products	Regions	N	MKT
6	bikes1	General Ledger		1 Departments	Accounts	(null)	N	GL
7	bikes1	Business Operations		2 Departments	Activities	(null)	Y	OPS
8	bikes1	Products		3 Products	(null)	(null)	N	PROD
9	bikes1	Customers		4 Customers	(null)	(null)	N	CUST
10	bikes1	Market		5 Customers	Products	Regions	N	MKT

結果は問合せ選択に応じて変わります。次に問合せの例を示します：

- 一致するアプリケーションのステージにある全ステージとディメンションのリストでは、選択したアプリケーションのすべてのステージと関連するディメンションが、アプリケーション名およびステージ順序の順に表示されます。
- 費用レイヤーと収益レイヤー両方のソース・ステージ別の明示的割当て件数のリスト(アプリケーション)では、アプリケーション名、レイヤー、およびソースと宛先のステージ名が表示されます。
- ルール名とアプリケーションでの使用頻度のリストには、個々のルール、および各ルールが使用された回数の内訳が表示されます。
- ドライバ関連付けでのステージ別のドライバ使用回数のリストには、選択したアプリケーション、ステージおよびレイヤーに対する各ドライバの使用回数が表示されます。例として、この情報を使用して、実際には使用されていないドライバがないか、またそれらのドライバを安全に削除できるかを特定できます。

すべての問合せを表示するには、最新バージョンのmodelstats.sqlファイルを確認します。

## 標準Profitabilityデータおよびアーティファクトのインポート

データとモデル情報はProfitability and Cost Managementに直接入力できます；ただし、データの入力には多大な時間が必要になります。アプリケーションへ容易にデータを入力するには、一連のインポート・ステージング表とインポート構成を使用して、モデル定義(POV、ステージ、ドライバ、ドライバ選択、割当て、および割当てルールの選択など)をProfitability and Cost Managementへ直接インポートできます。



注：

ディメンション、費用、ドライバ・データおよび割当てルールはステージング表からインポートできません。

モデル・データは複数のソースからインポートされます：

- モデル定義データはステージング表からインポートされます。
- モデル定義は、ライフサイクル管理を使用してインポートできます。*Oracle Enterprise Performance Management System*ライフサイクル管理ガイドを参照してください。



---

#### 注意

データまたはアーティファクトをインポートする前に、EPM WorkspaceおよびEssbaseにデータベースのバックアップ・ディレクトリを作成することをお勧めします。支援が必要な場合は、管理者にお問い合わせください。

---

ステージング表をインポートするには、インポートする表を指定するインポート構成を作成する必要があります。構成は保存でき、同一のデータ・セットを何回もインポートするために利用できます。モデル全体をインポートする場合は、表依存関係が存在していて適用されます;ただし、モデルのセクションのみをインポートする場合は、これらの依存関係は適用されません

ステージング表とインポート構成の作成手順の詳細は、『*Oracle Hyperion Profitability and Cost Management* 管理者ガイド』を参照してください。



# 6

## 標準Profitability配賦の管理

この項の内容:

標準Profitability配賦について .....	85
標準Profitabilityの費用および収益レイヤー .....	85
標準Profitabilityモデルのドライバと式の定義 .....	86
標準Profitabilityドライバの選択 .....	101
標準Profitability割当ての操作 .....	107
標準Profitability割当てルール of 操作 .....	115
データの入力ウィンドウの使用法 .....	140
配賦のトレース .....	148
相互配賦 .....	157
トレース配賦イメージのエクスポート .....	158

### 標準Profitability配賦について

Profitability and Cost Managementでは、配賦により、モデル全体の費用および収益が特定の勘定科目または要素へどのように配分されるかを制御できます。各配賦の資金の計算方法を決定するため、ドライバが使用されます。モデル内の資金フローにあわせて、計算結果がソースから宛先に割り当てられます。

配賦の管理の詳細は、次の項を参照してください:

- 85ページの標準Profitabilityの費用および収益レイヤー
- 86ページの標準Profitabilityモデルのドライバと式の定義
- 101ページの標準Profitabilityドライバの選択
- 107ページの標準Profitability割当ての操作
- 140ページのデータの入力ウィンドウの使用法
- 148ページの配賦のトレース

### 標準Profitabilityの費用および収益レイヤー

ドライバはモデルに作成される際、費用または収益レイヤーのいずれか、または両方に割り当てられます。費用および収益メンバーは財務データの2つの異なるレイヤーとして扱われます。費用レイヤーはモデルから送信される値(経費、賃料、給与など)を示します。収益レイヤーは入ってくる値(営業収入、製品およびメンテナンス売上など)を表します。

これらのレイヤーは構造では実質的に同じですが、各レイヤーは異なるドライバと割当てを使用しており、異なる結果を生成します。一般的に、1回に使用するのは1つのレイヤーのみです。

[86ページの標準Profitabilityモデルのドライバと式の定義](#)を参照してください。

## 標準Profitabilityモデルのドライバと式の定義

割当てがソースから宛先へのデータの方向を決定するのに対して、これらの割当てに関連するドライバは配賦の値を計算するために使用されます。ドライバは、ソース交差値を宛先交差に割り当てる式を提供します。ドライバ・メジャーおよびドライバ式では、変数を使用してモデル要素を表したり、算術オペランドを使用してドライバ値を計算できるため、モデルの柔軟性が向上します。

配賦は、1つのソースから1つの宛先への単純な計算から、複数の宛先に配分される複雑な計算まで様々です。ドライバを作成する際、値の計算方法を制御する式を関連付けます。均等配布ドライバまたはパーセンテージ・ドライバなどの定義済みの式から選択するか、カスタム式を作成します。

VolumeおよびRateなどのドライバ・メジャーは、計算を実行する式内で変数として使用されます。メジャー・ディメンションの0レベルのメンバーは、ドライバ・メジャーとして選択されます。ドライバ・メジャーは、Essbaseデータベース内で作成および保存されますが、モデルがデプロイされるまでは検証されません。

ドライバは、費用および収益値の両方に適用でき、多くの値に再利用できます。ドライバに関連付けられている式が保存され、データは保存されません。ドライバを変更すると、そのドライバを使用するすべての配賦に変更が自動的に適用されます。



注:

配賦で使用されるドライバを変更または削除する場合は、計算スクリプトを再生成し、モデルを再計算する必要があります。この種の変更によって、Essbaseデータベースの構造に影響が生じることはありませんが、計算結果は異なってきます。

モデルに必要な各ドライバについて、次のタスクを実行します:

- ドライバを添付するモデル・レイヤーや関連する式などを指定し、新しいドライバを定義します。[95ページのドライバの定義](#)を参照してください。
- この計算を使用するディメンション・メンバーにドライバを関連付けます。[101ページの標準Profitabilityドライバの選択](#)を参照してください。
- ドライバ・ディメンションの選択されているメンバーにドライバを割り当て、計算フローを設定します。[107ページの標準Profitability割当ての操作](#)。

各ステージに対して、1つのディメンションがドライバ・ディメンションとして選択されている必要があります。ドライバの値を取得して結果を計算するときには、ドライバ式が使用されます。

たとえば、計算プロセスでは、ソース交差のNetCostForAssignmentメジャーの値に係数を乗算することで、各宛先交差に配賦する金額が決定されます。計算された金額は、宛先交差のCostReceivedPriorStageメジャー(ステージ内割当ての場合は、CostReceivedIntraStageメジャー)に配置されます。

ドライバ係数は、現在計算されている宛先交差のドライバ値とすべての宛先交差の合計ドライバ値との比率です。現在の宛先交差の値は、CalculatedDriverValueドライバ・メジャーの割当てに保管されます。すべてのドライバの合計はTotalDriverValueドライバ・メジャーに保管されます。アイドル費用の追跡が使用可能になっている場合のみ、OverrideTotalDriverValueドライバ・メジャーがソース交差に入力されます。ドライバの合計値は、常にソースに添付されます。

式およびドライバの使用方法の詳細は、次の項を参照してください:

- [88ページのドライバ式](#)
- [95ページのドライバの定義](#)
- [99ページのドライバ定義の変更](#)
- [100ページの既存のドライバ定義からの新しいドライバ定義の作成](#)
- [101ページのドライバ定義の削除](#)

## ドライバ式

ドライバ式には、変数、関数および数値のあらゆる組合せを含めることができます。ドライバ式の各要素について、ドライバのメジャーおよび場所を選択する必要があります。

配賦内のソース・メンバー交差にドライバが添付されます。このドライバには、ソース交差値を求めるためにメジャーに乗算する係数を計算する式が含まれています。係数は宛先交差ごとに計算されます。

使用できるドライバ式のタイプは、次のとおりです：

- 定義済のドライバ式 - 共通の計算を実行するために使用します。89ページの定義済のドライバ式を参照してください。
- カスタムのドライバ式 - 一般的でない特定の状況を計算するために使用します。91ページのカスタム・ドライバ式を参照してください。
- ドライバ基準タイプ - 式にレートを設定する別の方法です。実績基準ドライバでは計算結果を使用します。標準基準ドライバを使用すると、割り当てられたレートをドライバに設定して費用を下流に配賦することができます。94ページのドライバ基準タイプを参照してください。
- 95ページの優先度シーケンス・ドライバ - ステージ内の配賦のうち、最初に計算する配賦を定義するために使用します

## 定義済のドライバ式

一般的な計算を実行する場合、ドライバは定義済の式を使用します。ドライバ式の各要素について、ドライバのメジャーおよび場所を選択する必要があります。定義済のドライバでは、計算スクリプト内に式が設定されます。



注：

同じドライバ・メジャーを式内の異なる変数にマップすることはできません。たとえば、"DriverValue"={Rate}\*{Quantity}という式では、RateとVolumeに同じメジャーを選択することはできません。

各種ドライバ・タイプと各タイプで使用可能な定義済の式について、89ページの表 9で説明します。

表9 定義済のドライバ

ドライバのタイプ	ドライバ式	使用可能な場所	説明
均等	Calculated DriverValue = 1.0;	なし	このドライバを使用すると、すべてのメジャーに同じ値が適用されます。
標準	Calculated DriverValue = {FixedDriverValue};	• ソース • 宛先 • 割当て • グローバル	このドライバを使用すると、ドライバに設定済の値が各メジャーに適用されます。
パーセンテージ	Calculated DriverValue = {Percentage};	• ソース • 宛先 • 割当て	割当ての宛先に関する合計値の設定済パーセンテージを、「データの入力」ページで

ドライバのタイプ	ドライバ式	使用可能な場所	説明
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• グローバル</li> </ul>	<p>入力するか、Essbaseに直接入力します。たとえば、3つのメジャーが存在する場合、最初の割当てに30%、2番目の割当てに65%、3番目の割当てに5%を配賦することができます。パーセンテージの合計が100%未満で、ドライバでアイドル容量が使用可能になっている場合、未配賦の残りのパーセントがアイドル容量として処理されます。パーセンテージ・ドライバを使用する場合には、TotalDriverValue(すべてのドライバ値の合計)が100を超えると、ドライバは標準ドライバとして処理され、配賦が実行されます。入力されたパーセンテージ値の比率に基づいて、ソース全体が宛先に配賦されます。</p> <p>注:</p> <p>パーセンテージ・ドライバを相互配賦で使用する場合、未配賦の費用のエラーを回避するため、TotalDriverValueAfterReciprocalsは常に100未満にする必要があります。相互関係が解決された後で配賦を実行すると、ドライバが標準ドライバに変換されます。</p>
標準加重	$\text{Calculated DriverValue} = \{\text{FixedDriverValue}\} * \{\text{Weight}\};$	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ソース</li> <li>• 宛先</li> <li>• 割当て</li> <li>• グローバル</li> </ul>	<p>タスクまたはプロセスに対して、加重、つまり相対的な重要性を表す値を入力します。</p>
可変	$\text{Calculated DriverValue} = \{\text{Rate}\} * \{\text{Quantity}\};$	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ソース</li> <li>• 宛先</li> <li>• 割当て</li> <li>• グローバル</li> </ul>	<p>このドライバを使用すると、ボリュームと率による計算結果が各メジャーに適用されます。</p>

ドライバのタイプ	ドライバ式	使用可能な場所	説明
加重可変	Calculated DriverValue = {Quantity} * {Rate} * {Weight};	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソース</li> <li>・ 宛先</li> <li>・ 割当て</li> <li>・ グローバル</li> </ul>	<p>タスクまたはプロセスに対して、加重、つまり相対的な重要性を表す値を入力します。</p> <p>たとえば、ある部署でのテクニカル・サポートの問合せ回数に、問合せ内容の長さや難易度に応じて加重を乗算した値を、式で表すことができます。</p> <p>別の例をあげると、様々なタスクへのスタッフの割当てを式が表している場合、給与等級や役職を識別するために、わずかに異なる加重を各タスクに乗算することもできます。</p>
固定および可変	Calculated DriverValue = {FixedDriverValue} + ( {Quantity} * {Rate} * {Weight} );	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソース</li> <li>・ 宛先</li> <li>・ 割当て</li> <li>・ グローバル</li> </ul>	このドライバを使用すると、数量およびボリュームに率および加重を乗算した計算結果が各メジャーに適用されます。
カスタム	Calculated DriverValue = {Custom Variable};	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソース</li> <li>・ 宛先</li> <li>・ 割当て</li> <li>・ グローバル</li> </ul>	カスタム式のタイプの作成方法の詳細は、 <a href="#">91ページのカスタム・ドライバ式</a> を参照してください。

## カスタム・ドライバ式

定義済のドライバ式ではモデルに必要な計算フローを正確に反映することができない場合、式エディタを使用してカスタム・ドライバ式を作成できます。ドライバ値を計算するために作成される式には、単純なものから、IF文を含む複雑なものまであります。

カスタム・ドライバが使用される割当てにより、計算スクリプトにFIXコンテキストが自動的に提供されます。式はFIXコンテキストを考慮して定義する必要があります。FIXコンテキストは、常に割当ての割当てブロックに固定されます。FIXコマンドの詳細は、『*Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド*』を参照してください。

カスタム式には、カスタム変数や、VolumeまたはRateなどの定義済の変数をいくらかでも含めることができます。カスタム変数は、メジャー・ディメンション内でPerformance Management Architectを使用して定義する必要があります。

さらに、カスタム式内で使用される変数の場所を指定して、カスタム式を別のステージで使用できるようにすることが可能です。Essbaseでは中かっこ({})は使用されませんが、場所(グローバル、ソース、宛先または割当て)は、中かっこを使用した変数で定義する必要があります。場所は、計算スクリプトの生成中に動的に解決されます。



注:

変数の場所が指定されていない場合、場所は割当てであるとみなされます。

要素間に関数(オペランド)を使用して、式の計算を制御します。標準オペランドには、次のようなものがあります:

- 加算(+)
- 減算(-)
- 乗算(\*)
- 除算(/)

各式はセミコロン(;)で終了する必要があります。

次の例は、カスタム・ドライバ式の一般的なフォーマットを示しています:

```
"CalculatedDriverValue" = {Custom Variable -> Source} * {Custom Variable -> Destination};
```

次の例は、場所の構文が使用されていないカスタム・ドライバ式を示しています:

```
"CalculatedDriverValue" = "Variable1" * "Variable2" -> "[GL Departments].[NoMember]";
```

カスタム式は、Profitability and Cost Managementの次の例外を除き、数学的に正しく、構文がEssbase構文に準拠している必要があります:

- Essbaseでは中かっこは使用されませんが、カスタム変数(ドライバ・メジャー)および場所(グローバル、ソース、宛先または割当て)は、中かっこで囲む必要があります。
- Profitability and Cost Managementの構文を使用して指定された変数は、二重引用符で囲まないでください。

Profitability and Cost Managementにより、場所の構文がEssbase構文に解決および変換されます。Profitability and Cost Managementの構文を使用する場所が指定された変数の適切なディメンショナル参照を解決すると、式がEssbaseの計算スクリプトにコピーされ、スクリプト内でEssbase構文に対して確認されます。

式エディタを使用したカスタム式の作成方法の詳細は、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。

## カスタム・ドライバ式の例

カスタム・ドライバ式の例では、次の値が想定されています:

- ステージ1のディメンション: GL\_ Department x GL\_Account
- ステージ2のディメンション: ACT\_ Department x ACT\_Activity

Profitability and Cost Managementの計算スクリプト生成プロセスにより、このドライバを使用するソースのカスタム・ドライバに定義されたスクリプトが挿入されます。システム生成のスクリプトにより、ソースにアタッチされた割当てロジックに定義されているソースと宛先の組合せを正確に示すためのFIX文が作成されます。

カスタム・ドライバ・スクリプトではこのFIXを作成する必要はありませんが、利用することはできます。また、FIXを変更し、宛先、ソース、割当て、グローバルのメジャーの場所に通常定義されているものとは異なる場所のデータを参照することも可能です。

カスタム・ドライバの一般的な使用法は、通常の4つ以外の場所に保管されているデータを参照する権限によって異なります。これにより、ユーザーは、階層のより高いレベルまたはより少ない交差のドライバ・メジャーへのアクセスが可能になります。

CalculatedDriverValueメジャーにより計算されるデフォルトのFIX文は、ソースと宛先の間のリンクを反映します。サンプル・ステージを使用し、システム生成のスクリプトにより作成されたFIXを次に示します：

```
GL_Department.member x GL_Account.member x ACT_Department.member x ACT_Activity.member
```

ここで、各ディメンションのディメンション・メンバーは、実行中の配賦のソース交差および宛先交差を示します。

後続の例では、このデフォルトのFIXを変更して、別の場所からドライバ・メジャーを取得します。デフォルトのFIXで参照されているメンバーが目的に一致している場合は、上書きする必要はありません。

### 例1: 宛先ディメンションの1つのみと、他の場所にあるNoMember(この場合はACT\_Department)に存在するドライバ・メジャーを参照

```
"CalculatedDriverValue" = "DriverMeasure" ->"[ACT_Activity.NoMember] "-  
>"[ GL_Department.NoMember] ->"[ GL_Account.NoMember];
```

この式は、平方フィート、メーターまたは人数など、部門全体のドライバ値が1つの場合に使用します。

### 例2: 宛先ディメンションのいずれかの親と、他のディメンションにあるNoMemberに存在するドライバ・メジャーを参照:

```
"CalculatedDriverValue" = "DriverMeasure" ->"[ACT_Activity.NoMember]" -  
>"(@PARENT(ACT_Department)" ->"[ GL_Department.NoMember] ->"[ GL_Account.NoMember];
```

また、@ANCSET関数を使用して値を取得する祖先の世代を参照することもできます。この例において、ドライバは、宛先のDepartmentメンバーの世代2の祖先からDriverMeasure値が取得されます：

```
"CalculatedDriverValue" = "DriverMeasure" ->"[ACT_Activity.NoMember]" -  
>"(@ANCEST(ACT_Department, 2)" ->"[ GL_Department.NoMember] ->"[ GL_Account.NoMember];
```

その他の一般的な使用法は、ソース/宛先の組合せの特性におけるドライバ値の計算を入力するためのものです。このオプションを使用すると、配賦に関連する交差の特性に基づき、ドライバを特定の状況に適合させることができます。

### 例3: 1つの宛先メンバーのUDAに基づいてドライバ計算の異なるメジャーを参照:

```
IF(@ISUDA(Activity,"UDA1"))  
  
"CalculatedDriverValue" = {Measure1->Destination};  
  
ELSE IF (@ISUDA(Activity,"UDA2"))
```

```
"CalculatedDriverValue" = {Measure2->Destination};
ELSE IF (@ISUDA(Activity,"UDA3"))
"CalculatedDriverValue" = {Measure3->Destination};
ENDIF;
```

この式は、製品フォーム係数または顧客分類など、宛先の特性からドライバ式を入力する場合に使用します。この例の次の構文に注意してください: {Measure1->Destination}は、通常のEssbaseの計算スクリプト構文と一致しません。中かっこ({ })を使用すると、Profitability and Cost Managementでの->Destinationの解釈が簡単になり、ターゲットとなる実際の宛先との置換えが可能になります。Essbaseにスクリプトがデプロイされると、Profitabilityにより適切なメンバー参照および構文が挿入されます。

## ドライバ基準タイプ

基準タイプは、費用レイヤーと収益レイヤーのどちらのドライバにも適用できます。1つのステージに、実績基準と標準基準の両方のドライバを含めることができます;ただし、一方の基準ドライバ・タイプからもう一方のドライバ・タイプに変更した場合、影響を受けるステージの計算スクリプトを再生成する必要があります

ドライバを定義する際は、次のドライバ基準タイプを使用して、計算済レートまたは割当てレートを使用するかを指定できます:

### 実績基準ドライバ・タイプ

実績基準の費用計算では、ソースのNetCostForAssignment値を使用して、費用を下流に配賦します。実績基準ドライバでは、次の式を使用します:

$$\text{CostReceivedPriorStage} = \text{ソースのNetCostForAssignment} * \text{CalculatedDriverValue} / \text{ソースのTotalDriverValue}$$

ドライバ・データがない場合、交差とステージ・レベルにおいて、結果はステージの貸借一致レポートで未割当ての費用に転記されます

### 標準基準ドライバ・タイプ

会計データの取込み時と実際のリソース使用時の差異により季節変動または会計値の変動が発生する状況では、複数の期間にわたって測定の一貫性を実現できる標準レートを設定できます。

標準基準ドライバを使用して、ソース交差のドライバの事前に計算された標準レートを設定してその費用を下流に配賦します。このドライバは次の式を使用します:

$$\text{ソースの標準レート} * \text{割当ての数量}$$

このドライバを使用するソースは、ソースに標準レートの製品を配賦し、宛先交差への割当てに数量を配賦します。



注:

標準基準ドライバは、均等または「パーセンテージ」のドライバ・タイプでは使用できません。

標準基準を選択すると、「アイドルを許可」が自動的にアクティブになります。標準基準ドライバはステージ内割当てでは使用できますが、相互割当てでは使用できません。

ユーザーが「標準基準ドライバ」を選択すると、費用レイヤーのメジャー・ディメンション変数StandardCostRate、および収益レイヤーのStandardRevenueRateのソースにレートが入力されます。ソースのStandardCostRateは、費用入力データ・エントリの画面を使用して実行できます。数量は、ドライバがどのように定義されているかに基づいて計算されます。

基準タイプは、費用レイヤーと収益レイヤーのどちらのドライバにも適用できます。1つのステージに、実績基準と標準基準の両方のドライバを含めることができます；ただし、一方の基準ドライバ・タイプからもう一方のドライバ・タイプに変更した場合、影響を受けるステージの計算スクリプトを再生成する必要があります。

## 優先度シーケンス・ドライバ

ビジネス・モデルによっては、ドライバが1つ以上の計算済メジャーを式で使用する場合があります。同じステージのソース間の依存関係によって、制御されたシーケンスによる配賦の計算が必要な場合があります。優先度シーケンス・ドライバを使用することで、ステージ内のどの配賦を最初に計算するかを定義できます。

たとえば、ドライバ優先度を設定することで、ドライバBを使用するソースBの前にドライバAを使用するソースAが計算されるようになります。ソースAを最初に配賦することで計算される費用値または収入値は、その後ドライバBで使用されます。

メジャー・ディメンションのレベル0の子孫を、ドライバ・メジャーとして選択できます。ドライバを定義するときは、「ドライバ」ダイアログ・ボックスに「シーケンス優先度」を入力します。優先度の数値が小さいドライバに関連付けられているソースは、優先度の数値が大きいドライバに関連付けられているソースより先に解決されます。デフォルト値は100に設定されていますが、この値は変更できます。最も高い優先度は1です。優先度は整数であることが必要です。同じ優先度のドライバに関連付けられているソースは、特定の順序では処理されません。

ドライバの優先度を変更する場合は、そのステージ内のソースの計算順序を変更している可能性があります。その場合は、そのステージの計算スクリプトを再生成する必要があります。



注:

ステージ内割当ておよび相互割当てで、これらの配賦内の固有のシーケンスがドライバ優先度シーケンスと競合した場合、競合する交差はhpcm.logファイルに記録されます。

## ドライバの定義

▶ ドライバを定義するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。

「ドライバ定義」画面が表示されます。

ORACLE Enterprise Performance Management System Workspace, Fusion Edition

Logged in as admin | Help | Log Off

Navigate File View Tools Model Allocations Validate Calculate Job Process Help

Bikes72

Task Areas

- Manage Model
- Manage Allocations
- Driver Definitions
  - Driver Selections
  - Assignment Rule Definitions
  - Assignments
  - Data Entry
  - Trace Allocations
- Validate
- Calculate
- Jobs Status

Click Add to display the Driver Definition screen. Enter details for the new driver on the Driver Definition screen, then click OK. To modify a driver, select the driver, and click Modify. Change the driver as required, then click OK.

Name	Type	Cost	Revenue
Advertising Spend Ratio	Simple	✓	
Bill Of Material	Variable	✓	
CostReievedPriorStage Seq 110	Simple	✓	
Defect Count	Simple	✓	
Department Total Headcount - Intra	Custom	✓	
Department Total Square Feet	Custom	✓	
Department Total Square Feet - Intra	Custom	✓	
Development Hours	Simple	✓	
Even Split	Even	✓	
Headcount	Simple	✓	
Number Of Application Users - Intra	Custom	✓	
Number Of Desktop Users - Intra	Custom	✓	
Number Of Invoices - Intra	Custom	✓	
Number Of Orders	Simple	✓	
Number Of Purchase Orders - Intra	Custom	✓	
Number Of Returns	Simple	✓	
Number Of Sales Calls	Simple	✓	
Number Of Sales Visits	Simple	✓	
Number Of Service Calls	Simple	✓	
Revenue	Simple	✓	

2. 「追加」



をクリックします。

**Drivers** [X]

Name:

Description:

Basis Type:

Formula Type:

Cost Layer

Revenue Layer

Allow Idle

Sequence Priority:

Formula:

**Template** Translated

"CalculatedDriverValue" = {Percentage};

Name	Measure	Location
Percentage	Percentage	Assignment

Help OK Cancel

3. 「名前」で、新しいドライバに一意の名前を入力します。

/, +, @などの特殊文字や制限された文字をドライバ名に使用しないでください。インポート操作が失敗する原因になることがあります。最新の制限については、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。



---

#### 注意

インポートの失敗を避けるには、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』のEssbase命名規則に関する項を参照して最新の命名の制限を確認することをお勧めします。

---

4. オプション: 「説明」で、ドライバの目的に関する簡単な説明を入力します。
5. ドライバの「**基準タイプ**」を選択します:
  - ソースのNetCostForAssignment値を使用して費用を下流に配賦するには、「**実績**」を選択します。
  - ソース交差のドライバにユーザー定義の標準レートを割り当てるには、「**標準**」を選択します。

[94ページのドライバ基準タイプ](#)を参照してください。

6. 「**式のタイプ**」から、このドライバの式のタイプを選択します:
  - 均等
  - 標準
  - パーセンテージ
  - 標準加重
  - 可変
  - 加重付き可変
  - 固定および可変
  - カスタム

式のタイプによって、選択可能な変数が決まります。各ドライバ・タイプの詳細は、[86ページの標準Profitabilityモデルのドライバと式の定義](#)を参照してください。

定義済の式を選択すると、実際の式が「式」テキスト・ボックスの式テンプレート・タブに表示されます。各要素に使用可能なドライバ・メジャーが「変数の選択」に一覧表示されます。

カスタム式を選択した場合は、「式」テキスト・ボックスが空になり、編集可能になります。

7. ドライバを適用するレイヤーを選択します:
  - 費用レイヤー
  - 収益レイヤー
  - 費用レイヤーと収益レイヤーの両方
8. オプション: 「**アイドルを許可**」を選択し、このドライバにアイドル費用または収入を許可します。標準基準ドライバが選択されている場合、このオプションは自動的にアクティブになります。

計算後、この情報がIdleCostまたはIdleRevenueの下に報告されます。

9. オプション: 「**シーケンス優先度**」で、ドライバのシーケンス優先度を入力します。

デフォルトでは、100が表示されます。最も高い優先度は1です。[95ページの優先度シーケンス・ドライバ](#)を参照してください。
10. オプション: カスタム式の場合にのみ、**ドライバ式**で、ユーザー定義の式を入力します。

カスタム式の変数に使用するメジャーは、Performance Management Architectで定義済である必要があります。『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』の説明に従って、式エディタを使用して式を構築します。

11. 式で使用される各変数に、次の値を選択します:

- 「メジャー」で、式に使用するメジャーを選択します。
- 「場所」で、モデル内のメジャーの場所を選択して、計算スクリプトが値を見つけることができます:
  - グローバル - メジャー・データが現在のPOVメンバーで形成される交差から取得されます。その他すべてのディメンションのメンバーはNoMemberに設定されます。
  - 宛先 - メジャー・データが宛先の交差から取得されます。
  - ソース - メジャー・データがソースの交差から取得されます。
  - 割当て - メジャー・データが宛先ステージおよびソース・ステージの交差から取得されます。

12. オプション: 「式」テキスト・ボックスで「換算済」を選択し、実際のメンバーを表示した状態で式を表示します。

「変数の選択」で別のメンバーを選択すると、換算済の式の関連するメンバーも変更されます。

13. 「OK」をクリックして、新しいドライバを保存します。

ドライバが「ドライバ定義」画面のリストに追加され、名前、式タイプ、シーケンス優先度およびレイヤーが表示されます。

14. ドライバを1つまたは複数のディメンション・メンバーに関連付けます。101ページの標準Profitabilityドライバの選択を参照してください。

## ドライバ定義の変更

選択したドライバの要素は、いずれも変更できます。

▶ ドライバを変更するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。

「ドライバ定義」画面が表示されます。

2. 変更するドライバを選択します。

3. 「変更」



をクリックします。

「ドライバ」ダイアログ・ボックスが表示され、ドライバの現在の詳細が表示されます。

4. 必要に応じて、「ドライバ」情報を変更します。

名前、説明、式のタイプ、レイヤーまたは変数の選択など、ドライバの詳細はいずれも変更できます。

名前を変更する場合、/、+、@などの特殊文字や制限された文字をドライバ名に使用しないでください。インポート操作が失敗する原因になることがあります。最新の制限については、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。



#### 注意

費用レイヤーを消去するなど、ドライバに関連付けられているレイヤーを変更すると、変更されたドライバを使用するレイヤーのすべてのドライバ選択内容が削除されます。

5. 「OK」をクリックして、変更したドライバを保存します。
6. 計算スクリプトを再生成し、ドライバの変更を適用するモデルを再計算します。175ページの第8章「標準 Profitabilityモデルの計算」を参照してください。

## 既存のドライバ定義からの新しいドライバ定義の作成

「ドライバの複製の作成」オプションを使用すると、既存のドライバ定義をコピーし、ドライバに新しい名前を割り当てることができます。コピーは、必要に応じて変更できます。

このオプションを使用することにより、「ドライバ定義」ダイアログ・ボックスを再度開かなくても多くの類似ドライバを迅速に作成できるようになりました。

▶ 既存のドライバ定義から新しいドライバを作成するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。

「ドライバ定義」画面が表示されます。

2. 新しいドライバ定義のテンプレートとして使用するドライバを選択します。
3. **ドライバの複製**



をクリックします。

「複製ドライバの作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。

4. 新しいドライバの名前を入力し、「OK」をクリックします。



#### 注意

/、+、@などの特殊文字や制限された文字をドライバ名に使用しないでください。インポート操作が失敗する原因になることがあります。最新の制限については、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。

新しいドライバが「ドライバ定義」のリストに追加され、元のドライバと同じタイプ、ならびに費用または収益の詳細が表示されます。

## 5. 「変更」



をクリックすると、新しく作成されたドライバの詳細が表示されます。

「ドライバ」ダイアログ・ボックスが表示され、新しいドライバの最新の詳細が表示されます。必要な場合は、[99ページのドライバ定義の変更](#)に説明されているように、新しいドライバの詳細を変更できます。

## ドライバ定義の削除



### 注意

ドライバを削除すると、削除されたドライバを使用したすべてのドライバの選択も削除されます。

▶ ドライバを削除するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。

「ドライバ定義」画面が表示されます。

2. 削除するドライバを選択します。

## 3. 「削除」



をクリックします。

削除を確認するメッセージが表示されます。

4. 「はい」をクリックして、ドライバを削除します。
5. 配賦が正しく計算されるように、配賦に別のドライバを選択して削除されたドライバと置き換えます。
6. 計算スクリプトを再生成し、モデルを再計算します。[175ページの第8章「標準Profitabilityモデルの計算」](#)を参照してください。

## 標準Profitabilityドライバの選択

ドライバを作成した後で、適用するディメンション・メンバーに割り当てる必要があります。

ドライバを選択する際、次の方法を使用してドライバの選択を適用します：

- ドライバをディメンションの最上位メンバーに適用します。ドライバは、そのディメンション内のすべてのメンバーに継承されます。
- ドライバをディメンションのサブ階層の最上位メンバーに適用します。ドライバは、選択されたメンバーの子孫にのみ継承されます。
- ドライバを単一のメンバーに適用します。
- ドライバを単一の交差または例外に適用します。

費用または収益値が含まれる交差には、値を配賦するため、ドライバを関連付ける必要があります。割当てまたは割当てルールを含む交差に対してドライバが割り当てられていないと、モデルの検証時に「欠落しているドライバ割当て」というエラーが作成されます。ドライバの選択は、必要に応じて変更できます。

選択内容の変更結果は、モデルをデプロイしたときに反映されます；ただし、選択内容が変更されても、警告やエラーは表示されません。



注：

ステージに含まれるディメンションが1つのみの場合、ディメンション・メンバーのドライバ選択を作成する必要があります。ステージに含まれるディメンションが2つの場合は、ディメンション・メンバーのドライバ選択、または単一交差のドライバ選択、あるいはその両方が必要です。

ドライバの選択の操作方法の詳細は、次の手順を参照してください：

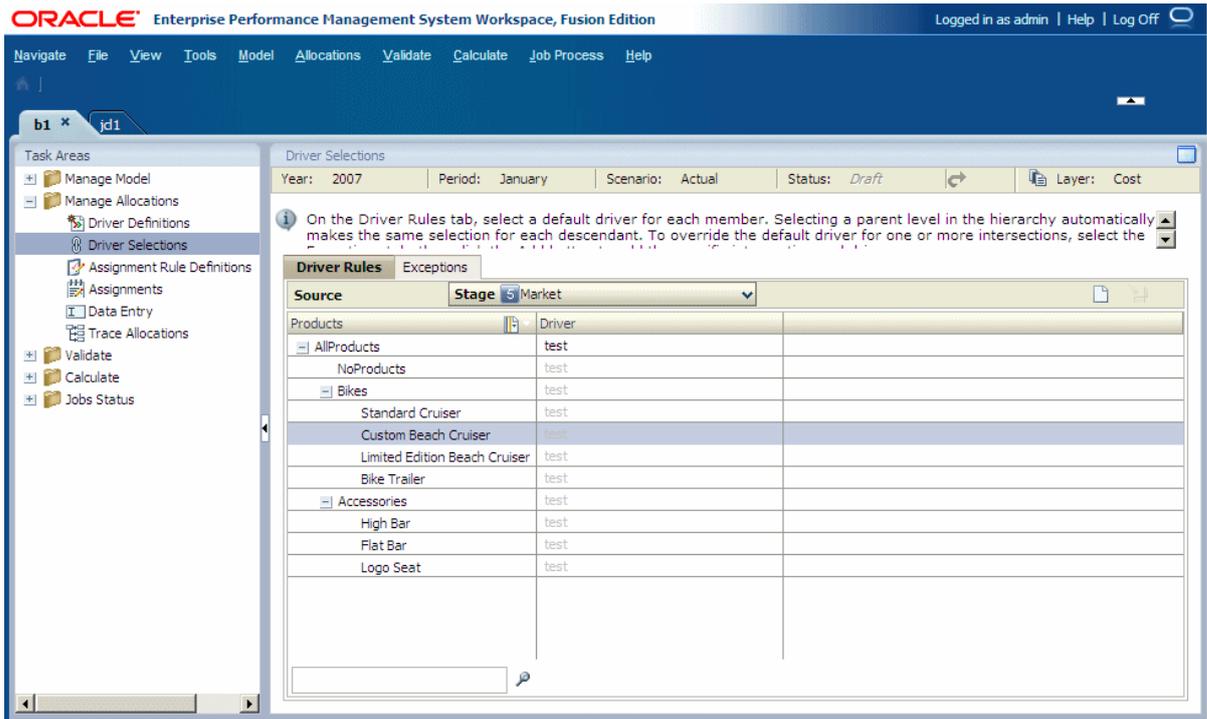
- [102ページのドライバの選択の作成](#)。
- [104ページの単一の交差に対するドライバ選択の作成](#)。
- [105ページのドライバの選択の変更](#)。
- [106ページの単一交差のドライバの選択変更](#)
- [106ページのドライバの選択の削除](#)。
- [107ページの単一交差のドライバの選択の削除](#)

## ドライバの選択の作成

▶ ドライバを割り当てるには：

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバの選択」の順に選択します。

「ドライバの選択」画面が表示されます。



2. POVを選択し、「実行」



をクリックします。

3. レイヤーを選択します。
4. 「ドライバ・ルール」タブの「ステージ」で、モデル・ステージを選択します。

選択したステージのドライバ・ディメンションが最初の列に表示され、ドライバ・ディメンション内のすべてのディメンション・メンバーがその下にリストされます。

5. ディメンションの下で、デフォルトのドライバを適用する親レベルまたは0レベルのメンバーを選択します。親レベルは、ステージまたは階層の一部の親になります。
6. 「ドライバ」で、セクタ・アイコン



を表示するセルをクリックするか、または「追加」



をクリックして、共通セクタから親ディメンションのドライバを選択し、「OK」をクリックします。32ページの共通メンバー・セクタの使用を参照してください。

ドライバが親に適用されると、同じドライバが自動的にすべての子孫に継承されます。ドライバは、継承されていることを示すため淡色表示になります。

7. オプション: 継承されたドライバ以外のドライバをメンバーに対して選択するには、次の手順を行います:
  - a. 親ディメンションを展開します。
  - b. 異なるドライバを必要とするメンバーを選択します。
  - c. 共通セクタから代替のドライバを選択します。32ページの共通メンバー・セクタの使用を参照してください。

ドライバの選択が自動的に保存されます。

8. オプション: 単一の交差に対してドライバを設定する必要がある場合は、104ページの単一の交差に対するドライバ選択の作成を参照してください。

## 単一の交差に対するドライバ選択の作成

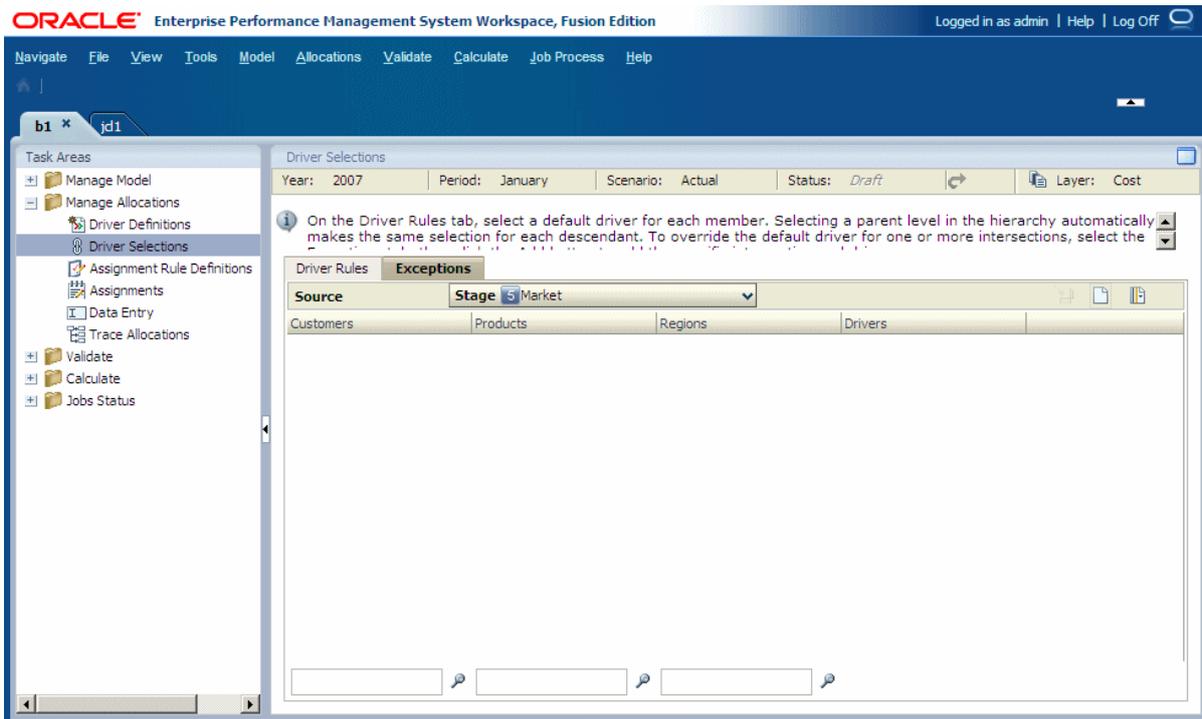
▶ 単一交差のドライバを選択するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバの選択」の順に選択します。
2. POVおよびレイヤーを選択し、「実行」



をクリックします。

3. 「例外」を選択します。



4. 「ステージ」で、交差を含むモデル・ステージを選択します。
5. オプション: 「例外」タブで「メンバー・セレクタ」



をクリックすると、使用可能なディメンションのリストをフィルタ処理できます。

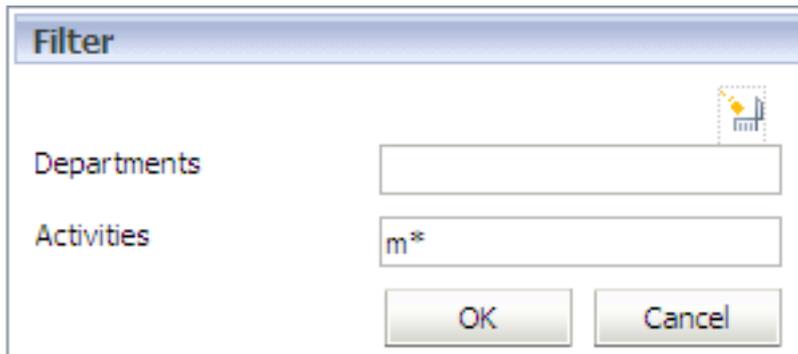
- a. ドロップダウン・リストで、必要に応じて「別名の表示」または「名前の表示」を選択します。
- b. 「フィルタ」



を選択します。

- c. 1つ以上のディメンションに対するフィルタ条件を入力します。

必要なメンバーの正確な名前または別名を入力するか、メンバーの範囲を選択するワイルドカードとして末尾にアスタリスク(\*)を使用する、または任意の1文字を選択する疑問符(?)を末尾に使用します。たとえば、「M」の文字で始まるディメンションのすべてのメンバーを検索するには、「M\*」と入力します。文字の前にアスタリスクを入力しても(たとえば"\*M")機能しません。



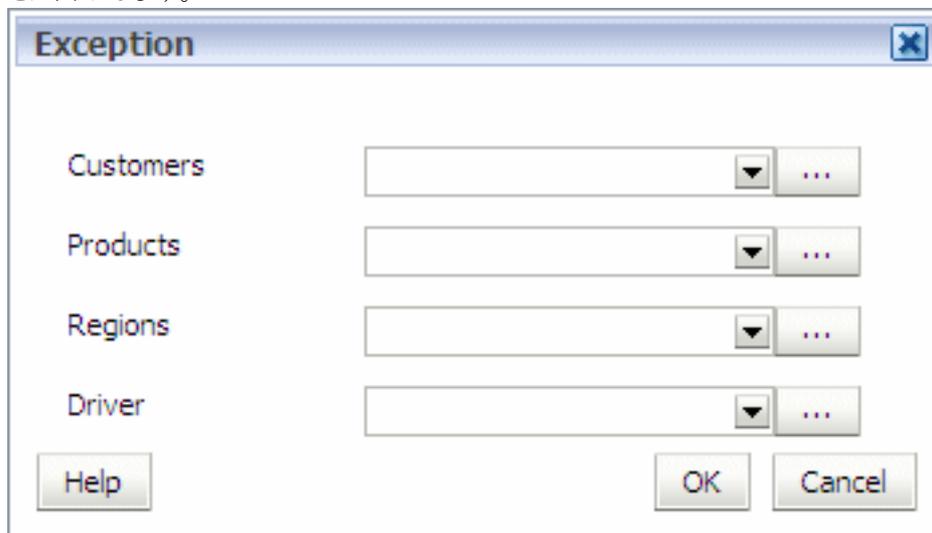
d. 「OK」をクリックします。

フィルタ条件を満たすアイテムのみが「例外」タブに表示されます。

6. 「追加」



をクリックします。



7. 「例外」ダイアログ・ボックスに一覧表示された各ディメンションで、セレクト



をクリックし、例外ドライバを適用する必要がある特定の交差に必要なメンバーを選択します。

[32ページの共通メンバー・セレクトタの使用](#)を参照してください。

8. 交差のすべてのメンバーを選択したら、「OK」をクリックします。

9. 「ドライバ」で、交差の例外ドライバを選択します。

10. 「OK」をクリックします。

ドライバの選択は自動的に保存され、表に表示されます。

## ドライバの選択の変更

▶ ドライバの選択を変更するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバの選択」の順に選択します。
2. POVを選択し、「実行」



をクリックします。

- レイヤーを選択します。
- 「ドライバ・ルール」の「ステージ」で、モデル・ステージを選択します。

選択したステージのドライバ・ディメンションが最初の列に表示され、そのドライバ・ディメンション内のすべてのメンバーがその下にリストされます。

- 「ドライバ」で、変更するドライバを含むセルをクリックして共通メンバー・セレクトタを表示するか、「追加」



をクリックして、別のドライバを選択します。

- 共通メンバー・セレクトタから、別のドライバを選択し、「OK」をクリックします。

ドライバの選択が自動的に保存されます。

## 単一交差のドライバの選択変更

▶ 単一交差のドライバを選択するには:

- 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバの選択」の順に選択します。
- POVおよびレイヤーを選択し、「実行」



をクリックします。

- 「例外」タブを選択します。
- 「ステージ」で、交差を含むモデル・ステージを選択します。
- 「ドライバ」で、変更するドライバを含むセルをクリックします。

ドロップダウンおよび共通セレクトタ



が表示されます。

- セレクトタ



をクリックすると、「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 特定の交差に必要なディメンション・メンバーを選択します。
- 「OK」をクリックします。

ドライバの選択は自動的に保存され、表に表示されます。

## ドライバの選択の削除

ドライバの選択を削除した後、新しいドライバを選択しないと、ドライバの選択がない割当てが存在することを示すエラーが検証中に報告されます。

▶ 選択したドライバを削除するには:

- 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバの選択」の順に選択します。
- POVを選択し、「実行」



をクリックします。

- レイヤーを選択します。
- 「ドライバ・ルール」の「ステージ」で、モデル・ステージを選択します。
- 削除するドライバの選択が含まれる行を選択します。
- 「削除」



をクリックします。

削除を確認するメッセージが表示されます。

- 「はい」をクリックして、ドライバの削除を確認します。

ドライバが行から削除されます。

## 単一交差のドライバの選択の削除

削除する交差を選択します。その交差全体が「例外」タブから削除されます。

▶ 単一交差のドライバの選択を削除するには:

- 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバの選択」の順に選択します。
- POVを選択し、「実行」



をクリックします。

- レイヤーを選択します。
- 「例外」タブを選択します。
- 「ステージ」で、モデル・ステージを選択します
- 削除する交差を選択します。
- 「削除」



をクリックします。

削除を確認するメッセージが表示されます。

- 「はい」をクリックして削除を確認します。

交差全体が行から削除されます。

## 標準Profitability割当ての操作

ドライバ定義が費用と収益のフローの計算方法を決定するのに対して、割当ては計算した収益および費用の配賦先を指定します。

割当ては、ソースから宛先へのデータのフローを定義します。フローを定義するには、モデル内の各ノードまたは交差に対してソースおよび宛先の関係を作成し、あるメンバーの宛先を配賦フローの次の交差のソースにします。

ソース・データを含むステージ内のディメンション・メンバーの各交差に対して、下位のメンバー交差を宛先として割り当てます。

順方向または同じステージにのみ、割当てを行うことができます。費用と収益の配賦は、開始から終了の方向にはトレースできますが、逆方向ではできません。モデルを計算する前に、割当てを内部フロー・ルールに従って検証し、モデルの整合性を確認する必要があります。割当てでは、ステージをスキップすることもできます。たとえば、ステージ1のソース交差にステージ3の宛先を割り当てることができます。

プロセスのフローに応じて、一部またはすべての割当てタイプを使用できます。[108ページの割当てのタイプ](#)を参照してください。

割当ては、各ステージ内の1つのディメンション・メンバーの交差によって制御されます。割当ては、特定のレベル0メンバーの交差に対して作成されます。割当てを個別に設定することも、繰返し利用できるように割当てルールを作成することもできます。

割当てを作成するには、有効なPOVおよびレイヤー(費用または収益)を選択し、時間、期間、シナリオおよびレイヤーの組合せごとに一意の割当てを作成します。ソースは「ソース」ペインで適用し、宛先は「宛先」ペインで選択します。宛先には、ノードまたは交差を明示的に選択するか、割当てルールを選択できます。割当てルールの作成の詳細は、[115ページの標準Profitability割当てルールの操作](#)を参照してください。

割当ての操作方法の詳細は、次の項を参照してください:

- [108ページの割当てのタイプ](#)
- [109ページの割当ての作成](#)
- [114ページの割当ての変更](#)
- [115ページの割当ての削除](#)
- [115ページの標準Profitability割当てルールの操作](#)

## 割当てのタイプ

割当ては、様々な方法で設定できます:

- **ステージ間割当て** - ソースと宛先の組合せが別々のモデル・ステージにあります。たとえば、ステージ1からステージ2への割当てです。
- **ステージ内割当て** - ステージ内割当ては、ソースと宛先が同じステージにある割当てです。
- **相互割当て**: 相互割当ては、2つ以上のプロセスのソースと宛先が相互に費用を転送し合う、ステージ内割当てです。単純な相互関係としては、交差1から交差2への直接配賦および交差2から交差1に戻す直接配賦がありません。相互割当ては常にステージ内割当てです。



## 注意

Profitability and Cost Managementでサポートされているのは、単純な相互ループのみです。複雑な相互関係はサポートされていません。たとえば、交差1から交差2へ、交差2から交差3へ、および交差3から交差1へというような複雑な相互ループはサポートされていません。

相互ループの例: 人事部が、給与計算または従業員レポートの処理費用の一部を情報技術部に割り当てます。逆に、情報技術部が同部門の人材要件管理に必要な費用を人事部へと割り当てます。それぞれの部門が、相手の部門にサービスを提供するサポート機能を持っているケースです。

モデルを作成する際、ループ内に設定された割当てによって相互割当てが定義されます。相互関係が検出されると、特別な計算プロセスが実行され、最初に相互割当てを、次に通常の割当てを解決します。

パーセンテージ・ドライバが相互配賦で使用される場合、未割当ての費用のエラーを回避するため、TotalDriverValueAfterReciprocalは常に100未満の値になります。相互関係の解決後に実行される配賦では、「ドライバ」がすべて標準ドライバに変換されます。

## 割当ての作成

割当てにより、費用および収益が1つの交差から他の交差に転送され、モデル内の財務フローが構築されます。

Oracleでは次のフローを推奨します:

1. 要素を見落とすことがないように、プロセスまたは配賦に使用するすべての割当てを順番に作成します。
2. モデルの構造を検証し、必要なドライバ選択が欠落していないことを確認します。

▶ 割当てを作成するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当て」の順に選択します。

「割当て」画面が表示されます。

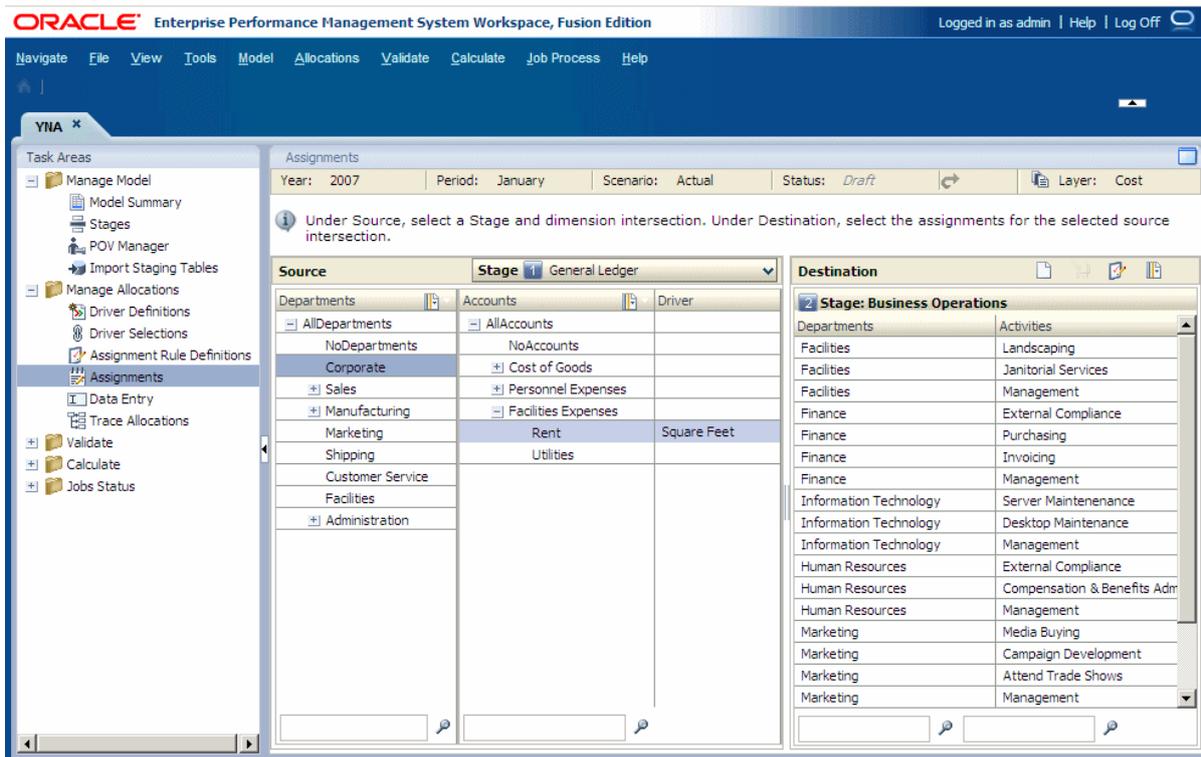
2. 選択されているモデルのPOVを選択し、「実行」



をクリックします。

3. レイヤーを選択します。
4. 「ソース」の横にある「ステージ」ドロップダウン・リストから、割当てに使用するモデル・ステージを選択します。

選択したモデル・ステージのディメンションおよびメンバーが表示されます。



5. 「ソース」で、各ディメンションからメンバーを選択し、割当てのソースの交差を作成します。

ドライバは「ドライバ」列に示されます。「宛先」列には、宛先ステージのディメンションおよびメンバーが移入されます。



注:

階層のメンバーを検索するには、列の下部にあるテキスト・ボックスにメンバー名を入力し、「検索」をクリックします。

6. オプション: 「宛先」の下で「メンバー・セレクタ」



を選択すると、使用可能な宛先のリストをフィルタ処理できます。

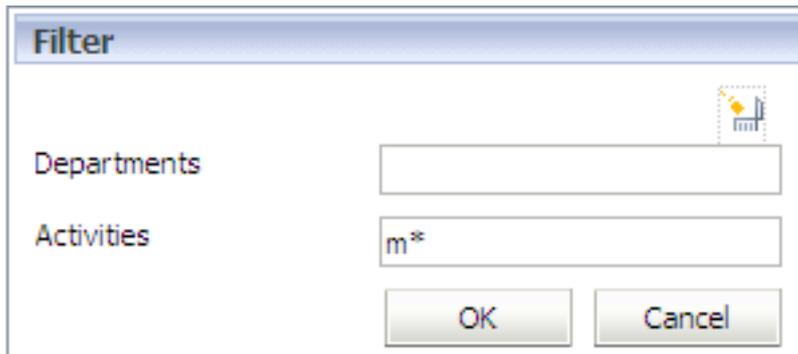
- ドロップダウン・リストで、必要に応じて「別名の表示」または「名前の表示」を選択します。
- 「フィルタ」



を選択します。

- 1つ以上のディメンションでフィルタ条件を入力し、「OK」をクリックします。

必要なメンバーの正確な名前を入力するか、メンバーの範囲を選択するワイルドカードとして末尾にアスタリスク(\*)を使用する、または任意の1文字を選択する疑問符(?)を末尾に使用します。たとえば、「M」の文字で始まるディメンションのすべてのメンバーを検索するには、「M\*」と入力します。文字の前にアスタリスクを入力しても(たとえば"\*M")機能しません。



**Filter**

Departments

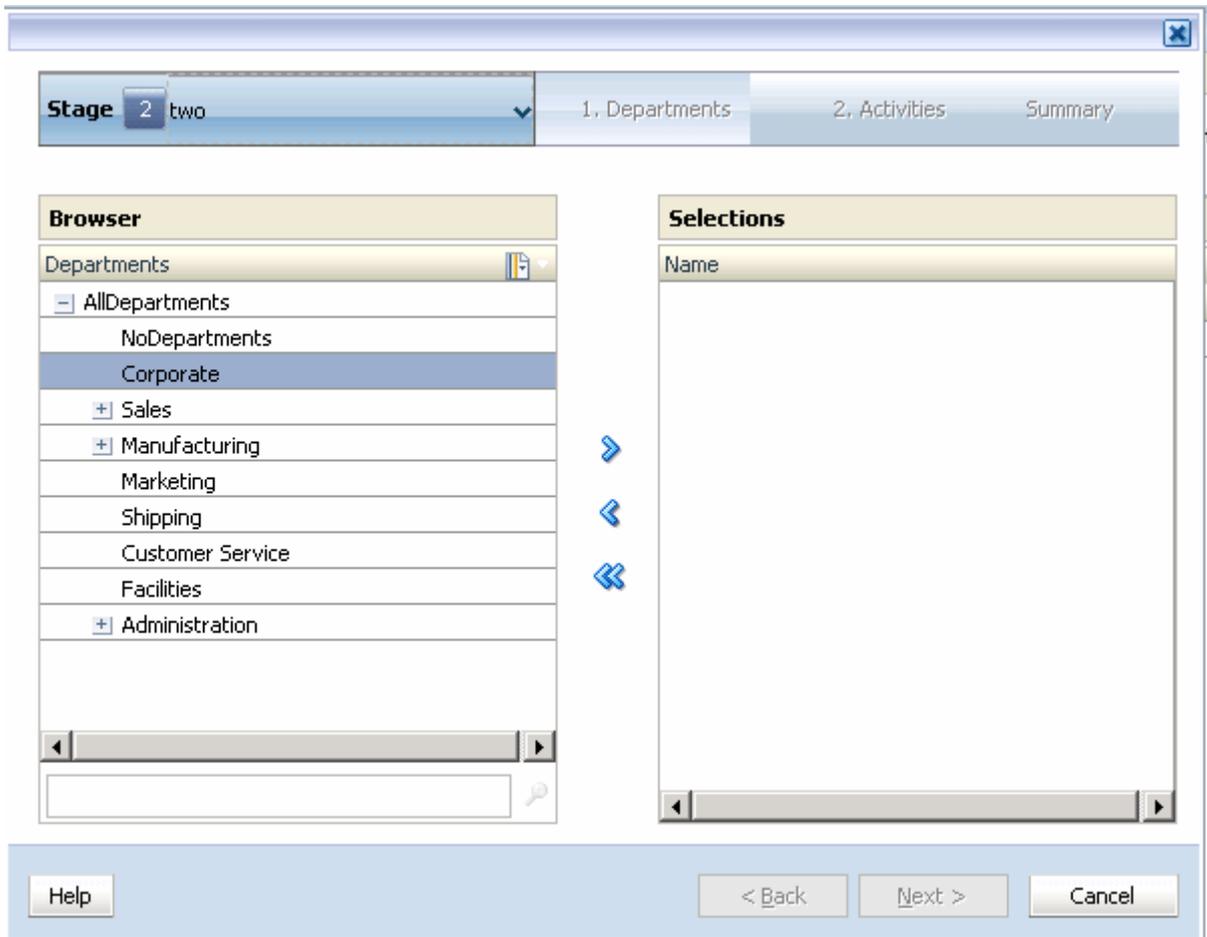
Activities

OK Cancel

7. 「宛先」で、「追加」



をクリックします。



Stage 2 two | 1, Departments | 2, Activities | Summary

**Browser**

- Departments
- AllDepartments
- NoDepartments
- Corporate
- + Sales
- + Manufacturing
- Marketing
- Shipping
- Customer Service
- Facilities
- + Administration

**Selections**

Name

Help < Back Next > Cancel

8. 「ステージ」で、割当ての宛先とするステージを選択します:

- ステージ間割当ての場合は、ソース・ステージに続く任意のステージを選択します。
- ステージ内割当ての場合は、ソース・ステージと同じステージを選択します。



---

注:

ステージ内配賦が許可されているステージの場合(ソースと宛先の交差が同じステージ内に存在する場合)、宛先の交差値を保存するための別個のディメンションがEssbaseアウトラインに作成されます。これらのディメンションには、\_intraという接尾辞が付きます。たとえば、ステージ・ディメンションがOPS\_ProductsおよびOPS\_Activitiesである場合、ステージ内配賦の宛先データはOPS\_Departments\_intraおよびOPS\_Activities\_intraというディメンションに保存されます。

---

9. 「手順1」で、割当ての宛先に使用する交差の最初のメンバーを選択します。

10. 「追加」



をクリックして、選択したメンバーを「**選択**」に移動します。



---

注:

「**選択**」リストからメンバーを削除するには、削除するメンバーをハイライトし、「**削除**」

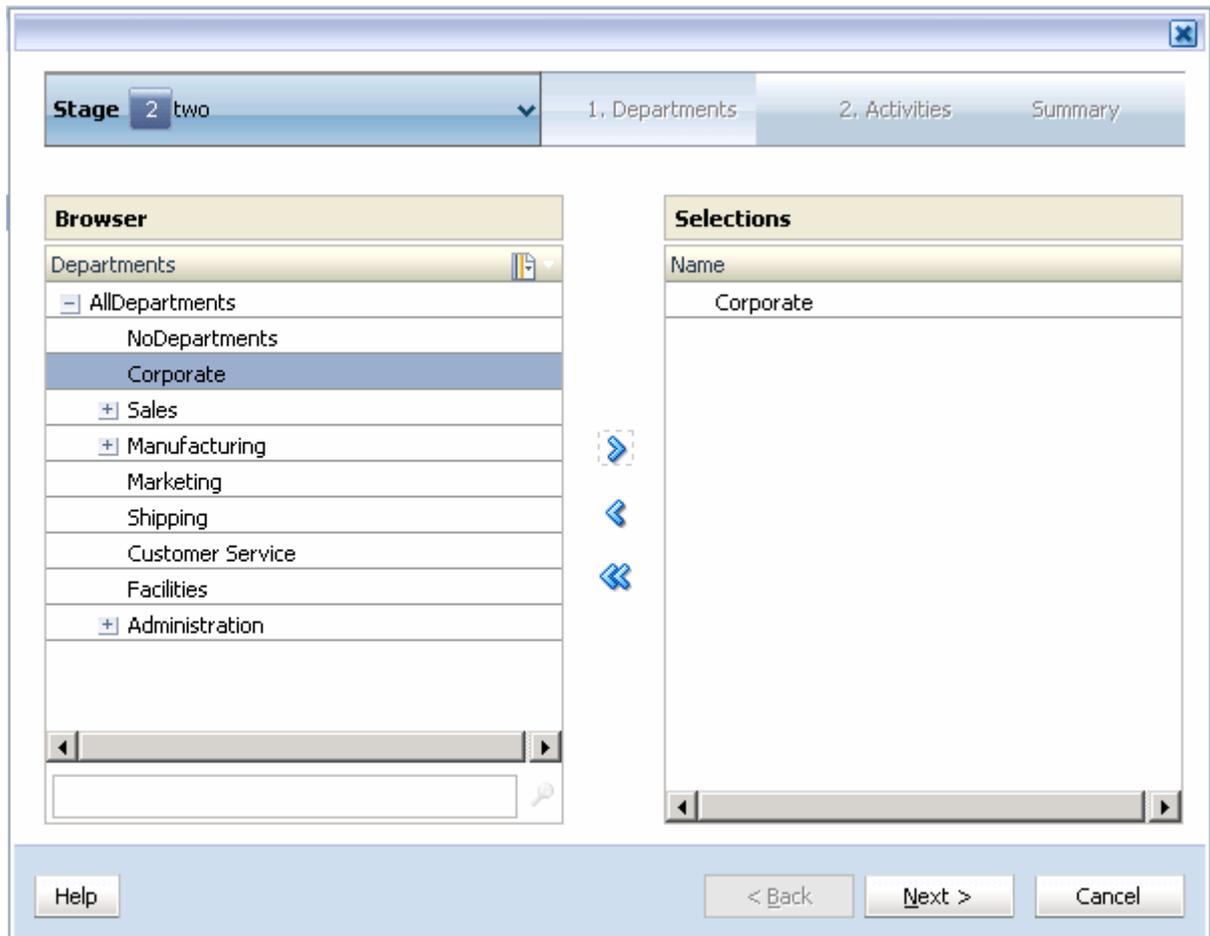


をクリックします。リスト全体を削除するには、「**すべて削除**」



をクリックします。

---



11. 「次」をクリックします。
12. 「手順2」で、割当ての宛先に使用する交差の2番目のメンバーを選択し、「次へ」をクリックします。
13. オプション: 112ページのステップ 9および 112ページのステップ 10を繰り返して、追加メンバーを選択します。

すべてのメンバーを選択すると、「宛先選択要約」が表示されます。

14. 選択内容が正しいことを確認し、「完了」をクリックします。

## 割当ての変更

任意の割当てについて、宛先を変更できます; ただし、変更が財務フローとモデルの計算結果に影響することを考慮する必要があります。

▶ 割当てを変更するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当て」の順に選択します。

「割当て」画面が表示されます。

2. 変更する割当てを含むモデルのPOVとレイヤーを選択し、「実行」



をクリックします。

3. 「ソース」の下で、モデル・ステージと、割当てのソースを含むディメンション・メンバーの交差を選択します。

4. 「宛先」の下で、変更する宛先メンバーを選択します。

5. 宛先メンバーのセルをダブルクリックし、割当てを編集します。新しいメンバー名の入力を開始して、ドロップダウン・リストからメンバーを選択します。

6. 変更の内容が正しいことを確認します。

7. 「保存」



をクリックして、変更を保存します。

## 割当ての削除



### 注意

割当ての削除は財務フローとモデルの結果計算に影響を与えます。

▶ 割当てを削除するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当て」の順に選択します。

「割当て」画面が表示されます。

2. 選択したモデルのPOVおよびレイヤーを選択し、「実行」



をクリックします。

3. 「ソース」の下で、モデル・ステージと、削除する割当てを含むディメンション・メンバーの交差を選択します。

選択したステージのディメンションおよびメンバーが表示されます。

4. 「宛先」の下で、削除する宛先を選択します。

削除対象として複数の宛先を選択するには:

- 宛先の範囲を選択するには、[Shift]キーを押しながら、削除する範囲の先頭と末尾の宛先を選択します。
- 複数の任意の宛先を選択するには、[Ctrl]キーを押しながら一連の宛先を1つずつ選択します。

5. 「削除」



をクリックします。

削除を確認するメッセージが表示されます。



### 注意

モデルの財務フローが、割当ての削除に従って変更されます。

6. 「はい」をクリックします。

## 標準Profitability割当てルールของการ操作

割当てでは配賦結果を渡す方向を指定します。同じパラメータを使用する複数の割当てがモデルに含まれていることがよくあります。類似する複数の割当てを簡単に作成するには、割当てパラメータを指定する割当てルールを作成し、再利用します。

割当てルールは、単一の宛先ステージのメンバー・セットおよびオプションのフィルタ・セットの集合です。フィルタは、ディメンションに適用される条件の集合です。次の1つ以上の条件に基づいて、ルールが作成されます：

- ディメンション階層の特定のブランチ内のメンバーシップ
- メンバー名
- メンバーの別名
- UDA (ユーザー定義の属性)
- 属性の関連付け

割当てルールで戻される宛先は、宛先ステージにある全ディメンションのレベル0メンバーの外積です。このメンバーは、ルールに適用されたフィルタ基準を満たしています。

割当てルールは個々の割当てを多数作成したり管理する労力を削減する一方、時間経過によるメタデータの変更にも対応しています。これにより、ルール定義で取り込んだ元のビジネス・ロジックが正しい割当て関係を継続して生成できるようになります。

次のオプションを使用して、割当てルールを作成できます：

- 単一の宛先ステージについて、特定のメンバー・セットおよびオプションのフィルタ・セットを定義します。
- 計算スクリプトの生成時に宛先ステージのディメンション・メンバーを、選択したソースに置換する、「ソースと同じ」割当てルールを定義します。詳細は、[122ページの「ソースと同じ」割当てルールの作成](#)を参照してください。

モデルにおいて、割当てルールの定義はすべてのPOVで同一です。ステージング表 HPM\_STG\_ASGN\_RULE\_SELを使用してProfitability and Cost Managementに割当てルールの選択内容をインポートできます。『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイド』の標準Profitabilityのインポート・ステージング表に関する項を参照してください。

割当てルールの作成および管理には、次のような2つのオプションを使用できます：

- 割当てルールを作成してソースに適用する詳細は、[116ページの割当てルール・ウィザードの使用](#)を参照してください。
- 割当てルールの作成と管理、および割当てルールの完全なリストを簡単に表示する詳細は、[130ページの「割当てルールの定義」画面の使用](#)を参照してください。このオプションでは、ルールをソースに適用できませんので注意してください。

## 割当てルール・ウィザードの使用

「割当て」画面から使用可能な割当てルール・ウィザードでは、割当てルールの作成、および作成したルールのソースへの適用の両方を行うことができます。

次の手順を使用します:

- [117ページの割当てルールの作成](#)
- [122ページの既存の割当てルールから割当てルールを作成](#)
- [122ページの「ソースと同じ」割当てルールの作成](#)
- [126ページの割当てルールの変更](#)
- [127ページの割当てルールの削除](#)
- [128ページの既存の割当てルールの適用](#)
- [129ページの既存の「ソースと同じ」割当てルールの適用](#)

## 割当てルールの作成

▶ 割当てルールを作成するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当て」の順に選択します。

「割当て」画面が表示されます。

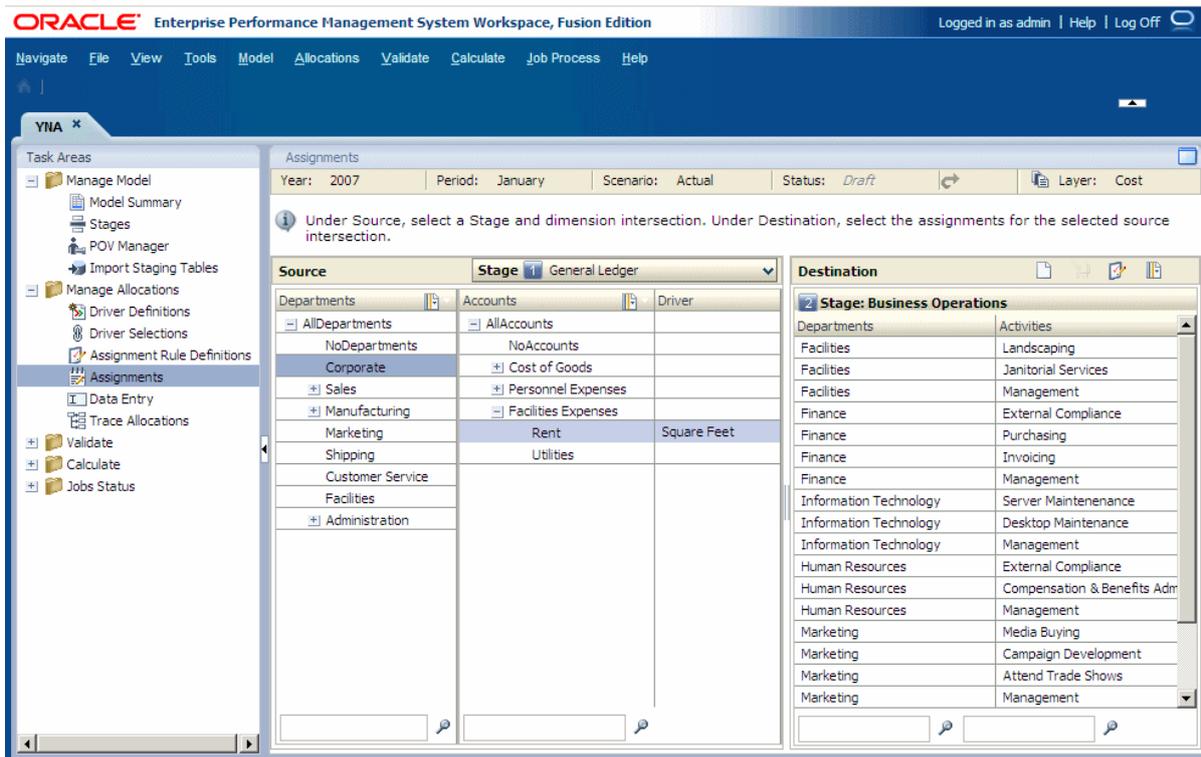
2. 選択したモデルのPOVおよびレイヤーを選択し、「実行」



をクリックします。

3. 「ステージ」で、割当てのステージを選択します。

ステージのディメンションおよびメンバーが表示されます。



4. 「ソース」で、割当てルールソースの交差を作成するディメンションごとに、メンバーを選択します。交差に関連付けられたドライバは、「ドライバ」列に示されます。

交差のすべてのディメンションが選択されている場合、「宛先」列には、次の情報が移入されます：

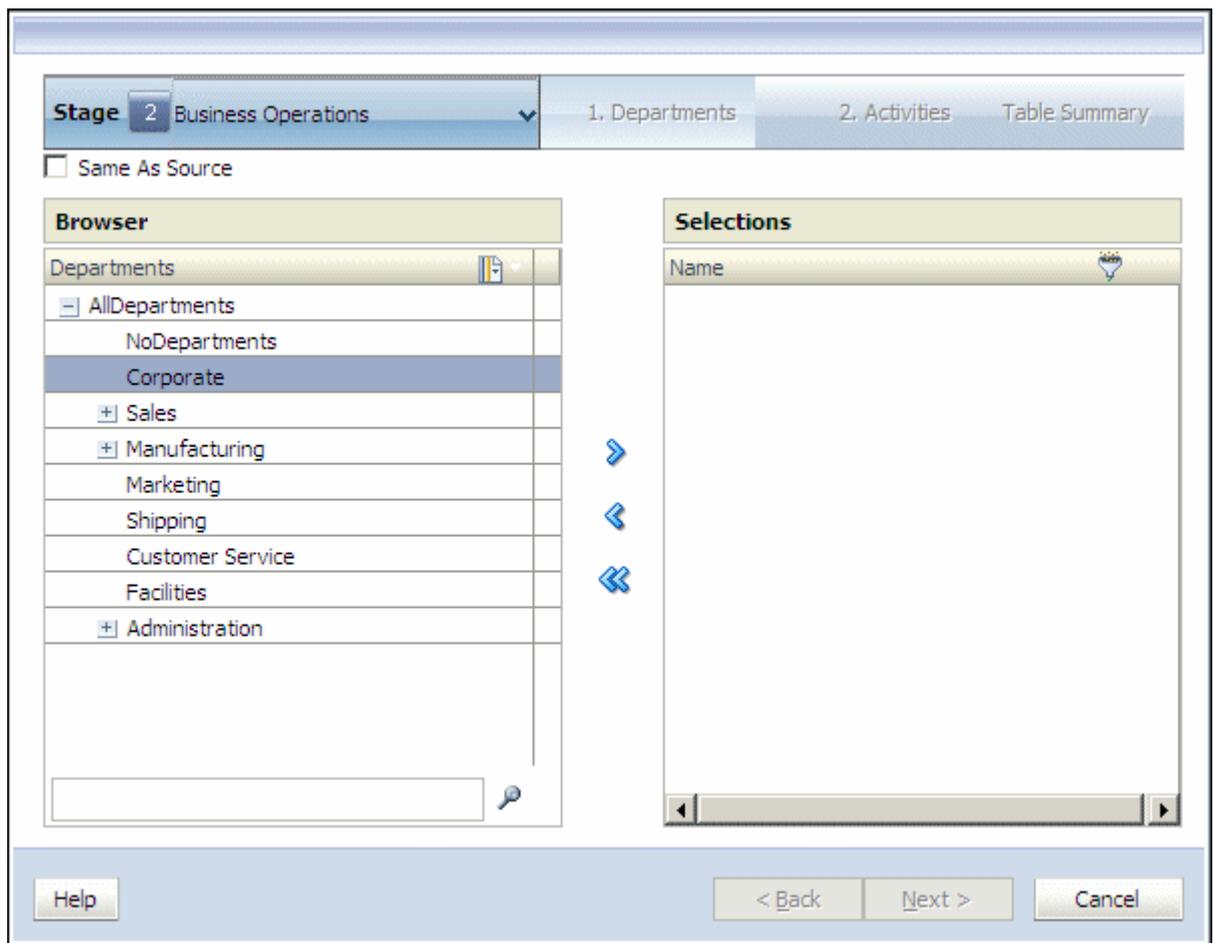
- 宛先ステージのディメンションおよびメンバー(交差に割当てがある場合)。
- 宛先ステージおよび割当てルール名(交差に適用されている場合)。

5. 「宛先」で、「割当てルール管理を開く」



をクリックします。

「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスが表示されます。

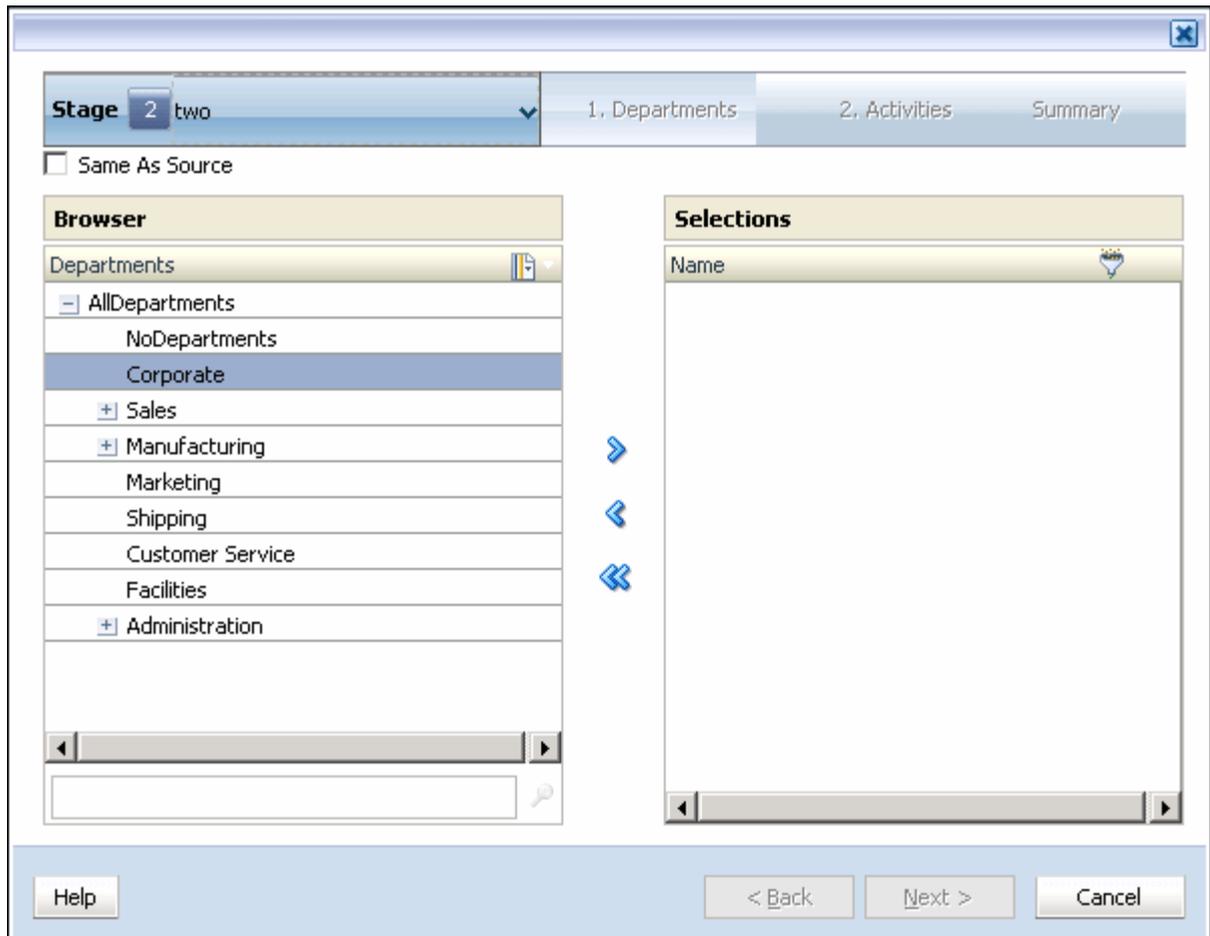


6. 「使用可能なルール」列で、「追加」



をクリックします。

「ルールの追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。



7. 「ステージ」で、ルールを作成するステージを選択します。
8. オプション: 1つまたは複数の宛先交差に対して単一のソースを使用する割当てルールを作成するには、「ソースと同じ」を選択します。

計算スクリプトが生成されると、選択したソースがルールに挿入され、適切な配賦が作成されます。

9. ステップ1で、割当てルールに使用する交差の最初のメンバーを選択します。
10. 「追加」



をクリックして、選択したメンバーを「選択」に移動します。

11. 「次」をクリックします。
12. オプション: 選択済の、レベル0でないディメンション・メンバーのリストをフィルタ処理します。

UDAつまり属性パラメータについてフィルタに値を入力するとき、文字列全体を入力します。ルールの名前フィルタでは、アスタリスク(\*)や疑問符(?)などのワイルドカード記号がサポートされます。たとえば、"B\*"と入力すると、文字"B"で始まる名前または別名を持つメンバーがフィルタされます。"\*B"は、フィルタがワイルドカードで始まることを意味しますが、これは許可されていないため使用できません。

[35ページのフィルタの使用](#)を参照してください。



注:

割当てルールの場合、フィルタの作成中にどちらのモード(「別名の表示」または「名前の表示」)が選択されていても、名前によるフィルタ基準がメンバー名と別名の両方に適用されます。

13. ステップ2で、割当ての宛先に使用する交差の2番目のメンバーを選択します。

14. 「追加」



をクリックして、選択したメンバーを「選択」に移動します。

すべてのメンバーを選択すると、「宛先選択要約」が表示されます。

15. 「次」をクリックします。

すべてのメンバーを選択すると、割当てルール要約が表示されます。

Selection Summary	
Departments	Activities
Corporate	Compensation & Benefits Admin

Rule Name: Corporate Benefits      Search Tag: Benefits

Rule Description:

Buttons: Help, < Back, Finish, Cancel

16. 選択が正しいかどうかを確認します。

17. 「ルール名」に、割当てルールの名前を入力します。ルール名は、80文字まで入力できます。

18. オプション: 後からルールを簡単に検索できるように、「検索タグ」を入力します。

19. オプション: 割当てルールの説明を入力します。

20. 「終了」をクリックします。

「ルール名」に表示されていたルール名が、「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスの「使用可能なルール」のリストに追加されます。

## 既存の割当てルールから割当てルールを作成

次の手順で、既存の割当てルールを編集し、「名前を付けて保存」オプションを使用して新しい割当てルールとして保存できます:

- 既存のルールを編集し、新しいルールとして保存します。
  - 既存のルールを編集し、内容を変更してルールの名前を変更します。
- ▶ 既存の割当てルールを新しいルールとして保存するには:
1. 「タスク領域」から、「配賦の管理」、次に「割当て」をクリックします。
  2. ソース・ステージおよび交差を選択します。
  3. コピーまたは変更する割当てルールを選択し、「編集」をクリックします。
  4. オプション: 割当てルールの選択項目を変更します。
  5. 「ルール名」で、新しいルールの名前を入力します。
  6. オプション: 後からルールを簡単に検索できるように、「検索タグ」を入力します。
  7. オプション: 割当てルールの説明を入力します。
  8. 「名前を付けて保存」をクリックし、ルールを新しい名前のもとで保存します。
  9. 「終了」をクリックします。

新しいルールが「使用可能なルール」に表示されます。

## 「ソースと同じ」割当てルールの作成

「ソースと同じ」割当てルールを定義する場合は、割当てルールを作成し、1つ、複数またはすべての宛先ステージ・ディメンションのメンバー選択でワイルド・カードを使用できるようにします。「ルール選択」を使用してこのルールが選択されると、「ソースと同じ」とマークされているディメンションでは、宛先ステージ・ディメンションおよびソース・ステージ・ディメンションの両方で同じメンバーが使用されます。



注:

ルール内で「ソースと同じ」メンバーの選択で使用されているレベル0のメンバーは、ソース・ステージ・ディメンションおよび宛先ステージ・ディメンションの両方の中で、レベル0のメンバーとして存在している必要があります。

「ソースと同じ」設定を含むルールは、ワイルドカードとして機能し、ルールを選択するたびに、新しい宛先として選択したディメンションの各メンバーを検索します。

計算スクリプトが生成されると、選択したソースがルールに挿入され、適切な配賦が作成されます。

## 例: 「ソースと同じ」割当てルール

モデルには、配賦に必要なディメンションが2つあります:

- Products (ColaおよびLime)

- Regions (USおよびCan)

たとえば、割当てルール「Rule 1」は、「Products」というディメンションをあらゆる配賦のソースとして使用するために作成されます。「ソースと同じ」割当てルールを作成して適用する手順は、次のとおりです。

- 1番目の配賦を実行する場合は、関連付けられているメンバー「Cola」、「宛先」として「US」、「Rule 1」の順に選択します。計算スクリプトが生成されると、選択したソース「Product (Cola) X US」が挿入されます。
- 2番目の配賦を実行する場合は、関連付けられているソース・メンバー「Lime」、「宛先」として「US」、「Rule 1」の順に選択します。今度は、計算スクリプトが生成されると、選択したソース「Product (Lime) X US」が挿入されます。

▶ 「ソースと同じ」割当てルールを作成するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当て」の順に選択します。

「割当て」画面が表示されます。

2. 選択したモデルのPOVおよびレイヤーを選択し、「実行」



をクリックします。

3. 「ステージ」で、割当てのステージを選択します。

ステージのディメンションおよびメンバーが表示されます。

The screenshot shows the Oracle Enterprise Performance Management System Workspace, Fusion Edition interface. The 'Assignments' window is open, displaying a table for 'Source' and 'Destination'. The 'Source' table has columns for Departments, Accounts, and Driver. The 'Destination' table has columns for Departments and Activities. The 'Stage' is set to 'General Ledger'.

Source			Destination	
Departments	Accounts	Driver	Departments	Activities
AllDepartments	AllAccounts		Stage: Business Operations	
NoDepartments	NoAccounts		Facilities	Landscaping
Corporate	Cost of Goods		Facilities	Janitorial Services
Sales	Personnel Expenses		Facilities	Management
Manufacturing	Facilities Expenses		Finance	External Compliance
Marketing	Rent	Square Feet	Finance	Purchasing
Shipping	Utilities		Finance	Invoicing
Customer Service			Finance	Management
Facilities			Information Technology	Server Maintenance
Administration			Information Technology	Desktop Maintenance
			Information Technology	Management
			Human Resources	External Compliance
			Human Resources	Compensation & Benefits Adm
			Human Resources	Management
			Marketing	Media Buying
			Marketing	Campaign Development
			Marketing	Attend Trade Shows
			Marketing	Management

4. 「ソース」で、割当てルールのソースの交差を作成するディメンションごとに、メンバーを選択します。

関連付けられたドライバは「ドライバ」列に示されます。「宛先」列には、次の情報が移入されます:

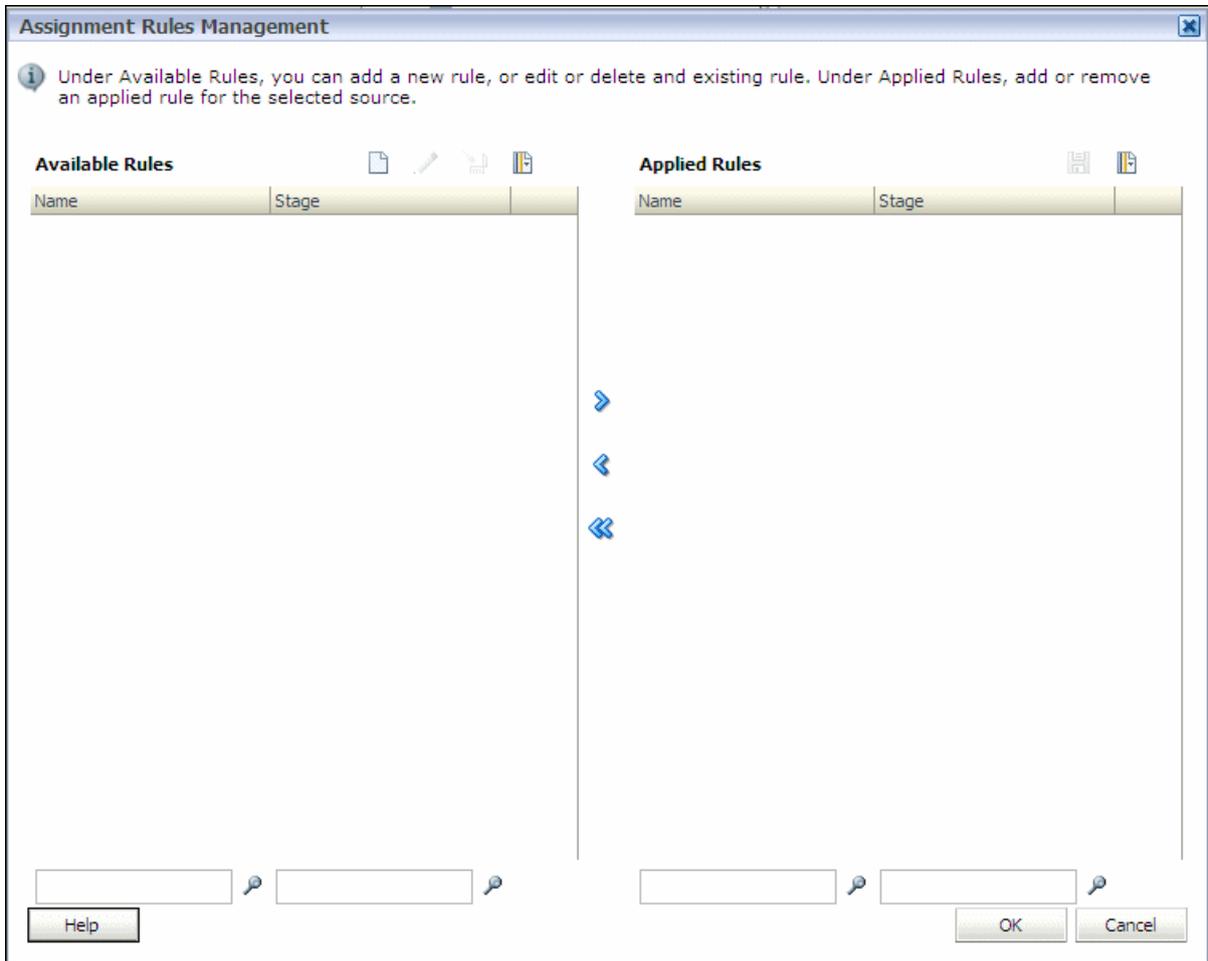
- 宛先ステージのディメンションおよびメンバー(交差に割当てがある場合)
- 宛先ステージおよび割当てルールの名前(交差に適用されている場合)。

5. 「宛先」で、ルール管理



をクリックします。

「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスが表示されます。



6. 「使用可能なルール」列で、「追加」



をクリックします。

「ルールの追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。

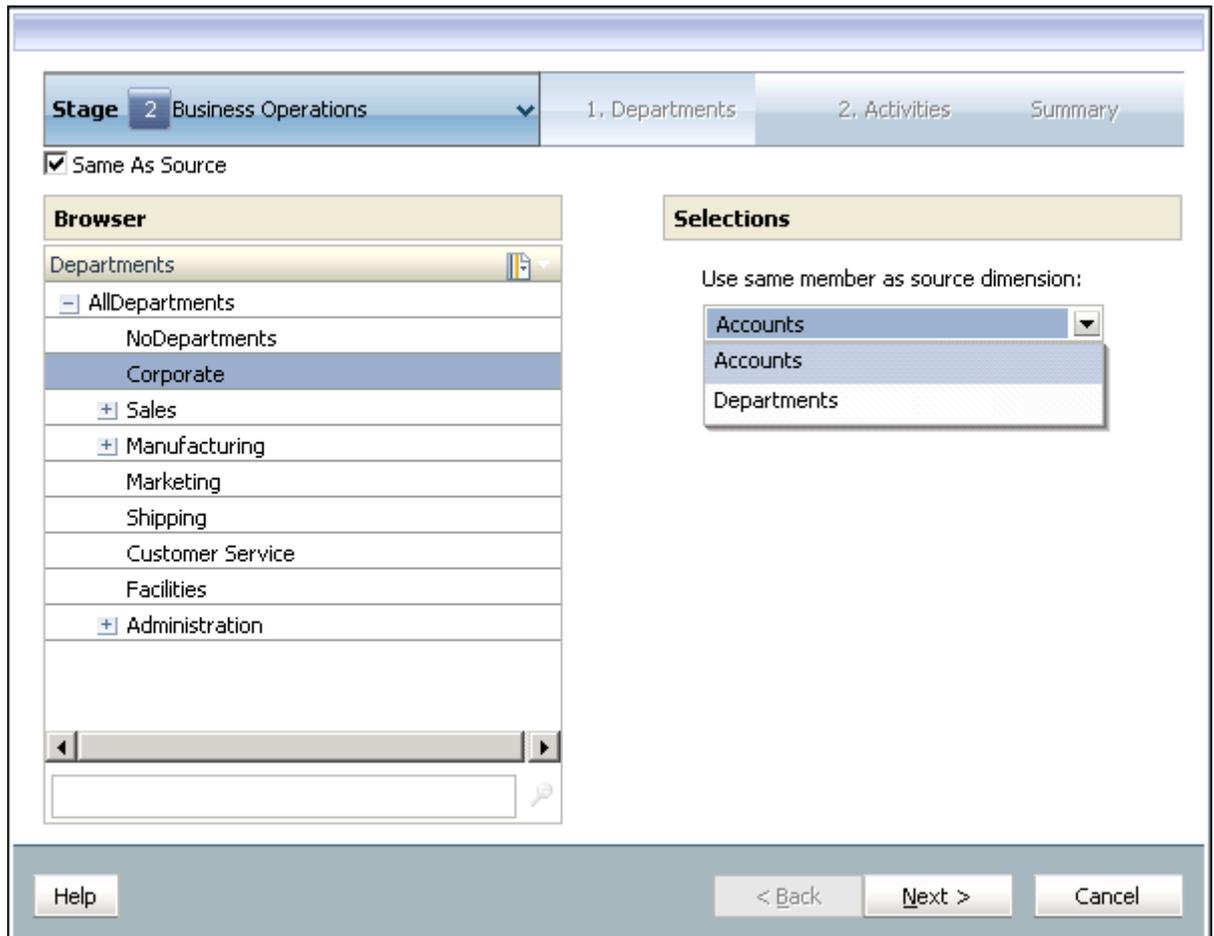
7. 「ステージ」で、ルールが作成された宛先ステージを選択します。
8. 手順1で、「ソースと同じ」を選択し、1つ以上の宛先交差に対して単一のソースを使用する割当てルールを作成します。

計算スクリプトが生成されると、選択したソースがルールに挿入され、適切な配賦が作成されます。



注:

「ソースと同じ」を選択すると、ディメンションのメンバー選択と「フィルタ」アイコンが使用不可になります。これは、定義されたソース内ではメンバーが初めから事前選択されていたためです。このディメンションでは、新しいメンバーの選択は必要がなく許可されていません。



9. 「選択」で、「ソース・ディメンションと同じメンバーを使用」ドロップダウン・リストから、各配賦についてデフォルトのソース・ディメンションとするディメンションを選択します。
10. 「次」をクリックします。
11. 手順2で、124ページのステップ 8から 125ページのステップ 9までを繰り返し、割当ての「宛先」の各交差メンバーを選択します。
12. 「次」をクリックします。

割当てルール要約が表示されます。

The screenshot shows a software window with a 'Stage' dropdown menu set to '2 Business Operations'. Below this is a 'Selection Summary' section with two columns: 'Departments' and 'Activities'. Under 'Departments', there is a row 'Use same member as source dimension:' and a row 'Accounts'. Under 'Activities', there is a row 'Purchasing'. At the bottom of the window, there is a 'Rule Name' field containing the text 'Purchasing'. Below the field are four buttons: 'Help', '< Back', 'Finish', and 'Cancel'.

13. 選択内容を確認します。
14. 「ルール名」に、ソースと同じ割当てルールの名前を入力します。割当てルール名には80文字まで入力できます。
15. 「終了」をクリックします。

「ルール名」に表示されていたルール名が、「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスの「使用可能なルール」のリストに追加されます。

## 割当てルールの変更

宛先ステージ、選択されたディメンション・メンバー、フィルタ・セット、および既存の割当てルールのルール名、ルールの説明および検索タグを変更できます。

▶ 割当てルールを変更するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当て」の順に選択します。

「割当て」画面が表示されます。

2. 選択したモデルのPOVおよびレイヤーを選択し、「実行」



をクリックします。

3. 「ステージ」で、変更する割当てルールのステージを選択します。

ステージのディメンションおよびメンバーが表示されます。

4. 「ソース」で、割当てルールのソースの交差を構成するメンバーを選択します。

関連付けられているドライバが適切な「ドライバ」列に表示されます。「宛先」列のアイコンがアクティブになります。

5. 「宛先」で、「割当てルール管理を開く」



をクリックします。

「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスが表示されます。

6. 変更するルールを選択して、「変更」



をクリックします。

「ルールの編集」ダイアログ・ボックスが表示されます。



注:

必要に応じて、フィルタを変更します。[35ページのフィルタの使用](#)を参照してください。

7. 「ルールの編集」ダイアログ・ボックスにある各「ステップ」の「選択」で、必要に応じて、矢印キーを使用してメンバーの追加や削除を行い、ルール交差に選択されたディメンション・メンバーを変更し、「次へ」をクリックします。

すべてのディメンションの変更が完了したら、ルールの編集要約が表示されます。

8. ルールの編集要約で、選択内容を確認します。
9. オプション: 「ルール名」で、割当てルールに異なる名前を入力します。ルール名は、80文字まで入力できます。
10. 適切なオプションを選択し、ルールを保存します:

- ・ 変更したルールを元のルール名で保存する場合は、「保存」をクリックします。
- ・ 別のルール名で新しいルールを作成する場合は、「名前を付けて保存」をクリックします。

11. 「終了」をクリックします。

変更したルールが「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスの「使用可能なルール」リストに表示されます。

## 割当てルールの削除

- ▶ 割当てルールを削除するには:

1. 削除する割当てルールを他のユーザーが必要としていないことを確認します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当て」の順に選択します。

「割当て」画面が表示されます。

3. 選択したモデルのPOVおよびレイヤーを選択し、「実行」



をクリックします。

4. 「ステージ」で、削除する割当てルールのステージを選択します。

ステージのディメンションおよびメンバーが表示されます。

5. 「ソース」で、割当てルールのソースの交差を構成するメンバーを選択します。

関連付けられているドライバが適切な「ドライバ」列に表示されます。「宛先」列のアイコンがアクティブになります。

6. 「宛先」で、ルール管理



をクリックします。

「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスが表示されます。

7. 「使用可能なルール」で、削除するルールを選択し、「削除」



をクリックします。

削除を確認するメッセージが表示されます。



---

#### 注意

ルールとルール選択が削除されるため、割当てルールを削除すると、モデル・データの計算に影響があります。

---

8. 「はい」をクリックします。

ルールが「使用可能なルール」リストから削除されます。

9. 「OK」をクリックします。

## 既存の割当てルールの適用

▶ 割当てルールを適用するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当て」の順に選択します。

「割当て」画面が表示されます。

2. 選択したモデルのPOVおよびレイヤーを選択し、「実行」



をクリックします。

3. 「ステージ」で、割当てルールを適用するステージを選択します。

ステージのディメンションおよびメンバーが表示されます。

4. 「ソース」で、割当てルールを適用するソースに対して、交差を作成するメンバーを選択します。

関連付けられているドライバが適切な「ドライバ」列に表示されます。「宛先」列のアイコンがアクティブになります。

5. 「宛先」で、ルール管理



をクリックします。

「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスが表示されます。

6. 「使用可能なルール」で、この交差に適用する割当てルールを選択します。

## 7. 「追加」



をクリックして、選択した割当てルールを「適用済ルール」に移動し、「OK」をクリックします。

割当てルールが、選択した割当てに適用されます。

## 既存の「ソースと同じ」割当てルールの適用

▶ 「ソースと同じ」割当てルールを適用するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当て」の順に選択します。

「割当て」画面が表示されます。

2. 選択したモデルのPOVおよびレイヤーを選択し、「実行」



をクリックします。

3. 「ステージ」で、割当てルールを適用するステージを選択します。

ステージのディメンションおよびメンバーが表示されます。

4. 「ソース」で、割当てルールを適用するソースに対して、交差を作成する各ディメンションのメンバーを選択します。

5. 「宛先」で、「割当てルール管理」



をクリックします。

「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスが表示されます。

6. 「使用可能なルール」で、「ソースと同じ」オプションを使用して、この交差に適用する割当てルールを選択し、「OK」をクリックします。

7. 「追加」



をクリックして、選択した割当てルールを「適用済ルール」に移動し、「OK」をクリックします。割当てルールが、選択した交差に適用されます。

計算スクリプトが生成されると、選択したソース・メンバーおよびディメンション・メンバーが挿入され、正しい配賦結果が生成されます。

## 既存割当てルールの選択の削除

▶ 割当てルールの選択を削除するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当て」の順に選択します。

「割当て」画面が表示されます。

2. 選択したモデルのPOVおよびレイヤーを選択し、「実行」



をクリックします。

3. 「ステージ」で、削除する割当てルールを含むステージを選択します。

ステージのディメンションおよびメンバーが表示されます。

4. 「ソース」で、削除する割当てルールソースに対する交差を作成するメンバーを選択します。

関連付けられているドライバが適切な「ドライバ」列に表示されます。「宛先」列のアイコンがアクティブになります。

5. 「宛先」で、「割当てルール管理」



をクリックします。

「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスが表示されます。

6. 「適用済ルール」で、この割当てから削除する割当てルールを選択します。
7. 選択した割当てルールを「使用可能なルール」に移動する場合は、



「削除」、「OK」の順にクリックします。

割当てルールが、選択した割当てから削除されます。

## 「割当てルール定義」画面の使用

「タスク領域」ペインから使用可能な「割当てルール定義」画面では、割当てルールの作成と管理を行えるほか、割当てルールの完全なリストを1つの場所に簡単に表示できます。ただし、このオプションでは、ルールをソースに適用できません。

「割当てルール定義」画面には、割当てルール名と説明、および宛先ステージが表示されます。関連付けられた検索タグが一覧表示され、割当てルールを作成または変更したユーザーのIDが表示されます。割当てルールが割当てルールウィザードと「割当てルール定義」画面のいずれで作成されたかにかかわらず、すべての割当てルールを使用できます。

次の手順を使用します：

- 131ページの割当てルール定義の作成
- 134ページの「ソースと同じ」割当てルール定義の作成
- 138ページの割当てルール定義の変更
- 140ページの割当てルール定義の削除

## 割当てルール定義の作成

▶ 割当てルール定義を作成するには：

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当てルール定義」の順に選択します。

「割当てルール定義」画面が表示されます。この画面には、割当てルール名と説明、および宛先ステージが表示されます。関連付けられた検索タグが一覧表示され、割当てルールを作成または変更したユーザーのIDが表示されます。

Oracle Enterprise Performance Management System Workspace, Fusion Edition  
Logged in as admin | Help | Log Off

Assignment Rule Definitions

Click Add to display the Assignment Rule Definition Wizard. Enter selections for the new Assignment Rule in the wizard, and then click OK. To modify an assignment rule, select the rule, and then click Modify. Change the Rule as required, and then click OK.

Name	Description	Stage	Search Tag	Created By
Maintenance		Business Operations	Corp_Maint	admin
Corporate Benefits		Business Operations	Benefits	admin

## 2. 「追加」



をクリックします

割当てルール・ウィザードが表示されます。

The screenshot shows a software window titled "Allocation Rule Wizard". At the top, there are three tabs: "1. Departments", "2. Activities", and "Table Summary". The "2. Activities" tab is currently selected. Below the tabs, there is a "Stage" dropdown menu set to "2 Business Operations". A checkbox labeled "Same As Source" is unchecked. The main area is divided into two panels: "Browser" on the left and "Selections" on the right. The "Browser" panel contains a tree view of departments: "AllDepartments", "NoDepartments", "Corporate" (highlighted), "Sales", "Manufacturing", "Marketing", "Shipping", "Customer Service", "Facilities", and "Administration". There are blue arrows between the panels, and a search box at the bottom of the browser. The "Selections" panel is empty. At the bottom of the window, there are buttons for "Help", "< Back", "Next >", and "Cancel".

3. ステップ1では、「ブラウザ」の下で、割当てルールに交差の最初のメンバーを選択します。

## 4. 「追加」



をクリックして、選択したメンバーを「選択」に移動し、「次へ」をクリックします。

5. ステップ2の「ブラウザ」の下で、割当ての宛先として交差の2番目のメンバーを選択します。

## 6. 「追加」



をクリックして、選択したメンバーを「選択」に移動し、「次へ」をクリックします。必要に応じて、その他のディメンションに対してこのステップを繰り返します。

交差のすべてのメンバーを選択すると、宛先選択の要約が表示されます。

<b>Stage</b> 2 Business Operations		1. Departments	2. Activities	Table Summary
<b>Selection Summary</b>				
Departments		Activities		
Corporate		Compensation & Benefits Admin		
Rule Name		Corp Benefits	Search Tag	Benefits_Corp
Rule Description				
Help		< Back	Finish	Cancel

7. オプション: 選択済の、レベル0でないディメンション・メンバーのリストをフィルタ処理します。

UDAつまり属性パラメータについてフィルタに値を入力するとき、文字列全体を入力します。ルールの名前フィルタでは、アスタリスク(\*)や疑問符(?)などのワイルドカード記号がサポートされます。たとえば、"B\*"と入力すると、文字"B"で始まる名前または別名を持つメンバーがフィルタされます。"\*B"は、フィルタがワイルドカードで始まることを意味しますが、これは許可されていないため使用できません。

[35ページのフィルタの使用](#)を参照してください。



注:

割当てルールの場合、フィルタの作成中にどちらのモード(「別名の表示」または「名前の表示」)が選択されていても、名前によるフィルタ基準がメンバー名と別名の両方に適用されます。

8. 新しいルールについて次の情報を入力します:

- ルール名 - ルール名には、80文字まで入力できます。
- 検索タグ - 検索タグには、80文字まで入力できます。
- ルールの説明

9. 「終了」をクリックします。

「ルール名」に表示されていたルール名が、「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスの「使用可能なルール」のリストに追加されます。

10. 選択が正しいかどうかを確認します。
11. 「ルール名」に、割当てルールの名前を入力します。ルール名は、80文字まで入力できます。
12. 「終了」をクリックします。

「ルール名」に表示されていたルール名が、「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスの「使用可能なルール」のリストに追加されます。

## 「ソースと同じ」割当てルール定義の作成

「ソースと同じ」割当てルールを定義する場合は、割当てルールを作成し、1つ、複数またはすべての宛先ステージ・ディメンションのメンバー選択でワイルド・カードを使用できるようにします。「ルール選択」を使用してこのルールが選択されると、「ソースと同じ」とマークされているディメンションでは、宛先ステージ・ディメンションおよびソース・ステージ・ディメンションの両方で同じメンバーが使用されます。



注:

ルール内で「ソースと同じ」メンバーの選択で使用されているレベル0のメンバーは、ソース・ステージ・ディメンションおよび宛先ステージ・ディメンションの両方の中で、レベル0のメンバーとして存在している必要があります。

「ソースと同じ」設定を含むルールは、ワイルドカードとして機能し、ルールを選択するたびに、新しい宛先として選択したディメンションの各メンバーを検索します。

計算スクリプトが生成されると、選択したソースがルールに挿入され、適切な配賦が作成されます。

▶ 「ソースと同じ」割当てルール定義を作成するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当てルールの定義」の順に選択します。

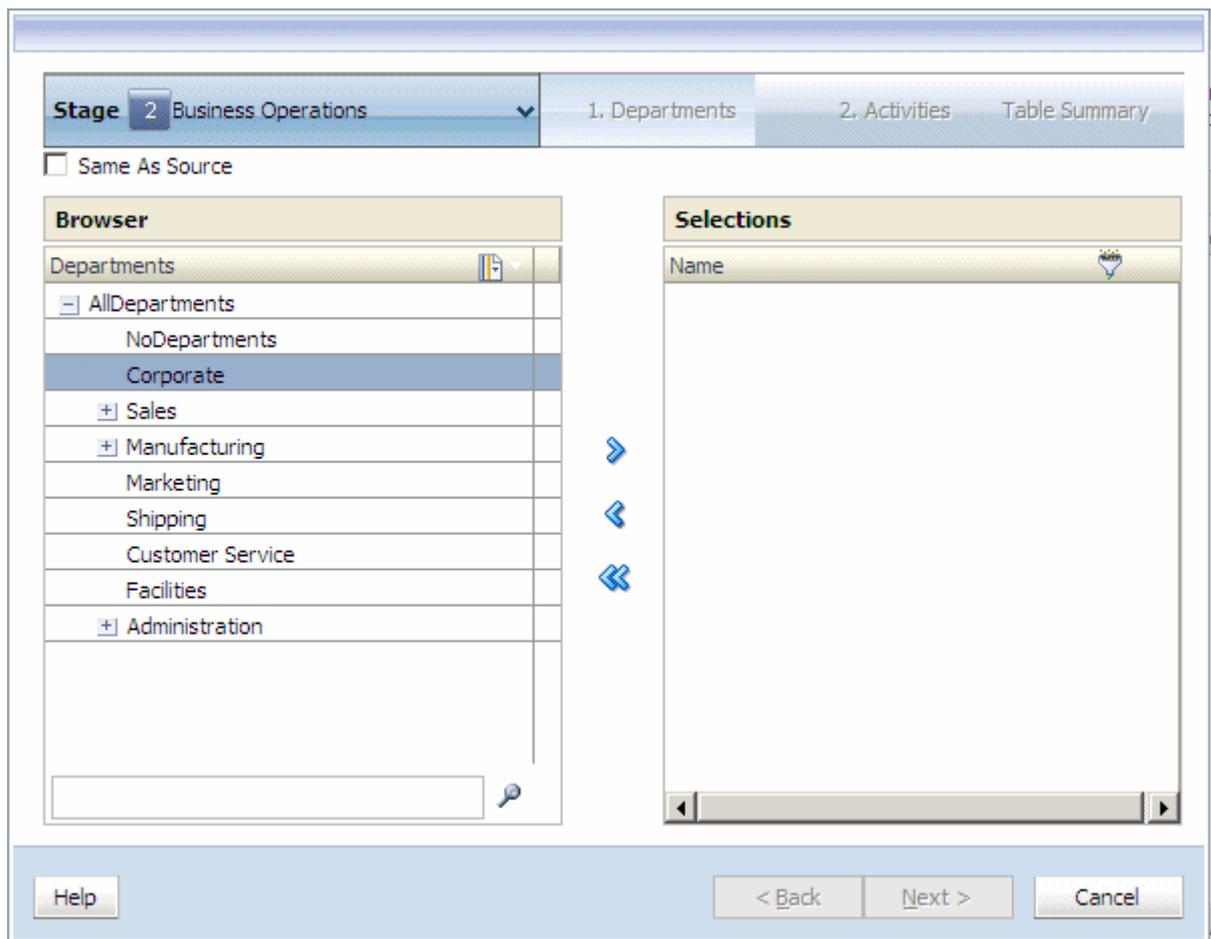
「割当てルールの定義」画面が表示されます。

2. 「追加」



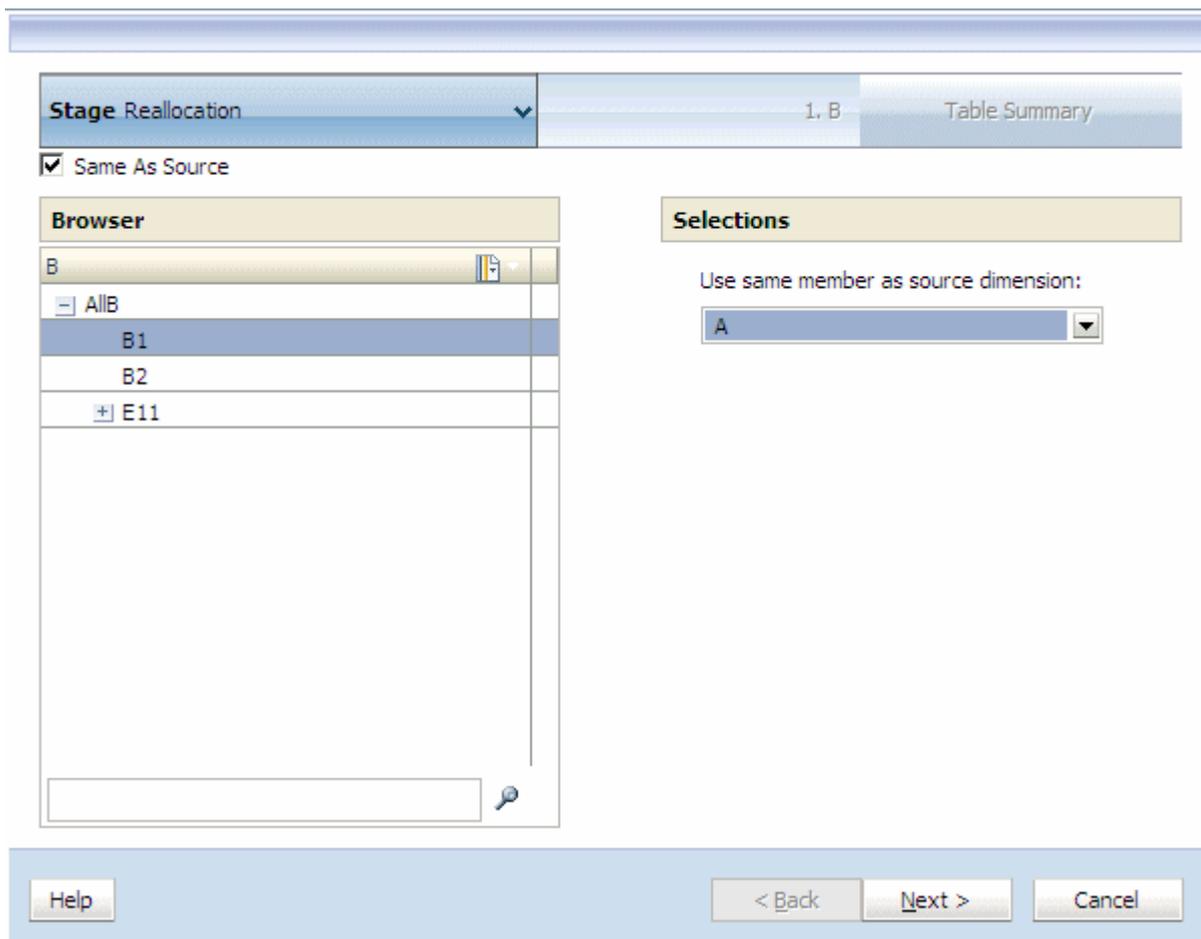
をクリックします。

割当てルール・ウィザードが表示されます。



3. 「ブラウザ」の下で、交差の最初のメンバーを選択します。
4. 「ブラウザ」の上にある「ソースと同じ」をクリックします。

画面の「選択」列が変わり、「ソースと同じ」ドロップダウン・リストが表示されます。



5. 「選択」の下で、割当てルールのソースとして使用するディメンションを選択し、「次へ」をクリックします。

Stage	2 Reallocation	1. B	Table Summary
<b>Selection Summary</b>			
B			
Use same member as source dimension:			
A			
Rule Name	<input type="text"/>	Search Tag	<input type="text"/>
Rule Description	<input type="text"/>		
Help		< Back	Finish
			Cancel

6. 「終了」をクリックします。

「ルール名」に表示されていたルール名が、「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスの「使用可能なルール」のリストに追加されます。

7. 「追加」



をクリックして、選択したメンバーを「選択」に移動し、「次へ」をクリックします。

8. ステップ2の「ブラウザ」の下で、割当ての宛先として交差の2番目のメンバーを選択します。

9. 「追加」



をクリックして、選択したメンバーを「選択」に移動し、「次へ」をクリックします。必要に応じて、その他のディメンションに対してこのステップを繰り返します。

交差のすべてのメンバーを選択すると、宛先選択の要約が表示されます。

The screenshot shows a software interface for rule management. At the top, there is a navigation bar with 'Stage 2 Business Operations' selected, and sub-steps '1. Departments', '2. Activities', and 'Table Summary'. Below this is a 'Selection Summary' section with a table:

Departments	Activities
Corporate	Compensation & Benefits Admin

Below the table, there are input fields for 'Rule Name' (Corp Benefits), 'Search Tag' (Benefits\_Corp), and 'Rule Description'. At the bottom, there are buttons for 'Help', '< Back', 'Finish', and 'Cancel'.

10. 新しいルールについて次の情報を入力します:

- ルール名。ルール名には、80文字まで入力できます。
- 検索タグ。検索タグには、80文字まで入力できます。
- ルールの説明

11. 「終了」をクリックします。

「ルール名」に表示されていたルール名が、「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスの「使用可能なルール」のリストに追加されます。

## 割当てルール定義の変更

任意の割当てルール定義を変更できます。

変更した割当てルール定義をオリジナルとして保存することも、名前を変更して新しい割当てルール定義を作成することもできます。

▶ 割当てルール定義を変更するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当てルールの定義」の順に選択します。

「割当てルールの定義」画面が表示されます。

2. 変更する割当てルールを選択します。

3. 「選択した割当てルール編集」



をクリックします。

割当てルール・ウィザードが表示されます。

4. オプション: ステップ1では、「ブラウザ」の下で「追加」矢印または「削除」矢印を使用して、該当するメンバーを「選択」列の下に移動し、「次へ」をクリックします。
5. オプション: ステップ1の「ブラウザ」の下で「追加」矢印または「削除」矢印を使用して、該当するメンバーを「選択」列の下に移動し、「次へ」をクリックします。

必要に応じて、その他のディメンションに対してこのステップを繰り返します。交差のすべてのメンバーを選択すると、宛先選択の要約が表示されます。

Selection Summary	
B	F
F2	F21
B31	F22

Rule Name: R12      Search Tag: undefined

Rule Description: undefined       Save       Save As

Buttons: Help, < Back, Finish, Cancel

6. 割当てルールに対する変更を確認します。
7. オプション: 既存の割当てルールへの変更を同じルール名で保存する場合は、「保存」をクリックして、既存のルール名の検索タグとルールの説明を入力し、「終了」をクリックします。

変更した割当てルールが保存されます。

8. オプション: 割当てルールを新しい割当てルールとして保存する場合は、「名前を付けて保存」をクリックして、新しいルール名、検索タグおよびルールの説明を入力し、「終了」をクリックします。

新しい割当てルールが選択したディメンションに新しいルール名で保存されます。with the selected dimensions under the new rule name.

## 割当てルール定義の削除

▶ 割当てルールを削除するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当てルールの定義」の順に選択します。

「割当てルールの定義」画面が表示されます。

2. 削除する割当てルールを選択します。
3. 「割当てルールの削除」



をクリックします。

削除確認メッセージが表示されます。

4. 「はい」をクリックします。

選択した割当てルール定義が「割当てルールの定義」リストから削除されます。

# データの入力ウィンドウの使用方法

Profitability and Cost Managementのデータの入力ウィンドウを使用してデータの追加、編集および確認を実行できます。

事前に定義されたいくつかのビューが用意された標準データ入力ビューは、アプリケーションをデプロイメントすると使用できるようになります。また、メジャーのセット(メジャー・ディメンションのメンバー)を含むカスタマイズした編集ビューを作成してデータを見やすくなります。この方法は頻繁に更新する必要のあるデータのセットがある場合に便利です。

様々なタイプのデータ入力ビューを作成できます:

- 標準データ入力ビューは、アプリケーションのデプロイメント後に使用でき、事前に定義されたビューが提供されません。141ページの標準データ入力ビューを参照してください。
- ユーザー定義のカスタム・データ入力ビューの定義は、Profitability and Cost Managementスキーマに格納されます。ビューはアプリケーションごとに定義され、すべてのユーザー間で共有されます。この機能は名前付きビューにのみ適用されます。
- アドホック・ビューはユーザー・プリファレンスに格納され、ユーザー間で共有されることはありません。これらのビューは、ユーザーがメジャーを選択し、「保存」ではなく「適用」をクリックすると作成されます。

データを手動で管理する方法については、次の項を参照してください:

- 141ページの標準データ入力ビュー
- 143ページのカスタム編集ビューの作成
- 146ページのステージ・データの編集
- 146ページのデータの手動編集
- 147ページのドライバ・データの編集
- 147ページの編集ビューの削除

## 標準データ入力ビュー

Performance Management ArchitectからProfitability and Cost Managementにアプリケーションをデプロイメントすると、標準データ入力ビューが作成されます。これらのビューを使用して、費用の賃借一致、ドライバ統計と費用統計、およびステージ内割当ての詳細のデータの詳細を迅速かつ簡単に評価できます。

標準データ入力ビューでは、関連するメジャーの選択が「データの入力」画面に表示されます。必要な場合は、標準データ入力ビューを必要に応じて変更して、結果を自分の組織向けにカスタマイズできます。

「データの入力」画面の「使用可能なビュー」から標準データ入力ビューを選択すると、次の表に示すように、画面はそのビューの関連メジャーを反映するように変わります:

表10 標準データ入力ビュー

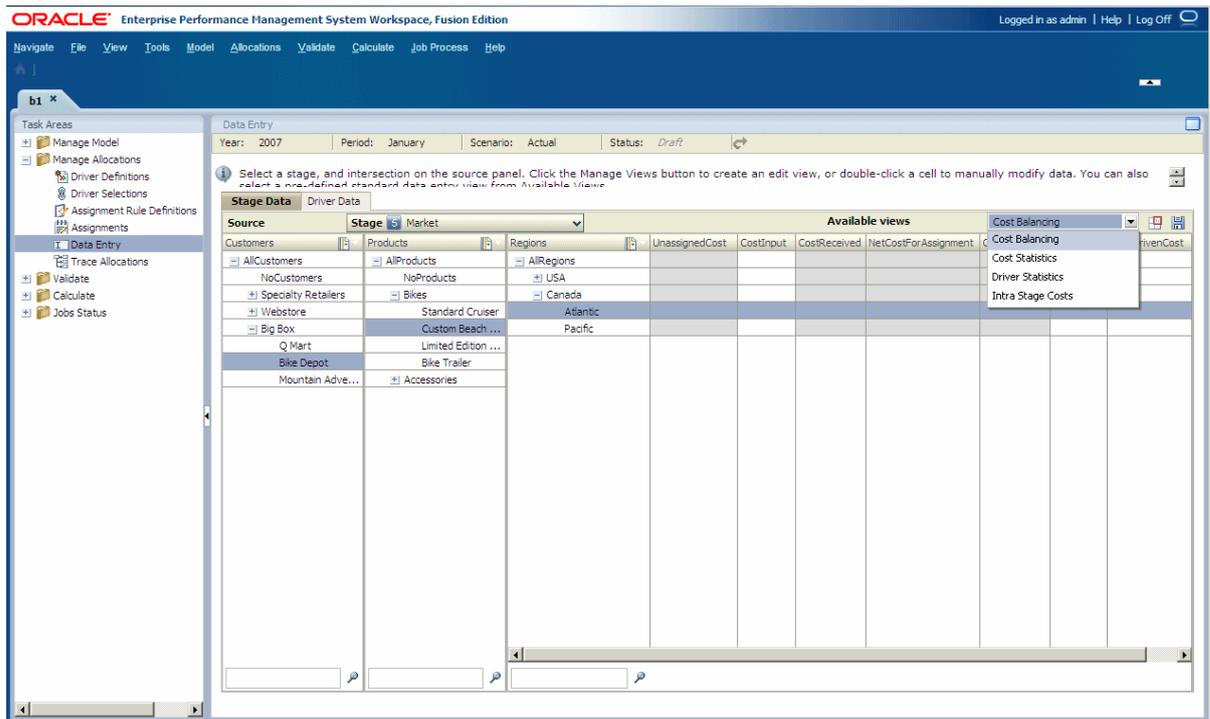
データ入力ビュー	関連付けられたメジャー
費用の賃借一致	• UnassignedCost

データ入力ビュー	関連付けられたメジャー
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CostInput</li> <li>• CostReceived</li> <li>• NetCostForAssignment</li> <li>• 割当て済費用</li> <li>• IdleCost</li> <li>• OverDrivenCost</li> </ul>
ドライバ統計	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CostPerDriverUnit</li> <li>• TotalDriverValue</li> <li>• OverRideTotalDriverValue</li> <li>• IdleDriverValue</li> </ul>
費用統計	<ul style="list-style-type: none"> <li>• NetCostForAssignment</li> <li>• UnitCost</li> <li>• Quantity</li> </ul>
ステージ内費用 このビューは、モデルがステージ内割当てをサポートするステージを持たない場合でも使用できます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CostInput</li> <li>• CostReceivedPriorStage</li> <li>• CostReceivedIntraStage</li> <li>• NetReciprocalCost</li> <li>• NetCostForAssignment</li> <li>• CostAssignedIntraStage</li> <li>• NetCostAfterIntraStage</li> </ul>

▶ 標準データ入力ビューを表示するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「データの入力」の順に選択します。
2. 「データの入力」画面で必要なPOVを選択し、「実行」  
 をクリックします。
3. 「ステージ・データ」タブの「ステージ」で、ソース・ステージを選択します。
4. 「使用可能なビュー」で、標準データ入力ビューを選択します。

選択したデータ入力ビューの関連付けられたメジャーが、「データの入力」画面に表示されます。



5. オプション: 関連付けられたメジャーを追加または削除して、選択した標準データ入力ビューを自分の組織に合わせてカスタマイズします。詳細は、[143ページのカスタム編集ビューの作成](#)を参照してください。

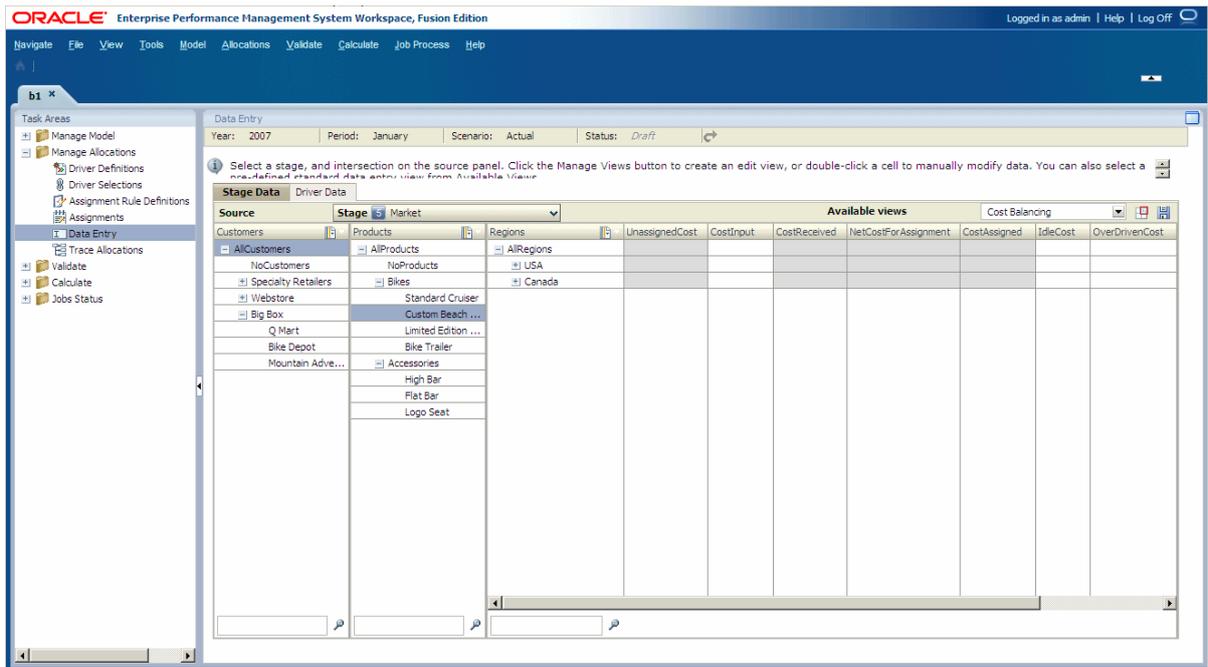
## カスタム編集ビューの作成

編集ビューを使用すると、シナリオの実行や最新情報の取得で頻繁に変更するデータを簡単に編集できます。保存済のビューは「使用可能なビュー」リストから選択できます。

▶ 編集ビューを作成するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「データの入力」の順に選択します。

「データの入力」画面が表示されます。



2. 変更するデータのPOVを選択し、「実行」



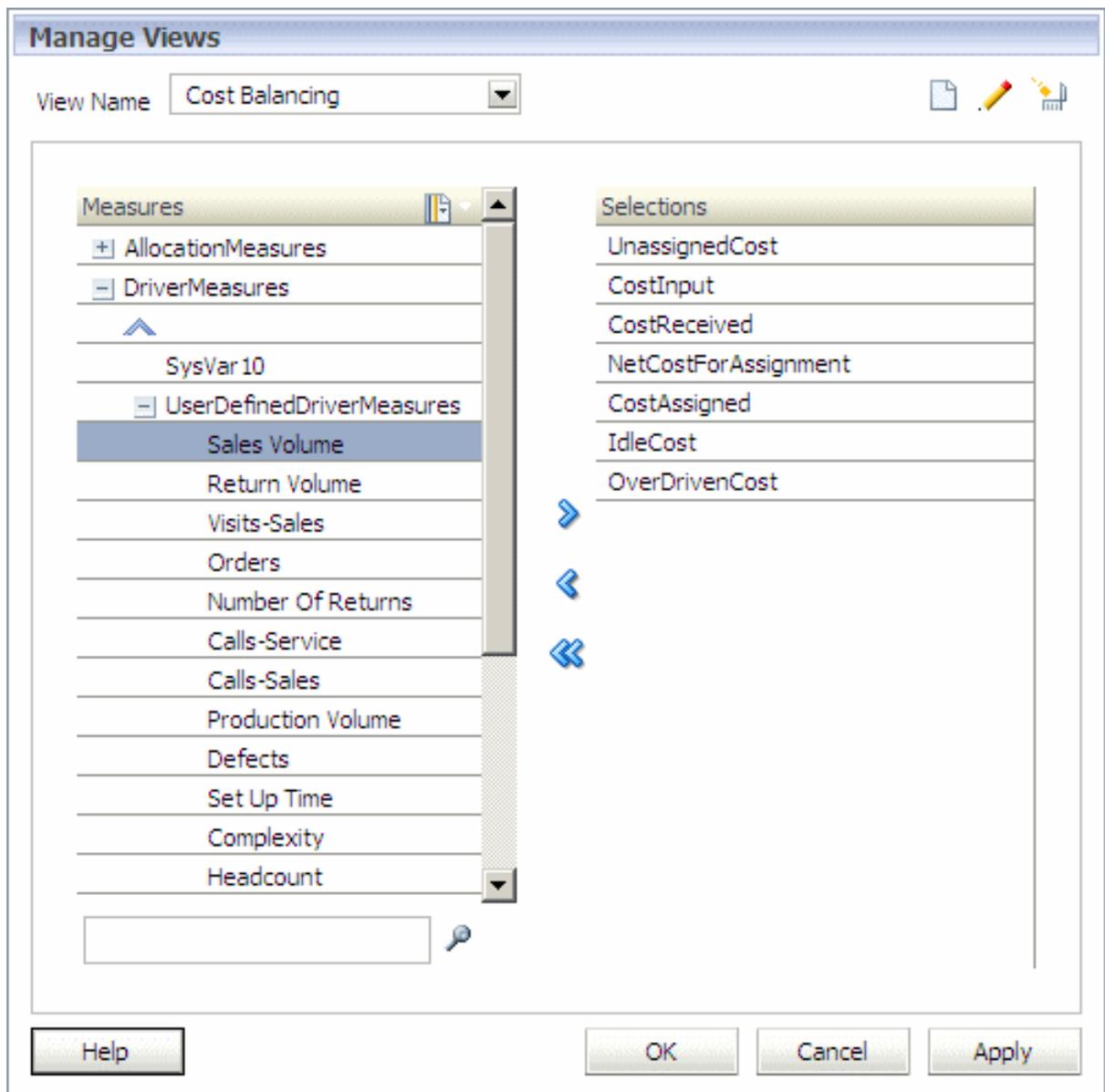
をクリックします。

3. 「ステージ」の下でソース・ステージを選択します。
4. 「ステージ・データ」タブで、「ビューの管理」



をクリックします。

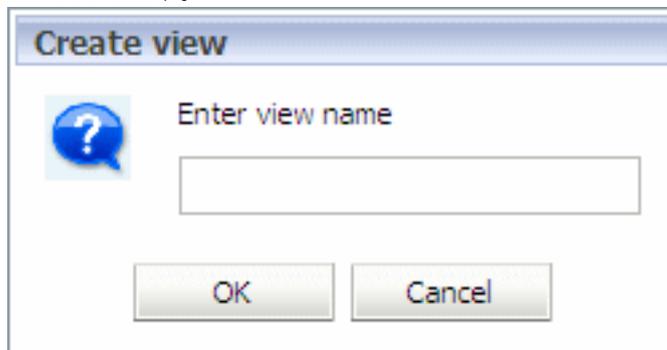
「ビューの管理」ダイアログ・ボックスが表示されます。



5. 「追加」



をクリックします。



6. 「ビューの作成」ダイアログ・ボックスで、新規ビューの名前を入力し、「OK」をクリックします。

7. 「メジャー」の下で、ビューで使用する1つまたは複数のメジャーを選択して、「追加」



をクリックすることでメジャーを「選択」リストに移動します。

8. 次のいずれかのアクションを行います:

- 1回のみ使用する編集ビューを一時的に保存する場合は、「適用」をクリックします。
- 繰り返し使用する編集ビューを保存する場合は、「OK」をクリックします。

新規編集ビューの名前が「使用可能なビュー」リストに追加されます。

## データの手動編集

一部のインスタンスでは、データを変更してエントリを修正、または値を変更する必要があります。データの入力・ウィンドウを使用してデータにアクセスし、手動で変更してください。

▶ データを手動で変更するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「データの入力」の順に選択します。

「データの入力」画面が表示されます。

2. 変更するセルを含むタブを選択します:

- ステージ・データ
- ドライバ・データ

3. [146ページのステージ・データの編集](#)の説明のとおりデータ編集します。

## ステージ・データの編集

「データの入力: ステージ・データ」画面から、新規データの手動での追加、またはインポートされたデータの編集が可能です。

▶ データを編集するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「データの入力」の順に選択します。

「データの入力」画面が表示されます。

2. 変更するデータのPOVとレイヤーを選択し、「実行」



をクリックします。

3. 「ステージ・データ」タブの「ソース」の下で、ステージを選択します。

4. オプション: 「使用可能なビュー」リストから保存済のビューを選択できます。

選択したビューに対するすべてのメジャーが表示されます; ただし、親メジャーは変更できません。

5. 「ステージ・データ」タブで、変更する交差値を作成するメンバーを選択します。

6. 交差セルをダブルクリックしてデータを編集します。

7. 「保存」



をクリックして、変更を保存します。

## ドライバ・データの編集

「ドライバ・データ」タブには、ソース・ステージと宛先ステージのディメンションが表示されます。選択したソースのメンバー交差について、割り当てられた宛先メンバーとドライバ・メジャーがこのタブに表示されます。

ドライバ・メジャーのドライバ式の定義に割当ての場所が含まれている場合、このドライバのデータはソース・メンバーと宛先メンバーで形成される交差に保管されます。交差には複数のステージからのディメンションが含まれるため、「ステージ・データ」タブでこの交差を表示することはできません。

▶ ドライバ・データを編集するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「データの入力」の順に選択します。
2. POVを選択し、「実行」



をクリックします。

「データの入力」画面が表示されます。

3. 「ドライバ・データ」タブを選択し、レイヤーを選択します。
4. 「ソース」で、変更するソース交差のモデル・ステージおよびディメンション・メンバーを選択します。

選択した割当てのドライバ・メジャーがすべて表示されます: 「ソース」ペインにソース・ドライバ・メジャーが、「宛先」ペインに宛先ドライバ・メジャーおよび割当てドライバ・メジャーが表示されます。

5. オプション: 表示する宛先交差を選択する場合は、「宛先」で「メンバー・セクタ」



をクリックし、次のいずれかのオプションを選択します:

- 空の表示
- すべて表示
- 通常の割当ての表示
- 割当てルールの表示

6. ドライバ・メジャー・フィールドをダブルクリックし、新しい値をセルに入力します。
7. 「保存」



をクリックして、変更を保存します。

## 編集ビューの削除

編集ビューを削除できます。

▶ 編集ビューを削除するには:

1. 他のユーザーが同じ編集ビューを必要としていないことを確認してください。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「データの入力」の順に選択します。
3. POVを選択し、「実行」



をクリックします。

「データの入力」画面が表示されます。

4. 「ステージ・データ」タブで、「ビューの管理」



をクリックします。

「ビューの管理」ダイアログ・ボックスが表示されます。

5. 「ビュー名」ドロップダウンから、削除する編集ビューを選択し、「削除」



をクリックします。

確認メッセージが表示されます。

6. 「はい」をクリックします。

編集ビューは削除され、「使用可能なビュー」リストには表示されなくなります。

## 配賦のトレース

「配賦のトレース」機能を使用することで、モデル内の資金のフローを開始から終了まで視覚的に確認できます。

任意の選択されたメンバー交差から、財務モデル内の任意の位置に移動できます:

- 交差の値に影響するソース・メンバーと、各メンバーが影響を及ぼす値を表示するには戻ります。
- 交差の値が配賦された宛先メンバーと、各メンバーに配賦されている値を表示するには進みます。

すべての関連する割当てが表示されます。表示する情報をカスタマイズできます。トレース配賦イメージを別の場所にエクスポートし、必要に応じて表示または印刷することもできます。

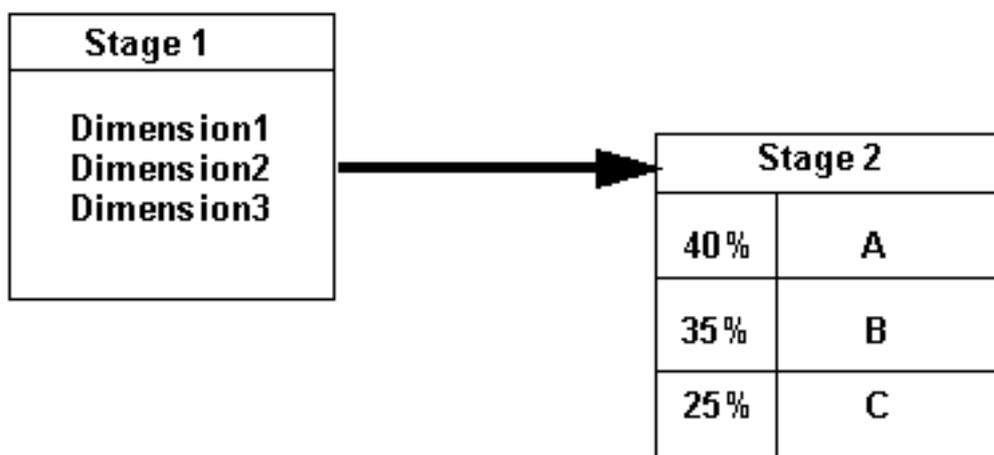
データが自動的に集約されるため、デフォルトでは、計算は計算用データベースを使用して実行されます。

配賦をトレースする手順については、次の項を参照してください:

- [149ページの配賦の詳細のトレース](#)
- [153ページの配賦フローのトレース](#)
- [157ページの相互配賦](#)
- [158ページのトレース配賦イメージのエクスポート](#)

## 配賦の詳細のトレース

「配賦の詳細」により、ソース交差から直接に最終の宛先への配賦か、宛先交差からソースへの配賦を、順を追って確認できます。開始ポイントにコントリビューション、または開始ポイントから値を取得する交差に、ステージおよび関連付けられているメンバーが表示されます。



直接配賦データは、フローの各ステップのパーセンテージを次の式で計算するために使用します:

- 順方向ヘドリルする場合:  
$$\% = \text{ASSG CostReceivedPrior(orIntra)Stage} / \text{SRC NetCostForAssignment}$$
- 逆方向ヘドリルする場合:

$\% = \text{ASSG CostReceivedPrior(orIntra)Stage} / \text{DEST NetCostForAssignment}$

ステージごとに、その次の交差にコントリビューションする各配賦のパーセンテージが高い順に表示されます。次の条件が存在する場合、ステージについて表示されるこのパーセンテージは100%にはなりません:

- 交差にアイドル費用が存在する場合。
- 上流(ソースに戻る方向)にドリルするとき、宛先に入力済費用が存在する場合。

▶ 配賦の詳細をトレースするには:

1. 配賦スクリプトがすべて実行されていることを確認します。

182ページの直接配賦データの計算を参照してください。

2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「配賦のトレース」の順に選択します。

「トレーサビリティ」画面が表示されます。

3. POVを選択し、「実行」



をクリックします。

4. レイヤーを選択します。

5. 「開始ポイント」で、「プリファレンス」を選択して、トレースする情報のプリファレンスを選択します:

- 実行するトレースのタイプを選択します:

「配賦の詳細」は、ソース交差から直接に最終の宛先への配賦を、順を追って確認します

「配賦フロー」は、選択した交差に対して、直接割当てではなく、間接的な関係を持つソースと宛先の交差を表示します。

- マップの表示モードを選択します:

別名を表示

表示名



注:

「別名を表示」が選択されていて、別名が設定されていない場合、表示名は大かっこ([ ])で囲んで表示されます。

6. デイメンションごとにセレクト



をクリックして、トレースを開始する交差を指定するメンバーを選択します。



注:

配賦を表示するには、最下位のメンバーを選択する必要があります。

7. 「配賦の詳細」を選択します。

8. 「トレース」



をクリックして、財務フローのマッピングを開始します。

選択した交差が画面に表示されます。ステージの名前、および交差の各ディメンションで選択したメンバーが表示されます。選択した交差の開始ポイントの「プロパティ」が画面の下部に表示されます。



注:

フロー・ダイアグラム全体をドラッグして、さらに見やすい位置に移動できます。モデル・ステージ内のディメンション数によっては、タスク・バーの右端にある「トレース」ボタンが見えるよう、ウィンドウを大きくするかスクロールする必要があります。

9. オプション: 交差ヘッダーで、「配賦のトレース」コンテキスト・メニュー



を選択し、選択した交差を展開する際に表示する最大ノード数(3、5、10または20)を選択します。この選択は、任意の交差で繰り返し行うことができます。

10. 交差をクリックし、ソース・ノードを強調表示します。



注:

ノードを展開



は、交差の選択後に初めて交差に表示されます。

11. 「プロパティ」で、選択した交差に関連する「ソースの詳細」を確認します。

ソースについて、次の情報が表示されます:

- ソースでは、開始ポイントに選択したディメンション・メンバーがすべて表示されます。
- 割当ての正味費用
- アイドル費用(存在する場合。)
- 割当て済費用
- ドライバ値の合計
- OverDriven (存在する場合)
- StandardCostRate (存在する場合)

12. 表示する次の交差を選択し、「展開」

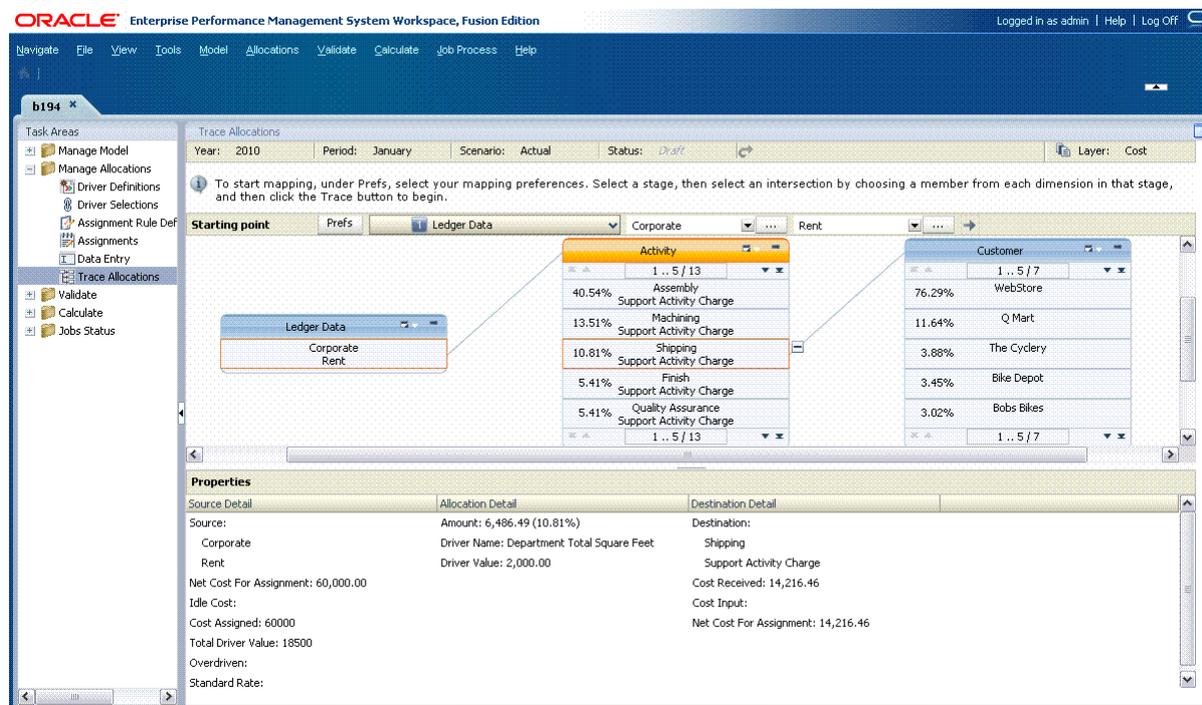


をクリックして、選択した交差への配賦または選択した交差からの配賦を表示します。上流または下流に移動するには、交差のいずれかの側でノードを展開します。

開始ポイントにコントリビューション、または開始ポイントから値を取得する交差に、ステージおよび関連付けられているメンバーが表示されます。各配賦のパーセンテージが高い順に表示されます。

次の条件が存在する場合、ステージについて表示されるこのパーセンテージは100%にはなりません:

- 交差にアイドル費用が存在する場合。
- 上流(ソースに戻る方向)にドリルするとき、宛先に入力済費用が存在する場合。



13. ステージ・ヘッダーをダブルクリックし、配賦に含まれている交差を展開して表示します。ソース交差および宛先交差は強調表示されます。
14. 任意の交差をクリックすると、その詳細が「プロパティ」ペインに表示されます。このペインは、画面の下部に表示されます。

次の詳細が表示されます:

- 「ソースの詳細」の下:
  - 「ソース」には、値の提供元となった交差に含まれるディメンション・メンバーが表示されます
  - 割当ての正味費用
  - アイドル費用(存在する場合)
  - 割当て済費用
  - ドライバ値の合計
  - OverDriven (存在する場合)
  - 標準レート(存在する場合)
- 「配賦の詳細」の下:
  - 配賦の金額
  - ドライバ名

- ドライバ値
- ・「宛先の詳細」の下:
  - 「宛先」には、値の配賦先である交差に含まれるディメンション・メンバーが表示されます
  - 受取り済費用
  - 入力済費用
  - 割当ての正味費用

15. 必要に応じて、モデル全体に対するフローを実行します:

- ・「展開」



を使用し、モデル全体に対する直接配賦を確認します

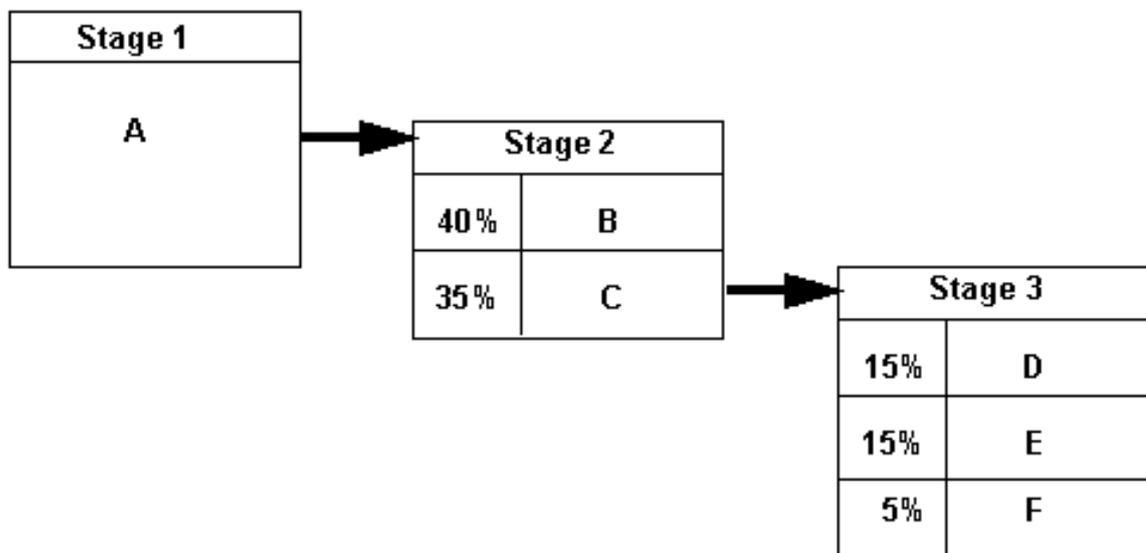
- ・「縮小」



を使用し、交差のリストを閉じます。

## 配賦フローのトレース

「配賦フロー」に、直接割当てではなく間接的な関係を持つソース交差および宛先交差が表示されます。たとえば、ステージ1の値がステージ3に中間ステップなしで配賦される場合があります。それぞれの配賦のフローをたどることで、ソースからの提供データを各ステップで確認して、最初のソースまたは最終的な宛先への配賦の影響を理解できるようになります。



直接配賦データは、フローの各ステップのパーセンテージを次の式で計算するために使用します:

- ・ 順方向ヘドリルする場合:

$\% = (\text{ASSG CostReceivedPrior(orIntra)Stage} / \text{SRC NetCostForAssignment}) * \text{SRC} \%$

- 逆方向ヘドリルする場合:

$\% = (\text{ASSG CostReceivedPrior(orIntra)Stage} / \text{DEST NetCostForAssignment}) * \text{DEST} \%$

ステージごとに、その次の交差にコントリビューションする各配賦のパーセンテージが高い順に表示されます。交差にアイドル費用が存在する場合、ステージについて表示されるこのパーセンテージは100%にはなりません。

▶ 配賦フローをトレースするには:

1. 配賦スクリプトがすべて実行されていることを確認します。182ページの[直接配賦データの計算](#)を参照してください。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「配賦のトレース」の順に選択します。

「トレーサビリティ」画面が表示されます。

3. POVおよびレイヤーを選択し、「実行」



をクリックします。

4. 「開始ポイント」で、「プリファレンス」を選択して、トレースする情報のプリファレンスを選択します:

- 「配賦フロー」を選択し、選択した交差に対して、直接割当てではなく、間接的な関係を持つソースと宛先の交差を表示します。

- マップの表示モードを選択します:

別名を表示

表示名



注:

「別名を表示」が選択されていて、別名が設定されていない場合、表示名は大かっこで囲んで表示されます。

5. 「開始ポイント」で、表示する「ステージ」を選択します。

6. デイメンションごとにセレクト



をクリックして、トレースを開始する交差のメンバーを選択します。配賦を表示するには、最下位のメンバーを選択する必要があります。

Source Detail	Allocation Detail	Destination Detail
Source:	Amount: 428.94 (7.08%)	Destination:
Shipping	Driver Name: Number Of Orders	Bobs Bikes
Support Activity Charge	Driver Value: 7.00	Cost Received: 6,061.99
Net Cost For Assignment: 14,216.46		Cost Input:
Idle Cost:		Net Cost For Assignment: 6,061.99
Cost Assigned: 14216.46		
Total Driver Value: 232		
Overdriven:		
Standard Rate:		

## 7. 「トレース」



をクリックして、財務フローのマッピングを開始します。



注:

モデル・ステージ内のディメンション数によっては、タスク・バーの右端にある「トレース」ボタンが見えるよう、ウィンドウを引き伸ばす必要があります。

選択した交差が画面に表示されます。ステージの名前、および交差の各ディメンションで選択したメンバーが表示されます。開始ポイントの「プロパティ」が画面の下部に表示されます。



## 8. オプション: 交差ヘッダーで、「配賦のトレース」コンテキスト・メニュー



を選択し、選択した交差を展開する際に表示する最大ノード数(3、5、10または20)を選択します。この選択は、任意の交差で繰り返し行うことができます。

## 9. 交差をクリックし、ソース・ノードを強調表示します。



---

注:

「展開」



は、交差の選択後に初めて交差に表示されます。

---

10. 「プロパティ」で、選択した交差に関連する「ソースの詳細」を確認します。

- ・ ソースでは、開始ポイントに選択したディメンション・メンバーがすべて表示されます。
- ・ 割当ての正味費用
- ・ アイドル費用(存在する場合。)
- ・ 開始ポイントへの割当て済費用。
- ・ ドライバ値の合計
- ・ OverDriven (存在する場合)
- ・ 標準レート(存在する場合)

11. 次の交差を強調表示し、「展開」



をクリックして、選択した交差への配賦または選択した交差からの配賦を表示します。上流または下流に移動するには、交差のいずれかの側でノードを展開します。

開始ポイントにコントリビューション、または開始ポイントから値を取得する交差に、ステージおよび関連付けられているメンバーが表示されます。各配賦のパーセンテージが高い順に表示されます。交差にアイドル費用が存在する場合、ステージの合計パーセンテージは100%にはなりません。



---

注:

フロー・ダイアグラム全体をドラッグして、さらに見やすい位置に移動できます。モデル・ステージ内のディメンション数によっては、タスク・バーの右端にある「トレース」ボタンが見えるよう、ウィンドウを大きくするかスクロールする必要があります。

---

12. ステージ・ヘッダーをダブルクリックし、配賦に含まれている交差を展開して表示します。ソース交差および宛先交差は強調表示されます。
13. 交差をダブルクリックし、その詳細を「プロパティ」ペインで表示します。

次の詳細が表示されます:

- ・ 「ソースの詳細」の下:
  - 「ソース」には、値の提供元となった交差に含まれるディメンション・メンバーが表示されます
  - 割当ての正味費用
  - アイドル費用(存在する場合)
  - 割当て済費用
  - ドライバ値の合計
  - OverDriven (存在する場合)

- 標準レート(存在する場合)
- 「配賦の詳細」の下:
  - 配賦の金額
  - ドライバ名
  - ドライバ値
- 「宛先の詳細」の下:
  - 「宛先」には、値の配賦先である交差に含まれるディメンション・メンバーが表示されます
  - 受取り済費用
  - 入力済費用
  - 割当ての正味費用

#### 14. オプション:「展開」



をクリックすると、モデル全体の配賦を確認できます。

## 相互配賦

相互配賦の正味相互費用が「配賦のトレース」画面で計算および表示されます。正味相互費用は、ReciprocalCostReceivedとReciprocalCostAssignedの差異として計算されます。選択した交差の計算済パーセンテージも表示されます。

モデル内の相互配賦の交差および値は、Essbase内の次の費用レイヤー割当てメジャーの下に表示されます:

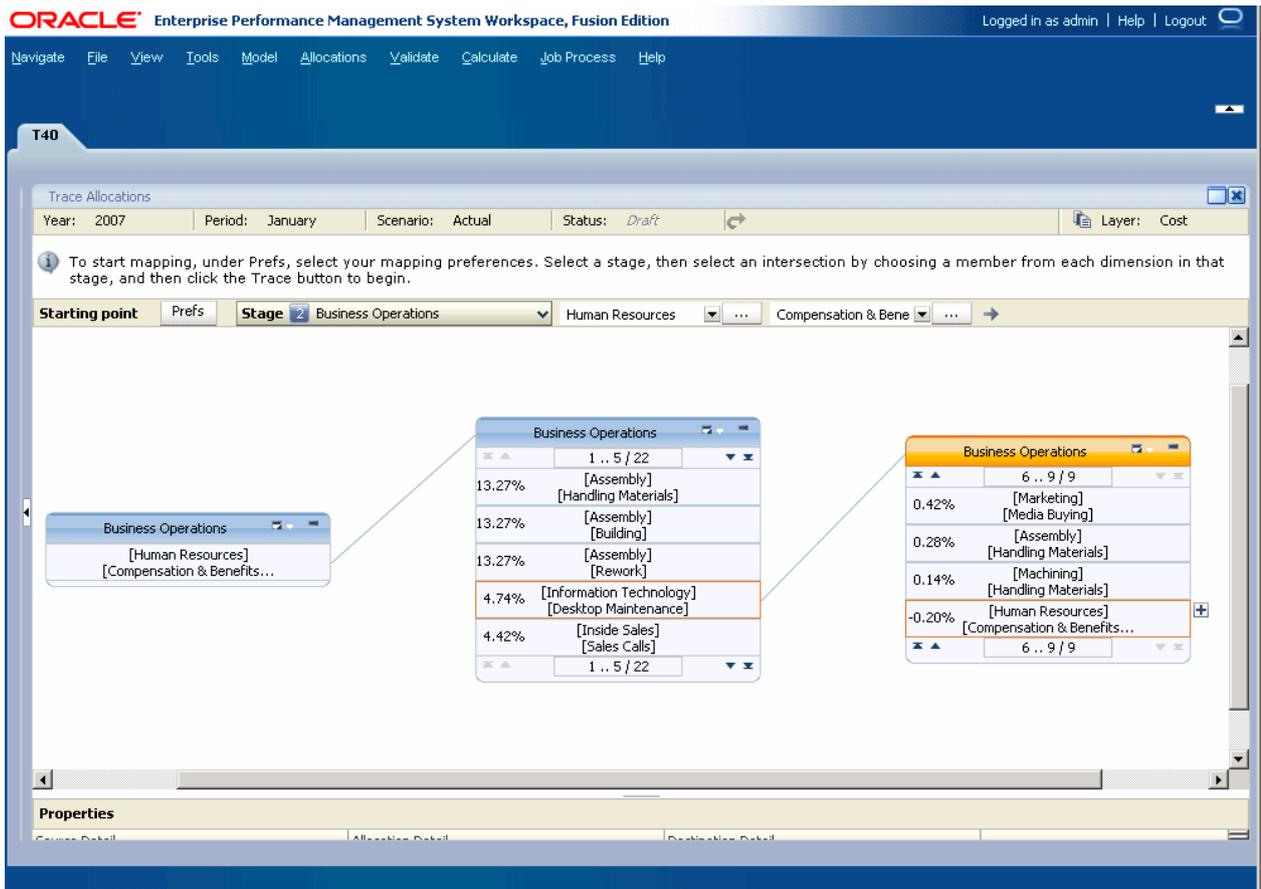
- ReciprocalCostAssigned
- ReciprocalCostReceived

計算済の金額およびパーセンテージは、マイナス値として表示される場合があります。これは、相互配賦の他の部分に割り当て返される交差の金額または計算済パーセンテージを示しています。

デフォルトで、「配賦のトレース」画面での相互配賦は、交差の各リストの最後に表示されます。

### 例: 相互配賦

次の配賦フローのダイアグラムでは、Information Technology(情報技術部)のDesktop Maintenance(デスクトップ・メンテナンス)の交差が、Human Resources(人事部)のCompensation and Benefits Admin(報酬および福利厚生管理)との間で相互配賦を持っています。



各交差の正味相互費用は、次のように計算されます：

- 「**Information Technology**」の「**Desktop Maintenance**」 - 正味相互費用は216.24で、「Human Resources」の「Compensation & Benefits Admin」の4.74%を占めます。
- 「**Human Resources**」の「**Compensation and Benefits Admin**」 - 正味相互費用は-216.24で、「Information Technology」の「Desktop Maintenance」の-0.20%を占めます。

「Human Resources」の「Compensation and Benefits Admin」のマイナス(-)値は、「Information Technology」の「Desktop Maintenance」に配賦し戻される金額を示します。

## トレース配賦イメージのエクスポート

トレース配賦ダイアグラムを生成したら、イメージを別の場所にエクスポートして、印刷または表示することができます。

▶ トレース配賦イメージをエクスポートするには：

1. 次の項の説明に従って、トレーサビリティ・ダイアグラムを生成します：

- [149ページの配賦の詳細のトレース](#)
- [153ページの配賦フローのトレース](#)
- [157ページの相互配賦](#)

2. EPM Workspaceのメイン・メニューから、「配賦」、「トレーサビリティのエクスポート」([Ctrl]+[Shift]+[E])の順に選択します。

トレーサビリティ・ダイアグラムが表示された新しいブラウザが開きます。ダイアグラムは、.pngイメージとしてエクスポートされます。

3. イメージを右クリックし、ピクチャに名前を付けて保存を選択します。
4. ダイアグラムの表示または印刷を可能にする新しい場所に、トレーサビリティ・ダイアグラムを.pngイメージとして保存します。



---

#### 注意

画像形式のファイル拡張子を.pngから変更しないでください。変更すると、画像が破損します。

---



# 7

## 標準Profitabilityモデルの検証

この項の内容:

検証について .....	161
モデル構造検証ルール .....	162
未割当ての値 .....	162
アイドル能力 .....	164
オーバードライブ費用および収益 .....	165
モデル構造の検証 .....	166
ステージの貸借一致レポートの生成 .....	169
ドライバ・データ・レポートの生成 .....	171

### 検証について

モデルはライフ・サイクルを通じて何回か検証する必要があります:

- モデルを構築後、モデル検証を実行し、モデルの構造がモデリング・ルールに準拠していることを確認します。
- データを追加後、選択されているドライバに対してドライバ・データ・レポートを生成し、計算に必要なすべてのデータが存在することを確認します。
- モデルの計算後、ステージの貸借一致レポートを生成し、モデル・ステージのすべての貸方記入と借方記入が一致することを確認します。

構造検証画面に表示される読み取り専用のタブでは、未使用のドライバ、および関連するソースまたは宛先が欠落している割当てがハイライトされます。モデル内の任意のステージに対して、ステージ内割当ておよび相互割当てのリストを表示することもできます。モデル構造の検証サイクル中にエラーが発生した場合は、モデルの構築または計算を続行する前に、修正する必要があります。

モデルに対して適切な検証を実行するには、次の各項を参照してください:

- [162ページのモデル構造検証ルール](#)
- [162ページの未割当ての値](#)
- [164ページのアイドル能力](#)
- [166ページのモデル構造の検証](#)
- [169ページのステージの貸借一致レポートの生成](#)
- [171ページのドライバ・データ・レポートの生成](#)

## モデル構造検証ルール

モデルは、データを追加する前に、一連のモデル検証ルールと照合して、構造が健全であることが確認されます。構造検証では次の条件が満たされているかどうかチェックされます:

- ソース・メンバーに対する宛先の割当てにそれぞれドライバがあります
- 受信の割当てが送信の割当てに関連付けられています
- 未使用のドライバがありません。
- 相互割当てが正常に動作します。
- ステージ内割当てが正常に動作します。
- 割当てルールは正しいです。

モデルを計算するには、構造エラーをすべて解決する必要があります。構造エラーをすべて修正し、ステージを送信して再度検証します。エラーの修正および再検証を何度か行う必要がある場合もあります。唯一の例外は、未使用のドライバがありませんという警告で、モデル内の未使用のドライバを使用して正常に計算を実行できる場合にも発生する可能性があります。



---

### ヒント:

状況によっては、あるエラーを修正した結果、別の問題が発生することがあります。このため、修正を行うたびにモデル・ステージを再検証すると有効です。

---

## 未割当ての値

モデルに含まれる費用と収益は特定のアクティビティまたは勘定科目に割り当てる必要があります;ただし、一部の費用または収益をモデルの任意のステージで未割当てとして残すことができます。これらの値は未割当ての費用または収益として報告されます。

未割当て値には次の2つのタイプがあります:

- ・ ノードに配賦されているが、フロー内で続いて次に提供されない費用または収益。163ページの例1 - フロー停止を参照してください。
- ・ 残余価額を含むノードから配賦された費用または収益。164ページの例2 - 残余価額を参照してください。

モデルの作成方法によっては、これらの未割当て値を想定および許容することもできますが、そうしない場合は、配賦のエラーが発生し、修正する必要があります。



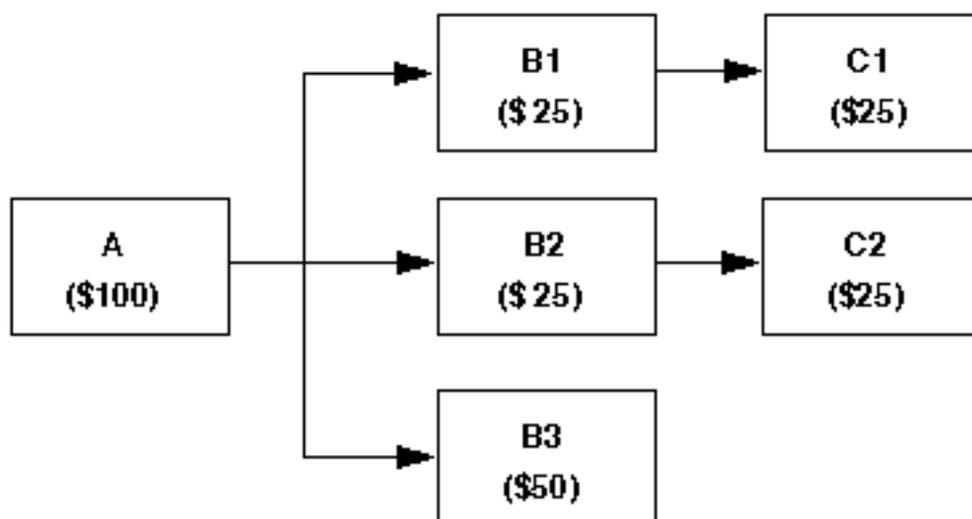
ヒント:

特定の費用または収入がモデル・フローの最後に到達する前に論理上停止する場合は、ディメンション階層の特定領域を、未割当て値を許容するように作成することをお勧めします。このモデリング手法を使用することにより、モデルの検証時に、想定内の未割当て値と、修正が必要な配賦エラーを区別できるようになります。

検証中、未割当ての費用および収益にはフラグが設定されます。特定のステージおよび交差における未割当て値の集約は、メジャー・ディメンションのUnassignedCostメンバーあるいはUnassignedRevenueメンバーとして報告されます。未割当て値を確認して、配賦する必要があるかどうかを判断してください。

### 例1 - フロー停止

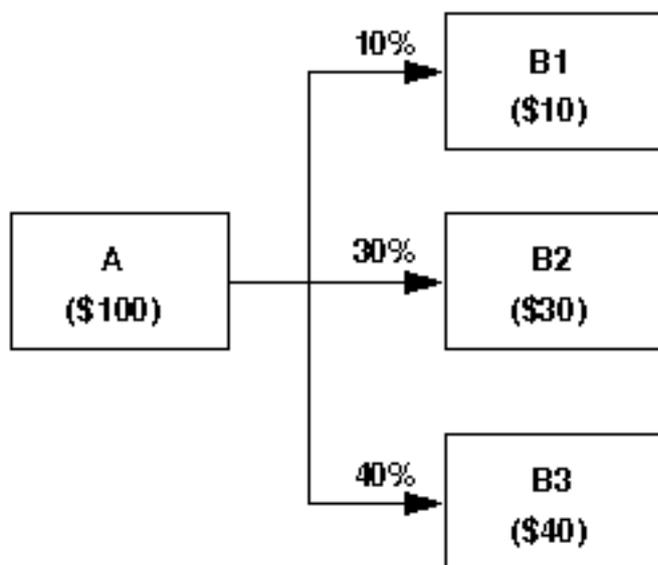
次の例では、ステージAからの値(\$100)がB1、B2およびB3に配賦されます。



B1およびB2からの値はそれぞれC1およびC2に配賦されます; ただし、B3には割当てはありません。この例では、B3からの\$50はメジャー・ディメンションのUnassignedCostまたはUnassignedRevenueとして報告されます。

## 例2 - 残余価額

次の例ではパーセンテージ・ドライバが使用されており、後続の割当てに値を配賦したことにより、元の交差に残余価額が残されます。



ステージAには\$100あります。パーセンテージ・ドライバにより、ステージBの交差への配賦は元の金額値の80%になります。この割当ての結果、元の金額の20%、すなわち\$20が未配賦として残ります。この\$20はIdleCostとして扱われます。

## アイドル能力

フル容量とは、すべてのモデル・リソースがタスクまたは割当てを実行するために完全に使用されている状態を意味します。アイドル能力またはアイドル容量とは、モデル・リソースの一部が完全には使用されていない状態を示します。リソースを最大限に使用し、マシンのダウンタイムなどの非効率を監視するには、アイドル能力を追跡する必要があります。

アイドル能力の計算とレポート作成を行う機能を設定するには、ドライバを作成または変更するときに、「アイドルを許可」オプションを選択し、ドライバのデータの一部としてドライバ合計量を入力します。

各ノードのアイドル費用および収益はメジャー・ディメンションのIdleCostおよびIdleRevenueメンバーとして報告されます。

次のドライバのメジャーは実績基準ドライバのアイドル能力のみに関連します:

- IdleDriverValue - IdleCostの計算でドライバ値(DV)として使用されるメジャー。
- TotalDriverValue - ユーザーが入力したドライバ値に基づいて計算されるドライバ合計量。これに基づいてアイドル費用が計算される。
- EffectiveTotalDriverValue - ソースで「アイドルを許可」が選択されているドライバの実効ドライバ合計値を保存するために使用されるメジャー。

アイドル能力はモデルの構造検証時に報告されます。未配賦の残余能力が検出された場合、ドライバがアイドル能力を許可するように設定されていないと、エラーが発生します。

標準基準ドライバはデフォルトでアイドル容量の計算が有効になっています。割り当てられる費用または収益の合計がNetCostForAssignmentより小さい場合、その残りはアイドル費用またはアイドル収益として保管されます。

## 標準基準ドライバのアイドル費用の例

ソースX - 3つの宛先(A、B、C)に割り当てられた100のNetCostForAssignment

- 宛先A - 30 CostReceived
- 宛先B - 30 CostReceived
- 宛先C - 30 CostReceived

ソースX - NetCostForAssignment = 100

Xからすべての宛先(CostAssigned)に移動された合計金額 = 90

IdleCost = 10

UnassignedCost = 0

アイドル費用はステージの貸借一致レポートで確認できます。詳細は、[169ページのステージの貸借一致レポートの生成](#)を参照してください。

## オーバードライブ費用および収益

Profitability and Cost Managementでは、費用の移動先を制御する割当ての組合せと、移動する額を決定するドライバを使用して、ソースから宛先へ費用または収益を移動します。

実績基準ドライバを使用すると、ソースからすべての宛先に移動される額は常に実績金額です。標準基準ドライバを使用すると、宛先に実績以上の金額を移動することが可能です。オーバードライブ費用は超過した額であり、ソースからすべての宛先に移動された実績金額を超えます。

## オーバードライブ費用の例

ソースX - 3つの宛先(A、B、C)に割り当てられた100のNetCostForAssignment

- 宛先A - 35 CostReceived
- 宛先B - 35 CostReceived
- 宛先C - 35 C CostReceived

ソースX - NetCostForAssignment = 100

Xからすべての宛先(CostAssigned)に移動された合計金額 = 105

OverdrivenCost = 5

UnassignedCost = 0

次のメジャーはオーバードライブ費用および収益に関連します:

- ステージ賃借一致レポートのメジャー

OverDrivenCost

OverDrivenRevenue

- 費用レイヤー配賦メジャー

OverDrivenCost

- 収益レイヤー配賦メジャー

OverDrivenRevenue

オーバードライブ費用または収益は、ステージの賃借一致レポートで確認できます。詳細は、[169ページのステージの賃借一致レポートの生成](#)を参照してください。

## モデル構造の検証

モデル構造を一度に1ステージずつ検証して、すべての必須モデリング・ルールが適用されていることを確認する必要があります。モデルをデプロイする前に、すべてのステージを検証する必要があります。

構造検証には、選択されたモデル・ステージに関する次の情報が表示されます:

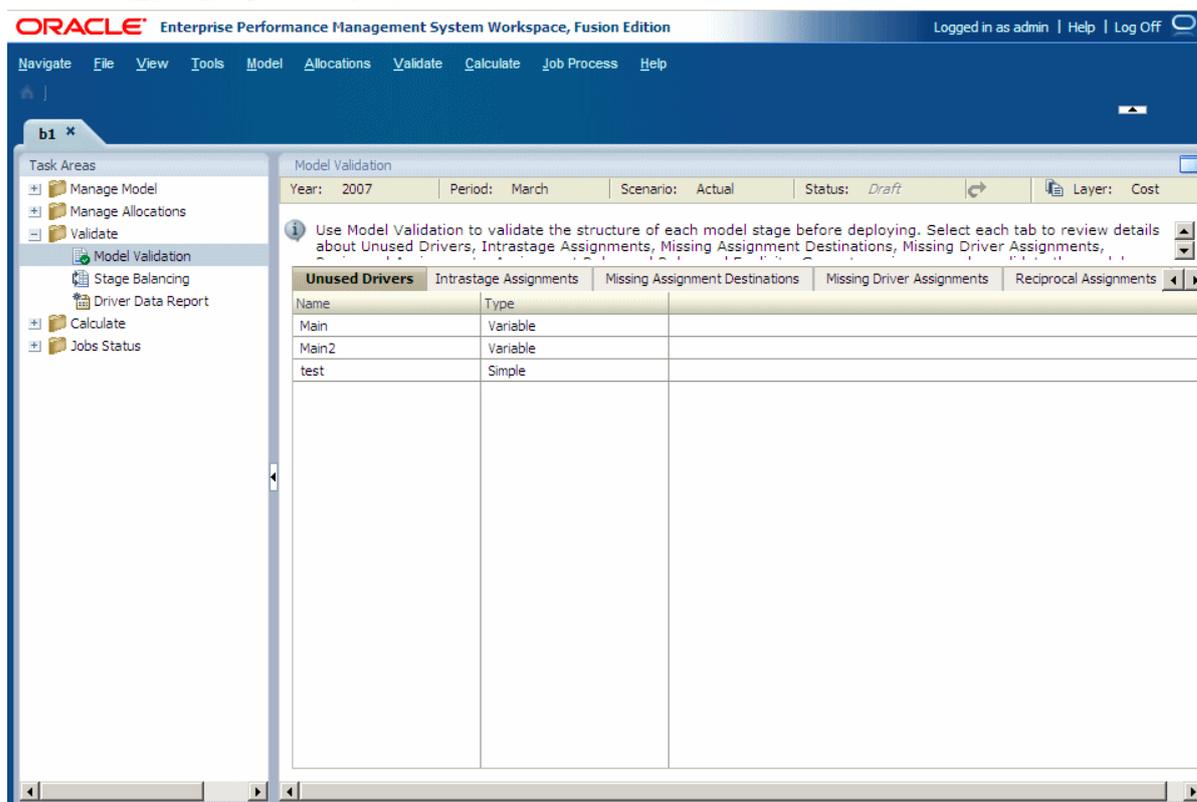
- 「未使用のドライバ」には、使用されていない既存のドライバが表示されます。
- 「ステージ内割当て」には、ソースと宛先が同一のステージ内にある割当てが表示されます。
- 「欠落している割当て宛先」には、未割当ての費用または収益が表示されます。
- 「欠落しているドライバ割当て」には、有効なドライバが選択されていない割当てが表示されます。
- 「相互割当て」には、選択されたステージ内の相互割当てが表示されます。
- 「割当てルール」には、割当てルールに関連付けられたエラーが表示されます。
- 「ルールと明示」には、割当てルールと明示的割当ての両方が同じソースにアタッチされているモデル内のすべてのソースが表示されます。交差に許可されている割当ては1つのタイプのみであるため、割当ての1つをそのソースから削除する必要があります。

モデルを正しく計算するには、モデル構造に含まれるエラーをすべて修正する必要があります。唯一の例外は、未使用のドライバがありませんという警告で、モデル内の未使用のドライバを使用して正常に計算を実行できる場合にも発生する可能性があります。

▶ モデル・ステージを検証するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「検証」、「モデル検証」の順に選択します。

「モデル検証」画面が表示されます。



2. 検証するモデルのPOVを選択し、「実行」



をクリックします。

3. 「レイヤー」から、検証プロセスを開始する費用レイヤーまたは収益レイヤーを選択します。

検証が終了すると、画面が更新されて結果が表示されます。

4. オプション: 「未使用のドライバ」タブを選択すると、モデルに含まれる未割当てのドライバを確認できるため、これらのドライバを割当てに含めるかどうかを決定します。

ドライバを割り当てるには、[101ページの標準Profitabilityドライバの選択](#)を参照してください。

5. 「ステージ内割当て」タブで、選択したステージの割当てを表示します。

ステージ内割当てに対する変更が必要な場合は、[107ページの標準Profitability割当ての操作](#)を参照してください。

6. オプション: 値は受信されるが値を送信する割当てがない交差をすべて表示するには「欠落している割当て宛先」タブを選択します。定義により、送信の割当てが必要でないステージのみがモデルの最終ステージになります。

各モデル・ステージに、ステージと割当てタイプを選択する必要があります:

- 欠落している割当てルール宛先をすべて表示するには、「割当てルールの表示」を選択します。
- 欠落している通常の割当ての宛先をすべて表示するには、「通常の割当ての表示」を選択します。

プラン済および想定される未割当ての費用または収益の例外がある場合、モデルを計算するには、欠落している割当てをすべて修正する必要があります。107ページの標準Profitability割当ての操作を参照してください。

7. オプション: ドライバ割当てが欠落しているすべての交差を表示するには、「欠落しているドライバ割当て」タブを選択します。

各モデル・ステージに、ステージと割当てタイプを選択する必要があります。

モデルを正しく計算するには、欠落しているドライバ割当てをすべて修正する必要があります。101ページの標準Profitabilityドライバの選択を参照してください。

8. オプション: 特定のステージに対する相互割当てをすべて表示するには、「相互割当て」タブを選択します:
  - a. 「ステージの選択」ドロップダウンから、相互割当てを表示するモデルのステージを選択します。リストで選択可能になっているのは、ステージ内割当ての可能性があるとマークされているステージのみです。
  - b. 表示する通常の割当てを選択します。

ループに含まれる相互割当ての数は相互の下に表示されます。相互ループの各部分に対するディメンションとメンバーの組合せは、操作順に表示されます。ステージ内割当てに対する変更が必要な場合は、107ページの標準Profitability割当ての操作を参照してください。



注:

クローズドループ・サイクル列にその他の送信の割当てがない相互割当て、または標準基準列に標準基準ドライバがある相互割当ての横には、感嘆符(!)が表示されます。

9. オプション: 割当てルールのエラー・メッセージを表示するには、「割当てルール」タブで「検証」をクリックします。

モデルを正しく計算するには、不適切な割当てルールをすべて修正する必要があります。エラーを修正したら、「検証」をクリックして、割当てルールが適切であることを確認してください。

10. オプション: 「ルールと明示」タブを選択すると、割当てルールと明示的割当ての両方がアタッチされているモデル内のすべてのソースが表示されます。この場合、割当ての1つをソースから削除する必要があります。
11. オプション: 「問合せ」タブを選択します。

ディメンションまたはディメンション・メンバーの名前が変更または削除された場合、そのディメンションやディメンション・メンバーを参照しているSmart View問合せは無効になります。Smart View問合せの検証画面ですべての問合せを検証し、無効な問合せに対してエラー・メッセージを表示します。

12. すべてのタブのエラーを修正後、エラーが検出されなくなるまで 167ページのステップ 1から構造検証を繰り返します。
13. 検証の完了後、モデルを計算します。175ページの第8章「標準Profitabilityモデルの計算」を参照してください。

## ステージの貸借一致レポートの生成

モデルを計算後、標準「ステージの貸借一致」レポートを使用して、未割当ての費用を計上するため、割り当てられている値と入力値の貸借を一致させることで、実績を検証します。費用データと収益データに対しては、別個にレポートを生成する必要があります。



注:

ステージの貸借一致レポートを生成するには、データベースをデプロイしてデータをロードし、データベースを計算しておく必要があります。

アウトライン構造は、各ステージに関する次の情報を提供します:

- 入力 - 入力の貸借一致メジャーに関連付けられた値の合計
- 出力合計は、宛先ステージでのすべての出力メジャー値の合計です。この値は、受入れ貸借一致のメジャーに関連付けられます。
- 下位の各ステージへ出力される金額
- 下位ステージへの出力の合計
- 未割当ての費用または収益の合計
- アイドル費用または収益の合計
- 過剰な費用または収益

モデルの内容に応じて、次の一部またはすべてのデータ・タイプが各モデル・ステージで使用できます:

表11 ステージの貸借一致レポートで使用されるデータのソース

メジャーまたは式	Essbaseメジャー名	データのソース
直接入力(ユーザーにより入力された費用または収入)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CostInput</li> <li>• RevenueInput</li> </ul>	Essbase
割当て入力(割当て済の入力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CostReceivedPriorStage</li> <li>• RevenueReceivedPriorStage</li> </ul>	Essbase
合計入力	= 直接入力 + 割当て済の入力	計算済
割当て済費用	CostAssignedPostStage NetCostForAssignment	Essbase
各ステージを表す数値	CostReceivedPriorStageまたは CostAssignedPostStage  これらの数値は、前のステージから選択されたステージに割り当てられた費用を表します。計算済の数値を割当て入力の数値と比較して、Essbaseに不整合がないかをチェックできます。	Essbase

メジャーまたは式	Essbaseメジャー名	データのソース
出力合計	現在の行に含まれるすべてのステージのSUM	計算済
アイドル	<ul style="list-style-type: none"> <li>IdleCost</li> <li>IdleRevenue</li> </ul>	Essbase
オーバードライブ	<ul style="list-style-type: none"> <li>OverDrivenCost</li> <li>OverDrivenRevenue</li> </ul>	Essbase
未割当て(Essbase内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>UnassignedCost</li> <li>UnassignedRevenue</li> </ul>	Essbase
未割当て(Essbase内)	= "入力合計" - "出力合計" - "アイドル"	計算済  計算済の値は、Essbaseからのデータと比較できます。

レポートを印刷するには、ブラウザ・メニューから「ファイル」、「印刷」の順に選択します。

▶ ステージの貸借一致レポートを生成するには:

1. レポートを生成する前に、次のアプリケーションおよびサービスが実行されていることを確認します:

- Provider Services
- Shared Services
- Essbase



注:

ステージの貸借一致レポートを生成するには、データベースをデプロイしてデータをロードし、データベースを計算しておく必要があります。

2. **オプション:** 計算用データベースを使用してステージの貸借一致レポートを表示するには、レポートを生成する前に、計算用データベース(BSO)上でデフォルトのCalc Allを実行します。
3. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「検証」、「ステージの貸借一致」の順に選択します。

「ステージの貸借一致」画面が表示されます。

4. モデルのPOVを選択し、「実行」



をクリックします。

5. 「レイヤー」から、選択されているモデルの費用または収益レイヤーを選択します。
6. 「ソース・データベース」から、生成するレポートのタイプを選択します:

- レポート(ASOデータベースの結果) - 推奨
- 計算(BSOデータベースの結果) - 計算用データベース(BSO)を使用してステージの貸借一致レポートを生成する前に、すべての計算およびデフォルトの計算を実行および完了しておく必要があります。

7. 「実行」をクリックします。

レポートが生成されます。

Oracle Enterprise Performance Management System Workspace, Fusion Edition

Logged in as admin | Help | Log Off

Task Areas: Manage Model, Manage Allocations, Validate, Model Validation, Stage Balancing, Driver Data Report, Calculate, Jobs Status

Year: 2010 | Period: January | Scenario: Actual | Status: Draft | Layer: Cost

To generate a Stage Balancing report, select a POV, Layer and Source Database, and then click Run.

#	Stage Name	Direct Input	Assigned Input	Total Input	Ledger Data	Activity	Product	Customer	Sales Detail	Total Output	Idle	Overdriven	Unassigned
1	Ledger Data	368,867.00		368,867.00		163,759.40	185,419.10			349,178.50	23,327.60	3,639.10	0.00
2	Activity		163,759.40	163,759.40			106,134.51	57,624.89		163,759.40			0.00
3	Product		291,553.61	291,553.61					291,553.61	291,553.61			0.00
4	Customer		57,624.89	57,624.89					57,624.89	57,624.89			0.00
5	Sales Detail		349,178.50	349,178.50						0.00			349,178.50

8. レポートを確認し、次の1つまたは複数の検証方法を使用して結果を確認します:
- 入力合計 - 出力合計 - アイドル = 未割当ての値
  - ステージに対するすべての配賦の合計 = 割当て済の入力
  - 未割当ての値の合計 + アイドル = 直接入力
  - 事前定義のSmart View統合を「ステージの貸借一致」画面から起動することもできます。起動データ・ポイントは、「ステージの貸借一致」画面でハイパーリンクとして表示され、あるステージから別のステージに提供された値が存在します。入力または配賦データについて詳細にドリル・ダウンできます。たとえば、配賦の実行後に未割当コストへドリルダウンしたり、または同じ実行で使用された入力データを確認することができます。

## ドライバ・データ・レポートの生成

データ・ドライバ・レポートは、モデルに入力されたドライバ・データのドキュメント作成、確認および更新を行うために使用します。ドライバ・データ・レポートを生成するには、データベースがデプロイされ、データがロードされている必要があります(データのロードはオプションです)。

費用データに対するレポートと収益データに対するレポートは、別個に実行する必要があります。修正が必要な場合は、Profitability and Cost Managementを使用してモデル構造を変更するか、EssbaseまたはMicrosoft Excelで直接データを編集できます。

ドライバ・データ・レポートの実行時には、ログ・ファイルが自動的に生成され、エラーおよび警告がすべて記録されます。ログ・ファイル(validationReport.txt)は、Profitability and Cost Managementアプリケーション・サーバーを実行しているユーザーのホーム・ディレクトリに保存されます。

▶ ドライバ・データ・レポートを生成するには:

1. レポートを生成する前に、次のアプリケーションおよびサービスが実行されていることを確認します:
  - Provider Services
  - Shared Services

- Essbase

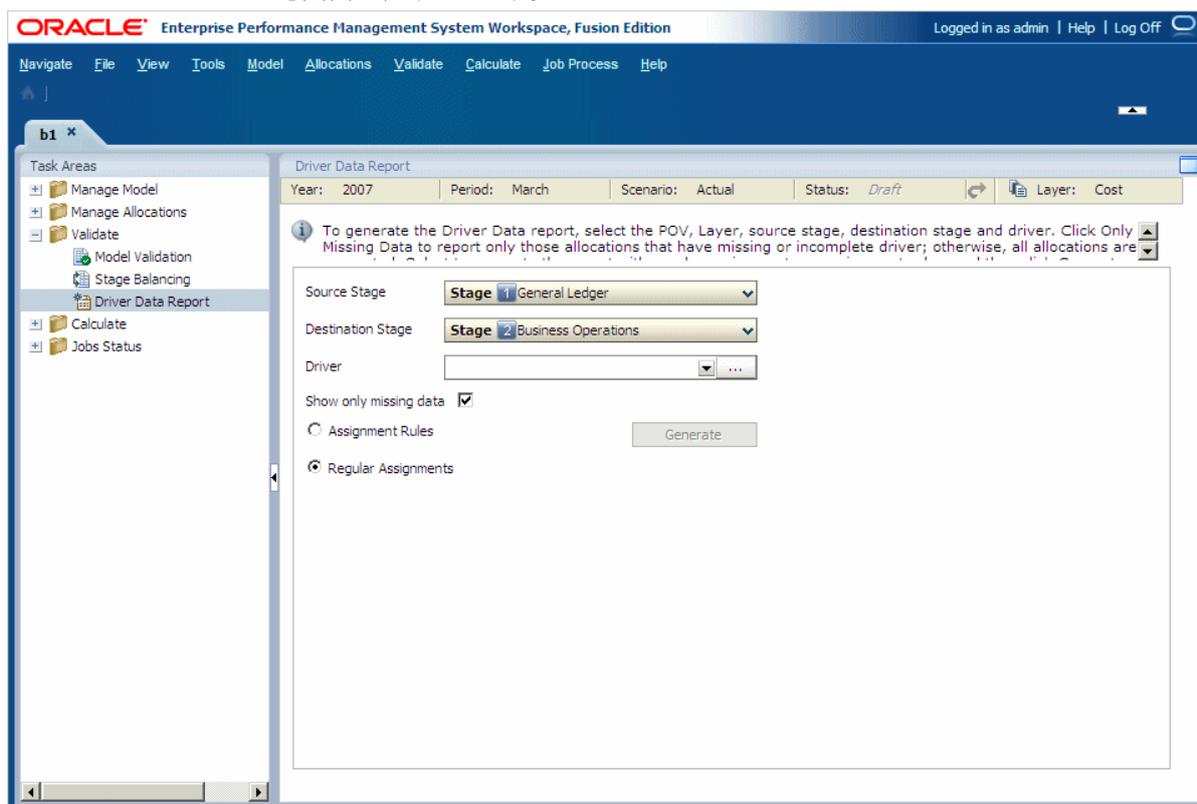


注:

レポートを生成するには、データベースがデプロイされ、データがロードされている必要がありますが、計算されている必要はありません。ドライバ・データ・レポートを生成するには、データベースがデプロイされ、データがロードされている必要があります(データのロードはオプションです)。

2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「検証」、「ドライバ・データ・レポート」の順に選択します。

「ドライバ・データ・レポート」画面が表示されます。



3. 選択されているモデルのPOVを選択し、「実行」



をクリックします。

4. 「レイヤー」から、費用レイヤーまたは収入レイヤーを選択します。
5. 「ソース・ステージ」から、レポートのソース・ステージを選択します。
6. 「宛先ステージ」から、レポートの宛先ステージを選択します。
7. 「ドライバ」から、データを検証するドライバを選択します。

必要に応じて、セレクト



をクリックし、「ドライバの選択」ダイアログ・ボックスからドライバを選択します。

8. オプション: 欠落データのみを選択すると、欠落した、または不完全なドライバ・データが含まれる配賦のみをレポートできます。



また、ドライバ・データをMicrosoft Excelに貼り付けて編集し、元のレポート・ファイルに戻したうえでEssbaseにインポートできます。

14. オプション: レポートを印刷するには、テキスト・ファイル・メニューから「ファイル」、「印刷」の順に選択します。

# 8

## 標準Profitabilityモデルの計算

### この項の内容:

データベースの管理 .....	175
計算の管理 .....	181
計算(Calc)スクリプト .....	182
直接配賦データの計算 .....	182
データの転送 .....	184
システムデータ .....	185
システムにおける複数のステージのコントリビューション・パスの計算 .....	186

モデルの構造とデータを検証した後、データベースをデプロイしてモデルを計算する必要があります。標準Profitabilityモデルの場合、Profitability and Cost Managementでは、2通りの計算が実行されます。

- 直接配賦では、ソースおよび宛先交差の直接割当ての結果を計算します。
- システムでは、相互の直接割当てではなく、間接的な関係を持つソースと宛先の交差の配賦詳細を計算します。

システムには直接配賦データが必要であるため、直接配賦データを最初に計算する必要があります。

操作は画面で直接実行することも、都合のよい日時をスケジュールすることもできます。



### 注意

モデルを計算する前に、費用、収益およびドライバ・データがEssbaseにロードされていることを確認します; これらがロードされていない場合、計算スクリプトは空のデータ・セットを使用して実行されます。

## データベースの管理

モデルの構造とデータを検証した後、ReportingとCalculationの両方のデータベースをデプロイして、メタデータ・アウトラインを作成する必要があります。



注:

メタデータを変更したときは必ず、アプリケーションを再デプロイする必要があります。Performance Management Architectをデプロイメントした場合は、引き続きEssbaseをデプロイメントしてメタデータの同期を維持してください。

次の手順を使用してデータベースをデプロイします:

- [176ページの計算データベースのデプロイ](#)
- [179ページのレポート・データベースのデプロイ](#)

## 計算データベースのデプロイ

「計算用データベース」タブのオプションは、計算用データベースにのみ適用されます。計算用データベースは、Essbaseのブロック・ストレージ・オプション(BSO)を使用して作成され、メタデータ・アウトラインが作成されます。



注意

データまたはアーティファクトをインポートする前に、EPM WorkspaceおよびEssbaseにデータのバックアップを作成することをお勧めします。支援が必要な場合は、管理者にお問い合わせください。

データベースを最初にデプロイメントする際、「データベースの置換」オプションを選択して、完全なデータベースを作成する必要があります。最初のデプロイメントの後、計算用データベースの再デプロイメントが必要になったときには、既存のアーティファクトおよびプロパティ設定を新しいデータベースに保持またはリストアするデプロイメント・オプションを選択できます。

次のアーティファクトを保持できます:

- Essbaseデータ
- システム生成およびユーザー作成の計算スクリプト
- レポート・スクリプト
- 代替変数
- ルール・ファイル
- セキュリティ・フィルタ
- データベース設定

計算データベースの場合のみ、データは次のいずれかのフォーマットでエクスポートされます。

- デイメンション・メンバー数が1,000未満である密デイメンションが少なくとも1つある場合、データは列フォーマットでエクスポートされ、ルール・ファイルが生成されます。ルール・ファイルは、新しいアウトラインの作成後に生成されます。

このルール・ファイルは、Essbaseのデータ・フォーマットを指定します。このファイルは、エクスポートされたデータが置かれたEssbaseデータベース・アプリケーション・フォルダと同じフォルダにあります。ファイル名の形式は次のとおりです。

RMMddxxx.ru1またはRMMddxxx.txt

ここで、MMは現在の月、ddは現在の日、xxxは生成される一意の識別子です。拡張子が.ru1のファイルにはルール・ファイルが含まれ、拡張子が.txtのファイルにはデータ・ファイルが含まれます。

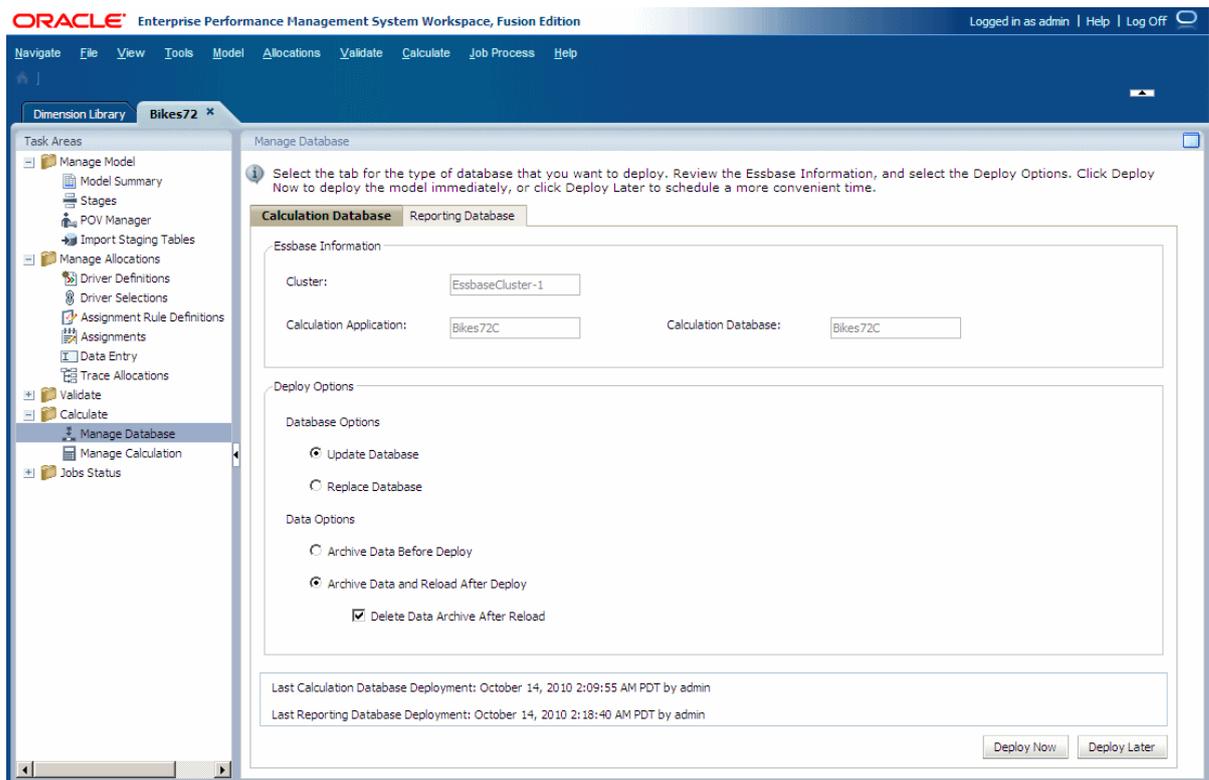
- デイメンション・メンバー数が1,000未満である密デイメンションがない場合、データはフラット・ファイルでエクスポートされます。

再デプロイの前にシステムがデイメンションを分析し、使用するエクスポート・オプションをアドバイスするメッセージが生成されます。デプロイメントで発生したすべてのエラーがhpcm.logに報告されます。

▶ 計算用データベースをデプロイするには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「計算」、「データベースの管理」の順に選択します。

「データベースの管理」画面の「計算用データベース」タブが表示されます。



2. 「Essbase情報」の下で、次の情報を確認します:

- 「クラスタ」には、モデルを含むEssbaseデータベース・サーバーの名前が表示されます。
- 「計算用アプリケーション」には、デプロイされるアプリケーションの名前が表示されます。

- ・「計算用データベース」には、アプリケーションがデプロイされるEssbaseデータベースの名前が表示されます。
3. 「デプロイ・オプション」の下で、計算用データベースのデプロイのための「データベース・オプション」を選択します:
    - ・ データベースの初回デプロイメント時には、すべての選択がグレー表示されます。このオプションにより、データベース全体が初めて作成されます。
    - ・ 既存のデータベースを再デプロイする場合、「データベースの更新」を選択すると、既存のアーティファクトおよびプロパティ設定が新しいデータベースに保持され、最新のメタデータを反映してアウトラインが変更されます。
    - ・ それ以降のデプロイメントでは、「データベースの置換」を選択してデータベースとアプリケーションを完全に削除し、再作成します。
  4. 「デプロイメント・オプション」の下で、計算用データベースのデプロイメントで使用する「データ・オプション」を選択します:
    - ・ 「デプロイ前にデータをアーカイブ」を選択すると、既存のデータがアプリケーション・データベース・フォルダにエクスポートされます。計算用データベースでは、レベル0のデータのみがエクスポートされます。メンバーの数が1,000より少ない密ディメンションの場合にのみ、データは列フォーマットでエクスポートされ、密ディメンションでない場合はネイティブ・フォーマットでエクスポートされます。
    - ・ 「デプロイ後にデータをアーカイブしてリロード」を選択すると、以前にエクスポートしたデータ・ファイルを使用して、データは自動的にEssbaseにインポートされます。新しいアウトラインの作成時にデータが列フォーマットでエクスポートされた場合は、ルール・ファイルが生成されます。



#### 注意

このオプションは、追加または削除されるディメンションがない場合にのみ使用できます。ディメンションの追加または削除は、Performance Management Architectで行うことも、Profitability and Cost Managementでステージを追加、削除または変更することで行うこともできます。

- ・ オプション: 「デプロイ後にデータをアーカイブしてリロード」を選択している場合、「リロード後にデータ・アーカイブを削除」を選択すると、データが正常にリロードされた後にのみ、アーカイブ・データが自動的に削除されます。
5. オプション: 計算キューブの最終デプロイメントで、以前のデプロイメントの日時を確認します。
  6. オプション: 「後でデプロイメント」をクリックし、デプロイメントを実行する都合のよい日時をスケジュールします。198ページのタスクフローのスケジュールを参照してください。



#### 注意

タスクの作成時にこのオプションが選択されていない場合、そのタスクはスケジュールできなくなります。

7. オプション: 「今すぐデプロイ」をクリックし、ただちに計算用データベースをデプロイします。

ジョブが開始されたこと、および割り当てられたタスクフロー-IDを示す確認メッセージが表示されます。



#### 注意

この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能性があります。

8. [189ページの第9章「標準Profitabilityのジョブ・ステータスのモニタリング」](#)の説明に従って、「ステータス」ページでタスクフローIDを使用してデプロイメントの進行状況をモニターします。
9. 「データベースの置換」オプションを選択している場合、またはデータ・インポートがなんらかの理由により失敗した場合は、デプロイメントの終了後、空のデータ・セットに対して計算が実行されないように、Essbaseデータベースからデータをロードします。

入力レベルの費用、収益およびドライバ・データは、次の2つの方法でロードできます:

- データの入力ウィンドウの「配賦の管理」を使用して、アプリケーションに直接データをロードします。[147ページのドライバ・データの編集](#)を参照してください。
- Essbaseのデータ・ロード方法を使用して、Essbaseにデータをロードします。『*Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド*』を参照してください。

10. モデルの計算を行います。

[182ページの直接配賦データの計算](#)を参照してください。

## レポート・データベースのデプロイ

レポート用データベースは、Essbase集約ストレージ・オプション(ASO)を使用して作成します。すべての計算は、データベース・アウトラインを介して実行されます; 計算スクリプトは必要ありません。このオプションにより、取得時間が短縮され、拡張性が増します。

レポート用データベースを作成すると、Profitability and Cost Managementモデルのディメンション情報を使用して集約ストレージ・オプションが生成されます。

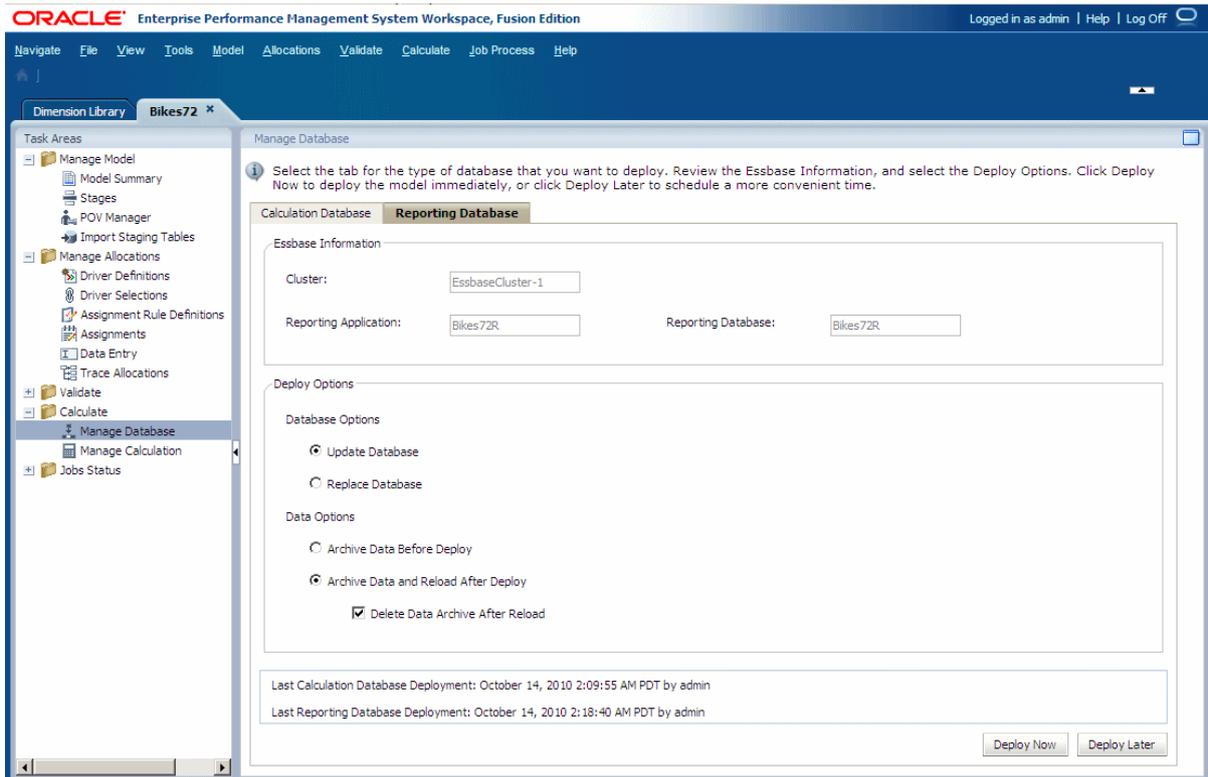
デプロイメントで発生したすべてのエラーがhpcm.logに報告されます。

▶ 計算用データベースをデプロイするには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「計算」、「データベースの管理」の順に選択します。

「データベースの管理」画面の「計算用データベース」タブが表示されます。

2. 「レポート用データベース」タブを選択します。



3. 「Essbase情報」の下で、次の情報を確認します:

- 「Essbaseサーバー」には、モデルを含むEssbaseデータベース・サーバーの名前が表示されます。
- 「レポート用アプリケーション」には、デプロイされるアプリケーションの名前が表示されます。
- 「レポート用データベース」には、アプリケーションがデプロイされるEssbaseデータベースの名前が表示されます。

4. 「デプロイ・オプション」の下で、計算用データベースのデプロイのための「データベース・オプション」を選択します:

- データベースの初回デプロイメント時には、すべての選択がグレー表示されます。このオプションにより、データベース全体が初めて作成されます。
- 既存のデータベースを再デプロイする場合、「データベースの更新」を選択すると、既存のアーティファクトおよびプロパティ設定が新しいデータベースに保持され、最新のメタデータを反映してアウトラインが変更されます。
- それ以降のデプロイメントでは、「データベースの置換」を選択してデータベースとアプリケーションを完全に削除し、再作成します。

5. 「デプロイメント・オプション」の下で、レポート用データベースのデプロイメントで使用する「データ・オプション」を選択します:

- 「デプロイ前にデータをアーカイブ」を選択すると、既存のデータがアプリケーション・データベース・フォルダにエクスポートされます。レポート用データベースでは、レベル0のデータのみがエクスポートされます。レポート用データベースでは、データは常にネイティブ・フォーマットでエクスポートされます。
- デプロイ前にデータをアーカイブしてデプロイ後にリロードを選択すると、以前にエクスポートしたデータ・ファイルを使用して、データは自動的にEssbaseにインポートされます。レポート用データベースでは、ルール・ファイルは生成されません。



#### 注意

このオプションは、追加または削除されるディメンションがない場合にのみ使用できます。ディメンションの追加または削除は、Performance Management Architectで行うことも、Profitability and Cost Managementでステージを追加、削除または変更することで行うこともできます。

- ・ オプション: 「デプロイ後にデータをアーカイブしてリロード」を選択している場合、「リロード後にデータ・アーカイブを削除」を選択すると、データが正常にリロードされた後にのみ、アーカイブ・データが自動的に削除されます。
6. オプション: レポート・キューブの最終デプロイメントで、以前のデプロイメントの日時を確認します。
  7. オプション: 「後でデプロイメント」をクリックし、デプロイメントを実行する日時をスケジュールします。198ページのタスクフローのスケジュールを参照してください。



#### 注意

タスクの作成時にこのオプションが選択されていない場合、そのタスクはスケジュールできなくなります。

8. オプション: 「今すぐデプロイ」をクリックし、ただちにレポート用データベースをデプロイします。  
ジョブが開始されたこと、および割り当てられたタスクフローIDを示す確認メッセージが表示されます。



#### 注意

この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能性があります。

9. 189ページの第9章「標準Profitabilityのジョブ・ステータスのモニタリング」で説明されているように、タスクフローIDを使用してデプロイメントの進行状況をモニターします。

## 計算の管理

データベースをデプロイした後、モデルを計算できます。Profitability and Cost Managementでは、2通りの計算が実行されます:

- ・ 直接配賦では、ソースおよび宛先交差の直接割当ての結果を計算します。
- ・ 系統では、相互の直接割当てではなく、間接的な関係を持つソースと宛先の交差の配賦詳細を計算します。

系統には直接配賦データが必要であるため、直接配賦データを最初に計算する必要があります。

操作は画面で直接実行することも、都合のよい日時をスケジュールすることもできます。



---

#### 注意

モデルを計算する前に、費用、収益およびドライバ・データがEssbaseにロードされていることを確認します; これらがロードされていない場合、計算スクリプトは空のデータ・セットを使用して実行されます。

---

次の手順を使用して計算を管理します:

- [182ページの計算\(Calc\)スクリプト](#)
- [182ページの直接配賦データの計算](#)
- [184ページのデータの転送](#)
- [185ページの系統データ](#)
- [186ページの系統における複数のステージのコントリビューション・パスの計算](#)

## 計算(Calc)スクリプト

計算スクリプトは、モデルに必要なすべての計算が詳述されており、モデルごとに生成する必要があります。

費用、収益またはドライバ・データしか変更していない場合は、計算スクリプトを同じモデルに対して複数回使用できます。その他のモデル情報が変更された場合にスクリプトを再使用するには、新しい計算内容を反映するようスクリプトを再生成する必要があります。

計算スクリプトは、構成されたEssbaseサーバーが実行中であるマシン上の\$ARBORPATH/app/<アプリケーション名>/<データベース名>ディレクトリに直接生成されます。管理者は、必要に応じてEssbaseコンソールで計算スクリプトを表示できます。

## 直接配賦データの計算

「計算の管理」画面の「配賦」タブは、ソース交差と宛先交差の直接割当ての結果を計算するために使用します。各レベルの結果は、その次のレベルの計算および結果に影響します。

このオプションから、計算スクリプトを生成して実行するステージを選択できます。選択した計算スクリプトが廃止されている場合は、警告メッセージが表示され、計算スクリプトを再生成する必要があります。

▶ 直接配賦データを計算するには:

1. 開いているモデルで、「**タスク領域**」から、「**計算**」、「**計算の管理**」の順に選択します。

「計算の管理」画面の「配賦」タブが表示されます。

ORACLE Enterprise Performance Management System Workspace, Fusion Edition

Logged in as admin | Help | Log Off

Navigate File View Tools Model Allocations Validate Calculate Job Process Help

b1 \*

Task Areas

- Manage Model
- Manage Allocations
- Validate
- Calculate
- Manage Database
- Manage Calculation
- Jobs Status

Manage Calculation

Year: 2007 Period: January Scenario: Actual Status: Draft Layer: Cost

On the Allocation tab, select the actions to be performed for each stage. Select "Transfer data after calculation" to automatically transfer data to the Reporting database after the calculations are complete. Click Run Now to run immediately, or click Run Later to schedule a more convenient time. On the Genealogy tab, click the Add icon and enter the stage numbers for the contribution path you want to calculate, and then click OK. Click Run Now to calculate genealogy data for all created paths immediately, or click Run Later to schedule a more convenient time. If required, select the Transfer Data tab and click Transfer Now to transfer calculated data to the

Stage #	Destination Stage	Generation Date	Calculation Date	Clear Calculated	Clear All	Generate	Calculate
1	General Ledger	July 14, 2010 11...	July 14, 2010 11...	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
2	Business Operations	July 14, 2010 11...	July 14, 2010 11...	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
3	Products	July 14, 2010 11...	July 14, 2010 12...	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
4	Customers	July 14, 2010 11...	July 14, 2010 12...	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
5	Market			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
6	aaa			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

Last Calculation Database Deployment: undefined  
Last Reporting Database Deployment: undefined

Transfer data after calculation

Run Now Run Later

2. 選択したステージに実行するアクションを選択します:

- 「計算済の消去」は前の計算済データを削除します
  - 「すべて消去」は既存のデータを削除します
  - 「生成」は計算スクリプトを生成します
  - 「計算」はデータを計算します
3. オプション: 計算データベースおよびレポート用データベースの最終デプロイメント日時を確認できます。
4. オプション: 計算の終了後に、コストと収益の両方のデータを自動的にレポート用データベースに転送するには、「計算後にデータを転送」を選択します。ステージの貸借一致レポートを表示する場合や、検証レポートを生成する場合は、計算済データをASOレポート・データベースに転送する必要があります。
5. 次のいずれかのタスクを実行します:
- 「後で実行」をクリックすると、計算スクリプトのデプロイ、計算の実行、またはデータの消去を行う日付および時刻をスケジュールできます。198ページのタスクフローのスケジュールを参照してください。



注:

タスクの作成時にこのオプションが選択されていない場合、そのタスクはスケジュールできません。

- 「今すぐ実行」をクリックすると、ただちに計算スクリプトのデプロイ、計算の実行、またはデータの消去を行うことができます。確認メッセージに、ジョブが開始されたことが示され、割り当てられたタスクフローIDが特定されます。



---

#### 注意

この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能性があります。

---

6. 189ページの第9章「標準Profitabilityのジョブ・ステータスのモニタリング」で説明されているように、タスクフローIDを使用してデプロイメントの進行状況をモニターします。
7. 計算用データベースの計算後、184ページのデータの転送の説明に従って、データをレポート用データベースに転送します。

## データの転送

レポート用データベースをデプロイ後、1つまたは複数のPOVについて、計算した配賦データをレポート用データベースに転送します。配賦および系統など、すべてのレベル0データが、転送されます。



---

#### 注:

レポート用データベースにデータを転送するには、事前に計算用データベースを計算しておく必要があります。

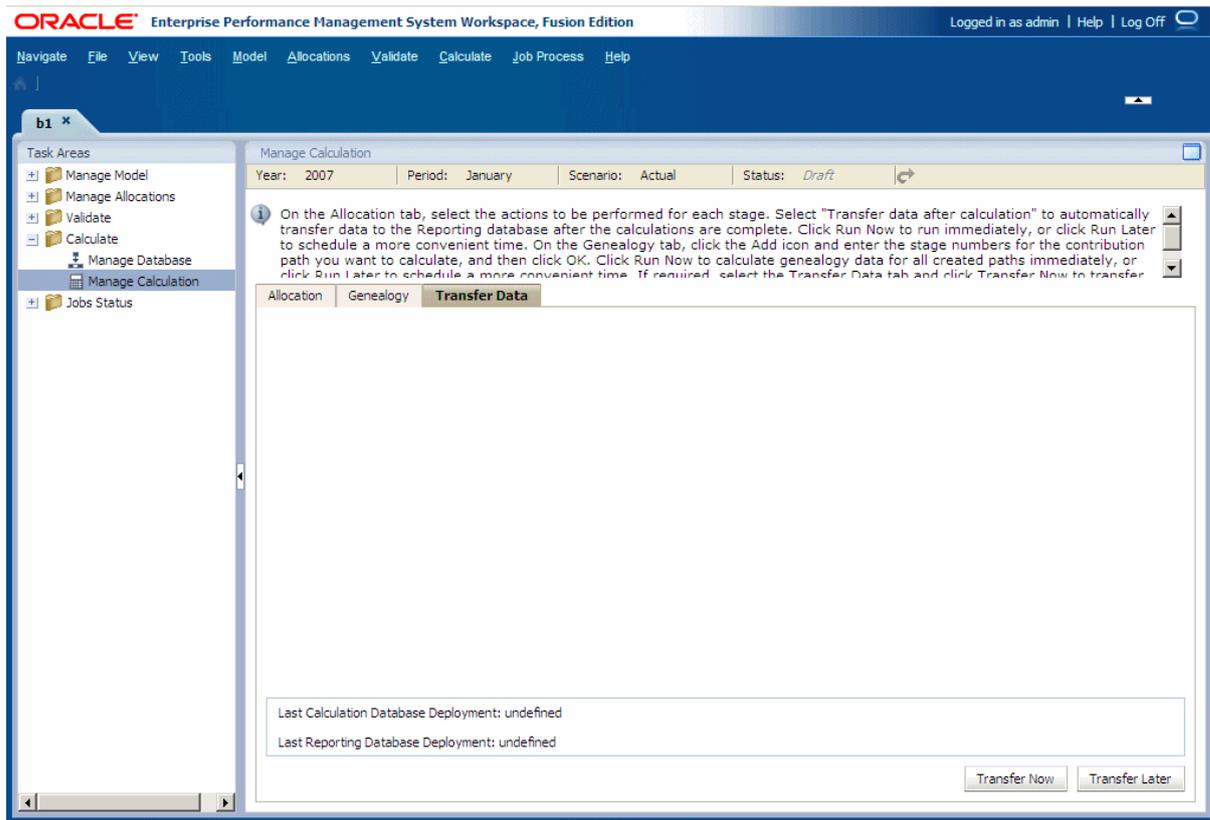
---

▶ データをレポート用データベースに転送するには:

1. 「タスク領域」から、「計算」、次に「計算の管理」を選択します。

「計算の管理」画面が表示されます。

2. データを転送するPOVおよびレイヤーを選択します。
3. 「データの転送」タブを選択し、計算したデータをレポート用データベースにコピーします。



4. 次のいずれかのタスクを実行します:

- 「**後で転送**」をクリックし、転送を実行する日時をスケジュールします。[198ページのタスクフローのスケジュール](#)を参照してください。
- 「**今すぐ転送**」をクリックし、ただちに転送を実行します。



#### 注意

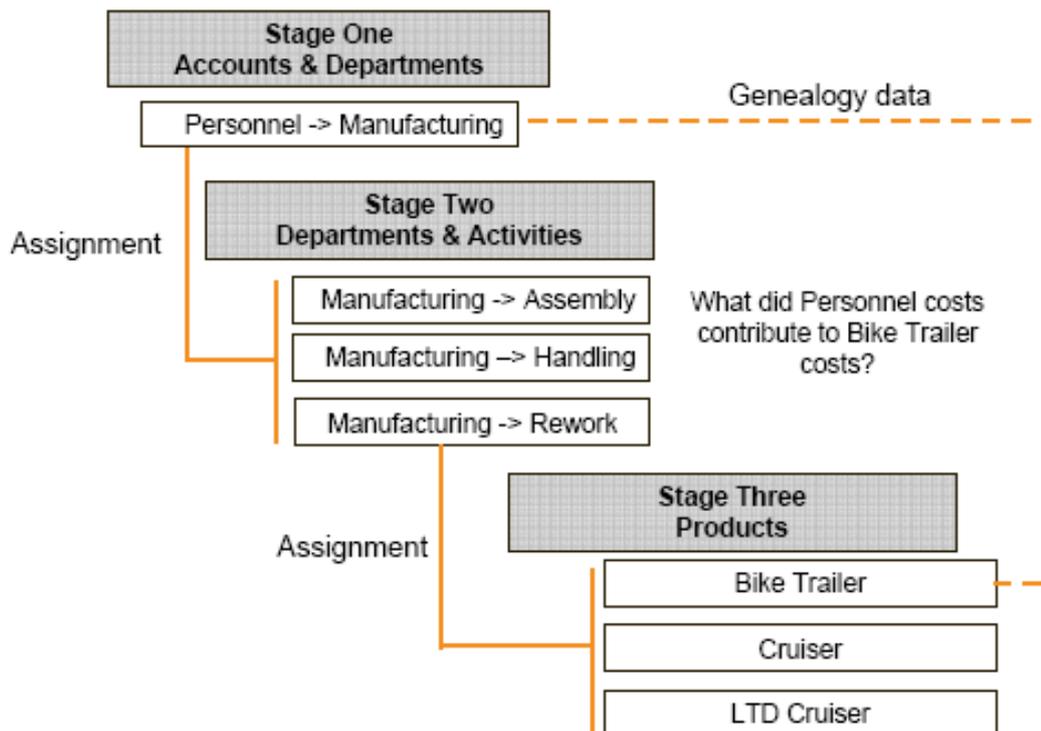
この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能性があります。

5. データ転送が完了後、Web Analysis、Financial Reporting、Microsoft Excelなどのレポート作成および分析ツールを使用し、レポートを作成して結果を表示します。[201ページの標準Profitabilityモデルのレポートの実行について](#)を参照してください。

## 系統データ

相互に直接割り当てられているのではなく間接的関係を持つソース交差と宛先交差の配賦の詳細が、系統データで計算されます。このため、あるレベルの結果が次のレベルの結果に影響しない場合がありますが、下位のいずれかの交差には必ず影響します。費用レイヤーと取入レイヤーの両方に対して、系統を計算できます。

たとえば、次のダイアグラムでは、モデルのステージ1における人事および製造部門の結果は、ステージ3のバイク・トレラの費用に影響します。



## 系統における複数のステージのコントリビューション・パスの計算

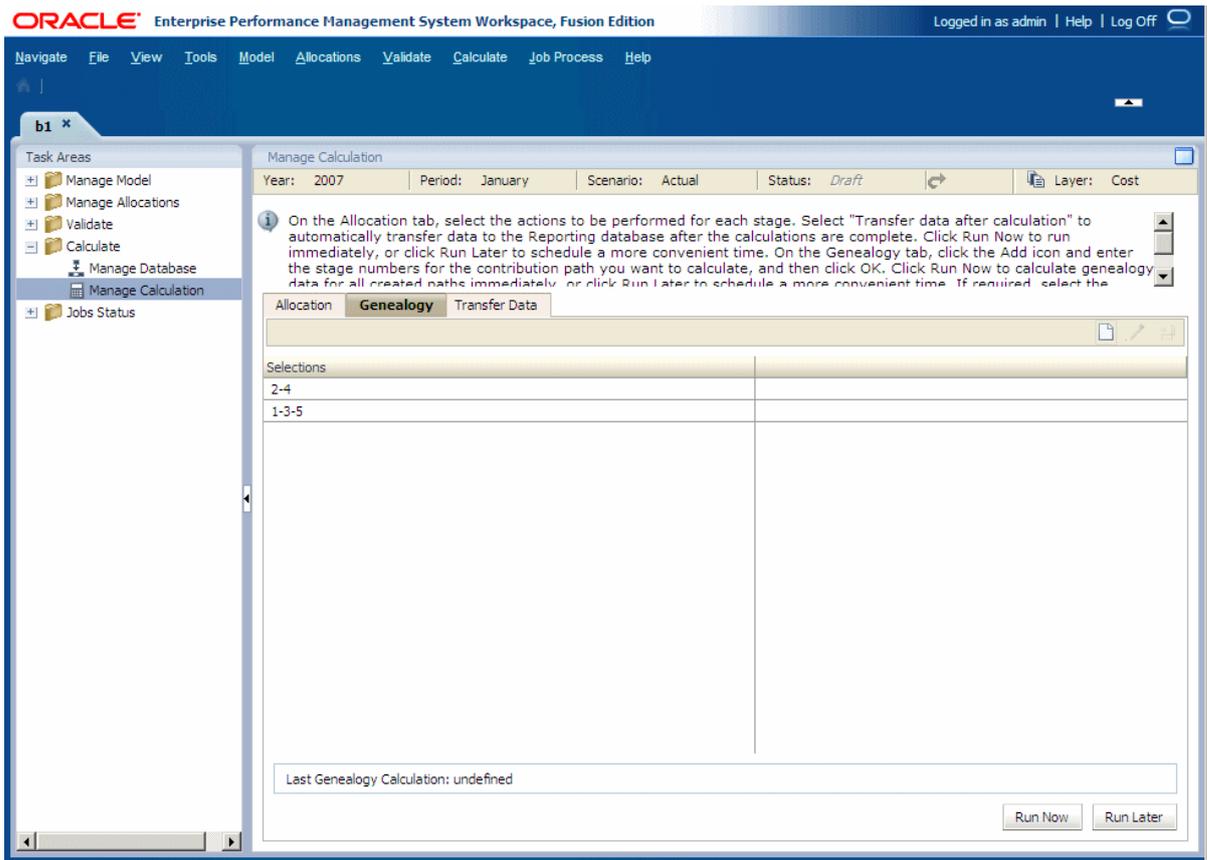
系統を計算する際、複数のステージの組合せによるコントリビューションを分析するためのデータを生成できます。この機能によって、あるステージの値が以降のステージの結果に与える影響の確認が可能になり、それらの値が通過する中間ステージを把握できるようになります。

系統データは複数のパスに対して計算されます。計算を実行する際のレイヤーの選択に応じて、費用または収益のどちらかが1回の実行で計算されます。1回の系統計算で両方のレイヤーを実行することはできません。

系統の計算の実行後、すべてのステージ選択のデータは保存され、後から画面に戻ったときに最後のステージ選択の組合せを表示できます。新しい系統の計算を実行すると、前に計算したすべての系統データは消去され、新しい結果に置き換えられます。

▶ 複数のステージによるコントリビューションをトレースするには:

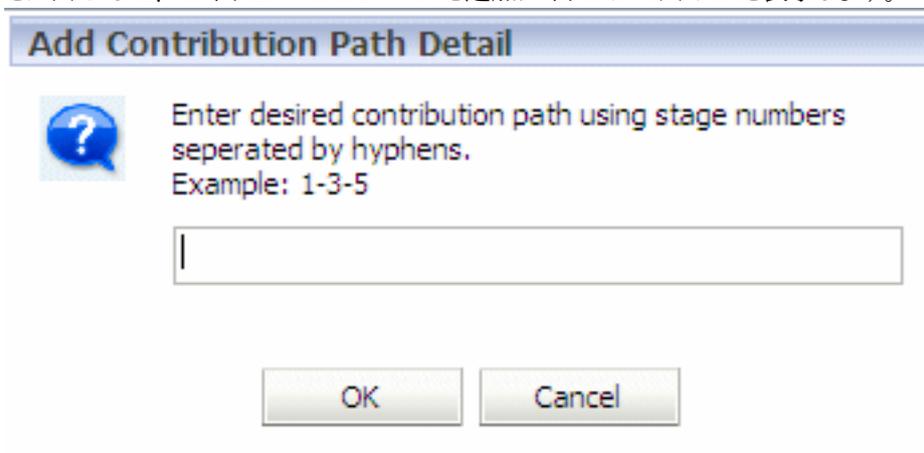
1. オプション:「タスク領域」で、「モデルの管理」、「ステージ」の順に選択して有効なステージの名前および番号を表示します。
2. 「タスク領域」から、「計算」、「計算の管理」の順に選択します。
3. 「系統」タブを選択します。



#### 4. 「追加」



をクリックして、コントリビューション・パスを追加ダイアログ・ボックスを表示します。



- 必要なコントリビューション・パスのステージ番号をハイフンで区切ってテキスト・ボックスに入力し、「OK」をクリックします。

コントリビューション・レポートに含めるためにステージを選択する際は、次の制限が適用されます：

- 少なくとも2つのステージを入力する必要があります。
- 有効なステージ番号を昇順にハイフンで区切って入力する必要があります。たとえば、"1-3-5"や"2-4"のようになります。

- 各ステージ番号は、コントリビューション・パスに1度のみ入力します。
- 系統計算に選択された最初のステージと最後のステージの間に少なくとも1つのステージが必要です。たとえば、"2-3"は無効な選択になります。

コントリビューション・パスが「系統」タブの「選択」に一覧表示されます。



---

注:

系統の最終計算の日付が表示されます。その計算のデータは保存され、次回の系統の計算まで参照できます。

---

6. 計算を実行するオプションを選択します:

- 都合のよい時間にタスクが実行されるようスケジュールする場合は、「**後で実行**」をクリックします。[198ページのタスクフローのスケジュール](#)を参照してください。
- ただちに操作を実行する場合は、「**今すぐ実行**」をクリックします。

計算を最適化し、複数のパスが同時に計算されるようにするため、すべての計算が一度に実行されます。

7. 「はい」をクリックします。

ジョブが開始したこととタスクフローIDを示す情報メッセージが表示されます。

8. タスクフローIDを書き取って、「**OK**」をクリックします。
9. 「タスク領域」から、「**ジョブのステータス**」、「**検索タスク**」の順に選択してタスクの進行状況を監視します。
10. タスクフローが完了したら、Essbaseデータベースで結果を確認します。
11. 選択したレポート・ツールでコントリビューション・レポートを作成して、計算結果を表示します。

---

# 9

## 標準Profitabilityのジョブ・ステータスのモニタリング

---

### この項の内容:

ジョブ・ライブラリ .....	189
タスクフローの管理 .....	192
タスクフロー情報の表示 .....	194
タスクフローのステータスの表示 .....	195
タスクの詳細の表示 .....	197
タスクフローのスケジュール .....	198

# ジョブ・ライブラリ

## サブトピック

- [ジョブ・ライブラリ・ジョブ・タイプ](#)
- [ジョブ・ライブラリの表示](#)

「ジョブ・ライブラリ」には、標準Profitabilityアプリケーションのすべてのモデルおよびすべてのユーザーに対して現在発行されている、またはスケジュールされているジョブがリストされます。

「ジョブ・ライブラリ」の列をクリックして、「開始日」と「時間」、「アプリケーション名」、「ジョブ・タイプ」、「コメント」、「ユーザー」、「タスク・フローID」、「ステータス・メッセージ」を基準にしてジョブをソートします。再度クリックすると、逆順でソートします。

## ジョブ・ライブラリ・ジョブ・タイプ

処理できるジョブには6つのタイプがあり、ジョブ・ライブラリでの「ジョブの詳細」情報は、ジョブ・タイプに応じて変化します:

### • 配賦計算 - 標準

- ジョブの詳細: 計算が設定されたときに選択された処理オプション、カスタム・スクリプト、モデルPOVおよびデータPOV。
- ジョブの終了: ジョブが終了する日時
- ODLタスクID

[181ページの計算の管理](#)を参照してください。

### • POVのコピー

- ジョブの詳細: 計算が設定されたときに選択されたソースおよびターゲットPOVと、「構成のコピー」
- ジョブの終了: ジョブが終了する日時
- ODLタスクID

[76ページの標準Profitability POVのコピー](#)を参照してください。

### • キューブ・デプロイメント

- ジョブの詳細: Essbaseアプリケーション、データベース・オプションおよびデータ・オプションの名前
- ジョブの終了: ジョブが終了する日時
- ODLタスクID

### • 系統の計算

- ジョブの詳細: 選択したPOV
- ステージ: 系統のステージ、たとえば、1-3-5、1-5など
- ジョブの終了: ジョブが終了する日時
- ODLタスクID

### • ステージング表のインポート

- ジョブの詳細: インポートの構成

- JDBC接続
- インポートの「ステージング表の選択」
- ジョブの終了: ジョブが終了する日時
- ODLタスクID

[82ページの標準Profitabilityデータおよびアーティファクトのインポート](#)および『*Oracle Hyperion Profitability and Cost Management 管理者ガイド*』の標準Profitabilityのインポート・ステージング表に関する項を参照してください。

- データの転送
  - ジョブの詳細: 選択したPOV
  - ジョブの終了: ジョブが終了する日時
  - ODLタスクID

## ジョブ・ライブラリの表示

▶ ジョブ・ライブラリを表示するには:

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ジョブが発行されている対象のアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「ジョブ・ステータス」、「ジョブ・ライブラリ」の順に選択します。
3. 「ジョブ・リスト」には、各ジョブの情報が表示されます。
  - 「開始日時」には、ジョブが発行された、または実行をスケジュールされた日付と時刻が実行されます。
  - 「アプリケーション」には、タスクが実行されているアプリケーションの名前が表示されます。
  - 「ジョブ・タイプ」には、実行されるタスクのタイプが表示されます。[190ページのジョブ・ライブラリ・ジョブ・タイプ](#)を参照してください
  - 「コメント」には、初期実行、バルク編集、ドライバの追加など特定のジョブに関してユーザーが入力したメモや詳細が表示されます。コメントはタスクの発行時に入力されます。
  - 「ユーザー」には、処理するタスクを発行した個人のユーザーIDが示されます。
  - 「タスク・フローID」は、特定のタスクに対してシステム生成されるタスクのIDで、`<application name>:<task name><generated taskflow number>`というフォーマットです。

たとえば、生成されるタスクフロー番号は、**Demo04\_RunCalcs\_D20111103T183447\_fbe**のように表示されます。この場合、**Demo04**がアプリケーション名、**RunCalcs**がタスク、**D20111103T183447\_fbe**が生成されたタスクフローのインスタンスIDです。[346ページの詳細Profitabilityタスクフローの管理](#)を参照してください。

  - 「ステータス」には、「実行中」、「成功」または「失敗」などの、タスクフローの現在のステータスに関するメッセージが表示されます。
  - エラー
  - 警告
4. オプション: 「ジョブの詳細」の下で、ハイライトされたジョブの実行に使用されるジョブ・オプションを確認します。詳細のフォーマットは、ハイライトされているジョブ・タイプに応じて異なります。「処理のオプション」、「カスタム・スクリプト」、「POVオプション」は、該当する場合に表示されます。

詳細は、[344ページのジョブ・ライブラリ・ジョブ・タイプ](#)を参照してください。

5. オプション: ジョブを検索するには、各列の下部にある「検索」テキスト・ボックスにテキストを入力して検索します。38ページの[検索機能の使用](#)を参照してください。
6. 「ジョブの終了」の下で、ハイライトされたタスクが完了した日時を確認します。
7. 「ODLタスクID」の下で、ハイライトされたジョブのIDを確認すると、エラーや警告メッセージをhpcm.logで探しやすくなります。

hpcm.logファイルで、「検索」と「ODLタスクID」を使用して、選択したジョブのロギング詳細テキストの開始を探します。ログ・エントリーの開始を見つけたら、下方向に検索して、ファイルで"ERROR"を探します。

8. オプション: 必要に応じて、「ジョブの停止」をクリックして、「実行中」ステータスのハイライトされたタスクを終了します。



#### 注意

ボタンを押した後でタスクフローがすぐに停止する場合は、データの状態が一貫するように、結果に影響するアクティビティに追加の時間が必要なことがあります。

EPM Workspaceタスクフローの使用の詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspaceユーザー・ガイド』を参照してください。

## タスクフローの管理

タスクフローを使用すると、ビジネス・プロセスの全体または一部を自動化できます。タスクは、一連のプロシージャ・ルールに従って、特定のタスクフロー参加者から別の参加者に渡されます。Profitability and Cost Managementでは、次のような場合にタスクフローが作成されます:

- ステージング表がインポートされている
- POVデータがコピーされている
- 計算データベースがデプロイされている
- レポート・データベースがデプロイされている
- 計算スクリプトおよび系統スクリプトが生成されて実行された場合
- データが計算用データベースからレポート・データベースに転送されている



#### 注:

タスクフローは、モデルのコンテンツまたは構造を検証するときには使用できません。

タスクフローIDは各タスクに対して自動的に生成されます。タスクを実行するたびに、新しいタスクIDが生成されます。タスクフローには、1つまたは複数のステップが含まれます。各タスクフロー・ステップは、Profitability and Cost Managementでの1つのアクションを表します:

- ワンステップのタスクフローは、1つのアクション(Essbaseデータベースの生成など)を実行します。
- マルチステップのタスクフローは、複数のアクション(計算スクリプトの生成または実行処理など)を実行します。

193ページの図 4では、6つのステップが含まれたマルチステップ・タスクフローの例が示されています:

○スクリプトを作成する3つのステップ(「C」で始まるステップ)

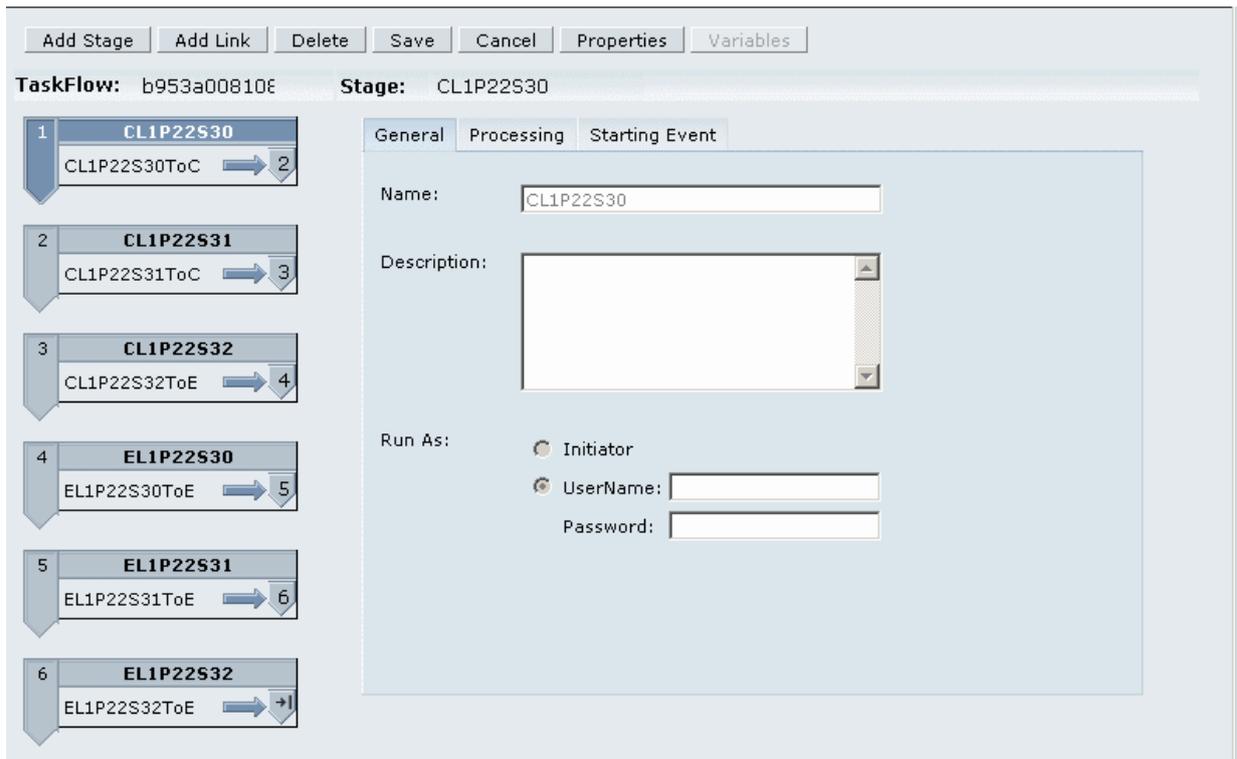
○スクリプトを実行する3つのステップ(「E」で始まるステップ)



注:

タスクフロー・ステップ番号は、ステージのシーケンスではなくタスクのシーケンスを表しています。

図4 マルチステップのタスクフロー例



タスクフローを開始すると、タスクフロー・ステップが作成され、タスクフローID(例、wf-1201275329264)が割り当てられます。IDにより、タスクフローの進行状況を監視できます。タスクフロー・インスタンスを開始するたびに、新しいタスクフローIDが作成されます。タスクフローは、中断または再開すると、常にステップ1から開始されます。

タスクフロー・ステップは、最初のステップから順に実行されます。1つのステップの結果が生成されると、次のステップが開始されます。タスクフローのすべてのステップが実行されたときに初めてステータスが完了となります。

「ジョブのステータス」オプションを使用すると、タスクフローのステータスおよび詳細を表示したり、1度のみか繰り返し発生するタスクフローの実行をスケジュールできます。

「ジョブ・プロセス」監視オプションにアクセスするには、次の条件を満たしている必要があります:

- Profitability and Cost Managementが外部認証およびShared Services機能を使用するように構成されている必要があります。『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。
- タスクフロー・ユーザーがタスクフロー操作を実行するには、次に示すShared Servicesのいずれかの役割が割り当てられている必要があります:

- タスクフローの管理 - タスクフローの作成と編集が許可されます。
- タスクフローの実行 - タスクフローの実行と表示のみが許可されます。この役割を割り当てられたユーザーは、タスクフローの作成や編集を行うことはできません。



注:

Shared Servicesのどちらの役割もグローバル・ユーザーの役割です。これらの役割を割り当てられたユーザーは、任意のアプリケーションや製品のタスクフローを変更または実行できます。『Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

- ・「ジョブのステータス」オプションで詳細を表示するには、計算スクリプトおよびモデルの計算または生成によってタスクフローが作成されている必要があります。175ページの第8章「標準Profitabilityモデルの計算」を参照してください。



注意

各タスクフロー画面でステップおよびリンクを追加または削除して、新しいタスクフローを作成することもできますが、Profitability and Cost Managementタスクフローを変更しないことをお勧めします。その他の製品のEPM Workspaceタスクフローの使用の詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspaceユーザー・ガイド』を参照してください。

タスクフローを監視およびスケジュールするには、次の手順を使用します:

- ・ [194ページのタスクフロー情報の表示](#)
- ・ [195ページのタスクフローのステータスの表示](#)
- ・ [197ページのタスクの詳細の表示](#)
- ・ [198ページのタスクフローのスケジュール](#)

## タスクフロー情報の表示

タスクフローのリスト(要約)には、選択されているアプリケーションの既存のタスクフローと各タスクフローの基本的な詳細が表示されます。

▶ タスクフロー情報を表示するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「ジョブ・ステータス」、「タスク・フローの管理」の順に選択します。

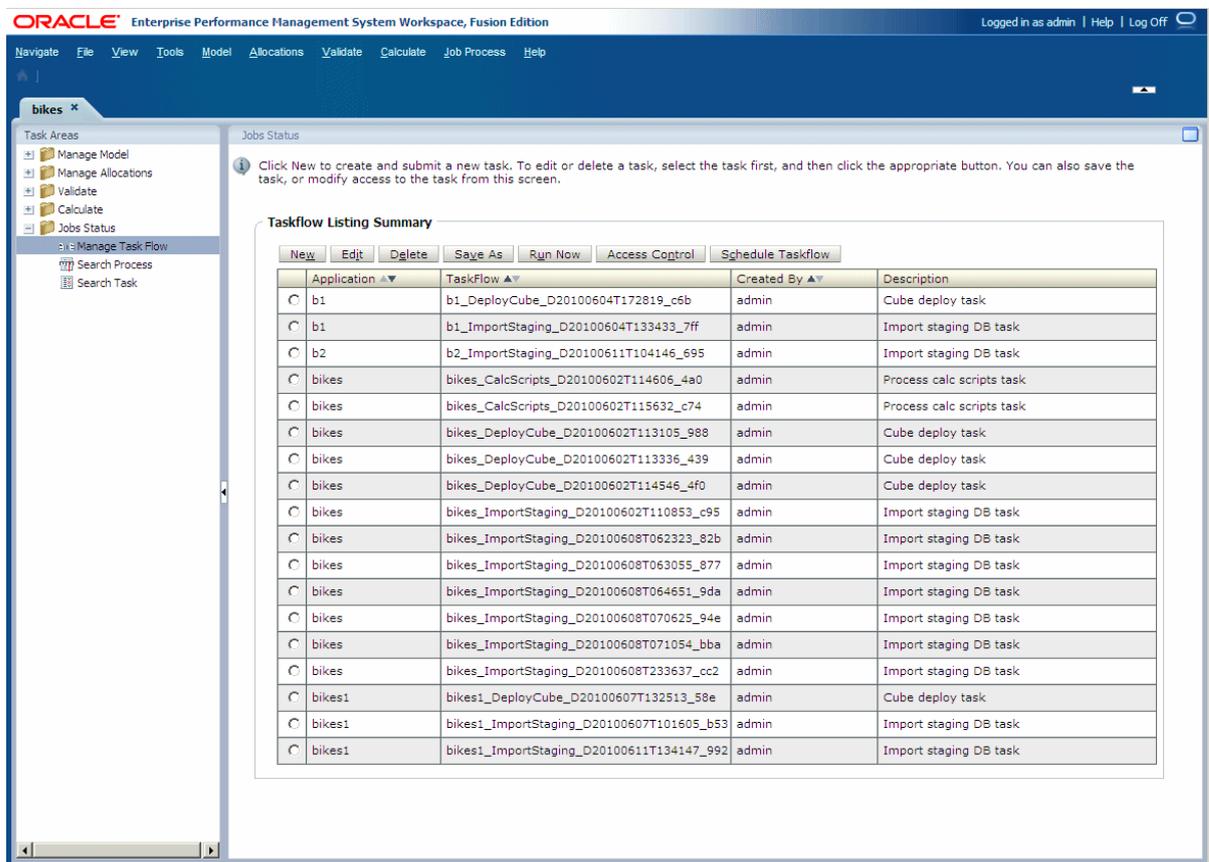
タスクフローのリスト(要約)画面が表示されます。

要約には、選択されているアプリケーションに存在する各タスクフローについて、次の情報が表示されます:

- ・ 「アプリケーション」には、アプリケーション名が表示されます。
- ・ 「タスクフロー」には、生成されたタスクフロー番号が表示されます。

たとえば、**HPM\_ImportStaging\_382728be43623bc2**という生成されたタスクフロー番号が表示された場合、**HPM**は製品名、**ImportStaging**はタスク、**382728be43623bc2**は生成されたアプリケーション・インスタンスIDを表します。

- 「作成者」には、タスクフローを作成したユーザーのIDが表示されます。
- 「説明」には、タスクの簡単な説明が表示されます。



2. オプション: タスクフローの横にあるラジオ・ボタンをクリックし、タスクフローのスケジュールをクリックすると、タスクの実行をより都合のよい時間または日付にスケジュールできます。
3. タスクフローのリスト(要約)画面を使用して、タスクフローの削除やタスクフローの実行のスケジュールなど、様々なアクションを実行します。EPM Workspaceタスクフローの使用の詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspaceユーザー・ガイド』を参照してください。

## タスクフローのステータスの表示

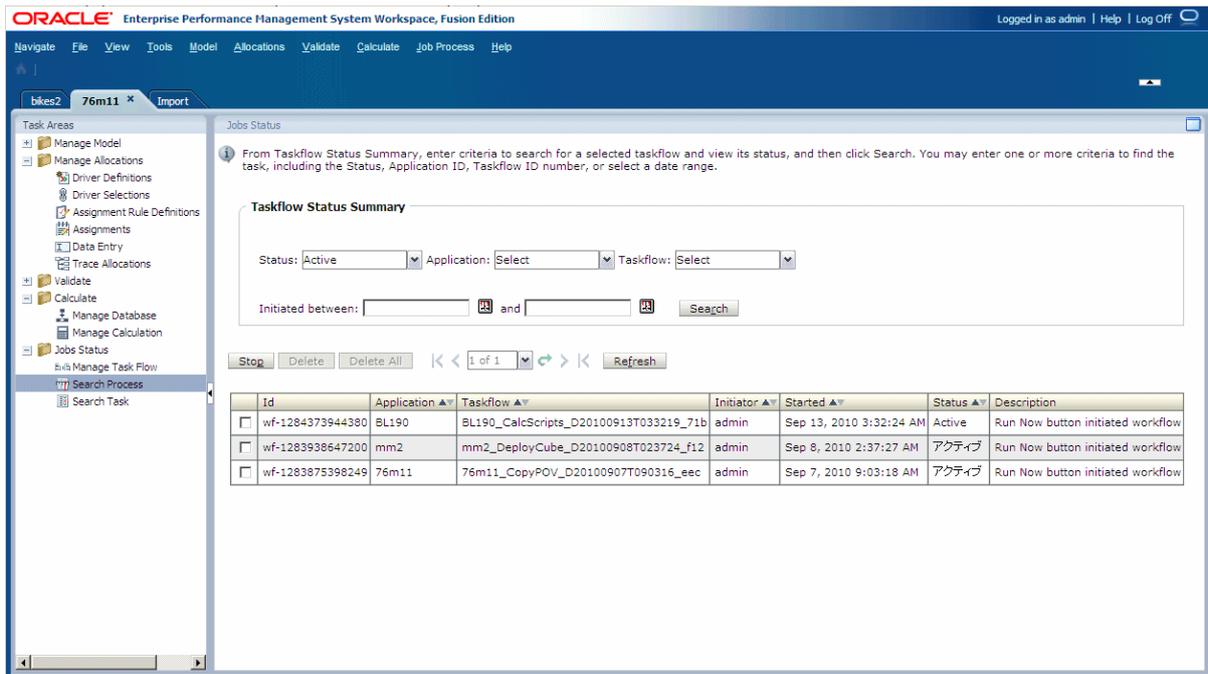
タスクフロー・ステータス(要約)画面では、既存のタスクフローのステータスを表示または更新できます。また、タスクフロー・リストをフィルタ処理し、特定のステータスまたは日付範囲を持つタスクフローを表示することもできます。

生成されるタスクフロー・ステップごとに、参加者IDが生成されます。関連する参加者の要約の詳細を表示するには、個々のタスクフローをドリルダウンします。

▶ タスクフローのステータスを表示するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「ジョブ・ステータス」、「プロセスの検索」の順に選択します。

タスクフロー・ステータス(要約)画面が表示されます。



2. 表示するタスクフローを検索するための検索条件を1つまたは複数選択します:

a. 「ステータス」で、表示するタスクフローのステータスを選択します:

- アクティブ
- 完了
- 停止済
- すべて

b. 「アプリケーション」で、アプリケーションIDを選択します。

c. 「タスクフロー」で、タスクフローIDを選択します。

d. 「開始期間」で、「カレンダー」



をクリックし、検索範囲の開始日と終了日を選択します。



注:

必要に応じ、すべての検索フィールドを空白のままにしてすべてのタスクフローを表示するか、検索条件をできるかぎり具体的にして結果を絞り込みます。

3. 「検索」をクリックします。

検索結果は、画面の下部に表示されます:

- ID (これは、タスクフローに自動的に生成された参加者IDです。)
- アプリケーションID
- タスクフローID
- タスクフローの開始元
- タスクフローの実行が開始された時間

- タスクフローの現在のステータス
  - タスクフローの説明
4. オプション: 「リフレッシュ」をクリックし、ステータス情報を更新します。
  5. オプション: マルチステップ・タスクフローの現在実行されているステップを終了するには、該当するタスクフローの横にあるチェック・ボックスをクリックし、「停止」をクリックします。

選択したステップの結果がアプリケーションから戻されると、タスクフローは停止します。それまでのステップの結果が破棄されることはありません; ただし、タスクフローを再実行すると、最初のステップから開始されます。

6. オプション: タスクフローの詳細およびステータスを表示するには、タスクフロー名をダブルクリックします。

タスクフロー参加者(要約)が表示され、タスクの詳細およびステータスが示されます。

7. 「取消し」をクリックし、タスクフロー・ステータス(要約)に戻ります。

## タスクの詳細の表示

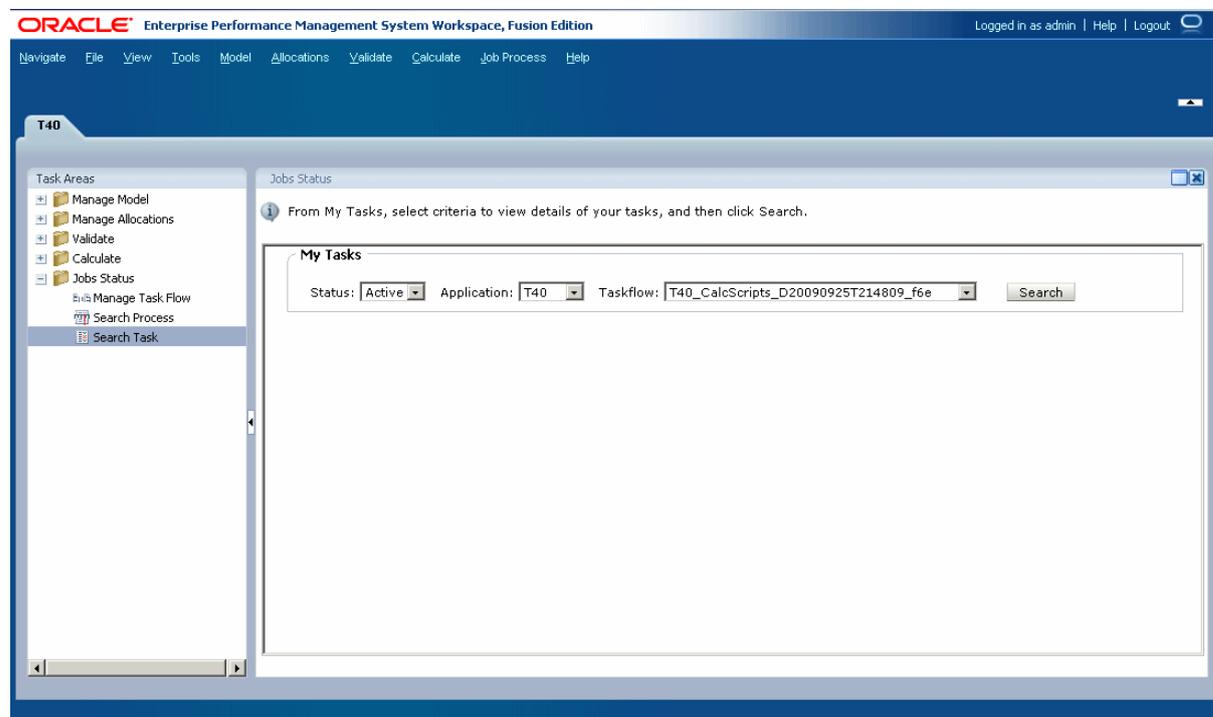
「タスクの詳細」オプションを使用すると、既存のタスクフローの詳細を表示できます。

タスクを実行するたびに、新しいタスクIDが生成されます。

▶ タスクの詳細を表示するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「ジョブ・ステータス」、「タスクの検索」の順に選択します。

「マイ・タスク」画面が表示されます。



2. 表示するタスクフローを検索するための検索条件を1つまたは複数選択します:
  - a. 「ステータス」で、「新規」、「アクティブ」、「完了」、「すべて」などのステータスを選択します。
  - b. 「アプリケーション」で、アプリケーションIDを選択します。

- c. 「タスクフロー」で、生成されたタスクフローIDを選択します。



注:

必要に応じ、すべての検索フィールドを空白のままにしてすべてのタスクフローを表示するか、検索条件をできるかぎり具体的にして結果を絞り込みます。

3. 「検索」をクリックします。

検索結果が表示されます。

4. オプション: 右向きまたは左向きの矢印を使用して、結果をスクロールします。現在のページ番号と合計ページ数が表示されます。
5. オプション: 「リフレッシュ」をクリックし、ステータス情報を更新します。
6. タスクフローを選択し、ステータスの表示をクリックします。

タスクフロー参加者(要約)が表示され、ジョブの詳細および、タスクフロー内で選択されているステップの現在のステータスが示されます。

7. 「取消し」をクリックし、「ジョブ・ステータス」画面に戻ります。

## タスクフローのスケジュール

1度のみか繰り返し発生するタスクフローの実行をスケジュールできます。



注:

タスクフローをスケジュールするには、タスクを作成するときに「後で実行」オプションを選択しておく必要があります。

▶ タスクフローをスケジュールするには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「ジョブ・ステータス」、「タスク・フローの管理」の順に選択します。

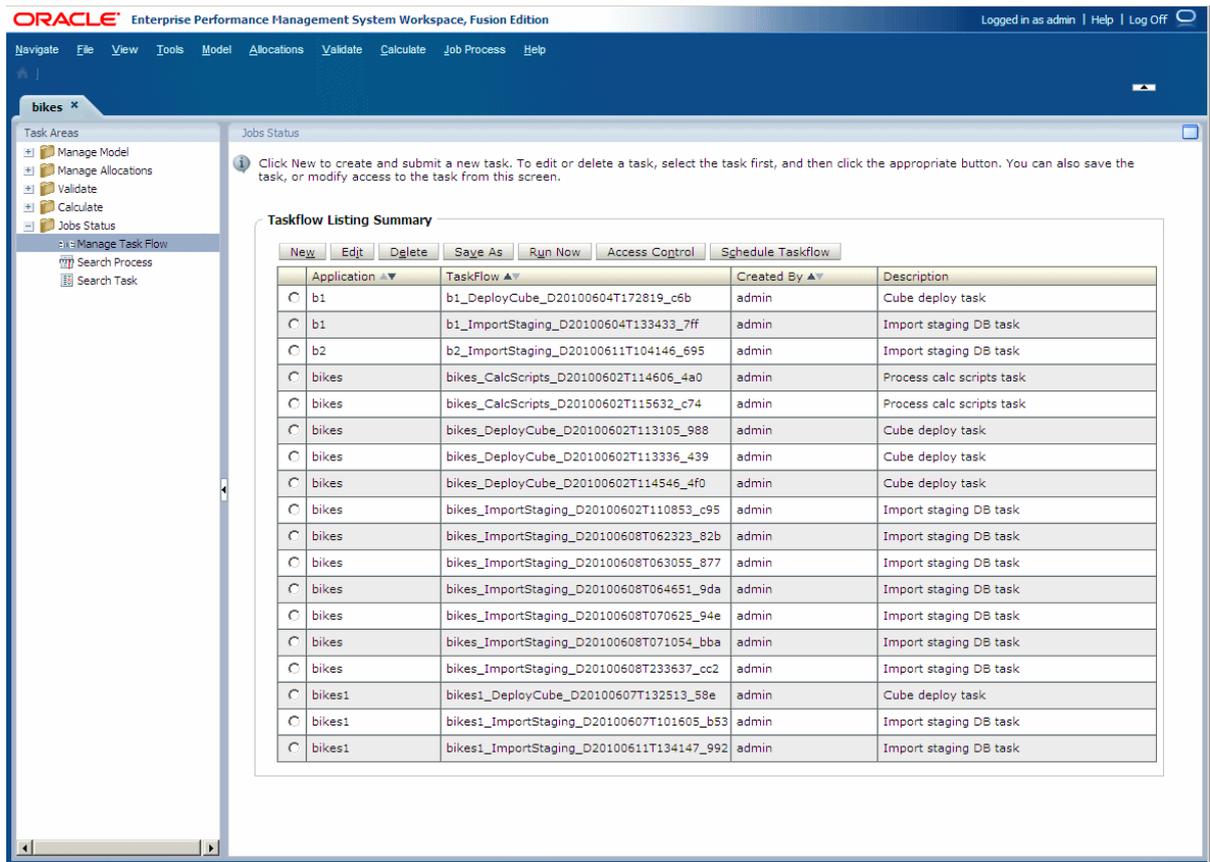
タスクフローのリスト(要約)画面が表示されます。要約には、既存の各タスクフローに関する次の情報が表示されます:

- ・ <製品名>:<アプリケーションID>というフォーマットのアプリケーション名。アプリケーション名の例:  
**HPM:382728be43623bc2**。ここで、HPMが製品名、382728be43623bc2が生成されたアプリケーション・インスタンスIDです。
- ・ 生成されたタスクフロー番号
- ・ タスクフローを作成したユーザーのID
- ・ タスクフローの目的に関する説明

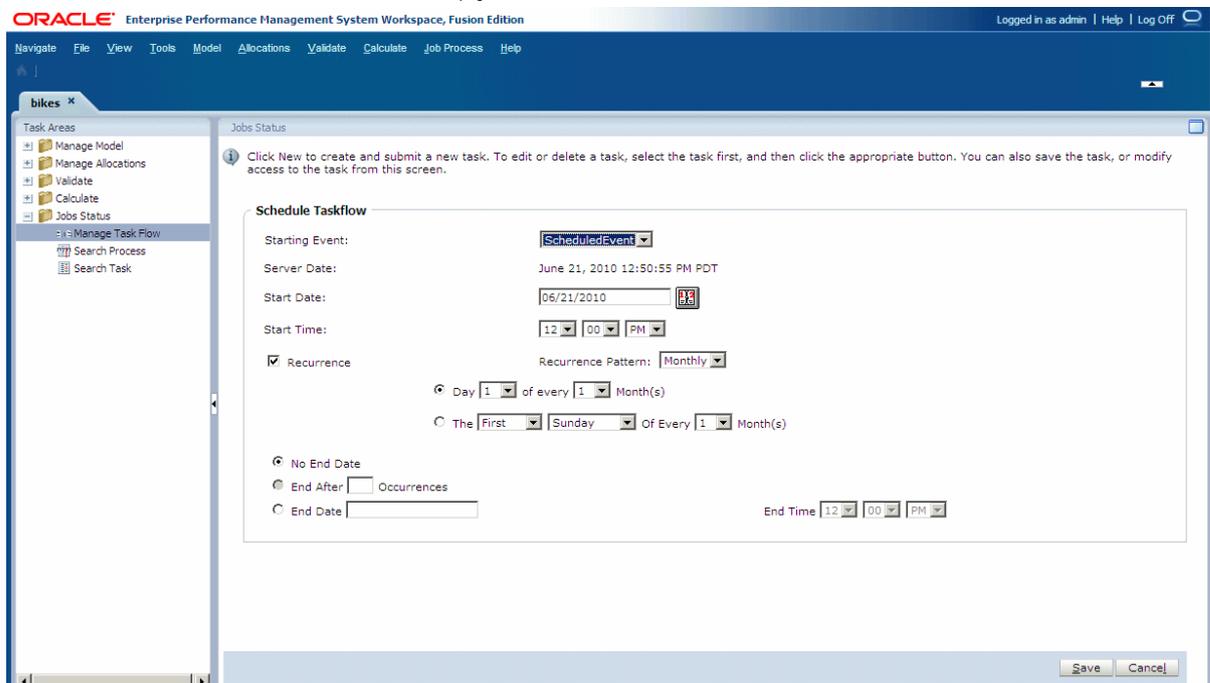


注:

タスクを実行するたびに、新しいタスクIDが生成されます。



2. タスクの作成時に「後で実行」オプションを選択したタスクフローを選択します。
3. タスクフローのスケジュールをクリックします。



4. 「開始イベント」の下で「スケジュール済イベント」を選択します。  
「サーバーの日付」が表示されます。

5. 「開始日」で、「カレンダー」



をクリックし、タスクフローをスケジュールする日付を選択します。

6. 「開始時刻」で、ドロップダウン・リストを使用し、タスクフローの開始をスケジュールする時刻を選択します。

時間および分を選択し、午前または午後のいずれかを選択する必要があります。

7. オプション: ジョブを繰り返し実行するようにスケジュールする手順は、次のとおりです:

- a. 繰り返しを選択します。
- b. 繰り返しパターンで、「月次」または「週次」などの頻度を選択します。
- c. 繰り返しの設定を選択し、次の例に示すように必要な変数を入力します:

- $x$ か月ごとの月の第 $x$ 日
- $x$ か月ごとの週の $x$ 曜日

8. オプション: タスクフローを、手動で取り消されるか削除されるまで実行するようにスケジュールするには、終了日なしを選択します。

9. オプション: タスクフローを指定した回数実行するようにスケジュールするには、**x**回後に終了を選択します。テキスト・ボックスにジョブを実行する回数を入力します。



---

注:

このオプションは、「1日ごと」または「1週間ごと」の「繰り返し」スケジュールが選択されている場合にのみ使用できます。

---

10. オプション: 指定した日付までタスクフローを実行するには、「終了日」を選択し、最後に実行する日時を選択します:

a. 「終了日」で、「カレンダー」



をクリックし、日付を選択します。



---

注:

「カレンダー」は、「終了日」オプションを選択している場合にのみ表示されます。

---

b. 「終了時間」で、最後に実行する時刻を選択します。時間および分を選択し、午前または午後のいずれかを選択する必要があります。

11. 「保存」をクリックして、スケジュールしたジョブを保存します。

スケジュールどおりにタスクフローが実行されます。

# 10

## 標準Profitabilityレポートの実行

この項の内容:

標準Profitabilityモデルのレポートの実行について .....	201
Essbaseアウトラインおよびレポート作成 .....	202
ステージ・データのレポート作成 .....	203
直接配賦のレポート作成 .....	204
配賦システムのレポート作成 .....	205
Smart Viewを使用したレポート作成 .....	206

### 標準Profitabilityモデルのレポートの実行について

モデルを評価するための内部レポートがあります; たとえば、「ステージの貸借一致」画面やデータ入力ビューです。これらに加えて、「問合せの管理」画面を使用して、Profitability and Cost Managementによって作成された計算キューブやレポート・キューブに対して実行するSmart View問合せを構築および管理できます。問合せ管理画面から問合せを実行すると、問合せの結果を含むSmart Viewが起動されます。詳細は、後続の項で説明します。

他のOracleレポート・ツールまたはサードパーティのレポート・ツールを使用して、Essbaseキューブについてレポートを作成し、計算結果を表示することもできます。

- Web Analysis
- Financial Reporting
- Smart Viewは単独で使用してEssbaseキューブのレポートを作成することも、「問合せの管理」画面から問合せのコンテキストで起動することもできます

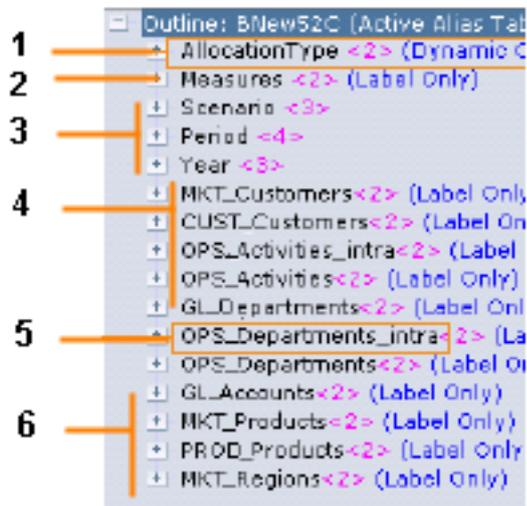
これらのレポート・ツールを使用することで、必要な情報を希望どおりに表示するレポートを生成できます。この項では、レポートの構築に必要な手順について説明します。レポートの作成および実行方法の詳細は、使用するレポート・ツールのサポート・ドキュメントを参照してください。

次の項を参照してください:

- [202ページのEssbaseアウトラインおよびレポート作成](#)
- [203ページのステージ・データのレポート作成](#)
- [204ページの直接配賦のレポート作成](#)
- [205ページの配賦システムのレポート作成](#)
- [206ページのSmart Viewを使用したレポート作成](#)

## Essbaseアウトラインおよびレポート作成

Profitability and Cost Managementモデルに作成されたEssbaseアウトラインには、各ステージのデータを保存する専用のディメンションがあります。ステージはEssbaseアウトライン内には存在しませんが、モデル内のディメンションおよびメンバーを整理するのに使用されます。Profitability and Cost Managementでステージを作成すると、ディメンションが属するステージを識別するための接頭辞が定義され、アウトラインに表示されます。



前述の図に示されたEssbaseアウトラインの例には、次の特性があります：

1. AllocationTypeは、DirectAllocationまたはGenealogyAllocationデータを識別します
2. メジャー・ディメンションは、モデルで使用されているメジャーを示します。
3. 少なくとも1つのPOVディメンションが選択可能です。
4. ステージ接頭辞によって、ディメンションが属するステージが示されます。
5. \_intra接尾辞によって、ステージ内割当てで使用されるディメンションが識別されます。
6. モデルからのビジネス・ディメンション。

Essbaseアウトラインのディメンションを使用し、必要に応じて様々なレベルの詳細および情報を含むレポートを作成します。レポートに含めるディメンションは選択可能です。ただし、通常、次のディメンションは必須です：

- AllocationTypeディメンション - レポートにDirectAllocationまたはGenealogyDataのどちらを含めるかを指定します。
- POVディメンション
- メジャー・ディメンション
- ビジネス・ディメンション
- 属性ディメンション

ステージ内配賦を許可するステージの場合、ディメンションがステージ内配賦の一部であることがわかるように、Essbaseによって\_intra接尾辞が付けられます。たとえば、ステージ・ディメンションがOPS\_ProductsおよびOPS\_Activitiesである場合、ステージ内配賦の宛先データはOPS\_Departments\_intraおよびOPS\_Activities\_intraというディメンションに保存されます。



## 注意

すべてのEssbaseアウトラインで、すべてのディメンションの名前が一意であることを確認してください; 一意でない場合は、アウトラインの作成が失敗します。たとえば、属性ディメンション・メンバーに標準のディメンションと同じ名前を付けることはできません。

## ステージ・データのレポート作成

レポートを生成し、個々のモデル・ステージの詳細を調べることができます。

### ステージ・データ・レポートの選択例

	A	B	C	D
1	Period	January	GL_Accounts	NoMember
2	Year	2008	GL_Departments	NoMember
3	Scenario	Actual	OPS_Departments_intra	NoMember
4			OPS_Activities_intra	NoMember
5	AllocationType	DirectAllocation	PRODS_Products	NoMember
6			CUST_Customers	NoMember
7			MKT_Customers	NoMember
8			MKT_Products	NoMember
9			MKT_Regions	NoMember
10				
11				
12	OPS_Departments	OPS_Activities	Measures	
13			CostReceivedPriorStage	CostInput
14	Assembly	Building		200
15	Assembly	Rework		150
16	Assembly	Testing		100

前述のレポート例は、ステージ・データ・レポートを作成するためのディメンションのレイアウトを示しています:

1. DirectAllocationに設定されたAllocationType
2. 他のステージのディメンションはすべてNoMemberに設定されています。
3. ステージ・ディメンション

▶ ステージ・データのレポートを作成するには:

1. 175ページの第8章「標準Profitabilityモデルの計算」の説明に従って、モデルのEssbaseキューブを生成および計算します。
2. レポート作成アプリケーションから、Essbaseキューブに接続します。
3. ディメンションを必要な構成にドラッグ・アンド・ドロップします。たとえば、ソース・ステージ交差を行に、宛先ステージ交差を列に、またはその逆に配置することができます。
4. ソース・ステージの各ディメンションからメンバーを選択し、レポートを作成するソース交差を定義します。
5. 宛先ステージの各ディメンションからメンバーを選択し、レポートを作成する宛先交差を定義します。
6. AllocationTypeディメンションから、**DirectAllocation**を選択します。
7. 各POVディメンションからメンバーを選択します。
8. メジャー・ディメンションから、レポートを作成するメジャーを選択します。

9. その他すべてのディメンションについては、**NoMember**を選択します。
10. レポート作成アプリケーションの説明書を参照し、レポートの作成を実行します。

## 直接配賦のレポート作成

直接配賦とは、ソースと宛先の交差が割当てによって直接リンクされている配賦のことです。

直接配賦レポートの選択例

	A	B	C	D	E
1	Period	January		GL_Accounts	NoMember
2	Year	2008		GL_Departments	NoMember
3	Scenario	Actual		OPS_Departments_intra	NoMember
4				OPS_Activities_intra	NoMember
5	AllocationType	DirectAllocation		CUST_Customers	NoMember
6	Measure	CostReceivedPriorStage		MKT_Customers	NoMember
7				MKT_Products	NoMember
8				MKT_Regions	NoMember
9					
10	OPS_Departments	OPS_Activity	PRD_Products		
11					
12			Bike Trailer	Standard Cruiser	LTD Cruiser
13	Assembly	Building	5000	3600	4100
14	Assembly	Testing	300	270	325
15	Assembly	Rework	800	600	460

前述のレポート例は、直接配賦データ・レポートを作成するために使用するディメンションのレイアウトを示しています：

1. DirectAllocationに設定されたAllocationType
2. 他のステージのディメンションはすべてNoMemberに設定されています。
3. ソースのステージ交差
4. 宛先のステージ交差

▶ 直接配賦レポートを作成するには：

1. 175ページの第8章「標準Profitabilityモデルの計算」の説明に従って、モデルのEssbaseキューブを生成および計算します。
2. レポート作成アプリケーションから、Essbaseキューブに接続します。
3. 「ソース・ステージ」で、レポートを作成する各ディメンションからメンバーを選択します。
4. 「宛先ステージ」で、レポートを作成する各ディメンションからメンバーを選択します。



注：

ステージ内配賦が存在する場合は、\_intraという接尾辞を付けたディメンションを使用して、宛先交差を指定します。

5. AllocationTypeディメンションから、**DirectAllocation**を選択します。
6. 各POVディメンションからメンバーを選択します。
7. メジャー・ディメンションから、レポートを作成するメジャーを選択します。
8. その他すべてのディメンションについては、**NoMember**を選択します。

- レポート作成アプリケーションの説明書を参照し、レポートの作成を実行します。

## 配賦システムのレポート作成

配賦システムレポートでは、対応付けられた割当ては存在しないが間接的な関係を持つソースと宛先の交差の配賦詳細を計算します。

### 配賦システムレポートの選択例

	A	B	C	D
1	Period	January	OPS_Departments	NoMember
2	Year	2008	OPS_Activities	NoMember
3	Scenario	Actual	CUST_Customers	NoMember
4			OPS_Departments_intra	NoMember
5	AllocationType	GenealogyAllocation	OPS_Activities_intra	NoMember
6	Measure	CostReceivedPriorStage	MKT_Customers	NoMember
7			MKT_Products	NoMember
8			MKT_Regions	NoMember
9				
10	GL_Departments	GL_Accounts	PROD_Products	
11			LTD Cruiser	STD Cruiser
12	Assembly	Personnel		200 75
13	Assembly	Personnel		150 100
14	Assembly	Personnel		200 80

前述のレポート例は、配賦システムレポートを作成するために使用するディメンションのレイアウトを示しています：

- GenealogyAllocationに設定されたAllocationType
- 他のステージのディメンションはすべてNoMemberに設定されています。
- 開始点の交差
- 終了点の交差

▶ 配賦システムのレポートを作成するには：

- 175ページの第8章「標準Profitabilityモデルの計算」の説明に従って、モデルのEssbaseキューブを生成および計算します。
- レポート作成アプリケーションから、Essbaseキューブに接続します。
- 「ソース・ステージ」で、開始点であるステージの各ディメンションからメンバーを選択します。
- 「宛先ステージ」で、終了点であるステージの各ディメンションからメンバーを選択します。



注：

ステージ内配賦が存在する場合は、\_intraという接尾辞を付けたディメンションを使用して、宛先交差を指定します。

- AllocationTypeディメンションから、**GenealogyAllocation**を選択します。
- メジャー・ディメンションから、レポートを作成するメジャーを選択します。

7. 各POVディメンションからメンバーを選択します。
8. 開始点ステージと終了点ステージの間にあるステージのディメンションを含め、その他すべてのディメンションについては、**NoMember**を選択します。
9. レポート作成アプリケーションの説明書を参照し、レポートの作成を実行します。

## Smart Viewを使用したレポート作成

Smart Viewは、Essbaseなどのデータ・ソースに対して、Microsoft Officeインタフェースを提供します。Smart Viewをインストールすると、Office製品のツールバーにHyperionメニューが表示されます。このHyperionメニューにより、Excel、WordまたはPowerPointからEssbaseに接続したり、Smart Viewの機能にアクセスできます。生成したレポートは、グリッド、チャートまたはスクロール可能な表として表示できます。

次の手順は、レポート作成プロセスの概要になります。Smart Viewを設定および使用して結果を表示する方法の詳細は、『Oracle Smart View for Officeユーザーガイド』を参照してください。

- ▶ Smart View for Officeを使用してレポートを作成するには:
  1. 175ページの第8章「標準Profitabilityモデルの計算」の説明に従って、モデルのEssbaseキューブを生成および計算します
  2. Microsoft Excelを開きます。
  3. Smart Viewで、「**Hyperion**」、「**接続マネージャ**」の順に選択し、Essbaseデータベースに接続します。『Oracle Smart View for Officeユーザーガイド』を参照してください。
  4. 『Oracle Smart View for Officeユーザーガイド』の説明に従って、レポートを作成します。

# 11

## 標準Profitabilityでの Smart View問合せの管理

### この項の内容:

カスタム問合せの作成 .....	208
カスタム問合せの編集 .....	213
Smart View問合せの複製 .....	216
Smart View問合せの削除 .....	216
「ステージの貸借一致」画面からの問合せの実行 .....	217

Smart View統合は、データ管理に関するヘルプを提供し、配賦データの診断を実行し、配賦データとシステムデータの両方の分析を可能にするために、標準Profitabilityモデルでのみ使用可能です。さらに、Smart View統合では、ステージ貸借一致から起動できる、コンテキスト依存の調査ツールが用意されています。

Smart View問合せではユーザーはProfitability and Cost Managementデータのビューへすばやくアクセスできます。問合せは計算用データベースまたはレポート用データベースのいずれに対しても定義でき、Smart Viewを起動した後は、グリッドを分析用に使用できます。データの入力も計算用データベースに対して実行できます。

「問合せの管理」画面を使用すると、問合せのタイプを選択した後、グリッドとSmart View POVを使用して問合せを見直すことができます。問合せは保存して再利用、または他のProfitability and Cost Managementのユーザーによりクローニングできます。問合せはライフサイクル管理を使用して、エクスポートや再インポートもできます。

デフォルトの問合せは選択した問合せタイプに応じて異なるビューを提供します。各問合せでは選択したタイプに対し選択を追加できます。たとえば、ドライバ・メジャーの問合せタイプでは、ドライバの場所(「ソース」、「割当て」、「宛先」)と、ディメンション・レイアウトおよびメンバーの選択画面に表示されるディメンションのデフォルトを完了するためのステージの組合せを指定することがユーザーに求められます。

事前定義のSmart View統合を「ステージの貸借一致」画面から起動することもできます。起動データ・ポイントは、「ステージの貸借一致」画面でハイパーリンクとして表示され、あるステージから別のステージに提供された値が存在します。入力または配賦データについて詳細にドリル・ダウンできます。たとえば、配賦の実行後に未割当コストヘドリルダウンしたり、または同じ実行で使用された入力データを確認することができます。

任意のディメンションまたはディメンション・メンバーの名前が変更または削除された場合、それらのディメンションを参照しているSmart View問合せは無効になります。Smart View問合せの検証画面ですべての問合せを検証し、無効な問合せがあればエラー・メッセージを表示します。

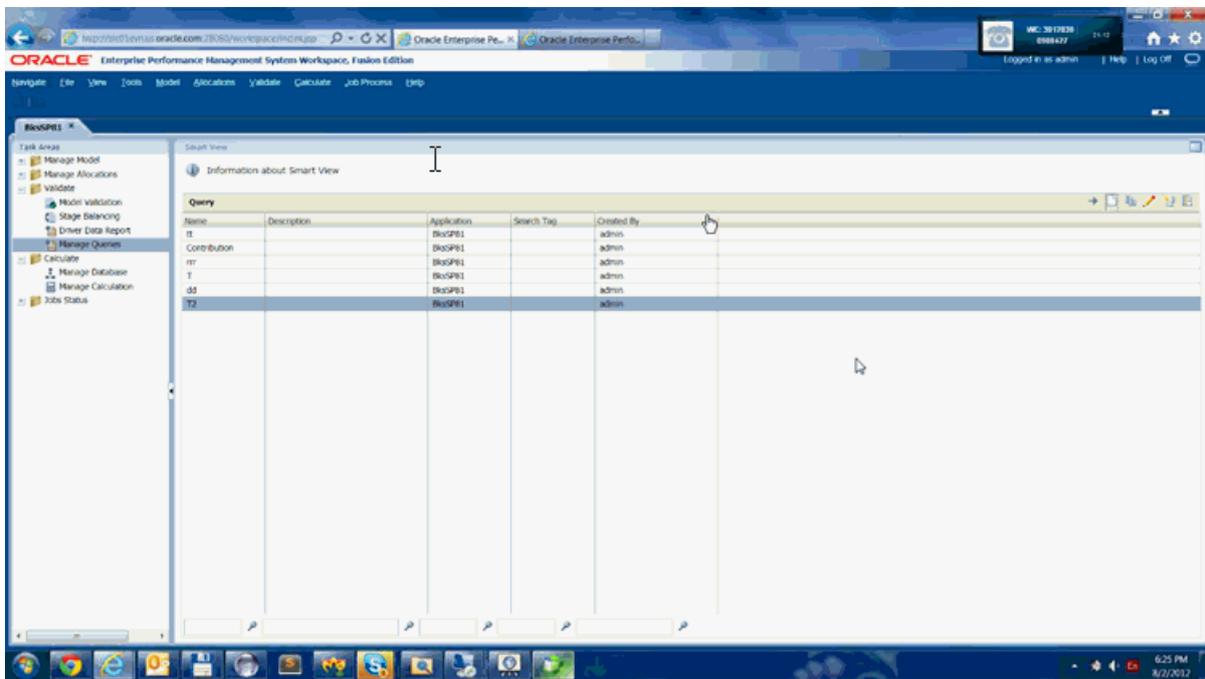
管理者またはパワー・ユーザーとしてプロビジョニングされたユーザーのみが、問合せを作成、編集、コピー、または削除できます。管理者、パワー・ユーザー、対話型ユーザーがアプリケーションから問合せを起動できます。

## カスタム問合せの作成

▶ 問合せを作成するには:

1. 問合せを作成する前に、次の製品がインストールおよび構成され、実行していることを確認します。
  - Provider Services
  - Shared Services
  - Essbase
  - Microsoft Excelがクライアント・マシンにSmart Viewとともにインストールされている
2. 「タスク領域」から、「レポート」、「問合せの管理」の順に選択します。

「問合せの管理」画面が表示され、ユーザーが管理者またはパワー・ユーザーとしてプロビジョニングされている全アプリケーションに対するすべての既存の問合せが表示されます。



3. 問合せウィザードを開くには、「追加」



をクリックします。

**Step 1: Query options**

Name:  Description:

Application:

Database:  Search Tag:

Type:

Driver Measures Location:

Source Stage:

Destination Stage:

Smart View Options

Suppress #Missing

Use Dimension Aliases

< Back    Next >    Cancel

4. 手順1:「問合せ」オプションで、新しい問合せの情報を次のように入力します。
  - 問合せの「名前」
  - オプション: 問合せの「説明」
  - ドロップダウン・リストから問合せに使用する「アプリケーション」を選択します
  - ドロップダウン・リストから問合せに使用する「データベース」を選択します。
    - 計算 (BSO)
    - レポート (ASO)
  - オプション: Smart Viewの「問合せ」メイン画面で問合せの並べ替えに使用する記述的な「検索タグ」を入力します。
5. 「タイプ」で、作成する問合せのタイプを選択します。
  - ドライバ・メジャー
  - ステージ・メジャー
  - コントリビューション
  - カスタム

選択したタイプに応じて、追加の問合せオプションがその選択を反映して変更されます。[210ページの表 12](#)を参照してください。
6. 選択したタイプに基づいて「問合せオプション」を選択します。

表12 「問合せタイプ」オプション

選択した問合せタイプ	タイプ	問合せオプション
ドライバ・メジャー	割当て	ソース・ステージと宛先ステージを選択します。
ドライバ・メジャー	ソース	ソース・ステージを選択します。
ドライバ・メジャー	宛先	宛先ステージを選択します。
ドライバ・メジャー	グローバル	N/A
ステージ・メジャー		問合せに使用するステージを選択します。
コントリビューション	直接配賦	ソース・ステージと宛先ステージを選択します。
コントリビューション	系統	コントリビューション・パスを選択します (たとえば1-3-5)。
カスタム		必要に応じて選択します。デフォルトは必要ありません。

7. オプション: 必要な場合、Smart Viewの最初のクエリに対するデータの抑制オプションを設定する、「**Smart Viewオプション**」で「**#Missingの抑制**」を選択します。



注:

「**#Missingの抑制**」を選択した場合は、Smart Viewのオプションは、すべての問合せではなく、最初の問合せの実行に対してのみ設定されます。後続のデータへのドリルのオプションを設定するには、Smart Viewのオプションを手動で設定します。

8. オプション: 「**Smart Viewオプション**」で、「**ディメンション別名の使用**」を選択して、問合せ内のすべてのディメンションに割り当てられた別名を表示します。
9. 「次」をクリックします。

手順2 - ディメンション・レイアウトが表示されます。

**Step 2: Dimension Layout**

**Dimensions**

Dimension	Position
Year	POV
Period	POV
Scenario	POV
Measures	Columns
AllocationType	POV
GL_CostCenters	Row
GL_Accounts	Row
ACT_CostCenters	Row
ACT_Activities	Row
ACT_CostCenters_intra	POV
ACT_Activities_intra	POV
PR_Products	POV
CS_Customers	POV
SL_Regions	POV
SL_Customers	POV
SL_Products	POV

**Dimension Position**

Smart View POV

- Year
- Period
- Scenario
- AllocationType
- ACT\_CostCenters\_intra
- ACT\_Activities\_intra
- PR\_Products
- CS\_Customers
- SL\_Regions
- SL\_Customers

Rows

- GL\_CostCenters
- GL\_Accounts
- ACT\_CostCenters
- ACT\_Activities

Columns

- Measures

< Back   Next >   Cancel

10. 各「ディメンション」に対し、「ディメンション」の下で、ドロップダウン・リストを使用して画面のディメンション位置列のディメンションの配置に対する「位置」を選択します。

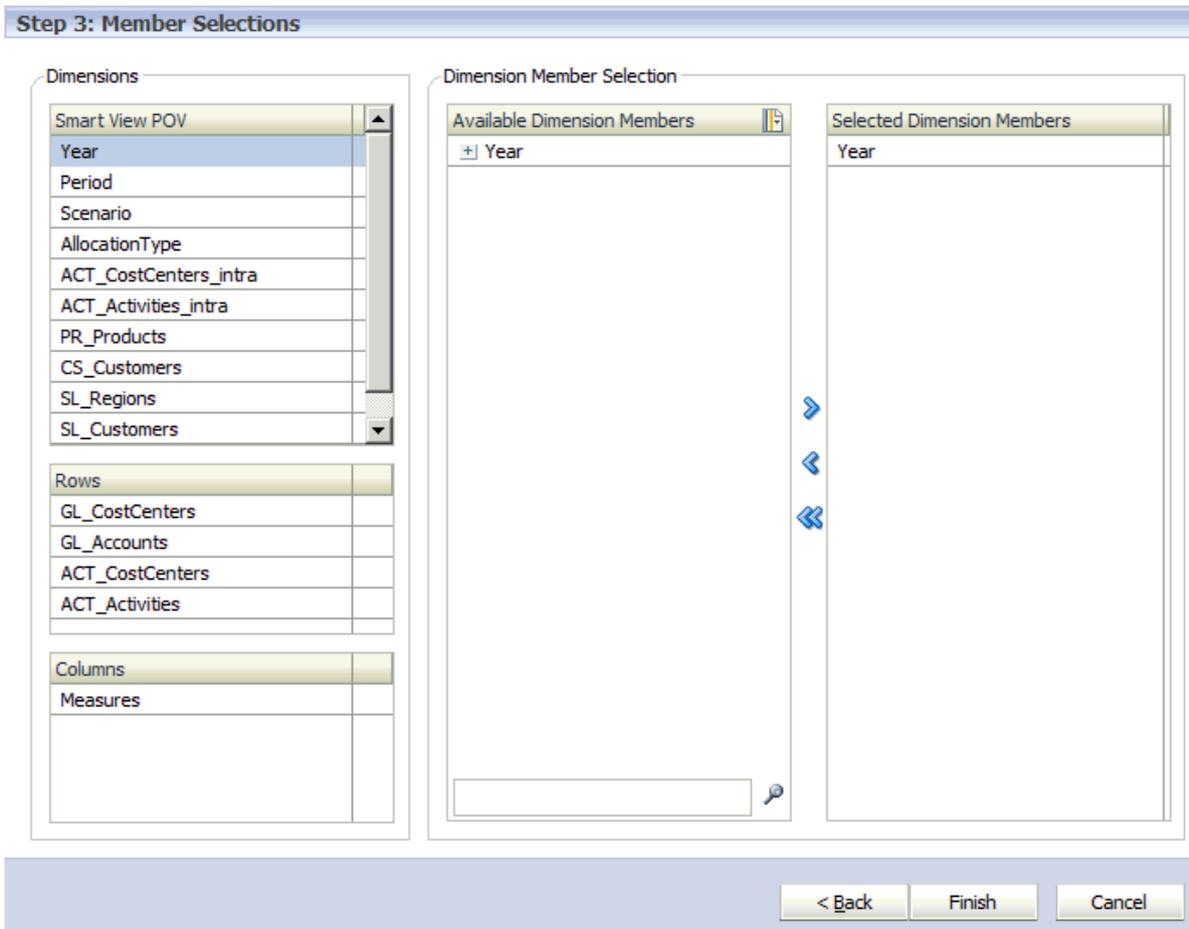
- POV
- 行
- 列

デフォルトでは、アプリケーション・アウトラインのすべてのディメンションが表示され、作成している問合せのタイプに適したデフォルトに選択が設定されます。

たとえば、特定のステージに対するステージ・メジャーを選択すると、そのステージのディメンションが「行」セクションに表示され、最初の階層の最上位のメンバーが各ステージ・ディメンションに対して事前に選択されます。他のステージ・ディメンションは「Smart View POV」セクションに配置され、各ステージから「NoMember」メンバーが選択されます。

11. オプション: 「Smart View POV」セクションのディメンション位置で、上矢印および下矢印を使用して、問合せのハイライトされているディメンションの位置を変更します。
12. オプション: 「行」セクションのディメンション位置で、上矢印および下矢印を使用して、問合せのハイライトされているディメンションの位置を変更します。
13. オプション: 「列」セクションのディメンション位置で、上矢印および下矢印を使用して、問合せのハイライトされているディメンションの位置を変更します。
14. 「次」をクリックします。

手順3 -「メンバー選択」が表示されます。「Smart View POV」、「行」および「列」のすべてのディメンションが「ディメンション・レイアウト」画面で定義された順序で表示されます。矢印を使用して、リスト内を上下にスクロールします。



15. 「ディメンション・メンバーの選択」で、「追加」矢印



を使用して、問合せに含めるディメンション・メンバーを「選択済ディメンション・メンバー」列に移動します。

代替階層およびNoMemberメンバーを含む、すべてのディメンション・メンバーがリストに表示されます。レベルに制限がないため、代替階層、共有または基本メンバー、任意のメンバーを選択できます。

[Ctrl]キーを使用して複数のディメンションを選択するか、[Shift]キーを使用して、範囲内の最初と最後のメンバーを選択します。

16. 「終了」をクリックします。

新しい問合せが「問合せの管理」画面に追加されます。



注:

問合せを実行する前に、データベースをデプロイする必要があります。問合せを実行する前にデータベースを計算する必要がない場合でも、計算されていないと結果が欠落します。

## カスタム問合せの編集

▶ 問合せを編集するには:

1. 「タスク領域」から、「レポート」、「問合せの管理」の順に選択します。

「問合せの管理」画面が表示され、ユーザーが管理者またはパワー・ユーザーとしてプロビジョニングされている全アプリケーションに対するすべての既存の問合せが表示されます。

2. 問合せ・ウィザードを開くには、「問合せの編集」ボタン



をクリックします。

Step 1: Query options

Name:  Description:

Application:

Database:  Search Tag:

Smart View Options

Suppress #Missing

Use Dimension Aliases

< Back Next > Cancel

3. 手順1: 「問合せオプション」で、次のフィールドを変更して問合せを変更します。

- 問合せの「名前」
- オプション: 問合せの「説明」
- ドロップダウン・リストから問合せに使用する別の「データベース」を選択します。
  - 計算 (BSO)
  - レポート (ASO)
- オプション: Smart Viewの「問合せ」メイン画面で問合せの並べ替えに使用する記述的な「検索タグ」を入力します。



注:

「問合せタイプ」または「問合せオプション」は変更できません。タイプを変更するには、新しい問合せを作成します。

4. オプション: 必要な場合、Smart Viewの最初のクエリに対するデータの抑制オプションを設定する、「**Smart Viewオプション**」で「**#Missingの抑制**」を選択します。



注:

「**#Missingの抑制**」を選択した場合は、Smart Viewのオプションは、すべての問合せではなく、最初の問合せの実行に対してのみ設定されます。後続のデータへのドリルのオプションを設定するには、Smart Viewのオプションを手動で設定します。

5. オプション: 必要に応じて、「**Smart Viewオプション**」で、「**ディメンション別名の使用**」を選択して、問合せ内のすべてのディメンションに割り当てられた別名を表示します。
6. 「次」をクリックします。

手順2 -「ディメンション・レイアウト」画面が表示されます。

Dimension	Position
Year	POV
Period	POV
Scenario	POV
Measures	Columns
AllocationType	POV
GL_CostCenters	Row
GL_Accounts	Row
ACT_CostCenters	Row
ACT_Activities	Row
ACT_CostCenters_intra	POV
ACT_Activities_intra	POV
PR_Products	POV
CS_Customers	POV
SL_Regions	POV
SL_Customers	POV
SL_Products	POV

Smart View POV
Year
Period
Scenario
AllocationType
ACT_CostCenters_intra
ACT_Activities_intra
PR_Products
CS_Customers
SL_Regions
SL_Customers

Rows
GL_CostCenters
GL_Accounts
ACT_CostCenters
ACT_Activities

Columns
Measures

7. 各「ディメンション」に対し、「ディメンション」の下で、ドロップダウン・リストを使用して画面のディメンション位置列のディメンションの配置に対する「位置」を選択します。

- Smart View POV

- 行
- 列

デフォルトでは、アプリケーション・アウトラインのすべてのディメンションが表示され、作成している問合せのタイプに適したデフォルトに選択が設定されます。

たとえば、特定のステージに対するステージ・メジャーを選択すると、そのステージのディメンションが「行」セクションに表示され、最初の階層の最上位のメンバーが各ステージ・ディメンションに対して事前に選択されます。他のステージ・ディメンションは「Smart View POV」セクションに配置され、各ステージから「NoMember」メンバーが選択されます。

8. オプション: 「Smart View POV」セクションのディメンション位置で、上矢印および下矢印を使用して、問合せのハイライトされているディメンションの位置を調整します。
9. オプション: 「行」セクションのディメンション位置で、上矢印および下矢印を使用して、問合せのハイライトされているディメンションの位置を調整します。
10. オプション: 「列」セクションのディメンション位置で、上矢印および下矢印を使用して、問合せのハイライトされているディメンションの位置を調整します。
11. 「次」をクリックします。

手順3 - 「メンバー選択」が表示されます。「Smart View POV」、「行」および「列」のすべてのディメンションが「ディメンション・レイアウト」画面で定義された順序で表示されます。矢印を使用して、リスト内を上下にスクロールします。

**Step 3: Member Selections**

The screenshot shows the 'Step 3: Member Selections' dialog box. It is divided into two main sections: 'Dimensions' and 'Dimension Member Selection'. The 'Dimensions' section on the left has three sub-sections: 'Smart View POV' (a list with 'Year' selected), 'Rows' (a list with 'GL\_CostCenters', 'GL\_Accounts', 'ACT\_CostCenters', and 'ACT\_Activities'), and 'Columns' (a list with 'Measures'). The 'Dimension Member Selection' section on the right has two lists: 'Available Dimension Members' (containing 'Year') and 'Selected Dimension Members' (containing 'Year'). Between these lists are three arrow buttons: a right-pointing arrow, a left-pointing arrow, and a double left-pointing arrow. At the bottom of the dialog are three buttons: '< Back', 'Finish', and 'Cancel'.

12. 「ディメンション・メンバーの選択」で、「追加」矢印



を使用して、問合せに含めるディメンション・メンバーを「選択済ディメンション・メンバー」列に移動します。

代替階層およびNoMemberメンバーを含む、すべてのディメンション・メンバーがリストに表示されます。レベルに制限がないため、代替階層、共有または基本メンバー、任意のメンバーを選択できます。

[Ctrl]キーを使用して複数のディメンションを選択するか、[Shift]キーを使用して、範囲内の最初と最後のメンバーを選択します。

13. 「終了」をクリックします。

変更された問合せが保存され、「問合せの管理」画面で使用可能になります。

## Smart View問合せの複製

▶ Smart View問合せを複製するには:

1. 「タスク領域」から、「レポート」、「問合せの管理」の順に選択します。

「問合せの管理」画面が表示され、ユーザーが管理者またはパワー・ユーザーとしてプロビジョニングされている全アプリケーションに対するすべての既存の問合せが表示されます。

2. 「問合せの編集」ボタン



をクリックします。

Smart View問合せの複製の作成ダイアログ・ボックスが表示されます。

Enter the new query name      3-3 Contribution

OK      Cancel

3. 新しい問合せの名前を入力し、「OK」をクリックします。

新しい問合せが保存され、「問合せの管理」画面のリストに追加されます。

## Smart View問合せの削除

▶ Smart View問合せを削除するには:

1. 他のユーザーがこの問合せを必要としていないことを確認します。

2. 「タスク領域」から、「レポート」、「問合せの管理」の順に選択します。

「問合せの管理」画面が表示され、ユーザーが管理者またはパワー・ユーザーとしてプロビジョニングされている全アプリケーションに対するすべての既存の問合せが表示されます。

3. 「問合せリスト」から削除する問合せを選択し、「削除」ボタン



をクリックします。

選択した問合せの削除を確認するメッセージが表示されます。

4. 「はい」をクリックします。

選択した問合せが「問合せの管理」画面から削除されます。

## 「ステージの貸借一致」画面からの問合せの実行

事前定義済の問合せ統合を「ステージの貸借一致」画面から起動することもできます。起動データ・ポイントは、「ステージの貸借一致」画面でハイパーリンクとして表示されます。列内のハイパーリンクは、あるステージから別のステージに提供された値を示します。

ハイパーリンクをクリックすると、即座に分析機能にアクセスして、計算を分析し、領域に修復が必要かどうか、情報の矛盾や欠落の詳細を公開する必要があるかどうかを判断します。

問合せに表示されるデータは常にレポート用データベースを開きます。

▶ 「ステージの貸借一致」画面を使用して問合せにアクセスするには:

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、問合せが作成されたアプリケーションを選択します。
2. 問合せを実行する前にデータベースをデプロイします。

問合せを実行する前にデータベースを計算する必要はありません。ただし、一部の結果が欠落することを認識しておく必要があります。

3. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「検証」、「ステージの貸借一致」の順に選択します。

「ステージの貸借一致」画面が表示されます。

4. POVとレイヤーを選択し、「起動」ボタン

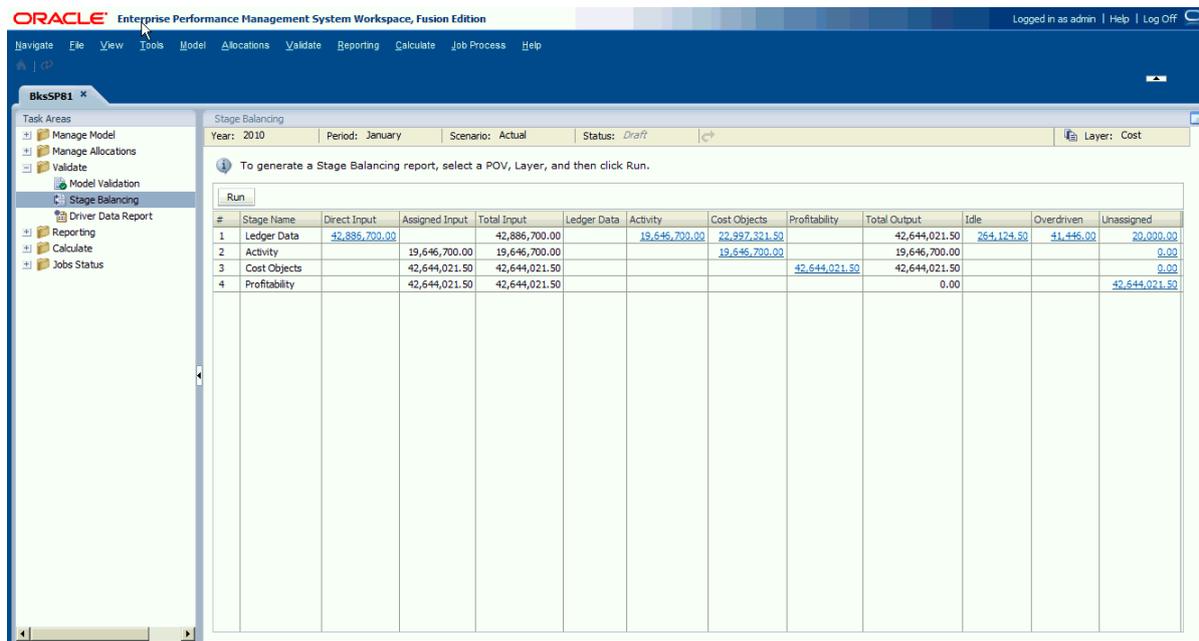


をクリックします。

選択したPOVの「ステージの貸借一致」レポートが表示され、アクティブなリンクがハイライト表示されます。デフォルトでは、次のハイパーリンクを使用できます。

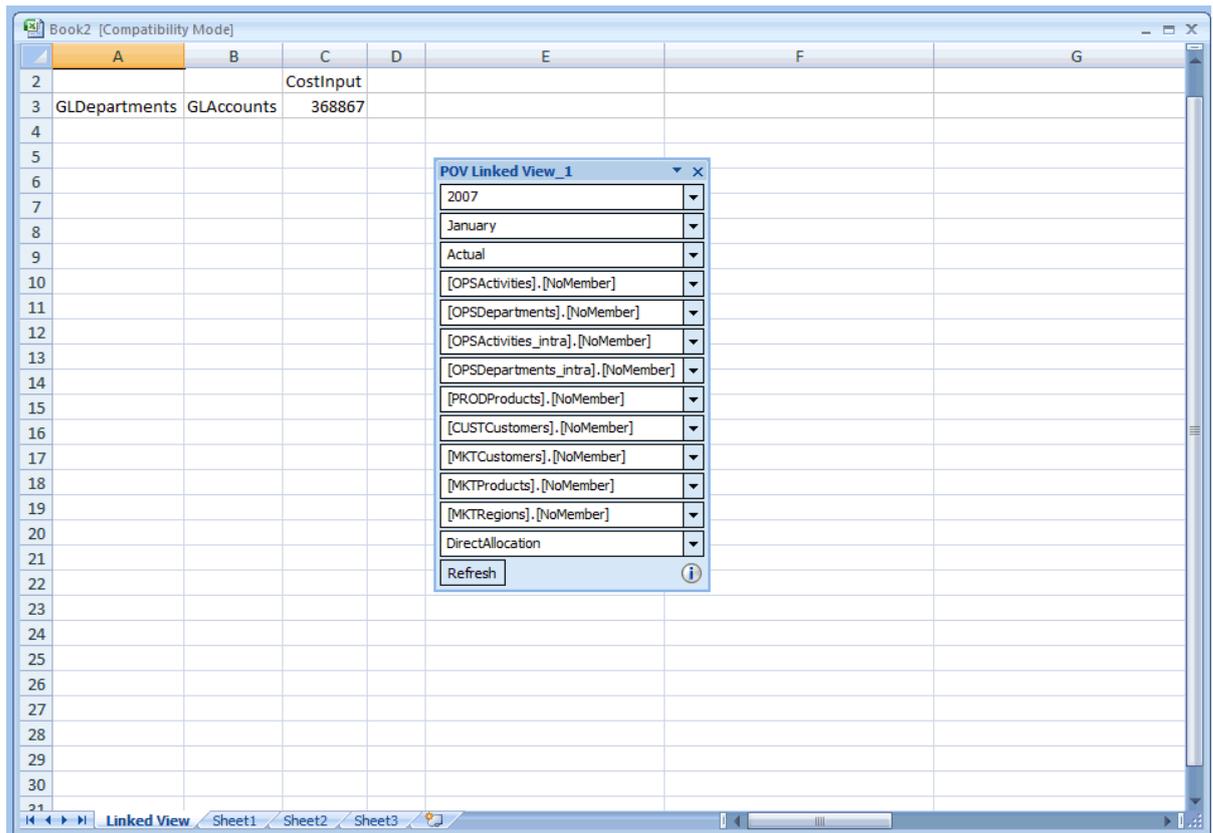
- 直接入力
- アイドル
- オーバードライブ
- 未割当ての列

追加の列にもハイパーリンクが含まれている場合があります。列内のハイパーリンクは、あるステージから別のステージに提供された値を示します。あるステージから別のステージへのコントリビューションが存在しない場合は、交差が空です。



5. ハイパーリンクをクリックすると、現在選択しているPOVのEssbaseの交差部に対する結果が表示されます。

結果には、選択したメンバーのすべての交差部に対する、デフォルトのハイパーリンク (CostReceivedPriorStageなど)の合計が表示されます。結果はレポート用データベースから取得されるので、すべての値は自動的に集約されます。



6. オプション: 現在のPOVを変更するには、**POV\_Linked\_View**ペインで、現在のPOVに対してリストされたディメンションの横にある下向き矢印をクリックし、省略符号(...)をクリックして、「メンバー・セレクタ」を開きます。変更するメンバーを選択し、「リフレッシュ」をクリックして、POV変更をアクティブ化します。
7. 問合せの結果を確認します。
8. オプション: 特定の交差を表示するには、「Essbase」タブの「ズーム」コマンドを使用して、特定の交差までドリルダウンするか戻ります。



---

## パート III

# 詳細Profitabilityアプリケーションの操作

---

### 目次

ドキュメントのアクセシビリティについて .....	11
ドキュメントのフィードバック .....	12
12. 詳細Profitability and Cost Managementのモデルとシナリオについて .....	223
13. 詳細Profitability and Cost Managementアプリケーションのディメンション .....	227
14. 詳細Profitabilityモデルの管理 .....	233
15. 詳細Profitability配賦の管理 .....	279
16. 詳細Profitabilityモデルの計算 .....	321
17. 詳細Profitabilityモデルの検証 .....	335
18. 詳細Profitabilityのジョブ・ステータスの監視 .....	343

---



# 12

## 詳細Profitability and Cost Managementのモデルとシナリオについて

### この項の内容:

詳細Profitabilityモデル作成の手順 .....	224
詳細Profitability and Cost Managementワークスペース .....	225

モデルとは、組織の一部または全部を表現したものです。Profitability and Cost Managementモデルを使用することで、企業内の費用および収益に影響を与えるプロセスや活動を正確にトレースできます。

モデルは、次の要素で構成されています:

- ステージは、組織における収益または費用のソース配賦と宛先配賦を編成します
- デイメンションは、値を取得および保存するためのビジネス・データの編成に使用されるデータ・カテゴリです。標準Profitability and Cost Management内では、次のタイプのデイメンションが使用されます:
  - MeasuresDetailed配賦デイメンションなどのシステム・デイメンション。
  - メジャー・デイメンションには、モデルの構築、検証および計算に必要なメンバー(収益のメジャー、ドライバ定義など)が含まれています。
  - ビジネス・デイメンション - モデルの各ステージ内のオブジェクト(製品、顧客、地域など)を記述します。デイメンションとメンバーはモデルの基盤となります。
  - POVデイメンションは、年、シナリオ、期間またはバージョンなど、モデルに固有の視点またはバージョンを示します。バージョン・デイメンションを使用すると、モデルの複数のバージョンを保持できます。これらのバージョンは、モデルの代替シナリオや仮定シナリオ、または異なるパースペクティブの作成に使用できます。
  - 別名デイメンションは、デイメンションの定義に役立つ代替の名前、説明、言語またはその他のアイテムを割り当てるために使用されます。
  - 属性デイメンションを使用すると、デイメンション・メンバーの属性または品質に基づく分析が可能になります。属性は、製品のサイズや色など、データの特性を示します。
- ドライバは、費用または収益のソース値の計算および配賦方法を定義します。選択されているドライバは、デイメンション全体に適用することも、階層の一部、単一のメンバー、さらには単一の交差に適用することもできます。
- ソースまたは宛先メンバー選択を定義する割当てルール
- ソース・データを宛先にマッピングする割当て
- 複数のソースから複数の宛先への配賦を定義する複数ソース計算ルール。
- 個別の割当てを実行する単一ソース計算ルール。複数ソース・ルールの例外として動作します。
- 計算ルールは、ソース、宛先およびドライバをカプセル化する計算アーティファクトのスーパー・セットです。これを使用すると、ソース、宛先およびドライバを使用して幅広い割当てを作成でき、個々の割当てを予約して、この計算ルールの例外を作成します。
- ユーザー定義のリレーショナル・データベースからインポートされる財務データ。

MeasuresDetailed、ビジネス、メジャーおよびPOVディメンションは、Performance Management Architectで作成され、Profitability and Cost Managementリレーショナル・データベースにデプロイされます。ステージ、ドライバ、ドライバ選択、割当ておよび計算ルールは、Profitability and Cost Managementで作成されます。

一部のPerformance Management Architectのディメンション・タイプは、Profitability and Cost Managementのモデルで使用できます：

- 勘定科目
- エンティティ
- バージョン
- 時間
- 国
- 通貨

これらのPerformance Management Architectディメンション・タイプは、Essbaseのディメンション・タイプに対応しており、Profitability and Cost Managementでビジネス・ディメンションまたはPOVディメンションとして使用されるディメンションを作成するために使用されます。

これらのディメンション・タイプの使用については、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*を参照してください。

## 詳細Profitabilityモデル作成の手順

詳細Profitability and Cost Managementモデルの作成は、次の手順で行う必要があります：

1. 詳細Profitability and Cost Managementでモデルを作成する前に、データベース管理者に依頼して、リレーショナル表(物理表とビュー)を保持するモデル・スキーマと、サポート詳細を保持する参照表を作成します。
2. Performance Management Architectで詳細Profitabilityアプリケーションを作成します。詳細は、『*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理者ガイド*』を参照してください。
3. 詳細Profitabilityアプリケーションとして使用するモデル・データ・スキーマを選択します。[239ページの「詳細モデル・データ・スキーマの選択」](#)を参照してください。
4. 「モデル・データの登録」を使用して、ソースと宛先のメジャー・ディメンションを選択し、表を登録します。既存のデータベース表からアプリケーションに列をマッピングします。メイン表に追加のサポート詳細を提供する、関連付けられた参照表に結合します。[241ページの「詳細Profitabilityモデル・データの登録」](#)を参照してください。
5. モデルに対するソースおよび宛先モデル・ステージを作成します。登録された表を選択し、ステージに適用するディメンションを割り当てます。[260ページの「詳細Profitabilityステージの管理」](#)を参照してください。
6. モデル・データの登録のモデル検証を実行します。[335ページの第17章「詳細Profitabilityモデルの検証」](#)を参照してください。
7. 各POVディメンションのメンバーを選択して(「年」、「期間」、「シナリオ」など)、モデルの視点(POV)を作成します。[268ページの「詳細Profitabilityの視点\(POV\)の操作」](#)を参照してください。
8. データを計算する方法を指定するためのドライバ定義を作成します。[281ページの「詳細Profitabilityドライバの定義」](#)を参照してください。

9. モデルは、計算ルールを中心に展開するトップダウンのアプローチです。[233ページの計算ルールの操作](#)を参照してください。
10. 複数ソース割当て計算ルールと、対応するソースと宛先の割当てルールをを作成します。[234ページの計算ルールの追加](#)を参照してください。
11. オプション: 複数ソース計算ルールの例外として割当てルールの選択を作成するには:
  - 選択したドライバ・ディメンションのメンバーまたは交差にドライバを割り当てます。[295ページの詳細Profitabilityドライバの選択](#)を参照してください。
  - 割当てルールおよび割当てを作成し、計算値を配賦する場所を指定します。

次の項を参照してください:

- [309ページの割当てルールの作成](#)
- [312ページの詳細Profitabilityでの割当ての操作](#)
- [308ページの詳細Profitability割当てルールの操作](#)

12. 複数ソース計算ルールを使用して、複数の割当てとドライバの選択を作成することをお勧めします。[234ページの計算ルールの追加](#)を参照してください。

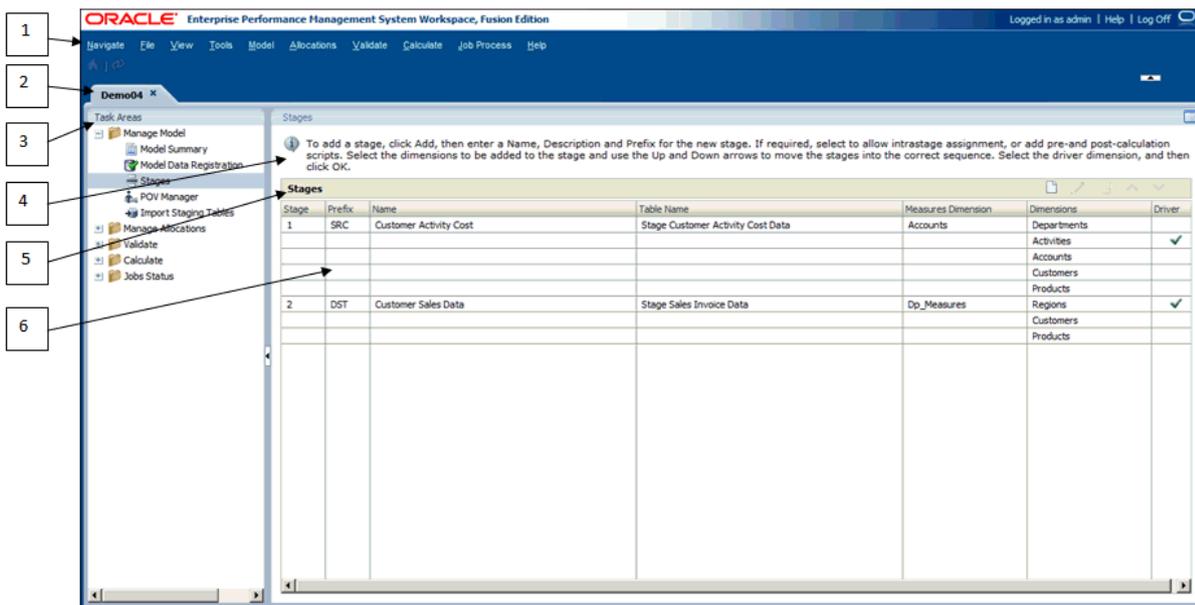
オプションで、バルク・エディタも使用できます。[299ページのバルク・エディタの操作](#)を参照してください。

13. オプション: 単一ソース割当て計算ルールを作成して、実行の例外として作成された一連の割当てルールの選択を取得し、それらをいつ実行するかを制御します。[233ページの計算ルールの操作](#)を参照してください。
14. モデル構造を検証し、割当てが完全に行われているかどうか、あるいは未使用のドライバがないかどうか、などの検証ルールに適合していることを確認します。[335ページの第17章「詳細Profitabilityモデルの検証」](#)を参照してください。
15. 計算を実行してモデルで結果を生成します。[321ページの第16章「詳細Profitabilityモデルの計算」](#)を参照してください。
16. 発行およびスケジュール済ジョブのステータスを監視します。[343ページの第18章「詳細Profitabilityのジョブ・ステータスの監視」](#)を参照してください。
17. ステージ賃借一致レポートを実行します。必要に応じて、モデルやデータの編集と修正を行い、計算を再実行します。[337ページの詳細Profitabilityステージの賃借一致レポート](#)を参照してください。
18. レポート・ビューを使用して、カスタム・レポートを作成します。[322ページの詳細Profitabilityレポート・ビューのデプロイ](#)を参照してください。

## 詳細Profitability and Cost Managementワークスペース

EPM Workspaceからアクセス可能なProfitability and Cost Managementワークスペースには、2つのメイン領域があります:

- 「タスク領域」ペインでは、モデルの構築、検証および計算、または結果のレポートに必要なプロセスに移動できます。
- コンテンツ・ペインでは、タスク情報を表示したり、データを入力または変更できます。また、モデルおよびそのデータの作成やメンテナンスに関連したタスクも実行できます。



Profitability and Cost Managementワークスペースには、次のアイテムがあります：

1. ウィンドウの上部にあるPerformance Management Architectのメイン・メニューには、共通のEPM Workspaceメニュー・オプション(「ナビゲート」、「ファイル」、「表示」、「ツール」)に加えて、Profitability and Cost Managementメイン・メニュー・オプション(「モデル」、「配賦」、「検証」、「計算」、「ジョブのステータス」、「ヘルプ」)が表示されます。
2. 「アプリケーション名」タブに、現在アクティブなアプリケーションの名前が表示されます。
3. 「タスク領域」は、モデル構造の構築、変更、検証、およびモデルの計算に必要なタスクの選択に使用します。レポートを生成することもできます。



注：

タスク領域を変更する際、現在のタスクに存在するPOV(視点)選択は保持されます。この機能を使用すると、POVを選択する必要がなく、画面間を移動できます。ユーザーがPOVの選択を変更して、POVの「リフレッシュ」アイコンをクリックしないかぎり、POVの選択状態は変化しません。

4. 情報バーには、現在選択されているタスクに関する簡単な説明が表示されます。
5. タイトル・バーに、現在コンテンツ・ペインに表示されているウィンドウの名前が表示されます。
6. 「コンテンツ」ペインには、「ステージ」または「ドライバ定義」など、現在選択されているタスクの画面が表示されます。

# 13

## 詳細Profitability and Cost Managementアプリケーションのディメンション

この項の内容:

詳細Profitabilityのディメンションについて .....	227
詳細Profitabilityのディメンション・タイプ .....	228

### 詳細Profitabilityのディメンションについて

詳細Profitabilityでは、詳細Profitabilityアプリケーションの開始点として既存のリレーショナル・データベースを使用できます。Performance Management Architectで詳細Profitability and Cost Managementアプリケーションを作成したら、使用するPerformance Management Architectアプリケーションを詳細Profitabilityモデルにデプロイします。



#### 注意

Performance Management Architectと詳細Profitability and Cost Managementの環境は、Performance Management Architectや詳細Profitability and Cost Management、クライアントのデータ・モデルについても十分な実務経験がある、熟練のデータベース管理者またはシステム管理者が作成および管理することをお勧めします。

EPMAディメンションは、Performance Management Architectで作成および管理しますが、詳細Profitabilityモデル内で使用するには事前に作成しておく必要があります。Performance Management Architectにより、Profitability and Cost Management管理者は、別の製品から既存のディメンションおよびメンバーを選択することや、モデル専用にディメンションおよびメンバーを新しく作成することもできます。汎用のデータを、Planningなど複数の製品およびアプリケーションで共有および更新できます。デプロイメント後に、詳細Profitability and Cost Managementアプリケーションでディメンションとそのメンバーを使用できるようになります。

Performance Management Architectで作成されたディメンションとメンバーは、ビジネス・モデルの構造要素を表します。Profitability and Cost ManagementのEPMAディメンションの一般情報は、[21ページの共通Profitability and Cost Managementディメンション](#)を参照してください。



---

#### 注意

モデリング・プロセスの開始後はディメンションを追加または削除しないことをお勧めしますが、新しいディメンションまたはメンバーが追加または削除された場合には、アプリケーションを再デプロイする必要があります。詳細Profitabilityアプリケーションでディメンションまたはメンバーを削除する際には、その操作によってモデル・データ登録が変更され、モデルが無効になる場合があるため、特に注意が必要です。

---

次のディメンション・タイプは詳細Profitabilityアプリケーションの作成に使用できます:

- 少なくとも1つのビジネス・ディメンション(必須) ([229ページの詳細Profitabilityのビジネス・ディメンション](#))
- 少なくとも1つのEPMA POVディメンション(必須) ([26ページのProfitability and Cost ManagementのPOVディメンション](#))
- 属性ディメンション(オプション) ([27ページのProfitability and Cost Managementの属性ディメンション](#))
- 別名ディメンション(オプション) ([27ページのProfitability and Cost Managementの別名ディメンション](#))
- MeasuresDetailedディメンション(必須) ([230ページのMeasuresDetailedディメンション](#))
- 非EPMAディメンション([231ページの詳細Profitabilityの非EPMAディメンション](#))

詳細Profitabilityで、ステージ表ごとにユーザー定義のメジャー・ディメンションを登録する必要があります。これらのユーザー定義メジャー・ディメンションはPerformance Management Architectビジネス・ディメンションです。アプリケーションごとに2つのメジャー・ディメンションのみが登録されます。

- 1つは、登録されるソース・ステージ表とそれに結合された参照表のソース・メジャーです。
- もう1つは、登録された宛先ステージ表とそれに結合された参照表の宛先メジャーです。

両方のステージに同じメジャーを使用することも、2つの異なるメジャーを選択することもできます。

[241ページの詳細Profitabilityモデル・データの登録](#)を参照してください。



---

#### 注意

ディメンション・メンバーがモデル・データ登録に登録されていない場合は、モデル検証に失敗します。

---

Performance Management Architectによるディメンションの作成、管理、操作の詳細は、『*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理者ガイド*』を参照してください。

ディメンションとメンバーの命名規則については、『*Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイド*』を参照してください。

特定のディメンション・タイプの詳細は、[228ページの詳細Profitabilityのディメンション・タイプ](#)を参照してください。

# 詳細Profitabilityのディメンション・タイプ

## サブトピック

- [詳細Profitabilityのビジネス・ディメンション](#)
- [MeasuresDetailedディメンション](#)
- [詳細Profitabilityの非EPMAディメンション](#)

「ディメンション・タイプ」は、ディメンションのプロパティで、定義済の機能をアプリケーションで使用可能にします。ディメンション・タイプの特定の特性により、ディメンションの動作と機能を管理します。Profitability and Cost Management、Performance Management Architectおよび他のEPM Workspace製品で特定のディメンション・タイプを共有できるため、Oracle Hyperion Planningなど様々な製品のディメンションの機能を活用できます。



注:

ディメンショナル・アウトラインを定義する場合、命名用として使用できない制限文字があります。『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』のEssbase命名規則に関する項を参照して最新の規則を確認することをお勧めします。

[24ページの共通のディメンション・タイプ](#)では、すべてのタイプのProfitability and Cost Managementアプリケーションによって使用されるディメンション・タイプについて説明しています。

特定の詳細Profitabilityディメンション・タイプに関する情報は次の各項を参照してください:

- [229ページの詳細Profitabilityのビジネス・ディメンション](#)
- [230ページのMeasuresDetailedディメンション](#)
- [231ページの詳細Profitabilityの非EPMAディメンション](#)

ディメンションとメンバーの作成および管理の詳細な手順は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理者ガイド』を参照してください。

## 詳細Profitabilityのビジネス・ディメンション

モデルのビジネス・ディメンションには、製品タイプ、販売地域、製造プロセス、一般会計の勘定科目、給与計算、部署、アクティビティ、場所、顧客、製品など、ビジネスまたは組織の要件に特に関連する情報が保管されるメンバーが含まれています。これらは、1つ以上のステージまたはモデルに適用される場合があります。

ユーザーが詳細Profitabilityアプリケーションを作成するときに、少なくとも1つのビジネス・ディメンション・タイプを定義する必要があります。

アプリケーションのソースおよび宛先ステージを定義するとき、1つまたは2つのビジネス・ディメンションがメジャー・ディメンションとして使用されます。これらのディメンションはモデル・データ登録時に、ソースまたは宛先のメジャー・ディメンションとして識別されます。ビジネス・ディメンション・メタデータの要件は、[25ページのProfitability and Cost Managementのビジネス・ディメンション](#)を参照してください。

## MeasuresDetailedディメンション

MeasuresDetailedディメンションは予約済のディメンションで、ステージの貸借一致やその他の検証アクティビティ(コントリビューション、調整など)をサポートするために必要な配賦メンバーが含まれます。MeasuresDetailedディメンションには、ドライバ・メジャーが含まれません。

MeasuresDetailedディメンションは、Performance Management Architectで詳細Profitabilityアプリケーションが作成される際に選択されます。単一選択ですが、次のメジャーが含まれます。

ディメンション・メンバー	式または計算結果
未割当て	入力 + 受信 - 割当て済 - アイドル + オーバードライブの結果
割当て:	
AssignedPostStage	宛先ステージに割り当てられているすべての金額の合計
AssignedIntraStage	詳細Profitabilityでは使用しない
OverDriven	計算したすべてのOverDriven値の合計
IdleCost	宛先に割り当てられていない入力がIdleCostの値です。IdleCostの計算結果は、ドライバ・タイプに応じて割り当てられます: <ul style="list-style-type: none"><li>• 比率ベースのドライバで「アイドルを許可」が選択されている場合、IdleCostはIdleDriverValue/OverrideTotalDriverValueの式を使用して生成されます。</li><li>• レートベースのドライバでは、配賦値の合計がソース・オブジェクトの入力値より小さい場合にIdleCostが生成されます。</li></ul>
受信:	
ReceivedPriorStage	ソース・ステージから受信された計算値
ReceivedIntraStage	詳細Profitabilityでは使用しない
入力	入力にロードされた外部データ。この金額は変更しないでください。

Performance Management Architectのディメンション・ライブラリにあるMeasuresDetailedディメンションは、システム貸借一致のAllocationMeasuresで表示できます。



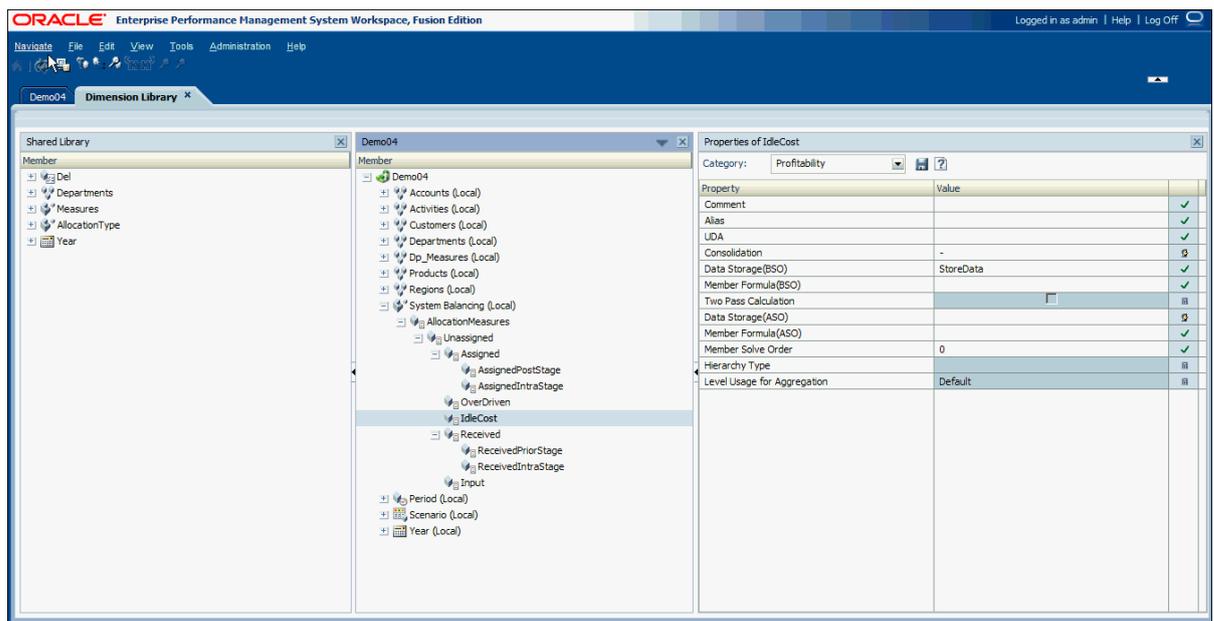
### 注意

このディメンションのメンバーは編集しないでください。変更を行うと、データの損失やモデルの破損が生じる可能性があります。

▶ MeasuresDetailedディメンションのメンバーを表示には:

1. EPM Workspaceから、「ナビゲート」、「管理」、「ディメンション・ライブラリ」の順に選択します。
2. アプリケーション列で、システム・バランス、AllocationMeasures、「未割当て」の順に展開して、MeasuresDetailedディメンションを表示します( 231ページの図 5):

図5 詳細ProfitabilityアプリケーションのMeasuresDetailedディメンション



3. 「未割当て」の下にある各ディメンションを選択し、「プロパティ」列で関連付けられたプロパティを表示します。

## 詳細Profitabilityの非EPMAディメンション

非EPMAディメンションは、ID、日付、監査情報のように、配賦に必要なが常に変化しているオブジェクトです。これらのディメンションはPerformance Management Architectによって管理されませんが、選択したモデル・データ・スキーマに存在します。これらのディメンションはモデル・データの登録時にも「非EPMAディメンション」としてマッピングされ、システムによって識別されます。

これらの列には、宛先割当てルール内のデータ・フィルタ内でアクセスできます。



# 14

## 詳細Profitabilityモデルの管理

### この項の内容:

モデルの管理について .....	233
計算ルールの操作 .....	233
詳細Profitabilityモデルの要約の操作 .....	237
詳細Profitabilityモデル・データの登録 .....	241
詳細Profitabilityステージの管理 .....	260
詳細Profitabilityの視点(POV)の操作 .....	268
詳細Profitabilityのステージング表のインポート .....	278

## モデルの管理について

モデルの管理オプションは、モデルの上位レベル構造を構築したり、モデルのプリファレンスおよび接続を制御するために使用します。

- 「モデルの要約」から、システム情報を表示したり、モデル・レベルのプリファレンスを設定できます。
- 「モデル・データの登録」で、既存の表をアプリケーションにマッピングします。
- 「ステージ」から、モデルのソース・ステージと宛先ステージに適用されるビジネス・ディメンションを割り当てます。
- 視点(POV)は、モデルの様々なバージョンを作成するために使用します; たとえば、予算の数値と実績の数値の比較を格納したり、様々な変更による最終損益への影響を測定するシナリオを実行します。
- インポート・ステージング表を使用すると、ドライバ定義、ドライバ選択、割当てなどのモデル情報を詳細 Profitability and Cost Managementにロードするインポート構成を実行できます。

モデルの管理については、次の項を参照してください:

- [233ページの計算ルールの操作](#)
- [237ページの詳細Profitabilityモデルの要約の操作](#)
- [241ページの詳細Profitabilityモデル・データの登録](#)
- [260ページの詳細Profitabilityステージの管理](#)
- [268ページの詳細Profitabilityの視点\(POV\)の操作](#)
- [278ページの詳細Profitabilityのステージング表のインポート](#)

## 計算ルール の 操作

計算ルールは、計算アーティファクト、ソースのカプセル化、宛先、ドライバのスーパー・セットです。計算ルールを使用すると、ソース、宛先およびドライバを使用して幅広い割当てを作成でき、個々の割当てを予約して、この計算ルールの例外を作成します。

「計算ルール」の情報パネルには、ルールに関する基本的な情報が表示され、ルールに関する情報を計算ルール定義ペインに表示するコントロール・ポイントになっています。ここで計算ルールの定義と実行順序を制御することもできます。

「計算ルール」画面には、次の3つの領域があります。

- POVバー - 現在選択されているPOVを表示します。計算ルールはPOVごとに異なります。POVの詳細は、[268ページの詳細Profitabilityの視点\(POV\)の操作](#)を参照してください。
- 「計算ルール」セクション - 計算ルールの基本的な情報を表示します。デフォルトの(および主に使用される)ソートは、計算ルール・シーケンス番号を使用します。このペインで計算ルールの順序を確認できますが、確認の目的で、他の列をソートおよびフィルタしてルールを分離することもできます。
- 「ルール定義」セクション - 「計算ルール」ペインでハイライトされた計算ルールの定義を表示します。

The screenshot shows the Oracle Enterprise Performance Management System Workspace, Fusion Edition interface. The main window is titled "DPVert \*". The left sidebar shows a tree view of task areas, with "Calculation Rules" selected. The main content area is divided into three sections:

- Calculation Rules:** A table listing rules with columns for Sequence, Name, Rule Type, and Status. The table contains 4 rows of data.
- Rule Definition:** A form for defining a rule. It includes fields for Name (CR1), Description, Rule Type (Multi Source Assignment), and Sequence (2). It also has a section for "Model Default SQL Execution Mode" and "Rule SQL Execution Mode".
- Driver, Source, and Destination:** Three tables below the Rule Definition section. The "Driver" table has columns for Name and Destination Measure. The "Source" table has columns for Name, Stage, and Search Tag. The "Destination" table has columns for Name, Stage, and Search Tag.

## 計算ルール の 追加

計算ルール定義ペインには、ルールを定義するすべてのコンポーネントが表示されます。

- ▶ ルールを追加するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「計算ルール」の順に選択します。
3. 「ルール定義」セクションで「新規計算ルール」をクリックし、次のフィールドに入力します：
  - 「名前」に、計算ルールの名前を入力します。
  - 「ルール・タイプ」で、次のいずれかの値を選択します。
    - 複数ソース割当て - 複数ソースから複数宛先への配賦を定義します；1-5のソース割当てルール、1-5の宛先割当てルールおよび1ドライバが必要です。
    - 計算済メジャー - 宛先メジャー値を変更するための基本的な算術計算を定義します；1-5の宛先割当てルールおよび1-5のドライバが必要です。
    - 単一ソース割当て - 複数ソース・ルールの例外として動作する個々の割当てを実行します；最初と最後のドライバ・シーケンス優先度を設定しているか、「すべてのドライバを選択」を選択する必要があります。
  - 「シーケンス」に、0-9999の数値を入力します。
  - 「オプション: ルールSQL実行モード」で、
  - オプション: 「説明」に、ルールの簡単な説明を入力します。
  - オプション: 後でルールの検索に使用する「検索タグ」を入力します。
4. 「モデル・デフォルトSQL実行モード」が表示されます。デフォルトを使用するか、「ルールSQL実行モード」でオーバーライドします。241ページのステップ 6を参照してください。
5. 「ドライバ」セクションで次のいずれかを入力します：
  - 「複数ソース割当て」および「計算済メジャー」計算ルールの場合：
 

「ドライバの追加」をクリックして既存のドライバを選択するか、「新規ドライバ」をクリックして新しいドライバを作成します。
  - 「単一ソース割当て」計算ルールの場合：
    - 「最初のドライバ・シーケンス優先度」と「最後のドライバ・シーケンス優先度」に、整数のドライバ・シーケンス優先度値を入力してドライバの範囲を指定します
    - すべてのドライバを対象にするには「すべてのドライバを選択」を選択します
6. 「複数ソース割当て」の場合、「ソース」セクションで次のように設定します：
  - 既存のソース割当てルールの場合: 「ソース割当てルールの追加」をクリックし、既存のソース割当てルールを「使用可能」リストから「選択済」リストに移動します。
  - 新しいソース割当てルールの場合: 「新規ソース割当てルール」をクリックして選択します。
7. 「複数ソース割当て」および「計算済メジャー」計算ルールの場合、「宛先」セクションで次のように設定します：
  - 既存の宛先割当てルールの場合: 「宛先割当てルールの追加」をクリックし、既存の宛先割当てルールを「使用可能」リストから「選択済」リストに移動します
  - 新しい宛先割当てルールの場合: 「新規宛先割当てルール」をクリックして選択します。



注:

「計算済メジャー」計算ルールの場合、「ソースと同じ」オプションが設定された宛先割当てルールは、使用可能な宛先割当てルールからフィルタ処理されます。

8. 「保存」をクリックします。ルール定義が「計算ルール」セクションに表示されます。

## 計算ルールの変更

▶ 計算ルールを変更するには:

1. 「計算ルール」で、ルールを選択します。
2. 「ルール定義」で、次のフィールドを変更します:
  - ・ 名前
  - ・ ルール・タイプ
  - ・ シーケンス
  - ・ 説明
  - ・ 検索タグ
3. 「ドライバ」では次のように設定します:
  - ・ 「複数ソース割当て」および「計算済メジャー」計算ルールの場合:
    - 選択したドライバの変更またはドライバの追加: 「ドライバの追加」をクリックして既存のドライバを選択するか、「新規ドライバ」をクリックして新しいドライバを作成して、そのドライバを選択します。
    - 選択したドライバの変更: 「ドライバの編集」をクリックします。
    - 選択したドライバの削除: 「選択したドライバの削除」をクリックします
  - ・ 「単一ソース割当て」計算ルールの場合:
    - 「最初のドライバ・シーケンス優先度」と「最後のドライバ・シーケンス優先度」のドライバ・シーケンス優先度の値を変更します
    - 「すべてのドライバを選択」オプションの状態を変更します
4. 「複数ソース割当て」計算ルールの場合「ソース」で次のように設定します:
  - ・ 選択したソース割当てルールの変更またはソース割当てルールの追加: 「ソース割当てルールの追加」をクリックして既存のソース割当てルールを選択するか、「新規ソース割当てルール」を選択して新しいソース割当てルールを作成し、そのルールを選択します。
  - ・ 選択したソース割当てルールの変更: 「ソース割当てルールの編集」をクリックします。
  - ・ 選択したソース割当てルールの削除: 「選択したソース割当てルールの削除」をクリックします
5. 「複数ソース割当て」および「計算済メジャー」計算ルールの場合は「宛先」で次のように設定します:
  - ・ 選択した宛先割当てルールの変更または宛先割当てルールの追加: 「宛先割当てルールの追加」をクリックして既存の宛先割当てルールを選択するか、「新規宛先割当てルール」をクリックして新しい宛先割当てルールを作成し、そのルールを選択します
  - ・ 選択した宛先割当てルールの変更: 「宛先割当てルールの編集」をクリックします。
  - ・ 選択した宛先割当てルールの削除: 「選択した宛先割当てルールの削除」をクリックします
6. 「計算ルールの保存」をクリックします。

## 計算ルールの削除

▶ 計算ルールを削除するには:

1. 「計算ルール」セクションで、ルールを選択します。
2. 「ルール定義」セクションで、「計算ルールの削除」



をクリックします。

3. 「はい」をクリックして削除を確認します。

## 計算ルールのコピー

▶ 計算ルールをコピーするには:

1. 「計算ルール」セクションで、ルールを選択します。
2. 「ルール定義」セクションで、「計算ルールの複製」



をクリックします。

「計算ルールの複製の作成」ダイアログが開きます。

3. 新しい計算ルール名を入力します。
4. 「OK」をクリックします。

## 詳細Profitabilityモデルの要約の操作

詳細Profitability「モデルの要約」では、選択されたアプリケーションのシステム詳細情報が表示され、モデル・レベルのプリファレンスを変更できます。

参照:

- [238ページの詳細モデル・システム情報タブ](#)
- [239ページの詳細モデル・データ・スキーマの選択](#)

## 詳細モデル・システム情報タブ

詳細システム情報タブには、リレーショナル・データベース、Essbase接続、承認されたユーザーおよび関連付けられたシステム・コンポーネントなどの、選択されたモデルの詳細が表示されます。

大部分のシステム情報は読取り専用です。

▶ 「システム情報」タブにアクセスするには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示する詳細アプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデルの要約」の順に選択します。

「システム情報」タブが表示されます。

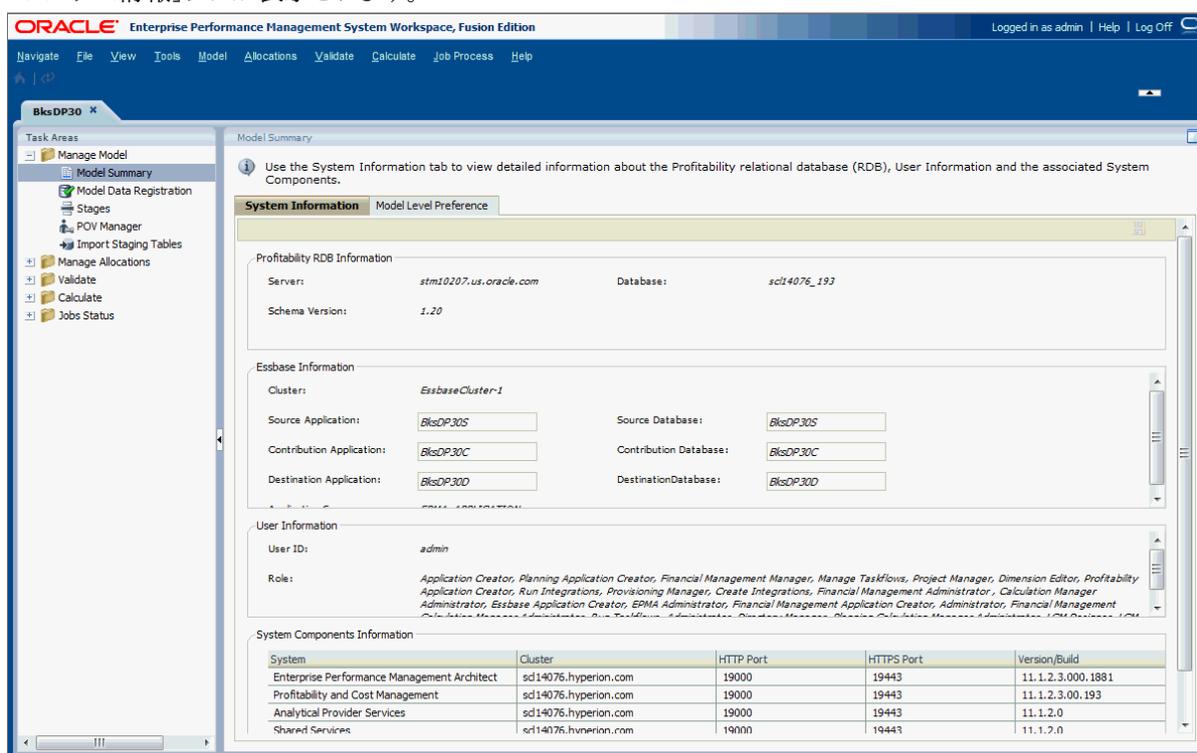


表13 「システム情報」タブ

タブ領域	説明
Profitability RDBの情報	リレーショナル・データベース(RDB)サーバー、およびモデル・データが置かれたデータベースの名前。選択したアプリ

タブ領域	説明
	ケーションで使用されているスキーマのバージョンも表示されます。
Essbase情報	<p>オプションの3つのレポート・キューブ(ソース・ステージ、コントリビューションおよび宛先ステージ)に対応するEssbaseのアプリケーション名およびデータベース名。 <a href="#">321ページの詳細Profitabilityデータベースの管理</a>を参照してください。</p> <p>オプションのレポート・キューブに対応するEssbaseのアプリケーションとデータベースの名前を入力または変更します。</p>
ユーザー情報	<p>「ユーザー情報」の「データベース」フィールドには、Profitability and Cost Managementデータベースへのアクセス権があるユーザーのユーザーIDと、そのユーザーに関連するすべてのセキュリティ役割が表示されます。</p> <p>注:</p> <p>このユーザーに、データベースとアプリケーションへのアクセス権が付与されていることを確認してください。『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイド』を参照してください。</p>
システム・コンポーネントの情報	<p>インストールに含まれる各コンポーネントの次のような詳細:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• システム - EPMコンポーネントの名前が表示されます。</li> <li>• クラスタ - コンポーネントをホストしているサーバーまたはクラスタの名前が表示されます。</li> <li>• HTTPポート - コンポーネントで使用しているポートが表示されます。</li> <li>• HTTPSポート - コンポーネントで使用しているセキュアなポートが表示されます(使用可能な場合)。</li> <li>• バージョン/ビルド - リストされたコンポーネントのバージョンとビルド番号が表示されます。</li> </ul>

列ヘッダーをクリックして、リストをソートできます。「システム」および「ホスト」はアルファベット順にソートされ、ポートおよびバージョン/ビルドは数値順にソートされます。

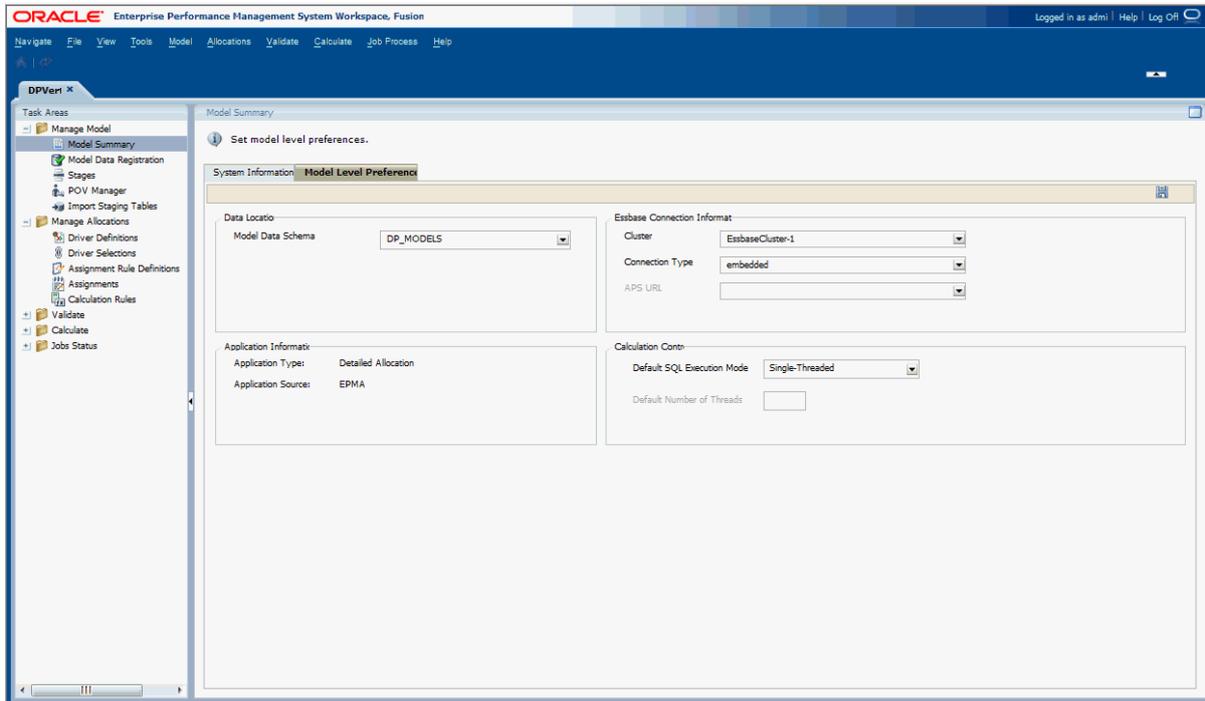
## 詳細モデル・データ・スキーマの選択

アプリケーションに関連付けるモデル・データ・スキーマを選択するには、「モデル・レベルのプリファレンス」タブを使用します。表示プリファレンスを使用するようにアプリケーションをカスタマイズできます。「モデル・レベルのプリファレンス」タブの設定はモデル全体に適用されます。

このタブには、Profitability and Cost Managementアプリケーションのタイプも「詳細」として表示されます。

➤ モデル・レベルのプリファレンスを設定するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から、「モデルの管理」、「モデルの要約」、続いて「モデル・レベルのプリファレンス」タブを選択します。



3. 「モデル・レベルのプリファレンス」タブの「モデル・プリファレンス」で、この詳細Profitability and Cost Managementアプリケーションに使用する「モデル・データ・スキーマ」を選択します。
4. 「Essbase接続情報」で、モデルのEssbase接続情報を入力します。必須の入力情報については、[240ページの表 14](#)で説明します。

表14 Essbase接続情報

設定	アクション
クラスタ	Essbaseデータベースへの接続を提供するEssbaseサーバーの論理名を選択します。この名前が指し示すEssbaseサーバーは、クラスタ化されている場合とクラスタ化されていない場合があります。
接続タイプ	接続のタイプを選択します： <ul style="list-style-type: none"> <li>• 埋込み</li> <li>• APS</li> </ul> <i>Oracle Hyperion Provider Services管理ガイド</i> を参照してください。
APS URL	「接続タイプ」として「APS」が選択されている場合にのみアクティブになります。 <p>Provider Servicesが実行されているサーバーの論理Webアプリケーション(LWA)を表すAPSのURLを選択します。</p>

設定	アクション
	<p>構成中に、使用可能なAPSサーバーがShared Servicesレジストリに登録されます。</p> <p>デフォルトでは、APS URLはhttp://localhost:13080/aps/JAPI.に設定されています。</p>

5. 「アプリケーション情報」の下に、「アプリケーション・タイプ」および「アプリケーション・ソース」が表示されます。

「アプリケーション・タイプ」は「配賦割当て」、「アプリケーション・ソース」は「EPMA」または「ネイティブ」です。

アプリケーションをPerformance Management Architectまたは代替アプリケーション・マネージャで作成すると、アプリケーション・タイプとアプリケーション・ソースが選択され、変更することはできません。

6. **Oracle RDBMSの場合のみ:** 「計算コントロール」で、「デフォルトSQL実行モード」を選択し、「デフォルト・スレッド数」を入力します。計算コントロールの設定に必要な情報について、[241ページの表 15](#)で説明します。計算ルール定義を定義する際に、これらのフィールドを上書きできます。[235ページのステップ 4](#)を参照してください。

表15 計算コントロール情報

デフォルトSQL実行モード	説明	デフォルト・スレッド数
並列自動	<p>並列SQL DML操作を有効にします。Oracleによって並列度が決定されます。</p> <p><b>注意</b></p> <p>この設定は、資格を持つOracleデータベース管理者の指示によってのみ使用することをお勧めします。</p>	このフィールドはユーザー・インタフェースで無効化されています。
並列ユーザー指定	<p>並列SQL DML操作を有効にします。並列度は、「デフォルト・スレッド数」フィールドで指定されます。</p> <p><b>注意</b></p> <p>このオプションについては、使用する前に資格を持つOracleデータベース管理者と話し合うことをお勧めします。</p>	ユーザー・インタフェースで有効になっているフィールドでは、Oracleが並列DML操作に使用する最大並列度を指定します。スレッドの最適な数は、Oracle RDBMSで使用可能なリソース(プロセッサ、メモリ、ストレージおよびIOスループット)によって異なります。
単一スレッド(デフォルト)	<p>並列SQL DML操作は有効ではありません。SQL DML文は単一スレッド・モードで実行されます。</p>	このフィールドはユーザー・インタフェースで無効化されています。

7. 「保存」



をクリックします。

## 詳細Profitabilityモデル・データの登録

詳細Profitability and Cost Managementでは、データを入力して完全新規のアプリケーションを作成するかわりに、既存のデータベース表をアプリケーションのデータ・ソースとして使用することができます。既存の表を効果的に使用するには、モデル・データの登録プロセスを通じて、詳細Profitability and Cost Managementアプリケーションにマッピングする必要があります。データベース表またはビューを登録してアプリケーション内で使用することも、既存の登録を編集または削除することもできます。



### 注意

「モデル・データの登録」は、データベースの概念をよく理解していて経験もあり、Performance Management Architectと顧客のモデル・データについても実務知識を有しているデータベース管理者、またはシステム管理者が実行することをお勧めします。

詳細Profitabilityモデルに含まれるのは、2つのステージのみです。表の登録に必要な最初の手順は、ソース・ステージと宛先ステージのメジャー・ディメンションを選択することです。アプリケーションのソース・メジャー・ディメンションまたは宛先メジャー・ディメンションとして使用できるのは、通常または汎用のビジネス・ディメンションのみです。ビジネス・データの構造に応じて、ソース・ステージと宛先ステージの両方に同じメジャー・ディメンションを使用することも、ステージごとに別のメジャー・ディメンションを使用することもできます。

- 登録されるすべてのソース・ステージ表と、その結合された参照表は、ソース・メジャー・ディメンションを使用します。
- 登録されるすべての宛先ステージ表と、その結合された参照表は、宛先メジャー・ディメンションを使用します。

モデル・データ・スキーマで作成されているビューも登録できます：

- 任意のビューのソース・ステージ表と参照表を登録できます
- 宛先ステージ表は、結合のない単純な更新可能ビューのみを登録できます。



### 注意

ビューによって参照される表は、どのスキーマにあってもかまいませんが、Profitability and Cost Managementの製品スキーマに登録する各表から、必要なデータベース・アクセス権を発行する必要があります。『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイド』を参照してください。

モデル・データの登録を使用して、ソース・ステージと宛先ステージに割り当てられる表を識別し、その表の列をPerformance Management Architectのアプリケーションに定義したメジャーおよびディメンションにマッピングします。各列を登録するとき、次のいずれかのタイプに割り当てます。

- EPMA POVディメンション - Performance Management Architectによって管理されます。
- EPMAディメンション - Performance Management Architectによって管理されます。これらは、前の項で説明したビジネス・ディメンションです。
- 非EPMAディメンション - Performance Management Architectでは管理されませんが、選択したモデル・データ・スキーマには存在するディメンション。

- メジャー - 選択したソースおよび宛先のメジャー・ディメンションのメンバー。
- 監査列:
  - 監査: 最終変更者
  - 監査: 最終変更日

Performance Management ArchitectのディメンションとPOVディメンションは、直接マップできます。非EPMAディメンションは、ID、日付、監査情報、きわめて大きなディメンションなど、配賦に必要だがPerformance Management Architectによって管理されないディメンションです。これらもシステムによって識別されるように、マップする必要があります。これらの列には、宛先割当てルールのデータ・フィルタ内でアクセスできます。

ソースまたは宛先ステージの表に参照表を結合すると、論理的な「ステージ・ビジネス・オブジェクト」を生成できます。これは、メインのステージ表では直接使用できないメジャーおよびディメンションの列または値を含むように拡張できるオブジェクトです。Profitability and Cost Managementの管理者は、モデル・データ登録で結合定義を設定する必要があります。

次の項を参照してください:

- [243ページのモデル・データの登録](#)
- [252ページの列のマッピング](#)
- [255ページの参照表の結合](#)
- [259ページのモデル・データの登録の要約の確認](#)

## モデル・データの登録

表の登録に必要な最初の手順は、ソース・ステージと宛先ステージのメジャー・ディメンションを選択することです。各ステージに対して同じメジャーを選択することも、ステージごとに異なるメジャーを選択することもできます。



### 注意

ソースと宛先の両方に対して選択したメジャーは、モデル・データの登録またはドライバが存在するかぎり変更できません。ソース・ステージ・メジャーまたは宛先ステージ・メジャーに新しい値を選択するには、選択したアプリケーションのすべての登録およびドライバを削除する必要があります。

メジャーに様々なタイプのデータ(たとえば、人数の数値対通貨値)が含まれていると、異なる値タイプが正しく区別されないためにステージの貸借一致レポートに不正確な結果が示される可能性があります。

正しい結果を取得して、「ステージの貸借一致」ビューの結果の正確さを保証するには、次のように統計メジャーを配置します:

- 垂直および水平のソース表では、結合された参照表にすべての統計メジャーを配置します。
- ソース表(垂直または水平)に統計メジャーを直接配置するには、ソース・メジャー・タイプという新しいディメンションを作成し、この入力メンバーをすべての非統計メジャー・メンバーに割り当てます。

作成と管理については、次の項を参照してください:

- [244ページの新しいモデル・データの登録の作成](#)
- [250ページの既存のモデル・データの登録の変更](#)
- [251ページの既存のモデル・データの登録のコピー](#)
- [251ページの既存のモデル・データの登録の削除](#)

## 新しいモデル・データの登録の作成

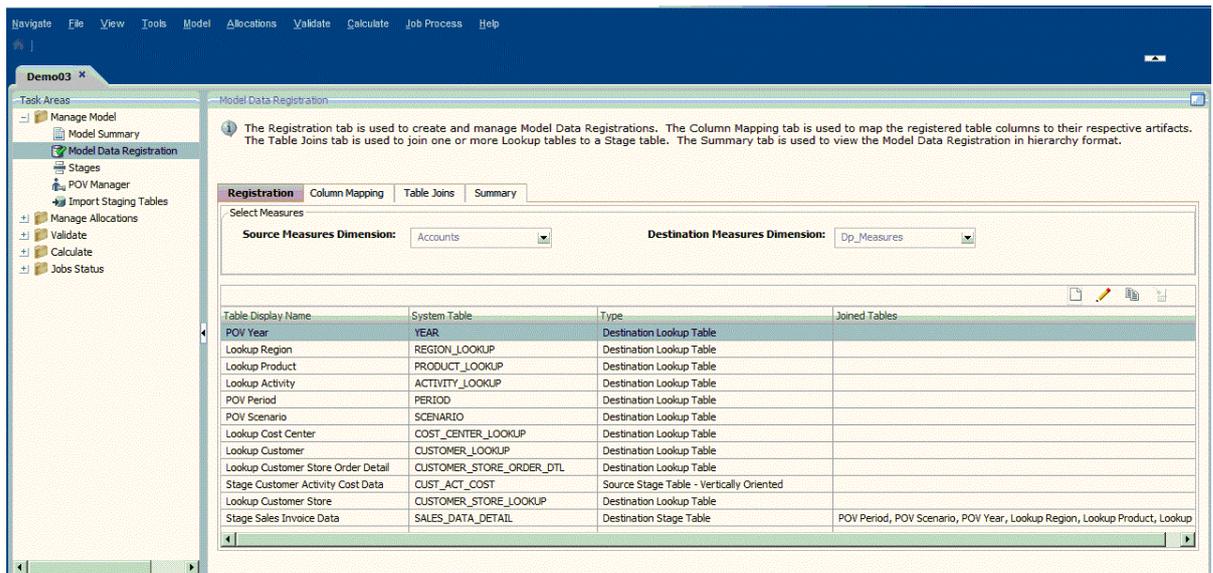
詳細Profitabilityアプリケーションのデータ・ソースとして使用する外部表を指定し、新しい表名を適用して、使用する表タイプを選択する必要があります。

外部表は、水平方向でも垂直方向でもかまいません。ソース・ステージ表に対して、登録する表に使用するタイプまたは方向を指定できます。宛先表および参照表は変更できず、水平方向のみで示されます。

▶ 新しいモデル・データの登録表を作成するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「**Profitability**」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。

「モデル・データの登録」画面が表示されます。



- 「登録」タブの「メジャーの選択」で、「ソース・メジャー・ディメンション」と「宛先メジャー・ディメンション」のドロップダウン・リストからそれぞれメジャー・ディメンションを選択します。

各ステージに対して同じメジャー・ディメンションを選択することも、ステージごとに異なるメジャー・ディメンションを選択することもできます。

- 登録されるすべてのソース・ステージ表と、その結合された参照表は、ソース・メジャー・ディメンションを使用します。
- 登録されるすべての宛先ステージ表と、その結合された参照表は、宛先メジャー・ディメンションを使用します。

ソースまたは宛先のメジャー・ディメンションとして使用できるのは、ビジネス・ディメンションのみです。別名、属性、非EPMAディメンションは使用できません。



#### 注意

ソースと宛先の両方のステージに対して選択したメジャーは、モデル・データの登録またはドライバが存在するかぎり変更できません。

- 「登録」タブで、「新しい表の追加」



をクリックします。

手順1: 表の選択ウィザードが表示されます。

**Step 1: Select Table**

 Select available external tables, then change the display name, add a description, and select the table usage. Table Usages can be: Source Stage (Horizontal), Source Stage (Vertical), Destination Stage (Horizontal), or Lookup Table (Horizontal).

External Table

Table Name

Description

Table Type

< Back    Next >    Cancel

5. 「外部表」から、データ・ソースとして使用する既存の表またはビューの名前を選択します。このリストには、ユーザーが読み取りまたは書き込みのアクセス権を持っているすべての外部表が表示されます。



注:

大文字、数字、"\_"または"\$"のみを名前に使用する表と列を登録します。無効な名前の表または列は、選択対象として表示されません。

6. 「表名」で、登録済の表にわかりやすい名前を入力します。
7. オプション: 表の用途や内容について簡単な説明を入力します。
8. 「表タイプ」から、登録する表のタイプと方向を選択します:
  - ソース・ステージ表 - 水平方向: メジャーは表で別の列に格納されます。個別のメジャーに1つの列が対応します。
  - ソース・ステージ表 - 垂直方向: メジャーの値は表で別の行に格納されます。メジャー値が1つの列、メジャーIDがメジャー・ディメンション列に含まれます。
  - 宛先ステージ表
  - ソース参照表
  - 宛先参照表



注:

使用可能な参照表のタイプは、「登録」タブで選択したメジャーによって異なります。個別に2つのメジャー・ディメンションを登録する場合、「表タイプ」の選択肢は2つのみです(「ソース参照表」および「宛先参照表」)。

同じメジャー・ディメンションが選択されていると、使用できる「表タイプ」は1つのみです(「参照表」)。

9. 「次」をクリックします。

「手順2: 列の選択」画面が表示されます。

**Step 2: Select Columns**

Select the columns you wish to use by moving them from the Available Columns to the Selected Columns. Only columns that adhere to our naming conventions, ones that contain no spaces and have letters that are either all upper case or all lower case (no mixed case) will appear in the Available Columns shuttle.

Table Details

<b>Table Name:</b> Accounts	<b>Table Type:</b> Source Lookup Table
<b>External Table:</b> ACCOUNT_LOOKUP	<b>Measures Dimension:</b> Accounts

Available Columns	Selected Columns
ACCOUNT_ID	
ACCOUNT_NAME	
ACCOUNT_TYPE	
SOURCE_SYSTEM	

>  
<  
<<

< Back   Next >   Cancel

10. 「使用可能な列」で、最終表で使用する列を登録中の表から選択し、「追加」の矢印



をクリックして選択内容を「選択した列」に移動します。

リストから一度に複数の列を選択できます:

- 列の範囲を選択する場合は、[Shift]キーを押しながら、範囲の先頭の列と末尾の列を選択します。
- 複数の任意の列を選択するには、[Ctrl]キーを押しながら一連の列を1つずつ選択します。



注:

大文字、数字、"\_"または"\$"のみを名前に使用する表と列を登録します。無効な名前の表または列は、選択対象として表示されません。

11. 「次」をクリックします。

「手順3: 列のマッピング」画面が表示され、選択した表の詳細がリストされます。

### Step 3: Map Columns



Map your selected columns to one of the available column types. Available Column Types are: Managed by EPMA (EPMA Dimension, EPMA Measure, or EPMA POV Dimension) or Audit (Last Updated Time, Last Updated By, Created By, or Created Date).

#### Table Details

Table Name: Accounts

Table Type: Source Lookup Table

External Table: ACCOUNT\_LOOKUP

Measures Dimension: Accounts

#### Select Column Types

##### Selected Columns

ACCOUNT\_ID

ACCOUNT\_TYPE

##### Column Type

< Back

Next >

Cancel

12. 「列タイプの選択」で、「選択した列」を使用可能な列タイプにマップします:

- EPMA POVディメンション
- EPMAディメンション
- 非EPMAディメンション
- メジャー
- 監査: 最終変更者
- 監査: 最終変更日

13. 「次」をクリックします。

「手順4: 非EPMA列の名前変更」画面が開き、ID、日付、監査などの非EPMAディメンションおよび監査ディメンションがある場合には表示されます。非EPMAディメンションまたは監査ディメンションがない場合、リストは空白です。

**Step 4: Rename non-EPMA columns**

**i** Select the Column Type to map to EPMA Objects. For columns of type Modeling, select the EPMA Dimension to map to for each row, and for columns of type Measure, select the actual Measure Member for each row

**Table Details**

**Table Name:** Accounts                      **Table Type:** Source Lookup Table  
**External Table:** ACCOUNT\_LOOKUP              **Measures Dimension:** Accounts

**Rename non-EPMA Dimension Columns**

Selected Columns	Non-EPMA Dimension/Audit	Column Name
ACCOUNT_TYPE	Non-EPMA Dimension ▼	ACCOUNT_TYPE

< Back    Next >    Cancel

14. オプション: 以前に選択した非EPMAディメンションおよび監査ディメンションと関連付けられたユーザー・フレンドリーな新しい名前を「列名」の下に入力します。こうすると、ディメンションが使いやすくなります。
15. 「次」をクリックします。

「手順5: EPMA列のマップと名前変更」画面が表示されます。

16. 「ディメンション/POV」で、[248ページのステップ 12](#)においてEPMA POVディメンションまたはEPMAディメンションとして設定したすべての列を、既存のPerformance Management Architectディメンションにマップします。選択したディメンション/POVが自動的に「列名」に表示されます。この値は必要に応じて変更できます。
17. 「次」をクリックします。

「手順6: メジャー列のマップと名前変更」画面が表示されます。

## Step 6: Map and Rename Measure columns

 For columns of type Measure, select the actual Measure Member for each row

### Table Details

**Table Name:** Accounts

**Table Type:** Source Lookup Table

**External Table:** ACCOUNT\_LOOKUP

**Measures Dimension:** Accounts

### Select Measures

Selected Columns	Measure	Column Name
------------------	---------	-------------

< Back

Finish

Cancel

18. 「メジャー」で、メジャー・タイプの列に対して行ごとの実際のメジャー・メンバーを選択します。選択したメジャーが自動的に「列名」に表示されます。この値は必要に応じて変更できます。
19. 「終了」をクリックします。

表が登録され、「登録」タブで登録済表のリストに表示されます。

## 既存のモデル・データの登録の変更

▶ 既存のモデル・データの登録表を変更するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。
3. 「登録」タブで変更する表を選択し、「表の編集」



をクリックします。

4. オプション: 「表の選択」画面で、表名および説明などの表に関する情報を変更し、「次」をクリックします。



注:

外部表の選択、表タイプは変更できません。

5. オプション: 「列の選択」画面で、「追加」矢印と「削除」矢印を使用して「選択した列」に選択内容を移動し、列の選択を変更します。

リストから一度に複数の列を選択できます:

- 列の範囲を選択する場合は、[Shift]キーを押しながら、範囲の先頭の列と末尾の列を選択します。
  - 複数の任意の列を選択するには、[Ctrl]キーを押しながら一連の列を1つずつ選択します。
6. 「次」をクリックします。
  7. オプション: 列のマップ画面で、新しく選択した列の使用可能な列タイプへのマッピングを変更し、「次」をクリックします。

「手順4: 非EPMA列の名前変更」画面が開き、非EPMAディメンションがある場合には表示されます。非EPMAディメンションがない場合には何も表示されません。

8. オプション: 新しく選択した非EPMA列を変更し、「次」をクリックします。
9. オプション: 「EPMA列のマップと名前変更」画面で、Performance Management Architectによって管理される列に対して「ディメンション/POV」または「列名」でディメンションまたはPOVを変更し、「次」をクリックします。
10. オプション: 「メジャー列のマップと名前変更」画面で、「メジャー」のメジャー・タイプ列に対して、行の実際のメジャー・メンバーを変更し、「終了」をクリックします。

表に対する変更が登録されます。

## 既存のモデル・データの登録のコピー

- ▶ 既存のモデル・データの登録表をコピーして新しいモデル・データの登録を作成するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。
3. 「登録」タブでコピーする表を選択し、「表の複製」



をクリックします。

Create a Duplicate Table

Enter the new table name:

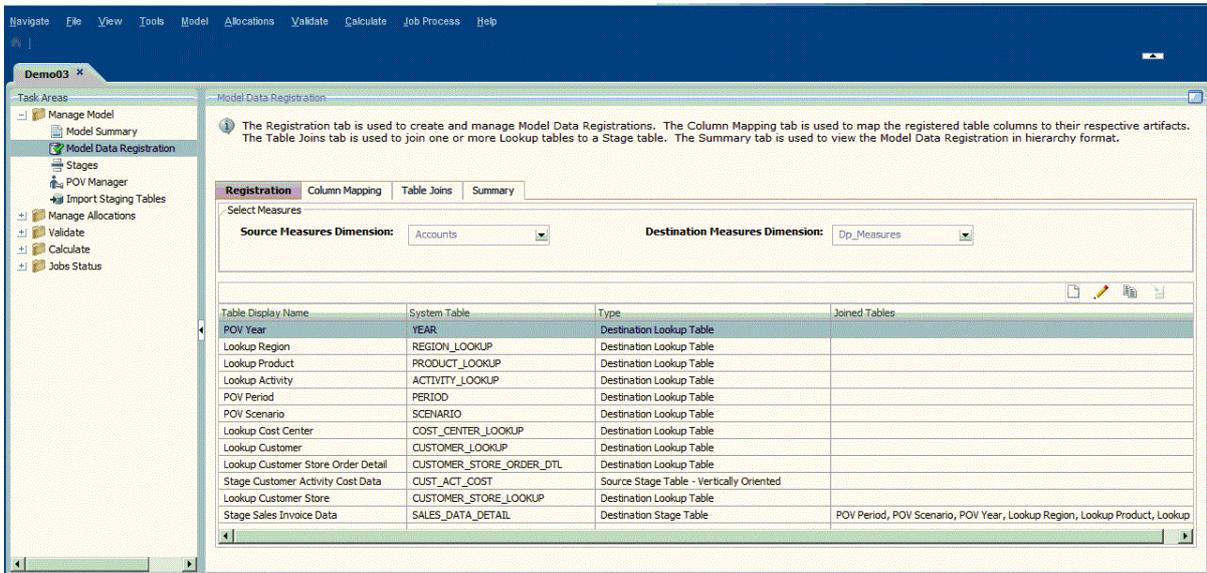
OK Cancel

4. 「表の複製の作成」ダイアログ・ボックスで新しい表の名前を入力し、「OK」をクリックします。

## 既存のモデル・データの登録の削除

- ▶ 既存のモデル・データの登録表を削除するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。



3. 「登録」タブで削除する表を選択し、「表の削除」



をクリックします。

4. 確認ダイアログ「選択した表を削除しようとしています。続行しますか?」が表示されたら、削除を確認します。

選択した表のモデル・データの登録情報が削除されます。

## 列のマッピング

「列マッピング」タブは、登録されている表の列を、選択した表のそれぞれのディメンションにマップする際に使用します。

次の項を参照してください:

- [253ページの列マッピングの表示](#)
- [254ページの列マッピングの変更](#)
- [254ページの列マッピングの削除](#)

## 列マッピングの表示

▶ 列マッピングを表示するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデルデータの登録」の順に選択します。
3. 「列マッピング」タブを選択します。
4. 「表の選択」で、列マッピングを表示するステージ表を選択します。

関連する「システム表」および「表タイプ」が表示されます。

Column Display Name	System Table Column	Column Type	EPMA Mapping
COST_OF_GOODS	COST_OF_GOODS	Measure	COST_OF_GOODS
DISCOUNTS	DISCOUNTS	Measure	DISCOUNTS
EXTENDED_LIST	EXTENDED_LIST	Measure	EXTENDED_LIST
GENERAL_ADMIN_EXPENSE	GENERAL_ADMIN_EXPENSE	Measure	GENERAL_ADMIN_EXPENSE
GROSS_MARGIN	GROSS_MARGIN	Measure	GROSS_MARGIN
INVOICE_LINE_NUMBER	INVOICE_LINE_NUMBER	Non-EPMA Dimension	
ITEM_LIST	ITEM_LIST	Measure	ITEM_LIST
Period	MONTH_ID	EPMA POV Dimension	Period
NET_PROFIT_BIT	NET_PROFIT_BIT	Measure	NET_PROFIT_BIT
NET_REVENUE	NET_REVENUE	Measure	NET_REVENUE
PROFIT	PROFIT	Measure	PROFIT
QUANTITY	QUANTITY	Measure	QUANTITY
REBATES	REBATES	Measure	REBATES
SALES_EXPENSE	SALES_EXPENSE	Measure	SALES_EXPENSE
SALES_PRICE	SALES_PRICE	Measure	SALES_PRICE
Scenario	SCENARIO_ID	EPMA POV Dimension	Scenario
SERVICE_EXPENSE	SERVICE_EXPENSE	Measure	SERVICE_EXPENSE
SHIPPING_EXPENSE	SHIPPING_EXPENSE	Measure	SHIPPING_EXPENSE
STORE_NUMBER	STORE_NUMBER	Non-EPMA Dimension	

5. 列マッピングを確認します:

- 「列の表示名」には、列に割り当てられた表示名が表示されます
- 「システム表の列」には、選択したシステム表の列の名前が表示されます
- 「列のタイプ」には、列がマップされているタイプが表示されます:
  - EPMA POVディメンション
  - EPMAディメンション
  - 非EPMAディメンション

- メジャー
- 監査: 最終変更者
- 監査: 最終変更日
- ・「**EPMAマッピング**」には、列がマッピングされているEPMAディメンションまたはEPMAディメンション・メンバーが表示されます。

## 列マッピングの変更

▶ 列マッピングを変更するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「**Profitability**」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。
3. 「列マッピング」タブを選択します。
4. 「表の選択」で、列マッピングを変更するステージ表を選択します。
5. 「列マッピングの編集」



をクリックします。

「非EPMA列の名前変更」ダイアログ・ボックスが表示されます。

6. 「列名」で、変更する非EPMAディメンションのそれぞれについて列名を変更し、「次」をクリックします。アプリケーションに非EPMAディメンションが含まれていない場合、この画面は空白です。

「EPMA列のマッピングと名前変更」ダイアログ・ボックスが表示されます。

7. 「列名」で、変更する各EPMA列の名前を変更します。

「ディメンション/POV」で、選択したディメンションを変更でき、必要に応じて、「次へ」をクリックします。

「メジャー列のマッピングと名前変更」ダイアログ・ボックスが表示されます。

8. 「メジャー」で、各列に使用する実際のメンバーを選択し、「終了」をクリックします。

列の変更がすべて適用されます。

## 列マッピングの削除

▶ 列マッピングを削除するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「**Profitability**」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。
3. 「列マッピング」タブを選択します。
4. 「表の選択」で、列マッピングを削除するステージ表を選択します。

関連する「システム表」および「表タイプ」が表示されます。

5. 「列の表示名」で、削除するマッピングを含む列の名前を選択し、「列マッピングの削除」



をクリックします。

選択した列のマッピングが削除されます。

# 参照表の結合

## サブトピック

- [参照表への表の結合](#)
- [参照表結合の編集](#)
- [参照表結合の削除](#)

ソース表として指定されたステージ表では、表内で十分なサポート詳細情報を得られない場合があります。参照表は、顧客の既存表のうち、ソース表または宛先表に結合できる表であり、ステージ表の内容を拡張して追加の情報またはデータを提供できます。

表をステージ表に結合できるのは、その表がステージ表と同じメジャー・リストとメジャー・ディメンションを使用する場合です。たとえば、1つ以上の列がソース・メジャー・ディメンションのメンバー値にマッピングされているソース参照表が該当します。

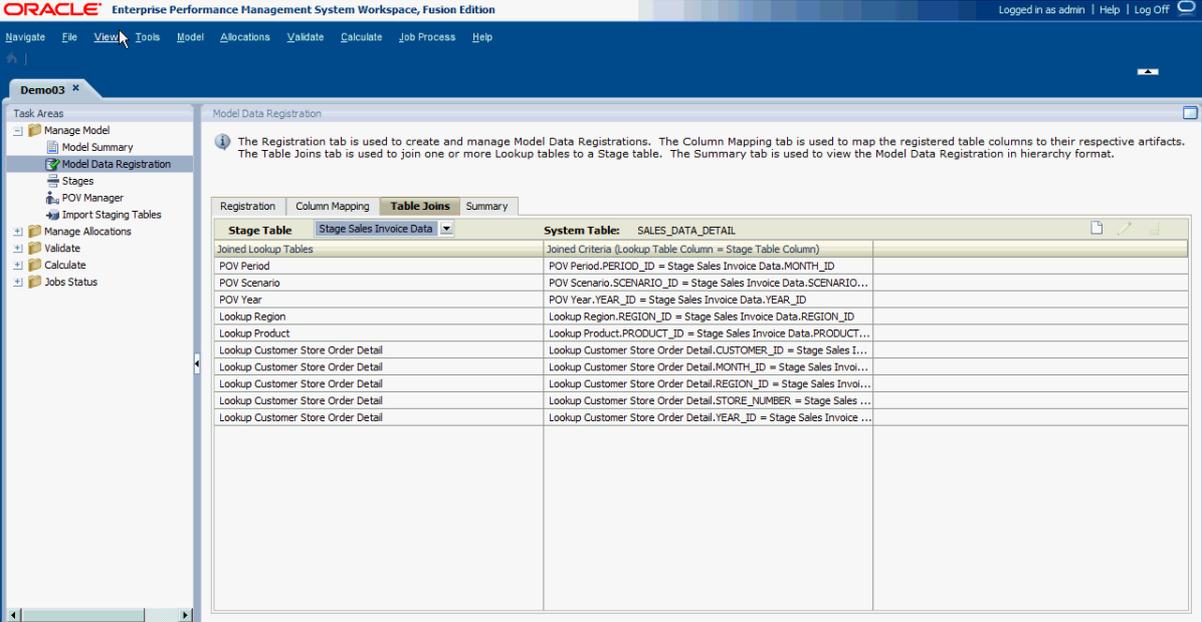
参照表ごとに、選択したステージ表では計算と処理時間が増加します。計算に伴う参照表の数が多くなればなるほど、処理時間も長くなります。計算には、すべての参照表が関連するわけではありません。たとえば、ステージ表に10個の表を結合した場合でも、ドライバがそのうち3つの表しか使用していなければ、処理に影響するのはその3つの表のみです。

## 参照表への表の結合

▶ 参照表に表を結合するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「**Profitability**」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。
3. 「表の結合」タブを選択します。
4. 「ステージ表」から、参照表を結合するステージ表を選択します。

現在ステージ表に結合されている表のリストが表示されます。



Stage Table	System Table	Joined Criteria (Lookup Table Column = Stage Table Column)
POV Period	SALES_DATA_DETAIL	POV Period.PERIOD_ID = Stage Sales Invoice Data.MONTH_ID
POV Scenario	SALES_DATA_DETAIL	POV Scenario.SCENARIO_ID = Stage Sales Invoice Data.SCENARIO...
POV Year	SALES_DATA_DETAIL	POV Year.YEAR_ID = Stage Sales Invoice Data.YEAR_ID
Lookup Region	SALES_DATA_DETAIL	Lookup Region.REGION_ID = Stage Sales Invoice Data.REGION_ID
Lookup Product	SALES_DATA_DETAIL	Lookup Product.PRODUCT_ID = Stage Sales Invoice Data.PRODUCT...
Lookup Customer Store Order Detail	SALES_DATA_DETAIL	Lookup Customer Store Order Detail.CUSTOMER_ID = Stage Sales I...
Lookup Customer Store Order Detail	SALES_DATA_DETAIL	Lookup Customer Store Order Detail.MONTH_ID = Stage Sales Invoi...
Lookup Customer Store Order Detail	SALES_DATA_DETAIL	Lookup Customer Store Order Detail.REGION_ID = Stage Sales Invoi...
Lookup Customer Store Order Detail	SALES_DATA_DETAIL	Lookup Customer Store Order Detail.STORE_NUMBER = Stage Sales ...
Lookup Customer Store Order Detail	SALES_DATA_DETAIL	Lookup Customer Store Order Detail.YEAR_ID = Stage Sales Invoice ...

5. 「表の結合の作成」



をクリックします。

**Step 1: Select Lookup Table**

 Table Joins will allow you to join one or more Lookup Tables to a Stage Table to get access to the Lookup Table details. Select a Lookup Table to join to the Stage Table.

**Table Details**

<b>Stage Table Name:</b> Stage Sales Invoice Data	<b>Table Type:</b> Destination Stage Table
<b>External Table:</b> SALES_DATA_DETAIL	<b>Measures Dimension:</b> Dp_Measures

**Available Lookup Tables**

Lookup Table	Lookup Activity 
--------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

< Back   Next >   Cancel

6. 参照表の選択ウィザードで、「使用可能な参照表」の「参照表」ドロップダウン・リストから、選択したステージ表に結合する参照表を選択し、「次」をクリックします。

## Step 2: Join Lookup Table to Stage Table

-  Join the Stage Table to the Lookup Table by selecting the corresponding Join columns for each table selected in the prior steps. Use the optional Create/Delete buttons to add another join condition for the selected Stage/Lookup tables.

### Table Details

<b>Stage Table Name:</b> Stage Sales Invoice Data	<b>Table Type:</b> Destination Stage Table
<b>External Table:</b> SALES_DATA_DETAIL	<b>Measures Dimension:</b> Dp_Measures
<b>Lookup Table Name:</b> Lookup Activity	<b>Table Type:</b> Destination Lookup Table
<b>External Table:</b> ACTIVITY_LOOKUP	

### Join Details

Stage Table and Columns		Lookup Table and Columns	 
<input type="checkbox"/> Stage Sales Invoice	<input type="text"/>	=	Lookup Activity <input type="text"/>

< Back

Finish

Cancel

7. 参照表とステージ表の結合ウィザードの「ジョブの詳細」で、「新しい条件の追加」



をクリックし、別の表結合をステージ表に追加します。

8. 「ステージ表と列」からステージ表列を選択し、「参照表と列」から参照表列を選択します。  
9. オプション: 「ジョブの詳細」で、結合条件を選択して、「条件の削除」



をクリックし、選択した条件を削除します。

10. 「終了」をクリックします。

## 参照表結合の編集

▶ 参照表結合を編集するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。
3. 「表の結合」タブを選択します。
4. 「ステージ表」から、参照表を結合するステージ表を選択します。

現在ステージ表に結合されている表のリストが表示されます。

5. 「表の結合の編集」



をクリックします。

6. 参照表の選択ウィザードで、選択した参照表を確認し、「次」をクリックします。
7. オプション: 参照表とステージ表の結合ウィザードの「ジョブの詳細」で、「ステージ表と列」または関連する「参照表と列」の選択内容を、必要に応じて変更します。
8. 「終了」をクリックします。

## 参照表結合の削除

▶ 結合された表を削除するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。
3. 「表の結合」タブを選択します。
4. 「ステージ表」から、参照表の関連付けを削除するステージ表を選択します。

現在ステージ表に結合されている表のリストが表示されます。

5. 「結合された参照表」で、ステージ表から削除する結合された条件を選択します。
6. 「表の結合の削除」



をクリックし、ステージ表から選択した結合条件を削除します。

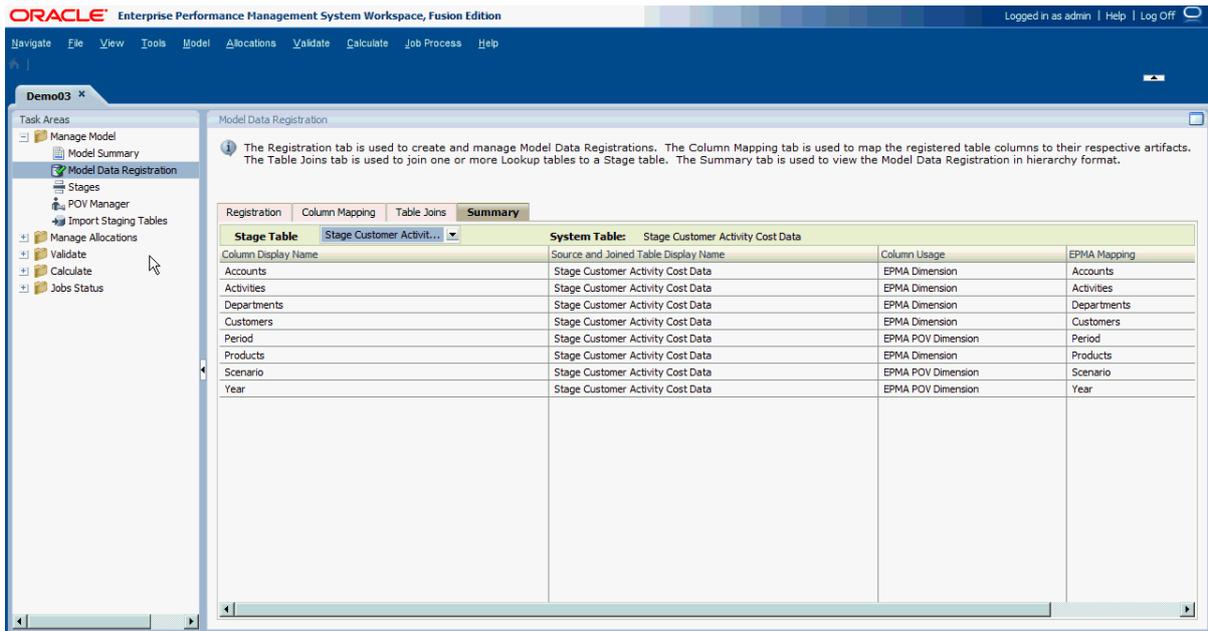
結合された条件がリストから削除されます。

## モデル・データの登録の要約の確認

「モデル・データの登録」画面の「要約」タブには、関連付けられている参照表やマッピングなどを含む、完成したソースまたは宛先のステージ表の詳細が表示されます。

▶ ステージ表の要約を表示するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。
3. 「要約」タブを選択します。



4. 「ステージ表」で、登録されているステージ表のリストから、詳細を表示するステージ表を選択します。

画面に、選択した表の詳細が表示されます。

5. 選択した表の詳細を、「要約」タブで確認します:

- 「列の表示名」には、列に割り当てられた名前が表示されます
- 「ソース表および結合された表の表示名」には、ソースに割り当てられた表と、それに対応する結合された表の名前が表示されます
- 「列の使用方法」には、列がマップされているタイプが表示されます:
  - EPMA POVディメンション
  - EPMAディメンション
  - 非EPMAディメンション
  - メジャー
  - 監査: 最終変更者
  - 監査: 最終変更日
- 「EPMAマッピング」には、列がマップされているEPMAディメンションまたはメンバーが表示されます。

## 詳細Profitabilityステージの管理

詳細Profitability and Cost Managementでは、モデルに2つのステージのみが存在します:

- ソース・ステージは、Performance Management Architectで管理されるディメンションである必要があり、管理されるディメンションを最大5つ含めることができます。そのソースとしては、モデル・データの登録から水平方向または垂直方向のソース・ステージ表を使用できます。5つのソース・ステージ・ディメンションのうち1つは、表登録の最初に指定した「ソース・メジャー・ディメンション」である必要があります。
- 宛先ステージには、Profitability and Cost Managementで管理されるディメンションと通常のビジネス・ディメンションを最大25まで含めることができますが、モデル・データの登録からの水平方向の宛先ステージ表である必要があります。



注:

非EPMA管理のディメンションは、ステージ・ディメンションとして定義できません。宛先ステージによって使用することはできますが、宛先ステージ割当てルールのデータ・フィルタでのみです。

Performance Management Architectで新しいアプリケーションを作成し、それをProfitability and Cost Managementにデプロイする際には、「ステージ」画面を使用してソース・ステージ(ステージ1)と宛先ステージ(ステージ2)を作成します。詳細Profitabilityアプリケーションでは、ソース・ステージと宛先ステージの特性、要件および検証が異なります。標準Profitabilityアプリケーションとは異なり、これらのステージがソースと宛先の両方として機能することはできません。

2つのステージの設定後は、どちらか一方のステージを削除しないかぎり、モデル・データの登録後に新しいステージを追加することはできません。[267ページの詳細Profitabilityモデル・ステージの削除](#)を参照してください。

次の手順を参照してください:

- [261ページの詳細Profitabilityモデル・ステージの追加](#)
- [264ページの詳細Profitabilityモデル・ステージの変更](#)
- [267ページの詳細Profitabilityモデル・ステージの削除](#)

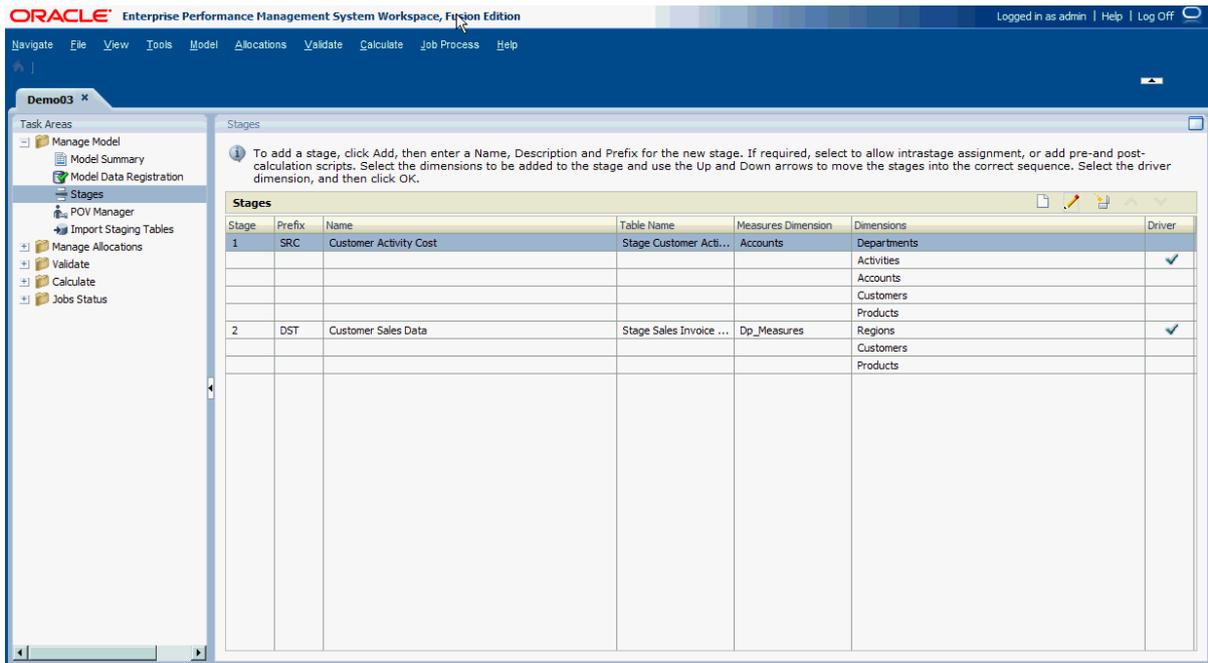
## 詳細Profitabilityモデル・ステージの追加

詳細Profitabilityモデルに存在するのは、2つのステージのみです。

両方のステージがすでに存在する場合、このオプションは使用できません。

▶ モデル・ステージを追加するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から「モデルの管理」、「ステージ」の順に選択します。



ステージ・ウィンドウには、選択したステージに関する次の情報が表示されます:

- ・「ステージ」にはステージの順序が表示されます。ステージの順序で、ステージがソースまたは宛先のいずれであるかが決まります。
- ・「接頭辞」は、ステージの作成時に入力されたステージ接頭辞です。この値により、ステージがソース(SRC)か宛先(DST)かを示すことができます。



注:

接頭辞は識別、ソース・ステージまたは宛先ステージに影響しません。ステージ1は常にソース・ステージで、ステージ2は常に宛先ステージです。

- ・「名前」には、ステージに割り当てられた名前、通常は「顧客アクティビティ費用」や「顧客販売データ」など、そのステージのビジネス機能やビジネス・プロセスを表す名前が表示されます。
  - ・「表名」は、登録された表に割り当てられた表示名です。
  - ・「メジャー・ディメンション」には、「モデル・データの登録」中に「ステージ」に選択されたメジャー・ディメンションが表示されます。
  - ・「ディメンション」には、ステージに含まれるディメンションが表示されます。
  - ・ステージに選択されている「ドライバ」ディメンションには、チェックマークが付きます。
3. 2つのステージがまだ存在しない場合には、「ステージの追加」



をクリックします。

「ステージ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

**Stage**

Name:

Description:

Prefix:

Table Name:

Measures Dimension: Accounts

**Stage Dimensions**

Order	Dimension	Driver
1	Departments	<input type="radio"/>
2	Activities	<input checked="" type="radio"/>
3	Accounts	<input type="radio"/>
4	Customers	<input type="radio"/>
5	Products	<input type="radio"/>

Help OK Cancel

4. ステージの次の詳細を入力します:

- ステージに割り当てる「名前」を入力します。名前は通常、「顧客アクティビティ費用」や「顧客販売データ」など、ステージのビジネス機能やビジネス・プロセスを表します。
- 「接頭辞」を選択し、ステージがソース(SRC)か宛先(DST)かなどを指定することができます。
- オプション: ステージの用途や内容について簡単な説明を入力します。
- 「モデル・データの登録」中に割り当てられる「表名」を選択します。

- ・「メジャー・ディメンション」で、「モデル・データの登録」中に、選択したステージに関連付けられるメジャー・ディメンションを検証します。

5. 「ステージのディメンション」で「追加」



をクリックし、ディメンションをステージに追加します。



注:

選択したステージのディメンションを追加する場合は、モデル・データ登録時にソース・ステージのディメンションの1つとして定義したソースのメジャー・ディメンションも追加する必要があります。宛先ステージの定義に、宛先メジャー・ディメンションは含めないでください。

6. [264ページのステップ 5](#)を繰り返し、選択したステージに各ディメンションを追加します。ソース・ステージでは最大5つのディメンション、宛先ステージでは最大25個のディメンションを追加できます。
7. オプション:「順序」の下でディメンションを選択し、「上へ」



および「下へ」



の矢印を使用してディメンションを適切な順序に移動します。矢印を使用してすべてのディメンションを移動します。

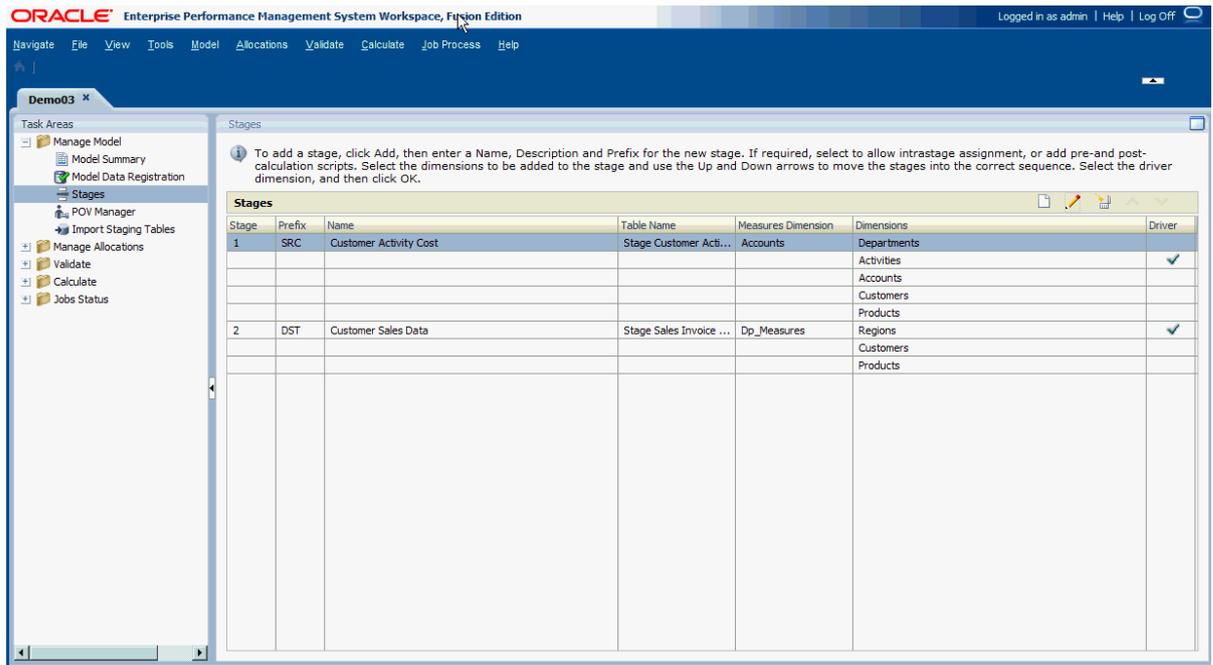
8. 「ドライバ」で、選択したステージのドライバであるディメンションを選択します。指定したドライバにはチェックマークが付きます。
9. 「OK」をクリックします。

## 詳細Profitabilityモデル・ステージの変更

モデル・ステージは簡単に変更できます。

▶ モデル・ステージを変更するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から「モデルの管理」、「ステージ」の順に選択します。



ステージ・ウィンドウには、選択したステージに関する次の情報が表示されます：

- ・「ステージ」には、2つのステージの順序が表示されます。
  - ・「接頭辞」では、ステージがソース(SRC)か宛先(DST)かが示されます。
  - ・「名前」には、ステージの名前、通常は「総勘定元帳」や「営業活動」など、そのステージのビジネス機能やビジネス・プロセスを表す名前が表示されます。
  - ・「表名」は、MDR表に割り当てられた表示名です。
  - ・「メジャー・ディメンション」には、「モデル・データの登録」中に「ステージ」に選択されたメジャー・ディメンションが表示されます。
  - ・「ディメンション」には、ステージに含まれるディメンションが表示されます。
  - ・ステージの「ドライバ」ディメンションには、チェックマークが付きます。
3. 変更するステージを選択し、「ステージの編集」



をクリックします。

「ステージ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

**Stage**

Name:

Description:

Prefix:

Table Name:

Measures Dimension: Accounts

**Stage Dimensions**

Order	Dimension	Driver
1	Departments	<input type="radio"/>
2	Activities	<input checked="" type="radio"/>
3	Accounts	<input type="radio"/>
4	Customers	<input type="radio"/>
5	Products	<input type="radio"/>

Help OK Cancel

4. 次の項目のいずれかまたはすべてを変更します:

- 名前
- 説明
- 接頭辞
- 表名

5. オプション: デイメンションを追加するには、「ステージのデイメンション」で「追加」



をクリックして新しい行を追加し、ステージに追加するディメンションを選択します。追加する各ディメンションについて繰り返します。



注:

選択したステージにディメンションを追加する際には、ソース・ステージのディメンションの1つとして、定義済のソース・メジャー・ディメンションも追加する必要があります。宛先ステージの定義に、宛先メジャー・ディメンションは含めないでください。

6. オプション: 「ステージのディメンション」でディメンションを選択し、「削除」



をクリックすると、そのディメンションがステージから削除されます。削除する各ディメンションについて繰り返します。

7. オプション: 「順序」の下でディメンションを選択し、「上へ」



および「下へ」



の矢印を使用してディメンションを適切な順序に移動します。矢印を使用してすべてのディメンションを移動します。

8. 「ドライバ」で、選択したステージのドライバであるディメンションを選択します。指定したドライバにはチェックマークが付きます。  
9. 「OK」をクリックします。

## 詳細Profitabilityモデル・ステージの削除

詳細Profitabilityでは、使用可能なディメンションの数などの特性、要件および検証がソース・ステージと宛先ステージで異なるため、互換的に使用することはできません。

両方のステージが存在する場合に、ステージ1を先に削除することはできません。ステージ2がステージ1になるため、宛先ステージがソース・ステージとなり、ソース・ステージに適用されている制限に違反する可能性があるためです。



注意

選択したステージに関するドライバ選択、ドライバ選択の例外、計算ルール、割当てルールの選択も削除されます。

必要なステージを削除した後、[261ページの詳細Profitabilityモデル・ステージの追加](#)の説明に従って、新しいステージを追加できます。

▶ モデル・ステージを削除するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「モデルの管理」、「ステージ」の順に選択します。

3. 「ステージ」画面で、削除するステージ2 (宛先ステージ)を選択します。
4. 「ステージの削除」



をクリックします。

メッセージにより、削除を確認するよう求められます。

5. オプション: 「ステージ」画面で、削除するステージ1 (ソース・ステージ)を選択します。
6. 「ステージの削除」



をクリックします。

メッセージにより、削除を確認するよう求められます。

## 詳細Profitabilityの視点(POV)の操作

モデルの視点(POV)は、選択された期間(年、期間、シナリオなど)用に、モデル情報の特殊なビューを提供します。

組織のPOVディメンションの名前と構造は完全にカスタマイズできます。Profitability and Cost Managementのほぼすべてのアクティビティにおいて、最初の手順はPOVを選択することです。

モデルには、1つ以上のPOVディメンションが必要です。まずPOVディメンションを定義し、次にこれらのディメンションの名前を定義します。計算は、各月または状況に固有のデータ、ドライバの選択および割当てを使用して行われます。

代表的なPOVには「年」、「期間」および「シナリオ」が含まれます。少なくとも1つのPOVディメンションが必要であり、最大4つ作成できます。POVディメンションのメンバーはユーザー定義であり、モデリングや仮定分析において多様なPOVの組合せを提供します。

POVが「ドラフト」ステータスに設定されている場合のみ、モデルは編集可能になります。新しいドライバ、条件またはメンバーを反映するようにPOVを変更して、別のシナリオを作成できます。これらのシナリオを比較することにより、変更点がプロセスや最終結果にどのように影響するのかを評価できます。

また、複数のPOVバージョンを作成できるため、同一のPOVの異なるバージョンを保持することで、モデルの変更点をもたらす影響を監視したり、同一モデルの異なるバージョンを追跡することが可能です。

POVの詳細は、次の項を参照してください:

- [269ページの詳細ProfitabilityのPOVディメンション](#)
- [269ページの詳細ProfitabilityのPOVステータス](#)
- [270ページの詳細Profitabilityのバージョン・ディメンション](#)
- [270ページの詳細ProfitabilityのPOVの管理](#)

## 詳細ProfitabilityのPOVディメンション

視点(POV)のディメンションは、モデルの特定のバージョン、あるいはモデルに対する特定の視点を表すために使用します。各モデルには、少なくとも1つのディメンションをPOVディメンションに指定する必要があります。POVディメンションには、モデルに必要な任意の項目を選択できます。POVディメンションとして使用される代表的な例を次に示します:

- 期間 - モデルのベースを任意の時間単位(四半期、月、年次、年など)にできるため、時系列で戦略や変更を分析したり、在庫や償却を監視できます。
- 年 - 暦上の年を指定してデータを収集します。
- シナリオ - 特定の期間と一連の条件に対する、モデルの新しいバージョンを表示します

## 詳細ProfitabilityのPOVステータス

現在モデルが編集あるいは表示可能であるかどうかを示すために、POVに対してステータスを設定する必要があります。

POVのステータスは次のいずれかの状態に設定します:

- ドラフト - モデルを構築または編集し、動的レポートを生成します。
- 公開済 - モデルを表示し、動的レポートを生成します。モデルは編集できません。
- アーカイブ済 - モデルを表示し、動的レポートを生成します。モデルは編集できません。

## 詳細Profitabilityのバージョン・ディメンション

特定のPOVを使用し、同じPOVの別バージョンを作成できます。これにより、モデルへの変更の影響を監視したり、同じモデルの異なるバージョンを追跡できます。

バージョン・ディメンションは次のタスクで使用します:

- 1つのモデルの複数の繰り返しを、少しずつ異なるバージョンで作成します。
- 仮定に基づいた予測結果や、ベスト・ケース・シナリオかワースト・ケース・シナリオかを決定する仮定シナリオをモデル化
- 簡単に目標を設定する

バージョン・ディメンション内の様々な要素を変更することで、元のモデルを変更せずに変更結果を調べることができます。

## 詳細ProfitabilityのPOVの管理

POVは年、期間、シナリオ、ステータスなどの指定されたスナップショット用の、モデルの特別なバージョンを表示します。

新しいPOVが追加されると、ステータスは自動的に「ドラフト」に設定され、POVが編集できるようになります。

モデルには、1つ以上のPOVディメンションが必要です; ただし、1つのモデルに対して複数のPOV組合せを作成できます。選択したPOVはEPM Workspaceユーザー・プリファレンスとして保存できます。また、POVをコピーして、新しいレポート期間や異なるシナリオ用にモデルを作成することも可能です。[274ページのPOVのコピー](#)を参照してください。

モデルで使用可能なPOVは、アプリケーションに対して定義されたPOVディメンションに応じて決まりますが、すべてのPOVが割当てやデータ入力用にそのまま使用できるわけではありません。POVをモデルに追加するまで、POVにドライバを割り当てたりデータをロードすることはできません。

各POV組合せについて、次のモデル要素を指定する必要があります:

- ドライバの選択
- 割当ておよび計算ルール

POVを操作するには、次の手順を使用してください:

- [271ページのPOVの追加](#)
- [273ページのPOVのステータスの変更](#)
- [274ページのPOVのコピー](#)
- [275ページのPOVおよびすべてのアーティファクトの削除](#)
- [276ページの選択したオブジェクトのPOVからの削除](#)

## POVの追加

年、期間、シナリオおよびステータスなど、選択したモデルのスナップショットに対するモデルの情報や計算を表示するには、POVを追加します。

モデルで使用可能なパラメータの値はPerformance Management Architectアプリケーションに設定されています。



注:

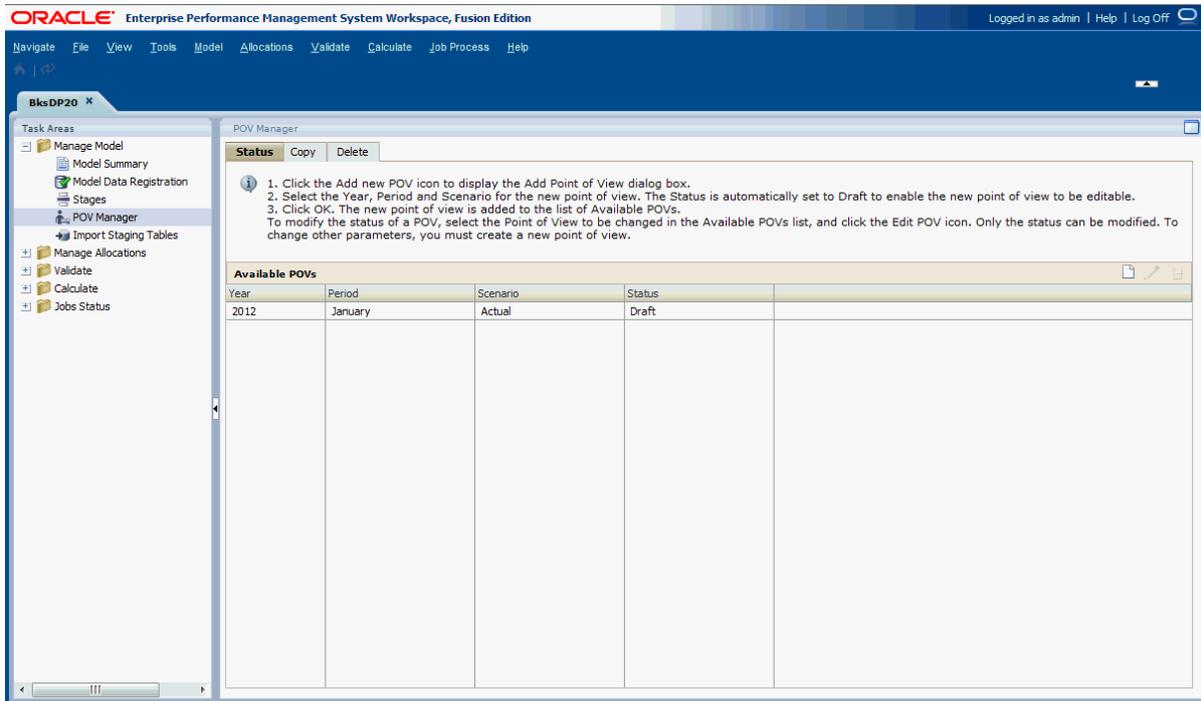
POVは、POV管理に追加されないかぎり、他のタスク・ウィンドウからアクセスできません。

▶ POVを追加するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「**Profitability**」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。

2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「モデルの管理」、「POVマネージャ」の順に選択します。

「POVマネージャ」画面の「ステータス」タブが表示されます。既存のすべてのPOVが表示されます。



3. 「新規POVの追加」



をクリックします。

「視点の追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。

**Add Point of View**

Year: 2011

Period: January

Scenario: Actual

Status: Draft

Buttons: Help, OK, Cancel

4. 新しいPOVを表示するためのモデルのパラメータ(「年」、「期間」、「シナリオ」など)を選択します。

新しいPOVのため「ステータス」は読取り専用で、モデルを構築および編集できるよう、自動的に「ドラフト」に設定されます。

5. 「OK」をクリックします。

POVがリストに追加されます。

## POVのステータスの変更

POVのステータスはモデルが編集または表示可能かどうかを示します。モデルは、POVのステータスが「ドラフト」に設定されている場合のみ、編集可能です。モデルの完成後、POVのステータスを変更してモデルを変更できないようにします。



注:

POVのステータスのみが変更できます。他のパラメータを変更する場合は、新しいPOVを作成する必要があります。

POVのステータスは次のいずれかの値に設定できます:

- ドラフト - モデルを構築または編集し、動的レポートを生成します。
- 公開済 - モデルを表示したり動的レポートを生成します。
- アーカイブ済 - モデルを表示したり動的レポートを生成します。

モデルを編集するためにステータスを「ドラフト」に戻すことは、いつでも可能です。



注:

POVに変更を加えると、ステータスのみが変更されます; ただし、ステータスが「公開済」または「アーカイブ済」に設定されている場合は、モデルは計算不能になっています。

▶ POVステータスを変更するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「モデルの管理」、「POVマネージャ」の順に選択します。

「POVマネージャ」画面の「ステータス」タブが表示されます。既存のすべてのPOVが示されます。

3. 変更するPOVを選択し、「POVの編集」



をクリックします。

4. 「ステータス」の下で新しいステータスを選択します:

- ドラフト
- 発行済
- アーカイブ済

POVのステータスのみが変更できます。他のパラメータを変更する場合は、新しいPOVを作成する必要があります。

5. 「OK」をクリックします。

## POVのコピー

POVをコピーすることで、新しいモデルやシナリオの開始ポイントにしたり、既存のモデルを使用して仮定シナリオを試行できます。

たとえば、前の期間からドライバの選択と割当てをコピーして期間を作成したり、実際のシナリオからデータをコピーして、予測シナリオ用のシード・データを作成できます。

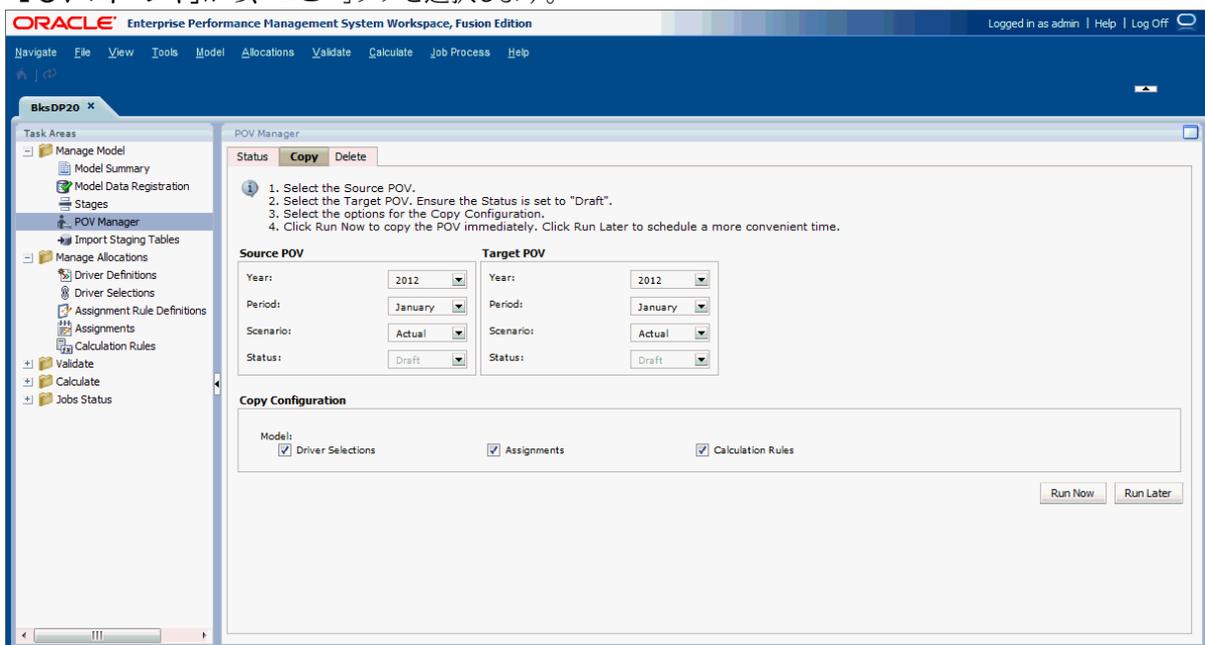
POVをコピーするには、コピーする情報を含んだソースPOVと、データのコピー先となる宛先のターゲットPOVが必要です。「POVの管理」画面の「ステータス」タブに表示されている、ステータスが「ドラフト」のPOVにのみ、情報をコピーできます。

▶ POVをコピーするには:

1. **オプション:** 必要な場合は、POV管理画面の「ステータス」タブでPOVを作成して、このターゲットPOVをコピー操作で使用します。詳細は、[271 ページのPOVの追加](#)を参照してください。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「モデルの管理」、「POVマネージャ」の順に選択します。

POVマネージャ・ウィンドウの「ステータス」タブが表示されます。既存のすべてのPOVが示されます。

3. 「POVマネージャ」から、「コピー」タブを選択します。



4. 「ソースPOV」の下で、コピーするPOVを選択します。



注:

ソースのステータスは、POVに割り当てられたステータスに自動的に設定され、この画面では変更できません。

5. 「ターゲットPOV」の下で、コピーするPOVの宛先になるPOVを選択します。



---

**注意**

ターゲットPOVは、ステータスが「ドラフト」の有効なPOVとして、「POVマネージャ」画面の「ステータス」タブに存在している必要があります。そうでない場合、コピー操作は開始されません。

---

6. 「構成のコピー」の下で、コピーするPOVの要素を選択します:

「モデル」で、「ドライバの選択」、「割当て」、「計算ルール」、またはすべてを選択します。これらのオプションは、新しいPOVで必要となる情報を選択するために用意されています。

7. 次のいずれかのタスクを実行します:

- ・ 「後で実行」をクリックし、POVをコピーする日時をスケジュールします。[198ページのタスクフローのスケジュール](#)を参照してください。



---

**注:**

タスクの作成時にこのオプションが選択されていない場合、そのタスクはスケジュールできません。

---

- ・ 「今すぐ実行」をクリックして、POVをすぐにコピーします。

確認メッセージに、ジョブが開始されたことと割り当てられたタスクフローIDが示されます。ステータスを監視するには、「ジョブ・ステータス」、「検索タスク」の順に選択します。[343ページのジョブ・ライブラリ](#)を参照してください。

---



---

**注意**

この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能性があります。

---

8. コピーが完了したら、ターゲットPOVの下のコピーされた情報を確認します。

## POVおよびすべてのアーティファクトの削除

「POVマネージャ」画面の「ステータス」タブからは、POV全体を削除できます。POVを削除すると、関連する割当てとドライバ選択を含む、POV内のすべてのオブジェクトが削除されます。

POV全体は削除せず、選択したオブジェクトのみをPOVから削除する場合は、[276ページの選択したオブジェクトのPOVからの削除](#)を参照してください。



---

**注意**

POVを削除する前にEPM Workspaceにデータベースのバックアップ・ディレクトリを作成することをお勧めします。支援が必要な場合は、管理者にお問い合わせください。

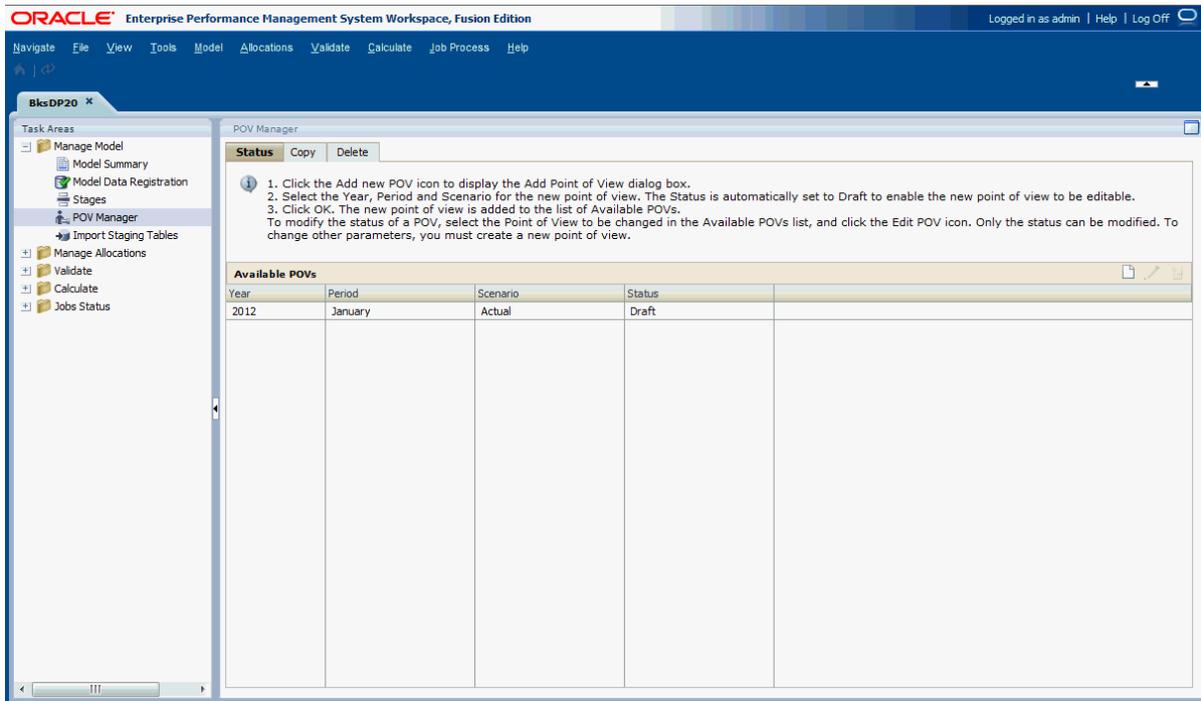
---

▶ POVおよび関連する割当てやドライバの選択を削除するには:

1. 他のユーザーがそのPOVと内容を必要としていないことを確認します。
2. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
3. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「モデルの管理」、「POVマネージャ」の順に選択します。

「POVマネージャ」画面が表示されます。

4. 「ステータス」タブを選択します。



5. 「使用可能なPOV」で、削除するPOVを選択します。
6. 「POVの削除」



をクリックします。

確認メッセージが表示されます。



#### 注意

POVを削除すると、POV内のすべてのオブジェクトが削除されます。

7. 「はい」をクリックして削除を確認します。

POVはリストから削除され、以後は選択できなくなります。

## 選択したオブジェクトのPOVからの削除

「POVマネージャ」画面の「削除」タブを使用すると、POV全体は削除せずに、選択したオブジェクトをPOVから削除できます。

関連付けられた割当てやドライバの選択も含むPOV全体を削除する場合は、[275ページのPOVおよびすべてのアーティファクトの削除](#)を参照してください。



#### 注意

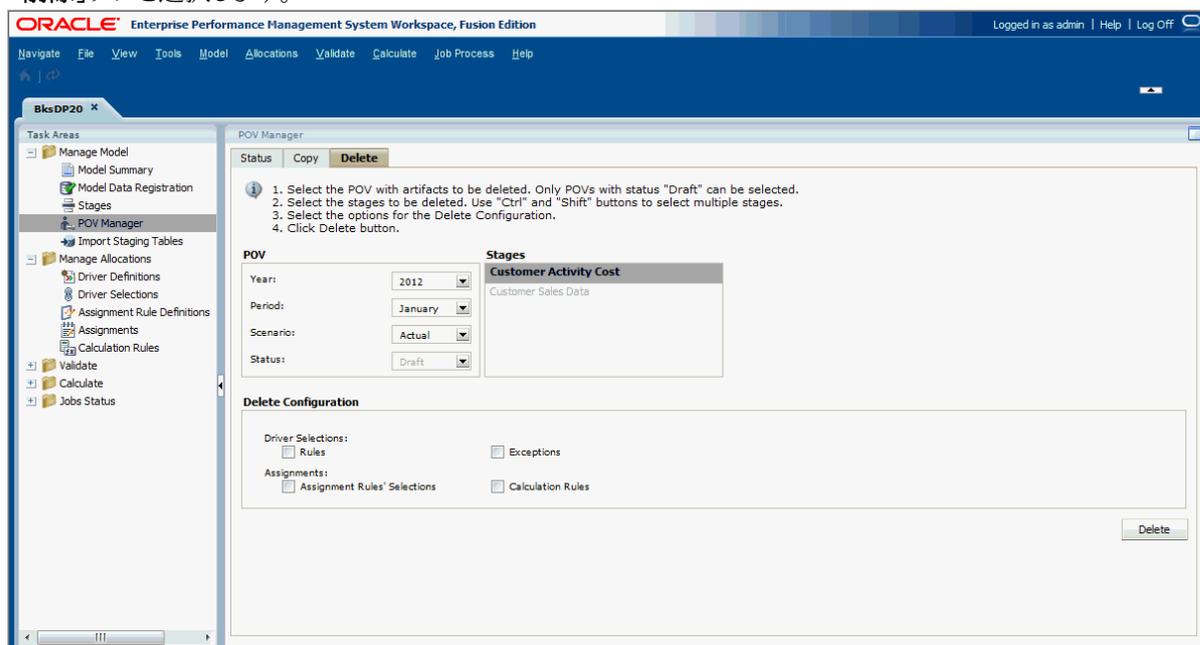
POVを削除する前にEPM Workspaceにデータベースのバックアップ・ディレクトリを作成することをお勧めします。支援が必要な場合は、管理者にお問い合わせください。

▶ 選択したオブジェクトをPOVから削除するには:

1. 他のユーザーがそのPOVと内容を必要としていないことを確認します。
2. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
3. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「モデルの管理」、「POVマネージャ」の順に選択します。

「POVマネージャ」画面が表示されます。

4. 「削除」タブを選択します。



5. 「POV」で、削除するアーティファクトを含むPOVを選択します。
6. 「ステージ」で、削除するアーティファクトを含むステージを選択します。
7. 「構成の削除」の下で、削除する構成の要素を選択します:
  - ドライバの選択(「ルール」または「例外」、あるいはその両方)
  - 割当て(割当てルールの選択または「計算ルール」、あるいはその両方)。
8. 「削除」をクリックします。

確認メッセージが表示されます。

9. 削除を確認するには、「OK」をクリックします。

選択したレコードが削除されます。選択の内容や削除されたレコード数など、操作の記録を確認するにはhpcm.logを参照してください。

## 詳細Profitabilityのステージング表のインポート

データとモデル情報はProfitability and Cost Managementに直接入力できます; ただし、データの入力には多大な時間が必要になります。アプリケーションへ容易にデータを入力するには、一連のインポート・ステージング表とインポート構成を使用して、モデル定義(POV、ドライバ、ドライバ選択、割当てルールを選択、計算ルールなど)をProfitability and Cost Managementへ直接インポートできます。



注:

ディメンション、費用およびドライバ・データはステージング表からインポートできません。

モデル・データは複数のソースからインポートされます:

- モデル構造とメタデータ(メジャーとディメンション)は、Performance Management ArchitectからEPM Workspaceを経由してインポートされます。
- モデル定義データはステージング表からインポートされます。
- モデル・データおよびアプリケーションは、ライフサイクル管理を使用してインポートできます。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemライフサイクル管理ガイド』を参照してください。
- モデル・データはOracle Enterprise Performance Management Systemを使用してインポートされます



注意

データまたはアーティファクトをインポートする前にEPM Workspaceにデータベースのバックアップ・ディレクトリを作成することをお勧めします。支援が必要な場合は、管理者にお問い合わせください。

ステージング表をインポートするには、インポートする表を指定するインポート構成を作成する必要があります。構成は保存でき、同一のデータ・セットを何回もインポートするために利用できます。モデル全体をインポートする場合は、表依存関係が存在していて適用されます; ただし、モデルのセクションのみをインポートする場合は、これらの依存関係は適用されません

ステージング表とインポート構成の作成手順の詳細は、『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイド』を参照してください。

# 15

## 詳細Profitability配賦の管理

### この項の内容:

詳細Profitability配賦について .....	279
詳細Profitabilityのドライバと式の定義 .....	279
詳細Profitabilityドライバの操作 .....	293
バルク・エディタの操作 .....	299
詳細Profitability割当てルール of 操作 .....	308
詳細Profitabilityでの割当て of 操作 .....	312

### 詳細Profitability配賦について

詳細Profitability and Cost Managementでは、配賦により、モデル全体の値が特定の勘定科目または要素へどのように配分されるかを制御できます。各配賦の資金の計算方法を決定するため、ドライバが使用されます。モデル内の資金フローにあわせて、計算結果がソースから宛先に割り当てられます。

配賦の管理の詳細は、次の項を参照してください:

- 279ページの詳細Profitabilityのドライバと式の定義
- 281ページの詳細Profitabilityドライバの定義
- 293ページの詳細Profitabilityドライバの操作
- 299ページのバルク・エディタの操作
- 308ページの詳細Profitability割当てルール of 操作
- 312ページの詳細Profitabilityでの割当て of 操作
- 233ページの計算ルールの操作

## 詳細Profitabilityのドライバと式の定義

ドライバは、詳細Profitability and Cost Managementモデルにおけるオブジェクト間で配賦を制御する際に使用されます。ドライバは、割当て、ソース・データおよびドライバ・データとともに機能して、システム計算を制御する完全な命令とデータを構築します。

割当てがソースから宛先へのデータの方向を決定するのに対して、これらの割当てに関連するドライバは配賦の値を計算するために使用されます。ドライバは、ソース値を宛先に配賦する式を提供します。ドライバ・メジャーおよびドライバ式では、変数を使用してモデル要素を表したり、算術オペランドを使用してドライバ値を計算できるため、モデルの柔軟性が向上します。ドライバは、ステージに直接は関連付けられません。



注:

配賦に使用されるドライバが変更または削除された場合には、モデルを再計算する必要があります。

モデルに必要な各ドライバについて、次のタスクを実行します:

- どちらのタイプのドライバがアプリケーションに必要なかを決定します。「ドライバ操作タイプ」は、ドライバのタイプをレートベース、比率ベースまたは計算済メジャーとして定義します。[281ページの詳細Profitabilityドライバの定義](#)を参照してください。
- SQL構文に基づいてドライバ式を生成します。[280ページのドライバ式](#)を参照してください。
- 特定の順序でドライバを実行する場合には、[281ページのドライバ優先度シーケンス](#)を参照してください。
- 新しいドライバと、関連する式を定義します。[281ページの詳細Profitabilityドライバの定義](#)を参照してください。
- 選択したメジャーにドライバを関連付けます。[293ページの詳細Profitabilityドライバの操作](#)を参照してください。

## ドライバ式

ドライバ式には、宛先に転記される結果の計算に使用される変数、関数および数値のあらゆる組合せを含めることができます。式は、SQL構文に従って数学的にも構文的にも正しくなければなりません。また、使用されるメジャーはその基準に基づいて検証されるとおり、モデル・データ登録に適切に登録されている必要があります。

各ドライバ・タイプには、キーボードと「挿入」ボタンを使用して「ドライバ定義」ダイアログ・ボックスで作成されるドライバ式が含まれます。ドライバ値を計算するために作成される式には、単純なものから、条件文を含む複雑なものまであります。

「ドライバの定義」ダイアログ・ボックスで、キーボードと「挿入」ボタンを使用して、値を計算するためのSQL式を構築します。

「挿入」ボタンを使用して、ソース・メジャーまたは宛先メジャーをドライバ式に追加することができます。ドライバ式は、`=destination.headcount`という単純な形でも、ソース・メジャーと宛先メジャー、数学関数、SQLでサポートされている関数などを組み合わせた複雑な形でも指定できます。

要素間に関数(オペランド)を使用して、式の計算を制御します。標準オペランドには、次のようなものがあります:

- 加算(+)
- 減算(-)
- 乗算(\*)
- 除算(/)

たとえば、「計算済メジャー」演算タイプの計算式は、次のように書かれます。

```
(Destination."MATERIALS_EXPENSE"+Destination."SALES_EXPENSE"+Destination."SERVICE_EXPENSE"  
+Destination."GENERAL_ADMIN_EXPENSE"+Destination."SHIPPING_EXPENSE")
```

具体的なコマンドと手順については、MS SQLのドキュメントを参照してください。

## ドライバ優先度シーケンス

ビジネス・モデルによっては、ドライバが1つ以上の計算済メジャーを式で使用することがあります。依存関係によって、制御されたシーケンスによる配賦の計算が必要な場合があります。優先度シーケンス・ドライバを使用することで、どの配賦を最初に計算するかを定義できます。

たとえば、ドライバ優先度を設定することで、ドライバBを使用するソースAの前にドライバAを使用するソースAが計算されるようにできます。

ドライバを定義するときは、「ドライバの定義」ダイアログ・ボックスに「シーケンス優先度」を入力します。優先度の数値が小さいドライバに関連付けられているソースは、優先度の数値が大きいドライバに関連付けられているソースより先に解決されます。デフォルト値は100に設定されていますが、この値は変更できます。最も高い優先度は1です。シーケンス優先度は正の整数として入力する必要があります。同じ優先度のドライバに関連付けられているソースは、特定の順序では処理されません。

ドライバのシーケンス優先度を変更した場合は、計算順序が変更される可能性があるため、モデルを再計算する必要があります。

## 詳細Profitabilityドライバの定義

ドライバの操作方法の詳細は、次の手順を参照してください:

- [281ページの比率ベースのドライバの操作](#)
- [285ページのレートベースのドライバの操作](#)
- [290ページの計算済メジャー・ドライバの操作](#)

## 比率ベースのドライバの操作

比率ベースのドライバでは、次の式を使用してソースから宛先ステージへの配賦を実行できます：

ドライバ値の合計に対するドライバ値の比率

ソース/宛先の組合せごとにドライバ式の結果を計算し、ソース値を比率として宛先に配賦します。

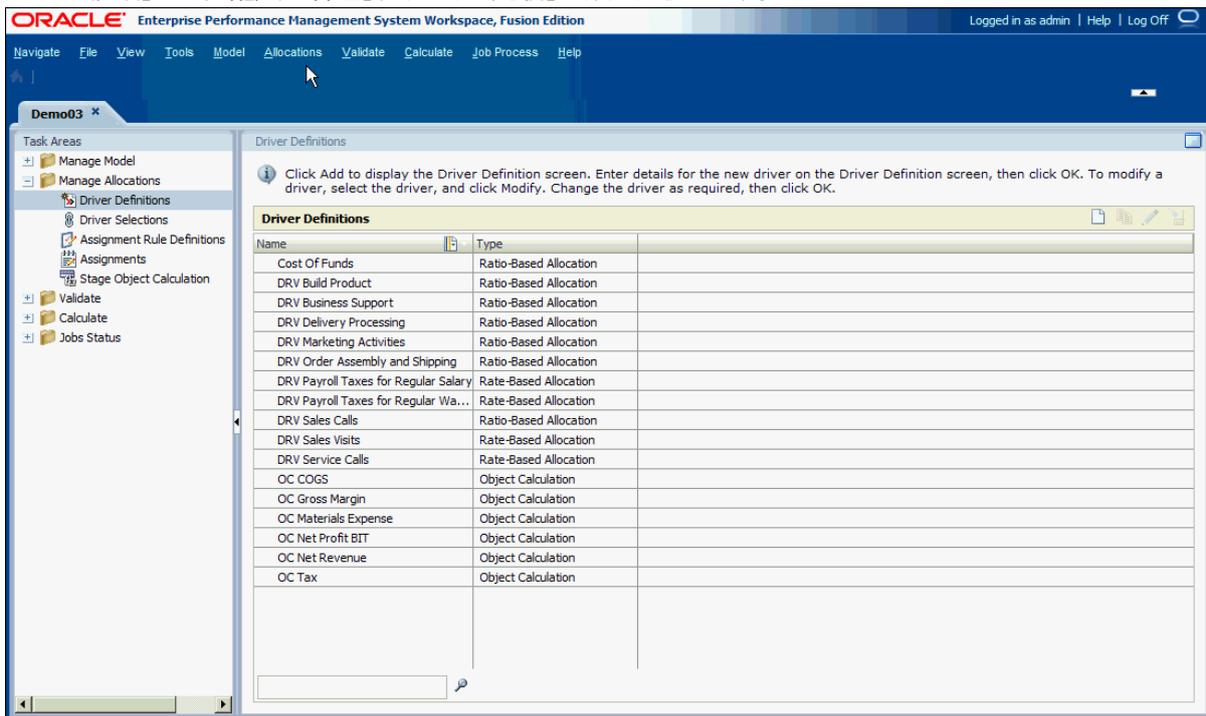
次の手順を参照してください：

- [282ページの比率ベースのドライバの定義](#)
- [284ページの比率ベースのドライバの変更](#)
- [285ページの比率ベースのドライバの削除](#)

## 比率ベースのドライバの定義

▶ 比率ベースのドライバを定義するには：

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「**Profitability**」の順に選択し、ドライバを作成するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。



3. 「ドライバ定義」で、「新規ドライバの追加」



をクリックします。

4. 「演算タイプ」で、「比率ベースの配賦」を選択します。
5. 「名前」で、新しいドライバに一意の名前を入力します。



#### 注意

/, +, @などの特殊文字や制限された文字をドライバ名に使用しないでください。インポート操作が失敗する原因になることがあります。最新の制限については、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。

6. オプション: 「説明」で、ドライバの目的に関する簡単な説明を入力します。
7. 「シーケンス優先度」で、計算の優先度を正の整数で入力します。デフォルトでは、100が表示されます。最も高い優先度は1です。詳細は、[281ページのドライバ優先度シーケンス](#)を参照してください。
8. 「宛先メジャーへの割当て」で、「参照」ボタン



をクリックし、ドライバが配賦値を書き込む宛先メジャーを選択して「OK」をクリックします。

9. 「ドライバ値の定義」で、ドライバが実行されるとき「ドライバ値」の値を決定するドライバ式を入力します。

キーボードと「挿入」ボタンを使用して式を作成できます。式には、ソースと宛先の組合せが必要です。ドライバ式は、=destination.headcountという単純な形でも、ソース・メジャーと宛先メジャー、数学関数、SQLでサポートされている関数などを組み合わせた複雑な形でも指定できます。

「挿入」セレクトを使用するには:

- a. 「挿入」をクリックし、ドライバに使用可能なメジャーの「挿入」セレクトを表示します。

- b. ドロップダウン・リストからモデル内のステージを選択します。このステージにメジャーが「ソース」または「宛先」を適用します。

使用可能なメジャーのリストに選択が反映されます。たとえば、「ソース」を選択した場合は、ソース・メジャーのみが表示されます。

- c. デイメンション・メンバー・リストから、式のメジャーを選択します。

コンテキスト・メニュー



を使用して、メンバーの表示をフィルタまたは変更します。



注:

「フィルタ」と「ソート」は、「グリッド・ビュー」を選択したときにのみ使用できます。

- d. 「OK」をクリックします。

10. 式を入力した後、「検証」をクリックします。

SQLドライバ式が検証され、成功メッセージが表示されます。続行する前にエラーを処理します。

11. オプション: このドライバでアイドル値を許可する場合には、「オプション」で、「アイドルを許可」を選択します。

このオプションを選択した場合に、ソースで上書きが検出されると、その値が比率の分母として使用されます。

12. オプション: 「アイドルを許可」を選択した場合は、「ドライバ値メジャーの合計の上書き」で「参照」



をクリックし、ソースで上書きが検出された場合に比率の分母として使用するメジャーを選択します。

13. 「OK」をクリックして、新しいドライバを保存します。

14. ドライバを1つまたは複数のデイメンション・メンバーに関連付けます。293ページの[詳細Profitabilityドライバの操作](#)を参照してください。

## 比率ベースのドライバの変更

▶ 比率ベースのドライバを変更するには:

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ドライバを変更するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。
3. 「ドライバの編集」



をクリックします。

4. 「ドライバの定義」で、選択したドライバについて次のパラメータのいずれかを変更します:

- 名前
- 説明
- 操作タイプ
- シーケンス優先度
- 宛先メジャーへの割当て



---

#### 注意

/, +, @などの特殊文字や制限された文字をドライバ名に使用しないでください。インポート操作が失敗する原因になることがあります。最新の制限については、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。

---

5. オプション: 「ドライバ値の定義」でドライバ式を変更し、「検証」をクリックします。

SQLドライバ式が検証され、成功メッセージが表示されます。続行する前にエラーを処理します。

6. オプション: 「オプション」で、「アイドルを許可」の選択と、「ドライバ値メジャーの合計の上書き」を変更します。
7. 「OK」をクリックして、変更したドライバを保存します。

変更したドライバを計算結果に適用する場合は、モデルを再計算する必要があります。

## 比率ベースのドライバの削除



---

#### 注意

ドライバを削除すると、削除されたドライバを使用したすべてのドライバの選択と複数ソース割当て計算ルールも削除されます。

---

- ▶ 比率ベースのドライバを削除するには:

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、削除するドライバを含むアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。
3. 削除するドライバを選択します。
4. 「ドライバの削除」



をクリックします。

5. 確認メッセージで「はい」をクリックすると、ドライバが削除されます。

## レートベースのドライバの操作

レートベースのドライバ・タイプは、次の式を使用してソースから宛先への単位レートとボリューム・ドライバの両方を計算し、その結果をドライバ定義で指定したメジャーの宛先に配賦します：

Driver Unit Rate (Currency) \* Volume Parameter

この結果を貸借一致に使用し、未割当ての値が決定されます。配賦された値の合計がソースの入力値より大きい場合には、オーバードライブ量のメジャーでその差異が取得されます。

次の手順を参照してください：

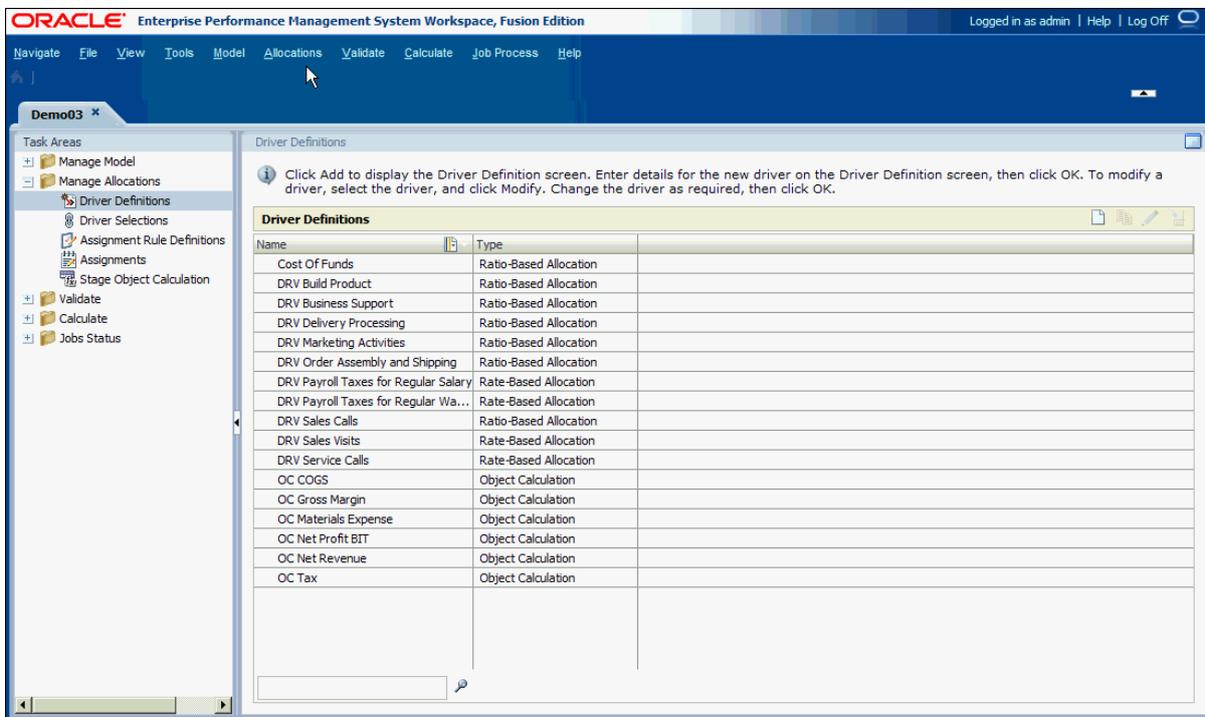
- [286ページのレートベースのドライバの定義](#)
- [289ページのレートベースのドライバの変更](#)
- [289ページのレートベースのドライバの削除](#)

## レートベースのドライバの定義

▶ レートベースのドライバを定義するには：

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「**Profitability**」の順に選択し、ドライバを作成するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。

「ドライバ定義」ウィンドウが表示されます。



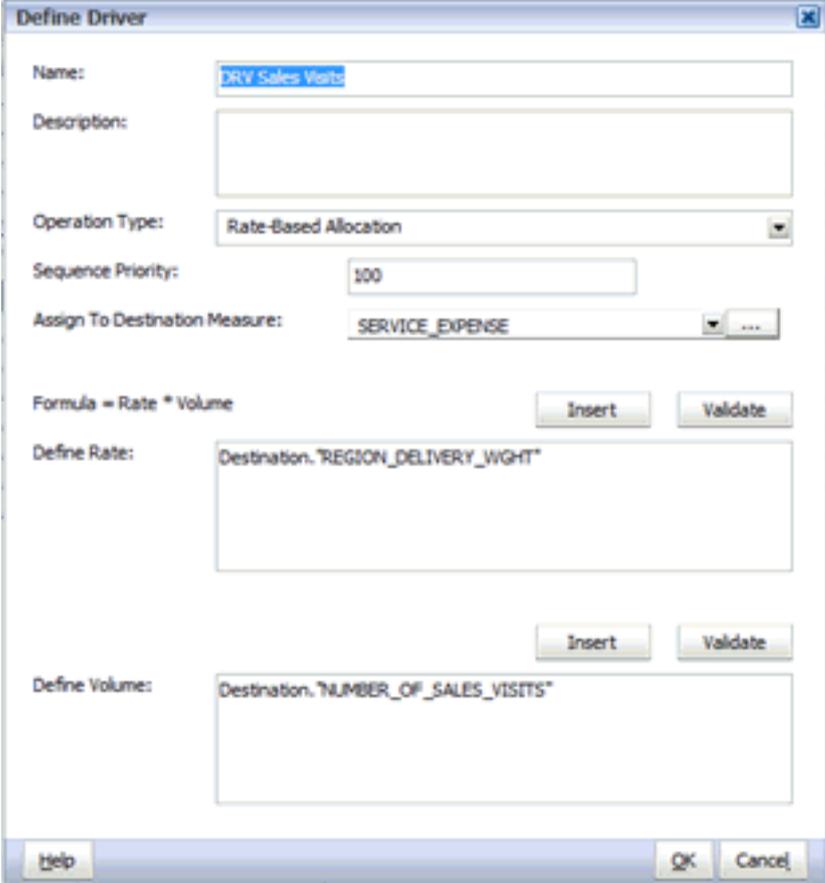
Name	Type
Cost Of Funds	Ratio-Based Allocation
DRV Build Product	Ratio-Based Allocation
DRV Business Support	Ratio-Based Allocation
DRV Delivery Processing	Ratio-Based Allocation
DRV Marketing Activities	Ratio-Based Allocation
DRV Order Assembly and Shipping	Ratio-Based Allocation
DRV Payroll Taxes for Regular Salary	Rate-Based Allocation
DRV Payroll Taxes for Regular Wa...	Rate-Based Allocation
DRV Sales Calls	Ratio-Based Allocation
DRV Sales Visits	Rate-Based Allocation
DRV Service Calls	Rate-Based Allocation
OC COGS	Object Calculation
OC Gross Margin	Object Calculation
OC Materials Expense	Object Calculation
OC Net Profit BIT	Object Calculation
OC Net Revenue	Object Calculation
OC Tax	Object Calculation

3. 「ドライバ定義」で、「新規ドライバの追加」



をクリックします。

「ドライバの定義」ダイアログ・ボックスが表示されます。



4. 「演算タイプ」で、「レート・ベースの配賦」を選択します。
5. 「名前」で、新しいドライバに一意の名前を入力します。



#### 注意

/, +, @などの特殊文字や制限された文字をドライバ名に使用しないでください。インポート操作が失敗する原因になることがあります。最新の制限については、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。

6. オプション: 「説明」で、ドライバの目的に関する簡単な説明を入力します。
7. 「シーケンス優先度」で、計算の優先度を正の整数で入力します。デフォルトでは、100が表示されます。最も高い優先度は1です。詳細は、281ページの「ドライバ優先度シーケンス」を参照してください。
8. 宛先メンバーへの割当てで、「参照」ボタン



をクリックし、ドライバが配賦値を書き込む宛先メジャーを選択して「OK」をクリックします。



#### 注:

参照メジャーが「宛先メジャーへの割当て」で選択されると、対応する検証エラーが「モデル検証」の「ドライバ」タブに表示されます。

9. 「レート定義」で、式(レート\*ボリューム)に適用するレートを入力します。

実際のレートを入力することも、キーボードと「挿入」ボタンを使用して式を作成することもできます。

「挿入」セレクトを使用するには:

- a. 「挿入」をクリックし、ドライバに使用可能なメジャーの「挿入」セレクトを表示します。
- b. ドロップダウン・リストからモデル内のステージを選択します。このステージにメジャーが「ソース」または「宛先」を適用します。

「使用可能なメジャー」のリストは、その場所のリストで選択した内容によって異なります。たとえば、「ソース」を選択した場合は、ソース・メジャーのみが表示されます。

- c. デimension・メンバー・リストから、式のメジャーを選択します。

コンテキスト・メニュー



を使用して、メンバーの表示をフィルタまたは変更します。



---

注:

「フィルタ」と「ソート」は、「グリッド・ビュー」を選択したときにのみ使用できます。

---

- d. 「OK」をクリックします。

10. 式を入力して「検証」をクリックします。

SQLドライバ式が検証され、成功メッセージが表示されます。続行する前にエラーを処理します。

11. 「ボリューム定義」で、式(レート\*ボリューム)で使用するボリュームを入力します。

具体的なボリュームを入力することも、キーボードと「挿入」ボタンを使用して式を作成することもできます。

「挿入」セレクトを使用するには:

- a. 「挿入」をクリックし、ドライバに使用可能なメジャーの「挿入」セレクトを表示します。
- b. リストからモデル内のステージを選択します。このステージにメジャーが「ソース」または「宛先」を適用します。

「使用可能なメジャー」のリストは、その場所のドロップダウン・リストで選択した内容によって異なります。たとえば、「ソース」を選択した場合は、ソース・メジャーのみが表示されます。

- c. デimension・メンバー・リストから、式のメジャーを選択します。

コンテキスト・メニュー



を使用して、メンバーの表示をフィルタまたは変更します。



---

注:

「フィルタ」と「ソート」は、「グリッド・ビュー」を選択したときにのみ使用できます。

---

- d. 「OK」をクリックします。

12. 式を入力して「**検証**」をクリックします。

SQLドライバ式が検証され、成功メッセージが表示されます。続行する前にエラーを処理します。

13. 「**OK**」をクリックして、新しいドライバを保存します。
14. ドライバを1つまたは複数のディメンション・メンバーに関連付けます。[293ページの詳細Profitabilityドライバの操作](#)を参照してください。

## レートベースのドライバの変更

▶ レートベースのドライバを変更するには:

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「**Profitability**」の順に選択し、ドライバを変更するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。
3. 「ドライバの編集」



をクリックします。

4. 選択したドライバについて、次のパラメータのいずれかを変更します:

- 名前
- 説明
- 操作タイプ
- シーケンス優先度
- 宛先メンバーへの割当て



### 注意

/、+、@などの特殊文字や制限された文字をドライバ名に使用しないでください。インポート操作が失敗する原因になることがあります。最新の制限については、『*Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド*』を参照してください。

5. オプション: 「レートの定義」で式のレートを変更し、「**検証**」をクリックします。

SQLドライバ式が検証され、成功メッセージが表示されます。続行する前にエラーを処理します。

6. オプション: 「ボリュームの定義」で式のボリュームを変更し、「**検証**」をクリックします。

SQLドライバ式が検証され、成功メッセージが表示されます。エラーは、続行する前に対処する必要があります。

7. 「**OK**」をクリックして、変更したドライバを保存します。

変更したドライバを計算結果に適用する場合は、モデルを再計算する必要があります。

## レートベースのドライバの削除



### 注意

ドライバを削除すると、削除されたドライバを使用したすべてのドライバの選択も削除されます。

▶ レートベースのドライバを削除するには:

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「**Profitability**」の順に選択し、削除するドライバを含むアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。
3. 「ドライバ定義」で、削除するドライバを選択します。
4. 「削除」



をクリックします。

5. 確認メッセージで「はい」をクリックすると、ドライバが削除されます。

## 計算済メジャー・ドライバの操作

計算済メジャー・ドライバは、ソース/宛先のコンテキストがなくても値の計算に適用できるカスタムの数学的計算です。計算結果は、ドライバ値として使用できます。

計算済メジャー・ドライバでは宛先ステージのみが処理されるため、宛先を指定する必要があります。ドライバ定義に基づいて、カスタム・ドライバの式で指定した値は、ドライバ定義で指定したメジャーの宛先に送信されます。

たとえば、カスタム式を作成して次の例のようなタスクを計算できます：

- ・ 請求金額、平均支払い日、利率など、宛先オブジェクトにすべてのパラメータが存在する場合に、貨幣の時間的価値を計算します。
- ・ 宛先にユニット費用とボリュームが存在する場合に、請求行の拡張費用を計算します。
- ・ 宛先にユニット費用とボリュームが存在する場合に、商品の標準コストを計算します。

次の手順を参照してください：

- ・ [291ページの計算済メジャー・ドライバの定義](#)
- ・ [292ページの計算済メジャー・ドライバの変更](#)
- ・ [292ページの計算済メジャー・ドライバの削除](#)

## 計算済メジャー・ドライバの定義

▶ 計算済メジャー・ドライバを定義するには：

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「**Profitability**」の順に選択し、ドライバを作成するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。
3. 「ドライバ定義」で、「新規ドライバの追加」ボタンをクリックします。
4. 「名前」で、新しいドライバに一意の名前を入力します。



### 注意

/, +, @などの特殊文字や制限された文字をドライバ名に使用しないでください。インポート操作が失敗する原因になることがあります。最新の制限については、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。

5. オプション: 「説明」で、ドライバの目的に関する簡単な説明を入力します。
6. 「宛先メジャーへの書込み結果」で、「参照」ボタンをクリックし、ドライバにより配賦値が書き込まれる宛先メジャーを選択して「OK」をクリックします。
7. 「ドライバの定義」の「演算タイプ」で、「計算済メジャー」を選択します。
8. 「シーケンス優先度」で、計算の優先度を正の整数で入力します。デフォルトでは、100が表示されます。最も高い優先度は1です。
9. 「計算式」で、カスタム・ドライバ式を入力します。

キーボードと「挿入」ボタンを使用して式を作成できます。

「挿入」セレクタを使用するには：

- a. 「挿入」をクリックし、ドライバに使用可能なメジャーの「挿入」セレクトアを表示します。
  - b. リストから、「宛先」を選択して、使用可能な宛先メジャーを表示します。
  - c. デimension・リストから、式のメジャーを選択します。
  - d. 「OK」をクリックします。
10. 式を入力した後、「検証」をクリックします。

SQLドライバ式が検証され、成功メッセージが表示されます。続行する前にエラーを処理します。

11. 「OK」をクリックして、新しいドライバを保存します。

## 計算済メジャー・ドライバの変更

▶ 計算済メジャー・ドライバを変更するには:

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ドライバを変更するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。
3. 「ドライバ定義」で、「ドライバの編集」ボタンをクリックします。

選択したドライバの「ドライバの定義」ダイアログ・ボックスが表示されます。

4. 「ドライバの定義」で、選択したドライバについて次のパラメータのいずれかを変更します:

- ・ 名前
- ・ 説明
- ・ 操作タイプ
- ・ シーケンス優先度
- ・ 宛先メジャーへの書き込み結果



### 注意

/、+、@などの特殊文字や制限された文字をドライバ名に使用しないでください。インポート操作が失敗する原因になることがあります。最新の制限については、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。

5. オプション: 「計算式」でカスタム式を変更し、「検証」をクリックします。

SQLドライバ式が検証され、成功メッセージが表示されます。続行する前にエラーを処理します。

6. 「OK」をクリックして、変更したドライバを保存します。

変更したドライバを計算結果に適用する場合は、モデルを再計算する必要があります。

## 計算済メジャー・ドライバの削除



### 注意

ドライバを削除すると、削除されたドライバを使用しているステージ計算済メジャーもすべて削除されます。

▶ 計算済メジャー・ドライバを削除するには:

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「**Profitability**」の順に選択し、削除するドライバを含むアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。
3. 「ドライバ定義」で、削除するドライバを選択します。
4. 「削除」ボタンをクリックします。
5. 「はい」をクリックして、ドライバの削除を確認します。

## 詳細Profitabilityドライバの操作

ドライバは、作成後、適用するディメンション・メンバーに割り当てする必要があります。ソース・ステージには、最大5つのディメンションが使用できます。

値を配賦するには、値が含まれる交差にドライバを関連付けるられている必要があります。割当てまたは割当てルールを含む交差に対してドライバが割り当てられていないと、モデルの検証時に「欠落しているドライバ割当て」というエラーが作成されます。

- [295ページの詳細Profitabilityドライバの選択](#)
- [297ページの単一の交差に対する詳細Profitabilityドライバの選択の作成](#)
- [298ページの詳細Profitabilityドライバの選択の削除](#)
- [299ページの単一の交差に対する詳細Profitabilityドライバの選択の削除](#)
- [300ページの単一ドライバを複数のソース・ステージ・ルールに追加](#)
- [305ページの複数ソース・ステージ・ルールのドライバの削除](#)

## 複製ドライバの作成

「ドライバの複製の作成」オプションを使用すると、既存のドライバ定義をコピーし、ドライバに新しい名前を割り当てることができます。ドライバのタイプで記載したように、コピーは必要に応じて変更できます。

このオプションを使用することにより、「ドライバ定義」ダイアログ・ボックスを再度開かなくても多くの類似ドライバを迅速に作成できるようになりました。

▶ 既存のドライバ定義から新しいドライバを作成するには:

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ドライバを作成するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。
3. 新しいドライバ定義のテンプレートとして使用するドライバを選択します。

任意のドライバのタイプを選択できます。

4. 「ドライバの複製の作成」



をクリックします。

5. 新しいドライバの名前を入力し、「OK」をクリックします。

新しいドライバが「ドライバ定義」のリストに追加され、ドライバのタイプと情報は元のドライバと同じになります。



## 注意

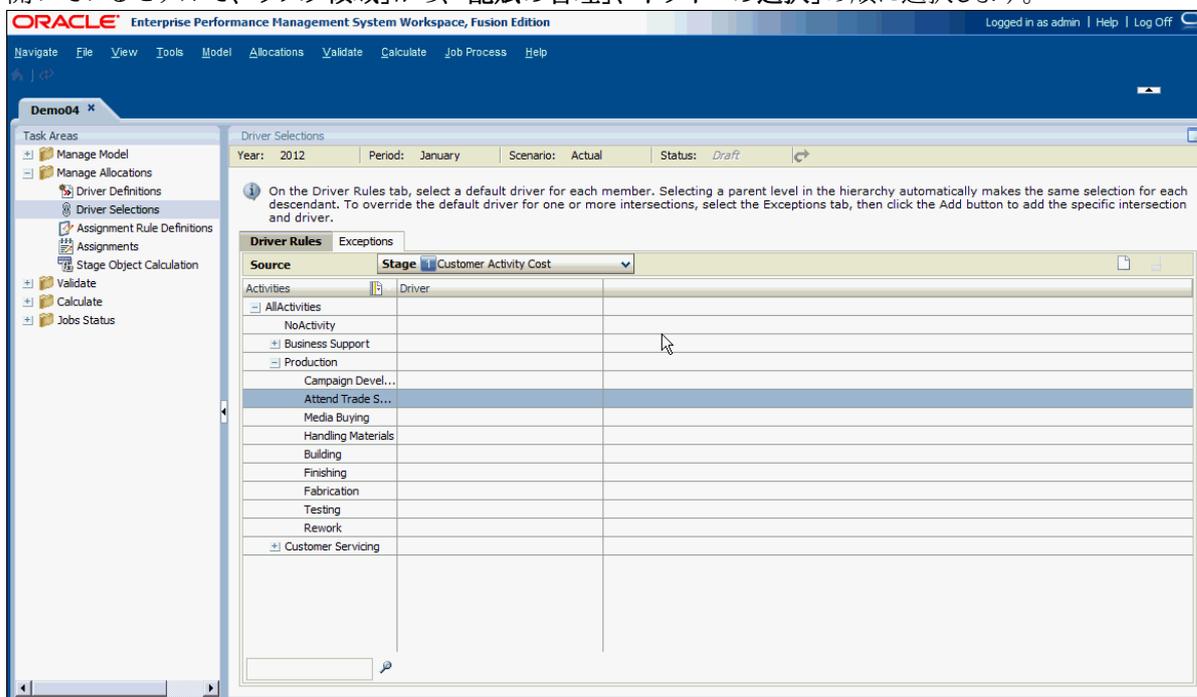
/, +, @などの特殊文字や制限された文字をドライバ名に使用しないでください。インポート操作が失敗する原因になることがあります。最新の制限については、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。

6. 必要に応じて、ドライバを変更します。

## 詳細Profitabilityドライバの選択

▶ ドライバを割り当てるには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバの選択」の順に選択します。



3. POVを選択して、「POVステータスのロード」



をクリックします。

4. 「ドライバ・ルール」タブの「ソース」で、選択したソース・ステージを表示します。

選択したステージのドライバ・ディメンションが最初の列に表示され、ドライバ・ディメンション内のすべてのディメンション・メンバーがその下にリストされます。

5. ディメンションの下で、デフォルト・ドライバを適用するディメンション・メンバーを選択します。親レベルは、ステージまたは階層の一部の親になります。
6. 「ドライバ」で、セルをダブルクリックしてセレクト



を表示するか、「追加」



をクリックして、共通メンバー・セレクトからディメンション・メンバーのドライバを選択し、「OK」をクリックします。32ページの共通メンバー・セレクトの使用を参照してください。

ドライバが親に適用されると、同じドライバが自動的にすべての子孫に継承されます。

7. オプション: 継承されたドライバ以外のドライバをメンバーに対して選択するには、次の手順を行います:
  - a. 親ディメンション・メンバーを展開します。
  - b. 異なるドライバを必要とするメンバーを選択します。
  - c. 「ドライバ」で、セルをダブルクリックしてセレクト



を表示するか、「追加」をクリックして、共通メンバー・セレクトから選択したディメンション・メンバーの代替ドライバを選択し、「OK」をクリックします。32ページの共通メンバー・セレクトの使用を参照してください。

ドライバの選択が自動的に保存されます。

8. オプション: 単一の交差にドライバを設定するには、297ページの単一の交差に対する詳細Profitabilityドライバの選択の作成を参照してください。

## 単一の交差に対する詳細Profitabilityドライバの選択の作成

▶ 単一交差のドライバを選択するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバの選択」の順に選択します。
3. POVを選択し、「実行」



をクリックします。

4. 「例外」タブを選択します。

「ソース」の下に、ソース・ステージが表示されます。

The screenshot shows the Oracle Enterprise Performance Management System Workspace, Fusion Edition. The main window is titled 'Demo04' and displays the 'Driver Selections' task area. The 'Exceptions' tab is active, showing a table of driver rules. The table has columns for Departments, Activities, Accounts, Customers, Products, and Drivers. The data is as follows:

Departments	Activities	Accounts	Customers	Products	Drivers
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	NoProduct	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Standard Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Custom Beach Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Limited Edition Beach Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Bike Trailer	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	High Bar	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Flat Bar	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Logo Seat	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	NoProduct	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Standard Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Custom Beach Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Limited Edition Beach Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Bike Trailer	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	High Bar	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Flat Bar	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Logo Seat	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	The Cyclery	NoProduct	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	The Cyclery	Standard Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	The Cyclery	Custom Beach Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	The Cyclery	Limited Edition Beach Cruiser	DRV Business Support

5. オプション: 「例外」タブで「グリッド・オプション」



をクリックすると、使用可能なドライバの例外のリストをフィルタ処理できます。

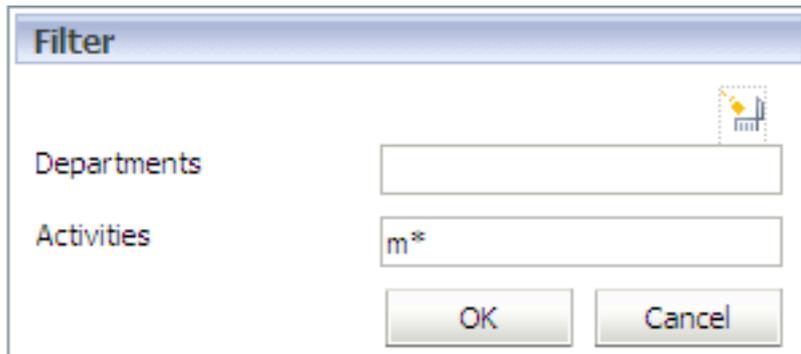
- a. 必要に応じて、「別名の表示」または「名前の表示」を選択します。
- b. 「フィルタ」



をクリックして、「フィルタ」ダイアログ・ボックスを表示します。

- c. 1つ以上のディメンションに対するフィルタ条件を入力します。

必要なメンバーの正確な名前または別名を入力するか、メンバーの範囲を選択するワイルドカードとして末尾にアスタリスク(\*)を使用する、または任意の1文字を選択する疑問符(?)を末尾に使用します。たとえば、「M」の文字で始まるディメンションのすべてのメンバーを検索するには、「M」と入力します。文字の前にアスタリスクを入力しても(たとえば"\*M")機能しません。



The image shows a 'Filter' dialog box with a title bar. It contains two input fields: 'Departments' which is empty, and 'Activities' which contains the text 'm\*'. Below the input fields are two buttons: 'OK' and 'Cancel'. There is a small icon in the top right corner of the dialog box.

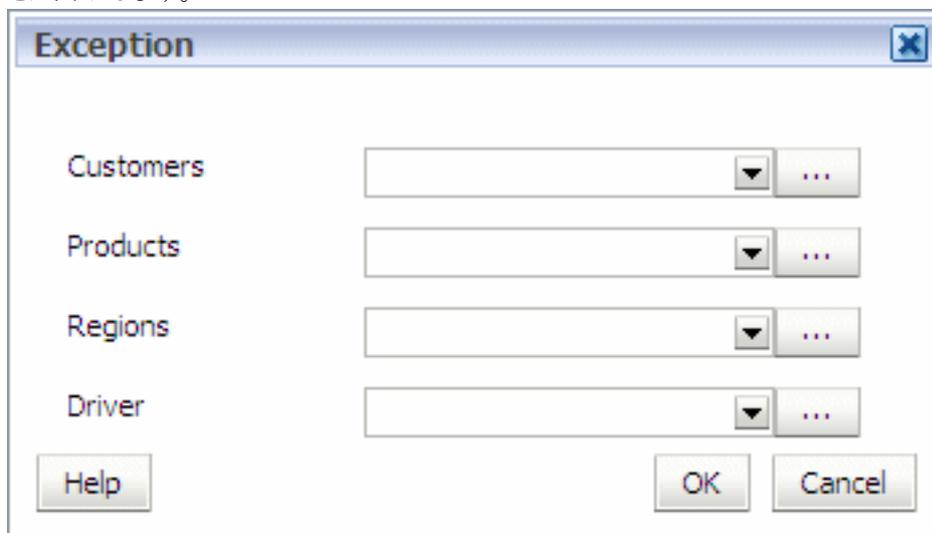
d. 「OK」をクリックします。

フィルタ条件を満たすアイテムのみが「例外」タブに表示されます。

6. 「新規ドライバの例外の追加」



をクリックします。



The image shows an 'Exception' dialog box with a title bar and a close button. It contains four rows of input fields: 'Customers', 'Products', 'Regions', and 'Driver'. Each row has a dropdown arrow and a three-dot menu button. At the bottom of the dialog box are three buttons: 'Help', 'OK', and 'Cancel'.

7. 「例外」ダイアログ・ボックスに一覧表示された各ディメンションで、セレクト



をクリックし、例外ドライバを適用する必要がある特定の交差のメンバーを選択します。

[32ページの共通メンバー・セレクトタの使用](#)を参照してください。

8. 「ドライバ」で、交差の例外ドライバを選択します。

9. 「OK」をクリックします。

## 詳細Profitabilityドライバの選択の削除

ドライバの選択を削除した後、新しいドライバを選択しないと、ドライバの選択がない割当てが存在することを示すエラーが検証中に報告されます。

▶ 選択したドライバを削除するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。

2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバの選択」の順に選択します。
3. POVを選択し、「実行」



をクリックします。

「ドライバ・ルール」タブの「ソース」で、ソース・ステージが選択されます。

4. 削除するドライバの選択が含まれる行を選択します。
5. 「ドライバ・ルールの削除」



をクリックします。

6. 「はい」をクリックして、ドライバの削除を確認します。

## 単一の交差に対する詳細Profitabilityドライバの選択の削除

削除する交差を選択します。その交差全体が「例外」タブから削除されます。

ドライバの選択を削除した後、新しいドライバを選択しないと、ドライバの選択がない割当てが存在することを示すエラーが検証中に報告されます。

▶ 単一交差のドライバの選択を削除する手順は、次のとおりです：

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバの選択」の順に選択します。
2. POVを選択し、「実行」



をクリックします。

3. 「例外」タブを選択します。

「ソース」の下で、ソース・ステージが選択されます。

4. 削除する交差を選択します。
5. 「ドライバ例外の削除」



をクリックします。

6. 「はい」をクリックして削除を確認します。

## バルク・エディタの操作

「ドライバの選択」、「例外」または「割当て」画面のバルク・エディタを使用すると、個々に作成しなくても複数のドライバ選択や割当てを簡単かつ効率的に作成できます。

バルク編集は、ドライバと割当ての両方に対して実行できます。バルク編集は1回かぎり使用するもので、保存されません。生成したバルク編集を再実行することはできません。操作ごとに新しいバルク編集を作成する必要があります。



---

### 注意

意図した更新をバルク編集では実行できない場合、ステージをクリアして再構築することができません。

---

バルク更新の結果を表示するには、データベースのレポートを生成する必要があります。

次の手順を参照してください:

- [300ページの単一ドライバを複数のソース・ステージ・ルールに追加](#)
- [305ページの複数ソース・ステージ・ルールのドライバの削除](#)
- [306ページの複数ソース・ステージ・ルールへの割当てルールの追加](#)
- [308ページの複数ソース・ステージ・ルールの割当てルールの削除](#)

## 単一ドライバを複数のソース・ステージ・ルールに追加

バルク・エディタを使用して、1つのドライバを複数のソース・ステージ・ルールに追加します。

- ▶ バルク編集を使用してドライバの選択を追加するには:
1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「**Profitability**」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
  2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバの選択」の順に選択します。
  3. 「例外」タブを選択します。

ORACLE Enterprise Performance Management System Workspace, Fusion Edition

Logged in as admin | Help | Log Off

Navigate File View Tools Model Allocations Validate Calculate Job Process Help

Demo04 x

Task Areas

- Manage Model
- Manage Allocations
- Driver Definitions
- Driver Selections
- Assignment Rule Definitions
- Assignments
- Stage Object Calculation
- Validate
- Calculate
- Jobs Status

Driver Selections

Year: 2012 | Period: January | Scenario: Actual | Status: Draft

On the Driver Rules tab, select a default driver for each member. Selecting a parent level in the hierarchy automatically makes the same selection for each descendant. To override the default driver for one or more intersections, select the Exceptions tab, then click the Add button to add the specific intersection and driver.

Driver Rules Exceptions

Source Stage Customer Activity Cost

Departments	Activities	Accounts	Customers	Products	Drivers
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	NoProduct	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Standard Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Custom Beach Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Limited Edition Beach Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Bike Trailer	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	High Bar	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Flat Bar	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Logo Seat	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	NoProduct	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Standard Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Custom Beach Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Limited Edition Beach Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Bike Trailer	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	High Bar	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Flat Bar	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Logo Seat	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	The Cyclery	NoProduct	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	The Cyclery	Standard Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	The Cyclery	Custom Beach Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	The Cyclery	Limited Edition Beach Cruiser	DRV Business Support

4. 「バルク・エディタを開く」



をクリックします

Step 1: Select Edit Type

Edit Type:

Add Drivers

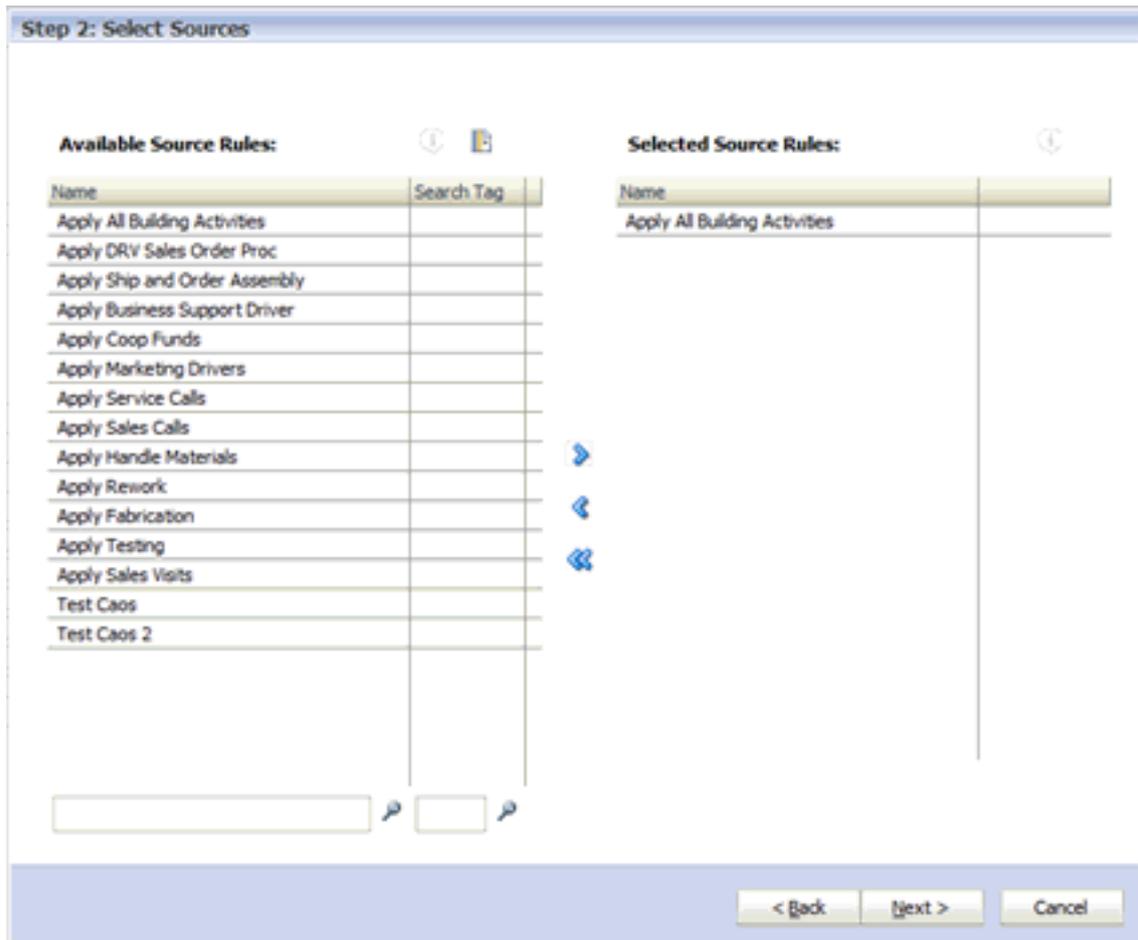
Comment:

< Back

Next >

Cancel

5. オプション: 「編集タイプの選択」の「コメント」に、バルク編集の説明的な名前を入力します。この名前は「ジョブ・ライブラリ」画面で、選択したバルク編集タスクに表示されます。
6. 「編集タイプ」で「ドライバの追加」を選択し、「次」をクリックします。



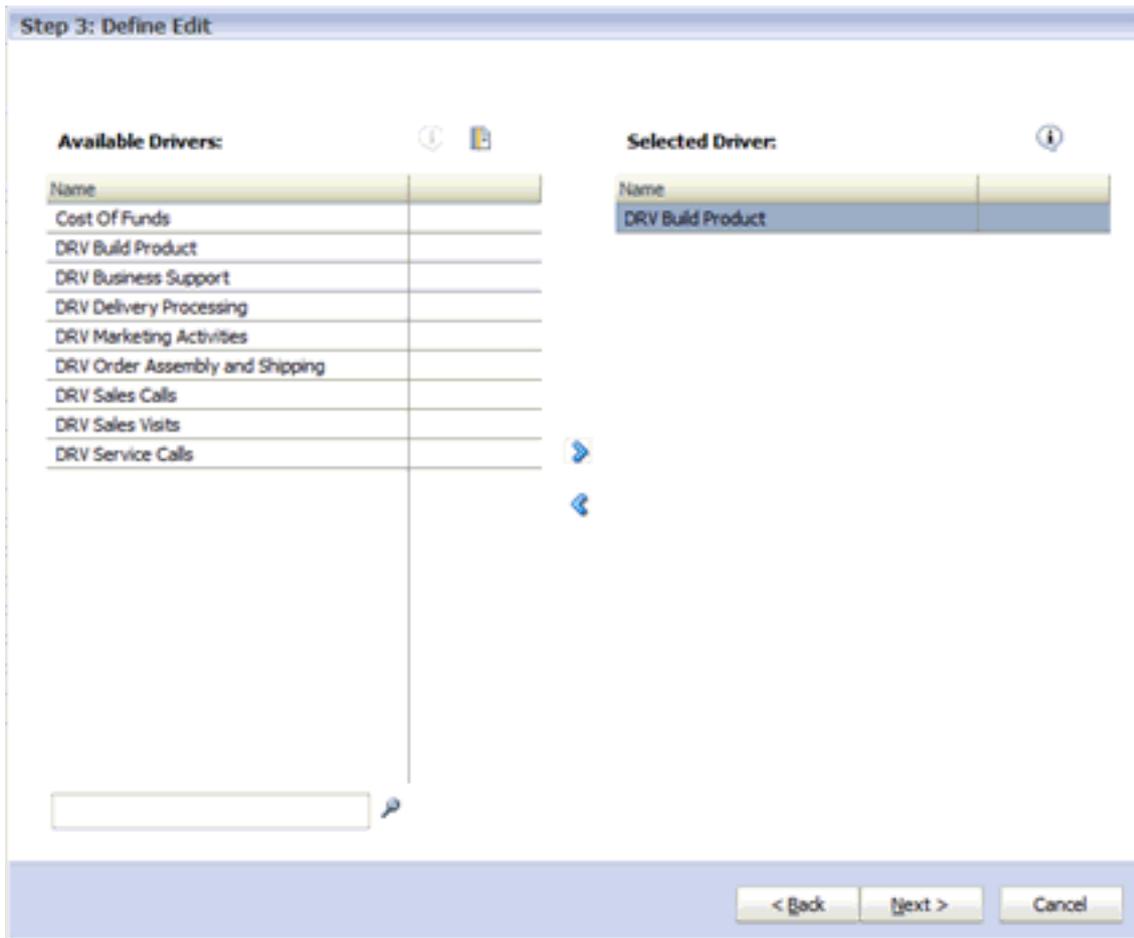
7. 「ソースの選択」の「使用可能なソース・ルール」から、選択したドライバを適用するソース・ステージ割当てルールを選択し、矢印キーを使用して「選択済ソース・ルール」列に移動します。

8. オプション: 「情報」



をクリックすると、選択したステージ・ルールの説明が表示されます。

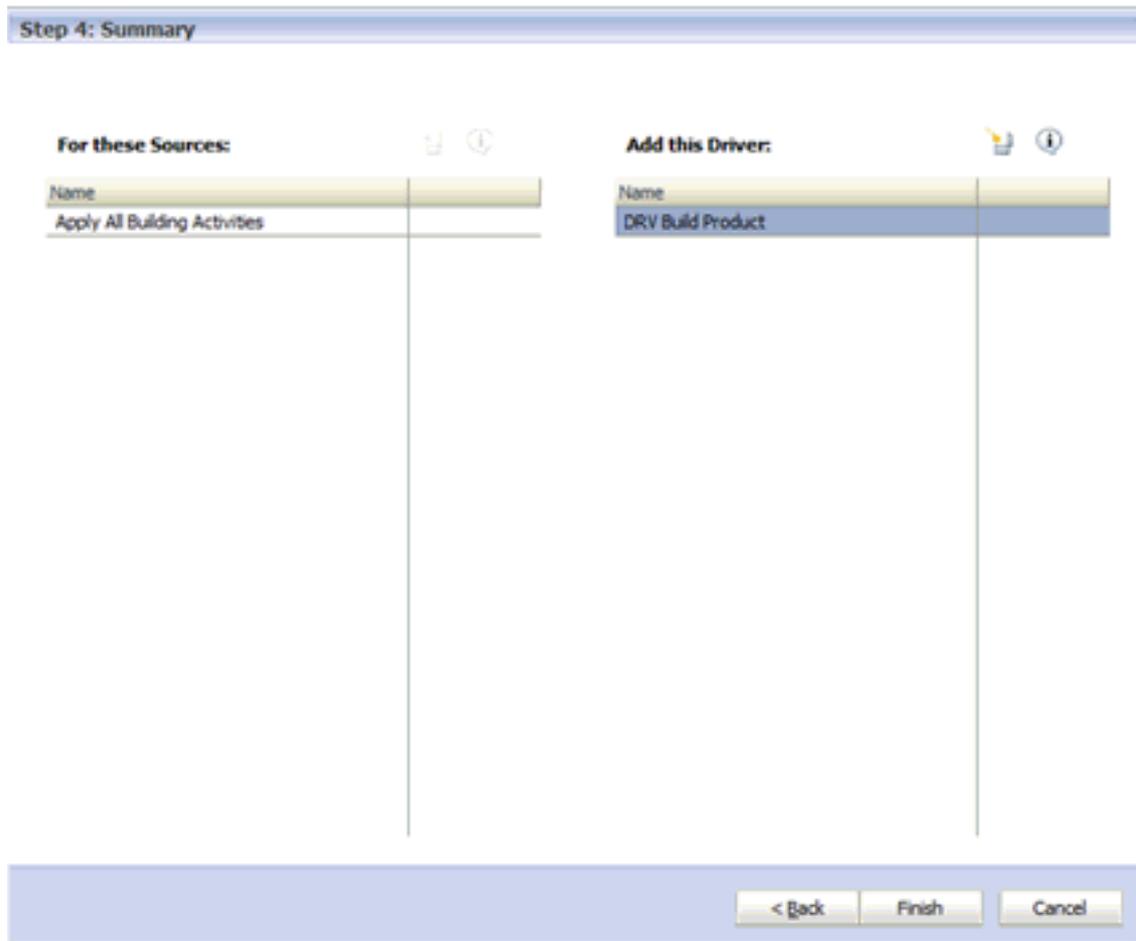
9. 「次」をクリックします。



10. 「編集の定義」の「使用可能なドライバ」で、バルク編集に関連付けるドライバの名前を選択します。選択できるドライバは1つのみです。
11. 選択したドライバを矢印キーで「選択済ドライバ」に移動し、「次」をクリックします。

「バルク編集」の「要約」画面が表示されます:

- 「次のソースの場合」に、選択したドライバが適用される選択済ソースが表示されます。
- 「次のドライバの追加」に、選択したソースに適用されるドライバが表示されます。



12. 「終了」をクリックします。

選択したソース・ルールによって定義されたソースは、選択したドライバで更新されます。

13. オプション: バルク更新の結果を表示するには、データベースのレポートを生成します。

## 複数ソース・ステージ・ルールのドライバの削除

バルク・エディタを使用して、1つのドライバを複数のソース・ステージ・ルールから削除します。

▶ 1つのドライバを複数のソース・ステージ・ルールから削除するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバの選択」の順に選択します。
3. 「例外」タブを選択します。
4. 「バルク・エディタを開く」



をクリックします

5. オプション: 「編集タイプの選択」の「コメント」に、バルク編集の説明的な名前を入力します。この名前は「ジョブ・ライブラリ」画面で、選択したバルク編集タスクに表示されます。
6. 「編集タイプ」で「ドライバの削除」を選択し、「次」をクリックします。

7. 「ソースの選択」の「使用可能なソース・ルール」で、バルク編集を適用するステージ・ルールを選択し、矢印キーを使用して「選択済ソース・ルール」列に移動します。

- オプション: 「ステージ全体の選択」をクリックし、ステージ上のすべてのノード交差を選択します。
- オプション: 「情報」



をクリックすると、選択したステージ・ルールの説明が表示されます。

8. 「次」をクリックします。

9. 「編集の定義」の「使用可能なドライバ」で、削除するドライバを選択します。

「すべてのドライバの削除」をクリックすると、削除するドライバをすべて選択できます。

10. 選択したドライバを矢印キーで「選択済ドライバ」に移動し、「次」をクリックします。

「バルク編集」の「要約」画面が表示されます:

- 「次のソースの場合」に、選択したドライバが削除される元の選択済ソースが表示されます。
- 「次のドライバの削除」に、削除するドライバが表示されます。

11. 「終了」をクリックします。



#### 注意

バルク編集による削除を実行するときは、十分に気をつけてください。「終了」をクリックしたときにも削除確認は表示されず、バルク編集による削除を取り消す機会がありません。ソース・ステージ・ルールで定義されたソースから選択されたドライバは、すぐに削除されます。

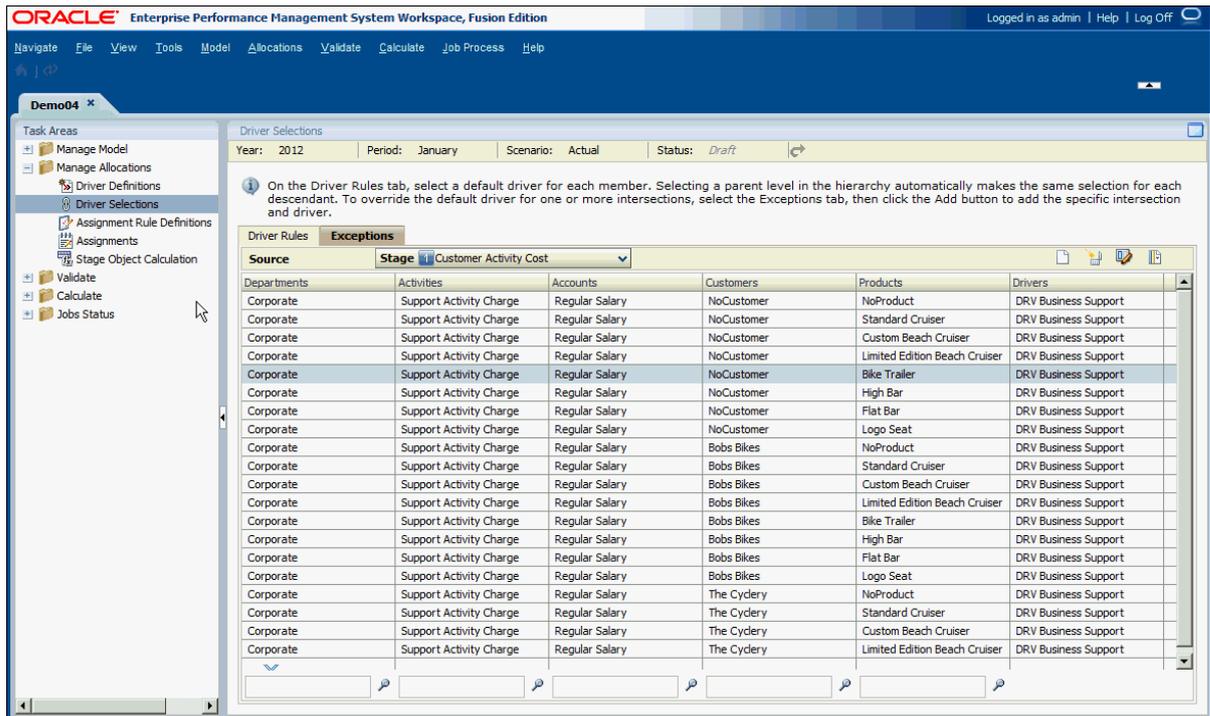
12. オプション: バルク更新の結果を表示するには、データベースのレポートを生成します。

## 複数ソース・ステージ・ルールへの割当てルールの追加

バルク・エディタを使用して、宛先ステージ・ルールを複数ソース・ステージ・ルールに追加します。

▶ 宛先ステージ・ルールを複数ソース・ステージ・ルールに追加するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバの選択」の順に選択します。
3. 「例外」タブを選択します。



#### 4. 「バルク・エディタを開く」



をクリックします

- オプション: 「編集タイプの選択」の「コメント」に、バルク編集の説明的な名前を入力します。この名前は「ジョブ・ライブラリ」画面で、選択したバルク編集タスクに表示されます。
- 「編集タイプ」で「割当てルールの追加」を選択し、「次」をクリックします。
- 「ソースの選択」タブの「使用可能なソース・ルール」から、追加するソース・ステージ割当てルールを選択し、矢印キーを使用して「選択済ソース・ルール」列に移動します。

#### 「情報」



をクリックすると、選択した割当てルールの説明が表示されます。

- 「次」をクリックします。

手順3: 「編集の定義」が表示されます。

- 「編集の定義」タブの「使用可能な宛先ルール」から、追加する宛先ステージ割当てルールを選択し、矢印キーを使用して「選択済宛先ルール」列に移動します。
- 「次」をクリックします。

「バルク編集」の「要約」画面が表示されます:

- 「次のソースの場合」に、選択したソース割当てルールが表示されます。
- 「次の宛先ルールの追加」で、選択した宛先割当てルールが表示されます。

- 「終了」をクリックします。

選択したソース・ステージが更新されます。

- オプション: バルク更新の結果を表示するには、データベースのレポートを生成します。

## 複数ソース・ステージ・ルールの割当てルールの削除

バルク・エディタを使用して、複数ソース・ステージ・ルールから割当てルールの削除します。

▶ 複数ソース・ステージ・ルールから割当てルールの削除するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバの選択」の順に選択します。
3. 「例外」タブを選択します。
4. 「バルク・エディタを開く」



をクリックします

5. オプション: 「編集タイプの選択」の「コメント」に、バルク編集の説明的な名前を入力します。この名前は「ジョブ・ライブラリ」画面で、選択したバルク編集タスクに表示されます。
6. 「編集タイプ」で「割当てルールの削除」を選択し、「次」をクリックします。

手順2: 「ソースの選択」が表示されます。

7. 「ソースの選択」の「使用可能なソース・ルール」で、削除するステージ・ルールを選択し、矢印キーを使用して「選択済ソース・ルール」列に移動します。

- ・ オプション: 「ステージ全体の選択」をクリックし、ステージ上のすべてのノード交差を選択します。
- ・ オプション: 「情報」



をクリックすると、選択したステージ・ルールの説明が表示されます。

8. 「次」をクリックします。
9. 「編集の定義」タブの「使用可能なドライバ」で、削除する宛先割当てルールを選択します。

「すべてのルールの削除」をクリックすると、使用可能な宛先割当てルールをすべて削除対象として選択できます。

10. 選択した宛先割当てルールを矢印キーで「選択済宛先ルール」に移動し、「次」をクリックします。

「バルク編集」の「要約」画面が表示されます:

- ・ 「次のソースの場合」に、選択した選択済宛先ルールが削除される元の選択済ソースが表示されます。
- ・ 「次の割当てルールの削除」で、削除する宛先割当てルールが表示されます。

11. 「終了」をクリックすると、選択した割当てルールが削除されます。



### 注意

バルク編集による削除を実行するときは、十分に気をつけてください。「終了」をクリックしたときにも削除確認は表示されず、バルク編集による削除を取り消す機会がありません。ソース・ステージ・ルールで定義されたソースから選択された割当てルールは、すぐに削除されます。

12. オプション: バルク更新の結果を表示するには、データベースのレポートを生成します。

## 詳細Profitability割当てルール of 操作

割当てルールは、転記される配賦または計算のソースおよび宛先を定義します。同じパラメータを使用する複数の割当てがモデルに含まれていることがよくあります。類似する複数の割当てを簡単に作成するには、割当てパラメータを指定する割当てルールを作成し、再利用します。

割当てルールは、メンバー・セットとオプションのフィルタ・セットの集合です。フィルタは、ディメンションに適用される条件の集合です。次の1つ以上の条件に基づいて、割当てルールが作成されます:

- ディメンション階層の特定のブランチ内のメンバーシップ
- メンバー名
- メンバーの別名

「割当てルールの定義」画面から使用可能な「割当てルール」ダイアログでは、割当てルールを作成できます。

次のオプションを使用して、割当てルールを作成できます:

- 単一の宛先ステージについて、特定のメンバー・セットおよびオプションのフィルタ・セットを定義します。
- 計算中に宛先ステージのディメンション・メンバーを選択したソース・ディメンション・メンバーに置換する、「ソースと同じ」割当てルールを定義します。詳細Profitabilityの「ソースと同じ」割当てルールを定義するための基本的な概念は、標準Profitabilityの場合と同じです。115ページの標準Profitability割当てルールの操作の最初の例を参照してください。

次の手順を参照してください:

- [309ページの割当てルールの作成](#)
- [310ページの詳細Profitability割当てルールの複製](#)
- [311ページの割当てルールの変更](#)
- [311ページの割当てルールの削除](#)

## 割当てルールの作成

▶ 割当てルールを作成するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当てルールの定義」の順に選択します。

「割当てルールの定義」画面が表示され、既存の割当てルールの「名前」、「説明」、「ステージ」、「検索タグ」と、作成者のIDが表示されます。

3. 「新規割当てルールの追加」



をクリックします。

4. 「割当てルール」ダイアログ・ボックスの「名前」に、新しい割当てルールの名前を入力します。
5. 「ステージ」で、割当てルールのステージを選択します。

関連付けられたディメンションが、「ディメンションの選択」に表示されます。

6. オプション: 「説明」で、新しい割当てルールの目的や内容について説明を入力します。
7. オプション: 後でルールの検索に使用する「検索タグ」を入力します。
8. 「ディメンションの選択」で、選択したステージのディメンションを確認します。
9. 「定義済メンバー」列で、メンバーを定義するディメンションのセルをクリックします。

選択したディメンションのメンバーが「ディメンション・メンバーの選択」に表示されます。「コンテキスト・メニュー」ボタン



を使用して、ビューの変更や、ディメンション・メンバーのリストのフィルタまたはソートを行います。

10. 「ディメンション・メンバーの選択」で、新しい割当てルールに含めるメンバーを選択し、「追加」矢印アイコン



をクリックして「選択済ディメンション・メンバー」列に移動します。

「フィルタ」



をクリックして、必要な場合は、選択した0レベル以外のメンバーをフィルタします。[35ページのフィルタの使用](#)を参照してください。非EPMAディメンションは、「データ・フィルタ」タブで確認できます(宛先割当てルールの場合)。

11. 「OK」をクリックします。

「割当てルールの定義」に割当てルールが追加されます。

## 詳細Profitability割当てルールの複製

類似の割当てルールを簡単に作成するために、既存の割当てルールを複製して編集することで新しい割当てルールを作成することができます。

▶ 割当てルールを複製するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当てルールの定義」の順に選択します。

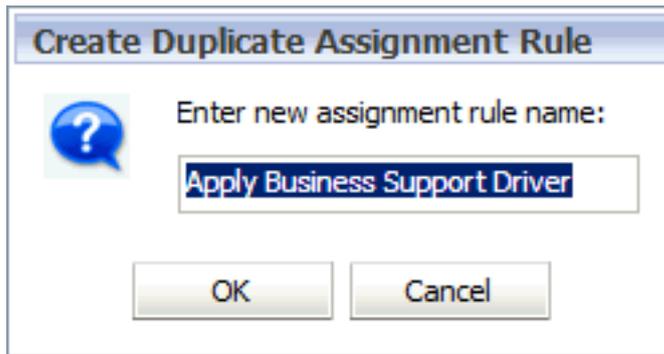
「割当てルールの定義」画面が表示され、既存の割当てルールの「名前」、「説明」、「ステージ」、「検索タグ」と、作成者のIDが表示されます。

3. 新しい割当てルールのテンプレートとして使用する割当てルールを選択します。
4. 「ルールの複製の作成」



をクリックします。

「割当てルールの複製の作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。



5. 「割当てルールの複製の作成」ダイアログ・ボックスで、新しい割当てルールの名前を入力し、「OK」をクリックします。

複製された割当てルールが「割当てルールの定義」画面の「割当てルールの定義」リストに追加されます。

6. 必要に応じて新しい割当てルールを変更します。[311ページの割当てルールの変更](#)を参照してください。

## 割当てルールの変更

▶ 割当てルールを変更するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当てルールの定義」の順に選択します。
3. 「割当てルールの定義」画面で、変更する割当てルールを選択します。
4. 「割当てルールの編集」



をクリックします。

5. 「割当てルール」ダイアログ・ボックスで、次の要素を変更します。

- 名前
- 説明
- 検索タグ
- デイメンション・メンバーの選択
- データ・フィルタ(宛先の割当てルール用)
- カスタムSQLフィルタ(宛先の割当てルール用)

6. 「OK」をクリックします。

変更した割当てルールが保存され、「割当てルールの定義」画面のリストに表示されます。

## 割当てルールの削除

▶ 割当てルールを削除するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当てルールの定義」の順に選択します。
3. 「割当てルールの定義」画面で、削除する割当てルールを選択します。

#### 4. 「割当てルールの削除」



をクリックします。



---

#### 注意

ルールとルール選択が削除されるため、割当てルールを削除すると、モデル・データの計算に影響があります。

---

#### 5. 「確認」ダイアログ・ボックスで「はい」をクリックし、割当てルールの削除を確定します。

選択した割当てルールが削除され、「割当てルールの定義」画面の「割当てルールの定義」リストからなくなります。

## 詳細Profitabilityでの割当ての操作

割当ては、ソースから宛先へのデータのフローを定義します。各割当ては、選択したソース・ステージと、割当ての宛先に割り当てられるソース値から結果への計算を実行するドライバとの組合せです。

詳細Profitabilityでは、ソース交差を1つ以上の割当てルールにマッピングすることによって割当ての宛先が定義されます。明示的に定義される宛先は、詳細Profitabilityではサポートされません。また、複数回使用できる割当てルールを作成することもできます。[308ページの詳細Profitability割当てルールの操作](#)を参照してください。

割当ての操作方法の詳細は、次の項を参照してください:

- [313ページの割当ての作成](#)
- [318ページの割当ての削除](#)

## 割当ての作成

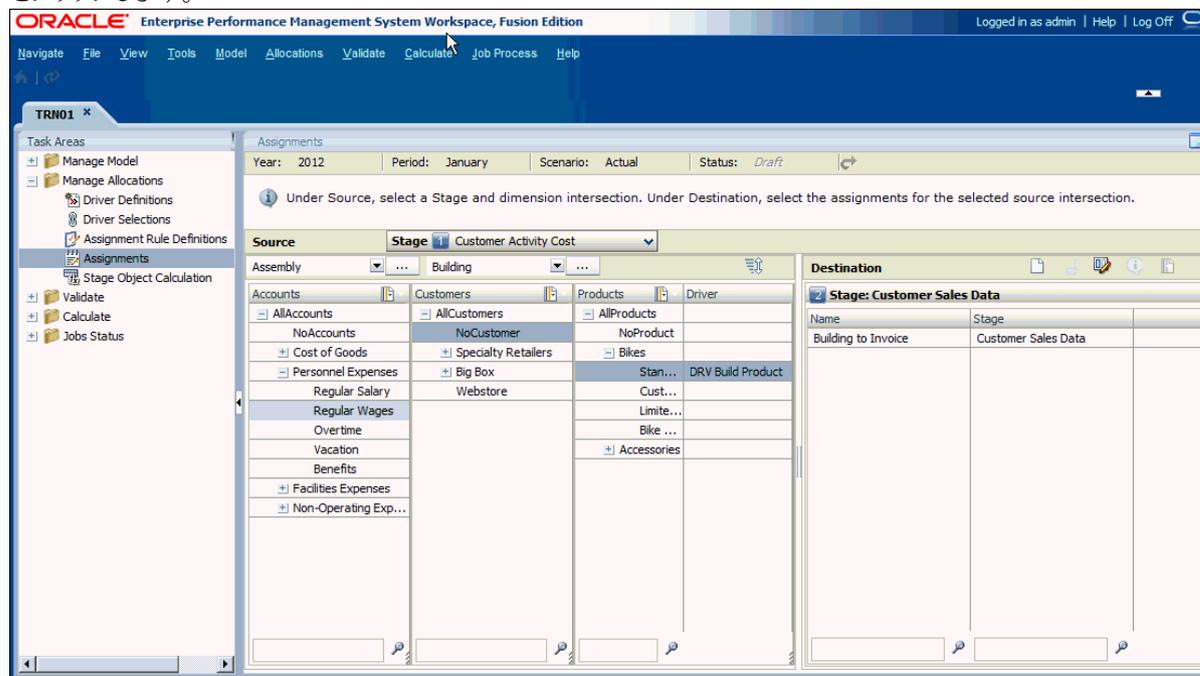
要素を見落とすことがないように、プロセスまたは配賦に使用するすべての割当てを順番に作成することをお勧めします。すべての割当てを作成後、モデルの構造を検証し、必要なドライバ選択が欠落していないことを確認します。

▶ 割当てを作成するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当て」の順に選択します。
3. 「割当て」画面で、選択したモデルのPOVを選択し、「POVステータスのロード」



をクリックします。



4. 「ソース」で、各ディメンションからメンバーを選択し、割当てのソースの交差を作成します。ソース・ステージがあらかじめ選択されます。

ソース・ステージの最初から2つのディメンションが、表示されているディメンションのすぐ上に表示され、ソース・ステージの最後の3つのディメンションは完全なメンバー・リストとともに表示されます。



注:

階層のメンバーを検索するには、列の下部にあるテキスト・ボックスにメンバー名を入力し、「検索」をクリックします。

5. オプション: 「割当て」画面に表示されるディメンションを並べ替えるには、「ディメンションの並替え」



をクリックします。

矢印キーを使用して、ディメンションを必要な順序で上下に移動させ、「OK」をクリックします。元の順序に戻すには、デフォルトの順序を使用をクリックします。

6. オプション: 「宛先」の下で「メンバー・セレクト」



を選択すると、使用可能な宛先のリストをフィルタ処理できます。

- a. 「フィルタ」



を選択して、「フィルタ」ダイアログ・ボックスを表示します。

- b. 「名前」または「ステージ」にフィルタ条件を入力し、「OK」をクリックします。

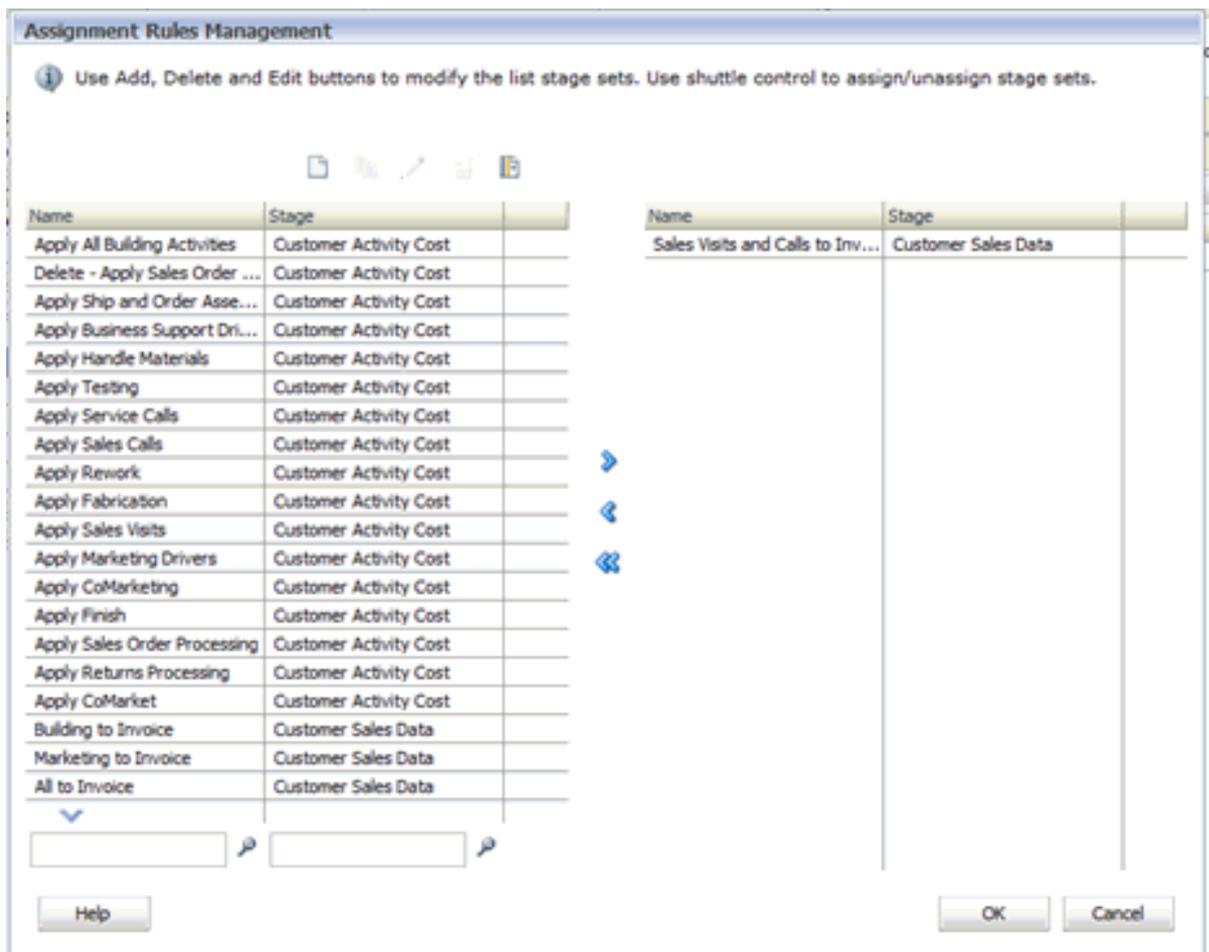
必要なアイテムの正確な名前を入力するか、アイテムの範囲を選択するワイルドカードとして末尾にアスタリスク(\*)を使用する、または任意の1文字を選択する疑問符(?)を末尾に使用します。たとえば、文字"M"で始まるすべての宛先割当てルールを検索するには、「名前」フィールドに"M\*"を入力します。文字の前にアスタリスクを入力しても(たとえば"\*M")機能しません。

7. 「宛先」で、「割当てルール管理を開く」



をクリックします。

複数の割当てルールを追加するには、[299ページのバルク・エディタの操作](#)を参照してください。



8. 「割当てルール管理」画面で、「新規割当てルールの追加」



をクリックします。309ページの割当てルールの作成を参照してください。

**Assignment Rule**

Name:  Description:

Stage: **Stage** Customer Activity Cost

Search Tag:

**Dimension Selections**

Dimension	Member Defined
CostCenters	
Activities	
Accounts	
Customers	
Products	

**Dimension Member Selection**

CostCenters

- AllCostCenters
- NoCostCenter
- Corporate
- Warehouse
- Facilities
- Sales
  - Outside Sales
  - Inside Sales**
- Manufacturing
- Marketing
- Shipping
- Customer Service
- Administration

Selected Dimension Members:

Help OK Cancel

9. 「割当てルール」画面で、新しい割当てルールの詳細を入力します。
  - 「名前」に、新しい割当てルールの名前を入力します。
  - 「ステージ」から、ステージを選択します。
  - オプション: 「説明」で、新しい割当てルールの目的について説明を入力します。
  - オプション: 後で割当てルールの検索に使用する「検索タグ」を入力します。
10. 「ディメンション」と「ディメンションの選択」で、矢印キーを使用してディメンション・メンバーを「選択済ディメンション・メンバー」列に移動します。
11. オプション: 「データ・フィルタ」タブで宛先ステージをフィルタ処理するには:
  - a. 「ステージ」から、宛先ステージを選択します。  
「データ・フィルタ」タブが表示されます。
  - b. 「データ・フィルタ」タブをクリックします。

**Assignment Rule**

Name:  Description:

Stage: **Stage 2** Customer Sales Data

Search Tag:

---

**Dimension Selections**   **Data Filters**

Columns

Use Custom Filter

Dimension	Member Defined
Co-Marketing Expense	✓
Cost of Accounts Receivable	
Cost of Goods Sold	
Discount Amount	
Discount Rate	
Extended List	
General and Admin Expense	
Gross Margin	
Gross Profit	
Interest Expense	
Item List	
Materials Expense	
Net Profit	
Non-Operating Expense	
Operating Expense	
Operating Profit	

Filter Statement

Operation	Value	Condition
>	2	

- c. 「データ・フィルタ」タブの「列」で、割当てルールに使用するディメンションを選択します。

右ペインに「フィルタ文」が表示されます。たとえば、「SELECT from Customer Zone Weight」など。

- d. オプション: 標準タイプのフィルタを作成するには、各フィールドをダブルクリックしてフィルタのパラメータを入力します。

- 「操作」で、使用する操作のタイプを選択します(<、>、「等しい」、「等しくない」など)。
- 「値」で、フィールドをダブルクリックして適切な値を入力します。
- 「条件」でフィールドをクリックし、ドロップダウン・リストから「OR」または「AND」を選択し、フィルタ文を追加します。

- e. オプション: カスタム・フィルタを作成するには、「カスタム・フィルタの使用」をクリックします。「フィルタ文」と空白の編集ペインが表示されるので、数学的および構文的に正しいSQL式を入力します。

**Assignment Rule**

Name:  Description:

Stage: **Stage 2 Invoice**

Search Tag:

**Dimension Selections** **Data Filters**

Use Custom Filter

Dimension	Member Defined
CostReceived	
Extended Unit Price	
Quantity	✓
Unit Price	
Profit	
Revenue	
Weight	
Cube Size	
Unit Price	
Supplier Zone Weight	
Customer Zone Weight	

Filter Statement  
**SELECT from Invoice.businessobject**

Destination."Quantity" > 10

12. 「OK」をクリックします。
13. 「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスで、矢印キーを使用して、ステージ・セットを選択し、「OK」をクリックします。

「宛先」列には、選択したステージ・セットが移入されます。

## 割当ての削除

必要に応じて割当てを削除できますが、変更を行うと財務フローとモデルの計算結果に影響するので注意してください。

▶ 割当てを削除するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当て」の順に選択します。
3. 変更する割当てを含むモデルのPOVを選択し、「POVステータスのロード」



をクリックします。

4. 「宛先」で、割当てを解除する割当てルールを選択します。
5. 「割当てルールの割当て解除」



をクリックします。

6. 確認メッセージで、「はい」をクリックして削除を確定します。



# 16

## 詳細Profitabilityモデルの計算

### この項の内容:

詳細Profitabilityデータベースの管理 .....	321
詳細Profitabilityの計算の管理 .....	329

モデルの構造とデータを検証した後、データベースを管理してモデルを計算することができます。



### 注意

モデルの計算は、Performance Management Architect、詳細Profitability and Cost Management、およびクライアントのモデル・データおよびデータベースについて実務知識を有している管理者またはパワー・ユーザーが実行することをお勧めします。計算前および計算後カスタム・スクリプトの詳細は、『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイド』の詳細Profitabilityの計算に関する項を参照してください。

## 詳細Profitabilityデータベースの管理

次の項を参照してください:

- [322ページの詳細Profitabilityレポート・ビューのデプロイ](#)
- [324ページの詳細Profitabilityソース・ステージ・データベースのデプロイ](#)
- [326ページの詳細Profitabilityコントリビューション・データベースのデプロイ](#)
- [327ページの詳細Profitability宛先ステージ・データベースのデプロイ](#)

## 詳細Profitabilityレポート・ビューのデプロイ

モデルの構造とデータを検証した後、ディメンション・オブジェクトをデプロイしてシステム生成のレポート・ビューを作成し、ビューを同期する必要があります。ビューは詳細Profitabilityの製品スキーマに作成され、「モデル・レベルのプリファレンス」タブで選択したモデル・データ・スキーマに対するアクセス権が付与されます。

EPMA、POV、属性の各ディメンションも含め、デプロイされたすべてのPerformance Management Architectディメンションがリストされます。どのディメンションを含めるべきかを確認するには、アプリケーション・ライブラリでアプリケーションのリストを表示します。属性ディメンションは、アプリケーションにある場合にのみ表示されます。

システム生成のレポート・ビューには次の2種類があります:

- レポート階層表 - 階層の祖先レベル(親、親の親など)ごとに1つの行が表示されます。
- レポート属性ビュー - ディメンション・メンバーごとに1行が表示され、階層のすべてのレベルが含まれます(ディメンション・メンバーと、定義されている場合にはディメンション属性)。ディメンション・メンバーは他の属性値と結合されます。

ビュー名と表名は次の形式で生成されます。

`<Product Name>_<Application Name>_<User-Defined Dimension Short Name><View/Table Type_V>`(ビューのみ)

例:

- HPMD\_DEMO\_ACCOUNTS\_HIER (階層表)
- HPMD\_DEMO\_ACCOUNTS\_ATTR\_V (属性ビュー)

デプロイされたビューと表はモデル・データ・スキーマの下にシノニムとして表示されます。これらのビューと表はカスタム・レポートを作成するときに役立ちます。



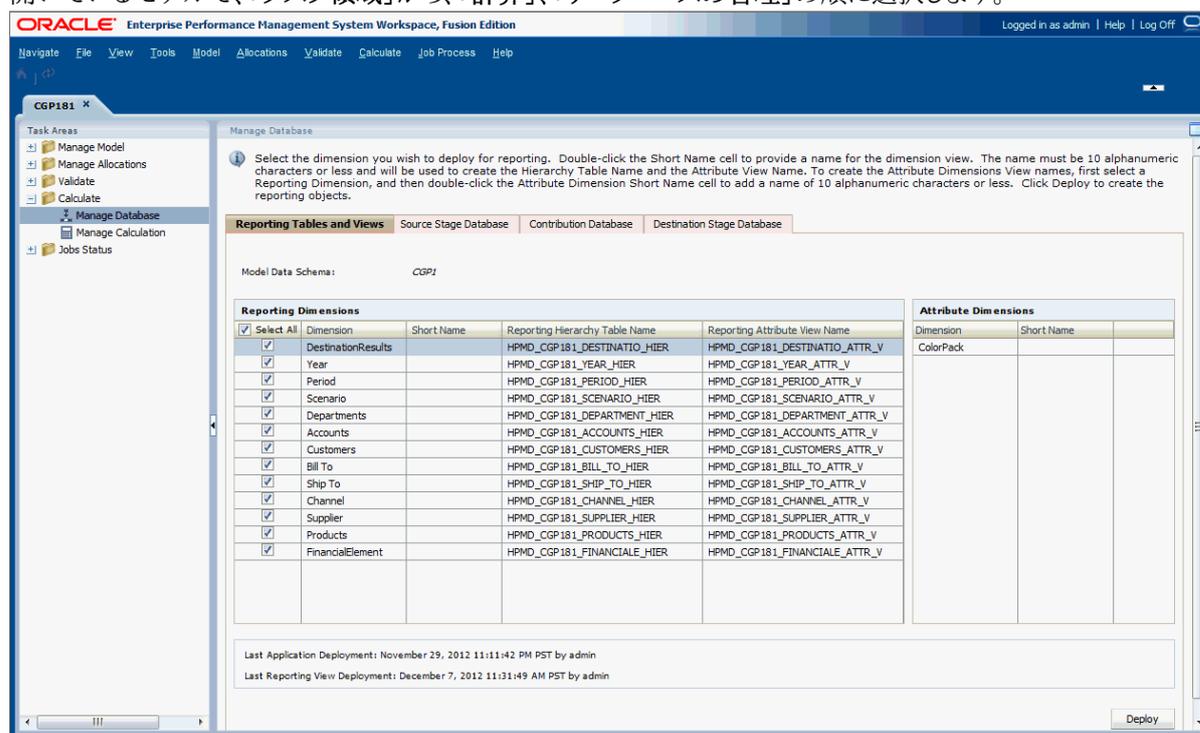
注:

データは存続するため、Performance Management Architectでディメンションをメンテナンスした後でこれらのレポート用表を再生成する必要があります。また、これらの表の存続データをリフレッシュするように、ディメンションの変更をOracle Fusion Performance Managementに再デプロイする必要があります。

レポート・ビューを作成するには、まず、Performance Management Architectにアプリケーションをデプロイします。デプロイメント後、必要に応じて、ショート名を変更します。

▶ アプリケーション・ディメンション・ビューを作成または再作成するには:

1. 選択したアプリケーションがPerformance Management Architectにデプロイされていることを確認します。手順は、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。
2. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、レポート・ビューを作成するアプリケーションを選択します。
3. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「計算」、「データベースの管理」の順に選択します。



4. 「データベースの管理」の「レポート用表およびビュー」タブで、「モデル・データ・スキーマ」を確認します。

使用するモデル・データ・スキーマではない場合、この画面で変更することはできません。「モデル・レベルのプリファレンス」タブに戻って、正しいものを選択する必要があります。[239ページの詳細モデル・データ・スキーマの選択](#)を参照してください。

5. オプション: 「アプリケーションの最終デプロイメント」と「レポート・ビューの最終デプロイメント」で、表示される日付を確認します。

「レポート・ビューの最終デプロイメント」の日付が、「アプリケーションの最終デプロイメント」の日付より後でなければなりません。そうなっていない場合は、レポート・ビューを再デプロイしてアプリケーションを同期します。

6. 「レポート・ディメンション」ペインで、デプロイメントに含めるディメンションを選択します。

- リストされたすべてのディメンションを含めるには、「すべて選択」を選択します。
- 個々のディメンションのみを含める場合には、そのディメンションのチェック・ボックスを選択します。

7. オプション: 選択したディメンションの「ショート名」で、セルをダブルクリックして編集用を開き、10文字までのショート名を入力します。このショート名は、レポート・ビューの名前に利用されます。

デフォルトでは、ディメンション名の最初の10文字が表の生成時に使用されます。ショート名は、レポート・ビューの名前で使用されます。デフォルトでは、入力した文字はすべて大文字になります。



注:

/、+、@などの特殊文字や制限された文字をショート名に使用しないでください。命名に関する最新の制限については、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。

8. 「デプロイ」をクリックします。

デプロイされるビューは、Profitability and Cost Managementのアプリケーション表に基づきます。

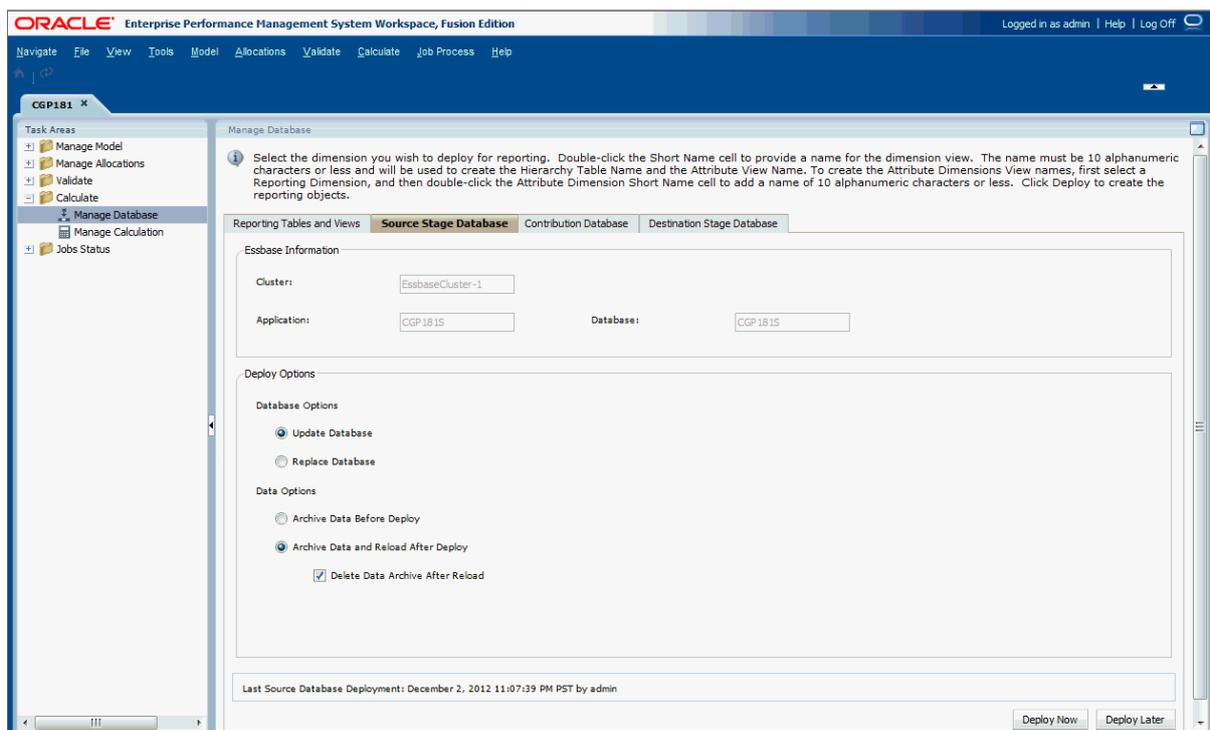
これらのビューは、Profitability and Cost Managementの製品スキーマ上に作成され、モデル・データ・スキーマのレポート・ビューへのアクセス権が付与されます。『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイド』を参照してください。

## 詳細Profitabilityソース・ステージ・データベースのデプロイ

▶ ソース・ステージ・データベースをデプロイするには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「計算」、「データベースの管理」の順に選択します。

ソース・ステージデータベース・タブを選択します。



2. 「Essbase情報」の下で、次の情報を確認します:

- 「クラスタ」には、モデルを含むEssbaseデータベース・クラスタの名前が表示されます。
- 「アプリケーション」には、アプリケーションがデプロイされるEssbaseアプリケーションの名前が表示されます。
- 「データベース」には、アプリケーションがデプロイされるEssbaseデータベースの名前が表示されます。

3. 「デプロイ・オプション」の下で、ソース・ステージ・データベースのデプロイのための「データベース・オプション」を選択します:

- データベースの初回デプロイメント時には、すべての選択がグレー表示されます。このオプションにより、データベース全体が初めて作成されます。
  - 既存のデータベースを再デプロイする場合、「データベースの更新」を選択すると、既存のアーティファクトおよびプロパティ設定が新しいデータベースに保持され、最新のメタデータを反映してアウトラインが変更されます。
  - それ以降のデプロイメントでは、「データベースの置換」を選択してデータベースとアプリケーションを完全に削除し、再作成します。
4. 「デプロイメント・オプション」の下で、ソース・ステージ・データベースのデプロイメントで使用する「データ・オプション」を選択します:
- 「デプロイ前にデータをアーカイブ」を選択すると、既存のデータがアプリケーション・データベース・フォルダにエクスポートされます。計算用データベースでは、レベル0のデータのみがASOデータベースのためにエクスポートされます。データは常にネイティブ・フォーマットでエクスポートされます。
  - 「デプロイ後にデータをアーカイブしてリロード」を選択すると、以前にエクスポートしたデータ・ファイルを使用して、データは自動的にEssbaseにインポートされます。ASOデータベースでは、ルール・ファイルは生成されません。



#### 注意

このオプションは、追加または削除されるディメンションがない場合にのみ使用できます。ディメンションの追加または削除は、Performance Management Architectで行うことも、Profitability and Cost Managementでステージを追加、削除または変更することで行うこともできます。

- オプション: 「デプロイ後にデータをアーカイブしてリロード」を選択している場合、「リロード後にデータ・アーカイブを削除」を選択すると、データが正常にリロードされた後にのみ、アーカイブ・データが自動的に削除されます。
5. オプション: 「後でデプロイメント」をクリックし、デプロイメントを実行する都合のよい日時をスケジュールします。 [198ページのタスクフローのスケジュール](#)を参照してください。



#### 注意

タスクの作成時にこのオプションが選択されていない場合、そのタスクはスケジュールできなくなります。

6. オプション: 「今すぐデプロイ」をクリックし、ただちにソース・ステージ・データベースをデプロイします。
- ジョブが開始されたこと、および割り当てられたタスクフローIDを示す確認メッセージが表示されます。



#### 注意

この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能性があります。

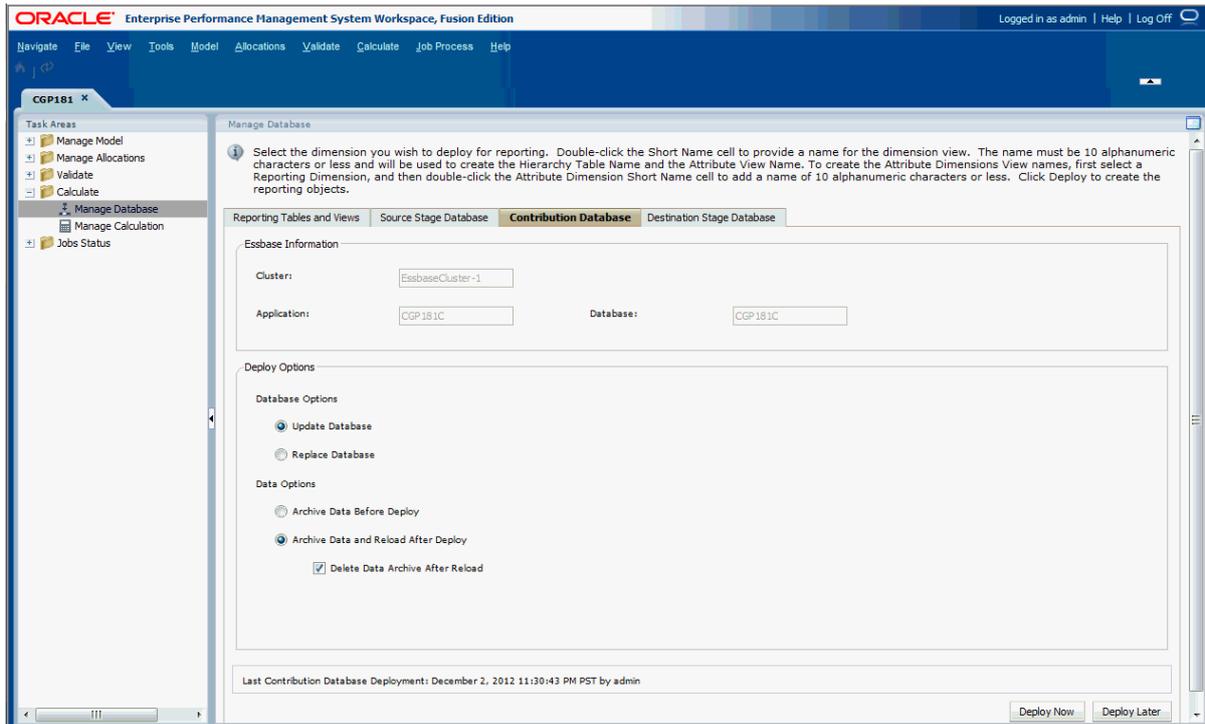
7. タスク・ステータスを監視するには、「ジョブ・ステータス」、「ジョブ・ライブラリ」の順に選択します。

8. 「データベースの置換」オプションが選択された場合、またはデータのインポートが何らかの理由で失敗した場合は、デプロイメントの後でこのデータベースのデータ転送を再実行します。
9. 生成されたデータベースのデータ転送を実行します。

## 詳細Profitabilityコントリビューション・データベースのデプロイ

▶ コントリビューション・データベースをデプロイするには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「計算」、「データベースの管理」の順に選択します。「コントリビューション・データベース」タブを選択します。



2. 「Essbase情報」の下で、次の情報を確認します:
  - 「クラスタ」には、モデルを含むEssbaseデータベース・クラスタの名前が表示されます。
  - 「アプリケーション」には、アプリケーションがデプロイされるEssbaseアプリケーションの名前が表示されます。
  - 「データベース」には、アプリケーションがデプロイされるEssbaseデータベースの名前が表示されます。
3. 「デプロイ・オプション」の下で、コントリビューション・データベースのデプロイのための「データベース・オプション」を選択します:
  - データベースの初回デプロイメント時には、すべての選択がグレー表示されます。このオプションにより、データベース全体が初めて作成されます。
  - 既存のデータベースを再デプロイする場合、「データベースの更新」を選択すると、既存のアーティファクトおよびプロパティ設定が新しいデータベースに保持され、最新のメタデータを反映してアウトラインが変更されます。
  - それ以降のデプロイメントでは、「データベースの置換」を選択してデータベースとアプリケーションを完全に削除し、再作成します。
4. 「デプロイメント・オプション」の下で、「データベースの更新」データベース・オプションが選択されているコントリビューション・データベースのデプロイメントで使用する「データ・オプション」を選択します:

- ・「デプロイ前にデータをアーカイブ」を選択すると、既存のデータがアプリケーション・データベース・フォルダにエクスポートされます。レベル0のデータのみがASOデータベースのためにエクスポートされます。データは常にネイティブ・フォーマットでエクスポートされます。
- ・「デプロイ後にデータをアーカイブしてリロード」を選択すると、以前にエクスポートしたデータ・ファイルを使用して、データは自動的にEssbaseにインポートされます。ASOデータベースでは、ルール・ファイルは生成されません。



#### 注意

このオプションは、追加または削除されるディメンションがない場合にのみ使用できます。ディメンションの追加または削除は、Performance Management Architectで行うことも、Profitability and Cost Managementでステージを追加、削除または変更することで行うこともできます。

- ・ オプション: 「デプロイ後にデータをアーカイブしてリロード」を選択している場合、「リロード後にデータ・アーカイブを削除」を選択すると、データが正常にリロードされた後にのみ、アーカイブ・データが自動的に削除されます。
5. オプション: - 「後でデプロイメント」をクリックし、デプロイメントを実行する都合のよい日時をスケジュールします。 [198ページのタスクフローのスケジュール](#)を参照してください。



#### 注意

タスクの作成時にこのオプションが選択されていない場合、そのタスクはスケジュールできなくなります。

6. オプション: 「今すぐデプロイ」をクリックし、ただちにコントリビューション・データベースをデプロイします。

ジョブが開始されたこと、および割り当てられたタスクフローIDを示す確認メッセージが表示されます。



#### 注意

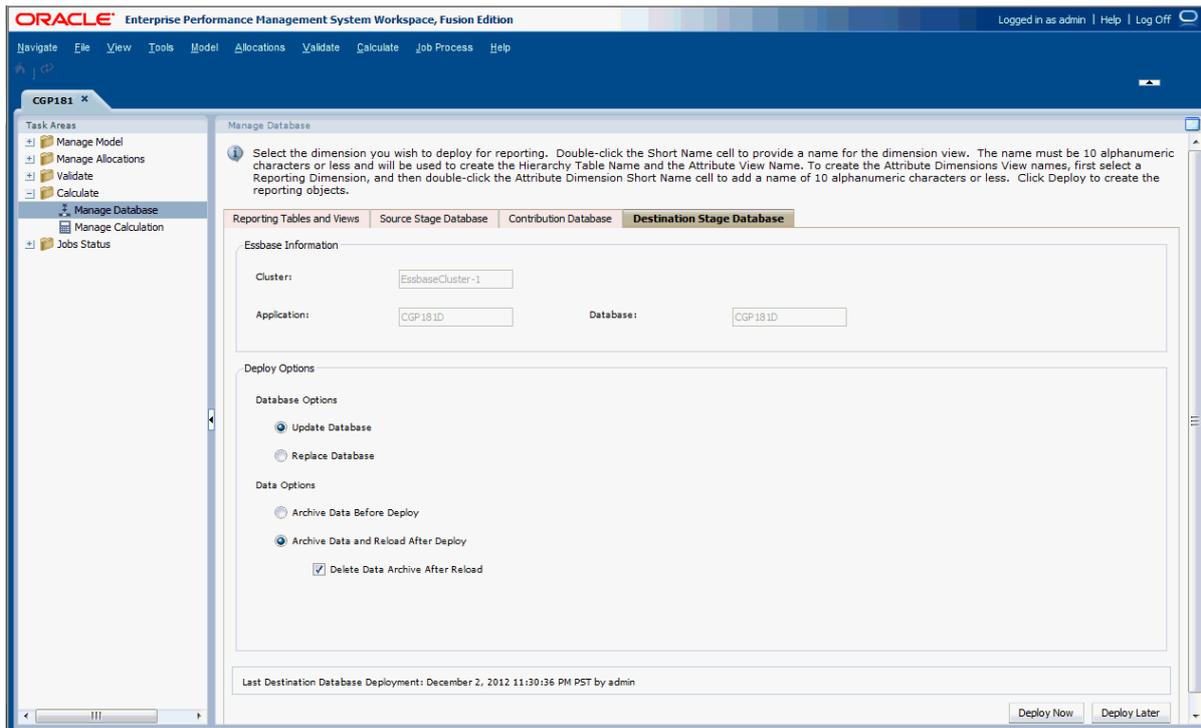
この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能性があります。

7. タスク・ステータスを監視するには、「ジョブ・ステータス」、「ジョブ・ライブラリ」の順に選択します。
8. 「データベースの置換」オプションが選択された場合、またはデータのインポートが何らかの理由で失敗した場合は、デプロイメントの後でこのデータベースのデータ転送を再実行します。
9. 生成されたデータベースのデータ転送を実行します。

## 詳細Profitability宛先ステージ・データベースのデプロイ

▶ 宛先ステージデータベースをデプロイするには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「計算」、「データベースの管理」の順に選択します。宛先ステージデータベース・タブを選択します。



2. 「Essbase情報」の下で、次の情報を確認します:

- ・「クラスタ」には、モデルを含むEssbaseデータベース・クラスタの名前が表示されます。
- ・「アプリケーション」には、アプリケーションがデプロイされるEssbaseアプリケーションの名前が表示されます。
- ・「データベース」には、アプリケーションがデプロイされるEssbaseデータベースの名前が表示されます。

3. 「デプロイ・オプション」の下で、宛先ステージ・データベースのデプロイのための「データベース・オプション」を選択します:

- ・データベースの初回デプロイメント時には、すべての選択がグレー表示されます。このオプションにより、データベース全体が初めて作成されます。
- ・既存のデータベースを再デプロイする場合、「データベースの更新」を選択すると、既存のアーティファクトおよびプロパティ設定が新しいデータベースに保持され、最新のメタデータを反映してアウトラインが変更されます。
- ・それ以降のデプロイメントでは、「データベースの置換」を選択してデータベースとアプリケーションを完全に削除し、再作成します。

4. 「デプロイメント・オプション」の下で、「データベースの更新」データベース・オプションが選択されている宛先ステージ・データベースのデプロイメントで使用する「データ・オプション」を選択します:

- ・「デプロイ前にデータをアーカイブ」を選択すると、既存のデータがアプリケーション・データベース・フォルダにエクスポートされます。レベル0のデータのみがASOデータベースのためにエクスポートされます。データは常にネイティブ・フォーマットでエクスポートされます。
- ・「デプロイ後にデータをアーカイブしてリロード」を選択すると、以前にエクスポートしたデータ・ファイルを使用して、データは自動的にEssbaseにインポートされます。ASOデータベースでは、ルール・ファイルは生成されません。



---

#### 注意

このオプションは、追加または削除されるディメンションがない場合にのみ使用できます。ディメンションの追加または削除は、Performance Management Architectで行うことも、Profitability and Cost Managementでステージを追加、削除または変更することで行うこともできます。

---

- ・ オプション: 「デプロイ後にデータをアーカイブしてリロード」を選択している場合、「リロード後にデータ・アーカイブを削除」を選択すると、データが正常にリロードされた後にのみ、アーカイブ・データが自動的に削除されます。
5. オプション: - 「後でデプロイメント」をクリックし、デプロイメントを実行する都合のよい日時をスケジュールします。[198ページのタスクフローのスケジュール](#)を参照してください。
- 



---

#### 注意

タスクの作成時にこのオプションが選択されていない場合、そのタスクはスケジュールできなくなります。

---

6. オプション: 「今すぐデプロイ」をクリックし、ただちに宛先ステージ・データベースをデプロイします。
- ジョブが開始されたこと、および割り当てられたタスクフローIDを示す確認メッセージが表示されます。
- 



---

#### 注意

この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能性があります。

---

7. タスク・ステータスを監視するには、「ジョブ・ステータス」、「ジョブ・ライブラリ」の順に選択します。
8. 「データベースの置換」オプションが選択された場合、またはデータのインポートが何らかの理由で失敗した場合は、デプロイメントの後でこのデータベースのデータ転送を再実行します。
9. 生成されたデータベースのデータ転送を実行します。

# 詳細Profitabilityの計算の管理

## サブトピック

- [詳細Profitabilityモデルの計算](#)
- [ドライバ操作タイプ](#)
- [その他のプロセス・タイプ](#)

モデルの検証後、モデルを計算したり、カスタム・スクリプトなどの処理オプションを選択するか、異なるデータPOVを選択できます。

## 詳細Profitabilityモデルの計算

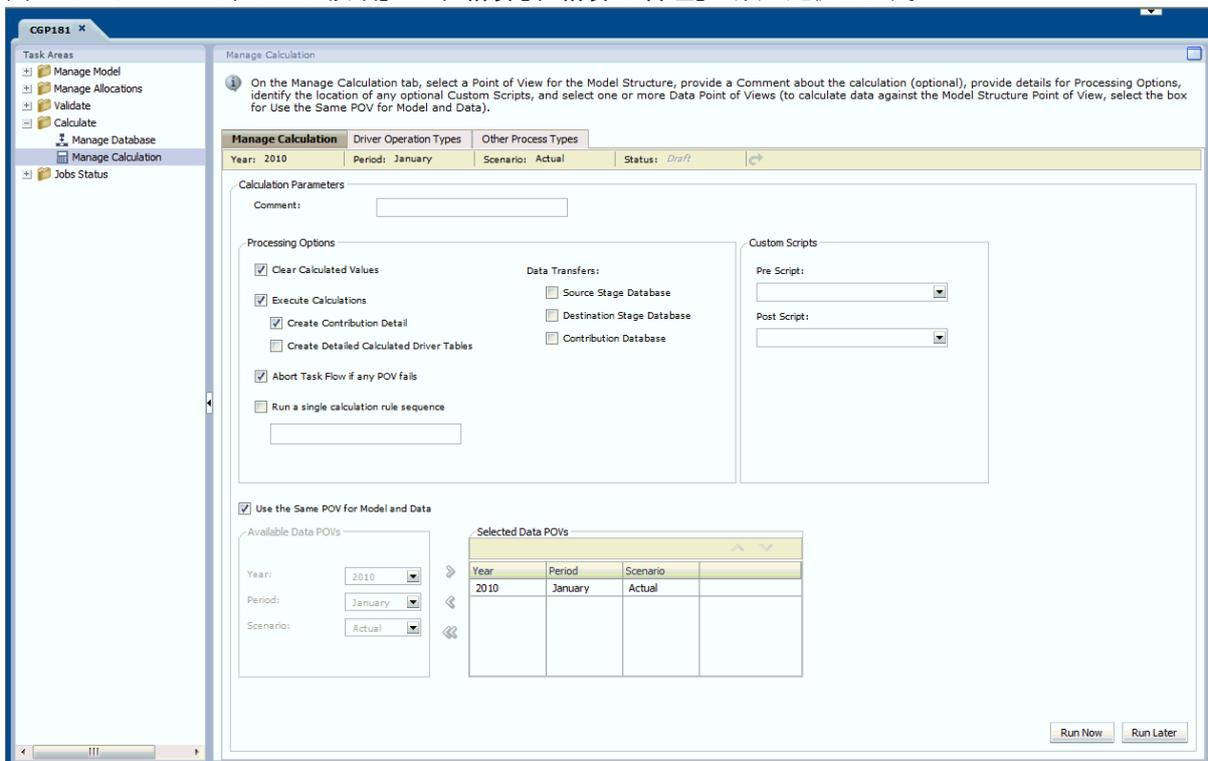
処理時間は、計算の選択内容によって異なります。操作は画面で直接実行することも、都合のよい日時をスケジュールすることもできます。

モデルの計算を実行すると、レポートで使用される2つのビューが作成されます。これらのビューを使用してカスタム・レポートを作成できます：

- HPMD\_DEMO\_STAGE\_BALANCE\_V - 「ステージの貸借一致」レポートで表示されるステージの貸借一致情報が含まれます。
- HPMD\_DEMO\_LEVEL\_0\_CONTRIB\_V - レベル・ゼロにおけるソースと宛先の組合せごとのコントリビューション情報が含まれます。

▶ モデルを計算するには：

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「**Profitability**」の順に選択し、計算するアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「計算」、「計算の管理」の順に選択します。



3. タスク・バーでモデルのPOVを選択して、「POVステータスのロード」



をクリックします。

4. オプション: 「計算パラメータ」の「コメント」に、この計算の簡単な説明または名前を入力します。
5. オプション: 「処理のオプション」で、「計算済の値を消去」をチェックすると、この計算を開始する前に以前の計算データが削除されます。
6. 「計算の実行」で、この計算で生成する追加のデータ・タイプを選択します。
  - ・ 計算のモデルにすべてのコントリビューションを含める場合は、「コントリビューションの詳細の作成」をチェックします。
  - ・ 次のソース交差を処理する前に、計算されたドライバの値が格納される計算済ドライバ表を保持する場合は、「計算済ドライバ表の詳細の作成」をチェックします。



注:

このオプションを選択すると、多数の表が生成されるため、事前に十分なストレージ・スペースがあることを確認する必要があります。処理時間が長くなる場合もあることに注意してください。

7. オプション: 複数のPOVを選択した場合は、「POVの失敗時にタスク・フローを中止」をチェックします。POVのいずれかが失敗した場合に計算が停止し、残りのPOVは計算されません。
8. 「単一の計算ルール・シーケンスの実行」を選択した場合は、個々のシーケンス番号を入力します。
9. データの転送の下で、データを転送するEssbase分析データベースを選択します。
  - ・ ソース・ステージ・データベース: ステージ接頭辞付きのソース・ステージ・ディメンション(ソース・メジャー・ディメンションなど)、属性ディメンション(関連する場合)およびMeasuresDetailedディメンションを含みます。また、レベル0でのソース・ステージの詳細を含みます。
  - ・ コントリビューション・データベース: ステージ接頭辞付きのソース・ステージ・ディメンション、ステージ接頭辞付きの宛先ステージ・ディメンション、MeasuresDetailedディメンション、属性ディメンション(関連する場合)を含みます。また、レベル0のコントリビューション表の詳細と1つのメジャーReceivedPriorStageを含みます。
  - ・ 宛先ステージ・データベース: ステージ接頭辞付きの宛先ステージ・ディメンション、宛先メジャー・ディメンション、属性ディメンション(関連する場合)を含みます。また、レベル0メンバーに集計された宛先ステージ表のデータを含みます。
10. オプション: カスタム・スクリプトを使用する場合は、実行する計算前または計算後のスクリプトの名前を入力します。

カスタム・スクリプトは、HPM製品スキーマのHPM\_SQL\_SCRIPTに格納されています。計算前または計算後のスクリプトについては、『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイド』を参照してください。

11. オプション: データへのアクセスに別のPOVを使用する場合には、「モデルとデータに同じPOVを使用」でこのオプションをオフにします。そうしないと、画面の上部で選択したPOVがモデルとデータの両方に使用されます。

データに異なるPOVを設定するには:

- a. 「モデルとデータに同じPOVを使用」チェック・ボックスをオフにして、POVの選択を有効にします。
- b. 「使用可能なデータPOV」で、新しいデータPOVとして年、期間、シナリオを選択します。
- c. 矢印キーを使用して、「選択したデータPOV」で選択したPOVを移動します。

- d. [331ページのステップ 11.b](#)と [331ページのステップ 11.c](#)を繰り返し、追加のデータPOVを作成します。

12. 次のいずれかのオプションを使用してモデルを計算します。

- 今後のスケジュール・データおよび実行時間の計算タスクを送信するには、「**後で実行**」をクリックします。確認メッセージに、ジョブが作成されたことと、割り当てられたタスクフローIDが識別されたことが示されます。[351ページの詳細Profitabilityタスクフローのスケジュール設定](#)を参照してください。



注:

タスクの作成時にこのオプションを選択していない場合、タスクはスケジュールできません。

- 「**今すぐ実行**」をクリックすると、計算がただちに実行されます。

確認メッセージに、ジョブが開始されたことと割り当てられたタスクフローIDが示されます。タスク・ステータスを監視するには、「**ジョブ・ステータス**」、「**ジョブ・ライブラリ**」の順に選択します。



注意

この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては長時間かかる可能性があります。

## ドライバ操作タイプ

「計算の管理」画面の「ドライバ操作タイプ」タブには、詳細Profitabilityの現在のドライバ操作タイプが表示されます。



注意

このタブでは新しいドライバ操作タイプを作成しないでください。このタブは、経験豊富なデータベース管理者のみが使用するようにしてください。変更すると、アプリケーションに大きく影響したり、モデルまたはデータを破損したりする場合があります。

「ドライバ操作タイプ」は、サポートされるドライバ操作を拡張するための管理機能です。パフォーマンスの問題や一意ドライバの課題を解決することができます。これを使用するには、高度なSQLの知識があり、データベース管理や、Profitability and Cost Managementの詳細Profitabilityアプリケーションのドキュメント化されていない機能について深く理解していることが必要です。カスタマ・サービスのリクエストに応じてOracleから求められないかぎりこの機能は使用しないでください。

## その他のプロセス・タイプ

このリリースの詳細Profitabilityでは、2つの代替計算プロセス・タイプを使用できます。

- Oracle Database 11g (デフォルト)
- Oracle Database 10g

Oracle Database 10gを使用するように構成されているシステムの場合は、「その他のプロセス・タイプ」タブを使用して、データベースに適した計算プロセスを選択します。



#### 注意

「その他のプロセス・タイプ」タブは、経験豊富なデータベース管理者のみが使用するようにしてください。「その他のプロセス・タイプ」ではその他の変更を行わないようにしてください。アプリケーションに大きく影響したり、モデルまたはデータを破損したりする場合があります。

詳細Profitabilityで使用しているOracle Databaseのバージョンに応じ、この画面を使用してデータベースを正しいバージョンに変更してください。

▶ Oracle Databaseのバージョンを変更するには:

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、Oracle Databaseのバージョンを変更するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から、「計算」、「計算の管理」の順に選択し、「その他のプロセス・タイプ」タブを選択します。



#### 注:

このタブが表示されるのは、管理者ユーザーの役割が割り当てられている場合のみです。

3. デイメンション・グループの同期を選択し、「編集」



をクリックします。

「その他のプロセス・タイプの定義」ダイアログ・ボックスが表示されます。

Process Type	Dialog Layout	Calculation Process	Description
<input type="checkbox"/> Row-Level Contribution	Row-Level Contribution	Default Row Level Contribution Process	
<input type="checkbox"/> Clear Calc Drop Tables	Clear Calc Drop Tables	Default Clear Data Drop Process	
<input type="checkbox"/> Clear Calc Clear Columns	Clear Calc Clear Columns	Default Clear Data Column Process	
<input type="checkbox"/> Clear Calc Delete Result Rows	Clear Calc Delete Result Rows	Default Clear Data Row Process	
<input type="checkbox"/> Bulk Edit Expansion	Bulk Edit Expansion	Bulk Edit Expansion Process	
<input type="checkbox"/> Tuple Import	Tuple Import	Tuple Import Process	
<input type="checkbox"/> Deploy Report Dimension Objects	Deploy Report Dimension Obj...	Deploy Report Dimension Objects	
<input type="checkbox"/> Database Object Grant	Database Object Grant	Database Object Grant	
<input checked="" type="checkbox"/> Dimension Group Synchronize	Dimension Group Synchronize	Dimension Group Synchronize	
<input type="checkbox"/> Create Dimension Group Members	Create Dimension Group Mem...	Create Dimension Group Members	
<input type="checkbox"/> Create Stage Balance View	Create Stage Balance View	Create Stage Balance View	

4. 「計算プロセス」で、使用しているOracle Databaseの適切なオプションを選択します:
  - デイメンション・グループの同期(Oracle 11g)
  - デイメンション・グループの同期 10G (Oracle 10g)
5. 「OK」をクリックして変更を保存します。

# 17

## 詳細Profitabilityモデルの検証

この項の内容:

詳細Profitabilityの検証について .....	335
詳細Profitabilityモデルの検証ルール .....	336
詳細Profitabilityモデル構造の検証 .....	336
詳細Profitabilityステージの貸借一致レポート .....	337
詳細Profitabilityのレベル0のコントリビューション・レポート .....	340

### 詳細Profitabilityの検証について

モデルはライフサイクルを通じて何回か検証する必要があります:

- モデル・データ登録が完了したら、モデルの残りの定義に進む前に、モデルで使用する表がすべて正常に登録されていることを確認するためにモデル・データ登録のモデル検証を実行します。
- モデルを構築後、モデル検証を実行し、モデルの構造がモデリング・ルールに準拠していることを確認します。
- モデルの計算後、ソース・ステージと宛先ステージの貸借一致レポートを生成し、モデルのすべての貸方記入と借方記入が一致することを確認します。

「モデル検証」画面で使用できるタブは読取り専用で、詳細Profitabilityモデル構造の問題がハイライトされます。

- モデル・データの登録
- ドライバ
- 計算ルール
- 未使用のドライバ
- 欠落しているドライバ割当て
- 割当てルール

エラーと欠落している情報が、対応する重大度とともに表示されます。モデル構造の検証サイクル中に発生したエラーは、モデルの構築または計算を続行する前に、修正する必要があります。

モデルに対して適切な検証を実行するには、次の各項を参照してください:

- [336ページの詳細Profitabilityモデルの検証ルール](#)
- [336ページの詳細Profitabilityモデル構造の検証](#)
- [337ページの詳細Profitabilityステージの貸借一致レポート](#)

- 339ページの未割当ての値
- 338ページのアイドル能力
- 339ページのOverDriven値
- 339ページのステージの貸借一致レポートの生成

## 詳細Profitabilityモデルの検証ルール

モデルは、モデルを計算する前に、一連のモデル検証ルールと照合して、構造が健全であることが検証されます。構造検証では次の条件が満たされているかどうかチェックされます:

- データ・モデル登録が有効であり、完了している
- ドライバが正しく形成されている
- 計算ルールが正しい
- すべてのドライバが使用されている
- 欠落しているドライバ割当てがない
- 割当てルールが正しい

構造上のエラーがあれば、モデルを計算する前に解決する必要があります。エラーをすべて修正し、モデルを送信して再度検証します。エラーの修正および再検証を何度か行う必要がある場合もあります。



---

ヒント:

状況によっては、あるエラーを修正した結果、別の問題が発生することがあります。このため、修正を行うたびにモデルを再検証すると有効です。

---

## 詳細Profitabilityモデル構造の検証

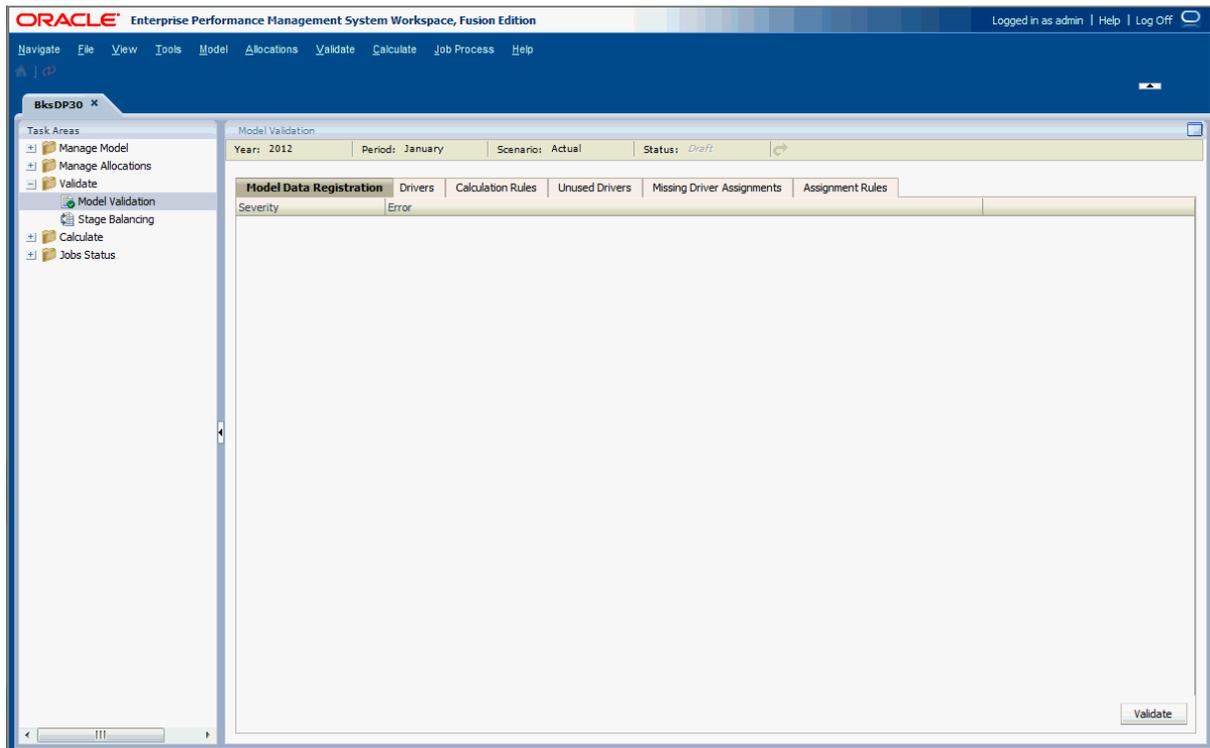
すべての必須モデリング・ルールが適用されていることを確認するために、計算の前に詳細Profitabilityモデル構造を検証する必要があります。

「モデル検証」画面の各タブにある「検証」をクリックし、アプリケーションの各コンポーネントを評価します。タブごとに検証を実行すると、エラーまたは警告が表示されます。

モデルを正しく計算するには、モデル構造に含まれるエラーをすべて修正する必要があります。

▶ モデル・ステージを検証するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「検証」、「モデル検証」の順に選択します。



3. 「モデル検証」画面で、検証するモデルのPOVを選択し、「POVステータスのロード」



をクリックします。

4. 次の各タブで「検証」をクリックし、検証を実行します。

- 列マッピングまたはメジャーに誤りがないかどうかを確認する場合は、「モデル・データの登録」タブを選択します。241ページの[詳細Profitabilityモデル・データの登録](#)を参照してください。
- ドライバにエラーがないかどうかを確認する場合は、「ドライバ」タブを選択します。281ページの[詳細Profitabilityドライバの定義](#)を参照してください。
- 「計算ルール」タブを選択すると、無効な計算ルールがある場合に表示されます。233ページの[計算ルールの操作](#)を参照してください。
- モデルに未割当てのドライバがないか、そのドライバが割当ての一部である必要があるかを確認する場合は、「未使用のドライバ」タブを選択します。ドライバを割り当てる必要がある場合は、293ページの[詳細Profitabilityドライバの操作](#)を参照してください。
- ドライバの選択が欠落しているすべてのソースの交差を表示する場合は、「欠落しているドライバ割当て」タブを選択します。293ページの[詳細Profitabilityドライバの操作](#)を参照してください。
- 無効な割当てルールを表示する場合は、「割当てルール」タブを選択します。308ページの[詳細Profitability割当てルールの操作](#)を参照してください。

検証が終了すると、画面が更新されて結果が表示されます。

5. 各タブで、エラーまたは警告の状態をすべて修正します。
6. すべてのタブのすべてのエラーを修正したら、エラーが検出されなくなるまで [167ページのステップ 1](#)からモデル検証を繰り返します。
7. 検証の完了後、モデルを計算します。321ページの第16章「[詳細Profitabilityモデルの計算](#)」を参照してください。

## 詳細Profitabilityステージの貸借一致レポート

モデルを計算後、「ステージの貸借一致」レポートを使用して、未割当ての費用を計上するため、入力値の貸借を一致させることで、実績を検証します。

ステージの貸借一致レポートを生成するには、次の条件が満たされている必要があります：

- データがロードされている必要があります
- モデル・データの登録と計算が済んでいる必要があります

「ステージの貸借一致」の構造には次の情報があります：

メジャー	説明
ステージ名	ソース・ステージの名前が表示されます。
入力	この値は、入力の貸借一致メジャーに関連付けられた値の要約です。
合計出力	ソース・ステージから割り当てられたすべての値の合計。 この値は、AssignedPostStage貸借一致のメジャーに関連付けられます。
アイドル	宛先に割り当てられていない入力がIdleCostの値です。IdleCostの計算結果は、ドライバ・タイプに応じて割り当てられます： <ul style="list-style-type: none"><li>• 比率ベースのドライバで「アイドルを許可」が選択されている場合、IdleCostはIdleDriverValue/OverrideTotalDriverValueの式を使用して生成されます。</li><li>• レートベースのドライバでは、配賦値の合計がソース・オブジェクトの入力値より小さい場合にIdleCostが生成されます。</li></ul>
OverDriven	ステージの貸借一致レポートに表示されるOverdriven額は、計算されたOverDriven値の合計額です。 この金額が、OverDriven貸借一致メジャーに関連付けられます。
未割当て	未割当て値の式は、次の計算と等しくなります： $\text{"合計入力"} - \text{"合計出力"} - \text{"アイドル"} + \text{OverDriven}$

ステージの貸借一致メジャーの詳細については、以下の項を参照してください：

- [338ページのアイドル能力](#)
- [339ページのOverDriven値](#)
- [339ページの未割当ての値](#)
- [339ページのステージの貸借一致レポートの生成](#)

## アイドル能力

フル能力またはフル容量という用語は、すべてのモデル・リソースがタスクまたは割当てを実行するために完全に使用されている状態を意味します。アイドル能力またはアイドル容量という用語は、モデル・リソースの一部が完全には使用されていない状態を示します。リソースを最大限に使用し、マシンのダウンタイムなどの非効率を監視するには、アイドル能力を追跡することを検討してください。

アイドル容量は、レートベースまたは比率ベースのドライバで作成されます。

- レートベースのドライバは、必要に応じて「アイドル」または「オーバードライブ」を自動的に作成します。
- 比率ベースのドライバは、「アイドルを許可」がチェックされている場合にのみアイドル容量を作成します。

アイドル能力を計算してレポートする機能は、ドライバを作成または変更するオプションを選択する際に、「アイドルを許可」チェック・ボックスを選択し、「ドライバ値メジャーの合計の上書き」を選択して値を配賦することによって設定します。「ドライバ値メジャーの合計の上書き」にある値が、配賦の比率の分母となります。

[281ページの詳細Profitabilityドライバの定義](#)を参照してください。

ステージ貸借一致レポートでアイドル費用を表示するには、[339ページのステージの貸借一致レポートの生成](#)を参照してください。

## OverDriven値

Profitability and Cost Managementでは、費用の移動先を制御する割当ての組合せと、移動する額を決定するドライバを使用して、ソースから宛先へ値を移動します。

宛先に実績以上の金額を移動することが可能です。OverDriven値は超過した額であり、ソースからすべての宛先に移動された実績金額を超えます。OverDrivenはメジャー・ディメンションの一部として報告されます。

ステージ貸借一致レポートでOverDriven値を表示するには、[339ページのステージの貸借一致レポートの生成](#)を参照してください。

## 未割当ての値

モデル内の値はすべて、特定のアクティビティ、製品、アカウントなどに割り当てる必要がありますが、一部の金額は未配賦のままにすることができます。これらの値は、「未割当て」として報告されます。

モデルの作成方法によっては、これらの未割当て値を想定および許容することもできますが、そうしない場合は、配賦のエラーが発生し、修正する必要があります。これらの金額の配賦が必要かどうかを決定する必要があります。「未割当て」の値は、メジャー・ディメンションの一部として報告されます。

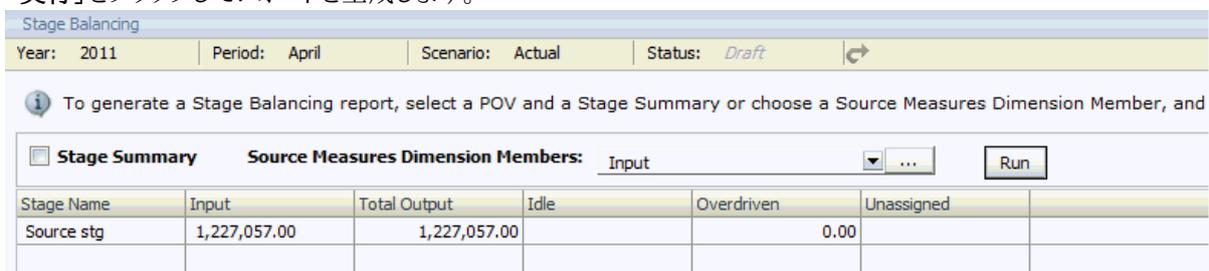
ステージ貸借一致レポートで「未割当て」の値を表示するには、[339ページのステージの貸借一致レポートの生成](#)を参照してください。

## ステージの貸借一致レポートの生成

▶ ステージの貸借一致レポートを生成するには:

1. 次の条件が満たされたことを確認します:
  - データ・モデルが登録されている
  - モデル・データが読み込まれている

- モデルが正常に計算されている
2. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
  3. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「検証」、「ステージの貸借一致」の順に選択します。
  4. 「ステージの貸借一致」画面でモデルのPOVを選択し、「POVステータスのロード」  
 をクリックします。
  5. 生成するステージ貸借一致レポートのタイプを選択します:
    - 「ステージの要約」をクリックして、ソース・ステージ全体に対する貸借一致のアクティビティの要約を表示します。
    - 「ソース・メジャー・ディメンション・メンバー」セレクトタから、選択したソース・メジャーに対する貸借一致アクティブの要約を表示するソース・メジャーを選択します。
  6. 「実行」をクリックしてレポートを生成します。



Stage Name	Input	Total Output	Idle	Overdriven	Unassigned
Source stg	1,227,057.00	1,227,057.00		0.00	

7. レポートを確認し、次の1つまたは複数の検証方法を使用して結果を確認します:
  - 入力合計 - 出力合計 - アイドル + オーバードライブ = 未割当ての値
  - ソース・ステージにロードされた通貨または残高データの合計 = 入力
  - 未割当ての値の合計 + アイドル - オーバードライブ = 入力
  - 事前定義のSmart View統合を「ステージの貸借一致」画面から起動することもできます。起動データ・ポイントは、「ステージの貸借一致」画面でハイパーリンクとして表示され、あるステージから別のステージに提供された値が存在します。入力または配賦データについて詳細にドリル・ダウンできます。たとえば、配賦の実行後に未割当コストへドリルダウンしたり、または同じ実行で使用された入力データを確認することができます。
8. オプション: レポートを印刷するには、ブラウザのメニューで「ファイル」、「印刷」の順に選択します。

## 詳細Profitabilityのレベル0のコントリビューション・レポート

一般的な詳細Profitabilityアプリケーションには、ソース・ステージと宛先ステージの間に1つ以上の重複するディメンションが含まれることがあります。たとえば、BksDP30サンプル・モデルでは、顧客ディメンションおよび製品ディメンションはソース・ステージと宛先ステージの両方で使用されます。

このため、レベル0のコントリビューション・ビュー(サンプル・モデルではHPMD\_BKSDP20\_LEVEL\_0\_CONTRIB\_V)には、これらの重複する各ディメンションに対して2つの列(ソース・コンテキスト用と宛先コンテキスト用)が含まれることになります。

このビューを使用してOracle BI EEでコントリビューション・レポートが正常に生成されるように、OBIEEの物理レイヤー内のシステム生成のディメンション・レポート用ビューを正しく登録する方法を習得して、それぞれがレベル0のコントリビューション・ビューのディメンション列の両方のセットに正しく結合されるようにする必要があります。物理レイ

ヤー内に、レベル0のビューから同じディメンションへの2つの別名表を作成する必要があります。たとえば、レベル0のビューは、ソース(SRC)用と宛先(DEST)用に1回ずつ顧客ディメンションに結合する必要があります。

次の手順では、この方法の例として、サンプル・モデル内の顧客ディメンションから階層ディメンション・ビューを使用しています。

## レベル0のコントリビューション・レポートの生成

▶ レベル0のコントリビューション・レポートを生成するには:

1. Oracle Business Intelligence Enterprise Editionにログインし、Profitability and Cost Management リポジトリに移動します。
2. 物理レイヤーで、レポートに使用するディメンション・ビューを右クリックし、「新規オブジェクト」、「別名」の順に選択します。

たとえば、別名表のモデルとしてサンプル・モデル内の「HPMD\_BKSDP20\_CUSTOMERS\_HIER\_V」をクリックします。

3. 新しいソース別名表の名前(HPMD\_BKSDP20\_SRCCUST\_HIER\_Vなど)を入力し、「OK」をクリックします。
4. 物理レイヤーで、ディメンション・ビューを再度右クリックして、「新規オブジェクト」、「別名」の順に選択します。
5. 新しい宛先別名表の名前(HPMD\_BKSDP20\_DESTCUST\_HIER\_Vなど)を入力し、「OK」をクリックします。
6. 物理レイヤーで、次のオブジェクトを選択し、右クリックして「物理ダイアグラム - 選択したオブジェクトのみ」を選択します:

HPMD\_BKSDP20\_SRCCUST\_HIER\_V

HPMD\_BKSDP20\_DESTCUST\_HIER\_V

HPMD\_BKSDP20\_LEVEL\_0\_CONTRIB\_V

7. ダイアグラムで、新しい別名表それぞれとレベル0のコントリビューション・ビューの間に物理結合を作成します。
8. ソース別名表および宛先別名表をビジネス・モデル・レイヤーにドラッグします。
9. プレゼンテーション・レイヤーで、レベル0のレポートを変更して、新しい別名表それぞれからの列を含めます。

物理表および別名の操作の詳細は、*Oracle Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Edition メタデータ・リポジトリ作成者ガイド 11gリリース(11.1.1)*の第7章:「物理表、キューブおよび結合での作業」を参照してください。



---

# 18

## 詳細Profitabilityの ジョブ・ステータスの監視

---

### この項の内容:

ジョブ・ライブラリ .....	343
詳細Profitabilityタスクフローの管理 .....	346
詳細Profitabilityタスクフロー情報の表示 .....	347
詳細Profitabilityタスクフロー・ステータスの表示 .....	348
詳細Profitabilityタスクの詳細の表示 .....	350
詳細Profitabilityタスクフローのスケジュール設定 .....	351

# ジョブ・ライブラリ

## サブトピック

- [ジョブ・ライブラリ・ジョブ・タイプ](#)
- [ジョブ・ライブラリの表示](#)

「ジョブ・ライブラリ」には、詳細Profitabilityアプリケーションのすべてのモデルおよびすべてのユーザーに対して現在発行されている、またはスケジュールされているジョブがリストされます。

「ジョブ・ライブラリ」の列をクリックして、「開始日」と「時間」、「アプリケーション名」、「ジョブ・タイプ」、「コメント」、「ユーザー」、「タスク・フローID」、「ステータス・メッセージ」を基準にしてジョブをソートします。再度クリックすると、逆順でソートします。

## ジョブ・ライブラリ・ジョブ・タイプ

処理できるジョブには4つのタイプがあり、ジョブ・ライブラリでの「ジョブの詳細」情報は、ジョブ・タイプに応じて変化します。

### • 配賦計算

- ジョブの詳細: 処理オプション、カスタム・スクリプト、およびモデルとデータのPOV
- ジョブの終了: ジョブが終了する日時
- ODLタスクID

[329ページの詳細Profitabilityの計算の管理](#)の「計算の管理」タブを参照してください。

### • バルク編集の適用

- ジョブの詳細: POVと「選択項目の編集」(ソース・ルールと宛先ドライバまたは宛先ルール)
- ジョブの終了: ジョブが終了する日時
- ODLタスクID

[299ページのバルク・エディタの操作](#)を参照してください。

### • POVのコピー

- ジョブの詳細: 選択されたソースおよびターゲットのPOVを示す「POVのコピー」と「構成のコピー」
- インポートの「ステージング表の選択」
- ジョブの終了: ジョブが終了する日時
- ODLタスクID

[274ページのPOVのコピー](#)を参照してください。

### • ステージング表のインポート

- ジョブの詳細: インポートの構成
- JDBC接続
- インポートの「ステージング表の選択」
- ジョブの終了: ジョブが終了する日時

[278ページの詳細Profitabilityのステージング表のインポート](#)を参照してください。

## ジョブ・ライブラリの表示

▶ ジョブ・ライブラリを表示するには:

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ジョブが発行されている対象のアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「ジョブ・ステータス」、「ジョブ・ライブラリ」の順に選択します。
3. 「ジョブ・リスト」には、各ジョブの情報が表示されます。
  - ・「開始日時」には、ジョブが発行された、または実行をスケジュールされた日付と時刻が実行されます。
  - ・「アプリケーション」には、タスクが実行されているアプリケーションの名前が表示されます。
  - ・「ジョブ・タイプ」には、実行されるタスクのタイプが表示されます。[344ページのジョブ・ライブラリ・ジョブ・タイプ](#)を参照してください
  - ・「コメント」には、初期実行、バルク編集、ドライバの追加など特定のジョブに関してユーザーが入力したメモや詳細が表示されます。コメントはタスクの発行時に入力されます。
  - ・「ユーザー」には、処理するタスクを発行した個人のユーザーIDが示されます。
  - ・「タスク・フローID」は、特定のタスクに対してシステム生成されるタスクのIDで、`<application name>:<task name><generated taskflow number>`というフォーマットです。

たとえば、生成されるタスクフロー番号は、**Demo04\_RunCalcs\_D20111103T183447\_fbe**のように表示されます。この場合、**Demo04**がアプリケーション名、**RunCalcs**がタスク、**D20111103T183447\_fbe**が生成されたタスクフローのインスタンスIDです。[346ページの詳細Profitabilityタスクフローの管理](#)を参照してください。

- ・「ステータス」には、「実行中」、「成功」または「失敗」などの、タスクフローの現在のステータスに関するメッセージが表示されます。
  - ・ エラー
  - ・ 警告
4. オプション: 「ジョブの詳細」の下で、ハイライトされたジョブの実行に使用されるジョブ・オプションを確認します。詳細のフォーマットは、ハイライトされているジョブ・タイプに応じて異なります。「処理のオプション」、「カスタム・スクリプト」、「POVオプション」は、該当する場合に表示されます。

詳細は、[344ページのジョブ・ライブラリ・ジョブ・タイプ](#)を参照してください。

5. オプション: ジョブを検索するには、各列の下部にある「検索」テキスト・ボックスにテキストを入力して検索します。[38ページの検索機能の使用](#)を参照してください。
6. 「ジョブの終了」の下で、ハイライトされたタスクが完了した日時を確認します。
7. 「ODLタスクID」の下で、ハイライトされたジョブのIDを確認すると、エラーや警告メッセージをhpcm.logで探しやすくなります。

hpcm.logファイルで、「検索」と「ODLタスクID」を使用して、選択したジョブのログ詳細テキストの開始を探します。ログ・エントリーの開始を見つけたら、下方向に検索して、ファイルで"ERROR"を探します。

8. オプション: 必要に応じて、「ジョブの停止」をクリックして、「実行中」ステータスのハイライトされたタスクを終了します。



---

#### 注意

ボタンを押した後でタスクフローがすぐに停止する場合は、データの状態が一貫するように、結果に影響するアクティビティに追加の時間が必要なことがあります。

---

EPM Workspaceタスクフローの使用の詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspaceユーザーガイド』を参照してください。

## 詳細Profitabilityタスクフローの管理

タスクフローを使用すると、ビジネス・プロセスの全体または一部を自動化できます。タスクは、一連のプロシージャ・ルールに従って、特定のタスクフロー参加者から別の参加者に渡されます。詳細Profitability and Cost Managementでは、次のような場合にタスクフローが作成されます：

- ステージング表がインポートされている
- POVデータがコピーされている
- 統計算が実行されている
- バルク編集の機能を使用して、モデル要素が作成または削除されている
- キューブ・デプロイメント
- アプリケーションの作成
- アプリケーションの複製
- 事前更新分析
- デイメンションの更新
- アプリケーションの削除



---

#### 注：

タスクフローは、モデルのコンテンツまたは構造を検証するときには使用できません。

---

タスクフローIDは各タスクに対して自動的に生成されます。タスクを実行するたびに、新しいタスクIDが生成されます。タスクフローには、1つまたは複数のステップが含まれます。各タスクフロー・ステップは、Profitability and Cost Managementでの1つのアクションを表します。

タスクフローを開始すると、タスクフロー・ステップが作成され、タスクフローID (例、'Demo04\_RunCalcs\_D20111103T183447\_fbe')が割り当てられます。IDにより、タスクフローの進行状況を監視できます。タスクフロー・インスタンスを開始するたびに、新しいタスクフローIDが作成されます。タスクフローは、中断または再開すると、常にステップ1から開始されます。

タスクフロー・ステップは、最初のステップから順に実行されます。1つのステップの結果が生成されると、次のステップが開始されます。タスクフローのすべてのステップが実行されたときに初めてステータスが完了となります。

「タスク領域」の「ジョブのステータス」オプションを使用すると、タスクフローのステータスおよび詳細を表示したり、1度のみか繰り返し発生するタスクフローの実行をスケジュールできます。

「ジョブのステータス」監視オプションにアクセスするには、次の条件を満たしている必要があります:

- Profitability and Cost Managementが外部認証およびShared Services機能を使用するように構成されている必要があります。『Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド』を参照してください。
- タスクフロー・ユーザーがタスクフロー操作を実行するには、次に示すShared Servicesのいずれかの役割が割り当てられている必要があります:
  - タスクフローの管理 - タスクフローの作成と編集が許可されます。
  - タスクフローの実行 - タスクフローの実行と表示のみが許可されます。この役割を割り当てられたユーザーは、タスクフローの作成や編集を行うことはできません。



注:

Shared Servicesのどちらの役割もグローバル・ユーザーの役割です。これらの役割を割り当てられたユーザーは、任意のアプリケーションや製品のタスクフローを変更または実行できます。『Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド』を参照してください。



注意

各「タスクフロー」画面でステップおよびリンクを追加または削除して、新しいタスクフローを作成することもできますが、詳細Profitability and Cost Managementタスクフローは変更しないことをお勧めします。その他の製品のEPM Workspaceタスクフローの使用の詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspaceユーザー・ガイド』を参照してください。

タスクフローを監視およびスケジュールするには、次の手順を使用します:

- [194ページのタスクフロー情報の表示](#)
- [195ページのタスクフローのステータスの表示](#)
- [197ページのタスクの詳細の表示](#)
- [198ページのタスクフローのスケジュール](#)

## 詳細Profitabilityタスクフロー情報の表示

「タスクフローのリスト(要約)」には、選択されているアプリケーションの既存のタスクフローと各タスクフローの基本的な詳細が表示されます。

▶ タスクフロー情報を表示するには:

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ジョブが発行されている対象のアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「ジョブ・ステータス」、「タスク・フローの管理」の順に選択します。

要約には、選択されているアプリケーションに存在する各タスクフローについて、次の情報が表示されます:

- ・「アプリケーション」には、アプリケーション名が表示されます。
- ・「タスクフロー」には、生成されたタスクフロー番号が<アプリケーション名>:<タスク名><生成されたタスクフロー番号>という形式で表示されます。
- ・「作成者」には、タスクフローを作成したユーザーのIDが表示されます。
- ・「説明」には、タスクの簡単な説明が表示されます。

Application	TaskFlow	Created By	Description
b72	b72_CalcScripts_D20111025T022206_2dc	admin	Process calc scripts task
b72	b72_DeployCube_D20111025T020728_e77	admin	Cube deploy task
b72	b72_DeployCube_D20111025T021416_7ee	admin	Cube deploy task
b72	b72_DeployCube_D20111025T031311_389	admin	Cube deploy task
Bikes52	Bikes52_CalcScripts_D20111025T022804_203	admin	Process calc scripts task
Bikes52	Bikes52_DeployCube_D20111025T021011_dbe	admin	Cube deploy task
Bikes52	Bikes52_DeployCube_D20111025T021458_b76	admin	Cube deploy task
Bikes52	Bikes52_ImportStaging_D20111025T020513_ee6	admin	Import staging DB task
Bikes72	Bikes72_CalcScripts_D20111021T100539_8f9	admin	Process calc scripts task
Bikes72	Bikes72_DeployCube_D20111021T093635_7f8	admin	Cube deploy task
Bikes72	Bikes72_DeployCube_D20111021T094019_bd9	admin	Cube deploy task
Bikes72	Bikes72_DeployCube_D20111021T095659_c08	admin	Cube deploy task
Bikes72	Bikes72_DeployCube_D20111021T095719_146	admin	Cube deploy task
Bikes72	Bikes72_DeployCube_D20111024T082152_bea	admin	Cube deploy task
Bikes72	Bikes72_DeployCube_D20111024T084757_6fa	admin	Cube deploy task
Bikes72	Bikes72_DeployCube_D20111024T085319_ab1	admin	Cube deploy task
kate1	kate1_BulkEdit_D20111025T035849_20b	admin	Perform bulk edit task
kate1	kate1_BulkEdit_D20111025T042942_d8b	admin	Perform bulk edit task
kate1	kate1_RunCalcs_D20111025T033754_311	admin	Run calculation task
mm1FF	mm1FF_RunCalcs_D20111024T115015_f9c	admin	Run calculation task

3. オプション: タスクフローの横にあるラジオ・ボタンをクリックし、「タスクフローのスケジュール」をクリックすると、タスクの実行をより都合のよい時間または日付にスケジュールできます。
4. タスクフローのリスト(要約)画面を使用して、タスクフローの削除やタスクフローの実行のスケジュールなど、様々なアクションを実行します。EPM Workspaceタスクフローの使用の詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspaceユーザー・ガイド』を参照してください。

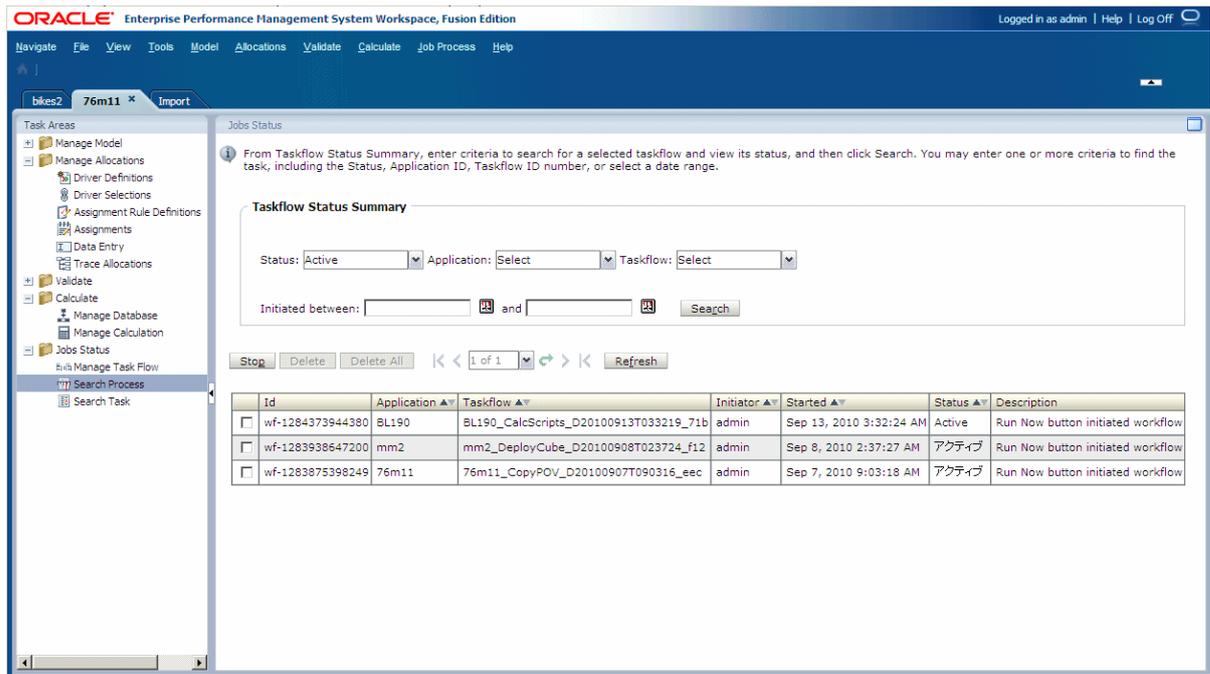
## 詳細Profitabilityタスクフロー・ステータスの表示

タスクフロー・ステータス(要約)画面では、既存のタスクフローのステータスを表示または更新できます。また、タスクフロー・リストをフィルタ処理し、特定のステータスまたは日付範囲を持つタスクフローを表示することもできます。

生成されるタスクフロー・ステップごとに、参加者IDが生成されます。関連する参加者の要約の詳細を表示するには、個々のタスクフローをドリルダウンします。

▶ タスクフローのステータスを表示するには:

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ジョブが発行されている対象のアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「ジョブ・ステータス」、「プロセスの検索」の順に選択します。



3. タスクフローを検索するための検索条件を1つまたは複数選択します:

a. 「ステータス」で、タスクフローのステータスを選択します:

- アクティブ
- 完了
- 停止済
- すべて

b. 「アプリケーション」で、アプリケーションIDを選択します。

c. 「タスクフロー」で、タスクフローIDを選択します。

d. 「開始期間」で、「カレンダー」



をクリックし、検索範囲の開始日と終了日を選択します。



注:

必要に応じ、すべての検索フィールドを空白のままにしてすべてのタスクフローを表示するか、検索条件をできるだけ具体的にして結果を絞り込みます。

4. 「検索」をクリックします。

検索結果は、画面の下部に表示されます:

- ID (これは、タスクフローに自動的に生成された参加者IDです。)
- アプリケーションID
- タスクフローID
- タスクフローの開始元
- タスクフローの実行が開始された時間

- タスクフローの現在のステータス
  - タスクフローの説明
5. オプション: 「リフレッシュ」をクリックし、ステータス情報を更新します。
  6. オプション: マルチステップ・タスクフローの現在実行されているステップを終了するには、該当するタスクフローの横にあるチェック・ボックスを選択し、「停止」をクリックします。

選択したステップの結果がアプリケーションから戻されると、タスクフローは停止します。それまでのステップの結果が破棄されることはありません。ただし、タスクフローを再実行すると、最初のステップから開始されます。

7. オプション: タスクフローの詳細およびステータスを表示するには、タスクフロー名をダブルクリックします。

タスクフロー参加者(要約)が表示され、タスクの詳細およびステータスが示されます。

8. 「取消し」をクリックし、タスクフロー・ステータス(要約)に戻ります。

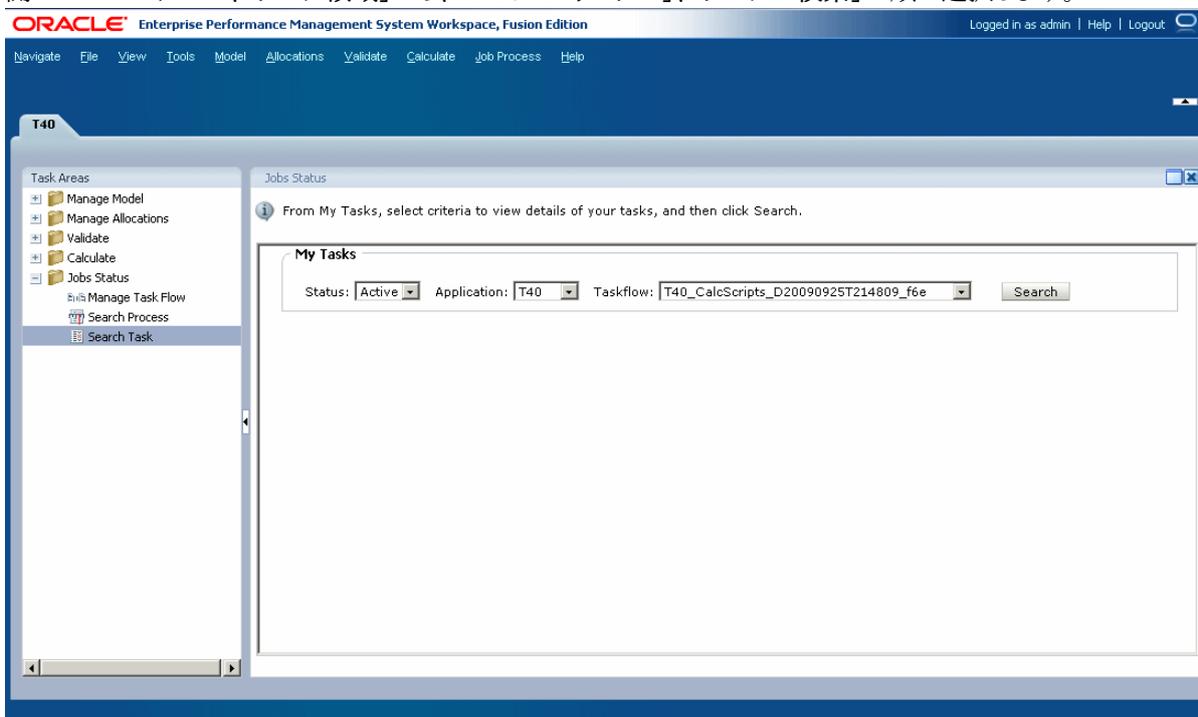
## 詳細Profitabilityタスクの詳細の表示

「タスクの詳細」オプションを使用すると、既存のタスクフローの詳細を表示できます。

タスクを実行するたびに、新しいタスクIDが生成されます。

▶ タスクの詳細を表示するには:

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ジョブが発行されている対象のアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「ジョブ・ステータス」、「タスクの検索」の順に選択します。



3. 「マイ・タスク」で、タスクフローを検索するための検索条件を1つまたは複数選択します:
  - a. 「ステータス」で、「新規」、「アクティブ」、「完了」、「すべて」などのステータスを選択します。
  - b. 「アプリケーション」で、アプリケーションIDを選択します。

- c. 「タスクフロー」で、生成されたタスクフローIDを選択します。



注:

必要に応じ、すべての検索フィールドを空白のままにしてすべてのタスクフローを表示するか、検索条件をできるかぎり具体的にして結果を絞り込みます。

4. 「検索」をクリックします。

検索結果が表示されます。

5. オプション: 右向きまたは左向きの矢印を使用して、結果をスクロールします。現在のページ番号と合計ページ数が表示されます。
6. オプション: 「リフレッシュ」をクリックし、ステータス情報を更新します。
7. タスクフローを選択し、ステータスの表示をクリックします。

タスクフロー参加者(要約)が表示され、ジョブの詳細および、タスクフロー内で選択されているステップの現在のステータスが示されます。

8. 「取消し」をクリックし、「ジョブ・ステータス」画面に戻ります。

## 詳細Profitabilityタスクフローのスケジュール設定

1度のみか繰り返し発生するタスクフローの実行をスケジュールできます。



注:

タスクフローをスケジュールするには、タスクを作成するときに「後で実行」オプションを選択しておく必要があります。

▶ タスクフローをスケジュールするには:

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ジョブが発行されている対象のアプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「ジョブ・ステータス」、「タスク・フローの管理」の順に選択します。

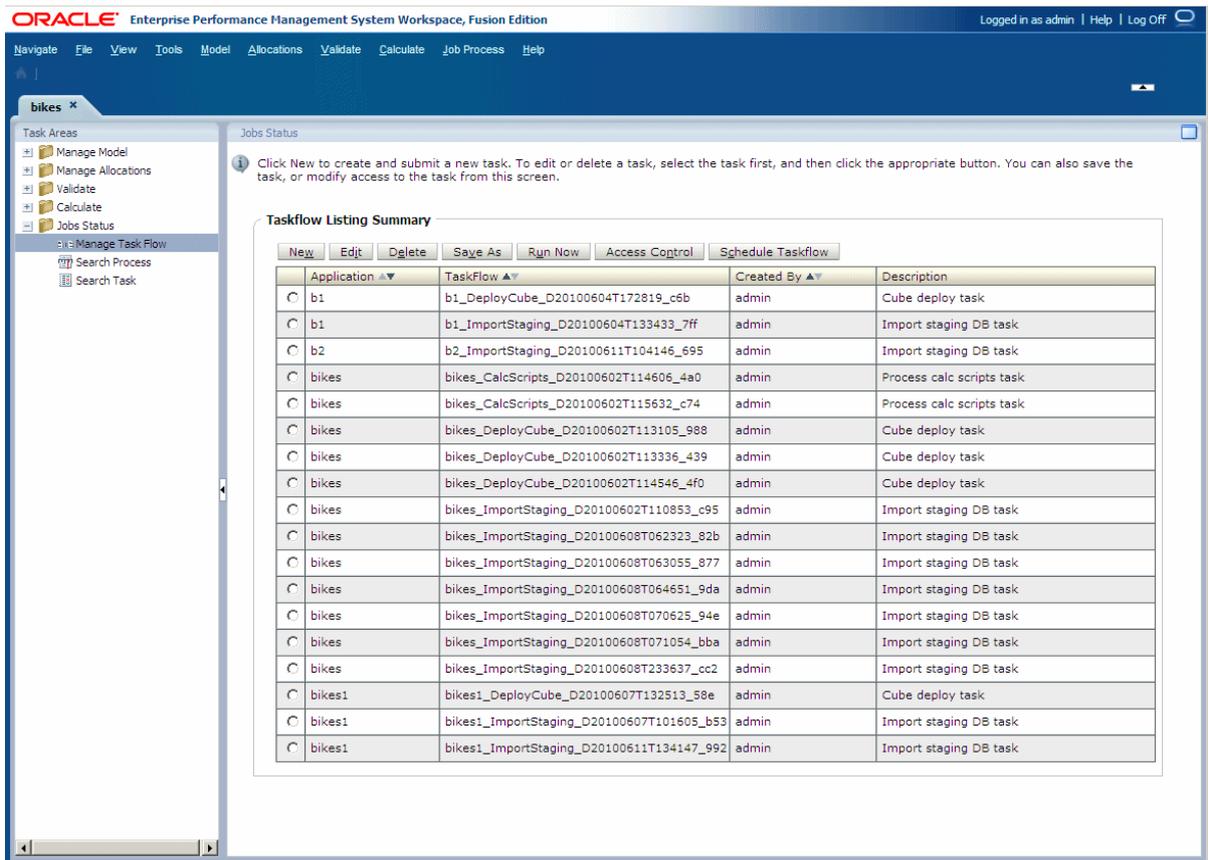
「タスクフローのリスト(要約)」画面には、既存の各タスクフローについて次の情報が表示されます。

- 「アプリケーション」には、アプリケーション名が表示されます。
- 「タスクフロー」には、生成されたタスクフロー番号が<アプリケーション名>:<タスク名><生成されたタスクフロー番号>という形式で表示されます。
- 「作成者」には、タスクフローを作成したユーザーのIDが表示されます。
- 「説明」には、タスクの簡単な説明が表示されます。

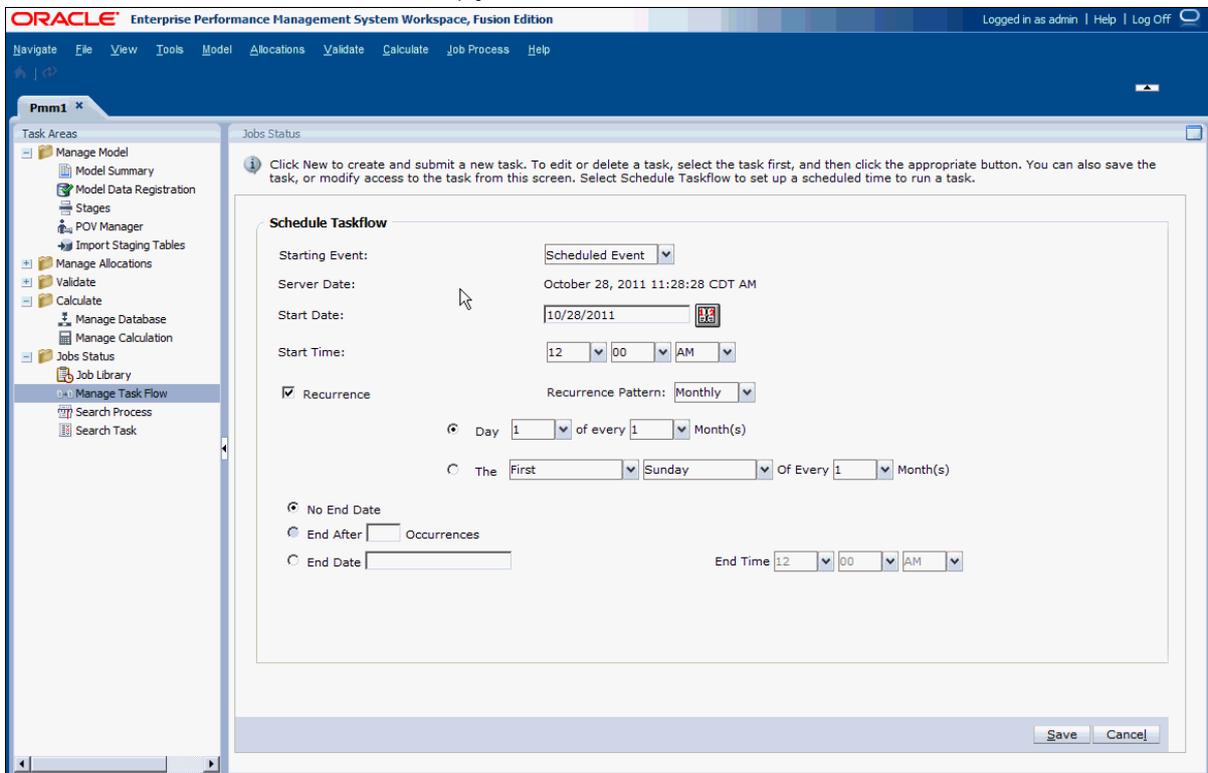


注:

タスクを実行するたびに、新しいタスクIDが生成されます。



3. タスクの作成時に「後で実行」オプションを選択したタスクフローの横のチェック・ボックスを選択します。
4. タスクフローのスケジュールをクリックします。



5. 「開始イベント」で、「スケジュール済イベント」を選択します。

「サーバーの日付」が表示されます。

6. 「開始日」で、「カレンダー」



をクリックし、タスクフローの実行をスケジュールする日付を選択します。

7. 「開始時刻」で、ドロップダウン・リストを使用し、タスクフローの開始をスケジュールする時刻を選択します。

時間および分を選択し、実行時間を午前または午後のいずれかに設定する必要があります。

8. オプション: ジョブを繰り返し実行するようにスケジュールする手順は、次のとおりです:

- 繰り返しを選択します。
- 繰り返しパターンで、「月次」または「週次」などの頻度を選択します。
- 繰り返しの設定を選択し、次の例に示すように必要な変数を入力します:

•  $x$ か月ごとの月の第 $x$ 日

•  $x$ か月ごとの週の $x$ 曜日

9. オプション: タスクフローを、手動で取り消されるか削除されるまで実行するようにスケジュールするには、終了日なしを選択します。
10. オプション: タスクフローを指定した回数実行するようにスケジュールするには、 $x$ 回後に終了を選択します。テキスト・ボックスにジョブを実行する回数を入力します。



---

注:

このオプションは、「1日ごと」または「1週間ごと」の「繰り返し」スケジュールが選択されている場合にのみ使用できます。

---

11. オプション: 指定した日付までタスクフローを実行するには、「終了日」を選択し、最後に実行する日時を選択します:

- a. 「終了日」で、「カレンダー」



をクリックし、日付を選択します。



---

注:

「カレンダー」は、「終了日」オプションを選択している場合にのみ表示されます。

---

- b. 「終了時間」で、最後に実行する時刻を選択します。時間および分を選択し、午前または午後のいずれかを選択する必要があります。

12. 「保存」をクリックして、スケジュールしたジョブを保存します。

スケジュールどおりにタスクフローが実行されます。



---

## パート IV

# 管理元帳アプリケーションの操作

---

### 目次

ドキュメントのアクセシビリティについて .....	11
ドキュメントのフィードバック .....	12
19. 管理元帳モデルおよびシナリオについて .....	357
20. 管理元帳Profitabilityアプリケーションのディメンション .....	361
21. 管理元帳モデルの管理 .....	367
22. 管理元帳の配賦の操作 .....	381
23. 管理元帳モデルの検証 .....	421
24. 管理元帳モデルのデプロイおよび計算 .....	431
25. 管理元帳のジョブ・ステータスのモニタリング .....	437
26. 管理元帳の問合せおよびレポートの操作 .....	441

---



# 19

## 管理元帳モデルおよびシナリオについて

この項の内容:

管理元帳モデルの要素 .....	357
管理元帳モデルを設計および作成する手順 .....	357
管理元帳ワークスペース .....	358

### 管理元帳モデルの要素

管理元帳モデルは企業の一部または全体を表し、企業の勘定科目および一般会計に相当する費用および収益カテゴリを含んでいます。Profitability and Cost Managementモデルを使用することで、企業内の費用および収益に影響を与えるプロセスや活動を正確にトレースできます。

管理元帳モデルは次の要素で構成されます:

- デイメンションは、値を取得および保存するためのビジネス・データの編成に使用されるデータ・カテゴリです。
- ドライバ - 費用または収益のソース値の計算および配賦方法を定義します。選択されているドライバは、デイメンション全体に適用することも、階層の一部、単一のメンバー、さらには単一の交差に適用することもできます。
- 費用および収入に関する財務データ - データ・ファイルを介してEssbaseに直接インポートするか、Profitability and Cost Managementを使用して手動で入力します。

これらのデイメンション・タイプの使用の詳細は、[361ページの第20章「管理元帳Profitabilityアプリケーションのデイメンション」](#)および*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect*管理ガイドを参照してください。

これらの要素を組み合わせ、モデル内の配賦ポイントを整理して論理的なフローに編成します。注意深くモデルを作成することで、実際のプロセスおよび活動を網羅し、現実的に費用と収入を配賦することができます。

ビジネス、システムおよびPOVデイメンションは、Performance Management ArchitectまたはProfitabilityアプリケーション・マネージャで作成され、Profitability and Cost Managementリレーショナル・データベースにデプロイされます。ルール・セットおよびルールは、Profitability and Cost Managementで作成されます。

企業の現在の状況を反映したモデルを作成後、「POVのコピー」機能を使用して、ベース・モデルの別バージョンを作成できます。シナリオまたは仮定シナリオは、新しい機会および戦略の潜在的な収益性の予測や、代替案またはモデルの変更の評価を実行できる、リスクのない方法です。

### 管理元帳モデルを設計および作成する手順

Profitability and Cost Managementの管理元帳モデルの作成は、次の手順で行う必要があります:

1. Profitability and Cost Managementでモデルを作成する前に、要件および必要な配賦方法を定義します。

モデルのビジネス要件と、レポートに対する要求を明確にする必要があります。紙と鉛筆、関係者とのディスカッション、フローチャート、ダイアグラム用ソフトウェアなどのツールを使用して、目標を達成するためにモデルに必要とされる概念を固めていきます。場合によっては、最初を実現する必要がある目標を決定してから、目標を満たす最適の戦略を構築するというように、逆算して作業していく方法も有効です。

Essbaseアウトラインをデザインする場合は、レポートの目的と要件を綿密に定義します。アウトラインのデザインに労力を投資すると、よいレポートが生成されるという形で報われます。データベース・アウトラインの作成の詳細は、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。

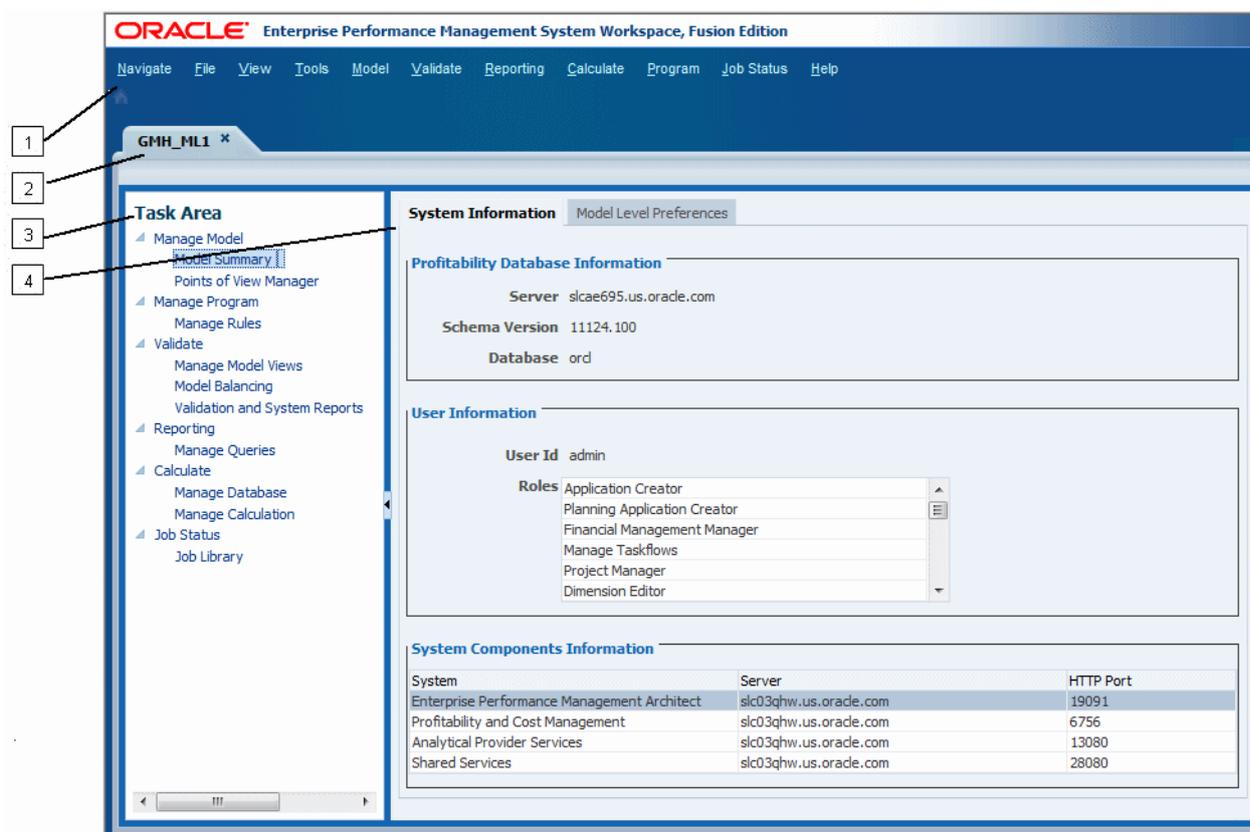
2. Performance Management ArchitectまたはProfitabilityアプリケーション・マネージャを使用して、ディメンション(ルール、残高、ビジネス・ディメンション、POVディメンションなど)を定義し、モデル内に主なオブジェクトを構築します。361ページの第20章「管理元帳Profitabilityアプリケーションのディメンション」を参照してください。ディメンションの選択手順については、『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイド』を参照してください。ディメンションを作成するその他の方法は、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイドの付録AおよびBを参照してください。
3. 費用と収益のデータの計算方法を指定するドライバを指定します。これらはルールを定義するときに追加されず(381ページの第22章「管理元帳の配賦の操作」)。
4. 381ページの第22章「管理元帳の配賦の操作」の説明に従い、計算のルール・セットとルールを作成します。
5. 管理元帳モデル構造を検証し、検証ルールに適合していることを確認します(421ページの第23章「管理元帳モデルの検証」)。
6. Essbaseデータベースを作成し、Profitability and Cost Managementにより、または直接Essbaseデータベースに、費用およびドライバ・データを移入します。『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイド』を参照してください。
7. 管理元帳データベースをデプロイします。431ページの管理元帳データベースのデプロイを参照してください。
8. モデルを計算します(431ページの第24章「管理元帳モデルのデプロイおよび計算」)。
9. レポート作成ツール(Financial Reporting, Smart ViewまたはWeb Analysis)やProfitability and Cost Management内のシステム・レポートを使用して、計算結果についてレポートを作成します。配賦のトレース機能を使用して、モデル全体における資金フロー(前方または後方)を視覚的に追跡できます。441ページの第26章「管理元帳の問合せおよびレポートの操作」を参照してください。

## 管理元帳ワークスペース

EPM WorkspaceからアクセスできるProfitability and Cost Managementワークスペースには2つの主な領域があります(359ページの図6)。

- ・「**タスク領域**」ペインでは、モデルの構築、検証および計算、または結果のレポートに必要なプロセスに移動できます。
- ・「**コンテンツ**」ペインでは、タスク情報を表示したり、データを入力または変更できます。また、モデルおよびそのデータの作成やメンテナンスに関連したタスクも実行できます。

図6 管理元帳アプリケーションのメイン・ワークスペース



Profitability and Cost Managementワークスペースには、次のアイテムがあります：

1. ウィンドウの上部にあるPerformance Management Architectのメイン・メニューには、共通のEPM Workspaceメニュー・オプション(「ナビゲート」、「ファイル」、「表示」、「ツール」)に加えて、Profitability and Cost Managementメイン・メニュー・オプション(「モデル」、「検証」、「レポート」、「計算」、「プログラム」、「ジョブ・ステータス」、「ヘルプ」)が表示されます。
2. 「アプリケーション名」タブに、現在アクティブなアプリケーションの名前が表示されます。
3. 「タスク領域」リストは、モデル構造の構築、変更、検証、およびモデルの計算に必要なタスクの選択に使用します。また、レポートの生成や、モデル全体における配賦チェーンの調査が可能です。



注：

タスク領域を変更する際、現在のタスクに存在するPOV(視点)選択は保持されます。この機能を使用すると、POVを選択する必要がなく、画面間を移動できます。ユーザーがPOVの選択を変更して、POVの「リフレッシュ」アイコンをクリックしないかぎり、POVの選択状態は変化しません。

4. 「コンテンツ」ペインには、「モデルの要約」など、現在選択されているタスクの画面が表示されます。



## この項の内容:

<a href="#">管理元帳のディメンションについて</a> .....	361
<a href="#">管理元帳のシステム・ディメンション</a> .....	362

## 管理元帳のディメンションについて

Profitability and Cost Managementは、Performance Management ArchitectまたはEssbaseとProfitabilityアプリケーション・マネージャで作成されたディメンションとメンバーを使用して、ビジネス・モデルの多数の構造要素を表します。

ディメンション・タイプは、事前定義された機能を使用可能にするディメンション・プロパティです。ディメンション・タイプの特定の特性により、ディメンションの動作と機能を管理します。Profitability and Cost Management、Performance Management Architectおよび他のEPM Workspace製品で特定のディメンション・タイプを共有できるため、様々な製品のディメンションの機能を活用できます。

すべてのアプリケーション・タイプに共通するProfitability and Cost Managementのディメンションの重要な情報は、次の各項を参照してください。

- [22ページのProfitability and Cost Managementのディメンションについて](#)
- [24ページの共通のディメンション・タイプ](#)
  - [25ページのProfitability and Cost Managementのビジネス・ディメンション](#)
  - [26ページのProfitability and Cost ManagementのPOVディメンション](#)
  - [27ページのProfitability and Cost Managementの属性ディメンション](#)
  - [27ページのProfitability and Cost Managementの別名ディメンション](#)

[362ページの管理元帳のシステム・ディメンション](#)では、管理元帳のアプリケーションとモデルに固有のシステム・ディメンションについて説明します。

## 管理元帳ディメンションの要件

データベース・アウトラインは、モデルのデータ構造を提供し、計算指示や式を含んでいます。Essbaseアウトラインのディメンションは階層型です。データはディメンションの交差に格納されます。次に管理元帳Profitabilityディメンションの要件を示します。

- アプリケーションまたはモデルは少なくとも1つのPOVディメンションを含む必要があり、4つまでPOVディメンションを含むことができます。

- アプリケーションは、ルールという名前のシステム・ディメンションを1つのみ含む必要があります。

ユーザーは、ルール・ディメンションの変更やメンバーの追加を行うことができます(たとえば、R1001からR1500)。必要に応じて、このディメンションを編集することもできます。ルール・ディメンションの計算プログラム・メンバーは編集できません。

- アプリケーションは、残高という名前のシステム・ディメンションを1つのみ含む必要があります。

残高ディメンションのシステム・ディメンション・メンバーは編集できません。ただし、ユーザーがかわりの階層を追加することはできます。

- 少なくとも1つのビジネス・ディメンションで、重複したメンバーが含まれないようにする必要があります。

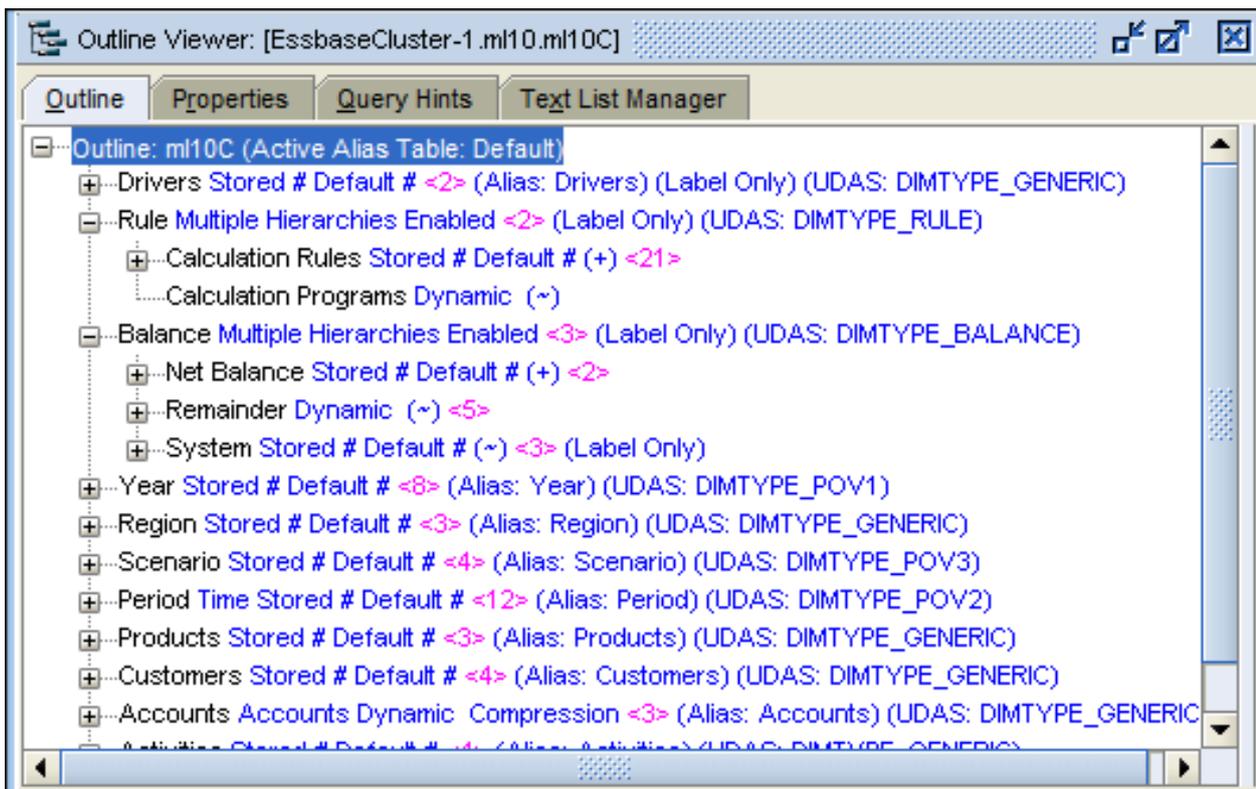


#### 注意

同じディメンション内でメンバーを繰り返すことはできません。ただし、複数のディメンションであればメンバーを繰り返すことができます。

362ページの図 7は、Essbaseコンソールに表示された、管理元帳ProfitabilityデータベースのEssbaseアウトラインの例を示しています。

図7 管理元帳ProfitabilityデータベースのEssbaseアウトライン



# 管理元帳のシステム・ディメンション

## サブトピック

- [管理元帳のルール・ディメンション](#)
- [管理元帳の残高ディメンション](#)

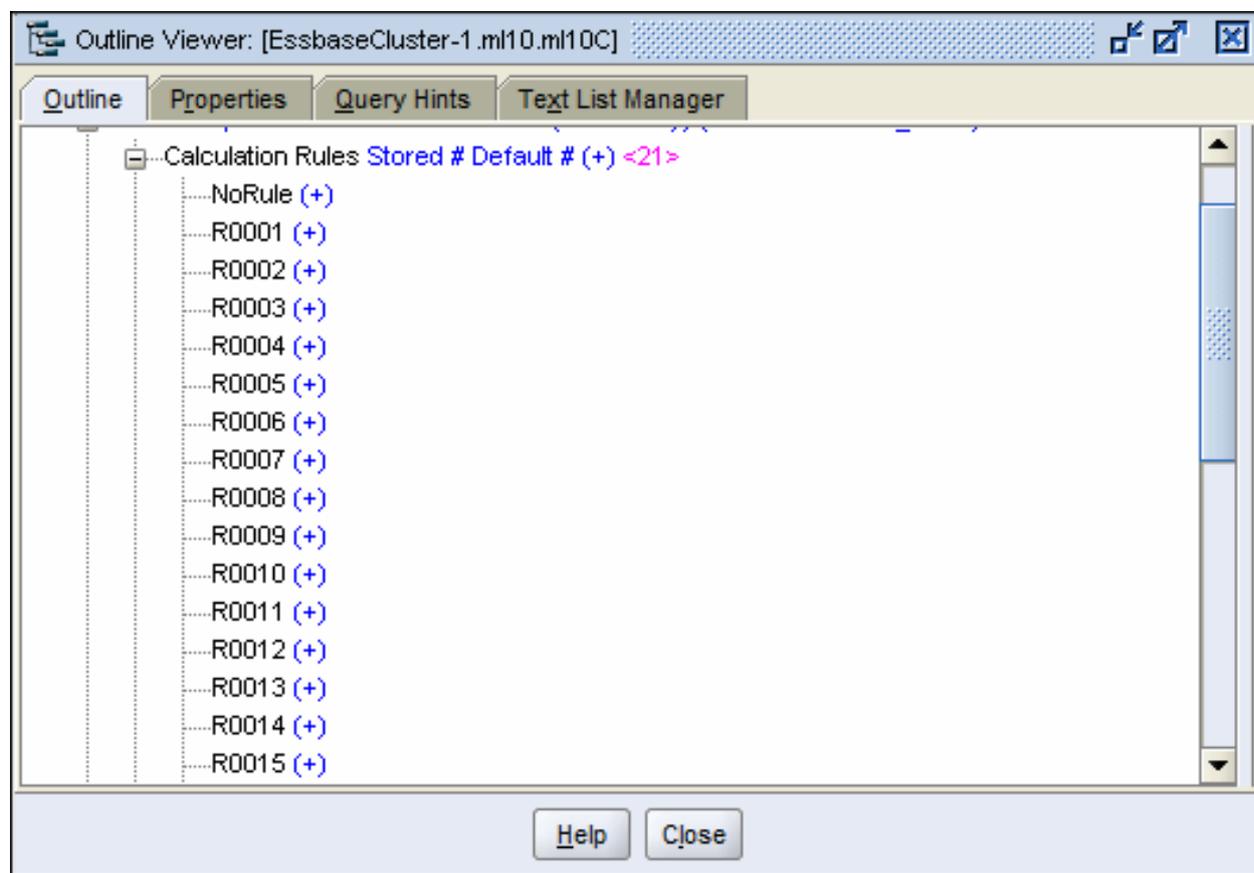
管理元帳アプリケーションは、ルールと残高の2つのシステム・ディメンションを含む必要があります。これらのシステム・ディメンションは、Performance Management ArchitectまたはEssbaseからProfitability and Cost Managementに移入されます。ルールおよび残高ディメンションの詳細は、前述の項とOracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイドを参照してください。

ディメンションおよびメンバーの作成と管理の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイドおよび『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。

## 管理元帳のルール・ディメンション

ルール・ディメンションには、管理元帳アプリケーションの計算ルールのディメンションが含まれます。363ページの図8に、Essbaseコンソールのルール・ディメンションのアウトラインを示します。これは、「計算ルール」メンバーの図です。

図8 管理元帳のルール・ディメンションのアウトライン



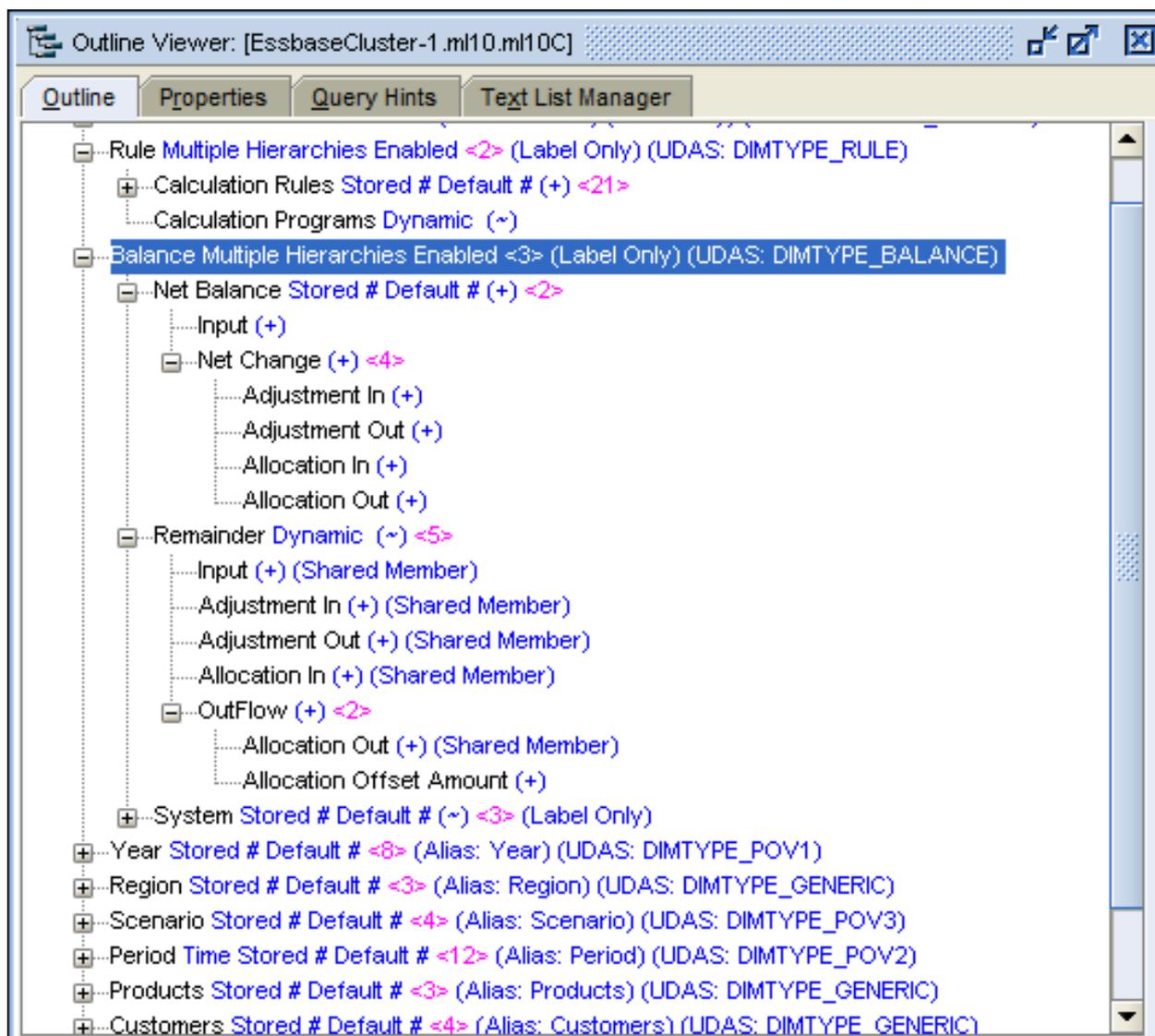
ユーザーは「計算ルール」に対してルールの削除と追加を行うことができますが、適用できるルールはNoRuleのみです。その他すべてはシステムで使用するために予約されています。

362ページの図 7の図には、追加のメンバー、計算プログラムが示されます。このメンバーはシステムによって制御されユーザーは編集できません。

## 管理元帳の残高ディメンション

364ページの図 9に、Essbaseコンソールの残高ディメンションのアウトラインを示します。

図9 管理元帳の残高ディメンションのアウトライン



ユーザーは、純残高の「入力」メンバーにデータを追加できます。メンバーのその他の部分は、ルール・セットとルールによって決まる入力と出力を反映します。調整はドライバ計算の結果、配賦はルール配賦の結果、またオフセットはルール・オフセット定義の結果です。ルール・セット、ルールおよび定義の詳細は、381ページの第22章「管理元帳の配賦の操作」を参照してください。

これらのメンバーの交差に保持されるデータは、「ルール貸借一致」画面で確認できます( [426ページの「ルール貸借一致」タスク領域の表示](#))。



# 21

## 管理元帳モデルの管理

### この項の内容:

管理元帳モデルの管理について .....	367
管理元帳の「モデルの要約」の操作 .....	367
管理元帳の視点の操作 .....	371
管理元帳アーティファクトのインポート .....	379

### 管理元帳モデルの管理について

モデルの管理オプションは、モデルの上位レベル構造を構築したり、モデルのプリファレンスおよび接続を制御するために使用します。

「モデルの要約」から、システム情報を表示したり、モデル・レベルのプリファレンスを設定できます。

視点(POV)は、モデルの様々なバージョンを作成するために使用します; たとえば、予算の数値と実績の数値の比較を格納したり、様々な変更による最終損益への影響を測定するシナリオを実行します。

モデルの管理については、次の項を参照してください:

- [367ページの管理元帳の「モデルの要約」の操作](#)
- [371ページの管理元帳の視点の操作](#)
- [379ページの管理元帳アーティファクトのインポート](#)

# 管理元帳の「モデルの要約」の操作

## サブトピック

- [管理元帳モデルの「システム情報」の確認](#)
- [管理元帳の「モデル・レベルのプリファレンス」の確認および設定](#)

「モデルの要約」では、選択されたモデルのシステム詳細情報が表示され、モデル・レベルのプリファレンスを変更できます。

「モデルの要約」には次のタブがあります:

- システム情報( [368ページの管理元帳モデルの「システム情報」の確認](#))
- モデル・レベルのプリファレンス( [370ページの管理元帳の「モデル・レベルのプリファレンス」の確認および設定](#))

## 管理元帳モデルの「システム情報」の確認

「システム情報」タブには、リレーショナル・データベース、Essbase接続、承認されたユーザー、関連付けられたシステム・コンポーネントなどの、選択されたモデルの詳細が表示されます。

ほとんどのシステム情報は読み取り専用ですが、アプリケーションおよびデータベースの名前は入力または変更できません。

▶ 「システム情報」タブにアクセスするには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「**Profitability**」の順に選択し、表示するモデルを選択します。
2. 「タスク領域」から、「モデルの管理」、「モデルの要約」の順に選択します。

「システム情報」タブが表示され( [369ページの図 10](#))、[369ページの表 16](#)で説明する内容が表示されます。

図10 管理元帳の「モデルの要約」、「システム情報」タブ

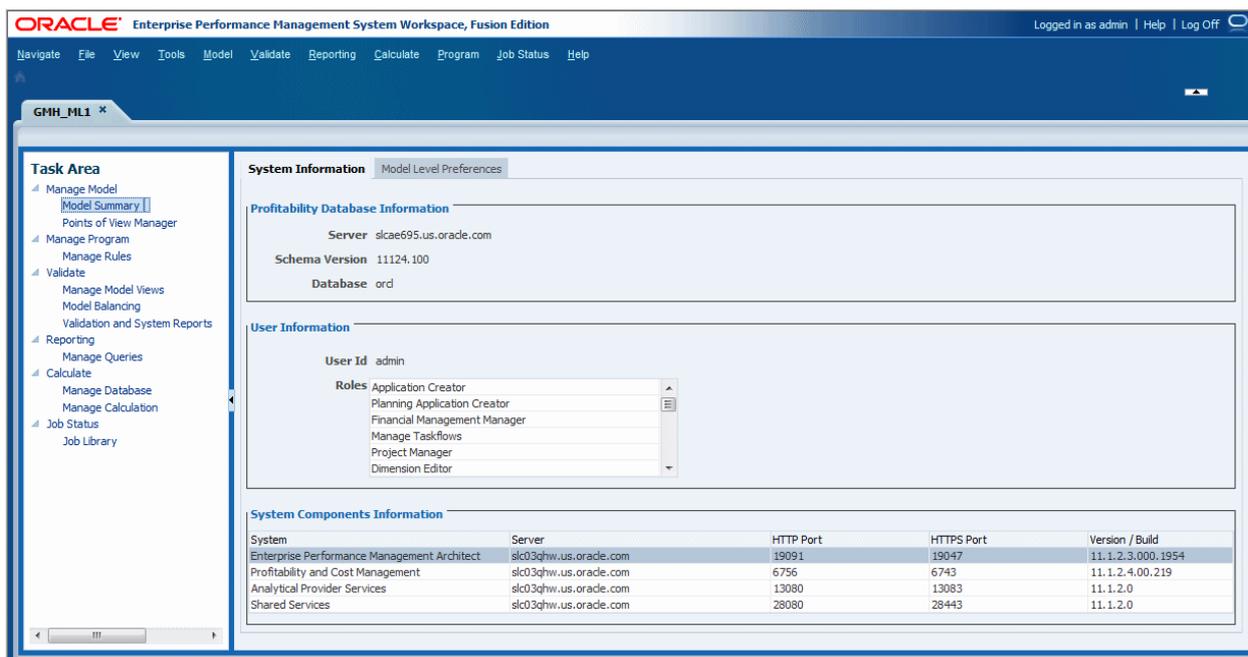


表16 管理元帳の「モデルの要約」、「システム情報」タブの内容

タブ領域	説明
Profitabilityデータベース情報	リレーショナル・データベース・サーバー、およびモデル・データが置かれたデータベースの名前。選択したアプリケーションで使用されているスキーマのバージョンも表示されます。
ユーザー情報	<p>「ユーザー情報」の「データベース」フィールドには、Profitability and Cost Managementデータベースへのアクセス権があるユーザーのユーザーIDと、そのユーザーに関連するすべてのセキュリティ役割が表示されます。</p> <p>注:</p> <p>このユーザーにEssbaseデータベースとアプリケーションへのアクセス権が付与されていることを確認してください。『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイド』を参照してください。</p>
システム・コンポーネントの情報	<p>インストールに含まれる各コンポーネントの次のような詳細:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>システム - EPMコンポーネントの名前が表示されます。</li> <li>サーバー - そのコンポーネントをホストしているクラスタまたはサーバーの名前が表示されます。</li> <li>HTTPポート - コンポーネントで使用しているポートが表示されます。</li> <li>HTTPSポート - コンポーネントで使用しているセキュアなポートが表示されます(使用可能な場合)。</li> <li>バージョン/ビルド - リストされたコンポーネントのバージョンとビルド番号が表示されます。</li> </ul>

タブ領域	説明
	列ヘッダーをクリックして、列をソートできます。「システム」列と「サーバー」列はアルファベット順にソートされ、「ポート」列と「バージョン/ビルド」列は数値順にソートされます。

## 管理元帳の「モデル・レベルのプリファレンス」の確認および設定

表示プリファレンスを使用するようにモデルをカスタマイズできます。「モデル・レベルのプリファレンス」タブの設定はモデル全体に適用されます。

また、選択したモデルに対してEssbase接続情報も指定します。



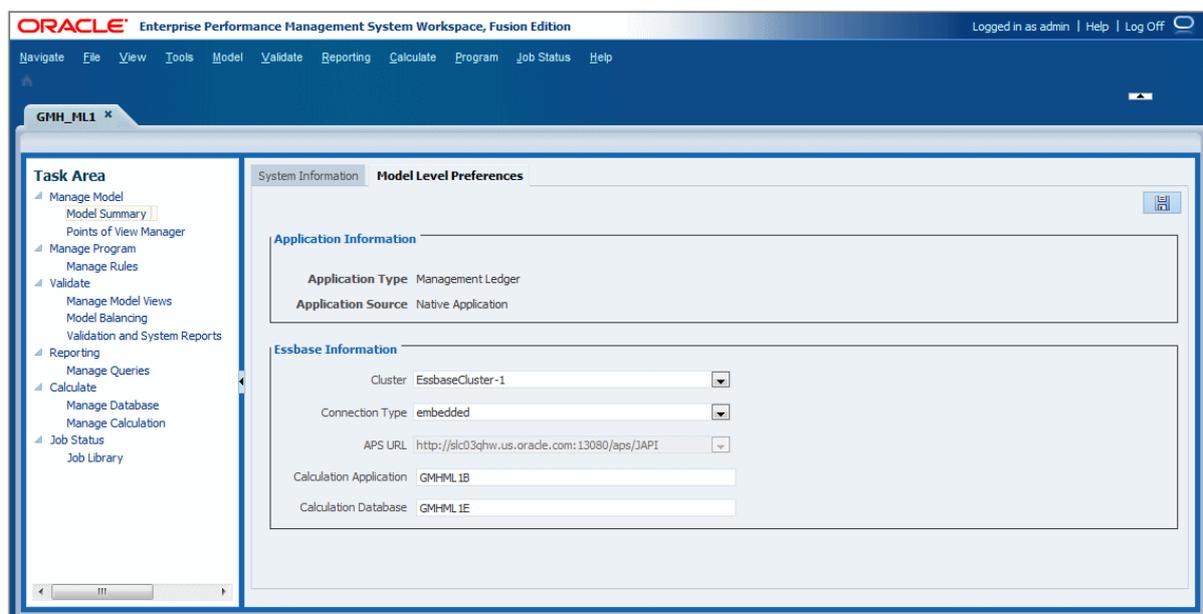
### 注意

プリファレンスはモデルのライフ・サイクルのどの時点でも変更可能ですが、サイクルの後の方で変更を加えるとデータが消失する可能性があります。

▶ モデル・レベルのプリファレンスを設定するには:

1. EPM Workspaceから「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するモデルを選択します。
2. 「タスク領域」から、「モデルの管理」、「モデルの要約」、「モデル・レベルのプリファレンス」タブ (370ページの図 11)の順に選択します。

図11 管理元帳の「モデルの要約」、「モデル・レベルのプリファレンス」タブ



3. 「アプリケーション・タイプ」 - 「管理元帳」 - 「アプリケーション・ソース」(Essbaseで元のアプリケーションを作成するために使用されたツールに応じて、「EPMA」または「ネイティブ・アプリケーション」(Profitabilityアプリケーション・マネージャの場合))を確認します。

アプリケーション・タイプは、アプリケーションが作成される時に選択され、変更はできません。

4. 「Essbase情報」で、モデルのEssbase接続情報を入力します。必須情報は、[371ページの表 17](#)で説明されています。

表17 管理元帳の「Essbase情報」グループの「モデルの要約」、「モデル・レベルのプリファレンス」タブの内容

設定	アクション
クラスタ	Essbaseデータベースへの接続を提供するEssbaseサーバーの論理名を選択します。この名前は、クラスタ化された、またはクラスタ化されていないEssbaseサーバーをポイントできます。
接続タイプ	接続のタイプを選択します： <ul style="list-style-type: none"> <li>• 埋込み</li> <li>• APS</li> </ul> <i>Oracle Hyperion Provider Services管理ガイド</i> を参照してください。
APS URL	「接続タイプ」として「APS」が選択されている場合にのみアクティブになります。  Provider Servicesが実行されているサーバーの論理Webアプリケーション(LWA)を表すAPSのURLを選択します。  構成中に、使用可能なAPSサーバーがShared Servicesレジストリに登録されます。  デフォルトでは、APS URLはhttp://localhost:13080/aps/JAPI. に設定されています。
計算用アプリケーション	モデルのデプロイされたEssbaseデータベースに必要なASOアプリケーション名を入力します(7文字に制限されます)。
計算用データベース	モデルのデプロイされたEssbaseデータベースの名前を入力します(7文字に制限されます)。

5. 「保存」



をクリックします。

# 管理元帳の視点の操作

## サブトピック

- [管理元帳のPOVについて](#)
- [管理元帳のPOVディメンション](#)
- [管理元帳ProfitabilityのPOVの管理](#)
- [管理元帳の「POVマネージャ」画面の表示](#)
- [管理元帳POVの追加](#)
- [管理元帳のPOV状態の変更](#)
- [管理元帳POVのコピー](#)
- [管理元帳POVからの選択したアーティファクトのクリア](#)
- [管理元帳POVおよびすべてのアーティファクトの削除](#)

モデルの視点(POV)は、選択された期間用に、モデル情報の特殊なビューを提供します。たとえば、POVディメンションに、年、期間、シナリオおよびバージョンを含めることができます。POVディメンションのメンバーはユーザー定義であり、モデリングや仮定分析において多様なPOVの組合せを提供します。

視点はモデルごとにEPMワークスペースタブ内で管理されます。POVの詳細は、リストされている項を参照してください。

## 管理元帳のPOVについて

少なくとも1つのPOVディメンションが必要であり、最大4つ作成できます。ユーザーは、POVディメンションおよびその名前を定義します。計算は、各月または状況に固有の、POVのデータおよび計算ルールを使用して行われます。

代表的なPOVには「年」、「期間」および「シナリオ」が含まれます。Profitability and Cost Managementのほぼすべてのアクティビティにおいて、最初の手順はPOVを選択することです。



注:

管理元帳モデルの計算ルールはPOVに固有です。計算ルールまたはルール・セット、あるいはグローバル・コンテキスト定義がPOV内に存在するためには、POV内のそのアーティファクトの一意の定義が必要です。

モデルは、POVが「ドラフト」ステータスに設定されている場合にのみ編集できます( [376ページの管理元帳のPOV状態の変更](#))。新しいドライバ、条件またはメンバーを反映するようにPOVを変更して、別のシナリオを作成できます。これらのシナリオを比較することにより、変更点がプロセスや最終結果にどのように影響するのかを評価できます。

また、同一のPOVの複数のバージョンを作成できるため、モデルの変更点がもたらす影響を監視したり、同一モデルの異なるバージョンを追跡することが可能です。

## 管理元帳のPOVディメンション

視点(POV)のディメンションは、モデルの特定のバージョン、あるいはモデルに対する特定の視点を表すために使用します。各モデルには、少なくとも1つのディメンションをPOVディメンションに指定する必要があります。POVディ

メンションには、モデルに必要な任意の項目を選択できます。POVディメンションとして使用される代表的な例を次に示します:

- **期間** - 時間に伴って変化する戦略や変更点を分析できます。モデルのベースを任意の時間単位(四半期、月、年次、年など)にできるため、時系列で戦略を分析したり、在庫や償却をモニターできます。時間ディメンションを作成する手順の詳細は、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。
- **年** - 暦上の年を指定してデータを収集します
- **シナリオ** - 特定の期間と一連の条件に対する、モデルのバージョンを表示します

## バージョン・ディメンション

特定のPOVを使用し、同じPOVの別バージョンを作成できます。これにより、モデルへの変更の影響を監視したり、同じモデルの異なるバージョンを追跡できます。

バージョン・ディメンションは次のタスクで使用します:

- 少数のバージョンで、1つのモデルの繰返しを複数作成
- 仮定に基づいた予測結果や、ベスト・ケース・シナリオかワースト・ケース・シナリオかを決定する仮定シナリオをモデル化
- 簡単に目標を設定する

バージョン・ディメンション内の様々な要素を変更することで、元のモデルを変更せずに変更結果を調べることができます。

## 管理元帳ProfitabilityのPOVの管理

POVは、選択されたスナップショット(年、期間、シナリオ、バージョンなど)に対応する特定のバージョンのモデルを表示します。

新しいPOVが追加されると、ステータスは自動的に「ドラフト」に設定され、POVが編集できるようになります。

モデルには、1つ以上のPOVディメンションが必要です; ただし、1つのモデルに対して複数のPOV組合せを作成できます。選択したPOV情報はEPM Workspaceユーザー・プリファレンスとして保存できます。また、POVをコピーして、新しいレポート期間や異なるシナリオ用にモデルを作成することも可能です。[376ページの管理元帳POVのコピー](#)を参照してください。

モデルで使用可能なPOVは、アプリケーションで定義されたPOVディメンションに応じて決まりますが、すべてのPOVが割当てやデータ入力用にそのまま使用できるわけではありません。POVをモデルに追加するまで、POVにドライバを割り当てたりデータをロードすることはできません。

計算ルールをPOVの各組合せに対して指定する必要があります。

POVを操作するには、次の手順を使用してください:

- [374ページの管理元帳の「POVマネージャ」画面の表示](#)
- [375ページの管理元帳POVの追加](#)
- [376ページの管理元帳のPOV状態の変更](#)

- 376ページの管理元帳POVのコピー
- 377ページの管理元帳POVからの選択したアーティファクトのクリア
- 378ページの管理元帳POVおよびすべてのアーティファクトの削除

## 管理元帳の「POVマネージャ」画面の表示

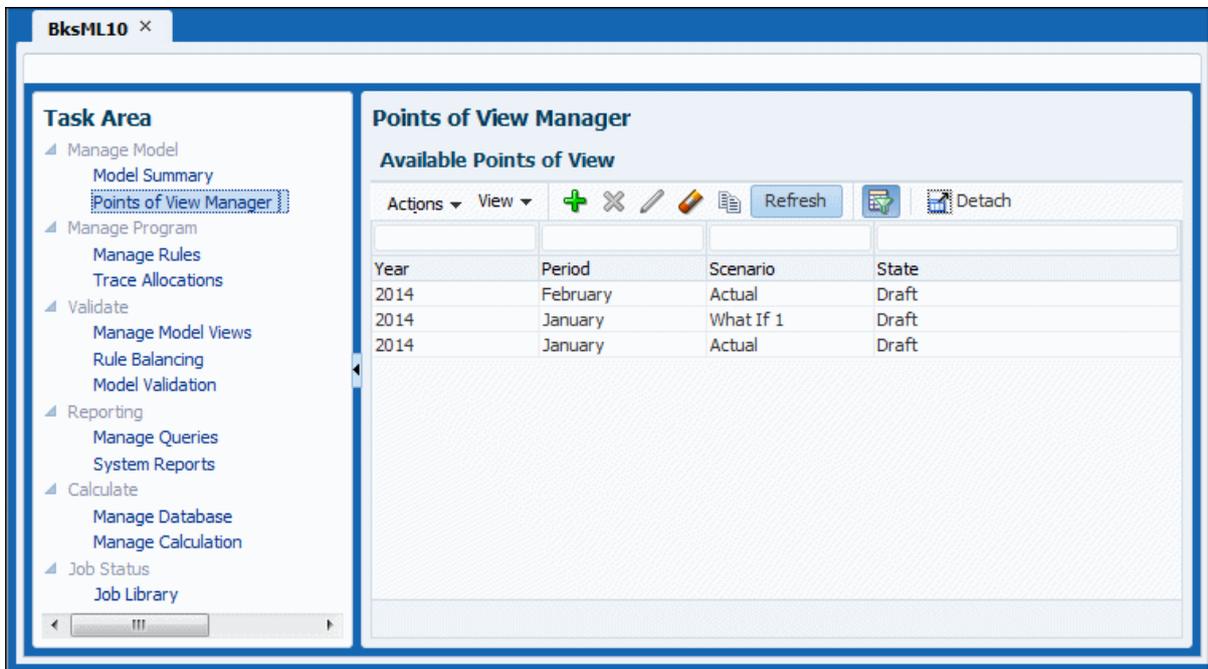
「POVマネージャ」画面では、管理元帳アプリケーションのPOVを作成、変更および削除できます。

▶ 管理元帳の「POVマネージャ」画面を表示するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「モデルの管理」、「POVマネージャ」の順に選択します。

「POVマネージャ」画面に既存のすべてのPOVが表示されます。

図12 管理元帳の「POVマネージャ」画面



2. ドロップダウン・メニューとボタンを使用して、次のアクションを実行します。

- 「アクション」メニュー - POVの作成、削除、コピー、POV状態の変更、POV構成アーティファクトのクリアを行います
- 「表示」メニュー - 次のアクションを実行します:

○列 - すべてまたは選択したディメンション列を表示します

○POVの表の「添付解除」および「添付」



○列の順序変更 - 矢印コントロールを使用して、選択したディメンション列をPOV表の先頭または末尾の方向に移動します

○例による問合せ - 例による問合せ(QBE)



を使用してデータをフィルタ処理します。

- 例による問合せ



をクリックします。

- 各データ列の上に表示されるQBEフィールドの1つまたは複数に、ターゲット値の最初のいくつかの文字を入力します。

- 再び



をクリックします。

一致するメンバーのみが表示されます。すべてのメンバーを再び表示するには、次の手順に従ってすべてのフィールドをクリアします。



注:

アクションを識別するボタンをポイントします。

## 管理元帳POVの追加

年、期間、シナリオおよびステータスなど、選択したモデルのスナップショットに対するモデルの情報や計算を表示するには、POVを追加します。

モデルで使用可能なパラメータの値はPerformance Management Architectアプリケーションに設定されています。



注:

POVは、POV管理に追加されないかぎり、他のタスク・ウィンドウからアクセスできません。

▶ POVを追加するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「モデルの管理」、「POVマネージャ」の順に選択します ( [374ページの図 12](#) )。



をクリックするか、「アクション」、「POVの作成」の順に選択します。

「POVの作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。

3. 新しいPOVを識別するためのモデルのパラメータを選択します。

これは新しいPOVであるため、「年」および「期間」パラメータが提供され、「状態」が自動的に「ドラフト」に設定されてモデルを構築および編集できるようになります。

4. 「OK」をクリックします。

POVがリストに追加されます。

## 管理元帳のPOV状態の変更

モデルが作成されると、そのステータス(「状態」)は「ドラフト」に設定されます。これは、モデルを表示および編集できることを示します。モデルが最終状態になったら、POV状態を変更してモデルを変更できないようにします。ステータスはEssbaseのディメンションではありません。

POV状態は、「ドラフト」、「公開済」または「アーカイブ済」のいずれかに設定できます。

POVのステータスのみを変更できます。他のパラメータを変更する場合は、新しいPOVを作成する必要があります。

▶ POVの状態を変更するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「モデルの管理」、「POVマネージャ」の順に選択します (374ページの図 12)。
2. 変更するPOVを選択します。
3. 「アクション」、「POVの状態の変更」



の順に選択します。

4. 「状態」の下で新しいステータスを選択します:

- ドラフト - モデルを構築または編集し、動的レポートを生成します。
- 公開済 - モデルを表示し、動的レポートを生成します
- アーカイブ済 - モデルを表示し、動的レポートを生成します。

いつでも状態を「ドラフト」に変更してモデルを編集できます。



注:

POVを変更した場合は、状態のみが変更されます。ステータスが「公開済」または「アーカイブ済」に設定されている場合は、モデルを計算できなくなります。

5. 「OK」をクリックします。

## 管理元帳POVのコピー

POVをコピーすることで、新しいモデルやシナリオの開始ポイントにしたり、既存のモデルに対して仮定シナリオを作成できます。

たとえば、前の期間からドライバの選択と割当てをコピーして期間を作成したり、実際のシナリオからデータをコピーして、予測シナリオ用のシード・データを作成できます。

▶ POVをコピーするには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「モデルの管理」、「POVマネージャ」の順に選択します (374ページの図 12)。
2. コピーするPOVを選択します。
3. 「アクション」、「POVのコピー」



の順に選択します。

図13 管理元帳の「POVのコピー」ダイアログ・ボックス

4. 「POVのコピー」ダイアログ・ボックスで、新しいPOV(宛先)のPOVディメンションを入力します。「構成のコピー」の下で、コピーするPOVの要素を選択します。
5. 「OK」をクリックしてコピーを開始します。

「タスク領域」の「ジョブ・ステータス」の下にある「ジョブ・ライブラリ」をチェックして、コピーのステータスを確認できます。



#### 注意

この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能性があります。

6. コピーが完了したら、新しいPOVでコピーされた情報を確認します。

## 管理元帳POVからの選択したアーティファクトのクリア

選択したオブジェクト(アーティファクト)をPOVからクリアまたは削除できます。

関連付けられた割当てやドライバの選択も含むPOV全体を削除する場合は、[378ページの管理元帳POVおよびすべてのアーティファクトの削除](#)を参照してください。

▶ 選択したアーティファクトをPOVからクリア(削除)するには:

1. 他のユーザーがそのPOVと内容を必要としていないことを確認します。
2. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「モデルの管理」、「POVマネージャ」の順に選択します ([374ページの図12](#))。

3. クリアするアーティファクトが含まれているPOVを選択します。
4. 「アクション」、「POVデータのクリア」



の順に選択します。

図14 管理元帳の「POVのクリア」ダイアログ・ボックス

Clear Point of View

**Model**

Manage Rules

**Data**

Input Data

Adjustment Values

Allocated Values

Ok Cancel

5. 「モデル」および「データ」で、クリアする構成アーティファクトを選択します。
6. 「OK」をクリックして、選択したアーティファクトをクリアします。

操作のレコードを表示するには、hpcm.logを参照してください。

## 管理元帳POVおよびすべてのアーティファクトの削除



### 注意

POVを削除すると、関連する割当てとドライバ選択を含む、POV内のすべてのオブジェクトが削除されます。POVを削除する前にEPM WorkspaceおよびEssbaseにデータベースのバックアップ・ディレクトリを作成することをお勧めします。支援が必要な場合は、管理者にお問い合わせください。

Essbase内のデータを削除する場合は、POVを削除する前に、選択したPOVに対して「すべて消去」機能を実行します。377ページの管理元帳POVからの選択したアーティファクトのクリアを参照してください。

▶ POVおよび関連するアーティファクト(ルールやルール・セットなど)を削除するには:

1. 他のユーザーがそのPOVと内容を必要としていないことを確認します。
2. オプション: 377ページの管理元帳POVからの選択したアーティファクトのクリアで説明しているように、Essbaseのデータを消去するには「すべてのデータをクリア」を選択します。
3. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「モデルの管理」、「POVマネージャ」の順に選択します (374ページの図 12)。
4. 削除するPOVを選択します。
5. 「アクション」、「POVの削除」



の順に選択します。

「POVの削除」ダイアログ・ボックスに、選択したPOVのPOVディメンションが表示されます。

6. 「OK」をクリックしてPOVを削除します。

POVはリストから削除され、以後は選択できなくなります。

## 管理元帳アーティファクトのインポート

データ定義とモデル情報をProfitability and Cost Managementに直接入力できます。アプリケーションの移入を簡単に行うには、ライフサイクル管理を使用してモデル定義(アーティファクト)をProfitability and Cost Managementに直接インポートできます。これにはルール・セットおよびルールに関連付けられたPOVが含まれる場合があります。詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management System*ライフサイクル管理ガイドおよび*Oracle Hyperion Profitability and Cost Management*管理者ガイドを参照してください。



---

### 注意

アーティファクトをインポートする前に、EPM WorkspaceおよびEssbaseにデータベースのバックアップ・ディレクトリを作成することをお勧めします。支援が必要な場合は、管理者にお問い合わせください。

---



## この項の内容:

管理元帳の配賦について .....	381
管理元帳配賦の作成および管理 .....	381
管理元帳Profitabilityアプリケーションのトレース .....	412

## 管理元帳の配賦について

Profitability and Cost Managementでは、配賦により、モデル全体の費用および収益が特定の勘定科目または要素へどのように配分されるかを制御できます。各配賦の資金の計算方法を決定するため、ドライバが使用されます。モデル内の資金フローに合わせて、計算結果がソースから宛先に割り当てられます。「[ルール管理](#)」領域を使用して、管理元帳Profitabilityモデルに配賦を作成します。

ルール・セットまたはルールを作成することで、単一のPOVの配賦を設定します:

- **ルール・セット**は、計算ロジックの定義の編成、同様のルールの一括計算および共通ディメンション・メンバーを共有する多くのルールの定義の簡略化に役立つ管理元帳ルールのグループです。ルール・セットはルール・セットのシーケンス番号によって決定される設定済の順序で実行され、そのルール・セット内のルールの実行に固有のオプションを含む場合があります。
- **ルール**は、管理元帳モデルの計算ロジックを定義し、モデル化された状況での費用割当てを反映できるようにします。ルール・セット内のルールは、そのルール・セット内のシーケンス番号の順序で実行されます。ルール、配賦およびカスタム計算には2つのタイプがあります。ルール・セットの各配賦ルールについて、配賦のソース、宛先、ドライバ基準およびオフセットを定義できます ([392ページの管理元帳配賦ルールの作成](#))。カスタム計算ルールには、MDXフォーマットの式が含まれ、主にデータの調整に使用されます ([403ページの管理元帳カスタム計算ルールの作成](#))。

管理元帳ProfitabilityモデルのPOVの配賦レベルごとに**コンテキスト**と呼ばれるデフォルトを設定できます:

- **グローバル・コンテキスト**により、そのPOV内のすべてのルール定義で使用されるディメンションのデフォルトの定義を定義できます。
- **ルール・セット・コンテキスト**により、特定のルール・セット内のすべてのルールに対してデフォルトのディメンション定義を定義できます。

配賦の手順は、[381ページの管理元帳配賦の作成および管理](#)を参照してください。

# 管理元帳配賦の作成および管理

## サブトピック

- [管理元帳の「ルール管理」領域について](#)
- [管理元帳ルールオブジェクトのグローバル・コンテキストの定義](#)
- [管理元帳のPOVのルール・セットの操作](#)
- [管理元帳モデルの計算ルールの定義および管理](#)

この項のトピックでは、収益や支出などのデータをEssbaseのソースの場所から取得し、適用されるドライバに従って配賦の宛先に割り当てられるように、管理元帳モデルでルール・セットおよびルールを作成および管理する方法について説明します。これらの手順は、管理元帳の「ルール管理」タスクおよびコンテンツ領域で実行されます。

## 管理元帳の「ルール管理」領域について

「ルール管理」タスクおよびコンテンツ領域では、管理元帳Profitabilityモデルの配賦を定義できます。データ・ソース、データ宛先、ドライバおよびオフセットにアクセスするグローバルおよびルール・セット・コンテキスト(ディメンションのデフォルト)の定義、ルール・セットの定義およびルールの定義を行うことができます。

ルール・セットおよびルールの各グループは1つのPOVに適用されます。



注:

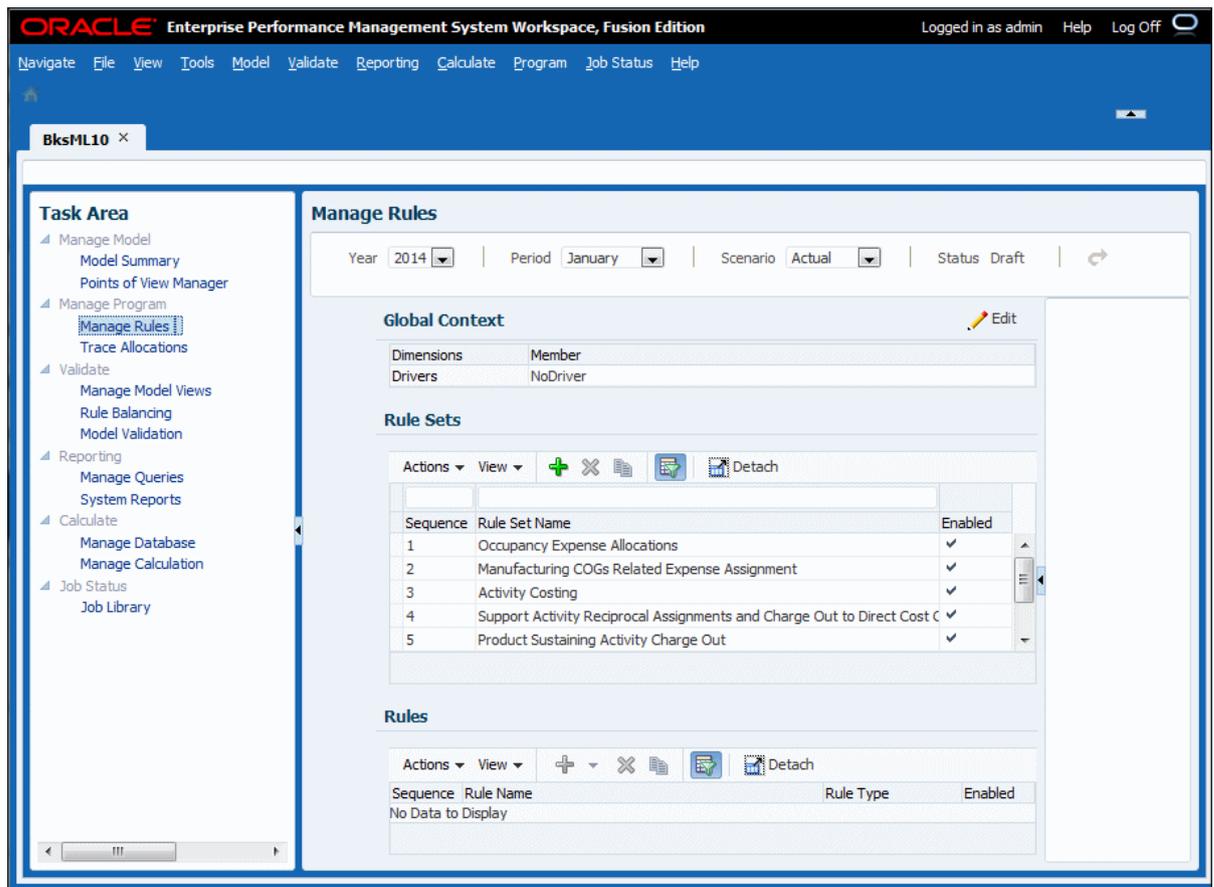
配賦ロールとカスタム計算ルールがあります。同じコンテキストとルール・セット情報が両方のルール・タイプに適用されます。

▶ 管理元帳モデルの配賦を定義するには:

1. 管理元帳モデルをデータとともに開きます。
2. 「タスク領域」で、「プログラムの管理」グループの「ルール管理」を選択します。

「ルール管理」コンテンツ領域が表示されます( [383ページ](#)の [図 15](#) )。

図15 管理元帳モデルの「ルール管理」コンテンツ領域



管理元帳Profitabilityモデルでの配賦の定義および管理の詳細は、次の各項を参照してください:

- [383ページの管理元帳ルールのグローバル・コンテキストの定義](#)
- [385ページの管理元帳のPOVのルール・セットの操作](#)
- [391ページの管理元帳モデルの計算ルールの定義および管理](#)

計算の実行および配賦の実行の詳細は、[434ページの管理元帳の計算の管理](#)を参照してください。

## 管理元帳ルールのグローバル・コンテキストの定義

グローバル・コンテキストを設定すると、選択したPOV内のすべてのルール定義で使用されるディメンションのデフォルトの定義を定義できます。



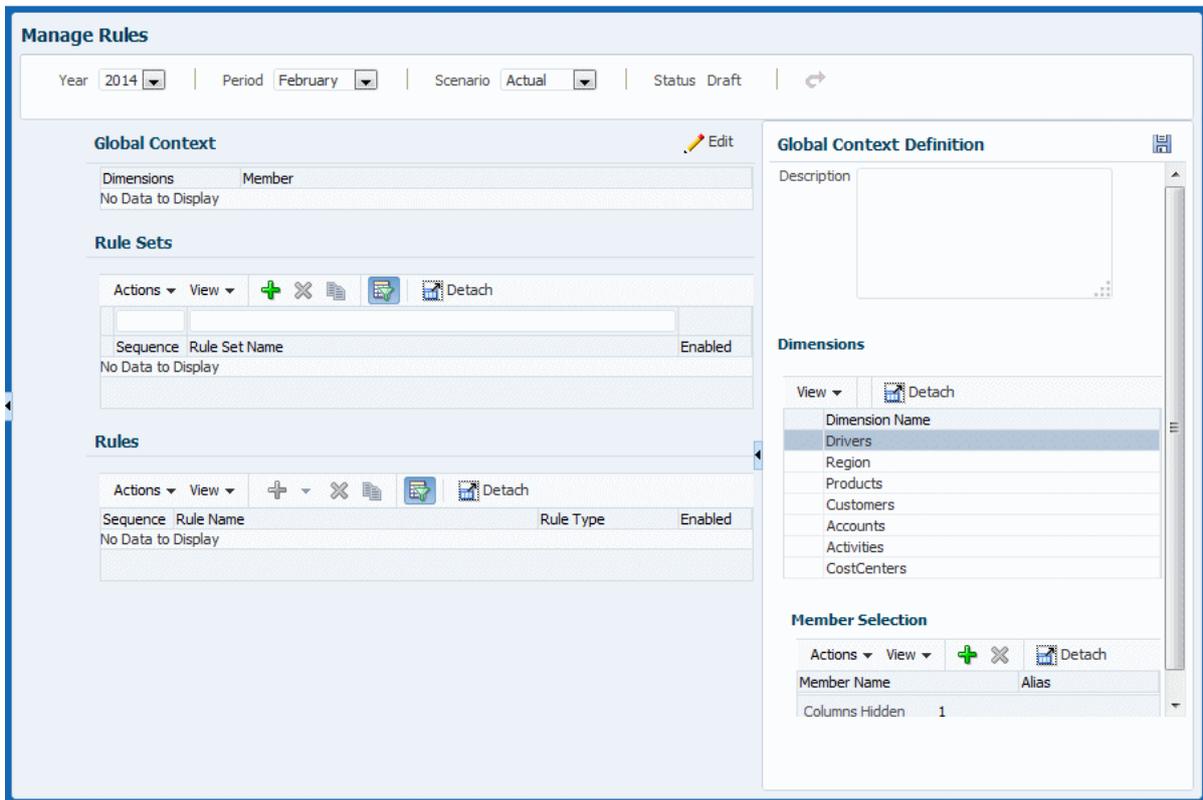
注:

選択したPOVのルール・セットを定義する前に、グローバル・コンテキストを定義します。

- ▶ 管理元帳モデルの1つのPOVのグローバル・コンテキストを定義するには:

1. 開いている管理元帳モデルで、「プログラムの管理」グループの「ルール管理」を選択します (382ページの管理元帳の「ルール管理」領域について)。
2. 「ルール管理」コンテンツ領域で (384ページの図 16)、有効なPOVの年と期間を入力し、「リフレッシュ」ボタン  をクリックします。

図16 管理元帳モデルのグローバル・コンテキストの定義



3. 「グローバル・コンテキスト」領域で、  
 「編集」をクリックします。
4. オプション: 「グローバル・コンテキスト定義」ボックスに、グローバル・コンテキストのデフォルトの説明を入力します。
5. 「ディメンション」領域には、必須のシステム・ディメンションではない選択したアプリケーションのすべてのディメンションが表示されます。すべてのルールにデフォルトとして適用するディメンションを選択して  をクリックするか、「アクション」を選択し、「メンバー選択」領域で「メンバーの追加」を選択します。
6. そのPOVのグローバル・コンテキストのデフォルトに含める1つのメンバーを選択し、「OK」をクリックします。
7. オプション: 他のディメンションについて手順5と6を繰り返します。
8. グローバル・コンテキスト定義が完了したら、  
 (保存)をクリックします。

ここで、選択したディメンションとメンバーのすべての組合せが、選択したPOVに対して作成された新しいルールに適用されます。

385ページの図 17に、そのPOVに対して作成されたすべてのルールについてNoDriverメンバーを「ドライバ」ディメンションに適用するグローバル・コンテキスト定義を示します。グローバル・コンテキストは、ルール・セットおよびルールが作成される前に定義されています。

図17 ドライバ・ディメンションのグローバル・コンテキスト

The screenshot displays the 'Manage Rules' interface with the following sections:

- Global Context:** Shows 'Dimensions' as 'Member' and 'Drivers' as 'NoDriver'.
- Global Context Definition:** A text box explaining that the Global Context sets default member selections for all rules in the program, with 'NoDriver' as the default for the Driver dimension.
- Rule Sets:** A table listing five rule sets, all of which are enabled.
 

Sequence	Rule Set Name	Enabled
1	Occupancy Expense Allocations	✓
2	Manufacturing COGs Related Expense Assignment	✓
3	Activity Costing	✓
4	Support Activity Reciprocal Assignments and Charge Out	✓
5	Product Sustaining Activity Charge Out	✓
- Rules:** A section that is currently empty, displaying 'No Data to Display'.
- Dimensions:** A list of dimensions including Drivers (checked), Region, Products, Customers, Accounts, Activities, and CostCenters.
- Member Selection:** A table showing the 'NoDriver' member selection for the Drivers dimension.
 

Member Name	Alias
NoDriver	

次の手順は、ルール・セットの定義および管理です( 385ページの管理元帳のPOVのルール・セットの操作)。

# 管理元帳のPOVのルール・セットの操作

## サブトピック

- [管理元帳ルール・セットの定義](#)
- [管理元帳ルール・セットの管理](#)
- [管理元帳のルール・セット・コンテキストの定義および管理](#)

ルール・セットを使用すると、ユーザーは関連するルールをグループ化して、計算ロジックの定義の編成、同様のルールの一括実行および共通ディメンション・メンバーを共有するルールの定義の簡略化を行うことができます。ルール・セットにはルール・セットのシーケンス番号によって決定される設定済の順序があり、そのルール・セット内のルールの実行に固有のオプションを含む場合があります。ルール・セットは指定されたPOVに適用されます。

ルール・セット・コンテキストを設定すると、選択したPOVの選択したルール・セットに含まれるすべてのルールで使用されるディメンションのデフォルト定義を定義できます。

## 管理元帳ルール・セットの定義

▶ 管理元帳モデルの1つのPOVのルール・セットを定義するには:

1. 開いている管理元帳モデルで、「プログラムの管理」グループの「ルールの管理」を選択します( [382ページの管理元帳の「ルールの管理」領域について](#) )。
2. 「ルールの管理」コンテンツ領域で( [384ページの図 16](#) )、有効なPOVの年と期間を入力し、「リフレッシュ」ボタン  をクリックします
3. 「ルール・セット」領域で、  をクリックするか、「アクション」、「ルール・セットの作成」を順に選択します( [387ページの図 18](#) )。

図18 管理元帳の「ルール・セットの定義」領域

**Rule Set Definition**

**Description** | Context

\* Rule Set Name

Description

\* Sequence

Enabled

**Rule Set Calculation Options**

Serial  Execution

Parallel  Execution

Iterative  Execution

Number of Iterations

Use Global Context

4. ルール・セットの名前を入力します。
5. オプション: 「説明」ボックスに、ルール・セットの説明を入力します。
6. ルール・セットが実行される順序を決定する「シーケンス」番号を入力します。
7. オプション: 「使用可能」を選択して、計算が実行されるときにルール・セットがアクティブになることを指定します。
8. ルール・セットの計算を実行する方法を示す実行タイプを選択します:

- ・「直列実行」(デフォルト)は、シーケンス番号に応じて、ルール・セット内のすべてのルールを順番に実行します。
  - ・「並列実行」は、コンピュータ・ハードウェアでサポートされる場合と同じシーケンス番号のルールを同時に実行します。
  - ・「反復実行」は、ルール・セットを複数回順番に実行します。「反復の数」は、実行する反復回数を示します。
9. 「プログラム・コンテキストの使用」が選択されている場合、グローバル・コンテキストが定義されている場合はそれを現在のルール・セットに適用する必要があることを示します。
  10. オプション: ルール・セット内のすべてのルールにディメンションのデフォルトを適用するためのルール・セット・コンテキストを定義します( [388ページの管理元帳のルール・セット・コンテキストの定義および管理](#))。
  11. ルール・セット定義が完了したら、  
  
 (保存)をクリックします。

ルール・セットを編集および削除するには、[388ページの管理元帳ルール・セットの管理](#)を参照してください。

ルール・セット・コンテキストを定義し、ルール・セット内のすべてのルールのデフォルトを設定するには、[388ページの管理元帳のルール・セット・コンテキストの定義および管理](#)を参照してください。

## 管理元帳ルール・セットの管理

[386ページの管理元帳ルール・セットの定義](#)では、ルール・セットの作成方法を説明します。ルール・セットを削除およびコピーすることもできます。

▶ ルール・セットを削除するには:

1. 「ルールの管理」コンテンツ領域を表示します( [382ページの管理元帳の「ルールの管理」領域について](#))。
2. POVを入力し、ルール・セットを選択します。
3.   
 をクリックするか、「アクション」、「ルール・セットの削除」の順に選択します。
4. ルール・セットおよびそのすべてのルールを削除することを確認します。
5.   
 をクリックします。

▶ ルール・セットをコピーするには:

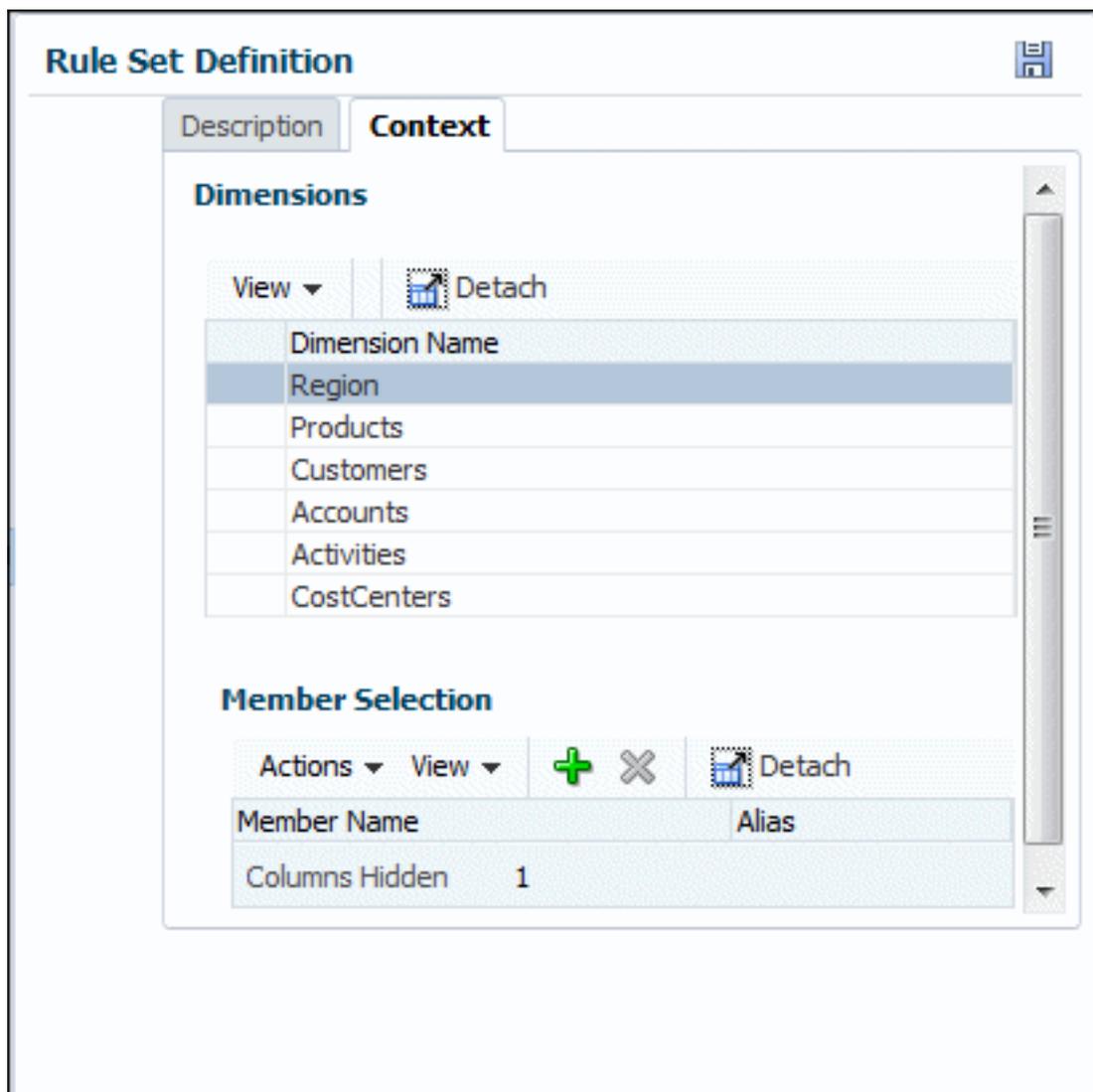
1. 「ルールの管理」コンテンツ領域で、POVを入力し、ルール・セットを選択します。
2.   
 をクリックするか、「アクション」、「ルール・セットのコピー」の順に選択します。
3. 新しいルール・セットの名前を入力します。必要に応じて、「ルールのコピー」を選択して新しいルール・セットに既存のルールを追加します。
4. 「OK」をクリックし、  
  
 (保存)をクリックします。

## 管理元帳のルール・セット・コンテキストの定義および管理

ルール・セット・コンテキストを定義して、選択したPOVの選択したルール・セットに含まれるすべてのルールで使用するデフォルトのディメンションおよびメンバーを指定します。

- ▶ 管理元帳モデルの1つのPOVのルール・セットを定義するには:
1. 開いている管理元帳モデルで、「プログラムの管理」グループの「ルールの管理」を選択します( 382ページの管理元帳の「ルールの管理」領域について)。
  2. 「ルールの管理」コンテンツ領域で( 384ページの図 16)、有効なPOVの年と期間を入力し、  
 (リフレッシュ)をクリックします。
  3. 「ルール・セット」領域でルール・セットを選択し、「コンテキスト」タブをクリックします( 389ページの図 19)。

図19 管理元帳のルール・セット・コンテキスト定義領域



4. 「コンテキスト」タブ( 389ページの図 19)で、そのルール・セット内のすべてのルールに適用するディメンションを選択します。



注:

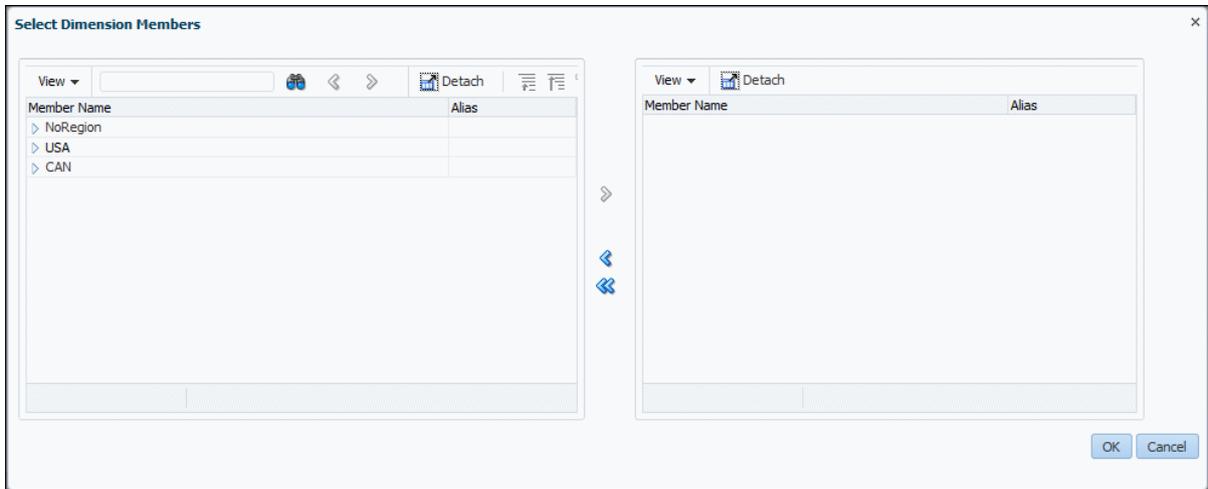
POVディメンションと、グローバル・コンテキストで定義されているディメンションは選択できません。

5. 「メンバー選択」領域で、



をクリックするか、「アクション」と「メンバーの追加」を順に選択します( 390ページの図 20)。

図20 「ディメンションのメンバーの選択」ダイアログ・ボックス



6. 「ディメンションのメンバーの選択」ダイアログ・ボックスで、リストされているメンバーの前にある記号をクリックして、それらを最下位のレベルに開きます。
7. すべてのルールに適用するメンバーを選択し、シャトル・コントロール矢印を使用して、それらを「ディメンションのメンバーの選択」ダイアログ・ボックスの右側にある選択済リストに移動します。
8. ルール・セット・コンテキスト定義が完了したら、「OK」をクリックし、

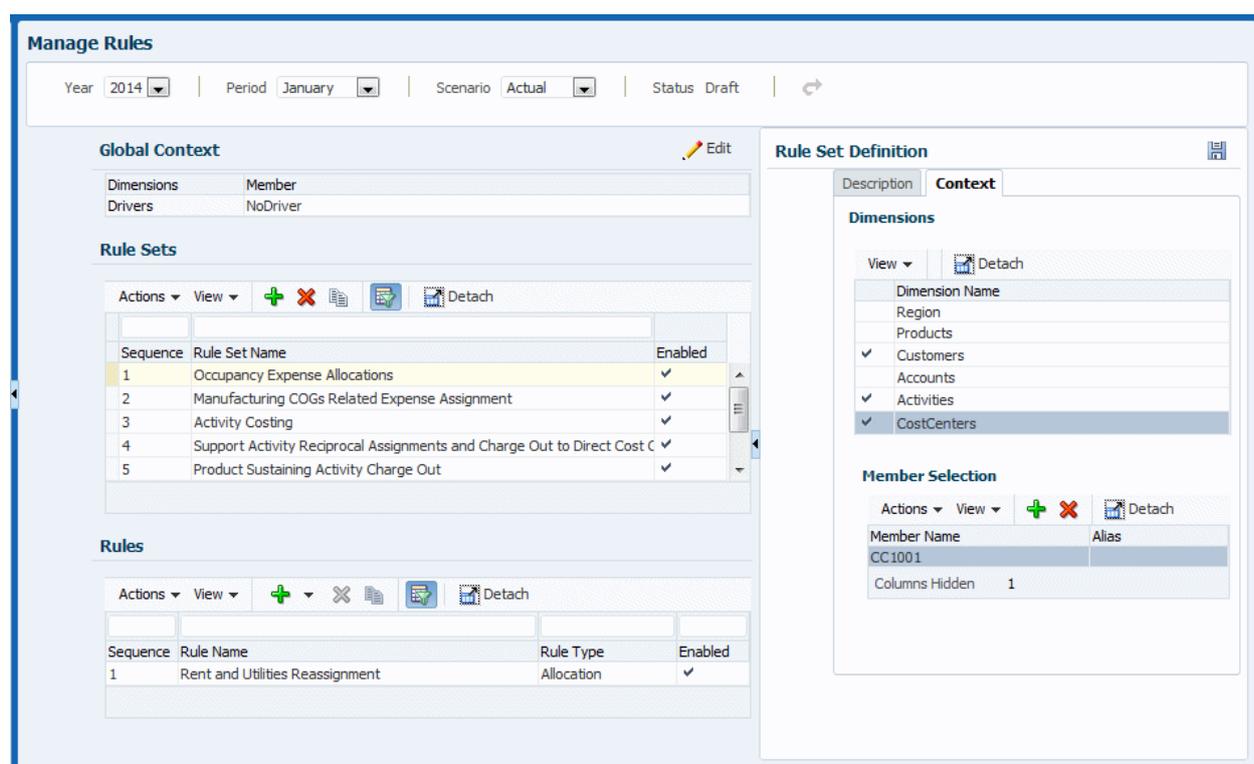


(保存)をクリックします。

ここで、選択したディメンションとメンバーのすべての組合せが、選択したPOVに対して作成された新しいルールに適用されます。

391ページの図 21に、「顧客」、「アクティビティ」および「費用センター」ディメンションがインフラストラクチャ・チャージ・ルール・セット、シーケンス番号1のルール・セット・コンテキストとして有効になっていることを示します。「費用センター」の選択されたメンバーは**CC1001**です。

図21 インフラストラクチャ・チャージ・ルール・セットに対して定義されている管理元帳ルール・セット・コンテキストの例



## ルール・セット・コンテキストの管理

ルール・セット・コンテキストにすでに追加されたディメンションのメンバーを追加および削除できます。

▶ ルール・セット・コンテキストにメンバーを追加するには:

1. 選択したPOVの「ルールの管理」コンテンツ領域を開きます。
2. ルール・セットを選択し、その「コンテキスト」タブを表示します。
3. メンバーを追加するには、前の手順の手順4から8に従います。

▶ ルール・セット・コンテキストからメンバーを削除するには:

1. ルール・セットを選択し、その「コンテキスト」タブを開きます。
2. ディメンションとメンバーを選択し、



をクリックするか、「アクション」、「メンバーの削除」の順に選択します。

メンバーは確認なしで削除されます。

3. 

(保存)をクリックします。

# 管理元帳モデルの計算ルールの定義および管理

## サブトピック

- [管理元帳配賦ルールの作成](#)
- [管理元帳カスタム計算ルールの作成](#)
- [管理元帳ルールの管理](#)

管理元帳Profitabilityモデルには、2つのタイプの計算ルール、配賦ルールおよびカスタム計算ルールがあります。

配賦ルールは、配賦されたデータのソースおよび宛先、そのデータに適用されるドライバおよび勘定科目を貸借一致させるためにオフセットが配置される位置を決定します( [392ページの管理元帳配賦ルールの作成](#))。管理元帳の配賦は、ステージまたは収益および費用レイヤーがないという点で、Profitability and Cost Managementモデルの他のタイプの配賦とは異なります。他のタイプのすべての機能は、異なる配賦タスクに対して複数のタブがある単純なユーザー・インタフェースである「[ルールの管理](#)」コンテンツ領域を通じて処理されます。

カスタム計算ルールには、MDXフォーマットの式が含まれ、主にデータの調整に使用されます ( [403ページの管理元帳カスタム計算ルールの作成](#))。

どちらのタイプの計算ルールも、ルール・セットの下に編成されます。ルール・セットはそのシーケンス番号の順に実行され、セット内のルールはそのシーケンス番号の順に実行されます。同じシーケンス番号を持つルールは、コンピュータ・ハードウェアでプロセスの並列実行が許可されていれば同時に実行できます。ルールはルール・セット内にコピーできます。

コンテキストを使用して、両方のルール・タイプのディメンションおよびメンバーのデフォルトを定義できます。これは、POV内のすべてのルール( [383ページの管理元帳ルールのグローバル・コンテキストの定義](#))またはルール・セット内のすべてのルール( [388ページの管理元帳のルール・セット・コンテキストの定義および管理](#))に対して定義できます。管理および計算ルールの実行の詳細は、[434ページの管理元帳の計算の管理](#)を参照してください。

## 管理元帳配賦ルールを作成

配賦ルールは、管理元帳モデルのコアを形成します。これにより、配賦されたデータのフロー方法やドライバによる配賦額の決定方法が決まります。

- ▶ 管理元帳モデル内の1つのPOVの配賦ルールを定義するには:
1. 開いている管理元帳モデルで、「プログラムの管理」グループの「ルールの管理」を選択します( [382ページの管理元帳の「ルールの管理」領域について](#) )。
  2. 「ルールの管理」コンテンツ領域で( [384ページの図 16](#) )、有効なPOVの年と期間を入力し、  
  
(リフレッシュ)をクリックします。
  3. 「ルール・セット」領域で、ルール・セットを選択します。
  4. 次のいずれかの操作を行います。
    - 「ルール」領域で、  
  
をクリックするか「配賦」を選択します。
    - 「アクション」、「ルールの作成」、配賦ルールの作成の順に選択します( [394ページの図 22](#) )。

図22 管理元帳の「ルール定義」領域の「説明」タブ

5. ルールの名前を入力します。
6. オプション:「説明」ボックスに、ルール・セットの説明を入力します。
7. オプション:「使用可能」を選択して、計算が実行されるときにルールがアクティブになることを指定します。
8. ルール・セット内のルールが実行される順序を決定する「シーケンス」番号を入力します。

同じシーケンス番号を含むルールは、ルール・セットに対して並列計算が有効になっており、コンピュータ・ハードウェアで並列計算がサポートされている場合は同時に実行されます。

9. 「ルール・セット・コンテキストの使用」が選択されている場合は、ルール・セット・コンテキストが現在のルールに適用されることを示します(定義されている場合)。

グローバル・コンテキストがルール・セットに対して有効になっている場合は、それも適用されます。

10. ルール・セット定義が完了したら、「保存」



をクリックします。

配賦ルールのソースを定義するには、[395ページの管理元帳配賦ルールのソースの定義](#)を参照してください。

ルールを編集および削除するには、[412ページの管理元帳ルールの管理](#)を参照してください。

カスタム計算ルールを作成するには、[403ページの管理元帳カスタム計算ルールの作成](#)を参照してください。

## 管理元帳配賦ルールのソースの定義

[392ページの管理元帳配賦ルールの作成](#)では、新しい配賦ルールを作成する方法を説明しています。次の手順は、配賦ソース、支出のあるディメンションまたは配賦の宛先に割り当てるその他のデータの定義です。

- ▶ 計算ルールが配賦対象のデータを取得するソースを定義するには:
  1. 開いている配賦ルールで、「ソース」タブをクリックします( [395ページの図 23](#) )。

図23 管理元帳の配賦ルール定義領域の「ソース」タブ

**Rule Definition**

Description **Source** Destination Driver Basis Offset Rule Context

Rule Name *Furnishings and Equipment*

Rule Set Name *Occupancy Expense Allocations*

Specify Allocated Amount

**Dimensions**

View ▾ | Detach

Dimension Name
Accounts
CostCenters

**Member Selection**

Actions ▾ View ▾ | Detach

Member Name	Alias
Columns Hidden	1

**Filter**

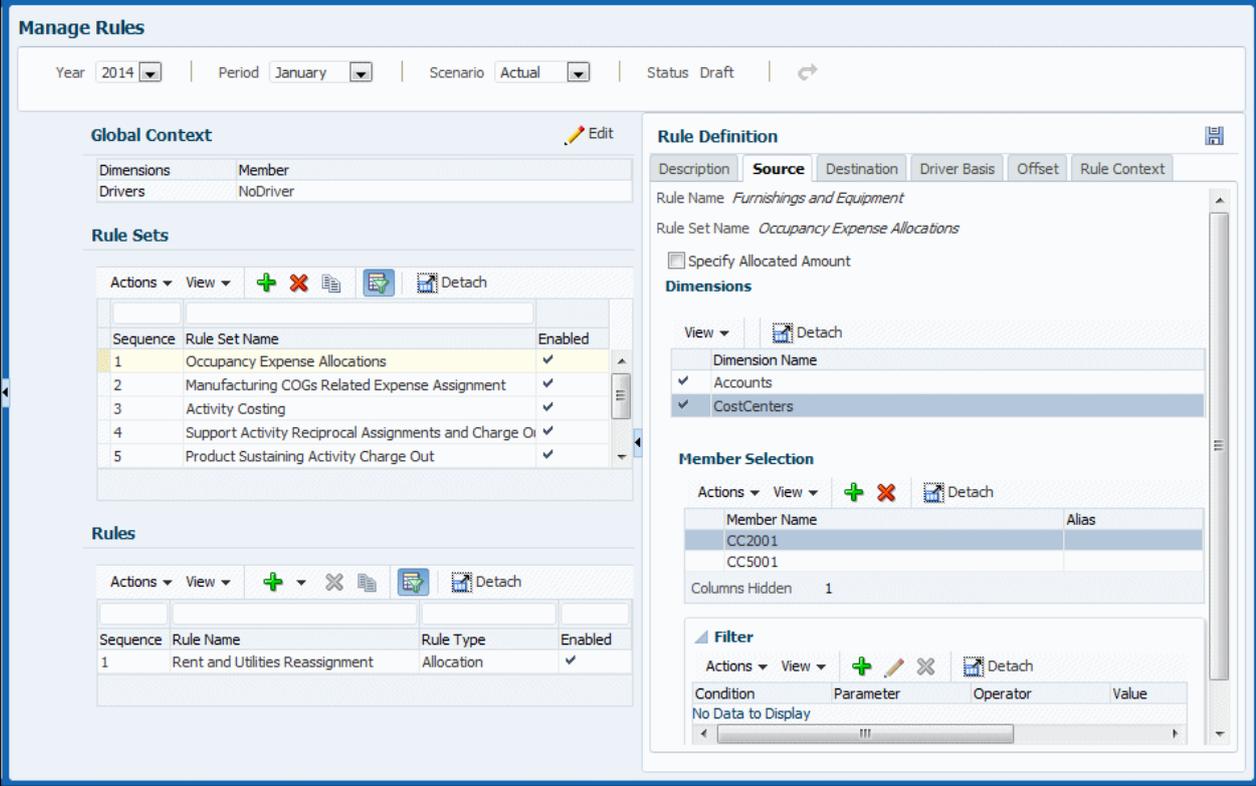
Actions ▾ View ▾ | Detach

Condition	Parameter	Operator	Value
No Data to Display			

2. 配賦するデータを保持するディメンションおよびメンバーを選択します。
3. オプション: 「メンバー選択」領域のメンバーをフィルタ処理します。このトピックの最後の「ディメンション・メンバーのフィルタ処理」を参照してください。
4. ルール・ソース情報が完成したら、  
 (保存)をクリックします。
5. 次の手順は、配賦されたデータの「宛先」の入力です。

396ページの図 24では、Occupancy Expense Allocationsルール・セットのFurnishings and Equipmentが、「費用センター」ディメンションのCC2001およびCC5001メンバーからデータを抽出しています。

図24 管理元帳の配賦ソース定義の例



The screenshot shows the 'Manage Rules' interface. The 'Global Context' section shows 'Year: 2014', 'Period: January', 'Scenario: Actual', and 'Status: Draft'. The 'Rule Sets' table lists several rule sets, with 'Occupancy Expense Allocations' selected. The 'Rule Definition' section is active, showing 'Rule Name: Furnishings and Equipment' and 'Rule Set Name: Occupancy Expense Allocations'. Under 'Dimensions', 'Accounts' and 'CostCenters' are selected. The 'Member Selection' table shows 'Member Name' (CC2001, CC5001) and 'Alias'. The 'Filter' section is currently empty.

配賦ルールの宛先を定義するには、397ページの管理元帳配賦ルールの宛先の定義を参照してください。

ルールを編集および削除するには、412ページの管理元帳ルールの管理を参照してください。

## ディメンション・メンバーのフィルタ処理

- ▶ 次の手順を実行して、「ルール定義」画面の「メンバー選択」領域でメンバーをフィルタ処理します。
1. 「ルール定義」領域の一番下で、「フィルタ」の前の矢印をクリックして「フィルタ」領域を展開します。
  2. フィルタを追加するには、



をクリックするか、「アクション」、「フィルタの追加」を順に選択します。

パラメータ(「名前」など)と「演算子」(=, or, <, >)を選択し、「値」に名前の最初の数文字などを入力します。「OK」をクリックすると、「値」と一致するメンバーが表示され、フィルタが表に追加されます。

3. フィルタを編集するには、フィルタを選択して



をクリックします。必要に応じてフィルタを変更して「OK」をクリックします。

4. フィルタを削除するには、フィルタを選択して



をクリックします。フィルタが削除されます。

## 管理元帳配賦ルールの宛先の定義

395ページの[管理元帳配賦ルールのソースの定義](#)では、管理元帳の配賦のデータ・ソースの入力方法について説明しています。次の手順は、配賦の宛先、支出を受け取るディメンションまたは配賦ソースから取得するその他のデータの定義です。

▶ 配賦ルールがデータを割り当てる宛先を定義するには:

1. 開いているルールで、「宛先」タブをクリックします( [398ページの図 25](#))。

図25 管理元帳の配賦ルール定義領域の「宛先」タブ

**Rule Definition** 

Description Source **Destination** Driver Basis Offset Rule Context

Rule Name *Furnishings and Equipment*

Rule Set Name *Occupancy Expense Allocations*

**Dimensions**

View ▾  Detach

Dimension Name	Same As Source
Accounts	<input type="checkbox"/>
CostCenters	<input type="checkbox"/>

**Member Selection**

Actions ▾ View ▾    Detach

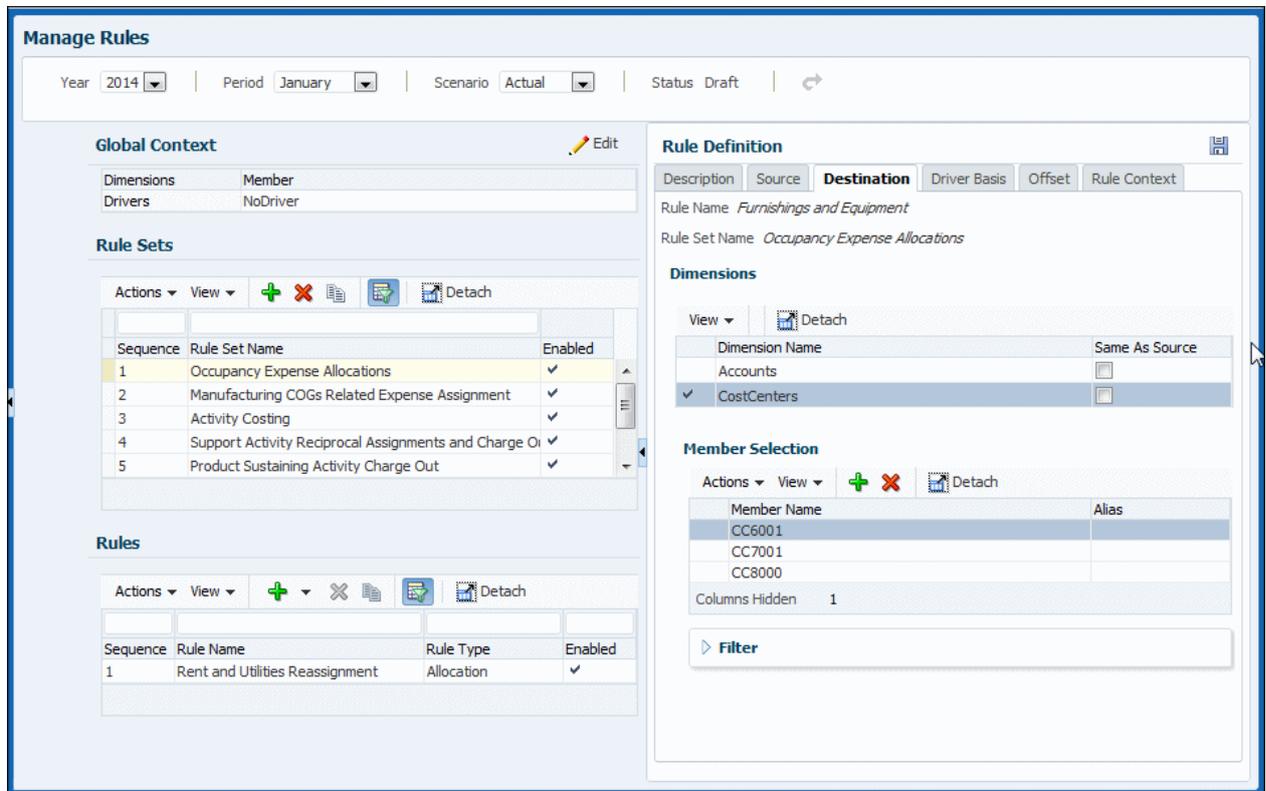
Member Name	Alias
Columns Hidden	1

 Filter

2. 配賦されたデータを受け取るディメンションおよびメンバーを選択します。
3. オプション: 宛先ディメンションがソースと同じ場合は、「ソースと同じ」を選択します。
4. オプション: [395ページの管理元帳配賦ルールのソースの定義](#)、手順3の説明に従って、データをフィルタ処理します。
5. ルール宛先情報が完成したら、  
  
 (保存)をクリックします。
6. 次の手順は、配賦されたデータの「ドライバ基準」の入力です。

399ページの図 26に、Furnishings and Equipmentルールでの配賦データの宛先の1つ(「費用センター」ディメンションと、CCに番号が続く名前)の各種メンバーを示します。

図26 管理元帳の配賦の宛先定義の例



ルールのドライバ基準を入力するには、399ページの管理元帳配賦ルールのドライバ基準の定義を参照してください。

ルールを編集および削除するには、412ページの管理元帳ルールの管理を参照してください。

## 管理元帳配賦ルールのドライバ基準の定義

397ページの管理元帳配賦ルールの宛先の定義では、管理元帳の配賦のデータの宛先の入力方法について説明します。次の手順は、ドライバ値が見つかるメンバーである配賦ドライバ基準の定義です。

管理元帳モデルでは、Profitability and Cost Managementは宛先にフォーカスがあることを前提とします。「ドライバ基準」タブでのディメンションとメンバーの選択は、ドライバが配置されている場所を定義する宛先に対する変更を表します。たとえば、配賦の宛先が販売部門と給与勘定科目の交差の場合、「ドライバ基準」の定義は「人数」勘定科目メンバーです。デフォルトでは、すべてのドライバ値の合計で除算したメンバーに対するドライバ値の比率を使用して、データが宛先に比例で配賦されます。データを均等に配賦することを選択できます。これはドライバ比率が1の場合と同じです。

通常、システムは、任意の交差に関連付けられた統計メンバーが1つのディメンション(通常は勘定科目ディメンション)の1つのメンバーに含まれるように設定されます。ディメンションごとに1つのメンバーのみ選択できます。

➤ 管理元帳配賦ルールのドライバ基準を定義するには:

1. 開いているルールで、「ドライバ基準」タブをクリックします( 400ページの図 27)。

図27 管理元帳の配賦ルール定義領域の「ドライバ基準」タブ

**Rule Definition**

Description Source Destination **Driver Basis** Offset Rule Context

Rule Name *Furnishings and Equipment*

Rule Set Name *Occupancy Expense Allocations*

Specify Driver Location  
 Allocate Evenly

**Dimensions**

View ▾ Detach

Dimension Name
Balance
Rule
Drivers
Year
Region
Scenario
Period
Products
Customers
Accounts
Activities
CostCenters

**Member Selection**

Actions ▾ View ▾ Detach

Member Name	Alias
Columns Hidden	1

2. データを比率で配賦する必要があるか(ドライバの場所の指定)、均等に配賦する必要があるか(均等に配賦)を選択します。
3. 「ドライバの場所の指定」を選択した場合は、ドライバ・データを保持するディメンションとメンバーを選択します(「人数」など)。
4. ルール・ソース情報が完成したら、



(保存)をクリックします。

5. 次の手順は、配賦の「オフセット」の入力です(オプション・タスク)。

399ページの図 26は、Furnishings and Equipmentルールに関してデータを配賦するときに適用されるドライバの位置を示します(「勘定科目」ディメンションの「統計」メンバー)。

図28 管理元帳のドライバの場所の選択の例

The screenshot shows the 'Manage Rules' interface with the following sections:

- Global Context:** Year: 2014, Period: January, Scenario: Actual, Status: Draft.
- Global Context Dimensions:** Member: NoDriver.
- Rule Sets:** A list of rule sets with the following data:

Sequence	Rule Set Name	Enabled
1	Occupancy Expense Allocations	✓
2	Manufacturing COGs Related Expense Assignment	✓
3	Activity Costing	✓
4	Support Activity Reciprocal Assignments and Charge O	✓
5	Product Sustaining Activity Charge Out	✓
- Rules:** A list of rules with the following data:

Sequence	Rule Name	Rule Type	Enabled
1	Rent and Utilities Reassignment	Allocation	✓
- Rule Definition:** Rule Name: Furnishings and Equipment, Rule Set Name: Occupancy Expense Allocations. Options:  Specify Driver Location,  Allocate Evenly.
- Dimensions:** A list of dimensions with 'Accounts' selected.

Dimension Name
Balance
Rule
Drivers
Year
Region
Scenario
Period
Products
Customers
✓ Accounts
Activities
CostCenters
- Member Selection:** A table showing member selection:

Member Name	Alias
Statistics	Statistics
Columns Hidden	1

ルールのオフセットを入力するには、401ページの管理元帳配賦ルールの配賦オフセットの定義を参照してください。

ルールを編集および削除するには、412ページの管理元帳ルールの管理を参照してください。

## 管理元帳配賦ルールの配賦オフセットの定義

399ページの管理元帳配賦ルールのドライバ基準の定義では、管理元帳モデルの配賦金額を決定するドライバの選択方法について説明します。次の手順は、配賦オフセットの位置、つまり配賦ソースの減少に対応する残高の増加を保持するメンバーの定義です。デフォルトでは、オフセットはソースに書き込まれませんが、別の位置を指定できます。この手順は省略可能です。

オフセット位置の定義では、別の位置を選択するオプションを使用してソースにフォーカスがあることを前提としています。たとえば、配賦ソースが給与勘定科目と交差する販売部門であると想定します。オフセットのデフォルトの位置は、給与と販売の交差になります。ただし、販売部門のアウトバウンド配賦をかわりに指定できます。単一の変更を

指定することで、オフセットがソースではなくアウトバウンド配賦および販売ディメンションの交差に書き込まれるようにターゲットの場所を変更することを除き、ソースにオフセット・エントリを書き込むようシステムに指示します。

▶ 管理元帳配賦ルールのオフセットを定義するには:

1. 開いている配賦ルールで、「オフセット」タブをクリックします( 402ページの図 29)。

図29 管理元帳の配賦ルール定義領域の「オフセット」タブ

**Rule Definition**

Description Source Destination Driver Basis **Offset** Rule Context

Rule Name *Furnishings and Equipment*

Rule Set Name *Occupancy Expense Allocations*

Offset Location

Source

Alternate Offset Location

**Dimensions**

View ▾ Detach

Dimension Name
Drivers
Region
Products
Customers
Accounts
Activities
CostCenters

**Member Selection**

Actions ▾ View ▾ Detach

Member Name	Alias
Columns Hidden	1

2. オフセット・データを「ソース」の交差と「代替オフセット位置」のどちらに書き込む必要があるかを選択します。
3. 「代替オフセット位置」を選択した場合は、ドライバ・データを保持するディメンションとメンバーを選択します。
4. ルール・ソース情報が完成したら、



(保存)をクリックします。

ルールのコンテキスト定義を確認するには、[403ページの管理元帳ルールのコンテキストの表示](#)を参照してください。

ルールを編集および削除するには、[412ページの管理元帳ルールの管理](#)を参照してください。

## 管理元帳ルールのコンテキストの表示

[383ページの管理元帳ルールのグローバル・コンテキストの定義](#)および [388ページの管理元帳のルール・セット・コンテキストの定義および管理](#)では、特定のPOVの管理元帳ルールに適用するデフォルトのディメンションおよびメンバーを選択する方法について説明します。

▶ 選択したルールに適用されるコンテキストを表示するには:

1. ルールが選択されて開かれていない場合は、ルールを開きます。
2. 「ルール・コンテキスト」タブをクリックします。

表示される情報は編集できません。

他のルール定義タスクを実行するには、[391ページの管理元帳モデルの計算ルールの定義および管理](#)を参照してください。

ルールを編集および削除するには、[412ページの管理元帳ルールの管理](#)を参照してください。

## 管理元帳カスタム計算ルールの作成

### サブトピック

- [管理元帳カスタム計算ルールのターゲットの定義](#)
- [管理元帳カスタム計算ルールの式の定義](#)
- [管理元帳カスタム計算ルールのコンテキストの表示](#)

計算ルールは、管理元帳モデルのコアを形成します。[392ページの管理元帳配賦ルールの作成](#)では、新しい配賦ルールの作成方法を説明しています。これにより、配賦されたデータのフロー方法やドライバによる配賦額の決定方法が決まります。この項では、カスタム計算ルールを作成する方法について説明します。

配賦ルールとは異なり、カスタム計算ルールには、ドライバ基準と会計オフセットを定義するオプションが含まれるソースと宛先の定義はありません。かわりに、カスタム計算ルールでは、データベースの特定のリージョンで実行し、結果が特定のメンバーに転記される計算を定義できます。カスタム計算ルールは、主に既存のデータを調整して、シナリオを作成したりレポート作成要件に合せたりするために使用されます。

配賦ルールと同じく、ルール・ディメンション・メンバーがカスタム計算ルールにリンクされています。カスタム計算ルールによって作成されるすべてのデータは、対応するルール・ディメンション・メンバーに書き込まれます。

カスタム計算ルールには次のコンポーネントがあり、「ルール定義」領域のタブに対応しています。

- **説明** — ルール名、ルール番号、テキスト説明およびルールレベルのオプション(この項の後半で説明)
- **ターゲット** — ルールが作用するデータベース内のターゲット範囲( [406ページの管理元帳カスタム計算ルールのターゲットの定義](#) )
- **式** — 計算の結果が書き込まれるメンバーおよび計算の数式( [407ページの管理元帳カスタム計算ルールの式の定義](#) )
- **ルール・コンテキスト** — カスタム計算ルールに定義されたグローバル・コンテキストまたはルール・セット・コンテキストの表示( [412ページの管理元帳カスタム計算ルールのコンテキストの表示](#) )

配賦ルールと同様に、カスタム計算ルールは、ルール・セットに属し、シーケンス番号を持ち、コンテキストを継承し、「使用可能」設定によりアクティブ化と非アクティブ化を切り替えられます。ルール・セット実行オプション(直列、並列および反復)も同じです。カスタム計算ルールは、配賦ルールと同じ方法でコピーおよび削除できます( [412ページの管理元帳ルールの管理](#) )。

▶ 管理元帳モデル内の1つのPOVのカスタム計算ルールを定義するには:

1. 開いている管理元帳モデルで、「プログラムの管理」グループの「ルールの管理」を選択します。
2. 「ルールの管理」コンテンツ領域で( [384ページの図 16](#) )、有効なPOVの年と期間を入力し、 (リフレッシュ)をクリックします。
3. 「ルール・セット」領域で、ルール・セットを選択します。
4. 次のいずれかの操作を行います:

- 「ルール」領域で、



をクリックするか「カスタム計算」を選択します。

- 「アクション」、「ルールの作成」、**カスタム・ルールの作成**の順に選択します。

「ルール定義」領域の「説明」タブが表示されます( [405ページの図 30](#) )。

図30 管理元帳のカスタム計算ルール定義領域の「説明」タブ

**Rule Definition** 

**Description** | Target | Formula | Rule Context

Rule Set Name *Activity Costing*

Rule Number

\* Rule Name

Rule Type *Custom Calculation*

Description

Enabled

Sequence

Use Rule Set Context

5. ルールの名前を入力します。
6. オプション: 「説明」ボックスに、ルール・セットの説明を入力します。
7. オプション: 「使用可能」を選択して、計算が実行されるときにルールがアクティブになることを指定します。
8. ルール・セット内のルールが実行される順序を決定する「シーケンス」番号を入力します。

同じシーケンス番号を含むルールは、ルール・セットに対して並列計算が有効になっており、コンピュータ・ハードウェアで並列計算がサポートされている場合は同時に実行されます。

9. 「ルール・セット・コンテキストの使用」が選択されている場合は、ルール・セット・コンテキストが現在のルールに適用されることを示します(定義されている場合)。

グローバル・コンテキストがルール・セットに対して有効になっている場合は、それも適用されます。

10. ルール・セット定義が完了したら、「保存」



をクリックします。

次のルール定義タスクを実行するには、[406ページの管理元帳カスタム計算ルールのターゲットの定義](#)を参照してください。

ルールを編集および削除するには、[412ページの管理元帳ルールの管理](#)を参照してください。

## 管理元帳カスタム計算ルールのターゲットの定義

[403ページの管理元帳カスタム計算ルールの作成](#)では、管理元帳カスタム計算ルールの「説明」タブの設定方法を説明しています。次の手順では、計算ターゲット(カスタム計算ルールが作用するディメンションの範囲)を定義します。

▶ カスタム計算ルールが影響するターゲットを定義するには:

1. 開いているカスタム計算ルールで、「ターゲット」タブをクリックします([407ページの図 31](#))。

図31 管理元帳のカスタム計算ルール定義領域の「ターゲット」タブ

**Rule Definition** 

Description **Target** Formula Rule Context

Rule Name *CC Rule 1*

Rule Set Name *Activity Costing*

Result Dimension  ▼

**Dimensions**

View ▼  Detach

Dimension Name
Balance
Accounts
Activities

**Member Selection**

Actions ▼ View ▼    Detach

Member Name	Alias
Columns Hidden	1

 **Filter**

2. カスタム計算式によって影響を受けるディメンションとメンバーを選択します。
3. オプション: [395ページの管理元帳配賦ルールのソースの定義](#)の説明に従って、データをフィルタ処理します。
4. ルールのターゲット情報を設定したら、  
  
(保存)をクリックします。
5. 次の手順は、カスタム計算ルールの「式」の入力です。

次のルール定義タスクを実行するには、[407ページの管理元帳カスタム計算ルールの式の定義](#)を参照してください。

ルールを編集および削除するには、[412ページの管理元帳ルールの管理](#)を参照してください。

## 管理元帳カスタム計算ルールの式の定義

### サブトピック

- [管理元帳カスタム計算ルールの式の構文](#)
- [カスタム計算ルール式の検証の要件](#)

[406ページの管理元帳カスタム計算ルールのターゲットの定義](#)では、管理元帳カスタム計算ルールによって影響を受けるディメンションとメンバーの範囲を入力する方法を説明しています。次の手順では、ルールの計算式を定義します。

▶ 管理元帳カスタム計算ルールの式を定義するには:

1. 開いているカスタム計算ルールで、「式」タブをクリックします( [409ページの図 32](#))。

図32 管理元帳のカスタム計算ルール定義領域の「式」タブ

The screenshot shows a 'Rule Definition' dialog box with four tabs: 'Description', 'Target', 'Formula', and 'Rule Context'. The 'Formula' tab is selected. The 'Rule Set Name' is 'Activity Costing' and the 'Rule Name' is 'CC Rule 1'. A large text area for the formula is present, with a 'Validate Formula' button below it. A save icon is in the top right corner.

2. 式をテキスト文字列として入力します(詳細は [410ページの管理元帳カスタム計算ルールの式の構文](#)を参照)。
3. **式の検証**を選択して、式が有効かどうかを判別します。

詳細は、[411ページのカスタム計算ルール式の検証の要件](#)を参照してください。

4. 式が完成したら、



(保存)をクリックします。



注:

ルールの計算に続いて、適切なモデル・ビューを定義し、「ルール貸借一致」または「問合せの管理」タスク領域を使用してカスタム計算ルールの結果を表示できます。

カスタム計算ルールのコンテキスト定義を表示するには、[412ページの管理元帳カスタム計算ルールのコンテキストの表示](#)を参照してください。

ルールを編集および削除するには、[412ページの管理元帳ルールの管理](#)を参照してください。

## 管理元帳カスタム計算ルールの式の構文

カスタム計算ルールの構文すなわちフォーマットを次にまとめています。

- 基本の式のフォーマットは、結果 = ターゲットです。
- 等式の左辺は、結果(結果が書き込まれるメンバー)です。次のフォーマットは1つのレベル0メンバーのみです。

`</MemberName/>`

- 等式の右辺はターゲットです。これには、他のメンバー、タプルまたは定数(任意のレベル)と、実行する数式が含まれます。

ターゲットは、MDX数値式です(MDXはXML for Analysisメンバーの共同仕様)。XML for Analysisの詳細は、<http://www.xmlforanalysis.com>を参照してください。使用できるMDX構文の詳細は、*Oracle Essbaseテクニカルリファレンス*を参照してください。

- 各メンバーまたはタプルは、`</ />`記号で囲みます。タプルまたはメンバーにルール・ディメンション・メンバーが含まれない場合、ルール・ディメンションの上位がターゲットのメンバーとみなされます。すべての結果は、結果メンバーと、定義しているカスタム計算ルールの新しいルール・メンバーとの交差に書き込まれます。式の要件は、[411ページのカスタム計算ルール式の検証の要件](#)を参照してください。
- カスタム計算ルールでは、メンバー名について次の構文フォーマットがサポートされます。
  - 修飾なし: メンバー名のみを指定します。

例: `</MemberName/>`

- 部分修飾: ディメンション名とメンバー名。

例: `</Dimension.MemberName/>`

- 完全修飾: メンバーの完全修飾名(FQN)。

例: `</Dimension.[Gen2].[Gen3.]Gen4]...[MemberName]/>`

## 例

次に、様々な種類の式の例を示します。

- 定数:

`</Adjustment In/> = 100`

- 1つのメンバー:

`</Adjustment In/> = </Input/> * 0.15`

- 1つのタプル:

`</Adjustment In/> = </Input,2013,Budget/> * 1.15`

- 複数タプルの計算:

`</Adjustment In/>=</Input,Total Year,Budget/>*( </Input,2013,Jan,Budget/>/</Input,2013,Total Year,Budget/>)`

## カスタム計算ルール式の検証の要件

式の検証をクリックすると、Profitability and Cost Managementによって次の各項がチェックされます。

- カスタム計算ルールの「ルール定義」タスク領域の「ターゲット」タブでは、式の結果で使用される1つのディメンションを除くすべてのディメンションが選択されている必要があります。
- 式の結果項に、タプルを含めることはできません。たとえば、次のように指定することはできません。

`</A11,B11/> = <A11>*3`

- 親メンバーは、式の結果項に指定できません。たとえば、次のように指定することはできません(A1が親メンバーの場合)。

`</A1/> = <A11>*3`

- ターゲットでは、単一メンバー参照として結果ディメンションのメンバーしか指定できません。タプルは、結果ディメンションの1メンバーを含む必要があります。たとえば、有効な式と無効な式を次に示します。

無効な式: `</A11/> = <B11>*3`

有効な式: `</A11/> = <A11,B11>*3`, `</A11/> = <A41,B11>*3`, `</A11/> = <A21>*3`

- 有効な算術演算子は次のとおりです。

+、-、\*、/

ターゲット項と結果項を有効な等号(=)で区切ります。式には=記号を1つしか指定できません。

モデルに含まれるメンバーが複数のディメンションで重複している場合は、部分修飾名または完全修飾名を使用する必要があります( [410ページの管理元帳カスタム計算ルール式の構文](#)を参照)。

結果項に指定できるのは、ターゲット項のディメンション・メンバーのみです。

結果項には、結果ディメンションのレベル0メンバーを1つ指定する必要があります。

この項で説明したように、ターゲット式には、有効なディメンション・メンバーを有効なフォーマットで指定する必要があります。また、*Oracle Essbaseテクニカル・リファレンス*も参照してください。

## 管理元帳カスタム計算ルールのコンテキストの表示

383ページの管理元帳ルールのグローバル・コンテキストの定義および 388ページの管理元帳のルール・セット・コンテキストの定義および管理では、特定のPOVの管理元帳ルールに適用するデフォルトのディメンションおよびメンバーを選択する方法について説明します。

▶ 選択したカスタム計算ルールに適用されるコンテキストを表示するには:

1. カスタム計算ルールがまだ選択されず、開いていない場合は、ルールを開きます。
2. 「ルール・コンテキスト」タブをクリックします。

表示される情報は編集できません。

カスタム計算ルールの概要は、391ページの管理元帳モデルの計算ルールの定義および管理を参照してください。

配賦ルールおよびカスタム計算ルールを編集および削除するには、412ページの管理元帳ルールの管理を参照してください。

## 管理元帳ルールの管理

これまでの項でルールを作成する方法について説明しています。ルールを削除およびコピーすることもできます。

▶ ルールを削除するには:

1. 「ルールの管理」コンテンツ領域を表示します( 382ページの管理元帳の「ルールの管理」領域について)。
2. POVを入力し、ルール・セットを選択します。
3. 「ルール」領域で、ルールを選択します。



をクリックするか、「アクション」、「ルールの削除」の順に選択します。

5. ルールを削除することを確認します。



(保存)をクリックします。

▶ ルールをコピーするには:

1. 「ルールの管理」コンテンツ領域で、POVを入力し、ルール・セットを選択します。
2. 「ルール」領域で、ルールを選択します。



をクリックするか、「アクション」、「ルールのコピー」の順に選択します。

4. 新しいルールの名前を入力します。

5. 「OK」をクリックし、



(保存)をクリックします。

# 管理元帳Profitabilityアプリケーションのトレース

## サブトピック

- [管理元帳の配賦のトレースについて](#)
- [管理元帳の配賦トレースの実行](#)
- [管理元帳の配賦トレース結果の表示](#)

管理元帳Profitabilityの「**配賦のトレース**」タスク領域では、モデル・ビューとPOVを選択し、その視点の前方または後方のトレースを選択して、選択したディメンションの配賦の入力と出力を表示できます。[424ページの管理元帳Profitabilityアプリケーション検証のルール貸借一致](#)で説明されているルール貸借一致では、これに似た情報がグリッド形式で表示されますが、「配賦のトレース」機能では配賦額のモデル要素に入るフローとモデル要素から出るフローがグラフィカルに表示されます。この情報は評価と検証に使用できます。トレースする場合は、特定の生成レベルを選択できます。または、常に一番上までデータをロール・アップします。詳細は、示しているトピックを参照してください。



注:

管理元帳モデルで配賦をトレースするには、互換性があるバージョンのAdobe Flash Playerをブラウザにインストールする必要があります。現在、Flash Player 10が必要です。Adobe Flash Playerをダウンロードできる場所を次に示します。

<http://get.adobe.com/flashplayer/>

## 管理元帳の配賦のトレースについて

「**配賦のトレース**」タスク領域に入力したPOVとモデル・ビューによって定義されるフォーカル・ノードを選択して、配賦トレースを開始します。フォーカル・ノードから前方または後方にトレースすることができます。

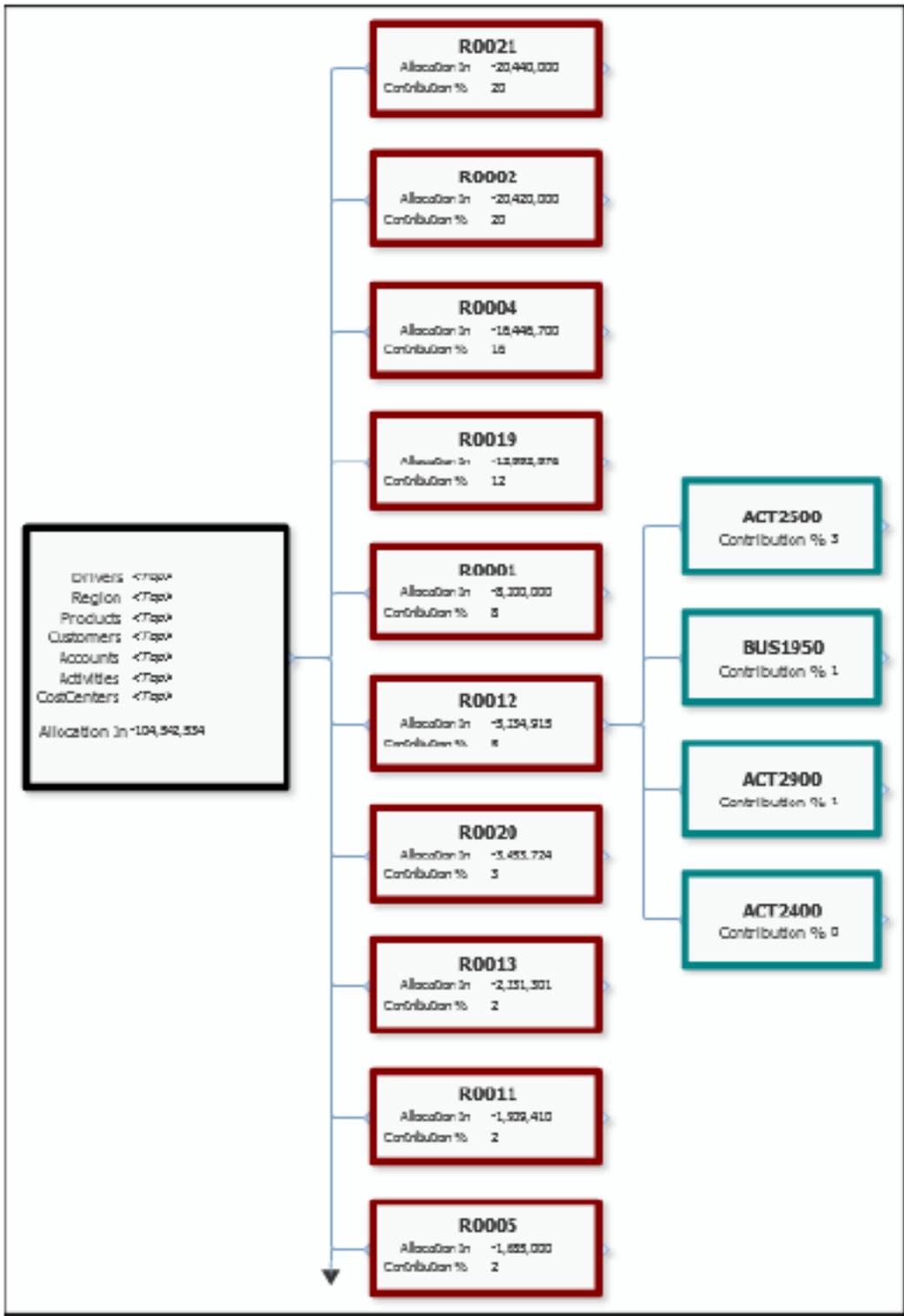
後方にトレースすると、フォーカル・ノードの選択したディメンションにコントリビューションする配賦が表示されます。フォーカル・ノードの後方の1つ目のレベルはルール・ノードです。ここでは、各ルールからのコントリビューションが表示されます。ルール・ノードの後方のレベルは、ディメンション・ノードです。ディメンション・ノードには、最上位レベルまたは選択した世代かレベルで、選択したディメンションの各メンバーからのコントリビューションが表示されます ([414ページの図 33](#))。



注:

この図は、多数のノードが表示される縮小ビューです。拡大して細かい部分を表示できます。また、図を画面内で移動して各部を確認することもできます ([415ページの管理元帳の配賦トレースの実行](#))。

図33 ノードを含む「配賦のトレース」領域(後方トレース)



デフォルト・レイアウトではノードは列として表示されます。1つのフォーカル・ノードの後に、ルール・ノードの列があり、展開されたルール・ノードのディメンション・ノードの列が続きます。ルール・ノードとディメンション・ノードには、フォーカル・ノードの値に対するコントリビューションのパーセンテージが表示されます。

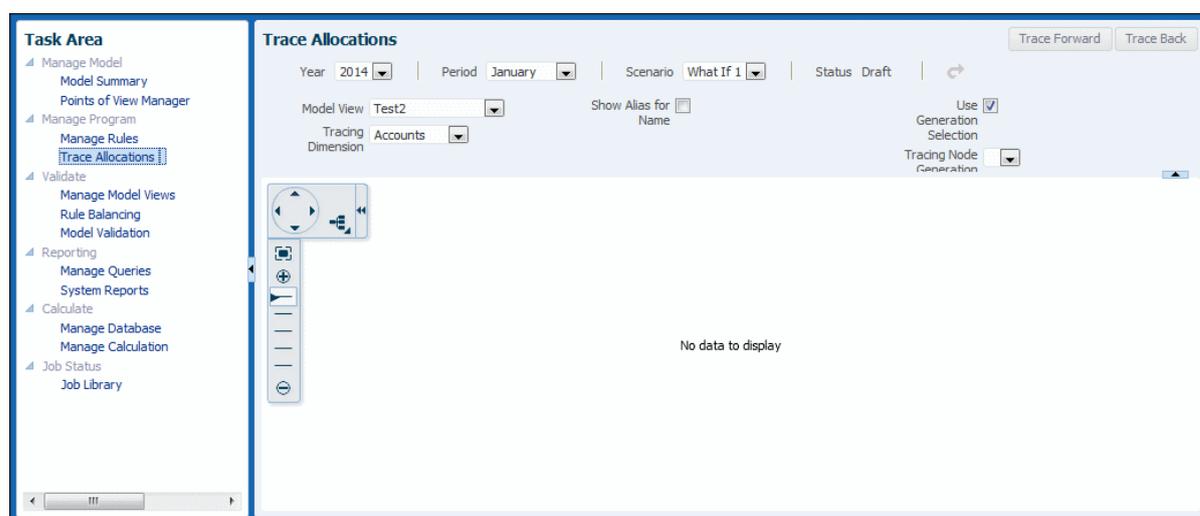
フォーカル・ノードから前方にトレースすると、ルール・ノードとディメンション・ノードには直前の要素(つまり、フォーカル・ノードからルール・ノード、ルール・ノードからディメンション・ノード)からのコントリビューション(「配賦範囲外」)が表示されます。

## 管理元帳の配賦トレースの実行

▶ トレースを実行するには:

1. 管理元帳Profitabilityモデルを開き、「プログラムの管理」タスク領域で「配賦のトレース」を選択します(415ページの図34)。

図34 管理元帳の「配賦のトレース」タスク領域



2. 「配賦のトレース」領域で、トレースの開始位置であるフォーカル・ノードのPOVの情報とモデル・ビューを選択します(413ページの管理元帳の配賦のトレースについて)。
3.  をクリックして、選択内容を検証します。
4. 「ディメンションをトレース中」で、トレース対象のディメンションを選択します。
5. 名前ではなく別名を使用するかどうかを指定します。
6. 特定のノード・レベルを選択するか、各ノードの最上位レベル(0)を表示するかを指定します。
7. フォーカル・ノードから生じる配賦をトレースするか、フォーカル・ノードにコントリビューションする配賦をトレースするかに応じて、「前方トレース」または「後方トレース」をクリックします(413ページの管理元帳の配賦のトレースについて)。
8. トレース結果を表示します(415ページの管理元帳の配賦トレース結果の表示)。結果を拡大または縮小して図の細部や全体を表示したり、移動して各部を表示したりすることができます。

さらにトレースを続ける場合は、POV、モデル・ビュー、ディメンションまたは世代レベルを変更できます。たとえば、ディメンション・メンバーを新しいトレースのフォーカル・ノードに設定できます。

## 管理元帳の配賦トレース結果の表示

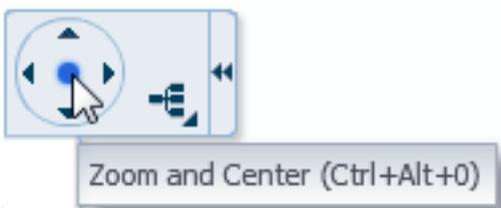
最初にトレースを実行すると、フォーカル・ノードが表示されます(416ページの図35)。

図35 管理元帳配賦トレースのフォーカル・ノード

Drivers	<Top>
Region	<Top>
Products	<Top>
Customers	<Top>
Accounts	<Top>
Activities	<Top>
CostCenters	<Top>
Input	9,746,554
Adjustment In	0
Adjustment Out	0
Allocation In	<b>-104,542,534</b>
Allocation Out	104,542,534
Allocation Offset	<b>0</b>
Balance	9,746,554

フル・サイズ(ズーム率100%)では、フォーカル・ノードには、モデル・ビュー、ディメンション・メンバー、残高、入力、調整範囲内、調整範囲外、配賦範囲内、配賦範囲外、配賦オフセット額が表示されます。

フォーカル・ノードの全体が表示されない場合は、ズーム/中央ツールを使用して動かすことができます。



中央の点をクリックすると、図が中央に表示されます。矢印をクリックすると、その方向に図の背景が動きます。つまり、図そのものは反対方向に動きます。

フォーカル・ノードの右端の中央をポイントすると、+ (プラス)記号が表示されます。



+記号をクリックすると、グラフが展開され、ルール・ノードが表示されます( 417ページの図 36)。

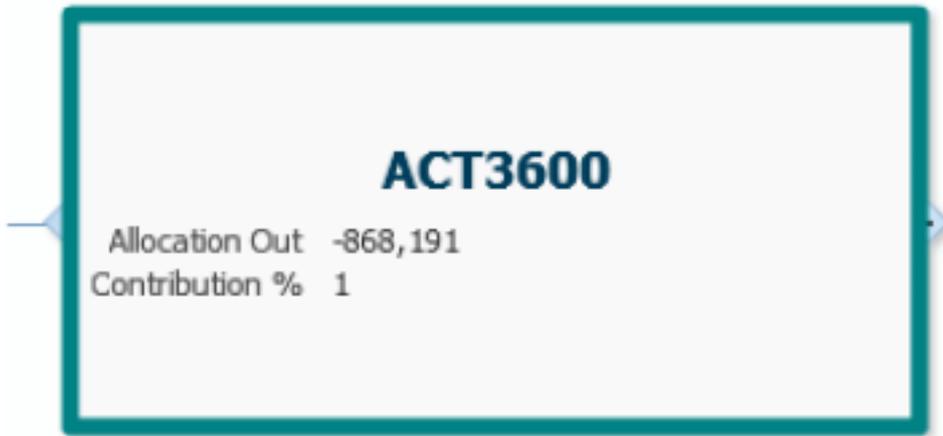
図36 管理元帳配賦トレースのルール・ノード



100%ズームでは、ルール・ノードにルール番号、ルール名およびルール・セットが表示されます。配賦ドライバ、配賦範囲内(後方トレース)、配賦範囲外(前方トレース)、およびフォーカル・ノードに示される合計配賦に対するコントリビューションも表示されます。

ルール・ノードの右端をポイントすると、+記号をクリックして、ディメンション・ノードを表示できるようになります( 418ページの図 37)。左側の記号をクリックすると、ルール・ノードが図の他の部分から離れて単独で表示されます。矢印記号をクリックすると、図の表示に戻ります。

図37 管理元帳配賦トレースのディメンション・ノード



100%ズームでは、ディメンション・ノードには、メンバー名、配賦範囲外(後方トレース)、配賦範囲内(前方トレース)、およびフォーカル・ノードへのコントリビューションの割合またはフォーカル・ノードからのコントリビューションの割合が表示されます。ノード左端の記号をクリックすると、そのノードが図の他の部分から離れて表示されます。矢印をクリックすると元に戻ります。右端の+記号は、ディメンションにその他のレベルがあることを示します。ただし、クリックしても展開されません。図が限界まで展開されているためです。

## 図のその他のコントロール

図のその他のコントロールでは、次のアクションが実行されます。

-   
— ノード・ツリーの構成を変更します。
-   
— 縮小表示して、図のできるだけ多くの部分を表示します。最大で10個のルール・ノードとディメンション・ノードが表示されます。各タイプの最後のノードの後に矢印がある場合は、さらに表示できるノードがあることを意味します。
-   
— クリックすると、図が段階的に拡大されます(ズーム・イン)。
-   
— クリックすると、図が段階的に縮小されます(ズーム・アウト)。



注:

ズーム・インとズーム・アウトを行うとき、2つのズーム・アイコンの間で矢印が移動して相対的なズーム・レベルを示します。



— コントロール・パネルを非表示にします。クリックすると再び表示されます。

ズーム・レベル、100%、75%および50%では、ハイパーリンクによって、フォーカル・ノードとルール・ノードの「配賦範囲内」と「配賦範囲外」の金額が表示されます。[447ページの管理元帳の「ルール貸借一致」画面からの問合せの実行](#)で説明するように、これらをクリックしてSmart Viewを起動できます。



## この項の内容:

管理元帳のモデル検証について .....	421
管理元帳モデル・ビューの作成および管理 .....	421
管理元帳Profitabilityアプリケーション検証のルール貸借一致 .....	424
管理元帳モデルのモデル検証分析の実行 .....	427

## 管理元帳のモデル検証について

Profitability and Cost Managementの次の2つの機能を使用して、管理元帳のモデルを検証できます。

- ルール貸借一致では、モデル内のディメンション/メンバーの組合せを表示して、配賦が予期したとおりに機能していることを確認できます( [424ページの管理元帳Profitabilityアプリケーション検証のルール貸借一致](#))。
- 検証およびシステム・レポートでは、ロジックとシステムの問題を特定して診断できます( [427ページの管理元帳モデルのモデル検証分析の実行](#))。

モデル・ビューは、ルール貸借一致および問合せの役に立ちます( [421ページの管理元帳モデル・ビューの作成および管理](#))。

# 管理元帳モデル・ビューの作成および管理

## サブトピック

- [モデル・ビューについて](#)
- [モデル・ビューの作成](#)
- [モデル・ビューの管理](#)

## モデル・ビューについて

管理元帳Profitabilityアプリケーションのモデル・ビュー機能を使用すると、データベースの特定の領域からデータを返すモデルのスライスを定義できます。モデル・ビューは、保存、コピーおよび変更できます。これらを、貸借一致など他のタスクで使用して、取り出すディメンションとメンバーを特定できます。詳細は、[422ページのモデル・ビューの作成](#)および [423ページのモデル・ビューの管理](#)を参照してください。

## モデル・ビューの作成

▶ モデル・ビューを作成するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」の「検証」グループにある「モデル・ビューの管理」を選択します。
2. 「モデル・ビューの管理」領域で、



をクリックするか、「アクション」メニューの「モデル・ビューの作成」を選択します。

3. 「モデル・ビュー」領域で、「モデル・ビュー名」と「説明」(オプション)に入力します( [422ページの図 38](#))。

図38 モデル・ビューの作成に必要な情報

The screenshot shows the 'Model View' configuration window. It has a title bar 'Model View' and a close button. The main area contains two input fields: '\* Model View Name' and 'Description'. Below these are two sections: 'Dimensions' and 'Member Selection'. The 'Dimensions' section has a 'View' dropdown, 'Move Up', 'Move Down', and 'Detach' buttons, and a list of dimension names: Drivers, Region, Products, Customers, Accounts, Activities, and CostCenters. The 'Member Selection' section has 'Actions', 'View', '+', 'x', and 'Detach' buttons, and a table with columns 'Member Name' and 'Alias'. The table shows 'Columns Hidden' as 1.

4. 「ディメンション」領域にある上矢印と下矢印は、選択したディメンションをリスト内で上下に移動する際に便利です。

多数のディメンションがある場合は、よく使用するディメンションを上部に移動することをお勧めします。

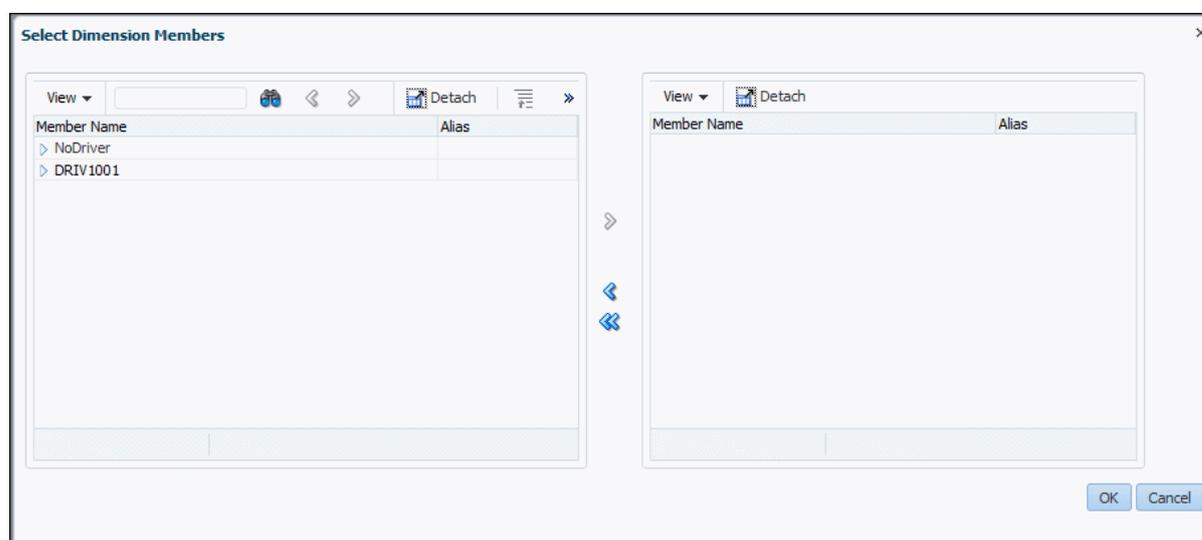


注:

「表示」メニューを使用して、列の非表示、表示および順序変更を行うことができます。

5. ディメンション・メンバーを表示に追加するには、ディメンションを選択して、「メンバー選択」領域の  をクリックするか、「アクション」メニューの「メンバーの追加」を選択します。
6. 「ディメンションのメンバーの選択」ダイアログ・ボックスで、メンバーを選択し、シャトル・コントロールの右矢印と左矢印を使用して、左側の使用可能なメンバーのリストから右の選択されたメンバーのリストに移動します ( [423ページの図 39](#) )。

図39 モデル・ビューの「ディメンションのメンバーの選択」ダイアログ・ボックス



7. メンバーを選択したら、「OK」をクリックします。
8. オプション:  をクリックするか、「モデル・ビュー」パネルの「メンバー選択」領域にある「アクション」メニューを使用して、以前追加されたメンバーを削除します。
9. 変更が完了したら、  をクリックします。

モデル・ビューの削除、コピーおよび変更を行うには、 [423ページのモデル・ビューの管理](#) を参照してください。

## モデル・ビューの管理

モデル・ビューを作成するには、 [422ページのモデル・ビューの作成](#) を参照してください。

- ▶ モデル・ビューを削除、コピーまたは変更するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」の「検証」グループにある「モデル・ビューの管理」を選択します。
2. 「モデル・ビューの管理」領域でモデル・ビューを選択します。
3. オプション: 選択したモデル・ビューを削除するには、  
  
をクリックするか、「アクション」メニューの「モデル・ビューの削除」を選択し、削除を確認します。
4. オプション: 選択したモデル・ビューをコピーするには、  
  
をクリックするか、「アクション」メニューの「モデル・ビューのコピー」を選択し、新しいモデル・ビューの名前を入力します。
5. オプション: 選択したモデル・ビューを変更するには、画面の右側の「モデル・ビュー」パネルで該当する情報を変更します。
6. 変更が完了したら、  
  
をクリックします。

# 管理元帳Profitabilityアプリケーション検証のルール貸借一致

## サブトピック

- ・「ルール貸借一致」タスク領域の表示
- ・ルール貸借一致タスクの実行

ルール貸借一致を使用して、次の方法で管理元帳Profitabilityモデルを検証できます。

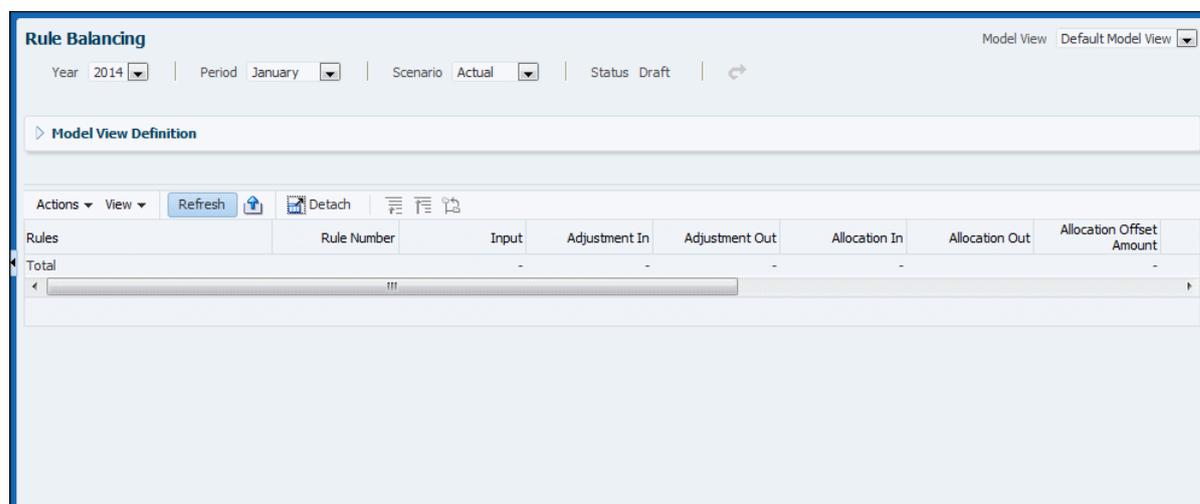
- ・ 計算結果の検証 — 計算の後で結果を検証できます。これには、個々のルールについて計算結果を見直し、それらのルールの影響を見直し、データベースの特定のスライスに対するすべてのルールの影響を検証します。計算が予期した結果を生成していることを確認し、ルールのコレクションがデータベース・スライスに予期したとおりに影響しているかどうかを判別できます。
- ・ コントリビューションの分析とトレース — 同じ画面を使用して、データベースのセグメントを分離すると、そのセグメントの残高や、ルールが最終結果にどのように影響したかを評価できます。次に、この情報を使用し、最終結果を個別のルールに関連付けて、最終配賦結果に対するモデル・ロジックの影響をトレースできます。

▶ ルール貸借一致データを表示するには、モデルを計算してから、次の手順を実行します。

1. 「タスク領域」で、「検証」、「ルール貸借一致」の順に選択します。

「ルール貸借一致」タスク領域が表示されます( [425ページの図 40](#))。

図40 管理元帳の「ルール貸借一致」画面



2. 一番上のリストから「モデル・ビュー」を選択し、POVとして「シナリオ」(他の選択肢は「年」および「期間」)を選択します。「リフレッシュ」をクリックします。

対応する値が列に表示されます( [426ページの図 41](#))。

3. [426ページの「ルール貸借一致」タスク領域の表示](#)および [427ページのルール貸借一致タスクの実行の説明](#)に従って、データを確認して管理します。



注:

POVまたはモデル・ビューを変更すると、別のデータのセットを確認できます。

その他のモデル検証タスクは、[421ページの管理元帳のモデル検証について](#)および[427ページの管理元帳モデルのモデル検証分析の実行](#)を参照してください。

## 「ルール貸借一致」タスク領域の表示

「ルール貸借一致」タスク領域には、データベースの選択したスライスに対してすべてのルールがどのように影響するかが示されます([426ページの図 41](#))。

図41 データを含む「ルール貸借一致」タスク領域画面

Rules	Rule Number	Input	Allocation In	Allocation Out	Net Change	Remainder	Running Remainder	Balance	Running Balance
> NoRule		2000.0	-	-	-	2000.0	2000.0	2000.0	2000.0
> RS1aaa		-	4000.0	1846.0	8262.0	8262.0	10262.0	8262.0	10262.0
> RS2		-	102000.0	11846.0	136262.0	136262.0	146524.0	136262.0	146524.0
Total	Rule	2000.00	106000.00	13692.00	-	146524.00		146524.00	

このレイアウトでは、実行されたルール・セットとルールのシーケンス、対応するルール番号、および複数の列に示されるルールの特定の影響が表示されます。列には、入力値、加算と減算、累計および最終残高が含まれます。デフォルトで表示されるデータは、POVバーで選択されたモデルPOVメンバー、POVのグローバル・コンテキスト、他のすべてのビジネス・ディメンションの最上位、残高、および表の行(ルール)と列(残高)に対応するルール・メンバーです。この表示を変更するには、別のデータ・スライスを表示するモデル・ビューを作成し、タスク領域の一番上の「モデル・ビュー」リストで1つを選択します([421ページの管理元帳モデル・ビューの作成および管理](#))。

表の列は次のとおりです。

- **ルール** — ルール・セットと各ルール・セットに含まれるルールの階層として計算プログラムが表示されます。ルール・セットを展開または縮小して、それぞれに含まれるルールの表示と非表示を切り替えることができます。ルール・セットとルールは、「ルールの管理」画面と同じシーケンス番号順で表示されます。ルール・セットまたはルールのシーケンス番号が同じ場合、この列の2番目のソートとして「ルールの管理」画面の2番目のソートが使用されます。
- **ルール番号** — ルールに対応するルール・ディメンション・メンバーが表示されます。
- **入力** — POVと行のルール番号の組合せで指定されるスライスに対応する、入力メンバーの値が表示されます。通常、最初の行以外のすべての行で「入力」は空白です。
- **調整範囲内** — POVと行のルール番号の組合せで指定されるスライスに対応する、「調整範囲内」メンバーが表示されます。
- **調整範囲外** — POVと行のルール番号の組合せで指定されるスライスに対応する、「調整範囲外」メンバーが表示されます。
- **配賦範囲内** — POVと行のルール番号の組合せで指定されるスライスに対応する、「配賦範囲内」メンバーが表示されます。
- **配賦範囲外** — POVと行のルール番号の組合せで指定されるスライスに対応する、「配賦範囲外」メンバーが表示されます。

- **配賦オフセット額** — 「配賦範囲外」と一緒に使用した場合に、「配賦範囲内」メンバーからの金額が減額されます。
- **純変動** — POVと行のルール番号の組合せで指定されるスライスに対応する、「純変動」メンバーが表示されます。
- **剰余** — 各行に「配賦範囲内」と「配賦範囲外」の差額に「配賦オフセット額」(ある場合)を加えた値が表示されます。
- **現剰余** — 前の行の「現剰余」列と現在の行の「純変動」列の合計が表示されます。この列は、小切手帳記録簿のように、現在の行に対応するルールを実行した時点の剰余を示します。ルール・セットのサマリー行では、この列にはルール・セット内の最後のルールと同じ現剰余が表示されます。
- **残高** — 調整、配賦およびオフセットを適用した結果の金額。これは「入力」と等しくなるはずですが。
- **現残高** — 前の行の「現残高」列と現在の行の「純変動」列の合計が表示されます。この列は、小切手帳記録簿のように、現在の行に対応するルールを実行した時点の残高を示します。ルール・セットのサマリー行では、この列にはルール・セット内の最後のルールと同じ現残高が表示されます。

このタスク領域で実行できるアクションの詳細は、[427ページのルール貸借一致タスクの実行](#)を参照してください。

## ルール貸借一致タスクの実行

「ルール貸借一致」のメニューやツールバーのボタンを使用して、次のタスクを実行できます。

- 「リフレッシュ」をクリックするか、「アクション」、「リフレッシュ」の順に選択して、計算結果を再ロードします。



をクリックするか、「アクション」、「**Excelにエクスポート**」の順に選択して、表のデータをMicrosoft Excelファイルにエクスポートします。

- 「アクション」、「フォーマット」の順に選択して、表に示す小数点以下の桁数を指定します。

「ルール貸借一致」表の値が青色で表示されており、ポイントしたときに下線が付く場合には、Smart Viewハイパーリンクを意味します。このようなハイパーリンクをクリックして、Smart Viewを起動し、入力データまたは配賦データをさらにドリルダウンできます。



注:

「ルール貸借一致」タスク領域の詳細は、[426ページの「ルール貸借一致」タスク領域の表示](#)を参照してください。

## 管理元帳モデルのモデル検証分析の実行

管理元帳Profitabilityモデルがデプロイされた後で、モデル・アーティファクトで使用されるディメンションに対して次のいずれかの変更が行われると、そのモデルが無効になることがあります。

- ディメンション・メンバーの削除

- ・ デイメンション・メンバーの親の再設定
- ・ デイメンション・メンバーの名前の変更
- ・ デイメンション・メンバーの削除

デイメンション・モデルの変更によって影響を受ける可能性があるアーティファクトは、プログラム、ルール・セット、ルール、モデル・ビューおよびSmart View問合せです。

これらのアーティファクトを参照しているため、無効な条件が発生した場合にエラーが表示されるプロセスおよびタスク領域は、LCMエクスポート、「モデル検証」、「計算」、「ルールの管理」、「問合せの管理」および「モデル・ビュー」です。

検証エラーが表示された場合は、「モデル検証」タスク領域で詳細を調べることができます。

▶ 検証エラーを確認して分析するには:

1. 開いている管理元帳モデルの「モデル検証」タスク領域で「検証」を選択します。
2. 「モデル検証」領域でPOVの情報(「年」、「期間」および「シナリオ」など)を入力して、「実行」をクリックします。

エラーがある場合は「モデル検証」の表に表示されます。デフォルトのタブはルール・セットとルールのもので(428ページの図42)。

図42 「ルール・セットとルール」領域のモデル検証結果

The screenshot shows the 'Model Validation' window with the 'Rule Sets and Rules' tab selected. The 'Report Parameters' section shows 'Rule Set Filter' set to 'All' and 'Rule Filter' set to 'All Rules'. Below this is a table with the following data:

Type	Name	Rule Number	Status	Errors
Rule Destination	R1		Disabled	Dimension Entity in the Destination for Rule R1 does not have a member selected
Rule Destination	R1		Disabled	Dimension Customer in the Destination for Rule R1 does not have a member selected
Rule Source	R1		Disabled	Dimension Entity in the Source for Rule R1 does not have a member selected
Rule Source	R1		Disabled	The selected Dimension Member is not found with Fully Qualified Name [AllCustomers].[Customer2] for the Dimension Customer
Rule Set Context	RS4		Disabled	Artifact has invalid members
Rule Destination	R1		Disabled	Dimension Entity in the Destination for Rule R1 does not have a member selected
Rule Destination	R1		Disabled	Dimension Customer in the Destination for Rule R1 does not have a member selected

ルール・セットとルールに関するこのエラー表には、次の情報が含まれます。

- ・ エラーのタイプ(場所) — グローバル・コンテキスト、ルール・セット・コンテキスト、ルール・ソース、ルール宛先、ルール・ドライブまたはルール・オフセット
  - ・ 関連するルールまたはルール・セットの名前と番号
  - ・ ルールまたはルール・セットのステータス(通常は「使用不可」)
  - ・ エラーの説明
3. 「モデル・ビュー」タブと「問合せ」タブを確認します。タブを表示して「実行」をクリックします。

これらのタブはすべてのPOVに対応することに注意してください。そのため、POVを選択する必要はありません。

4. すべてのタブでエラーがあるかどうか確認します。



をクリックするか、「アクション」、「Excelにエクスポート」の順に選択すると、表のデータをMicrosoft Excelファイルにエクスポートできます。

5. エラーを修正して再検証します。



---

注:

ルール・セットとルールのエラーは「[ルールの管理](#)」タスク領域で修正できます( [385ページの管理元帳のPOVのルール・セットの操作](#))。ルールに無効なメンバーが含まれる場合は、ルールを選択して



をクリックすると削除できます。

セキュリティの役割により、EPM Workspaceに管理者としてログインできる場合は、デプロイ済のアプリケーションの検証やディメンション変更の影響分析の実行も行うことができます。詳細は、*Oracle Hyperion Profitability and Cost Management* [管理者ガイド](#)を参照してください。

---



---

# 24

## 管理元帳モデルの デプロイおよび計算

---

### この項の内容:

管理元帳データベースのデプロイ .....	431
管理元帳の計算の管理 .....	434

管理元帳モデルの構造とデータを検証した後、次のタスクを実行できます。

- [431ページの管理元帳データベースのデプロイ](#)
- [434ページの管理元帳の計算の管理](#)

操作は画面で直接実行することも、都合のよい日時をスケジュールすることもできます。

# 管理元帳データベースのデプロイ

## サブトピック

- [管理元帳データベースのデプロイについて](#)
- [管理元帳データベースのデプロイメント・プロセス](#)

管理元帳モデルの構造とデータを検証した後( [421ページの第23章「管理元帳モデルの検証」](#) )、データベースをデプロイしてメタデータのアウトラインを作成する必要があります。この項のトピックは、計算およびレポート・データのデプロイに使用されます。



注:

メタデータを変更したときは必ず、アプリケーションを再デプロイする必要があります。Performance Management Architect (EPMA)またはProfitabilityアプリケーション・マネージャをデプロイした場合は、引き続きEssbaseをデプロイしてメタデータの同期を維持してください。

## 管理元帳データベースのデプロイについて

管理元帳データベースを最初にデプロイする際、「データベースの置換」オプションを選択して、完全なデータベースを作成する必要があります。最初のデプロイメントの後、計算用データベースの再デプロイメントが必要になったときには、すでにキューブにあるデータを保持するか再構築時に破棄するデプロイメント・オプションを選択できます。

デプロイメントで発生したすべてのエラーがhpcm.logに報告されます。

詳細は、[432ページの管理元帳データベースのデプロイメント・プロセス](#)を参照してください。

## 管理元帳データベースのデプロイメント・プロセス



注意

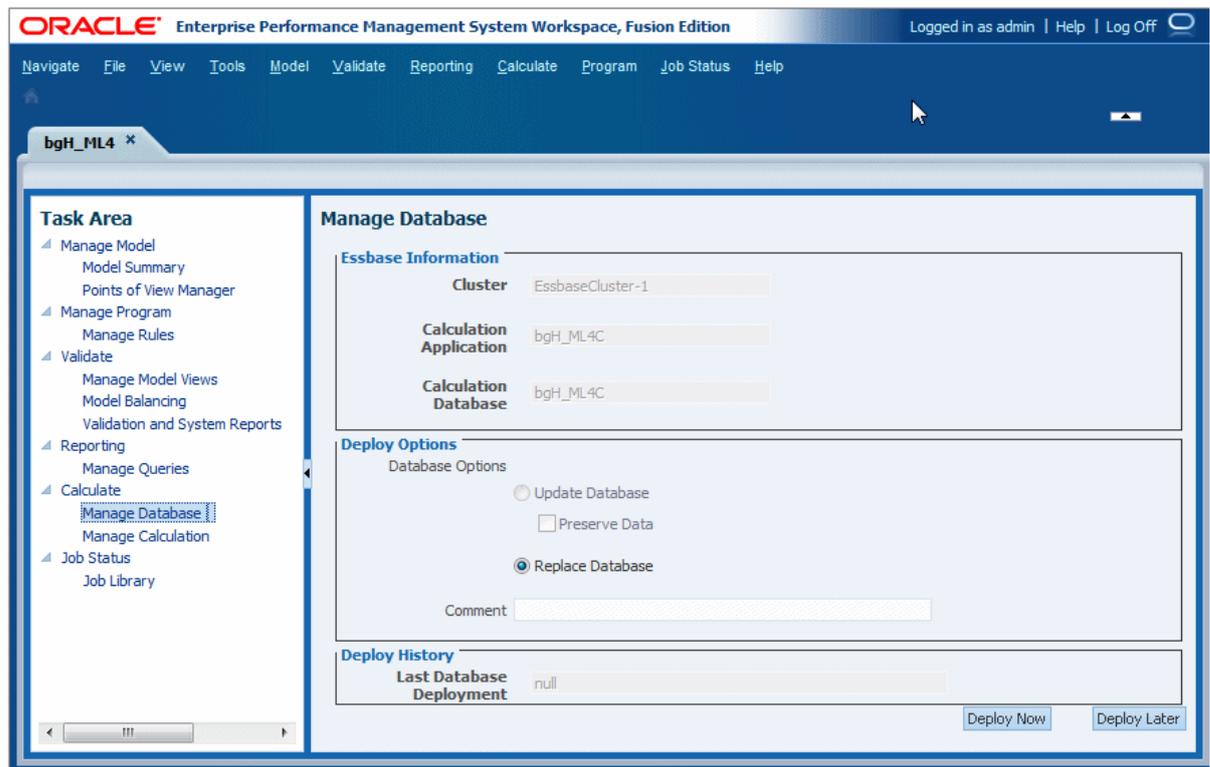
データまたはアーティファクトをインポートする前に、EPM WorkspaceおよびEssbaseにデータのバックアップを作成することをお勧めします。支援が必要な場合は、管理者にお問い合わせください。

▶ 管理元帳データベースをデプロイするには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「計算」、「データベースの管理」の順に選択します。

「データベースの管理」画面が表示されます( [433ページの図 43](#) )。

図43 管理元帳の「データベースの管理」画面



2. 「Essbase情報」の下で、次の情報を確認します:
  - 「クラスタ」には、モデルを含むEssbaseデータベース・サーバーの名前が表示されます。
  - 「計算用アプリケーション」には、デプロイされるアプリケーションの名前が表示されます。
  - 「計算用データベース」には、アプリケーションがデプロイされるEssbaseデータベースの名前が表示されます。
3. 「デプロイ・オプション」で、管理元帳データベースのデプロイに適した「データベース・オプション」を選択します:
  - データベースの初回デプロイメント時には、すべての選択がグレー表示されます。このオプションにより、データベース全体が初めて作成されます。
  - 既存のデータベースを再デプロイする場合、「データベースの更新」を選択すると、既存のアーティファクトおよびプロパティ設定が新しいデータベースに保持され、最新のメタデータを反映してアウトラインが変更されます。

オプション: 「データの保持」を選択して、データを保持したままEssbaseキューブを構築および再構成します。このオプションは、アウトラインのサイズおよび存在するデータの量によっては時間がかかることがあります。

  - または、「データベースの置換」を選択すると、データベースおよびアプリケーションが完全に削除され、再作成されます。
4. オプション: 「最終データベース・デプロイメント」で、以前のデプロイメントの日時を確認します。
5. デプロイメントのタイミング・オプションを選択します:
  - 「後でデプロイ」をクリックして、デプロイメントを実行する都合のよい日時をスケジュールします。198ページのタスクフローのスケジュールを参照してください。
  - 「今すぐデプロイ」をクリックして、データベースを即座にデプロイします。

ジョブが開始されたこと、および割り当てられたタスクフローIDを示す確認メッセージが表示されます。



---

#### 注意

この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能性があります。

---

6. 「ジョブ・ステータス」ページでタスクフローIDを使用してデプロイメントの進捗を監視します。
7. モデルを計算します( [434ページの管理元帳の計算の管理](#))。

## 管理元帳の計算の管理

データベースをデプロイした後、モデルを計算できます。



---

#### 注意

モデルを計算する前に、費用および収益データがEssbaseにロードされていることを確認します。そうでない場合は、空のデータ・セットに対して計算スクリプトが実行されます。

---

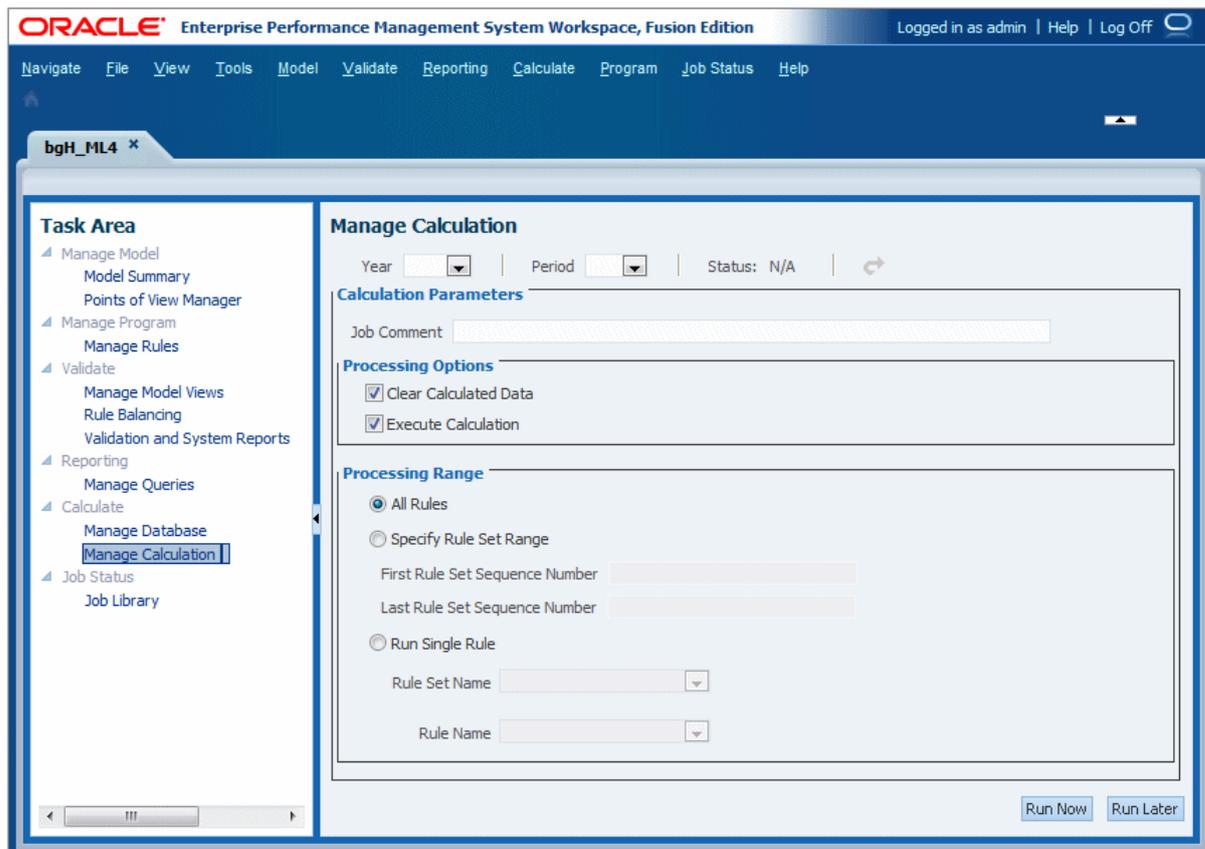
管理元帳アプリケーションのグローバル・コンテキスト、ルール・セットおよび計算ルールは、単一の視点(POV)に固有です。これは、同じ名前のルール・セットまたはルールが複数のPOVに存在する可能性があるが、そのルール・セットまたはルールの各インスタンスは一意のアーティファクトであり、一意の定義を持つ可能性があることを意味します。特定のPOVの計算ルールを実行すると、そのルール・セットまたは計算ルールの定義はそのPOVに存在するかのよう実行されます。

「計算の管理」画面( [435ページの図 44](#))は、単一のPOVの計算ルールのセット全体のすべてまたは一部の計算を実行するために使用します。操作は画面で直接実行することも、後で実行するようにスケジュールすることもできます。

▶ 管理元帳データをクリアまたは計算するには:

1. 開いているモデルで、「タスク領域」から、「計算」、「計算の管理」の順に選択します。

図44 管理元帳の「計算の管理」画面



2. 「計算の管理」画面( 435ページの図 44)で、計算する「年」、「期間」およびオプションで「ステータス」を入力します。
3. オプション: 「ジョブ・コメント」を入力します。
4. 「処理のオプション」で、実行する一方または両方のアクションを選択します:
  - ・ 「計算済データのクリア」では、「処理範囲」オプション(デフォルトでは未選択)で指定された計算ルールに対応する「ルール」ディメンション・メンバーと交差する配賦入力および配賦出力メンバーをクリアします。
  - ・ 「計算の実行」では、「処理範囲」オプション(デフォルトでは未選択)で指定された計算ルールを実行します。
5. 「処理範囲」グループで、実行するルールを指定します:
  - ・ すべてのルール - 選択したPOVに対して定義されているすべての有効なルールを実行します。
  - ・ ルール・セットの範囲の指定 - 「最初のルール・セット・シーケンス番号」テキスト・ボックスと「最後のルール・セット・シーケンス番号」テキスト・ボックスで定義されたルール・セット範囲内(この両方も含む)のすべてのルールを実行します。
  - ・ 単一ルールの実行 - 「ルール・セット名」および「ルール名」リストで選択された単一のルールを実行します。
6. 次のいずれかのタスクを実行します:
  - ・ 「今すぐ実行」をクリックして、すぐに計算を実行するかデータをクリアします。確認メッセージに、ジョブが開始されたことが示され、割り当てられたタスクフローIDが特定されます。



#### 注意

この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能性があります。

- ・「**後で実行**」をクリックすると、計算の実行またはデータのクリアを行う日付および時刻をスケジュールできます。439ページの管理元帳の「[ジョブ・ライブラリ](#)」の表示を参照してください。



#### 注:

タスクの作成時にこのオプションが選択されていない場合、そのタスクはスケジュールできなくなります。

- 
7. タスクフローIDを使用してデプロイメントの進捗を監視します。

## 計算(Calc)スクリプトについて

計算スクリプトは、モデルに必要なすべての計算が詳述されており、モデルごとに生成する必要があります。これらは、ルールおよびモデル・ロジックがモデルに対して定義されている場合に生成されます。

計算スクリプトは、構成されたEssbaseサーバーが実行中であるマシン上の\$ARBORPATH/app/<application name>/<database name>ディレクトリに生成されます。管理者は、必要に応じてEssbaseコンソールで計算スクリプトを表示できます。

---

# 25

## 管理元帳のジョブ・ステータスのモニタリング

---

この項の内容:

管理元帳のジョブ・ライブラリについて ..... 437

# 管理元帳のジョブ・ライブラリについて

## サブトピック

- [管理元帳のジョブ・ライブラリのジョブ・タイプ](#)
- [管理元帳の「ジョブ・ライブラリ」の表示](#)

管理元帳の「ジョブ・ライブラリ」には、管理元帳Profitabilityアプリケーションのすべてのモデルおよびすべてのユーザーに対して現在発行またはスケジュールされているすべてのジョブのリストが表示されます。

「ジョブ・ライブラリ」のいずれかの列見出しをクリックすると、そのラベルに基づいてジョブがソートされます。再度クリックすると、逆順でソートします。

## 管理元帳のジョブ・ライブラリのジョブ・タイプ

管理元帳アプリケーションで処理できるジョブ・タイプは5つあります。「ジョブ・ライブラリ」の「ジョブの詳細」情報は、「ジョブ・タイプ」に応じて変わります。

### • POVのコピー(POV\_COPY)

○タスクフローID

○ジョブの詳細: このジョブ・タイプに関連する構成やその他の詳細

[76ページの標準Profitability POVのコピー](#)を参照してください。

### • POVのクリア(POV\_CLEAR)

○タスクフローID

○ジョブの詳細: このジョブ・タイプに関連する構成やその他の詳細

[377ページの管理元帳POVからの選択したアーティファクトのクリア](#)を参照してください。

### • POVの削除(POV\_DELETE)

○タスクフローID

○ジョブの詳細: このジョブ・タイプに関連する構成やその他の詳細

[378ページの管理元帳POVおよびすべてのアーティファクトの削除](#)を参照してください。

### • キューブ・デプロイメント(CUBE\_DEPLOYMENT)

○タスクフローID

○ジョブの詳細: Essbaseアプリケーション、データベース・オプションおよびデータ・オプションの名前

[431ページの管理元帳データベースのデプロイ](#)を参照してください。

### • 配賦計算 - 元帳(LEDGER\_CALC)

○タスクフローID

○ジョブの詳細: 処理オプション、計算の設定時に選択されたデータPOV、実行されたルール、およびその他の計算データ

[434ページの管理元帳の計算の管理](#)を参照してください。

## 管理元帳の「ジョブ・ライブラリ」の表示

▶ 管理元帳の「ジョブ・ライブラリ」を表示するには:

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ジョブが発行されている対象の管理元帳アプリケーションを選択します。
2. 開いているモデルの「タスク領域」で「ジョブ・ステータス」、「ジョブ・ライブラリ」の順に選択します (439ページの図45)。

図45 管理元帳の「ジョブ・ライブラリ」

Job Id	User	Application Name	Start Date	Start Time	End Date	End Time	Elapsed Time	Job Type	Status	Comment
46509135	admin	BksML10	10/28/14	11:28:10 AM	10/28/14	11:37:27 AM	00:09:17	Ledger Calculation	Success	
46508868	admin	BksML10	10/28/14	10:52:31 AM	10/28/14	11:01:54 AM	00:09:22	Ledger Calculation	Success	
46508862	admin	BksML10	10/27/14	10:51:58 PM	10/27/14	10:52:06 PM	00:00:07	Ledger Calculation	Success	
46508599	admin	BksML10	10/27/14	07:41:09 PM	10/27/14	07:50:26 PM	00:09:17	Ledger Calculation	Success	
46508581	admin	BksML10	10/27/14	07:39:42 PM	10/27/14	07:39:54 PM	00:00:11	Ledger Calculation	Success	
46508318	admin	BksML10	10/27/14	06:16:09 PM	10/27/14	06:25:27 PM	00:09:18	Ledger Calculation	Success	With Facilities Expense Adjus
46508051	admin	BksML10	10/27/14	05:44:55 PM	10/27/14	05:54:22 PM	00:09:27	Ledger Calculation	Success	
26087301	admin	BksML10	10/23/14	06:14:36 PM	10/23/14	06:24:05 PM	00:09:28	Ledger Calculation	Success	
26077467	admin	BksML10	10/23/14	04:41:20 PM	10/23/14	04:42:27 PM	00:01:07	Deploy Cube	Success	
26076717	admin	BksML10	10/23/14	03:33:27 PM	10/23/14	03:36:37 PM	00:03:09	Ledger Calculation	Success	
26076669	admin	BksML10	10/23/14	03:32:45 PM	10/23/14	03:32:59 PM	00:00:14	Copy POV	Success	
26076667	admin	BksML10	10/23/14	03:14:08 PM	10/23/14	03:14:17 PM	00:00:08	Copy POV	Success	
26076620	admin	BksML10	10/23/14	03:03:49 PM	10/23/14	03:04:10 PM	00:00:21	Copy POV	Success	
26076351	admin	BksML10	10/23/14	02:04:22 PM	10/23/14	02:07:29 PM	00:03:07	Ledger Calculation	Success	
25956688	admin	BksML10	10/23/14	08:43:23 AM			123:44:15	Deploy Cube	Running	Redeploy with repaired dimer

Rows Selected: 1

**Job Details**

Taskflow Id : BksML10\_RunCalcs\_D20141027T225157\_f9f  
 POV Name : Year:2014,Period:January,Scenario:Actual  
 Clear Data : Yes  
 Execute Calculation : Yes  
 Subset Start : 0  
 Subset End : 0  
 Single Rule Id : 26076676  
 Execution Type : Single Rule

3. 各ジョブの情報を確認します。

- **ジョブID** — システムによって割り当てられたジョブID番号
- **ユーザー** — 処理するタスクを発行した個人のユーザーID
- **アプリケーション名** — タスクが実行されているアプリケーションの名前
- **開始日/開始時間** — ジョブが発行された、または実行をスケジュールされた日付と時刻
- **終了日/終了時間** — ジョブの完了、失敗または停止の日付と時刻
- **経過時間** — 開始日/開始時間から終了日/終了時間までの時間
- **ジョブ・タイプ** — 実行しているタスクのタイプ (438ページの管理元帳のジョブ・ライブラリのジョブ・タイプ)
- **ステータス** — 「実行中」、「成功」または「失敗」など、タスクフローの現在のステータス
- **コメント** — 特定のジョブに関してユーザーが入力したメモや詳細コメントはタスクの発行時に入力されます。
- **エラー**
- **警告**

4. オプション: 「ジョブの詳細」の下で、ハイライトされたジョブの実行に使用されるジョブ・オプションを確認します。詳細のフォーマットは、ハイライトされているジョブ・タイプに応じて異なります。「処理のオプション」、「カスラム・スクリプト」、「POVオプション」は、該当する場合に表示されます。

詳細は、[344ページのジョブ・ライブラリ・ジョブ・タイプ](#)を参照してください。

「**タスクフローID**」は、特定のタスクに対してシステム生成されるタスクのIDで、`<application name>:<task name><generated taskflow number>`というフォーマットです。

たとえば、生成されるタスクフロー番号は、**Demo04\_RunCalcs\_D20111103T183447\_fbe**のように表示されます。この場合、**Demo04**がアプリケーション名、**RunCalcs**がタスク、**D20111103T183447\_fbe**が生成されたタスクフローのインスタンスIDです。[346ページの詳細Profitabilityタスクフローの管理](#)を参照してください。

5. **オプション:** ジョブを検索するには、各列の下部にある例による問合せテキスト・ボックスを使用し、列に対応する「検索」フィールドにテキストを入力します([374ページの管理元帳の「POVマネージャ」画面の表示、手順2](#)を参照)。
6. 「**ジョブの終了**」の下で、ハイライトされたタスクが完了した日時を確認します。
7. 「**ODLタスクID**」の下で、ハイライトされたジョブのIDを確認すると、エラーや警告メッセージを`hpcm.log`で探しやすくなります。

`hpcm.log`ファイルで、「検索」と「ODLタスクID」を使用して、選択したジョブのロギング詳細テキストの開始を探します。ログ・エントリーの開始を見つけたら、下方向に検索して、ファイルで"ERROR"を探します。

8. **オプション:** 必要であれば、



をクリックするか、「アクション」、「停止」の順に選択して、ステータスが「実行中」でハイライト表示されているタスクを停止します。



---

注:

このコマンドは元帳計算ジョブに対してのみ使用可能です。ボタンを押した後でタスクフローがすぐに停止する場合は、データの状態が一貫するように、結果に影響するアクティビティに追加の時間が必要なことがあります。

---

EPM Workspaceタスクフローの使用の詳細は、『*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspaceユーザー・ガイド*』を参照してください。

# 26

## 管理元帳の問合せ およびレポートの操作

### この項の内容:

管理元帳の問合せおよびレポートについて .....	441
管理元帳ProfitabilityアプリケーションでのSmart View問合せの管理 .....	441
管理元帳レポートの作成および使用 .....	449

### 管理元帳の問合せおよびレポートについて

管理元帳Profitabilityモデル内のデータを表示および印刷する方法はいくつかあります。

- モデルを検証するために内部データ表を表示できます(たとえば、「ルール貸借一致」または「モデル検証」タスク領域画面)。これらの表からレポートを作成するには、ボタンをクリックして、Microsoft Excelファイルにエクスポートします( [421ページの第23章「管理元帳モデルの検証」](#))。
- 「問合せの管理」タスク領域を使用して、Profitability and Cost Managementデータを含むEssbaseデータ・キューブに対して実行するSmart View問合せを構築および管理できます。その後、ボタンをクリックすると、問合せ結果を含むSmart Viewを起動できます( [441ページの管理元帳ProfitabilityアプリケーションでのSmart View問合せの管理](#))。
- 事前フォーマット済のシステム・レポートを生成して、管理元帳のルール・セットとルールまたは計算統計のリストと説明を表示できます( [449ページの管理元帳レポートの作成および使用](#))。

他のOracleレポート・ツールまたはサードパーティのレポート・ツールを使用して、Essbaseキューブについてレポートを作成し、計算結果を表示することもできます。

- Oracle Hyperion Web Analysis
- Oracle Hyperion Financial Reporting
- Microsoft Excel (Smart View使用)

これらのレポート・ツールを使用することで、必要な情報を希望どおりに表示するレポートを生成できます。この項では、レポートの構築に必要な手順について説明します。レポートの作成および実行方法の詳細は、使用するレポート・ツールのサポート・ドキュメントを参照してください。詳細は、この項で示している他のトピックを参照してください。

# 管理元帳ProfitabilityアプリケーションでのSmart View問合せの管理

## サブトピック

- [管理元帳ProfitabilityアプリケーションでのカスタムSmart View問合せの作成](#)
- [管理元帳Profitabilityの問合せの実行](#)
- [管理元帳Profitabilityアプリケーションでのカスタム問合せの編集と削除](#)

「問合せの管理」タスク領域を使用して、アプリケーション・データベースに対するSmart View問合せを様々な目的のために作成および管理できます。このような問合せは、管理レポート、セグメントごとの収益性分析、ルール分析、入力データ確認などに使用できます。関心があるデータを検索する際に、ルール定義を調査したり、計算および入力データの格納方法を制御するシステム・ディメンションを理解したりする必要がありません。

問合せは保存して再利用できます。Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemライフサイクル管理を使用して、エクスポートおよびインポートすることもできます。

事前定義のSmart View統合を「ルール貸借一致」画面から起動することもできます。起動データ・ポイントは、「ルール貸借一致」画面で青色のハイパーリンクとして表示されます。入力または配賦データについて詳細にドリル・ダウンできます。たとえば、計算を実行した後に、または同じ実行で使用された入力データを確認するために、特定の費用にドリルダウンできます。

任意のディメンションまたはディメンション・メンバーの名前が変更または削除された場合、それらのディメンションを参照しているSmart View問合せは無効になります。問合せの検証画面では、すべての問合せが検証され、無効な問合せがあればエラー・メッセージが表示されます。

対話型ユーザー、パワー・ユーザーまたは管理者としてプロビジョニングされたユーザーのみが、問合せを作成、編集または削除できます。そのようなユーザーの他に、表示ユーザーはアプリケーションから問合せを実行できます。

## 管理元帳ProfitabilityアプリケーションでのカスタムSmart View問合せの作成

問合せを作成する前に、完全なProfitability and Cost Management環境のインストールと構成が行われ、次の製品とともに稼働していることを確認します。

- Oracle Hyperion Provider Services
- Oracle Hyperion Shared Services
- Essbase

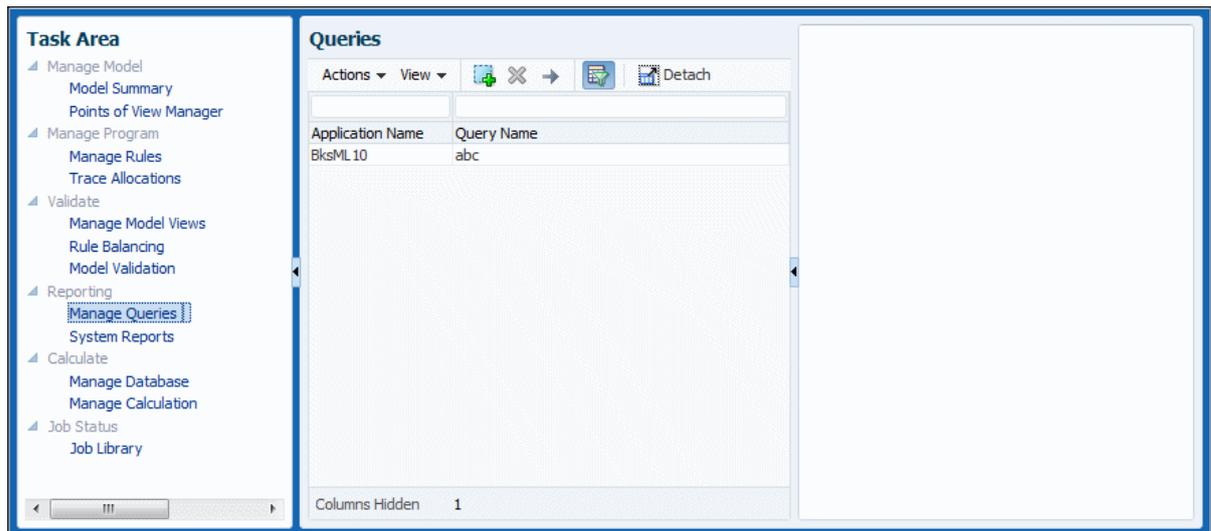
また、Microsoft ExcelとSmart Viewもコンピュータにインストールする必要があります。

▶ 問合せを作成するには:

1. 「タスク領域」から、「レポート」、「問合せの管理」の順に選択します。

「問合せ」画面が表示され、ユーザーが表示ユーザー、対話型ユーザー、パワー・ユーザーまたは管理者としてプロビジョニングされている全アプリケーションに対するすべての既存の問合せが表示されます ( [443ページの図 46](#) )。

図46 「問合せの管理」タスク領域、「問合せ」画面



2.



をクリックするか、「アクション」、「問合せの作成」の順に選択します。

表示ユーザーはこのアクションを使用できません。

3ステップの問合せウィザードが開きます。

3. 「手順1/3: 説明」では、新規問合せについて次の情報を入力し、「次」を選択します。

- ドロップダウン・リストから問合せに使用する「アプリケーション」を選択します。
- 問合せの名前を「名前」に入力します。

4. 「手順2/3: プログラム・コンテキスト」では、ディメンションの定義にプログラム・コンテキスト(グローバル・コンテキスト、ルール・セット・コンテキストまたはルール)を使用するかどうかを選択します。コンテキストの詳細は、[381ページの第22章「管理元帳の配賦の操作」](#)を参照してください。

- 「プログラム・コンテキストを使用しますか?」を選択した場合は、POVの情報を入力し、「次」をクリックします。
- 「プログラム・コンテキストを使用しますか?」を選択しなかった場合は、「終了」をクリックし、この手順の後半の手順6に進みます。

5. 「プログラム・コンテキストを使用しますか?」を選択して「次」をクリックすると、「手順3/3: ディメンション」が表示されます。使用するプログラム・コンテキストを選択し、表示される任意のリストで選択を行います。選択したら、「終了」をクリックします。

コンテキストの選択肢は次のとおりです。

- プログラム・コンテキストの使用 — モデルのすべてのルール・セットとルールに対して選択されたデフォルト・ディメンションを適用します。
- ルール・セット・コンテキストの使用 — 指定のルール・セットに対して選択されたデフォルト・ディメンションを適用します(ルール・セット名が必要)。
- ルールの使用 — ルール固有のディメンション情報を適用します。ルール・セット名、ルール名、ルール・コンポーネント(「ソース」、「宛先」、「ドライバ」または「オフセット」)が必要です。

「終了」をクリックすると、「問合せ」画面が表示されます。新しい問合せがリスト表示されます。

6. 問合せを選択し、次の手順に従ってカスタム問合せ定義を行います。
7. オプション: 「説明」タブで必要に応じて次の操作を行います。
  - 問合せの説明を「説明」に入力します。
  - 「別名の使用」を選択して、問合せのすべてのディメンションについて、割り当てられた別名があれば表示します。
  - 「欠落の抑制」を選択して、Smart Viewでの最初の問合せのデータ抑制オプションを設定します(必要な場合)。



注:

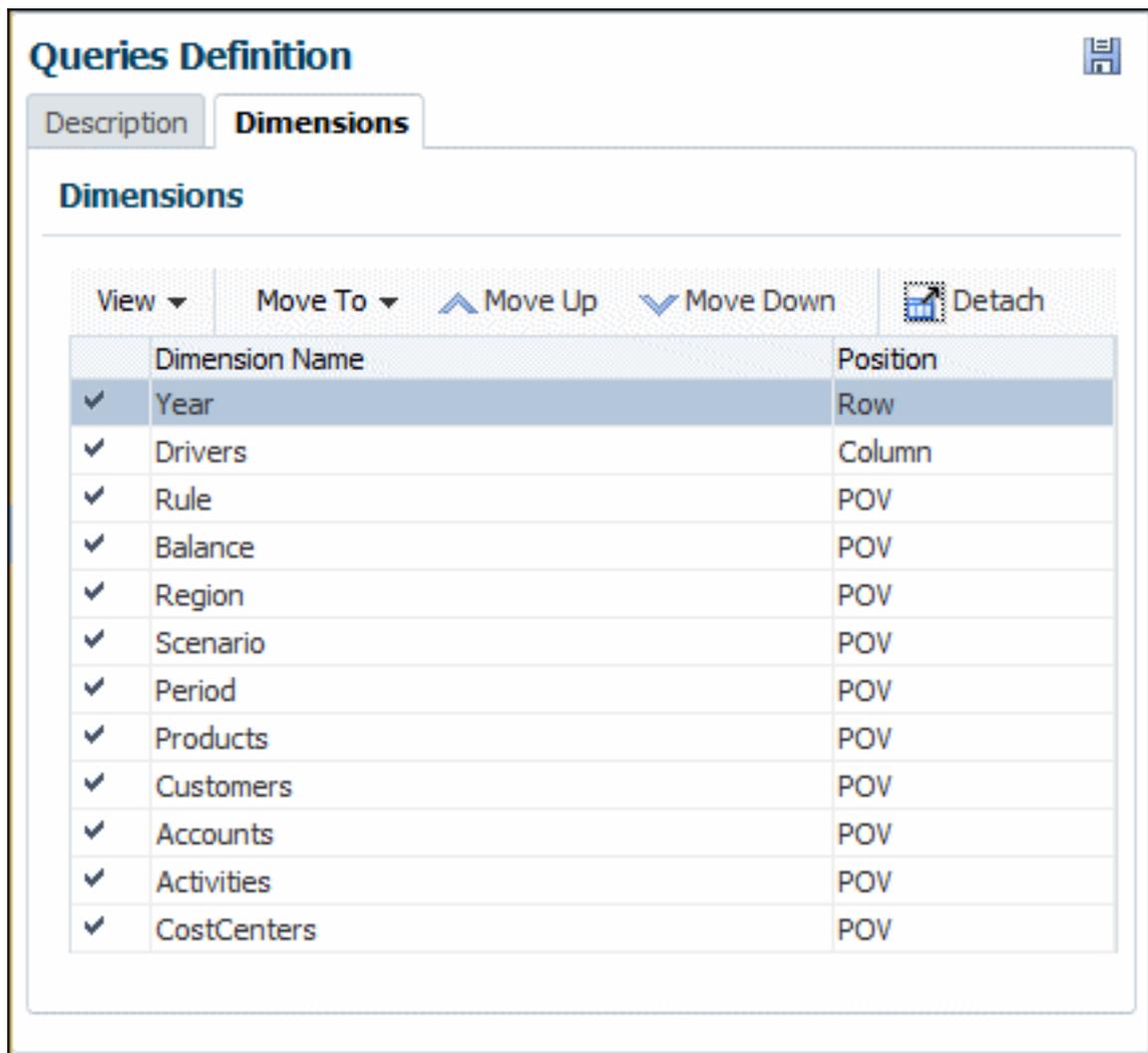
「欠落の抑制」を選択した場合は、Smart Viewのオプションは、すべての問合せではなく、最初の問合せの実行に対してのみ設定されます。後続のデータへのドリルのオプションを設定するには、Smart Viewのオプションを手動で設定します。

---

8. 「ディメンション」をクリックして、ディメンションの選択内容を確認および編集します( [445ページの図 47](#))。

デフォルトでは、アプリケーション・アウトラインのすべてのディメンションが表示されます。

図47 「問合せ定義」画面の「ディメンション」タブ



9. デフォルトの「位置」が各ディメンションに割り当てられます。位置を変更するには、ディメンションを選択し、「移動先」ドロップダウン・リストを開いて、新しい位置を選択します。

- ・ 行
- ・ 列
- ・ **Smart View POV**

10. オプション: 「上へ移動」と「下へ移動」を使用して、「位置」で、問合せのハイライト表示されたディメンションの位置を変更します。
11. オプション: ディメンションを選択し、「メンバー選択」領域を使用して、メンバーを追加または削除し、列の表示を変更します。

代替階層およびNoMemberメンバーを含む、すべてのディメンション・メンバーがリストに表示されます。レベルに制限がないため、代替階層、共有または基本メンバー、任意のメンバーを選択できます。

12. 問合せ定義が完了したら、



をクリックして、将来使用するために保存しておきます。

問合せの実行、編集または削除方法は、次の項を参照してください。

- 446ページの管理元帳Profitabilityの問合せの実行
- 448ページの管理元帳Profitabilityアプリケーションでのカスタム問合せの編集と削除

# 管理元帳Profitabilityの問合せの実行

## サブトピック

- [管理元帳アプリケーションでのカスタム問合せの実行](#)
- [管理元帳の「ルール貸借一致」画面からの問合せの実行](#)

この項では、管理元帳Profitabilityアプリケーションで問合せを実行して結果を生成するいくつかの方法を説明します。

## 管理元帳アプリケーションでのカスタム問合せの実行



注:

442ページの管理元帳ProfitabilityアプリケーションでのカスタムSmart View問合せの作成では、問合せの作成方法について説明しています。

問合せを実行する前に、データベースをデプロイする必要があります。問合せを実行する前にデータベースを計算する必要がない場合でも、計算されていないと結果が欠落します。

管理元帳問合せを実行し、その結果をSmart Viewで表示し、さらに分析、検証および編集を行うことができます。

▶ 問合せを実行して結果をSmart Viewに表示するには:

1. 「タスク領域」で、「レポート」、「問合せの管理」の順に選択します。

「問合せ」画面が表示され、ユーザーが表示ユーザー、対話型ユーザー、パワー・ユーザーまたは管理者としてプロビジョニングされている全アプリケーションに対するすべての既存の問合せが表示されます。

2. 実行する問合せを選択します。



をクリックするか、「アクション」、「問合せの実行」の順に選択します。

4. 問合せ結果を含むSmart Viewが開きます。

## 管理元帳の「ルール貸借一致」画面からの問合せの実行

事前定義済の問合せ統合を管理元帳の「ルール貸借一致」画面から起動することもできます。起動ポイントは、画面のデータに定義されたハイパーリンクとして表示されます。列内のハイパーリンクは、ルール計算を介して提供された値を示します。

ハイパーリンクをクリックすると、即座に分析機能にアクセスして、計算を分析し、領域に修復が必要かどうか、情報の矛盾や欠落の詳細を公開する必要があるかどうかを判断します。

▶ 「ルール貸借一致」画面を使用して問合せにアクセスするには:

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、管理元帳Profitabilityアプリケーション(モデル)を選択します。

2. 結果の完成度を上げるために、モデルを計算してから問合せを実行します。
3. モデルが開いている状態で、「タスク領域」で、「検証」、「ルール貸借一致」の順に選択します。
4. 「ルール貸借一致」画面で、POVデータを入力し、「モデル・ビュー」を選択します。
5. 「ルール貸借一致」表で、たとえば、「配賦範囲内」の青色のハイパーリンクをクリックします。

ハイパーリンクをクリックすると、結果がSmart Viewに表示され、さらに分析やレポート作成を行うことができます。

図48 「アクティビティ」と「配賦範囲内」のSmart Viewの検索結果

	A	B	C
2		Allocations In	
3	Activities	190947.394	
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			

POV Linked '1' ▼ ×

Rule ▼

Balance ▼

Region ▼

Scenario ▼

Period ▼

Products ▼

Customers ▼

Accounts ▼

CostCenters ▼

Refresh i

6. オプション: 現在のPOVを変更するには、**POV\_Linked\_View**ペインで、現在のPOVに対してリストされたディメンションの横にある下向き矢印をクリックし、省略符号(...)をクリックして、「メンバー・セレクト」を開きます。変更するメンバーを選択し、「リフレッシュ」をクリックして、POV変更をアクティブ化します。
7. 問合せの結果を確認します。
8. オプション: 特定の交差を表示するには、「Essbase」タブの「ズーム」コマンドを使用して、特定の交差までドリルダウンするか戻ります。

## 管理元帳Profitabilityアプリケーションでのカスタム問合せの編集と削除

▶ 問合せを編集するには:

1. 「タスク領域」で、「レポート」、「問合せの管理」の順に選択します。

「問合せの管理」画面が表示され、ユーザーが対話型ユーザー、パワー・ユーザーまたは管理者としてプロビジョニングされている全アプリケーションに対するすべての既存の問合せが表示されます。

2. 問合せを選択し、「問合せ定義」領域の「説明」タブと「ディメンション」タブを使用して、問合せの細かい設定を行います( 442ページの管理元帳ProfitabilityアプリケーションでのカスタムSmart View問合せの作成)。
3. 問合せの編集が完了したら、



をクリックして、将来使用するために保存しておきます。

- ▶ 管理元帳アプリケーションで問合せを削除するには:

1. 他のユーザーがこの問合せを必要としていないことを確認します。
2. 「タスク領域」で、「レポート」、「問合せの管理」の順に選択します。

「問合せ」画面が表示され、ユーザーがプロビジョニングされているすべてのアプリケーションの既存のすべての問合せが表示されます。

3. 削除する問合せを選択し、



をクリックするか、「アクション」、「問合せの削除」の順に選択します。



---

注:

このアクションを行うことができるのは、対話型ユーザー、パワー・ユーザーおよび管理者のみです。

---

4. 確認メッセージに対して「はい」をクリックします。

選択した問合せが「問合せ」画面から削除されます。

# 管理元帳レポートの作成および使用

## サブトピック

- [管理元帳システム・レポートの生成](#)
- [管理元帳ProfitabilityアプリケーションでSmart Viewを作成したレポート作成](#)

管理元帳Profitabilityモデル内でシステム・レポートを生成できます。Smart ViewでEssbaseレポートを作成し、他のOracleツールを使用してEssbaseアウトラインからレポートを直接準備することもできます。詳細は次に示すトピックを参照してください。

## 管理元帳システム・レポートの生成

管理元帳システム・レポートは、選択したモデルについて次のいずれかを示します。

- **プログラム・ドキュメンテーション** — 計算ルール・セット、ルールおよびルール定義
- **ディメンション統計** — 現在のアプリケーションの各ディメンションについて、ディメンション・メンバーの数、レベル0メンバーの数、階層レベルの数
- **実行統計** — 選択した元帳計算ジョブについて収集されたランタイム統計(ジョブの終了後)

▶ 管理元帳システム・レポートを生成するには:

1. 開いている管理元帳モデルの「レポート」タスク領域で「システム・レポート」を選択します。
2. 「システム・レポート」画面で、それぞれの設定について次のいずれかを選択します。
  - **レポート名** — 「プログラム・ドキュメンテーション」、「ディメンション統計」、「実行統計」
  - **出力タイプ** — 「PDF」(Adobe PostScript)、「Excel」(Microsoft)、「Word」(Microsoft)、「XML」、「HTML」
3. 「プログラム・ドキュメンテーション」レポートと「実行統計」レポートの場合は、次の情報を「パラメータ」ボックスに入力します。
  - **プログラム・ドキュメンテーション** — POV情報
  - **実行統計** — 「ジョブ・ライブラリ」タスク領域の「ジョブID」



---

注:

「ディメンション統計」レポートでは「パラメータ」情報は必要ありません。

---

4. レポートを開くか保存するかを指定します。

レポートの例を確認するには、次の項を参照してください。

- [451ページの管理元帳「プログラム・ドキュメンテーション」レポートの例](#)
- [452ページの管理元帳「ディメンション統計」レポートの例](#)
- [452ページの管理元帳「実行統計」レポートの例](#)

### 管理元帳「プログラム・ドキュメンテーション」レポートの例

「プログラム・ドキュメンテーション」レポートは、計算ルールセット、ルールおよびルール定義を示します。

図49 管理元帳Profitabilityの「プログラム・ドキュメンテーション」レポートの例

Program Documentation Report									
ORACLE   Hyperion									
Application : BksML10 Application Type : Management Ledger Application Point of View : Year:Period:Scenario 2014:January:Actual Global Context : Yes									
Rule Set Name	Rule Name	Rule Type	Rule Number	Enabled	Use Context	Sequence	Execution Mode	Iterations	Description
Occupancy Expense Allocations				Yes	Yes	1	Serial Execution		Occupancy expenses are reassigned from cost centers where the expenses are paid to the cost centers that use the facilities. A rule Set Context is defined for Activity, Product, Customer, and Region dimensions to select the 'No<dimname> members. These dimensions are not meaningful in managing these rules.
Occupancy Expense Allocations	<a href="#">Facilities Expense Adjustment</a>	Custom Calculation	R0019	Yes	Yes	1			Adjust Facilities Expense up 15%
Occupancy Expense Allocations	<a href="#">Rent and Utilities Reassignment</a>	Allocation	R0001	Yes	Yes	2			Rent and Utility expenses are reassigned from the Corporate cost center to the business function cost centers. A driver based on the square feet of each building used by each cost center is used to apportion the expenses.

## 管理元帳「ディメンション統計」レポートの例

「ディメンション統計」レポートは、現在のアプリケーションの各ディメンションについて、ディメンション・メンバーの数、レベル0メンバーの数、階層レベルの数を示します。表示される値は数学的に可能な組合せであり、すべてが使用されるわけではありません。

図50 管理元帳Profitabilityの「ディメンション統計」レポートの例

Dimension Statistics Report						
ORACLE   Hyperion						
Application Name : BksML10 Application Type : Management Ledger Application						
Dimension Name	Dimension Type	Associated Attribute Dimensions	Total Number of Members	Number of Level 0 Members	Hierarchy Depth	Last Update
Drivers	Business		2	2	2	10/23/2014 08:37:22
Rule	Rule		1003	1002	3	10/23/2014 08:37:22
Balance	Balance		19	14	4	10/23/2014 08:37:22
Year	POV		8	8	2	10/23/2014 08:37:22
Region	Business		16	11	4	10/23/2014 08:37:22
Scenario	POV		4	4	2	10/23/2014 08:37:22
Period	POV		12	12	2	10/23/2014 08:37:22
Products	Business		10	8	3	10/23/2014 08:37:22
Customers	Business		10	8	3	10/23/2014 08:37:22
Accounts	Business		69	52	7	10/23/2014 16:28:12
Activities	Business		31	28	3	10/23/2014 08:37:22
CostCenters	Business		19	16	3	10/23/2014 08:37:22

## 管理元帳「実行統計」レポートの例

「実行統計」レポートは、選択した元帳計算ジョブについて収集されたランタイム統計をジョブの終了後に示します。

図51 管理元帳Profitabilityの「実行統計」レポートの例

Execution Statistics Report		ORACLE   Hyperion								
Application : BksML10 Application Type : Management Ledger Application Point of View : Year:Period:Scenario 2014:January:Actual Job Id : 26087301 Job Type : Ledger Calculation Job Status : Success Number of Threads : 1 Start Time : 10/23/2014 18:14:36 End Time : 10/23/2014 18:24:05 User Id : admin										
Rule Set Name	Rule Name	Iteration Number	Start Time (hh:mm:ss)	End Time (hh:mm:ss)	Elapsed Time (hh:mm:ss)	Number of Threads	Thread Number	Potential Sources	Potential Destinations	Potential Allocations
Occupancy Expense Allocations			18:14:51	18:14:58	00:00:06	1	306			
Occupancy Expense Allocations	Facilities Expense Adjustment	1	18:14:51	18:14:55	00:00:03	1	306	2		
Occupancy Expense Allocations	Rent and Utilities Reassignment	1	18:14:55	18:14:58	00:00:03	1	306	2	28	56
Manufacturing COGs Related Expense Assignment			18:14:58	18:15:01	00:00:03	1	306			
Manufacturing COGs Related Expense Assignment	Product Material Allocation	1	18:14:58	18:15:01	00:00:03	1	306	6	42	252
Activity Costing			18:15:01	18:15:05	00:00:03	1	306			
Activity Costing	Activity Costing Assignments	1	18:15:02	18:15:05	00:00:03	1	306	126	3402	428652

## 管理元帳ProfitabilityアプリケーションでSmart Viewを作成したレポート作成

Smart Viewは、Essbaseおよび他のデータ・ソースにMicrosoft Officeインタフェースを提供します。Smart Viewをインストールすると、Microsoft Office製品のツールバーに表示されるSmart Viewリボンを使用して、Microsoft Excel、WordまたはPowerPointからEssbaseに接続してSmart View機能にアクセスできます。生成したレポートは、グリッド、チャートまたはスクロール可能な表として表示できます。

ここでは、Smart Viewを使用してレポートを作成する方法の概要を説明します。ただし、レポートを設定する方法やSmart Viewを使用して結果を表示する方法の詳細な手順は、『Oracle Smart View for Officeユーザーガイド』を参照してください。

▶ Smart Viewを使用してレポートを作成するには:

1. モデルのEssbaseキューブを生成して計算します(431ページの第24章「管理元帳モデルのデプロイおよび計算」を参照)。
2. Microsoft Excelを開きます。
3. 「Oracle Smart View for Office」で、「パネル」、「共有接続」の順に選択し、Essbaseデータベースに接続します。『Oracle Smart View for Officeユーザーガイド』を参照してください。
4. 『Oracle Smart View for Officeユーザーガイド』の説明に従って、レポートを作成します。



注:

Essbaseアウトラインの操作に熟練している場合は、Essbaseで直接レポートを生成することもできます。手順は、Essbaseのドキュメントを参照してください。



---

# パート V

## 付録

---

### 目次

ドキュメントのアクセシビリティについて .....	11
ドキュメントのフィードバック .....	12
A. Profitability and Cost Managementアプリケーションの作成 .....	457
B. 標準と詳細のProfitabilityアプリケーションの比較 .....	459

---





# Profitability and Cost Management アプリケーションの作成

---

Profitability and Cost Managementは、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspaceに不可欠な要素です。共通のソフトウェアを使用してデータとセキュリティを管理します。インストール後に、適切なセキュリティ・プロビジョニングを持つ管理者またはユーザーがいくつかの手順を実行して、最初のProfitability and Cost Managementアプリケーションを作成する必要があります。アプリケーションが作成されたら、データまたはデータ定義をProfitability and Cost Managementにインポートする必要があります。この最初のアプリケーションは、通常はPerformance Management Architectを使用して作成されます。Oracle Hyperion EPM Architectをインストールできない場合は、Essbaseと一緒にProfitabilityアプリケーション・マネージャを使用してProfitability and Cost Managementアプリケーションを作成します。

これらのツールを使用してアプリケーションを作成する方法の詳細は、*Oracle Hyperion Profitability and Cost Management* 管理者ガイドの付録A/*インストール後の最初のProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成* および付録B/*Profitabilityアプリケーション機能を使用したProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成*を参照してください。



# B

## 標準と詳細のProfitability アプリケーションの比較

次の表では、2つのタイプのOracle Hyperion Profitability and Cost Managementアプリケーションを比較しています。

- 標準Profitability
- 詳細Profitability

選択するアプリケーションのタイプは、組織のモデルを効果的に管理するために必要なモデリングのタイプによって異なります。アプリケーションに応じて、いずれか一方を使用できます。

3番目のタイプのアプリケーション、管理元帳Profitabilityの詳細は、[20ページの管理元帳Profitability and Cost Managementアプリケーション](#)を参照してください。

表18 標準と詳細のProfitabilityアプリケーションの比較

	標準	詳細
一般的なアプリケーション情報		
主な用途	原価開発	原価と収益の用途
フォーカス	拠出金分析	収益性分析
データベース	Oracle Essbaseおよびリレーショナル・データベース	リレーショナル・データベースのみ。  既存のカスタマ・データベースは詳細Profitabilityにマッピングされます。
ターゲット・オブジェクトのボリューム	ターゲット・モデル・ステージでディメンションの交差によって定義される、10万から100万単位の一意のターゲット。  実用的な制限はディメンションのサイズに基づき、メンバーが25,000を超えるディメンションは非常に大きいとみなされます。	ターゲット表の行数によって定義される、100万から1億単位の一意のターゲット。  ターゲットの行を一意のディメンション交差によって定義する必要がないため、ディメンションのサイズに実質的な制限はありません。
配賦		
配賦のタイプ	マルチステップ配賦  たとえば、部門から部門、部門からアクティビティ、製品などへの配賦を追跡できます。	収益オブジェクトへのプールまたはレポートのシングル・ステップ配賦  マルチステップの標準モデルまたは外部データからデータを使用可

	標準	詳細
システム・ディメンション	メジャー AllocationType	MeasuresDetailed
系統配賦	はい	いいえ
配賦のトレース	はい	いいえ
ステージ内配賦	はい	いいえ
相互配賦	はい	いいえ
<b>モデルの構築</b>		
ステージ	最大9つのステージ、各ステージに最大3つずつのディメンション	2つのステージまで: <ul style="list-style-type: none"> <li>• ソース - 最大5つのソース・ディメンション</li> <li>• 宛先 - 最大で25の宛先ディメンション</li> </ul>
モデル・レイヤー	原価と収益	いいえ
データの入力	はい	いいえ
事前定義のドライバ・メジャー	はい	いいえ
ドライバ・データ・レポート	はい	いいえ

# 用語集

!	465ページの感嘆符(!)を参照してください。
#MISSING	468ページの欠落データ(#MISSING)を参照してください。
2パス	他のメンバーの計算済の値に依存するメンバーを再計算するために使用される、Essbaseのプロパティです。2パスのメンバーは、2番目のパスの間にアウトラインから計算されます。
アーティファクト	個別のアプリケーションまたはリポジトリ・アイテムです(スクリプト、フォーム、ルール・ファイル、Interactive Reportingドキュメント、財務レポートなど)。オブジェクトとも呼ばれます。
アイデンティティ	外部認証におけるユーザーまたはグループの固有の識別です。
アウトライン	マルチディメンショナル・データベースのデータベース構造です。すべてのディメンション、メンバー、タグ、タイプ、集計、および算術的関係を含みます。データは、アウトラインに定義された構造に応じてデータベースに保管されます。
アウトライン同期	パーティション・データベースで、データベースのアウトラインの変更を他のデータベースに伝播するプロセスです。
アクセサ	データ・マイニング・アルゴリズムに関する入出力データ仕様です。
アクセス権	リソースに対してユーザーが実行できる一連の操作です。
アクティビティ・レベルの承認	操作対象のデータに依存せず、アプリケーションへのユーザー・アクセス、およびアプリケーションで実行できるアクティビティのタイプを定義します。
アクティブ-アクティブ高可用性システム	すべての使用可能メンバーが要求に対応でき、アイドル状態のメンバーがないシステムです。通常、アクティブ-アクティブ・システムは、アクティブ-パッシブ・システムより豊富な拡張性オプションを備えています。「アクティブ-パッシブ高可用性システム」と対比してください。
アクティブ-パッシブ高可用性システム	常に要求に対応するアクティブ・メンバーと、アクティブ・メンバーに障害が発生した場合にのみアクティブ化されるパッシブ・メンバーが存在するシステムです。「アクティブ-アクティブ高可用性システム」と対比してください。
アクティブ・サービス	実行タイプが保留ではなく開始に設定されているサービスです。
アセンブリ	EPM System製品またはコンポーネントのインストール・ファイルです。
値ディメンション	入力値、換算値、および連結の詳細を定義するために使用されるディメンションです。
アダプタ	ターゲットおよびソース・システムのデータやメタデータにプログラムを統合するためのソフトウェアです。
アップグレード	新しいソフトウェア・リリースをデプロイメントし、アプリケーション、データおよびプロビジョニング情報を前のデプロイメントから新しいデプロイメントに移動するプロセスです。
宛先	(1) Business RulesとCalculation Managerの場合は、割り当てられた値が保管されるデータベース内の交差を指します。(2) Profitability and Cost Managementの割当てでは、配賦された値を受け取るポイントを指します。
アドホック・レポート	エンド・ユーザーがその場で作成するオンライン分析問合せです。

アプリケーション	(1)特定のタスクまたはタスクのグループを実行するために設計されたソフトウェア・プログラムです(スプレッドシート・プログラム、データベース管理システムなど)。(2)必要とされる特定の分析およびレポートに対応するために使用される、ディメンションおよびディメンション・メンバーの関連するセットです。
アプリケーション移行ユーティリティ	アプリケーションとアーティファクトの移行に使用されるコマンドライン・ユーティリティです。
アプリケーション管理者	アプリケーションの設定、構成、維持、および制御の担当者です。アプリケーションのすべての権限およびデータ・アクセス権を持ちます。
アプリケーション・サーバー・クラスタ	同時に稼働し、信頼性と拡張性を実現するために連携している複数のアプリケーション・サーバーが緩やかに結合したグループです。ユーザーには1つのアプリケーション・サーバー・インスタンスのように見えます。「垂直アプリケーション・サーバー・クラスタ」および「水平アプリケーション・サーバー・クラスタ」も参照してください。
アプリケーションの通貨	アプリケーションのデフォルトのレポート用通貨です。
アペンド	宛先を意味するLog4jの用語です。
安全率	より安全な投資から期待される利回りです(米国の長期国債など)。
暗黙の共有	メンバーが1つ以上の子を持ち、連結されている子は1つのみである場合、親と子が値を共有します。
移行	アプリケーション、アーティファクト、またはユーザーを、別の環境またはコンピュータにコピーするプロセスです。たとえば、テスト環境から本番環境にコピーします。
移行監査レポート	移行ログから生成されるレポートです。アプリケーションの移行に関する追跡情報を提供します。
移行監査レポート	移行ログから生成されるレポートです。アプリケーションの移行に関する追跡情報を提供します。
移行スナップショット	アプリケーションの移行のスナップショットです。移行ログに取込まれます。
移行スナップショット	アプリケーションの移行のスナップショットです。移行ログに取込まれます。
移行定義ファイル(.mdf)	アプリケーションの移行に使用される移行パラメータを含むファイルです。これによりバッチ・スクリプトを処理できます。
移行定義ファイル(.mdf)	アプリケーションの移行に使用される移行パラメータを含むファイルです。これによりバッチ・スクリプトを処理できます。
移行ログ	アプリケーションの移行のすべてのアクションとメッセージを取込むログ・ファイルです。
移行ログ	アプリケーションの移行のすべてのアクションとメッセージを取込むログ・ファイルです。
依存エンティティ	組織内の他のエンティティに属するエンティティです。
一意でないメンバー名	<a href="#">471ページの重複メンバー名</a> を参照してください。
一意のメンバー名	データベース・アウトライン内に一度のみ存在する、共有されないメンバーの名前です。
一意メンバーのアウトライン	重複メンバー名を使用できないデータベース・アウトラインです。

イメージ・ブックマーク	Webページやリポジトリ・アイテムへのグラフィック・リンクです。
因果関係マップ	企業戦略を形成する要素の関連、およびこれらの要素が組織の戦略目標を達成するためにどのように連動するかを示します。因果関係マップのタブは、各戦略マップについて自動的に作成されます。
インストール・アセンブリ	EPM Systemインストーラへのプラグインを実行する製品インストール・ファイルです。
インデックス	(1)Essbaseが疎データの組合せによってブロック・ストレージ・データベースのデータを取得する方法です。(2)インデックス・ファイルを指します。
インデックス・キャッシュ	インデックス・ページを含むバッファです。
インデックス項目	疎ディメンションの交差へのポインタです。インデックス・エントリはディスク上のデータ・ブロックをポイントし、オフセットを使用してセルを検索します。
インデックス・ファイル	ブロック・ストレージのデータ取得情報を格納するEssbaseファイルです。ディスクに常駐し、インデックス・ページを含みます。
インデックス・ページ	インデックス・ファイルの下位区分です。データ・ブロックを指すポインタを含みます。
イントロスペクション	データベース固有の関係に基づいて階層を判断するために、データ・ソースを詳細に検査することを指します。 <a href="#">473ページのスクレピング</a> と対比してください。
インポート・フォーマット	FDMで、ソース・ファイルの構造を定義します。これにより、ソース・データ・ファイルをFDMデータのロード位置にロードできます。
疎ディメンション	ブロック・ストレージ・データベースで、他のディメンションと比較した際に、すべてのメンバーの組合せについてのデータを含んでいる可能性が低いディメンションです。たとえば、すべての製品についてのデータがすべての顧客に含まれているわけではありません。 <a href="#">486ページの密ディメンション</a> と対比してください。
影響ステータス	親エンティティに連結する子エンティティの変更を示します。
エージェント	アプリケーションやデータベースの開始と停止、ユーザー接続の管理、ユーザー・アクセスのセキュリティ対策を行うEssbaseサーバー・プロセスです。このエージェントは、ESSBASE.EXEと呼ばれます。
エンコード方式	テキストの作成、保管、表示のためにビット組合せを文字にマッピングする方法の1つです。各エンコード方式にはUTF-8などの名前が付けられています。各エンコード方式では、それぞれの値は特定のビット組合せにマッピングされています。たとえば、UTF-8では大文字のAはHEX41にマッピングされています。 <a href="#">468ページのコード・ページ</a> および <a href="#">490ページのローケル</a> も参照してください。
エンタープライズ・ビュー	Administration Servicesの機能の1つです。グラフィカルなツリー・ビューを使用してEssbase環境を管理できます。エンタープライズ・ビューを使用すると、Essbaseアーティファクトを直接操作できます。
エンティティ	部門、子会社、工場、地域、製品など、組織での財務報告単位となる組織単位を示す次元です。
お気に入りガジェット	Reporting and AnalysisドキュメントへのリンクとURLが含まれるガジェットです。「ガジェット」も参照してください。
オフセット	会計では、オフセットは1つの勘定科目(引出し)の値を減らして別の勘定科目(預金)の増加と貸借一致させることです。

親	直接レポートする依存エンティティを1つ以上含むエンティティです。親はエンティティであると同時に少なくとも1つのノードに関連しているため、エンティティ、ノード、および親の情報が関連付けられています。
親の調整	親に関連して子に転記される仕訳エントリです。
オンライン分析プロセス (OLAP)	複数ユーザーによりクライアントとサーバー間の計算を行えるマルチディメンショナルの環境です。集計された企業データをリアル・タイムで分析するユーザーが使用します。OLAPシステムの機能には、ドリルダウン、データのピボット、複素数計算、トレンド分析、およびモデリングが含まれます。
会社間照合	アプリケーション内の会社間勘定科目の対の残高を比較するプロセスです。会社間の受取勘定科目は、対応する会社間の支払い勘定科目と比較されます。一致する勘定科目は、組織の連結合計から会社間のトランザクションを消去するために使用されます。
会社間照合レポート	内部取引勘定科目の残高を比較して、勘定の収支が合っているかどうかを示すレポートです。
外部でトリガーされるイベント	ジョブの実行をスケジュールするための、時間ベースでないイベントです。
外部認証	Oracle Hyperionアプリケーションの外部に格納されたユーザー情報を使用して、アプリケーションにログオンすること指します。ユーザー情報の格納場所は、通常はMSADやNTLMなどの企業ディレクトリとなります。
拡張リレーショナル・アクセス	リレーショナル・データベースとEssbaseマルチディメンショナル・データベースの統合を指します。これにより、すべてのデータがリレーショナル・データベースに保持され、Essbaseデータベースに存在する要約レベルのデータにマッピングされます。
確認レベル	プロセス管理の確認ステータス・インディケータの1つです。「開始していません」、「第1パス」、「送信済」、「承認済」、「発行済」など、プロセス単位のレベルを示します。
ガジェット	EPMのコンテンツを容易に表示し、Reporting and Analysisのコア機能にアクセスできる、軽量で単純な専用アプリケーションです。
加重	スコアカードの項目に割り当てられた値です。スコアボード全体のスコアの計算において、その項目の相対的な重要性を示します。スコアカードのすべての項目の加重を総計すると100%になります。たとえば、ある製品について新機能を開発する重要性を認めるため、開発者のスコアカード上のNew Features CodedのメジャーにNumber of Minor Defect Fixesのメジャーよりも大きな加重が割り当てられる可能性があります。
カスケード	メンバー値のサブセットに対して複数のレポートを作成するプロセスです。
カスタム・カレンダー	システム管理者が作成したカレンダーです。
カスタム定義関数(CDF)	Javaで開発され、MaxLによりEssbaseの標準計算スクリプト言語に追加された、Essbase計算関数です。 <a href="#">464ページのカスタム定義マクロ(CDM)</a> も参照してください。
カスタム定義マクロ(CDM)	Essbaseのマクロです。Essbase計算機の関数および専用マクロ関数を使用して記述されます。カスタム定義マクロが使用するEssbaseの内部マクロ言語により、計算関数を組み合わせることが可能となり、複数の入力パラメータが処理されます。 <a href="#">464ページのカスタム定義関数(CDF)</a> も参照してください。
カスタム・ディメンション	ユーザーが作成および定義するディメンションです。チャンネル、製品、部署、プロジェクト、または地域がカスタム・ディメンションになることがあります。

カスタム・プロパティ	ユーザーが作成したディメンションまたはディメンション・メンバーのプロパティです。
カスタム・レポート	設計レポート・モジュールで作成する複雑なレポートです。コンポーネントの様々な組合せによって構成されます。
カタログ・ペイン	アクティブ・セクションで利用可能な要素のリストを表示します。問合せがアクティブ・セクションの場合はデータベース表のリストが表示されます。ピボットがアクティブ・セクションの場合は結果列のリストが表示されます。ダッシュボードがアクティブ・セクションの場合は埋込み可能セクションのリスト、グラフィック・ツール、およびコントロール・ツールが表示されます。
カテゴリ	データ編成に使用するグループです。たとえば、月です。
株式ベータ	株のリスクを指します。その株の収益と市場利益率の差異により測定され、ベータと呼ばれるインデックスで示されます。たとえば、市場利益率が1%変動するのに伴って株の収益が通常1.2%変動するのであれば、その株のベータは1.2です。
カレンダー	ユーザー定義の期間、およびその関係です。暦年または会計年度は、Q1、Q2、Q3、およびQ4から構成されます。
為替レート	ある通貨から別の通貨に変換する際に使用する数値です。たとえば、1米ドルをユーロに変換する場合、為替レートの0.8936に米ドルを乗じます。これにより、\$1に相当するユーロは0.8936と算出されます。
為替レート・タイプ	為替レートの識別子です。異なるレートのタイプが使用されるのは、一定期間および年間について複数のレートが存在することがあるためです。従来より、期末時点でのレートを当期の平均レートおよび期末レートとして定義します。その他、ヒストリカル・レート、予算レート、予測レートなどのレート・タイプがあります。レート・タイプは特定の時点に適用されます。
換算	<a href="#">477ページの通貨換算</a> を参照してください。
換算レート	<a href="#">465ページの為替レート</a> を参照してください。
勘定科目タイプ	時間の経過に伴う勘定科目の値のフロー、およびその符号の振る舞いを示します。勘定科目タイプのオプションには、費用、収入、資産、負債、および資本が含まれます。
勘定科目ディメンション	高機能の会計を可能にするディメンション・タイプです。勘定科目として定義可能なディメンションは1つのみです。
勘定科目の消去	連結時に連結ファイル内で値がゼロに設定された勘定科目です。
勘定科目のブロック	連結ファイルで勘定科目が入力データを受け入れるプロセスです。ブロックされた勘定科目は加算連結プロセスで値を受け取りません。
関数	値またはデータベース・メンバーを戻すルーチンです。
感嘆符(!)	一連のレポート・コマンドを終了して、データベースからの情報を要求する文字です。レポート・スクリプトは感嘆符を使用して終了する必要があります。レポート・スクリプト内では複数の感嘆符を使用できます。
管理対象サーバー	内蔵されたJava仮想マシン(JVM)で実行されるアプリケーション・サーバー・プロセスです。
関連勘定科目	勘定科目の構造体では、すべてのメイン勘定科目および関連勘定科目は同一のメイン勘定科目番号にグループ化されます。メイン勘定科目と関連勘定科目は、勘定科目番号の最初の接尾辞により区別されます。

期別価額メソッド(PVA)	通貨換算プロセスの1つです。一定期間における期別の為替レート値を適用して通貨を算出します。
基本エンティティ	組織の構造の一番下に位置し、他のエンティティを持たないエンティティです。
基本通貨	日常の業務取引が行われる通貨です。
基本ディメンション	1つまたは複数の属性ディメンションに関連付けられている標準ディメンションです。たとえば、製品に香りがあるとすると、ProductディメンションがFlavors属性ディメンションの基本ディメンションとなります。
期末	チャートの日付範囲を調整できる期間です。たとえば、月の期末の場合、当月末までの情報がチャートに表示されます。
キャッシュ	データを一時的に保持する、メモリー内のバッファです。
キューブ	3つ以上のディメンションを含むデータのブロックです。Essbaseデータベースはキューブです。
キューブ・スキーマ	Essbase Studioにおけるメジャーおよび階層などのメタデータ要素です。キューブの論理モデルを指します。
キューブ・デプロイメント	Essbase Studioで、アウトラインを構築してデータをEssbaseアプリケーションおよびデータベースにロードするために、モデルのロード・オプションを設定するプロセスです。
兄弟	他の子メンバーと同じ世代で、すぐ上に同じ親を持つ子メンバーです。たとえば、メンバーFloridaとメンバーNew YorkはメンバーEastの子であり、互いの兄弟です。
共有ストレージ	フェイルオーバー・クラスタのすべてのノードに対して使用できる必要のあるデータを含むディスク・セットで、共有ディスクとも呼ばれます。
共有ディスク	「共有ストレージ」を参照してください。
共有メンバー	ストレージ・スペースを別の同名メンバーとの間で共有するメンバーです。Essbaseアウトラインに複数回現れるメンバーが重複して計算されることを防ぎます。
共有Workspaceページ	専用のシステム・フォルダに格納され、組織全体で共有するWorkspaceページです。権限を持つユーザーは、共有Workspaceページの「ナビゲート」メニューからアクセスできます。
行の抑制	欠落値を含む行を除外し、スプレッドシート・レポートからの文字にアンダースコアを付けます。
クラスタ	単一リソースとして動作して、タスクの負荷を共有し、フェイルオーバーのサポートを提供する一連のサーバーまたはデータベースです。システムにおける単一障害点となるサーバーやデータベースを排除します。
クラスタ・サービス	システムとしてクラスタ・メンバーの操作を管理するソフトウェアです。クラスタ・サービスを使用すると、一連のリソースやサービスを定義して、クラスタ・メンバー間でのハートビート・メカニズムを監視し、これらのリソースやサービスをできるだけ効率良くかつ透過的に別のクラスタ・メンバーに移動できます。
クラスタ内部接続	ハートビート情報に関するノード障害を検出するためにハードウェア・クラスタにより使用されるプライベート・リンクです。
クラスタ棒グラフ	カテゴリを横に並べたグラフです。並列カテゴリの分析に便利です。垂直棒グラフでのみ使用されます。

クリーン・ブロック	計算スクリプトによってすべてのディメンションが一度に計算された場合、または計算スクリプトでSET CLEARUPDATESTATUSコマンドが使用された場合の、データベース全体の計算が完了しているデータ・ブロックを指します。
繰返し	同じバージョンのデータを修正して移行する予算またはプランニング・サイクルのパスです。
グリッドのPOV	行、列、またはページの交差にディメンションを配置せずに、グリッド上でディメンション・メンバーを指定する手段です。レポート設計者はグリッド・レベルでPOVの値を設定し、ユーザーのPOVがグリッドに影響を与えないように防ぐことができます。ディメンションに含まれるグリッドの値が1つのとき、そのディメンションは行、列、またはページではなくグリッドのPOVに配置します。
グループ	複数のユーザーに同様のアクセス権を割り当てるためのコンテナです。
グローバル・レポート・コマンド	別のグローバル・コマンドに置き換えられるか、またはファイルが終了するまで実行し続けるレポート・スクリプトのコマンドです。
クロス集計レポート	表フォーマットでデータの分類および集計を行うことです。表のセルには、交差する分類に合致するデータの集計結果が保管されています。たとえば、製品販売情報のクロス集計レポートに、列見出しとしてSmallやLargeなどのサイズ属性、行見出しとしてBlueやYellowなどの色属性を表示できます。表の中でLargeとBlueが交差するセルには、サイズがLargeのすべてのBlue製品の総売上げが表示されます。
計算	データを集約したり、データベースで計算スクリプトを実行したりするプロセスです。
計算結果アイテム	データベースやキューブに物理的に格納される列に対して、仮想の列を指します。問合せ実行時にデータベースにより、またはInteractive Reporting Studioの「結果」セクションで計算されます。計算結果アイテムは、関数、データ項目、およびダイアログ・ボックスで提供される演算子に基づくデータ計算であり、レポートに含まれたり他のデータの計算に再利用されることがあります。
計算スクリプト	データベースの集計方法や集約方法を定義する一連のコマンドです。集計プロセスとは別に、配賦や他の計算ルールを指定するコマンドが計算スクリプトに含まれることもあります。
計算済勘定科目	変更できない計算式がある勘定科目です。これらの計算式は、作成しているモデルの勘定科目の整合性を保つために固定されています。たとえば、当期純利益、計算済勘定科目の計算式は戦略的財務に組み込まれており、過去実績または予測の期間で変更はできません。
計算前	ユーザーが取得する前にデータベースで計算を実行することです。
システムデータ	配賦の計算後にオプションで生成される追加データです。このデータにより、すべての配賦ステップにわたるコストまたは収益のフローについてレポートを作成できます。
系列	異なるメタデータ要素間の関係です。メタデータ要素が他の1つ以上のメタデータ要素からどのように導き出されるかを示し、メタデータ要素を物理ソースまでトレースします。Essbase Studioでは、この関係を系列ビューアでグラフィカルに表示できます。 <a href="#">480ページのトレーサビリティ</a> も参照してください。
結合	特定の列または行の共通のコンテンツに基づく2つのリレーショナル・データベース表またはトピックの間のリンクです。通常、異なる表またはトピック内の同一または類似するアイテムの間で結合が起きます。たとえば、Customer表とOrders表でCustomer IDの値が同一である場合、Customer表内のレコードがOrders内のレコードに結合します。

欠落データ(#MISSING)	ラベル付けされた場所のデータが存在しないか、値が含まれていないか、データが入力されていないかまたはロードされていないことを示すマーカーです。たとえば、勘定科目に当期ではなく過去または将来の期間のデータが含まれている場合は、欠落データが存在します。
限界税率	税引き後の負債コストを計算するために使用されます。最近計上された所得に適用される税率(所得額に適用される最高の税率区分の税率)を示し、連邦税、州税、および地方税を含みます。課税対象所得と税率区分の現在のレベルに基づいて、限界税率を予測できます。
権限	データまたは他のユーザーとグループを管理するために、ユーザーおよびグループに付与されるアクセス・レベルです。
検証	アウトラインに対してビジネス・ルール、レポート・スクリプト、またはパーティション定義をチェックして、チェック対象のオブジェクトが有効であることを確認するプロセスです。たとえば、FDMの検証ルールにより、FDMからターゲット・アプリケーションにデータがロードされた後で特定の条件が満たされているかどうかを確認されます。
検証ルール	データの整合性を強化するためにFDMで使用されるルールです。たとえば、FDMの検証ルールにより、FDMからターゲット・アプリケーションにデータがロードされた後で特定の条件が満たされているかどうかを確認されます。
現地通貨	入力通貨タイプです。入力通貨タイプが指定されていない場合は、現地通貨がエンティティの基本通貨に一致します。
原点	2つの軸の交差です。
子	データベース・アウトライン内で親を持つメンバーです。
高可用性	障害が発生した場合でもアプリケーションが継続してサービスを提供できるようにするシステム属性です。これは、フォルト・トレラント・ハードウェアおよびサーバー・クラスタを使用して、シングル・ポイント障害をなくすことで実現されます。1つのサーバーで障害が発生すると、処理要求は別のサーバーにルーティングされます。
高機能計算	最後に実行された計算以降に更新されたデータ・ブロックを追跡する計算方法です。
交差	マルチディメンショナル・データベース内のディメンションの交差を表すデータの単位。ワークシートのセル。
構成ファイル	セキュリティ・プラットフォームでは、XMLドキュメントの構成を製品の管理者やインストール・プログラムに依存しています。XMLドキュメントは有意義なプロパティの値を示し、企業の認証シナリオに関連する場所と属性を指定するように変更する必要があります。
構造ビュー	トピックをコンポーネントのデータ・アイテムの単純なリストとして表示します。
構築方法	データベース・アウトラインを変更するために使用するメソッドの一種です。データ・ソース・ファイルのデータ・フォーマットに基づいて構築メソッドを選択します。
コード・ページ	一連のテキスト文字へのビット組合せのマッピングです。コード・ページは、それぞれ異なる文字セットをサポートします。各コンピュータには、ユーザーが必要とする言語の文字セットについてのコード・ページ設定が含まれます。このドキュメントでは、コード・ページは非Unicodeのエンコードのビット組合せに文字をマッピングします。 <a href="#">463ページのエンコード方式</a> も参照してください。
個人の反復タイム・イベント	再利用可能なタイム・イベントです。作成したユーザーのみがアクセスできます。

個人用ページ	リポジットリ情報を参照するための個人用ウィンドウです。表示する情報、およびレイアウトと色を選択します。
個人用変数	複雑なメンバー選択の特定の選択文です。
コミット・アクセス	Essbaseの取引の処理方法に影響するEssbaseカーネルの分離レベルです。コミット・アクセスでは、同時取引は書込みロックを長期間保持し、予測可能な結果を生成します。
コンテキスト変数	タスクフロー・インスタンスのコンテキストを特定するために、特定のタスクフローに定義される変数です。
コンテンツ	リポジットリに格納されたあらゆるタイプのファイルの情報です。
コンテンツ・ブラウザ	コンテンツを選択してWorkspaceページに配置するために使用できるコンポーネントです。
コントリビューション	子エンティティから親に追加される値です。それぞれの子は親に対するコントリビューションを持ちます。
コントロール・グループ	証明書および評価の情報を維持および整理するためにFDMで使用されます。サーベンス・オクスリ(Sarbanes-Oxley)法の規定に準拠する上で特に役立ちます。
サービス	ビジネス項目を取得、変更、追加、および削除するためのリソースです(権限付与、認証など)。
サブレット	Webサーバーが実行可能なコンパイルされたコードです。
差異	プラン値と実績値などの2つの値の差です。
サイクル・スルー	データベース内で複数パスを実行し、同時に計算することを指します。
再構成URL	ユーザーがWorkspaceにログオンしているときに、サブレット構成設定を動的に再ロードするためのURLです。
再構築	データベース・インデックス、また場合によってはデータ・ファイルの再生成もしくは再構築を行う操作です。
最上位メンバー	ディメンションのアウトラインで、階層ツリーの一番上に位置するディメンション・メンバーです。ディメンション・メンバー間に階層の関係がない場合は、ソート順で最初のメンバーを指します。階層の関係がある場合、最上位メンバーの名前がディメンション名と同一となるのが一般的です。
最新	最新の期間として定義されたメンバーからデータ値を取得するために使用される、スプレッドシートのキー・ワードです。
サイレント応答ファイル	インストール管理者が提供する必要があるデータをかわりに提供するファイルです。応答ファイルにより、EPM SystemインストーラまたはEPM Systemコンフィグレータはユーザーの介入または入力なしで実行できます。
サブ勘定科目のナンバリング	不連続の整数を使用してサブ勘定科目のナンバリングを行うためのシステムです。
サブスクリプト	項目またはフォルダが更新されるときに自動的に通知を受け取るように、項目またはフォルダにフラグを付けることを指します。
サポート詳細	セルの値を算出した計算および仮定です。

三角換算法	3つ目の共通通貨を使用して1つの通貨から別の通貨に残高を換算する方法です。たとえば、デンマーク・クローネから英国ポンドに換算する場合、残高はクローネからユーロに換算され、その後ユーロからポンドに換算されます。
算術演算子	式およびアウトラインでのデータの計算方法を定義する記号です。標準的な算術演算子またはブール演算子が使用されます(+、-、*、/、%など)。
算出ステータス	一部の値または式の計算が変更されたことを示す集計ステータスです。影響を受けるエンティティについて正しい値を取得するには、再集計する必要があります。
算術データ・ロード	データベース内の値に対して演算(たとえば各値に10を加算するなど)を実行するデータ・ロードです。
残高勘定科目	特定の時点の符号なしの値を保管する勘定科目の種別です。
サンプリング	エンティティの特性を判断するためにエンティティの代表的な部分を選択するプロセスです。 <a href="#">486ページのメタデータのサンプリング</a> も参照してください。
時間ディメンション	データが示す期間を定義します(会計期間、暦時間など)。
式	データベース・メンバーを計算する演算子、関数、ディメンションおよびメンバー名、および定数の組合せです。
式の保存	データ取得中にワークシート内に保持される、ユーザーが作成した式です。
軸	(1)測定と分類に使用されるグラフィックを貫通する直線です。(2)マルチディメンショナル・データを整理および関連付けるために使用されるレポートのアスペクトです(フィルタ、ページ、行、列など)。たとえば、Simple Basicでデータ問合せを実行する場合、軸ではQtr1、Qtr2、Qtr3、およびQtr4の値の列を定義できます。MarketとProductの階層による合計が行データとして取得されます。
資産勘定科目	勘定科目タイプの1つです。会社の資産の値を保管します。
支出勘定科目	期別の値と年次累計値を格納する勘定科目です。値が正の場合は、純利益が減ります。
市場リスク割増額	国債よりもリスクの高い投資を投資家に呼びかけるための、安全率に追加して支払われる利回りです。予測される市場利回りから安全率を差し引いて計算されます。この数字が示すモデルは将来の市況に近いものとなる必要があります。
システム抽出	データをアプリケーションのメタデータからASCIIファイルに転送します。
持続性	Essbaseの操作や設定に対する継続的または長期的な影響です。たとえば、ユーザー名やパスワードの有効性について、Essbase管理者がその持続性を制限することがあります。
子孫	データベース・アウトラインで親の下に位置するメンバーです。たとえば、年、四半期および月を含むディメンションでは、メンバーQtr2およびメンバーAprilがメンバーYearの子孫となります。
実行時プロンプト	ビジネス・ルールが実行される前にユーザーが入力または選択する変数です。
実績の頻度	日付のセットを作成して結果を収集および表示するために使用されるアルゴリズムです。
自動逆仕訳	次期に逆仕訳する調整を入力するための仕訳です。
自動ステージ	ユーザーの操作を必要としないステージです(データ・ロードなど)。

シナリオ	データを分類するためのディメンションです (Actuals、Budget、Forecast1、Forecast2など)。
支配比率	所属するグループ内でエンティティが受ける支配の程度です。
収益勘定科目	期別の値と年次累計値を格納する勘定科目です。値が正の場合は純利益が増えます。
従業員	特定のビジネス・オブジェクトに対して責任を負う(または関与する)ユーザーです。従業員は組織に勤めている必要はありません(コンサルタントなど)。従業員は、認証のためにユーザー・アカウントに関連付けられている必要があります。
集計ルール	階層のノードを集計する際に実行されるルールを特定します。親の残高が正しく集計されるように、顧客固有の適切な式を含めることができます。消去プロセスは、このルール内で制御できます。
修飾名	定まったフォーマットのメンバー名です。重複メンバーのアウトラインにおいて、重複メンバー名を区別します([Market].[East].[State].[New York]、[Market].[East].[City].[New York]など)。
重複する別名	別名表に複数存在し、データベース・アウトラインの複数メンバーに関連付けられている可能性のある名前です。重複する別名は、重複メンバーのアウトラインでのみ使用できます。
重複メンバーのアウトライン	重複メンバー名を格納しているデータベース・アウトラインです。
重複メンバー名	データベース内に異なるメンバーを表して重複して存在する同一のメンバー名です。たとえば、ニューヨーク州を示すメンバーとニューヨーク市を示すメンバーが存在する場合、データベースにNew Yorkという名前のメンバーが2つ含まれることがあります。
集約	集約ストレージ・データベースの値をロール・アップおよび格納するプロセスです。または集約プロセスによって格納された結果を指します。
集約関数	関数の一種です。合計、平均の計算など、データの要約や分析を実行します。
集約スクリプト	集約を構築するための集約ビューの選択を定義するファイルです。集約ストレージ・データベースのみで使用されます。
集約ストレージ・データベース	潜在的に大きな多数のディメンションに分類される疎に分散した大規模なデータをサポートするように設計されたデータベースのストレージ・モデルです。上位のメンバーと式は動的に計算され、選択されたデータ値は集約、格納されます。通常、集約の合計所要時間が改善されます。上位のメンバーと式は動的に計算され、選択されたデータ値は集約、格納されます。通常、集約の合計所要時間が改善されます。
集約制約	集約要求ライン・アイテムや集約メタピック・アイテムに設定する制約です。
集約セル	複数のセルから構成されるセルです。たとえば、Children(Year)を使用するデータ・セルは、Quarter 1、Quarter 2、Quarter 3、およびQuarter 4のデータを含む4つのセルに展開されます。
集約ビュー	各ディメンション内のメンバーのレベルに基づく集約セルの集合です。計算時間を短縮するため、値は事前に集約されて集約ビューとして保管されています。取得は集約ビューの合計から開始され、合計に追加されます。
重要事業領域(CBA)	部門、地域、工場、コスト・センター、プロフィット・センター、プロジェクト・チーム、またはプロセスに編成された個人またはグループです。責任チームまたはビジネス領域とも呼ばれます。

重要成功要因(CSF)	戦略目標を達成するために確立および維持する必要がある能力です。戦略目標または重要プロセスにより所有され、1つ以上のアクションに対する親となります。
出資比率	エンティティが親によって所有される程度です。
手動ステージ	完了するためにユーザーが操作する必要があるステージです。
上位レベル・ブロック	少なくとも1つの疎メンバーが親レベルのメンバーになっているデータ・ブロックです。
障害回復	本番サイトでの自然災害による停止や計画外停止に対する保護対策機能です。地理的に離れたスタンバイ・サイトへのアプリケーションやデータの回復ストラテジを使用します。
消去	組織内のエンティティ間での取引をゼロに設定(消去)するプロセスです。
消去済勘定科目	連結ファイルに表示されない勘定科目です。
詳細チャート	要約チャートで、詳細な情報を提供するチャートです。詳細チャートは要約チャートの下にある「調査」セクションに列で表示されます。要約チャートに円グラフが表示される場合、その下の詳細チャートには円の各区分が示されます。
使用済ブロック	最後に計算された後に変更されたセルを含むデータ・ブロックです。子ブロックが使用済である(つまり更新されている)場合、上位のブロックにも使用済のマークが付けられます。
冗長データ	重複データ・ブロックです。Essbaseで更新されたブロックがコミットされるまで、取引の間保持されます。
ジョブ	出力生成のために起動できる特殊なプロパティを持つドキュメントです。ジョブにはInteractive Reporting、SQR Production Reporting、または汎用ドキュメントを含めることができます。
ジョブの出力	ジョブの実行によって生成されたファイルやレポートです。
シリアル計算	デフォルトの計算設定です。1つの計算を複数のタスクに分割して、一度に1つのタスクを計算します。
仕訳(JE)	シナリオと期間の残高勘定科目の借方または貸方に計上する調整の集合です。
シングル・サインオン(SSO)	一度ログオンすると、認証のための情報を再度入力することなく複数のアプリケーションにアクセスできる機能です。
シングル・ポイント障害	システム内のコンポーネントで、そこで障害が発生すると、ユーザーは通常の機能にアクセスできなくなります。
信頼できるユーザー	認証されたユーザーです。
垂直アプリケーション・サーバー・クラスタ	同じマシン上に複数のアプリケーション・サーバー・インスタンスが存在するクラスタです。
水平アプリケーション・サーバー・クラスタ	別々のマシンに複数のアプリケーション・サーバー・インスタンスが存在するクラスタです。
数値属性範囲	基本ディメンション・メンバーを関連付けるために使用される機能です。メンバーは個別の数値を含み、値の範囲を示す属性を持ちます。たとえば、顧客を年齢別に分類する場合、Age Group属性ディメンションに0-20、21-40、41-60、および61-80という年齢範囲に該当するメンバーを含めることができます。各Customerディメンション・メンバーはAge Group範囲に関連付けられます。

	データを取得する際は、個別の年齢の値ではなく年齢範囲に基づいて処理されます。
スーパーバイザ	サーバーのすべてのアプリケーション、データベース、関連ファイル、セキュリティ機構にフル・アクセスできるユーザーです。
ズームチャート	チャートを拡大することにより詳細情報を表示するために使用されます。チャートに表示されるメトリックについて数値情報を詳細に表示できます。
スキーマ	リレーショナル・データベースにおける、データおよびデータ間の関連を表す論理モデルです。
スクレーピング	データ・ソースを検査して、最も基本的なメタデータ要素を得ることを指します。 <a href="#">463ページのイントロスペクション</a> と対比してください。
スケール	スケールによって値の表示方法を決定します(整数、十単位、百単位、千単位、百万単位など)。
スコア	ターゲットを達成するレベルです。通常はターゲットのパーセンテージとして表されます。
スコアカード	目標を達成する上での、従業員、戦略要素、または責任要素の進行状況を示すビジネス・オブジェクトです。スコアカードに追加された各メジャーおよび子スコアカードについて収集されるデータに基づいて、進行状況が確認されます。
スコープ	Essbaseの操作または設定により包含されるデータ領域です(セキュリティ設定により影響を受けるデータ領域など)。通常、スコープには粒度が3レベルあり、上位レベルが下位レベルを包含します。これらのレベルは上位から下位の順で、システム全体(Essbaseサーバー)、Essbaseサーバー上のアプリケーション、Essbaseサーバー・アプリケーション内のデータベースとなります。 <a href="#">470ページの持続性</a> も参照してください。
ステージ	通常は個別のユーザーにより実行される、タスクフロー内の1つの論理ステップを形成するタスクの説明です。ステージには手動と自動の2つのタイプがあります。
ステージ・アクション	自動ステージで、ステージを実行するために呼び出されたアクションです。
ステージ後割当て	配賦モデルにおける割当てです。後に続くモデル・ステージの場所に割り当てられます。
ステージ内割当て	財務フローの割当てです。同じステージ内のオブジェクトに対して割り当てられます。
ステージング表	特定のアプリケーションの必要性に対応するために作成するデータベースです。ステージング領域は、1つ以上のRDBMSのスナップショット(再構築されたバージョン)です。
ステージング領域	特定のアプリケーションの必要性に対応するために作成するデータベースです。ステージング領域は、1つ以上のRDBMSのスナップショット(再構築されたバージョン)です。
ステータス・バー	画面下部のステータス・バーには、コマンド、勘定科目、およびデータ・ファイルの現在のステータスに関する有用な情報が表示されます。
スナップショット	特定の時点の読取り専用データです。
スポットライタ	選択された条件に基づくカラー・コーディングを可能にするツールです。
スマート・カット	URLフォームのリポジトリ項目へのリンクです。

スマート・タグ	Microsoft Officeアプリケーションでのキーワードです。スマート・タグのメニューから使用可能な定義済アクションに関連付けられています。Oracle EPM System製品でも、スマート・タグを使用してReporting and AnalysisのコンテンツのインポートやFinancial ManagementおよびEssbaseの機能へのアクセスが可能です。
税金の初期残高	Strategic Financeでは、損失の初期残高、収益の初期残高、および納税の初期残高のエントリは、Strategic Financeの最初の期間に先立つ期間に発生していることを前提とします。
精度	数値に表示される小数点以下の桁数です。
製品	Shared Servicesにおける、PlanningやPerformance Scorecardなどのアプリケーション・タイプです。
セカンダリ・メジャー	プライマリ・メジャーよりも優先度の低いメジャーです。セカンダリ・メジャーには業績レポートがありませんが、スコアカードで使用したり、ディメンション・メジャーのテンプレートを作成するために使用できます。
責任マップ	組織内の責任チーム(重要事業領域とも呼ばれます)の責任、報告、および依存関係の構造を視覚的、階層的に示します。
セキュリティ・エージェント	Webアクセス管理プロバイダ(Netegrity SiteMinderなど)です。企業のWebリソースを保護します。
セキュリティ・プラットフォーム	EPM System製品で外部認証とシングル・サインオン機能を使用するためのフレームワークです。
世代	データベースでのメンバー関係を定義する階層ツリー内のレイヤーです。世代は、ディメンションの最上位のメンバー(世代1)から子メンバーへと1世代ずつ下に配置されていきます。一意の世代名を使用すると、階層ツリー内のレイヤーを特定できます。
設計レポート	コンポーネント・ライブラリを使用してカスタム・レポートを作成するためのWeb Analysis Studioのインタフェースです。
接続ファイル	<a href="#">491ページのInteractive Reporting接続ファイル(.oce)</a> を参照してください。
セル	(1)マルチディメンショナル・データベースのディメンションの交差を表すデータ値です。ワークシート上の行および列の交差を指します。(2)管理ドメインに属するノードの論理グループです。
セル・ノート	Essbaseデータベースでセルに付けられるテキスト注釈です。セル・ノートはLROの一種です。
選択リスト	レポート設計者がレポートの視点(POV)を定義する際に各ディメンションに指定するメンバーのリストです。定義されたメンバー・リストに指定されたメンバーを選択するか、または動的リストの関数に定義された条件に一致するメンバーを選択するだけで、選択リストを使用するディメンションのPOVを変更できます。
戦略マップ	上位レベルのミッションおよびビジョンのステートメントを、構成要素である下位レベルの戦略的達成目標に組入れる方法を示します。
戦略目標(SO)	測定可能な結果によって定義された長期目標です。各戦略目標は、アプリケーション内の1つのパースペクティブに関連付けられ、1つの親(エンティティ)を持ち、重要成功要因または他の戦略目的の親になります。
関連サブ問合せ	親問合せの各行で一度評価されるサブ問合せです。サブ問合せのトピック・アイテムを親問合せのトピックに結合することにより作成されます。

相互割当て	財務フローの割当ての一種です。宛先の1つとしてソースが含まれます。
属性	ディメンション・メンバーの特性です。たとえば、従業員ディメンション・メンバーには、名前、年齢、または住所の各属性がある場合があります。Productディメンションのメンバーはサイズ、味などの複数の属性を持つ可能性があります。
属性計算ディメンション	メンバーのグループに対して、合計、カウント、平均、最小、および最大を計算するシステム定義のディメンションです。このディメンションは動的に計算され、データベース・アウトラインでは表示されません。たとえば、メンバーAvgを使用すると、製品Redについてニューヨークでの1月の平均売上値を計算できます。
属性タイプ	様々な関数(データのグループ化、選択、または計算)を使用可能にするためのテキスト、数値、ブール値、日付、またはリンク属性タイプです。たとえば、Ounces属性ディメンションは数値タイプを持つので、各製品の属性として指定されるオンス数を使用して当該製品のオンス当たりの収益を計算できます。
属性ディメンション	ディメンションの一種です。ディメンションのメンバーの属性や特質に基づいて分析できます。
属性の関連付け	データベース・アウトラインでの関係です。これにより、属性ディメンションのメンバーが基本ディメンションのメンバーの特性を表します。たとえば、製品100-10がグレープ味である場合、製品100-10はFlavor属性の関連付けがグレープになります。したがって、Productディメンションのメンバー100-10はFlavor属性ディメンションのメンバーGrapeに関連付けられることとなります。
属性レポート	基本ディメンション・メンバーの属性に基づくレポート作成プロセスです。 <a href="#">466ページの基本ディメンション</a> も参照してください。
組織	各エンティティ、およびその関係を定義するエンティティの階層です。
祖先	その下にメンバーを含む分岐メンバーです。たとえば、メンバーQtr2とメンバー2006はメンバーAprilの祖先です。
貸借一致の仕訳	借方の合計と貸方の合計が等しい仕訳です。
対称型マルチプロセッシング(SMP)	マルチプロセッシングとマルチスレッディングを使用可能にするサーバーのアーキテクチャです。多数のユーザーが単一のインスタンスに同時に接続した場合でも、パフォーマンスが大きく低下することはありません。
対称トポロジ	本番サイトの層とスタンバイ・サイトの層で同一のOracle Fusion Middlewareの障害回復構成です。対称トポロジでは、本番サイトとスタンバイ・サイトのホスト、ロード・バランサ、インスタンスおよびアプリケーションの数は同じです。両方のサイトで同じポートが使用されます。システムは同一に構成され、アプリケーションは同じデータにアクセスします。
代替階層	共有メンバーの階層です。代替階層はデータベース・アウトラインの既存の階層に基づきますが、ディメンションに代替レベルを持ちます。代替階層により、異なる視点(POV)から同一データを表示できます。
タイトル・バー	Strategic Finance名、ファイル名、およびシナリオ名のバージョン・ボックスを表示します。
タイム・イベント	ジョブを実行するトリガーです。
タイム・スケール	指定された期間別(毎月、四半期ごとなど)にメトリックを表示します。
タイムライン・ビューア	特定の場所について、完了したプロセス・フロー・ステップの日時を表示するためのFDMの機能です。

タスクフロー	ビジネス・プロセスの自動化を指します。手続きのルールに従って、あるタスクフロー参加者から別の参加者にタスクが渡されます。
タスクフロー・インスタンス	タスクフローの単一のインスタンスを示します。タスクフローの状態と関連データが含まれます。
タスクフロー管理システム	タスクフローの定義および作成し、その実行を管理します。定義付け、ユーザーまたはアプリケーションのやりとり、およびアプリケーションの実行可能ファイルが含まれます。
タスクフロー参加者	手動ステージおよび自動ステージの両方について、タスクフローのステージのインスタンスに関連付けられているタスクを実行するリソースです。
タスクフロー定義	タスクフロー管理システムのビジネス・プロセスを示します。ステージとステージ間の関係のネットワークから構成され、タスクフローの開始と終了を示す基準、および個別のステージに関する情報(参加者、関連アプリケーション、関連アクティビティなど)が含まれます。
タスク・リスト	特定のユーザーについて、タスクの詳細ステータスを示すリストです。
ダッシュボード	業務の要約を対話的に示すメトリックと指標の集まりです。ダッシュボードにより分析アプリケーションを構築してデプロイできます。
タブ	Strategic Financeで、勘定科目とレポートのナビゲーションを行うことができるビューです。
タプル	MDX構文の要素です。セルは、各ディメンションからのメンバーの交差として参照されます。ディメンションが削除されている場合、最上位のメンバーが示されます。たとえば、(Jan)、(Jan, Sales)、( [Jan], [Sales], [Cola], [Texas], [Actual] )といったタプルがあります。
単項演算子	アウトラインのメンバーに関連付けられている算術インディケータ(+、-、*、/、%)です。単項演算子では、データベースのロールアップ中のメンバーの計算方法が指定されます。
置換	データ・ロードのオプションの1つです。データ・ロード・ファイルに指定された期間のすべての勘定科目からの既存の値を消去し、データ・ロード・ファイルからの値をロードします。ロード・ファイルに勘定科目が指定されていない場合、指定された期間に該当する値が消去されます。
チャート	スプレッドシート・データをグラフィカルに表したものです。視覚的な表示により、分析、カラー・コーディング、および比較の手助けとなるビジュアル・キューの効率が上がります。
チャート・テンプレート	ワークスペース・チャートに表示するメトリックを定義するテンプレートです。
抽出コマンド	Essbaseレポート作成コマンドの1つです。データベースから抽出されるRAWデータの選択、向き、グループ分け、および配列を処理します。小なり記号(<)から始まるコマンドです。
調査	<a href="#">480ページのドツルスル</a> を参照してください。
調整	<a href="#">472ページの仕訳(JE)</a> を参照してください。
調整勘定科目	内部取引勘定科目の消去プロセスで均衡しない差額が保管される勘定科目です。
直接レート	為替レート表に入力する通貨レートです。直接レートは通貨換算に使用されます。たとえば、残高を日本円から米ドルに変換する場合、変換元通貨を日本円、変

	換先通貨を米ドルとして、為替レート表に期間またはシナリオのレートを入力します。
通貨換算	データベースの通貨の値を別の通貨に変換するプロセスです。たとえば、1米ドルをユーロに変換するには、ドルに為替レート(たとえば、0.923702)を乗じます(1*0.923702)。変換後のユーロの額は0.92になります。
通貨の上書き	入力期間で、選択した入力メソッドを上書きして、デフォルトの通貨/項目として該当期間の値を入力できます。入力メソッドを上書きするには、数値の前または後にシャープ(#)を入力します。
通貨パーティション	アプリケーションでの定義に従って、基本通貨から現地通貨メンバーを隔離するディメンション・タイプです。通貨タイプ(実績、予算、予測など)を特定します。
通常仕訳	特定の期間に一度かぎりの調整を入力するための機能です。貸借一致エンティティごとに貸借一致、貸借不一致のいずれかになります。
定義済ドリル・パス	データ・モデルでの定義に従って次の詳細レベルにドリルするために使用されるパスです。
ディメンショナリティ	MaxL DMLにおいて、セットで示されたディメンションおよびその順序です。たとえば、{ (West, Feb), (East, Mar) }というセットの場合は、含まれている2つのタプルはいずれもディメンション(Region, Year)を反映しているため、同一のディメンショナリティであることとなります。
ディメンション	ビジネス・データを整理して値の抽出や保持のために使用されるデータ・カテゴリです。通常、ディメンションには関連するメンバーをグループ化した階層が含まれます。たとえば、Yearディメンションは多くの場合四半期、月などの期間の各単位ごとのメンバーが含まれます。
ディメンション間の無関係性	ディメンションが他のディメンションと交差しない状況を指します。ディメンションに含まれるデータは、交差しないディメンションはアクセスできないため、交差しないディメンションは無関係となります。
ディメンション構築	Essbaseアウトラインにディメンションおよびメンバーを追加するプロセスです。
ディメンション構築のルール	データ・ロードのルールに似た仕様です。Essbaseでアウトラインを変更するために使用されます。変更は外部データ・ソース・ファイルのデータに基づきます。
ディメンション・タイプ	定義済の機能を使用可能にするディメンションのプロパティです。時間のタグが付けられたディメンションは、定義済のカレンダー機能を持ちます。
ディメンション・タブ	「ピボット」セクションで、行と列の間でデータのピボットを実行するためのタブです。
ディメンション表	(1)特定のビジネス・プロセスに関する多数の属性を含む表です。(2)Essbase Integration Servicesでは、Essbaseの潜在的なディメンションを定義する1つ以上のリレーショナル表のための、OLAPモデルのコンテナを指します。
データ関数	データを集約する関数です。データの平均、最大値、カウントを求めたり、他の統計値によりデータのグループを集計します。
データ・キャッシュ	非圧縮データ・ブロックを保持するメモリー内のバッファです。
データ・セル	<a href="#">474ページのセル</a> を参照してください。
データ値	<a href="#">474ページのセル</a> を参照してください。
「データなし」ステータス	集計ステータスの1つです。特定の期間と勘定科目のデータがこのエンティティに含まれていないことを示します。

データ・ファイル・キャッシュ	圧縮データ(PAG)ファイルを保持する、メモリー内のバッファです。
データ・フォーム	Webブラウザなどのインタフェースからデータベースにデータを入力でき、データまたは関連テキストを表示して分析できるグリッド表示です。一部のディメンション・メンバー値は固定され、データが特定の視点から表示されます。
データベース接続	データ・ソースへの接続に使用する定義とプロパティを保管し、データベース参照を移動可能にして広く使用できるようにするファイルです。
データ・マイニング	Essbaseデータベースを検索して、大量のデータの中から隠れた関係やパターンを見つけるプロセスです。
データ・モデル	データベース表のサブセットを示します。
データ・ロード位置	FDMで、ソース・データをターゲット・システムに送信する報告単位です。通常、ターゲット・システムにロードされる各ソース・ファイルに対してFDMのデータ・ロード位置が1つあります。
データ・ロードのルール	テキストベース・ファイル、スプレッドシート、またはリレーショナル・データ・セットからのデータをデータベースにロードする方法を決定する一連の基準です。
データ・ロック	指定された基準(期間、シナリオなど)に従ってデータの変更を防ぎます。
適応状態	Interactive Reporting Web Clientの権限レベルです。
テキスト・メジャー	メジャーの値をテキストとして表現できるデータ型です。Essbaseでは、メジャーが示されているディメンションでTextとしてタグ付けされたメンバーを指します。セルの値は定義済テキストとして表示されます。たとえば、Satisfaction Indexというテキスト・メジャーについては、Low、Medium、およびHighという値を含めることがあります。
デフォルト通貨単位	データの単位スケールを定義します。たとえば、千単位で分析を定義するように選択して10を入力すると、10,000と解釈されます。
テンプレート	特定のデータを一貫して取得するように設計された定義済のフォーマットです。
問合せガバナー	Essbase Integration ServerのパラメータまたはEssbaseサーバーの構成設定です。データ・ソースに対して実行される問合せの時間とサイズを制御します。
透過パーティション	ローカルのデータベースの一部であるかのように、リモート・データベースのデータにアクセスして変更できるようにする共有パーティションです。
透過ログイン	ログイン画面を起動せずに認証されたユーザーをログインさせます。
同期	Shared Servicesとアプリケーション・モデルの同期です。
同期済	モデルの最新バージョンがアプリケーションとShared Servicesの両方に存在する状態を指します。 <a href="#">487ページのモデル</a> も参照してください。
統合	Shared Servicesを使用してEPM System製品間でデータを移動するために実行されるプロセスです。データ統合の定義によりソース・アプリケーションと宛先アプリケーションの間でのデータの移動が指定され、データの動きのグループ化、順序付け、およびスケジュールが決定されます。
導出テキスト・メジャー	Essbase Studioで、範囲として表現された定義済ルールによって管理される値を持つテキスト・メジャーです。たとえば、販売高メジャーに基づく導出テキスト・メジャー「販売実績インデックス」は、「高」、「中」、および「低」の値で構成できます。対応する売上が該当する範囲に応じてHigh、Medium、およびLowが表示されるように定義されます。「テキスト・メジャー」も参照してください。

導出テキスト・メジャー	Essbase Studioで、範囲として表現された定義済ルールによって管理される値を持つテキスト・メジャーです。たとえば、販売高メジャーに基づく導出テキスト・メジャー「販売実績インデックス」は、「高」、「中」、および「低」の値で構成できます。対応する売上が該当する範囲に応じてHigh、Medium、およびLowが表示されるように定義されます。 <a href="#">478ページのテキスト・メジャー</a> も参照してください。
動的階層	集約ストレージ・データベースのアウトラインに限定して、取得時に値が計算されるメンバーの階層です。
動的計算	Essbaseで、動的計算メンバー、または動的計算および保管メンバーとしてタグ付けされているメンバーについてデータを取得する場合にのみ実行される計算です。メンバーの値は、バッチ計算で事前に計算されるのではなく、取得時に計算されます。
動的計算および保管メンバー	ブロック・ストレージ・アウトラインで、値を最初に取得したときにのみEssbaseによって計算されるメンバーです。計算された値はデータベースに保管され、2回目以降の取得では計算を実行する必要がありません。
動的計算メンバー	ブロック・ストレージ・アウトラインで、取得時にのみ計算が行われるメンバーです。取得要求の処理が完了すると、計算された値は破棄されます。
動的参照	データ・ソース内のヘッダー・レコードを指すルール・ファイル内のポインタです。
動的時系列	ブロック・ストレージ・データベースで、期間累計のレポート作成を実行するプロセスです。
動的ビュー勘定科目	勘定科目の1つです。勘定科目の値は、表示されているデータから動的に計算されます。
動的メンバー・リスト	システムにより作成される名前付きメンバー・セットです。ユーザーが定義した基準が使用されます。アプリケーションでリストが参照されるとき、リストは自動的にリフレッシュされます。ディメンション・メンバーの増減に応じて基準が自動的にリストに適用され、変更内容が反映されます。
動的レポート	レポートを実行するときに更新されるデータを含むレポートです。
トークン	外部認証システム上の1つの有効なユーザーまたはグループの暗号化されたIDです。
トースト・メッセージ	画面右下の隅に表示され、現れたり消えたりするメッセージです。
時系列レポート作成	カレンダーの日付(年、四半期、月、週など)に基づくデータのレポート作成プロセスです。
トップ・ラベルとサイド・ラベル	列と行の見出しです。ピボット・レポートの上部とサイドにそれぞれ表示されます。
ドメイン	データ・マイニングにおいて、データ内での移動の範囲を表す変数です。
ドライバ	ドライバは配賦方法の一種です。ドライバを利用する複数ソース間の数学的關係、およびこれらのソースがコストや収益を配賦する宛先を示します。
トラフィック・ライト	2つのディメンション・メンバーの比較、または一定の制限値に基づいて、レポートのセルまたはピンを色分けする機能です。
トリガー	ユーザーが指定した基準に従ってデータを監視するための、Essbaseの機能の1つです。基準に一致すると、Essbaseはユーザーまたはシステム管理者にアラートを送信します。

ドリルスルー	あるデータ・ソースの値から別のソースの対応するデータに移動することです。
ドリルダウン	ディメンショナル階層を使用して問合せ結果セット内をナビゲートすることです。ドリルダウンにより、ユーザーのパーспекティブが集約データから詳細に移ります。たとえば、ドリルダウンにより年と四半期の階層関係、または四半期と月の階層関係が明らかになります。
トレーサビリティ	メタデータ要素を物理ソースまで追跡する機能です。たとえばEssbase Studioの場合、キューブ・スキーマをそれ自体の階層およびメジャー階層からディメンション要素、日付/時間要素、メジャー、そして最終的には物理ソースまで追跡できます。
トレース・レベル	ログ・ファイルで捕捉された詳細のレベルを定義します。
内部取引消去	<a href="#">472ページの消去</a> を参照してください。
名前付きセット	MaxL DMLで、MaxL DML問合せのオプションのWITHセクションに定義された論理を使用するセットです。名前付きセットは問合せ内で複数回参照することが可能です。
入力データ	計算されるのではなくソースからロードされるデータです。
認証	安全対策としてのIDの確認です。一般に、認証はユーザー名およびパスワードに基づきます。パスワードおよびデジタル・シグネチャは認証のフォームです。
認証サービス	単一の認証システムを管理するコア・サービスです。
ネイティブ認証	サーバーまたはアプリケーション内で、ユーザー名とパスワードを認証するプロセスです。
ネスト列見出し	複数のディメンションからのデータを表示するレポート列の列見出しのフォーマットです。たとえば、YearとScenarioのメンバーが含まれる列見出しはネスト列です。ネスト列見出しでは、見出しの一番上の行のQ1(Yearディメンション)が、見出しの一番下の行のActualおよびBudget(Scenarioディメンション)で修飾されます。
バージョン	データのシナリオのコンテキスト内で使用される、起こりうる結果です。たとえば、Budget - Best CaseとBudget - Worst Caseでは、Budgetがシナリオであり、Best CaseとWorst Caseがバージョンです。
パーспекティブ	スコアボードのメジャーやアプリケーションにおける戦略目標をグループ化するために使用されるカテゴリです。パーспекティブにより、主要な利害関係者(顧客、従業員、株主、金融関係者など)またはキー・コンピテンシ領域(時間、コスト、品質など)を示すことができます。
パーティション化	データ・モデルの間で共有またはリンクされるデータの領域を定義するプロセスです。パーティション化はEssbaseアプリケーションのパフォーマンスとスケーラビリティに影響することがあります。
パーティション領域	データベース内のサブ・キューブです。パーティションは、データベースの一部からの1つ以上のセル領域から構成されます。複製パーティションおよび透過パーティションの場合、2つのパーティションが同じ形状となるために、領域内のセルの数がデータ・ソースとターゲットで同一となる必要があります。データ・ソース領域に18個のセルが含まれる場合、データ・ターゲット領域にも対応する18個のセルが含まれていなければいけません。
ハードウェア・クラスタ	ネットワーク・サービス(たとえばIPアドレス)やアプリケーション・サービス(データベースやWebサーバーなど)のシングル・ビューを、これらのサービスのクライアント

トに提供するコンピュータの集合です。ハードウェア・クラスタの各ノードは、独自のプロセスを実行するスタンドアロン・サーバーです。これらのプロセスは互いに通信して、連携してアプリケーション、システム・リソース、データをユーザーに提供する1つのシステムのようなものを形成します。

ハイパーテキスト・マークアップ言語(HTML)	Webブラウザでのデータ表示を指定するプログラミング言語です。
ハイパーリンク	ファイル、Webページ、またはイントラネットHTMLページへのリンクです。
配賦のトレース	Profitability and Cost Managementの機能の1つです。財務データのフローに対する視覚的な追跡を可能にします。この追跡は単一の交差から、モデル内の前方または後方に実行できます。
ハイブリッド分析	リレーショナル・データベースに保管された下位のデータを、Essbaseに保管された要約レベルのデータにマッピングする分析です。リレーショナル・システムの大規模スケーラビリティとマルチディメンショナル・データを組み合わせます。
パターン照合	条件として入力される項目の一部またはすべての文字と値を照合する機能です。欠落文字は、疑問符(?)またはアスタリスク(*)などのワイルド・カード値で表すことができます。たとえば、「Find all instances of apple」ではappleが戻されるのに対して、「Find all instances of apple*」ではapple, applesauce, applecranberryなどが戻されます。
バックアップ	アプリケーション・インスタンスの複製コピーです。
バッチ計算	データベースにおいてバッチで実行される計算です(計算スクリプト、すべてのデータベース計算など)。動的計算はバッチ計算とはみなされません。
バッチ処理モード	サーバー管理や診断のルーチン・タスクを自動化するために使用できるバッチやスクリプト・ファイルを記述するために、ESSCMDを使用する方法です。ESSCMDスクリプト・ファイルは複数のコマンドを実行でき、オペレーティング・システムのコマンド・ラインから実行したり、オペレーティング・システムのバッチ・ファイルから実行したりすることが可能です。バッチ・ファイルを使用すると、複数のESSCMDスクリプトを呼び出したり、ESSCMDの複数インスタンスを実行したりできます。
バッチ・ファイル	複数のESSCMDスクリプトを呼び出して複数のESSCMDセッションを実行できるオペレーティング・システム・ファイルです。Windowsシステムの場合、バッチ・ファイルにはBATというファイル拡張子が付けられます。UNIXの場合、バッチ・ファイルはシェル・スクリプトとして記述されます。
バッチ・ローダー	複数ファイルの処理を可能にするFDMコンポーネントです。
バッチPOV	ユーザーのPOVにおいて、バッチに含まれる各レポートおよびブックのすべてのディメンションの集合です。バッチのスケジュールを立てる際は、バッチPOVで選択されたメンバーを設定できます。
パフォーマンス・インディケータ	ユーザーが指定した範囲に基づくメジャーおよびスコアカード・パフォーマンスを示すために使用されるイメージ・ファイルです。ステータス記号とも呼ばれます。デフォルトのパフォーマンス・インディケータを使用することもできますが、無制限に独自のパフォーマンス・インディケータを作成することも可能です。
パブリック・ジョブ・パラメータ	管理者が作成する再利用可能な名前付きジョブ・パラメータです。必要なアクセス権を持つユーザーがアクセスできます。
パブリック反復タイム・イベント	管理者が作成する再利用可能なタイム・イベントです。アクセス・コントロール・システムからアクセスできます。

パレット	JASCに準拠し、.PAL拡張子を持つファイルです。各パレットには相互に補完し合う16色が含まれ、ダッシュボードの色要素の設定に使用することが可能です。
反復タイム・イベント	ジョブの実行開始点と実行頻度を指定するイベントです。
反復テンプレート	各期間に対して同一の調整を行うための仕訳テンプレートです。
汎用ジョブ	SQR Production ReportingまたはInteractive Reporting以外のジョブを指します。
凡例ボックス	ディメンションのデータ・カテゴリを特定するためのラベルを含むボックスです。
非アクティブ・グループ	管理者によりシステムへのアクセスが非アクティブにされているグループです。
非アクティブ・ステータス	エンティティの当期の連結が非アクティブにされていることを示します。
非アクティブ・ユーザー	管理者によりアカウントが非アクティブにされているユーザーです。
ビジネス・プロセス	集散的にビジネス上の目標を達成するための一連のアクティビティです。
ビジネス・ルール	期待される一連の結果値を生成するためにアプリケーション内に作成される論理式または式です。
ビジュアル・キュー	特定のタイプのデータ値をハイライトする、フォントや色などのフォーマットが設定されたスタイルです。データ値は、ディメンション・メンバー、親メンバー、子メンバー、共有メンバー、動的計算、式を含むメンバー、読取り専用データ・セル、読取りおよび書込みデータ・セル、またはリンク・オブジェクトのいずれかになります。
非対称トポロジ	本番サイトの層とスタンバイ・サイトの層で異なるOracle Fusion Middlewareの障害回復構成です。たとえば、非対称トポロジでは、スタンバイ・サイトのホストとインスタンスを本番サイトより少なくすることができます。
日付メジャー	Essbaseで、メジャーが示されているディメンションで「日付」のタグが付けられているメンバーです。セルの値はフォーマット済の日付として表示されます。メジャーとしての日付は時間ディメンションを使用して示すことが困難なタイプの分析に役立つことがあります。たとえば、一連の固定資産の取得日をアプリケーションで追跡する必要がある場合、取得日の範囲が実現可能な時間ディメンション・モデリングの範囲を超えて長期にわたってしまうことがあります。
非ディメンショナル・モデル	Shared Servicesのモデル・タイプの1つです。セキュリティ・ファイル、メンバー・リスト、計算スクリプト、Webフォームなどのアプリケーション・オブジェクトが含まれます。
ピボット	取得したデータのパーспекティブを変更する機能です。Essbaseでは、まずディメンションが取得され、データが行に展開されます。その後、データのピボット(並べ替え)を行うことにより、異なる視点を得ることができます。
ビュー	年次累計または期別のデータを示すものです。
表示タイプ	リポジトリに保存された3種類のWeb Analysisフォーマット(スプレッドシート、チャート、ピンボード)のいずれかを指します。
標準仕訳テンプレート	各期間に共通する調整を転記するために使用する仕訳の機能です。たとえば、共通する勘定科目ID、エンティティID、または金額を含む標準テンプレートを作成すると、これを多数の通常仕訳の基準として使用できます。
標準ディメンション	属性ディメンション以外のディメンションです。

ピン	ピンボードと呼ばれるグラフィック・レポート上に配置される対話型アイコンです。ピンは動的で、ピンは、基盤となるデータ値や分析ツールの基準に基づいて、イメージやグラフィック・ライトの色を変更できます。
ピンボード	3種類のデータ・オブジェクトの表示タイプの1つです。ピンボードは、背景およびピンと呼ばれる対話型アイコンから成るグラフィックです。ピンボードを使用するにはグラフィック・ライトを定義する必要があります。
ファイルの区切り文字	データ・ソース内のフィールドを区切る文字です(カンマ、タブなど)。
ファクト表	スター結合スキーマの中心の表です。外部キー、およびディメンション表から取得した要素により特徴付けられます。通常、この表にはスキーマの他のすべての表に関連する数値データが含まれます。
フィルタ	データ・セットで、特定の基準に従って値を制限する制約です。たとえば、特定の表、メタデータ、または値を除外したり、アクセスを制御したりする場合に使用されます。
フェイルオーバー	プライマリ・データベース、サーバーまたはネットワークに障害が発生するか、これらがシャットダウンする場合に、冗長性のあるスタンバイ・データベース、サーバーまたはネットワークに自動的に切り替える機能です。フェイルオーバー用にクラスタリングされているシステムは、高可用性、サーバーの冗長性を利用したフォルト・トレランス、および共有ディスクなどのフォルト・トレラント・ハードウェアを提供します。
フォーマット文字列	Essbaseで、セルの値の表示を変換する方法です。
復元	データベースが破損または破壊された場合にデータおよび構造の情報を再ロードする操作です。通常、データベースをシャット・ダウンおよび再起動した後で実行されます。
複製パーティション	パーティション・マネージャにより定義されるデータベースの一部。あるサイトで管理されるデータの更新を別のサイトに伝播するために使用されます。ユーザーは、ローカルのデータベースと同じようにデータにアクセスできます。
負債勘定科目	一定時点における会社の負債残高を格納する勘定科目タイプです。未払費用、買掛金勘定、長期借入金などが負債勘定科目に含まれます。
ブック	類似するFinancial Reportingドキュメントのグループを含むコンテナです。ブックには、ディメンション・セクションまたはディメンションの変更が指定されていることがあります。
ブックのPOV	ブックが実行されるディメンションのメンバーです。
ブックマーク	ユーザー個人のページに表示されるレポート・ドキュメントまたはWebサイトへのリンクです。ブックマークには、マイ・ブックマークとイメージ・ブックマークの2つのタイプがあります。
フッター	レポート・ページ下部に表示されるテキストまたはイメージです。ページ番号、日付、ロゴ、タイトル、ファイル名、作成者名など、動的な関数や静的なテキストが含まれます。
プライマリ・メジャー	企業および事業のニーズにとって重要な、優先度の高いメジャーです。コンテンツ・フレームに表示されます。
プランナ	プランナは、大多数のユーザーから構成されます。データの入力と送信、他のプランナが作成したレポートの使用、ビジネス・ルールの実行、タスク・リストの使用、電子メール通知の使用、およびSmart Viewの使用が可能です。

プランニング・ユニット	シナリオ、バージョン、およびエンティティの交差におけるデータ・スライスです。プラン・データの準備、確認、注釈付け、および承認のための基本単位です。
フリーフォーム・グリッド	動的計算のために、複数のソースからのデータを提示、入力、および統合するためのオブジェクトです。
フリーフォーム・レポート作成	ワークシートにディメンション・メンバーまたはレポート・スクリプト・コマンドを入力することにより、レポートを作成することを指します。
フレーム	デスクトップ上の領域です。ナビゲーション・フレームとワークスペース・フレームが2つの主要な領域となります。
プレゼンテーション	Web Analysisドキュメントのプレイリストです。レポートの分類、整理、並べ替え、配布、および確認を行うことができます。リポジトリ内のレポートを参照するポインタを含みます。
フロー勘定科目	期別と年次累計の符号なしの値を格納する勘定科目です。
ブロードキャスト・メッセージ	Planningアプリケーションにログオンしているユーザーに対して管理者が提出する単純なテキスト・メッセージです。メッセージには、システムの可用性、アプリケーション・リフレッシュの通知、アプリケーションのバックアップなどのユーザー向けの情報が表示されます。
プロキシ・サーバー	セキュリティを保証するために、ワークステーション・ユーザーとインターネットの間で仲介を行うサーバーです。
プロジェクト	実装でグループ化されたEPM System製品のインスタンスです。たとえば、PlanningプロジェクトにはPlanningアプリケーション、Essbaseキューブ、Financial Reportingサーバー・インスタンスが含まれることがあります。
プロセス監視レポート	FDMデータ変換プロセスにおける、場所のリストとその位置を表示します。プロセス監視レポートを使用して、決算手続のステータスを監視できます。レポートにはタイム・スタンプが付けられるので、時間データがロードされた場所を判断するために使用できます。
ブロック	プライマリ・ストレージ・ユニットです。多次元配列であり、すべての密ディメンションのセルを表します。
ブロックされた勘定科目	手動で入力する必要があるために連結ファイルの計算に含めない勘定科目です。
ブロック・ストレージ・データベース	疎ディメンションに定義されたデータ値の密度に基づいてデータを分類および保管する、Essbaseのデータベース・ストレージ・モデルです。データ値はブロック単位で保管され、ブロックは値を含む疎ディメンション・メンバーについてのみ存在します。
プロット領域	X軸、Y軸、およびZ軸で囲まれている領域です。円グラフの場合は、その周りに表示される長方形の領域です。
プロビジョニング	ユーザーおよびグループに対して、リソースへのアクセス権限を付与するプロセスです。
分離レベル	データベース操作のロックとコミットの動作を決定するEssbaseカーネルの設定です。選択肢は: コミット・アクセスまたはアンコミット・アクセス。
並列エクスポート	Essbaseデータを複数のファイルにエクスポートする機能です。並列エクスポートは、1つのファイルにエクスポートした場合に比べて時間を短縮できます。また、1つのデータ・ファイルでサイズが大きくなりすぎた場合の、オペレーティング・システムでの操作上の問題を解決できます。

並列計算	計算オプションの1つです。Essbaseでは計算がタスクに分割され、一部のタスクは同時に計算されます。
並列データ・ロード	Essbaseで、複数プロセスのスレッドによりデータ・ロードのステージを同時に実行することを指します。
ページ	グリッドまたは表での情報表示の一種です。しばしばZ軸により示されます。ページには、1つのフィールドからのデータ、計算により得られるデータ、またはテキストを含めることができます。
ページ・ファイル	Essbaseのデータ・ファイルです。
ページ見出し	レポートの現在のページで表示されているメンバーをリストした、レポート見出しの一種です。ページ上のすべてのデータ値には、ページ見出し内のメンバーが共通属性として適用されています。
ページ・メンバー	ページ軸を決定するメンバーです。
別名	代替名です。たとえば、列をより簡単に特定する記述子として、メンバー名のかわりに別名を表示できます。
別名表	メンバーの代替名を含む表です。
変換	(1)アプリケーションの移行後も移行先の環境で正しく機能するように、アーティファクトを変換します。(2)データ・マイニングで、キューブおよびアルゴリズムのセルの間で(双方向に)流れるデータを変更します。
変換先通貨	残高の変換後の通貨です。為替レートを入力して、変換元通貨から変換先通貨に変換します。たとえばユーロから米ドルに変換する場合、変換先の通貨は米ドルです。
変換元通貨	為替レートを使用して変換先通貨に変換される前の、値の元の通貨です。
「変更済」ステータス	エンティティのデータが変更されたことを示す集計ステータスです。
保管階層	集約ストレージ・データベースのアウトラインのみで使用される用語です。アウトラインの構造に従ってメンバーが集約される階層を指します。保管階層のメンバーには、式を含むことができないなどの一定の制限があります。
ホスト	アプリケーションとサービスがインストールされているサーバーです。
ホスト・プロパティ	ホストに複数のInstall_Homeが含まれる場合は、いずれかのInstall_Homeに関係するプロパティとなります。ホスト・プロパティはCMCから構成されます。
保存された仮定	ビジネス上の主要な計算を推進するための、Planningでのユーザー定義の仮定です(事業所の床面積1平方フィート当たりのコストなど)。
マージ	データ・ロード・オプションの1つです。データ・ロード・ファイルで指定された勘定科目の値のみを消去し、データ・ロード・ファイルの値で置換します。
マイニング属性	データ・マイニングにおいて、一連のデータを分析する際の係数として使用する値のクラスです。
マイWorkspaceページ	複数のソース(ドキュメント、URL、その他のコンテンツ・タイプ)からのコンテンツを使用して作成されるページです。Oracleおよびその他のソースからのコンテンツを集約するために使用できます。
マスター・データ・モデル	複数の問合せによりソースとして参照される独立するデータ・モデルです。このモデルが使用される場合は、「問合せ」セクションのコンテンツ・ペインに「ロック済データ・モデル」と表示されます。データ・モデルは「データ・モデル」セクション

に表示されるマスター・データ・モデルにリンクされています(管理者によって非表示になっていることがあります)。

マップ・ナビゲータ	戦略、責任、および因果関係の各マップに現在の位置を示す機能です。赤色のアウトラインで示されます。
マップ・ファイル	外部データベースとの間でのデータの送信や取得のための定義を格納するために使用されます。マップ・ファイルの拡張子は、データ送信用が.mps、データ取得用が.mprとなります。
マルチディメンショナル・データベース	3つ以上のディメンションでデータを整理、格納、および参照する方法です。ディメンションのセットが交差するポイントが個別の値となります。 <a href="#">488ページのリレーショナル・データベースと対比してください。</a>
マルチロード	複数の期間、カテゴリ、および場所を同時にロードすることを可能にするFDMの機能です。
密ディメンション	ブロック・ストレージ・データベースで、ディメンション・メンバーのすべての組合せのデータを含んでいる可能性のあるディメンションです。たとえば、時間ディメンションはすべてのメンバーのあらゆる組合せを含んでいる可能性があるために、しばしば密なディメンションとなっています。 <a href="#">463ページの疎ディメンションと対比してください。</a>
ミドルウェア・ホーム	Oracle WebLogic Serverホームが含まれるディレクトリで、EPM Oracleホームおよびその他のOracleホームを含むこともできます。ミドルウェア・ホームは、ローカル・ファイル・システム、またはNFSを介してアクセス可能なりモート共有ディスク上に配置できます。
ミニスキーマ	データ・ソースからの表のサブセットをグラフィカルに示したものです。データ・モデリングのコンテキストを表します。
ミニレポート	レポートのコンポーネントの1つです。レイアウト、コンテンツ、ハイパーリンク、およびレポートのロード用の1つまたは複数の問合せを含みます。各レポートには、1つ以上のミニレポートを含めることができます。
耳折れ	折り曲げられたページの角です。チャートのヘッダー領域の右上の隅に表示されます。
メジャー	OLAPデータベースのキューブに含まれる数値で、分析に使用されます。メジャーには、利益幅、売上原価、売上数量、予算などがあります。 <a href="#">483ページのファクト表も参照してください。</a>
メタアウトライン	Integration Servicesで、OLAPモデルからEssbaseのアウトラインを作成するための規則と構造を含んだテンプレートです。
メタデータ	データベースに格納された、またはアプリケーションにより使用されるデータのプロパティと属性を定義および説明するデータ・セットです。メタデータには、ディメンション名、メンバー名、プロパティ、期間、およびセキュリティなどが含まれます。
メタデータ・セキュリティ	ユーザーにより特定のアウトライン・メンバーへのアクセスを制限するための、メンバー・レベルのセキュリティ・セットです。
メタデータのサンプリング	ドリルダウン操作でディメンションに含まれるメンバーのサンプルを取得するプロセスです。
メタデータ要素	データ・ソースから算出されるメタデータ、およびEssbase Studioで使用するために格納され、カタログが作成されるおよびその他のメタデータです。
メトリック	ビジネス・データから計算される数値計測単位です。業績評価や企業トレンド分析に役立ちます。

メンバー	ディメンション内の個別のコンポーネントです。メンバーにより、類似する単位の集まりが個別に特定および区別されます。たとえば、時間ディメンションには Jan, Feb、およびQtr1などのメンバーが含まれることがあります。
メンバー選択レポート・コマンド	兄弟、世代、レベルなどのアウトラインの関係に基づいて、メンバーの範囲を選択するレポート・ライター・コマンドの一種です。
メンバー専用レポート・コマンド	レポート・ライターのフォーマット・コマンドの1つです。レポート・スクリプトで現れると実行されます。このコマンドは関連するメンバーにのみ影響し、メンバーを処理する前にフォーマット・コマンドを実行します。
メンバー・リスト	ディメンションのメンバー、関数、他のメンバー・リストを示す名前付きのグループです。システムまたはユーザーにより定義されます。
メンバー・ロード	Integration Servicesで、ディメンションおよびメンバー(データを含まない)を Essbaseのアウトラインに追加するプロセスです
目標	指定された期間(日、四半期など)についてメジャーに期待される結果です。
持株会社	法的エンティティ・グループの一部であるエンティティです。グループ内のすべてのエンティティに対して直接的または間接的に投資しています。
モデル	(1)データ・マイニングで、アルゴリズムにより検査されたデータに関する情報の集合です。より広範なデータ・セットにモデルを適用することにより、データに関する有用な情報を生成できます。(2)アプリケーション固有の方法で示したデータが含まれるファイルまたはコンテンツの文字列です。モデルはShared Servicesにより管理される基本データであり、ディメンショナルと非ディメンショナルのアプリケーション・オブジェクトという2つの主要なタイプがあります。(3)Business Modelingで、検査対象の領域からの業務および財務上のフローを示し、また計算するために接続されたボックス・ネットワークです。
役割	リソースへのアクセス権をユーザーおよびグループに付与する際に使用される手段です。
ユーザー定義属性(UDA)	アウトラインのメンバーに関連付けられ、メンバーの特性を説明します。UDAを使用すると、指定されたUDAが関連付けられているメンバーのリストが戻されます。
ユーザー定義メンバー・リスト	ユーザー定義による、特定のディメンションに含まれるメンバーの静的なセットです。
ユーザー・ディレクトリ	ユーザーおよびグループの情報を集中管理する場所です。リポジトリまたはプロバイダとも呼ばれます。
ユーザー変数	ユーザーのメンバー選択に基づいて、データ・フォームを動的に配置し、指定されたエンティティのみを表示します。たとえば、Departmentというユーザー変数を使用すると、特定の部署および従業員を表示できます。
要約チャート	「調査」セクションで、同じ列内で下に表示される詳細チャートをロール・アップし、各チャート列最上位の要約レベルにメトリックを描画します。
ライトバック	取得を行うスプレッドシートなどのクライアントが、データベースの値を更新する機能です。
ライフサイクル管理	アプリケーション情報をライフサイクルの最初から最後まで通して管理するプロセスです。
ライフ・サイクル管理ユーティリティ	アプリケーションとアーティファクトの移行に使用されるコマンドライン・ユーティリティです。

ライン・アイテムの詳細	勘定科目で最も下位の詳細レベルです。
リソース	システムにより管理されるオブジェクトまたはサービスです(役割、ユーザー、グループ、ファイル、ジョブなど)。
リポジットリ	ビューおよび問合せに使用するためのメタデータ、フォーマット、および注釈の情報を格納します。
領域	メンバーおよび値の定義済のセットであり、パーティションを構成します。
リレーショナル・データベース	関連する二次元表にデータを格納するデータベースです。 <a href="#">486ページのマルチディメンショナル・データベース</a> と対比してください。
履歴平均	多数の履歴期間にわたる勘定科目の平均です。
リンク	(1)リポジットリ・オブジェクトへの参照です。リンクはフォルダ、ファイル、ショートカットなどの参照に使用できます。(2)タスクフローで、あるステージのアクティビティが終了して次のアクティビティが開始するポイントです。
リンク条件	タスクフローのステージを順序付けるためにタスクフロー・エンジンにより評価される論理式です。
リンク・データ・モデル	リポジットリのマスター・コピーにリンクされたドキュメントです。
リンク・パーティション	データ・セルを使用して2つのデータベースをリンクするための共有パーティションです。ワークシートのリンク・セルをクリックすると、リンク・データベースのディメンションを示す新しいシートが開きます。これにより、表示されるディメンションをドリルダウンできます。
リンク・レポート・オブジェクト (LRO)	セル・ノート、URL、テキスト、オーディオ、映像、画像を含むファイルなどの外部ファイルへのセルベースのリンクです。Financial Reportingでは、Essbase LRO向けにサポートされるのはセル・ノートのみです。 <a href="#">489ページのローカル・レポート・オブジェクト</a> と対比してください。
隣接する四角形	Interactive Reportingドキュメントのセクションを個人用ページに埋め込む場合に、Interactive Reportingドキュメントのコンテンツをカプセル化する必須のパラメータです。高さと幅を表すピクセル、または1ページ当たりの行数により指定されます。
レイアウト領域	Workspace Pageで、コンテンツを配置可能な領域を指定するために使用されます。
例外	事前定義済の条件を満たす値です。フォーマット・インディケータを定義したり、例外が生成されたときに登録ユーザーに通知したりできます。
レイヤー	(1)階層構造内で横並びにメンバーを含む場所です。世代(上から下へ)またはレベル(下から上へ)により指定されます。(2)他のオブジェクトに対して相対的なオブジェクトの場所です。たとえば、Sample BasicデータベースではQtr1とQtr4は同じ年に含まれるので、世代が同一であることとなります。しかし、不均衡階層を含むデータベースの場合、Qtr1とQtr4は同一世代であっても同じレイヤーに位置しないことがあります。
レコード	データベースで、1つの完全な入力項目を形成するフィールドのグループです。たとえば、顧客レコードには、名前、住所、電話番号、および販売データのフィールドが含まれることがあります。
列	グリッドまたは表で縦方向に表示される情報です。列には、特定のフィールドからのデータ、計算により得られたデータ、またはテキストの情報が含まれます。

レベル	階層ツリー構造において、データベース・メンバーの関係を定義するレイヤーです。レベルは一番下のディメンション・メンバー(レベル0)から上位の親メンバーへと並べられます。
レベル0のブロック	疎のレベル0メンバーの組合せに使用されるデータ・ブロックです。
レベル0のメンバー	子の存在しないメンバーです。
レポート・エクストラクタ	スクリプトの実行時に、Essbaseデータベースからのレポート・データを取得するEssbaseコンポーネントです。
レポート・オブジェクト	レポートの設計において、テキスト・ボックス、グリッド、イメージ、チャートなどの動作や外観を定義するプロパティを持つ基本要素です。
レポート・スクリプト	1つまたは複数の運用レポートを生成する、Essbaseレポート・ライター・コマンドを格納したテキスト・ファイルです。
レポートの通貨	財務諸表を準備するために使用される通貨です。現地通貨からレポートの通貨に変換されます。
レポート・ビューア	レポート・スクリプトの実行後に完全なレポートを表示するEssbaseコンポーネントです。
連結	従属するエンティティからのデータを親エンティティに集約するプロセスです。たとえば、ディメンションYearにQtr1、Qtr2、Qtr3、およびQtr4というメンバーが含まれている場合、この連結はYearになります。
連結比率	親に連結された子の値の割合です。
連結ファイル(*.cns)	連結ファイルは、連結のプロセスでチャートまたはツリー・ビューを使用してStrategic Financeファイルを追加、削除、移動するためのグラフィカル・インタフェースです。連結ファイルを使用して、連結を定義したり変更したりすることも可能です。
連結ファイル(親)	事業部門のすべてのファイルが連結されたファイルです。連結の定義を含みます。
ローカル結果	データ・モデルの問合せ結果です。ローカルの結合で結果を使用する場合は、結果をデータ・モデルにドラッグして挿入できます。ローカルの結果を要求すると、カタログに表示されます。
ローカル・レポート・オブジェクト	ExplorerでFinancial Reportingレポート・オブジェクトにリンクされていないレポート・オブジェクトです。 <a href="#">488ページのリンク・レポート・オブジェクト(LRO)と比較してください。</a>
ロード・バランサ	クラスタの個別のアプリケーション・サーバーに要求を送信するハードウェアまたはソフトウェアで、システムへの唯一のエントリ・ポイントです。
ロード・バランシング	複数のサーバー・グループに要求を分散すること。これによって、エンド・ユーザーのパフォーマンスが最適化されます。
ロールアップ	<a href="#">489ページの連結</a> を参照してください。
ログ・アナライザ	Essbaseログのフィルタ、検索、および分析を行うためのAdministration Servicesの機能です。
ロケーション別名	データ・ソースを特定する記述子です。ロケーション別名により、サーバー、アプリケーション、データベース、ユーザー名、およびパスワードが指定されます。ロケーション別名は、DBAのデータベース・レベルで管理サービス・コンソール、ESSCMD、またはAPIを使用して設定されます。

ロケール	コンピュータで使用される言語、通貨、および日付フォーマット、データのソート順、文字セットのエンコード方式を指定するコンピュータ設定です。Essbaseではエンコード方式のみが使用されます。 <a href="#">463ページのエンコード方式</a> および <a href="#">491ページのESSLANG</a> も参照してください。
ロケール・ヘッダー・レコード	スクリプトなど、一部の非Unicodeでエンコードされたテキスト・ファイルの先頭で、エンコード・ロケールを特定するテキスト・レコードです。
ロック済	ユーザーやプロセスがデータを変更するのを防ぐために、ユーザーが呼び出すプロセスです。
「ロック済」ステータス	集計ステータスの1つです。変更できないデータがエンティティに含まれていることを示します。
ロック済データ・モデル	ユーザーが変更できないデータ・モデルです。
論理グループ	FDMで、ソース・ファイルがFDMにロードされた後に生成される1つ以上の論理勘定を含みます。論理勘定はソース・データから導き出される計算済勘定です。
論理Webアプリケーション	内部ホスト名、ポートおよびWebアプリケーションのコンテキストの識別に使用される別名付きの参照です。クラスタ化環境または高可用性環境では、分散コンポーネントに対して単一の内部参照を確立する別名です。EPM Systemにおいて、クラスタ化されていない論理Webアプリケーションは、そのWebアプリケーションを実行している物理ホストにデフォルトで設定されます。
ワークブック	多数のワークシートを含むスプレッドシート・ファイル全体です。
ワーク・フロー	FDMでデータを最初から最後まで処理するために必要なステップです。ワークフローは、インポート(GLファイルからのデータ・ロード)、検証(すべてのメンバーが有効なアカウントにマッピングされていることの確認)、エクスポート(マッピングされたメンバーのターゲット・アプリケーションへのロード)、およびチェック(ユーザー定義の検証ルールを使用してデータを処理することにより、データの精度を確認)から構成されます。
ワイルド・カード	検索文字列で、任意の1文字または文字グループを示す文字(*)です。
割当て	Profitability and Cost Managementで、配賦モデルでのソースと宛先の関連付けです。割り当てられたコストや収益のフローの方向を制御します。
Calculation Manager	Planning、Financial ManagementおよびEssbaseのユーザーがグラフィカルな環境でビジネス・ルールを設計、検証および管理するために使用する計算モジュールです。
CDF	<a href="#">464ページのカスタム定義関数(CDF)</a> を参照してください。
CDM	<a href="#">464ページのカスタム定義マクロ(CDM)</a> を参照してください。
Cookie	Webサイトによってコンピュータ上に配置されたデータのセグメントです。
EPM Oracleインスタンス	EPM System製品のアクティブな動的コンポーネント(実行時に変更できるコンポーネント)を含むディレクトリです。EPM Oracleインスタンス・ディレクトリの場所は、EPM Systemコンフィグレータを使用した構成時に定義します。
EPM Oracleホーム	EPM System製品に必要なファイルを含むミドルウェア・ホームのサブディレクトリです。EPM Oracleホームの場所は、EPM Systemインストーラでのインストール中に指定されます。
essbase.cfg	Essbaseのオプションの構成ファイルです。管理者は、このファイルを編集してEssbaseサーバー機能をカスタマイズできます。一部の構成は、Essbaseクライアントで使用することにより、Essbaseサーバーの設定を上書きできます。

<b>EssCell</b>	特定のEssbaseデータベース・メンバーの交差を示す値を取得するために、Essbase Spreadsheet Add-inのセルに入力する関数です。
<b>ESSCMD</b>	Essbaseの操作を対話的に実行したり、バッチ・スクリプト・ファイルから実行したりするための、コマンドライン・インタフェースです。
<b>ESSLANG</b>	テキスト文字を解釈するために使用されるエンコード方式を定義するEssbase環境変数です。 <a href="#">463ページのエンコード方式</a> も参照してください。
<b>ESSMSH</b>	<a href="#">491ページのMaxLシェル</a> を参照してください。
<b>Extensible Markup Language (XML)</b>	データに属性を割り当てるタグのセットで構成される言語です。スキーマに基づいて、複数のアプリケーションの間で解釈可能です。
<b>Extract-Transform-Load (ETL)</b>	データを抽出してアプリケーションに移行するための、データ・ソース固有のプログラムです。
<b>GUI</b>	グラフィカル・ユーザー・インタフェース
<b>Interactive Reporting</b> 接続 ファイル(.oce)	データベースAPI(ODBC、SQL*Net、など)、データベース・ソフトウェア、データベース・サーバーのネットワーク・アドレス、データベース・ユーザー名などのデータベース接続情報を含むファイルです。管理者は、Interactive Reporting接続ファイル(.oce)を作成して発行します。
<b>Javaデータベース接続(JDBC)</b>	Javaクライアントとリレーショナル・データベースにより使用されるクライアントとサーバー間の通信プロトコルです。JDBCインタフェースにより、SQLベースのデータベース・アクセスのための呼出しレベルAPIが提供されます。
<b>Javaデータベース接続(JDBC)</b>	Javaベース・クライアントとリレーショナル・データベースにより使用されるクライアントとサーバー間の通信プロトコルです。JDBCインタフェースにより、SQLベースのデータベース・アクセスのための呼出しレベルAPIが提供されます。
<b>JSP</b>	Java Server Pageです。
<b>KeyContacts</b> ガジェット	Smart Spaceユーザーのグループを含み、Smart Space Collaboratorへのアクセスを提供します。たとえば、マーケティング・チームおよび開発チーム向けに個別のKeyContactsガジェットを使用できます。
<b>LRO</b>	<a href="#">488ページのリンク・レポート・オブジェクト(LRO)</a> を参照してください。
<b>MaxL</b>	Essbaseで使用されるマルチディメンショナル・データベース向けアクセス言語です。データ定義の言語(MaxL DDL)とデータ操作の言語(MaxL DML)から構成されます。 <a href="#">491ページのMaxL DDL</a> 、 <a href="#">491ページのMaxL DML</a> 、および <a href="#">491ページのMaxLシェル</a> も参照してください。
<b>MaxL DDL</b>	Essbaseで、バッチまたは対話的なシステム管理のタスクに使用されるデータ定義の言語です。
<b>MaxL DML</b>	Essbaseで、データの問合せと抽出に使用されるデータ操作の言語です。
<b>MaxL DMLの計算済メンバー</b>	分析を目的として設計されたメンバーです。MaxL DML問合せのオプションのWITHセクションで定義されます。
<b>MaxL Perl</b> モジュール	Essbase MaxL DDLの一部であるPerlモジュール(essbase.pm)です。このモジュールをPerlパッケージに追加すると、PerlプログラムからEssbaseデータベースにアクセスできます。
<b>MaxLシェル</b>	MaxL文をEssbaseサーバーに渡すためのインタフェースです。MaxLシェルの実行可能ファイル(UNIXはessmsh、Windowsはessmsh.exe)は、Essbaseのbinディレクトリに格納されています。

<b>MaxLスクリプト・エディタ</b>	管理サービス・コンソールのスクリプト開発環境です。MaxLスクリプトで Essbaseを管理するとき、テキスト・エディタとMaxLシェルの代替としてMaxLスクリプト・エディタを使用できます。
<b>MDX (マルチディメンショナル式)</b>	リレーショナル・データベースでSQLを使用する際に、OLAP準拠のデータベース向けにOLE DBに命令する言語です。「OLAPQuery」セクションのアウトライナを構築するとき、Interactive Reportingクライアントは要求をMDXの命令に変換します。ユーザーが問合せを処理するとき、MDXがデータベース・サーバーに送信され、サーバーは問合せの結果となるレコードを戻します。 <a href="#">493ページのSQLスプレッドシート</a> も参照してください。
<b>MIMEタイプ</b>	アイテムのデータ・フォーマットを示す属性により、システムはオブジェクトを開くアプリケーションを判断します。ファイルのMIMEタイプはファイル拡張子またはHTTPヘッダーにより判別されます。プラグインはブラウザに対して、サポートされるMIMEタイプ、および各MIMEタイプに対応するファイル拡張子を通知します。
<b>MIMEタイプ</b>	多目的インターネットメール拡張仕様(Multipurpose Internet Mail Extension)です。項目のデータ・フォーマットを示す属性により、システムはオブジェクトを開くアプリケーションを判断します。ファイルのMIMEタイプはファイル拡張子またはHTTPヘッダーにより決定されます。プラグインはブラウザに対して、サポートされるMIMEタイプ、および各MIMEタイプに対応するファイル拡張子を通知します。
<b>NULL値</b>	データの無い値です。NULL値はゼロに等しくありません。
<b>ODBC</b>	Open Database Connectivityの略です。データベース管理システム(DBMS)の情報処理方法に関係なく、あらゆるアプリケーションにより使用されるデータベース・アクセスの方法です。
<b>「OK」ステータス</b>	集計ステータスの1つです。エンティティが集計済であり、階層の下にあるデータが変更されていないことを示します。
<b>OLAPメタデータ・カタログ</b>	Integration Servicesで、リレーショナル・データ・ソースから取り出されるデータの特性、ソース、場所およびタイプを記述したメタデータが含まれているリレーショナル・データベースです。
<b>OLAPモデル</b>	Integration Servicesで、リレーショナル・データベースの表および列から作成される論理モデル(スター・スキーマ)です。OLAPモデルはマルチディメンショナル・データベースの構造を生成するために使用されます。
<b>Open Database Connectivity (ODBC)</b>	標準のアプリケーション・プログラミング・インタフェース(API)です。これにより、アプリケーションから複数のサードパーティ・データベースにアクセスできます。
<b>Oracleホーム</b>	特定の製品に必要なインストール・ファイルが含まれるディレクトリで、ミドルウェア・ホームのディレクトリ構造内にあります。「ミドルウェア・ホーム」も参照してください。
<b>PL勘定(P&amp;L)</b>	損益勘定です。通常、会社の損益計算書を構成する費用勘定と収益勘定の集合を指します。
<b>POV (視点)</b>	行、列、またはページ軸に割り当てられていないメンバーを選択することにより、データ・フォーカスを設定する機能です。たとえば、FDMでのPOVの選択項目には、場所、期間、カテゴリ、およびターゲット・カテゴリが含まれる可能性があります。また、Smart ViewでPOVをフィルタとして使用すると、CurrencyディメンションをPOVに割り当て、Euroメンバーを選択できます。データ・フォームでPOVを選択すると、ユーロ建でデータが表示されます。
<b>Production Reporting</b>	<a href="#">493ページのSQR Production Reporting</a> を参照してください。

<b>PVA</b>	<a href="#">466ページの期別価額メソッド(PVA)</a> を参照してください。
<b>rootメンバー</b>	ディメンション分岐における最上位のメンバーです。
<b>Shared Servicesレジストリ</b>	Shared Servicesデータベースの一部です。Shared Servicesレジストリでは、インストールされたほとんどのEPM System製品の情報(インストール・ディレクトリ、データベース設定、デプロイメント設定、コンピュータ名、ポート、サーバー、URL、依存サービス・データなど)を格納および再利用します。
<b>SPFファイル</b>	SQR Production Reporting Serverで作成される、プリンタに依存しないファイルです。フォント、間隔、ヘッダー、フッターなど、フォーマットされた実際のレポート出力を表します。
<b>SQLスプレッドシート</b>	SQL問合せの結果セットを表示するデータ・オブジェクトです。
<b>SQR Production Reporting</b>	データ・アクセス、データ操作、およびSQR Production Reportingドキュメント作成のための専用プログラミング言語です。
<b>Structured Query Language</b>	リレーショナル・データベースに対する指示を処理するために使用される言語です。
<b>TCP/IP</b>	<a href="#">493ページのTransmission Control Protocol/Internet Protocol (TCP/IP)</a> を参照してください。
<b>Transmission Control Protocol/Internet Protocol (TCP/IP)</b>	異なるオペレーティング・システムおよび内部アーキテクチャを持つコンピュータをリンクする標準的な通信プロトコルのセットです。TCP/IPを使用すると、LANおよびWANに接続する多様なコンピュータとの間でのファイルの交換、メールの送信、およびデータの格納が可能です。
<b>Unicodeモードのアプリケーション</b>	文字テキストがUTF-8でエンコードされているEssbaseアプリケーションです。様々な言語に設定されているコンピュータを使用するユーザーが、アプリケーション・データを共有できます。
<b>WebLogic Serverホーム</b>	WebLogic Serverインスタンスに必要なインストール・ファイルが含まれるミドルウェア・ホームのサブディレクトリです。WebLogic ServerホームはOracleホームと同等です。
<b>WITHセクション</b>	MaxL DMLで、オプションで使用できる問合せのセクションです。メンバーのセットを定義する再利用可能な論理を作成するために使用されます。メンバーのセットを定義する再利用可能な論理を作成するために使用されます。
<b>Workspaceページ</b>	複数のソース(ドキュメント、URL、その他のコンテンツ・タイプ)からのコンテンツを使用して作成されるページです。Oracleおよびその他のソースからのコンテンツを集約するために使用できます。
<b>ws.conf</b>	Windowsプラットフォーム用の構成ファイルです。
<b>wsconf_platform</b>	UNIXプラットフォーム用の構成ファイルです。
<b>XML</b>	<a href="#">491ページのExtensible Markup Language (XML)</a> を参照してください。
<b>XOLAP</b>	アウトラインのメンバーのみを格納し、問合せ時にリレーショナル・データベースからすべてデータを取得する、Essbaseのマルチディメンショナル・データベースです。XOLAPは、集約ストレージ・データベースおよび重複メンバー名を含むアプリケーションをサポートします。
<b>Y軸スケール</b>	「調査」セクションに表示される、チャートのY軸上の値の範囲です。たとえば、各チャートについて一意のY軸スケールを使用したり、すべての詳細チャートに同一のY軸スケールを使用したり、または列内のすべてのチャートに同一のY軸スケールを使用したり。

ルを使用することが可能です。多くの場合、共通のY軸スケールを使用すると、一目でチャートを比較できるようになります。

## **Zero Administration**

サーバー上のプラグインの最新バージョン番号を識別するソフトウェア・ツールです。